科目名	北河内を知る	科目名（英文）	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也.小林　基
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：A○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TL01453a1,L科：LL01355a1,D科・S科：IL01362a1,P科：YL01418a2,J科：JL01364a1,W科：WL01343a1,N科：NL01344a1		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。 授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。 またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。 この授業は授業担当者として、北河内７市の「行政実務者」が担当する。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。 さらに地域おける課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題：北河内地域の概要について調べる（1時間） 事後課題：授業の進め方について確認する（1時間）
2	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
3	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
4	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
5	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
6	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
7	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
8	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
9	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
10	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
11	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
12	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
13	ワークショップ 1限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
14	ワークショップ 2限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
15	ワークショップ 3限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事後課題：授業で学んだことを復習する（2時間）

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>個人課題の評価（40%）、グループごとのルーブリック評価（30%）、グループワークの成果物（30%）

グループワークを行うため、毎回の出席が前提となります。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>増田知也（法学部・法律学科）　寝屋川キャンパス　11 号館 10 階</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。</td></tr>
</table>

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名（英文）	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：A○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO1454a1,L 科：LLO1356a1,D 科・S 科：ILO1363a1,P 科：YLO1419a2,J 科：JLO1365a1,W 科：WLO1344a1,N 科：NLO1345a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の４点のようになることが期待される。 １）ICT 部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 ２）ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことと、Well-being を理解する。 ３）グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 ４）変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-8.9
到達目標	１）ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。 ２）社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化（多様性）を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」（３つの力）を理解できる。 ３）Well-being を理解し、実践するよう努める。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。
科目学習の効果（資格）	最終的に、初歩的なビジネスプランを立てることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（２時間） ・事後学修：「ビジネスのイメージは？」というテーマでルールを守って自由に書くこと（２時間）
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定個所を熟読し、ノートにまとめること（２時間） ・事後学修：ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる（２時間）
3	組織の種類　－営利組織と非営利組織－	・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べること（２時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（２時間）
4	ビジネス環境をとらえる①－経済のグローバル化と高度情報化－	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（２時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（２時間）
5	ビジネス環境をとらえる②－地球環境問題と少子高齢社会－	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（２時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（２時間）
6	ビジネス現場をとらえる－オフィスからワークプレイスへ－	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（２時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（２時間）
7	ビジネス実務能力	・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。	・事前学習：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、　どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた　個条書きにすること（２時間） ・事後学修　：・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること（２時間）
8	ビジネス実務の基本①－仕事の進め方－	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（２時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（２時間）
9	ビジネス実務の基本②－ビジネスと諸活動－	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめること（２時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（２時間）
10	ビジネス実務の基本③－ビジネスと経営資源－	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（２時間） ・事後学修：・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみること（２時間）
11	自己実現とキャリアプランニング　－セルフマネジメントと自己啓発－	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：・テキストの指定個所（pp.164-174）を熟読し、ノートにまとめること（２時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通した自己意識をレポートにまとめる。

			と（２時間）
12	ビジネス実務の基本④－ビジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の２社の CM を比較し、その特徴をノートにまとめること（２時間） ・事後学修：次回のグループワークのために、3 つの NPO の資料（スライド 12～13）をしっかり読み込むこと（２時間）
13	ビジネスプラン①－起業への意識と「寄付の教室」－	・寄付行為の意味を考える。	・事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（２時間） ・事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（２時間）
14	ビジネスプラン②－プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること（２時間） ・事後学修：ビジネスプランの再考をする（２時間）
15	ビジネスプラン②－プレゼンテーション発表と授業の総まとめ	・イノベーションの意味を再考する。 ・VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。	・事前学修：この授業の学びをまとめること（２時間） ・事後学修を：新たな発見をすること（２時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
2	イノベーションと企業家精神	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社

評価方法（基準）

・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。
・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。

学生へのメッセージ

私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。

担当者の研究室等

石井研究室（寝屋川キャンパス、７号館５階）

備考

予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。
学生のワークの進捗状況により、内容が前後することもある。

科目名	英語科教育法Ⅰ	科目名（英文）	English Teaching Methods Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括のしかたについて理解する。さらに、中学校および高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、様々な教材や ICT の活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても考える。
到達目標	中学校及び高等学校における英語の学習指導に関する知識と授業指導および学習評価の基礎を身につけた上で、授業観察、授業体験、模擬授業などの学習形態を通して、実際の授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶ。また、言語能力の測定や評価の方法を理解する。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 　各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第二言語習得と英語教育	第二言語習得とは 英語教授法の種類	第 7 章、第 8 章
2	語彙指導	語彙とは 語彙学習活動と評価	第 19 章
3	リーディング指導	リーディングとは リーディング活動と評価	第 12 章
4	リーディング指導	多読とは 多読活動と評価、	第 12 章
5	ライティング指導	ライティングとは ライティング活動と評価	第 13 章
6	リスニング指導	リスニングとは リスニング活動と評価	第 10 章
7	スピーキング指導	スピーキングとは スピーキング活動と評価	第 11 章
8	模擬授業と分析（1）	単独領域模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
9	領域統合型指導	領域統合型活動と評価	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
10	学習者要因	学習者要因とは 種類とその影響	第 4 章
11	測定と評価	測定と評価の種類と方法	第 15 章
12	ICT を用いた活動	ICT を用いた活動例の紹介、実践	第 16 章
13	模擬授業と分析（2）	領域統合型模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
14	模擬授業と分析（3）	領域統合型模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
15	総括	求められる英語教師像 教師の役割	第 5 章

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1　（令和３）		開隆堂
2	Sunshine English Course 2　（令和３）		開隆堂
3	Sunshine English Course 3　（令和３）		開隆堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館書店
2	英語 4 技能評価の理論と実践	望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵〔編著〕	大修館書店
3	英語リーディングの科学－読めたつもりの謎を解く	卯城祐司〔編著〕	研究社

評価方法（基準）	①小テスト・レポート（50%） ②模擬授業（学習指導案作成・実技・実技分析）（50%）
学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目です。情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から 4 技能をバランスよく伸ばすための練習を続けてください。 ★Sunshine English Course1,2,3（中学英語教科書）は模擬授業ですぐに使います。必ずすぐ購入してください。 ★新聞やテレビで、学校教育に関わる情報が毎日のように流れています。社会の動向にも日々、注意を向けましょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　齋藤研究室
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名（英文）	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身をおき、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。
到達目標	・中学校および高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」(「聞く」「読む」「話す（やりとり)」「話す(発表)」及び「書く」)の指導および各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付け、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。 ・教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 ・学年ごとのカリキュラムを考え、ユニットや個々の授業時間の学習目標を設定できるようになる。 ・模擬授業を分析し、授業展開のオプションを検討できるようになる。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・202４年度は、第８・９回以外にも ICT を履修生自身が扱う練習を行う。模擬授業は「対面、およびオンライン授業を企画・実施」とする。オンライン模擬授業の回には教員役も生徒役もオンラインに接続し、互いにどう見えるのか、対面模擬授業との差を体験し、改善点を考える。 ・連絡・教材・提出・録画等に、Teams, Webfolder, Zoom を利用する。 留意点： ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。 ・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行うこと。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「５つの領域」と領域統合型の言語活動の指導 英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習（読み方・聞き分け・調音の仕組み）
2	小学校における外国語活動と英語・文字に関する指導	小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（１）
3	中学校の英語の検定教科書と高校入試	検定教科書と入試問題の分析	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（２）
4	教材研究と学習指導案の作成（１） 英語の音声的な特徴に関する指導	中学校の検定教科書を用いた音声指導案の作成	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（３）
5	学習者間のやりとりを増やす学習活動デザイン:英語でのインタラクション	リスニング力の向上の方法に関して学ぶ 中学校で学ぶ語彙・文法を用いた対話例の作成	公立高校の入試問題を解く（１）
6	模擬授業と分析（１） 音声言語を中心とする学習活動	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く（２）
7	高校の英語の検定教科書と大学入試	ライティングの指導法・方法論に関して高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（１）
8	教材研究と学習指導案作成（２） ICT 等の活用	指導案作成	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（２）
9	ICT 活用と教授言語：学習言語のみによる授業展開と、日本語併用の場合の比較	板書と ICT の演習	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる
10	模擬授業と分析（２） 教員１人で ICT 機器を使う場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（１）
11	生徒の特性や習熟度に応じた指導と評価	指導案の展開バリエーションを増やす	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（２）
12	教材研究と学習指導案作成（３） ALT 等とのティーム・ティーチング	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
13	演劇を応用した言語活動	易しい英語の脚本を用いたスキット指導を学ぶ ドラマ手法を会話練習に応用する	授業の練習
14	模擬授業と分析（３）教員２人の場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習

	15	これからの英語教育がめざすもの	討論と発表、筆記テスト	復習
関連科目	教職科目全般 英語科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法　第３版（ISBN: 9784469246216)	望月　昭彦　編著	大修館書店
	2	The History of the English Language (ISBN:9780194233972)	Brigit Viney	Oxford UP
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	学習指導要領　（文部科学省 HP）		
	2			
	3			
評価方法（基準）	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに充分な英語の知識と運用力を前提とした、 （１）模擬授業　　100（レッスンプラン作成　30%・授業時間中に行う実技　40%・模擬授業に関するレポート　30%） （２）筆記テスト　100 上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点中の 60 点以上で合格とする。			
学生へのメッセージ	・教育実習時に中高生にわかりやすくワクワクする授業を自力で立案・実施できるようになるには、「先生になりたい」気持ちだけでは足りません。言語に関する正確な知識と高い運用能力が必須です。教職課程の授業は全回、全力で予習・復習し、授業時間以外にも辞書をひいて英語を読み、英語の文法、語彙、スペル、発音等、基礎から復習をしてください。3 年次終わりまでに英検準 1 級レベルに到達しましょう。 ・担当者は、日本の小学校に英語活動が導入された時期に数年間、ALT や小学校教諭と小学校で教えたり、寝屋川市・大東市・教員免許更新講習などで教員研修の講師を務めたりしました。英国で日本語教育経験もあります。日本の中学・高校の教員専修免許を取得、採用試験合格。			
担当者の研究室等	7 号館 4 階（齋藤研究室）			
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のＨＰで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名（英文）	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校や高等学校の英語教員をめざすうえで、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に ①リーディングとライティングの指導、 ②文字と文法に関する指導、 ③語彙・表現に関する指導 に焦点をあてて、学習指導要領の「３つの資質・能力」(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」) を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価規準の設定方法、などを修得し、それらを実践する力を養う。
到達目標	英語科教育に関する基礎的内容を押さえ、リーディングとライティングの指導法、文字と文法の指導法、語彙・表現の指導法を修得する。受講生は授業観察や授業体験を通じて実際の授業の展開を理解し、さらに自分で作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行うことによって実践的な力を養う。
授業方法と留意点	・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。 留意点： ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。 ・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	学習者と英語教員 音声指導（１）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
2	学習指導要領と英語教授法 音声指導（２）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 英語の音と日本語の音のちがい	音の出し方を他人に説明する練習をする
3	第２言語習得と英語教育 音声指導（３）＋模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
4	リーディング指導:リーディング指導の目標	読むことの指導	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
5	リーディング指導:指導方法と評価方法	読むことの指導と評価	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
6	ライティング指導:ライティング指導の目標 文字の指導	書くことの指導	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
7	ライティング指導:指導方法と評価方法	書くことの指導と評価	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
8	教材研究と指導案作成の基礎	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
9	指導案作成と模擬授業（1）:リーディング指導	授業づくり 使えるものは何でも使ってみよう:学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
10	指導案作成と模擬授業（2）:ライティング指導	授業づくり 授業の狙いと機器の価値:実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
11	文字の指導	文字の指導方法 ディスレクシアの理解と教育現場での対応	復習 調査
12	文法の指導	文法の指導方法	復習 調査
13	語彙・表現の指導	語彙・表現の指導方法 自分で企画した授業をクラスで分析する	復習 調査
14	指導案作成と模擬授業	文字・文法の指導、語彙・表現の指導を含めた授業づくり	復習
15	英語教育の展望	・社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する ・筆記テスト	これまでの自分の学習を振り返る

			・今学期の自分の変化を語る・今後の目標と到達のための手がかりを探す	

関連科目	・教職科目全般 ・英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法　第３版 ISBN:9784469246216	望月　昭彦　編著	大修館書店
2	The History of the English Language (ISBN: 978-0-19-423397)	Brigit Viney	Oxford UP
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学習指導要領　（文部科学省 HP）		
2			
3			

評価方法 （基準）	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに充分な英語の知識と運用力を前提とした、 （１）模擬授業　100（レッスンプラン作成　30%・15 回の授業時間中に行う実技　40%・模擬授業に関するレポート　30%） （２）筆記テスト　100 上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点の 60 点以上で合格とする。
学生への メッセージ	・大好きな科目、大好きな学校 で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし、妥協せず能力を磨いていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館４階(齋藤研究室)
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のＨＰで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅳ	科目名（英文）	English Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、この授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。
到達目標	本授業は３つのことを行う。第１に、教科書を講読しながら、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導に関する理論を学び、知識を身につける。第２に、これらの知識を基に創意あふれる授業を計画し、その学習指導案が書けるようになる。第３に、模擬授業を行い、自分のパフォーマンスを客観的に見返し、またクラスメートからのコメントを参考にし、自分の教授のスキルの弱点を克服することを学ぶ。学習指導案の個人指導は課外時間に行う。充実した教育実習を行うことができるように万全の準備をする。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 　各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 英語科教育法の目的	序章
2	英語教育の基礎理論	英語教育と英語教育学	第１章
3	英語教育の基礎理論	英語の国際化と日本の英語教育	第２章
4	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第３章
5	英語教育の実践編	リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 10 章
6	英語教育の実践編	リスニング：教科書を使った模擬授業	第 10 章
7	英語教育の実践編	スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 11 章
8	英語教育の実践編	スピーキング：教科書を使った模擬授業	第 11 章
9	英語教育の実践編	ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 13 章
10	英語教育の実践編	ライティングの指導：教科書を使った模擬授業	第 13 章
11	英語教育の実践編	文法の指導：教材研究及び学習指導案作成	第 18 章
12	英語教育の実践編	文法の指導：教科書を使った模擬授業	第 18 章
13	英語教育の実践編	語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成	第 19 章
14	英語教育の実践編	語彙・表現：教科書を使った模擬授業	第 19 章
15	英語教育の実践編及びまとめ	異文化理解の指導及びまとめ	第２章、第９章

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1　（令和３）		開隆堂
2	Sunshine English Course 2　（令和３）		開隆堂
3	Sunshine English Course 3　（令和３）		開隆堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語多読・多聴指導マニュアル	高瀬敦子	大修館書店
2	シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学	門田修平	コスモピア
3	英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から	白井知彦	大修館書店

評価方法（基準）	①小テスト・レポート（50%） ②模擬授業（学習指導案作成・実技・実技分析）(50%)
学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目です。情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から 4 技能をバランスよく伸ばすための練習を続けてください。 ★Sunshine English Course1,2,3（中学英語教科書）は模擬授業ですぐに使います。必ずすぐ購入してください。 ★新聞やテレビで、学校教育に関わる情報が毎日のように流れています。社会の動向にも日々、注意を向けましょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　齋藤研究室
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談は，幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら，集団の中で適応的に生活する力を育み，個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ，個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え，支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義，理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 特に，学校における教育相談に焦点を当て，教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために，教育相談のもつ今日的な意義を解説し，カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について，実践的な取り組み方を考える。
到達目標	① 幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 ② 教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。 ③ その上で、生徒を支援するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。講義の資料は，事前に Moodle で配付するので，各自入手しておくこと。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド	テキスト第１講，配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法	テキスト第２講・第３講，配付資料を用いた予習・復習
3	チームビルディング	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	教育相談の体制	教育相談の構造，チーム支援の意義，チームの作り方	テキスト第１講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	教育相談の実際１	チーム支援のプロセス，アセスメント	テキスト第１講・第 10 講・第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	教育相談の実際２	チーム支援の実際	テキスト第１講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応１	“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応２	ストレス，欲求不満，葛藤	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	学校における諸課題とその対応①	不登校……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第５講，配付資料を用いた予習・復習
12	学校における諸課題とその対応②	いじめ……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
13	学校における諸課題とその対応③	授業崩壊・学級崩壊……その理解と対応（グループ発表）	配付資料を用いた予習・復習
14	学校における諸課題とその対応④	反社会的行動……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第７講，配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携	テキスト第 13 講・第 15 講，配付資料を用いた予習・復習

関連科目	教職課程の科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる！ 教職エクササイズ３　教育相談［第２版］	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%，期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の 研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 Teams コード 月曜２限：xfdelyw 火曜２限：mi255ww 木曜１限：irmdqxv 木曜４限：ui2p7a7 Moodle コース名と登録キー 月曜２限：2024 教育相談（月 2）あるいは　24 教育相談（月 2）　2024ECMON2 火曜２限：2024 教育相談（火 2）あるいは　24 教育相談（火 2）　2024ECTUE2 木曜１限：2024 教育相談（木 1）あるいは　24 教育相談（木 1）　2024ECTHU1 木曜４限：2024 教育相談（木 4）あるいは　24 教育相談（木 4）　2024ECTHU4

科目名	教育実習Ⅰ	科目名（英文）	Teaching Practice Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日　素明.鎌田　祥輝.谷口　雄一.西村　晃一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	３年次前期終了後にクラス編成が行われる。クラスごと各担当者が指導する。（１）教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。（２）教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。（３）教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての充分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義（体験報告を含む）、演習（文献購読、発表、討議を含む）、実習（指導案作成、模擬授業を含む）を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育実習」５単位あるいは３単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」１単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習（教育実習に係る事前及び事後指導）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	指導案の作成（１）	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
9	指導案の作成（２）	学級（ホームルーム）活動等の指導案について	授業時に指示する
10	模擬授業（１）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業（２）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業（３）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	模擬授業（４）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
14	教育実習の実際（１）	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
15	教育実習の実際（２）	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目：教職課程で学んだ全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『新編　教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
2			
3			

評価方法（基準）	授業における積極性・貢献度（30%）、模擬授業（40%）、提出物（30%）によって総合的に評価します。
学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、充分に準備してください。
担当者の研究室等	吉田研究室・松浦研究室・西村研究室・朝日研究室；寝屋川キャンパス７号館３階 谷口研究室・鎌田研究室；寝屋川キャンパス７号館４階
備考	教職フォーラム（10月最終土曜日）、教育実習総括講義（11月最終土曜日）には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。

	事前・事後学習総時間はおおよそ 30 時間程度となる。

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一.朝日　素明.鎌田　祥輝.西村　晃一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や ICT の活用など実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員６名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。１グループは１０名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○教科に関する科目の本学の担当者や近隣市の指導主事および現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く） の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・２回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。	教育実習ノートの点検と再確認
2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読、小レポートの提出
3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読、小レポートの提出
4	「よい授業」を探究する:「わかる授業」と「たのしい授業」	「わかる授業」と「たのしい授業」をめぐる歴史的な論争を紐解きながら、「よい授業」のあり方を探究する。	（事前）「よい授業」のイメージを考えておく。 （事後）小課題を課す。
5	学習指導案を読み解く	・教師の主体的な授業構想が記されている学習指導案を複数取り上げ、授業の風景や教師のねらいを読み解く。 ・現在一般に使用されている学習指導案の形式の特徴や課題を理解し、授業づくりに関わる知見を深める。	（事前）配付資料を読んでおく。 （事後）小課題を課す。
6	学校の危機管理（１）：学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等について文部科学省が運営する学校安全ポータルサイトなどを活用しながらグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
7	学校の危機管理（２）：災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることや、国土交通省が運営する「ハザードマップポータルサイト」を活用し、居住地や勤務予定地域の災害リスクを調べることなどを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
8	学校における行動問題支援（理論編）	学校生活で生徒が起こす行動問題支援のための基礎理論となる「応用行動分析」の基礎を学ぶ。	（事前） 学校生活で生徒が起こす行動問題について具体的にどのようなものがあるかまとめておく。 （事後） 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析する。
9	学校における行動問題支援（実践編）	持ち寄ったレポートを基にそれぞれの事例について、事例検討会を行う。	（事前） 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析したことをレポートにまとめる。 （事後） ２回の学修内容について、配布資料をもとに振り返る。
10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	（事前）カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を３つあげる。

				（事後）小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための一方法としてのエゴグラム作成を行う。	（事前）「自分」について考える。 （事後）小レポート
	12	生徒指導:生徒理解と学級運営	・生徒指導の定義と目的をふまえ、生徒理解と学級運営について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	（事前）配布資料を熟読する。 （事後）小レポートの提出
	13	進路指導:保護者対応とキャリア教育	・キャリア教育の必要性と意義をふまえ、学校と家庭・地域との連携方法について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	（事前）配布資料を熟読する。 （事後）小レポートの提出
	14	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	近隣市の教育委員会との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
	15	免許教科における実践上の課題	免許教科ごとに分かれ、その科目の実践上の課題について、教科教育法担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	免許教科における実践上の課題について整理する。

関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループ学習が中心となり、各回の授業担当教員から課題を出します。課題の内容や授業に臨む姿勢などを各授業担当教員が評価します（87.5%（12.5%×7名））。また、最終レポートを提出してもらい、グループの担当教員が評価します（12.5%）。これらを合計し、最終的な評価とします。
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察してください。その中で、問題点を見出し、課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けていきましょう。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス７号館３階（朝日、鎌田、西村、松浦、吉田） 寝屋川キャンパス７号館４階（谷口）
備考	事前・事後総学習時間は，60時間程度である。

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（１）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（２）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（３）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（４）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究（１）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究（２）	「不良教師」と「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究（３）	「人間教師」と「プロ教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究（４）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務（１）	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務（２）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務（３）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務（４）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（５）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評定は出ません。
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造･機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第1章を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」	テキスト第6章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第4章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布飼料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第8章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第9章を読んでくる。
9	中央 - 地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第11章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第15章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第10章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第16章、第19章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程（学校と地域との連携含む）	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第14章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第18章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公教育経営概説　（改訂版）	堀内孜	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあります。リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育社会学	科目名（英文）	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中　祐二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。
到達目標	①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ③今日的な特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ④教育制度の歴史的変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。
授業方法と留意点	・本授業では指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分（章）を読み、内容を理解した上で授業に臨んで下さい（教科書に記載のない事項の場合、別途資料を配付します）。 ・授業では、教科書（および配付資料）に記載のない事柄についての追加説明や、記載のある事柄を掘り下げる説明を行います。 ・授業後には、教科書に記載している問題を中心に、復習課題を配信します。 ・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行います。 ・いずれかの回で、（予告した上で）収録済講義動画を視聴した上で、ワークシート課題に充てる、反転授業を行うこと場合があります。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　　（2）中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
2	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
3	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
4	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
5	社会における教育者の意義①	重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
6	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
7	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
8	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
9	日本における教育環境の変	トラッキングやメリトクラシーの問題	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読

	遷②	から、日本におけるキャリア教育について学習する。	み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
10	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
11	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
12	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
13	学級経営における多機関連携①	「チーム学校」論の概要について学び、子どもが安全・安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
14	学級経営における多機関連携②	スクールソーシャルワーク実践を軸とする「チーム学校」論の視点から、「登下校の見守り活動」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
15	総括	本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間) 期末課題に備えて、先行研究渉猟やデータ収集等の追加学習をする。(1.5 時間)

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣
2	新・教育の社会学	苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣
3	これからの教育社会学	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子	有斐閣

評価方法 (基準)	授業後課題(45%)・期末レポート課題(55%) ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3 号館 3 階・竹中研究室
備考	

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために，教師が学習者を理解し，さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ，日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について，心理学的に説明し，考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	① 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につける。 ② 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ③ 教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。 ④ 日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので，各自入手しておくこと。 必要に応じて，簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」１０単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること，発達と教育	テキスト第０章１・第８章，配付資料による本時の予習と復習
2	こどもの発達１	乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第９章，配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達２	児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 10 章・第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達３	青年期①……運動発達・言語発達・認知発達	テキスト第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達４	青年期②……社会性の発達	テキスト第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能１	思考……人間の思考の特徴，メタ認知の機能と発達	テキスト第７章１，配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能２	言語……言語の機能，言語理解・言語産出とその発達	テキスト第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能３	記憶……記憶のメカニズムと発達	テキスト第４章・第５章，配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び１	さまざまな学習①……学習とは何か，主な学習理論の概観，条件づけ	テキスト第１章，配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び２	さまざまな学習②……観察学習，自己制御学習	テキスト第１章・第６章，配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程，動機づけ理論	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ２	さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ，その他の視点，意欲の発達	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ３	意欲を育む……こどもの発達と意欲，意欲を育む教育のあり方，学習と評価	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係，生徒-生徒の関係，教師-教師の関係，集団としての学級	テキスト第０章２・第１０章，配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育……ＡＴＩ，学習方略	テキスト第０章３・第６章・第７章２，配付資料による本時の予習と復習

関連科目：教職課程におけるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論を実践―	藤田哲也（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 30%，期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	Teams コード 火曜５限： o3hr1s8 木曜１限： 9oex0u1 木曜５限： j4uz0u4 金曜５限： 8h3rwzd

	Moodle コース名と登録キー 火曜５限：2024 教育心理学（火５） あるいは 24 教心（火５） 2024EPTUE5 木曜１限：2024 教育心理学（木１） あるいは 24 教心（木１） 2024EPTHU1 木曜５限：2024 教育心理学（木５） あるいは 24 教心（木５） 2024EPTHU5 金曜５限：2024 教育心理学（金５） あるいは 24 教心（金５） 2024EPFRI5 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田　祥輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育課程（カリキュラム）は、「子どもたちの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営み」とされる。カリキュラムは、学習指導要領や教科書に示された教育内容を組織したものであるのみならず、子どもたちが実際に獲得した内容を含む概念である。そのため、子どもたちの学習経験を見取り、学習改善を行うために教育評価も欠かせない。本講義では、学習指導要領の変遷についての知識を修得するのみならず、カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や方法を理解することを求める。これらの理解を踏まえ、各自が取得を目指す免許教科の単元計画を構想できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育課程やカリキュラムをめぐる基礎的な知識を修得している。 (2) カリキュラム編成の基本原理・編成方法を踏まえ、関連する他の教科・領域・学年の系統性を意識したカリキュラム編成を行うことができる。
授業方法と留意点	(1) 配布資料を中心に進める講義形式を基本とする。例外的に、各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行うグループワークを実施する回がある。その際には事前の準備が求められる。 (2) 期末課題の準備として、各自が取得を目指す免許教科の教科書を少なくとも 1 冊は入手すること（栄養教諭の場合は、関連する教科の教科書に目を通すこと）。 (3) 現行学習指導要領（本文・解説）は文部科学省 HP からダウンロードすること。 (4) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション:教育課程・カリキュラムとは何か	教育課程（カリキュラム）とは何かを理解するとともに、カリキュラムをめぐる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
2	教育評価とは何か	教育評価の歴史を概観し、評定（成績づけ）とは異なる教育評価の意義を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
3	教育評価と教育目標	カリキュラム編成の要となる教育目標にまつわる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
4	学力評価の方法論	学力を把握するための様々な方法について学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
5	現行学習指導要領の特質をふまえたカリキュラム編成の方法	現行学習指導要領の特徴、および、今求められているカリキュラムのあり方とその編成の方法を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
6	カリキュラム編成原理 1：経験主義	経験主義カリキュラムの思想と実例を扱い、経験主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
7	カリキュラム編成原理 2：系統主義	系統主義カリキュラムの思想と実例を扱い、系統主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
8	日本における学習指導要領の歴史 1	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、戦後～1980 年代の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
9	日本における学習指導要領の歴史 2	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、1990 年代～現在の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
10	教育課程の思想と構造:領域論、履修原理	教育課程を領域化する際に問われる問題、教育課程の履修原理に関する問題を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
11	カリキュラム編成レポートの相互批評会	各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行おこなう。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間） カリキュラム編成レポートを作成する（20 時間）
12	総合的な学習（探究）の時間のカリキュラム	領域としての「総合的な学習（探究）の時間」の意義とカリキュラムの事例を紹介する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
13	カリキュラム・マネジメントの意義と評価	カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を確認する。カリキュラム評価の基礎的な考え方を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
14	カリキュラム・マネジメントの具体例：同和・人権教育	同和・人権教育や外国につながる子どもたちへの取り組みを取り上げ、現前の問題に取り組む学校のカリキュラムを学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間） カリキュラム編成レポートを改稿し提出する（10 時間）
15	総括:教育課程をめぐる論点	教育課程をめぐる論点をあらためて取り上げ、講義全体の振り返りをおこなう。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間） 定期試験に向けた準備をする（15 時間）

関連科目	同時期開講の教育方法論と密接にリンクしている。教育課程論では一単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>新しい時代の教育課程（第5版）</td><td>田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>新しい教育評価入門（増補版）</td><td>西岡加名恵・石井英真・田中耕治編</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>新訂学習指導要領は国民形成の設計書</td><td>水原克敏・髙田文子・遠藤宏美・八木美保子</td><td>東北大学出版会</td></tr></table>
評価方法 （基準）	（1）期末試験（50%）：教育課程にまつわる基礎的知識の修得を問う。 （2）授業内課題：カリキュラム編成レポート（50%）：各自が選んだ単元のカリキュラム編成を行う。現在求められるカリキュラムの在り方を踏まえているかどうか、教育目標と評価課題の妥当性、相互批評で出された意見を踏まえた改善を規準として評価する。 評価基準（ルーブリック）の詳細は講義内で提示する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館3階　鎌田研究室
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に応じて変更することがある。

科目名	道徳教育論	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める４つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P.8～17 を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P.6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P.12～25 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく８類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.26～35 及びテキスト 2. の P.26～29 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業のねらいに基づく８類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科　道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.36～48 及びテキスト 2. の P.30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科　道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.49～58 及びテキスト 2. の P.34～37 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科　道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.59～68 及びテキスト 2. の P.38～41 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.71～85 及びテキスト 2. の P.42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P.86～95 及びテキスト 2. の P.46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.96～106 及びテキスト 2. の P.50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①： いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道徳科の授業動画を視聴し、授業づくりの実際について学ぶ。	（事前）テキスト 1. の P.107～130 及びテキスト 2. の P.54～57 を精読しておく。 （事後）授業づくりの実際について整理しておく。
12	授業づくりの実際②： SNS 上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS 上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実際について学ぶ。	（事前）テキスト 1. の P.131～152 及びテキスト 2. の P.58～61 を精読しておく。 （事後）授業づくりの実際について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第９回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P.62～65 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P.66～69 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>道徳科　初めての授業づくり</td><td>吉田誠・木原一彰　編著</td><td>大学教育出版</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編</td><td>文部科学省</td><td>教育出版</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編</td><td>文部科学省</td><td>廣済堂あかつき</td></tr><tr><td>2</td><td>『道徳教育』PLUS　考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集</td><td>『道徳教育』編集部</td><td>明治図書出版</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の記述内容や授業中の学修の様子（60%）、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容（40%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生へのメッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 4 階(谷口研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名（英文）	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探求的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1　教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2　特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3　合意形成に向けた学級での話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4　総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。 5　主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習（探求）の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教職科目　特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、 教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第１章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第２章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。
3	学級活動･ホームルーム活動１	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
4	学級活動･ホームルーム活動２	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第３章第２節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第３節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第４章第１節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第４章第２節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のと関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第４章第４節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第１･2･3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク１	総合的な学習の時間のテキスト第５章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
13	探求的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク２	総合的な学習の時間のテキスト第2･7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネージメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク３	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第１回目から１４回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育

	社会学などの学習につなげることが大切である。
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>高等学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東京書籍</td></tr><tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領　総合的な探求の時間編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>学校図書</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス７号館３F 松浦研究室
備考	授業外学習総時間を 60 時間とする。

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田　祥輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育方法の基礎的な知識・技術を修得し、今求められる教育・学びのあり方を踏まえた授業をデザインし、実践できるようになることを目的とする。受講生には学習指導案を作成するとともに、10 分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業の相互批評を体験することで、模擬授業による効果的なリフレクションの方法を学ぶ。これにより今後、受講生が自主的・主体的に授業を構想・実践し省察することを通して、教師として授業の力量を高めていけるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育方法の基礎的な知識・技術を修得している。 (2) 今求められる教育・学びのあり方を踏まえ、授業をデザインし、実践することができる。 (3) 模擬授業で起きた出来事をもとに省察し、授業を改善することができる。
授業方法と留意点	(1) 講義は対面で実施する。 (2) 前半は講義を中心とするが、受講生に発言を求めることがある。また、模擬授業検討会のあり方や授業観察の方法論を、授業記録・授業映像を用いて実践しながら学ぶ。後半は、受講生全員に学習指導案の作成と 10 分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業は教師役として実施するだけでなく、生徒役として授業を受けて疑問や感想を出し、振り返ることも大切である。 (3) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育の方法及び技術術（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション:授業とは何か	授業という営みの本質や、教師として授業の力量を高める方法論を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
2	今求められる教育・学びの在り方とは	社会の変化や教育政策の動向などを踏まえ、これからの社会を担う子どもたちに求められる学力や授業・学びのあり方を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
3	教育目標の明確化と教育評価	教育目標を明確化する意味、目標に対応させた評価を指導や学習に活かす方法を学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
4	教材研究の方法論	教材研究とは何か、すぐれた教材とはどのようなものかを、実例を通して学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
5	学習のための空間作り	教室空間のデザインや ICT 活用を含む学習ツールの活用など、学習のための空間作りについて概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
6	技とテクノロジーの活用	板書、ノート指導、情報機器活用といった指導技術や、情報活用能力育成を志向する指導のあり方について学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
7	学習指導案の意義と指導案作成	学習指導案を作成する意義や授業の構想力を高める指導案のあり方を学ぶ。また、指導案作成を書く際のポイントを紹介する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う（10 時間）
8	模擬授業・検討会のあり方	授業で起きた出来事をもとに省察し、授業づくりの考え方を学ぶような模擬授業検討会のあり方を学び、実際に体験する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う（10 時間）
9	授業観察の方法と授業をみる視点	授業観察の際、授業をどのような視点で検討すれば良いか、またどのような記録を残せばよいのかを学ぶ。授業ビデオを用いて授業記録をとる練習を行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う（10 時間）
10	模擬授業・検討会：教育目標・評価に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に目標と評価の対応に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
11	模擬授業・検討会:教材に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に教材の活用（デジタル教材を含む）に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
12	模擬授業・検討会:学習空間に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に学習のための空間作りに着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
13	模擬授業・検討会:技とテクノロジーの活用に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に指導技術や ICT 活用に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
14	実践記録と力量形成	実践記録を読むこと・書くことを通して、教師として授業の力量を高めるための方法を学ぶ。実践記録を読み、考察する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
15	総括:教師としての力量形成	教師として授業の力量を高める方法論を、これまでの講義を振り返りながら総括する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業の振り返りを踏まえて指導案を改稿する（15 時間）

関連科目	同時期開講の教育課程論と密接にリンクしている。教育課程論では１単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業づくりの深め方	石井英真	ミネルヴァ書房
	2	授業づくりの考え方	渡辺貴裕	くろしお出版
	3	時代を拓いた教師たち	田中耕治編著	日本標準
評価方法 （基準）	（1）模擬授業（学習指導案作成を含む）（50%）：学習指導案作成、および 10 分間の模擬授業を実施する。 （2）コメントカード・小課題（20%）：講義・模擬授業・検討会の振り返りを毎回の講義後に記入する。 （3）授業内課題（30%）：模擬授業でうけた意見をもとに、学習指導案を改稿し提出する。 ※評価基準・規準（ルーブリック）は講義内で提示する。
学生への メッセージ	授業のお知らせは Teams を通して連絡します。必ず Teams に登録してください。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(鎌田研究室)
備考	事前・事後学習総時間を 60 時間とする。 受講生の人数により、模擬授業・検討会の実施日が増減する可能性がある。

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counceling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村　晃一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	昨今，子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し続けている。いじめ・暴力行為・不登校・中途退学・自殺など多岐にわたり，課題が山積している。本講義では，生徒指導および進路指導について理解を深める。理論と実践の往還を重視し，具体的な事象を取り上げながら授業を展開することで，生徒指導の諸課題に対応し，進路指導を通したキャリア教育の実現に寄与する。
到達目標	本講義を通して，生徒指導および進路指導の意義を理解する。児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題について研鑽を重ね，学校現場の問題点について主体的に考える素養を養う。また，進路指導では広くキャリア発達の視点から学び，将来教員になった際，子どもたちの社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てる力を培うことを目標とする。
授業方法と留意点	授業は対面形式で行う。PowerPoint を用いながら授業を展開し，毎時間課題を提示する。また，Teams のファイルより，各資料を共有する。本講義は，アクティブ・ラーニングを採用しているため，ディスカッションや KJ 法，ロールプレイを通して理論と実践の往還を目指す。加えて，授業では教科書を使用するため，毎時間持参すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の基礎	・生徒指導の定義と目的 ・生徒指導の構造（２軸３類４層構造） ・チーム支援による組織的対応	教科書 P.１２～３８ 学習課題：子どもの権利条約
2	生徒指導と教育課程	・児童生徒の発達を支える教育課程 ・教科，道徳科，総合的な学習（探求）の時間，特別活動の各領域と生徒指導との関連	教科書 P.３９～６７ 学習課題：探求学習の４STEP
3	チーム学校による生徒指導体制	・チーム学校における学校組織と生徒指導体制 ・生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援	教科書 P.６８～１１８ 学習課題：チーム学校
4	個別の課題に対する生徒指導：いじめ	・いじめ防止対策推進法 ・いじめに関する生徒指導の重層的支援構造 ・関係機関等との連携体制	教科書 P.１１９～１４０ 学習課題：いじめの定義と関係法規
5	個別の課題に対する生徒指導：暴力行為	・暴力行為に対する対応指針 ・暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造 ・関係機関等との連携体制	教科書 P.１４１～１５２ 学習課題：暴力行為の定義
6	個別の課題に対する生徒指導：少年非行	・少年法と児童福祉法 ・少年非行の基本的な対応 ・喫煙，飲酒，薬物乱用 ・特定少年	教科書 P.１５３～１７０ 学習課題：犯罪白書
7	個別の課題に対する生徒指導：児童虐待	・児童福祉法，児童虐待の防止に関する法律 ・学校の体制 ・虐待対応に対するアセスメント	教科書 P.１７１～１８８ 学習課題：児童虐待の定義と虐待事例
8	個別の課題に対する生徒指導：自殺	・自殺対策基本法 ・自殺防止のための学校の組織体制と計画 ・関係機関との連携に基づく自殺予防の体制	教科書 P.１８９～２０８ 学習課題：自殺の動向
9	個別の課題に対する生徒指導：中途退学，インターネットに関わる問題	・中途退学の関係法規と基本方針 ・インターネット問題への組織的取組 ・各課題に対する重層的支援構造	教科書 P.２０９～２２０，P.２４０～２５４ 学習課題：インターネットトラブル
10	個別の課題に対する生徒指導：不登校	・不登校に関する関係法規と基本方針 ・不登校対応に求められる学校の組織的体制と計画 ・関係機関との連携体制	教科書 P.２２１～２３９ 学習課題：不登校の定義，教育機会確保法
11	個別の課題に対する生徒指導：多様な背景を持つ児童生徒	・性に関する課題 ・発達障害に関する課題 ・支援を要する家庭状況 ・外国人児童生徒	教科書 P.２５５～２８９ 学習課題：性的マイノリティ
12	進路指導とキャリア教育	・キャリア教育とは何か ・進路指導とキャリア教育の歴史的背景	キャリア教育の手引き（配布資料） 学習課題：４領域８能力
13	進路指導：キャリア教育を通して育成すべき「４領域８能力」	・４領域８能力 ・基礎的，汎用的能力	キャリア教育の手引き（配布資料） 学習課題：キャリア教育
14	進路指導：中学校・高等学校における実践	・中学校におけるキャリア発達 ・高等学校におけるキャリア発達 ・校種間連携	キャリア教育の手引き（配布資料） 学習課題：生徒指導と進路指導
15	生徒指導と進路指導	・生徒指導の諸課題 ・進路指導とキャリア教育の結び付き ・総括	学習課題：第１～１４回で最も関心のあるトピックを１つ挙げて論述

関連科目	「教育の基礎的理解に関する科目」全般に関連する。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
3	生徒指導提要	文部科学省	

評価方法 （基準）	期末試験 60%，毎時間の課題・レポート 40%とする。
学生への メッセージ	生徒指導とは，児童生徒が，社会の中で自分らしく生きることができる存在へと，自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。ゆえに，学生自身が自発的・主体的に学び，豊かな人間性を養う必要がある。本講義では，双方向の学習を取り入れている。積極的な参加を期待している。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　西村研究室
備考	本講義は，複数の曜日時限が設けられている。必ず，自身が履修登録をしている曜日時限の Teams コードに登録すること。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度である。

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.鎌田　祥輝.谷口　雄一.西村　晃一.松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。
到達目標	① 実際の教育現場を知る。 ② 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ③ 社会的倫理観を確立する ④ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑤ ものごとを多面的に考察できる。
授業方法と留意点	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・部活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回 90 分行う。 原則として、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは，教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、年間活動計画作成準備	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3 時間程度)
2	事前指導 2	学校という教育現場，現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3 時間程度)
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3 時間程度)
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3 時間程度)
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動　（日誌・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日誌等）の作成
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3 時間程度)
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	すべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④最終レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお，評価割合はそれぞれ 20%である。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、7 号館 3 階（鎌田研究室）、7 号館 4 階（谷口研究室）、7 号館 3 階（西村研究室）、7 号館 3 階（松浦研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。１回の活動に対して，それぞれ 1、2 時間は必要です。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.鎌田　祥輝.谷口　雄一.西村　晃一.松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「地域連携教育活動Ⅰ」と異なる、あるいは同じ大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。
到達目標	① 「地域連携教育活動Ⅰ」を受け，その体験をもとにさらに学びを深める。 ② 実際の教育現場を知る。 ③ 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ④ 社会的倫理観を確立する ⑤ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑥ ものごとを多面的に考察できる。
授業方法と留意点	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回 90 分行う。 原則として、「地域連携教育活動 I」を履修した学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは，教員免許状を取得するのに大いに資する。
授業計画	
関連科目	すべての科目
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、活動報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお，評価割合はそれぞれ 20%である。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日研究室）、７号館３階（鎌田研究室）、７号館４階（谷口研究室）、７号館３階（西村研究室）、７号館３階（松浦研究室）、７号館３階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。１回の活動に対して，それぞれ 1、2 時間は必要です。

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前指導 1	活動についての心構え，活動内容の確認，活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3 時間程度)
2	事前指導 2	学校という教育現場，現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べ
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3 時間程度)
4	活動準備	受け入れ校と協議し，活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3 時間程度)
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動　（日誌・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日誌等）の作成
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 （3 時間程度）
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	特別支援教育論	科目名（英文）	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している。学実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム学校、関係諸機関や家庭、保護者と連携しながら支援体制を構築することの必要性について理解する。 ⑥貧困・LGBT などの理由により、特別の支援を必要とする子供たちに対する支援方法について理解する。 ⑦ICT の活用により、障害の疑似体験をしたり、支援に役立つ学習アプリを実際に操作したりする。
授業方法と留意点	1　授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICT ツールは Teams を使用する。 2　講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。プリントアウトするなどして各自で管理すること。 3　Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。
科目学習の効果（資格）	教職科目 特別支援教育論は、教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・クループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第１章を読み、今後の学習について見通しを持つ（２時間）・グループでの役割に応じて４回目授業での発表準備を進める（２時間）
2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。 ・ICF モデル・特別支援教育への転換について知る。	・教科書第２章をよく読み、質問をまとめておく。（２時間）・グループでの役割に応じて４回目の授業での発表準備を進める（２時間）
3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第３章をよく読み、質問をまとめておく。（２時間）・ペアでの役割に応じて、4 回目の授業での発表の資料をＡ４一枚程度(両面可) にまとめる。（２時間）
4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。 ・見え方紹介アプリの活用	・教科書第１１章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。（２時間）・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。（２時間）
5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第１０章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・グループでの役割に応じて、７回目の授業での発表資料をＡ４二枚以内（両面可）にまとめる。（２時間）
6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第８章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
7	知的障害・発達障害について（１）	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・教科書６・７・９章などを参考に自分の担当部分についてよく伝わるようにまとめておく。担当以外の部分についても教科書を読んで概要を理解しておく。（２時間）授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正しておく。（２時間）
8	知的障害・発達障害について（２）	・資料をもとにグループ発表を行う。代表者にまとめの発表をしてもらい、感想をまとめる。 ・学習支援アプリの操作・体験	・自分の発表部分について、よく伝わるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。（２時間）授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。（２時間）
9	LGBT 等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・ＬＧＢＴ・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童ついて学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第１２章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
10	個別の指導計画と個別の教育支援計画	・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第５章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
11	通常学級での特別支援教育（小・中学校）	・授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。 ・通級指導の概要を理解する	・第２回の授業内容について教科書やノートで復習しておく（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
12	通常学級での特別支援教育（高等学校）	・通級指導の概要を理解する ・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育について理解する。	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育についてネット等で調べる（２時間）・講義を元に学習内容をまとめる（２時間）
13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・教科書第１３章・１４章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・教科書と講義を元に学習内容をまとめる（２時間）

	14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。 ・進路支援・就労支援の実際を知り、問題点を明らかにする。	・教科書第１５・第１６章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
	15	発達障害等に対する指導技法　まとめ	・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。	・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。（2 時間） ・今までの学修をふりかえる（２時間）・当日出題される課題に取り組み、提出する。

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての特別支援教育　教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かな子他	学文社
2	特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領　平成２９年４月告示	文部科学省	海文堂出版
3	中学校学習指導要領（平成２９年告示）総則編	文部科学省	海文堂出版

評価方法 （基準）	授業への参加状況【課題等】（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1 人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 3 階松浦研究室
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人お一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　（2）中学校教諭１種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキスト P. 3 を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキスト P. 76～85 を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキスト P. 69～73 を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキスト P. 93～97 を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキスト P. 86～90 を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その１	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	（事前）コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 （事後）4 名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 8 回で取り上げた 4 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その１	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	（事前）フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 （事後））3 名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 29～32 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 50～54 を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 147～151 を精読しておく。 （事後）生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキスト P. 169～178 を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>哲学する教育原理</td><td>伊藤潔志　編著</td><td>教育情報出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領（平成 29 年告示）</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>3</td><td>哲学する学校経営</td><td>伊藤潔志　編著</td><td>教育情報出版</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。
また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名（英文）	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果（資格）	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる（120 分） 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える（120 分）
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す（120 分） 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる（120 分）
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT 環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学の ICT 環境と教育ツールについてまとめる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
4	ICT環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する（120 分） 事後：作成したデジタル教材の修正をする（120 分）
6	デジタル教材の研究（グループ）	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する（120 分） 事後：作成した指導法の見直しをする（120 分）
7	模擬授業（グループ）	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする（120 分） 事後：模擬授業を振り返る（120 分）
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える（120 分） 事後：模擬授業の振り返りと課題（120 分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂 4 版 情報モラル＆情報セキュリティ	㈱富士通ラーニングメディア	FOM 出版
2	ICT 活用指導力アップ　教育の情報化　教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT 活用の理論と実践　DX 時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法（基準）	授業中の課題とレポート（60%）、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表（40%）をもとに総合して評価する
学生へのメッセージ	各自の IT スキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　橋本研究室
備考	

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名（英文）	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果（資格）	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる（120 分） 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える（120 分）
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す（120 分） 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる（120 分）
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT 環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学の ICT 環境と教育ツールについてまとめる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
4	ICT環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する（120 分） 事後：作成したデジタル教材の修正をする（120 分）
6	デジタル教材の研究（グループ）	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する（120 分） 事後：作成した指導法の見直しをする（120 分）
7	模擬授業（グループ）	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする（120 分） 事後：模擬授業を振り返る（120 分）
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える（120 分） 事後：模擬授業の振り返りと課題（120 分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂 4 版 情報モラル＆情報セキュリティ	㈱富士通ラーニングメディア	FOM 出版
2	ICT 活用指導力アップ　教育の情報化　教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT 活用の理論と実践　DX 時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法（基準）	授業中の課題とレポート（60%）、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表（40%）をもとに総合して評価する
学生へのメッセージ	各自の IT スキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　橋本研究室
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名（英文）	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：理工学部［II］
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。１件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト１を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
	15	まとめ	全体のまとめを通じて、身近な犯罪を未然に防ぐには何が必要か結論を探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 9 階 中沼研究室
備考	講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。

科目名	マーケティングと歴史	科目名（英文）	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式、出席率80%以上を成績評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
6	マーケティングのＳＴＰアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、ＳＴＰアプローチに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
10	越後屋の仕入機構（１）	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
11	越後屋の仕入機構（２）	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。（所要時間１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居　奈緒子	千倉書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動　新版	武居　奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法	期末レポート（80%）、中間レポート（20%）

（基準）	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館８階　武居教授室
備考	

科目名	教養刑事法	科目名（英文）	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。 ・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS 上での出会い）、職業安定法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25 通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん・闇バイトを通じた各種犯罪への関与）、偽計業務妨害（カンニング・飲食店備品に対する悪戯・バズリを狙う悪質動画作成）の事案など枚挙にいとまがない。 ・これらの犯罪は、おそらく大学生当人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。 ・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。 本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる ・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる ・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	・身近な刑事法の問題を理解できる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法とは何か	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか）	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
3	刑法の解釈	・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
4	犯罪の基本概念	・犯罪の成立要件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
5	薬物犯罪	・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
6	カンニング行為と偽計業務妨害	・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大 2 次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
7	飲み会と保護責任者遺棄罪	・飲み会において生じうる犯罪現象	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
8	定期券の偽造と詐欺罪	・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
9	ストーカー行為規制法	・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
10	DV とデート DV	・DV の類型	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	・各種性犯罪 ・家出と各種誘拐罪	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	・少年法の厳罰化 ・20 歳未満の実名報道	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
13	犯罪被害者救済①	・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
14	犯罪被害者救済②	・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間

関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
2			
3			

評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度5%＋課題の得点95%）。定期試験は実施しない。
学生への メッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス　11号館10階　小野教授室
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。

科目名	現代韓国論	科目名（英文）	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	１．韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 ２．授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信および課題等の提出、という２つの手段を適宜組み合わせて行なう。 ３．授業進度の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 ４．本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果（資格）	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 （「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。）	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第１章　盧泰愚来日と天皇訪韓構想（１）	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第１章　盧泰愚来日と天皇訪韓構想（２）	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第２章　慰安婦問題の展開（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第２章　慰安婦問題の展開（２）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第３章　村山談話と靖国問題（１）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第３章　村山談話と靖国問題（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第４章　「小春日和」の時代（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	第Ⅱ部　対立激化への展開	第４章　「小春日和」の時代（２） 第５章　領土問題の相克と定着化（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	第Ⅱ部　対立激化への展開	第５章　領土問題の相克と定着化（２） 第６章　民主党政権と李明博政権（１）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	第Ⅱ部　対立激化への展開	第６章　民主党政権と李明博政権（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	第Ⅱ部　対立激化への展開	第７章　外交争点としての「慰安婦」問題（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	第Ⅱ部　対立激化への展開	第７章　外交争点としての「慰安婦」問題（２）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	第Ⅱ部　対立激化への展開	第８章　文在寅政権の転換	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 （講義のまとめと補遺）	［事前学習］提示する資料を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	韓国愛憎	木村幹	中公新書
2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
3			

評価方法 （基準）	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス　7 号館 4 階　田中研究室
備考	・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 ・なお、2019 年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。

科目名	役立つ金融知力	科目名（英文）	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西　史一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	自分が歩みたい人生の実現を、人生 100 年にも迫り長期化する老後を、お金の面から支えるには、早くから長期的な資産形成に取り組み、単に「貯める（貯蓄）」だけではなく、貯めたお金を上手に「殖やす（投資）」ことが必要です。また、投資は「自己責任」が原則であり、取引にかかわるリスクやトラブルから自己防衛するための知識も重要です。 早ければ社会人になってすぐ、自分で自分の年金（確定拠出年金）の運用を始めなければなりません。何で、どのように運用するか…決められますか？　若年層の長期的資産形成を促すため、NISA 制度も改正されるなど政府の取り組みも本格化しています。経済的に自立し、将来の夢の実現のためにも、金融に関する知識や情報を正しく理解し、各自の生活設計に合う適切な取引を選択、実践するスキルや判断力（＝金融リテラシー）を若いうちから身につけておくことが必要です。 本講義では、社会人としても知っておくべき金融・経済に関する理解を深めるとともに、資産形成のために必要な基礎知識の習得を目指します。
到達目標	ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。 具体的には ①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる ②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく ③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる 以上を到達目標とします。
授業方法と留意点	基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。 授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。 また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 なお課題への参加や提出物は期限を厳守してください。
科目学習の効果（資格）	日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解することができるようになります。 金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。 また、ファイナンシャルプランナー資格（民間資格）や、ファイナンシャル・プランニング技能士（国家資格）の資格取得にも役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス／金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー（知力）」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
5	ライフプランニング②	ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説し、具体的な作成手順を説明します	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。 （注）課題内容を変更する可能性もあります。
6	金融商品の基礎／貯蓄型商品	金融所品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	課題②として、授業テーマに先行して、株式投資ゲームの参加要項について案内します。
7	リスクとリターン	投資は利益（リターン）をあげることを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
8	株式の基礎①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
9	株式の基礎②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
10	債券の基礎①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや”格付け”についても学びます。	財務省のＨＰで２０年度予算の概要を確認
11	債券の基礎②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
12	投資信託について	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
13	外為市場・外貨建て商品につ	外国為替市場の仕組みや取引について	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持

	いて	解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	って頂きたい。
14	証券化商・デリバティブ／セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。

関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験　：　６０％ 課題① キャッシュフロー表の作成　：　２５％ 課題② 株式投資ゲームの参加　　：　１０％ 講義への取り組み姿勢　：　５％ （注）履修学生が多大の場合、課題① キャッシュフロー表の作成を、他の課題に変更する可能性があります。
学生への メッセージ	長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 3 号館 1 階（教務課） 寝屋川キャンパス 7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	オフィスアワー　：　授業の前後に対応します。 その他、質問等は　メールもしくは Moodle のメッセージを利用してください。 この講義は、ＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。

科目名	SDGｓで読み解く淀川流域	科目名（英文）	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石田　裕子.赤澤　春彦.朝田　康禎.郭　進.加嶋　章博.久保　貞也.小林　健治.後藤　和子.鳥谷部　壌.中塚　華奈.増田　知也.八木　紀一郎
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め,、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs(2030 年までの世界の目標)との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス―淀川流域のいま・過去・未来とＳＤＧｓ	科目全体のガイダンス(担当:朝田康禎)	事前：教科書[序章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か？[関連 SDGs １３・６](担当：石田裕子)	事前：教科書[第１章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか？[関連 SDGs９・１７]（担当：石田裕子)	事前：教科書[第２章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか？[関連 SDGs７・１６]（担当：鳥谷部壌)	事前：教科書[第４章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
5	些細なことで豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか？[関連 SDG １５]（担当：小林健治)	事前：教科書[第７章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは？[関連 SDGs ３・１２]（担当：後藤和子)	事前：教科書[第６章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろう？[関連 SDG １１]（担当：加嶋章博)	事前：教科書[第８章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか？[関連 SDG１１](担当：赤澤春彦)	事前：教科書[第９章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
9	淀川流域での学生活動	学生の活動が地域に与える影響とはなにか？[関連 SDGs １・４・１１](担当：久保貞也)	事前：教科書[コラム③p.154]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
10	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う？[関連 SDGs１・４・１１]（担当：八木紀一郎)	事前：教科書[第 11 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
11	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは？[関連 SDG２]（担当：中塚華奈)	事前：教科書[第 10 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
12	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか？[関連 SDG５]（担当：朝田康禎)	事前：教科書[第 12 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
13	産業連関分析	淀川流域における３市（門真市・寝屋川市・枚方市）の経済・産業構造はどう違うのか？[関連 SDGs８・９]（担当：郭進)	事前：教科書[第 13 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
14	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすれば良いか？[関連 SDG１７]（担当：増田知也)	事前：教科書[第 14 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当？[関連 SDGs14・１２]（担当：鳥谷部壌)	事前：教科書[第 15 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs で読み解く淀川流域　近畿の水源から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壌　編著	昭和堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第 2 回目～15 回目までの授業内で実施される理解度確認（クイズ or 簡単な小レポートなど）（いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点）と、期末のレポート（30 点）の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか１つを選択し、A4 で２枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材に一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはずです。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス　１号館３階　都市環境工学科　石田研究室 寝屋川キャンパス　１号館７階　経済学部　後藤研究室、郭研究室、朝田研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなに そしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13（気候変動に具体的な対策を）、SDG14（海の豊かさを守ろう）、SDG15（陸の豊かさも守ろう）、SDG16（平和と公正をすべての人に）、SDG17（パートナーシップで目標を達成しよう）。

科目名	データサイエンス実践	科目名（英文）	Practical Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保　貞也.朝田　康禎.植杉　大.片田　喜章.橋本　はる美.牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。 ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。 本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。
到達目標	この講義の到達目標は以下の通りである。 （１）現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる （２）データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている （３）インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる
授業方法と留意点	本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。
科目学習の効果（資格）	社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由(オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、 Society 5.0 時代のデータの価値について S 科　久保教授	事前の学修進展度 学修ノートの作成
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S 科　久保教授	データサイエンスの事例を調べる 学修ノートの作成
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S 科　牧野准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S 科　橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S 科　橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
6	オープンデータの収集と活用	RESAS（地域経済分析システム）によるオープンデータの分析 W 科　植杉教授	RESAS の操作 学修ノートの作成
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W 科　朝田准教授	オープンデータの事例を調べる 学修ノートの作成
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア（SPSS)によるデータ整理 S 科　牧野准教授	統計学に関する予習・復習 学修ノートの作成
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S 科　牧野准教授	学修ノートの作成
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S 科　牧野准教授	学修ノートの作成
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S 科　牧野准教授	GoogleForms について調べる 学修ノートの作成
12	研究につながるデータ分析	実践的な分析手法の活用 S 科　牧野准教授	学修ノートの作成
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E 科　片田准教授	学修ノートの作成
14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S 科　久保教授	FileMaker の事例について調べる 学修ノートの作成
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション（ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) S 科　久保教授	ELSI について調べる 学修ノートの整理 事後の学修進展度

関連科目	データサイエンス展開

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業での課題　70%、事前事後の学修進展度（アンケート）　15%、学修ノート　15%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。 授業への遅刻は実習参加の妨げになるため十分注意してください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス　11 号館 7 階 久保教授室、牧野准教授室、11 号館 8 階 橋本准教授室、1 号館 7 階 植杉教授室、朝田准教授室、1 号館 4 階 片田准教授室
備考	

科目名	ジェンダーとダイバーシティ	科目名（英文）	Gender and Diversity
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の４点を理解することが期待される。 １）グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。 ２）「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。 ３）さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 ４）日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。 SDGs-5
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって、さまざまな社会現象に対しての発言に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果（資格）	ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べること（１時間） ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること（３時間）
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について箇条書きにしてくること（２時間） ・事後学修：SDGs＃５がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的数字を入れてレポートを書くこと（２時間）
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学＋男性学＝人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモーヌ・ド・ボーボワール ・性別役割分業観	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること（２時間） ・事後学修：日本が抱える問題　について、具体的数字を入れてレポートを書くこと（２時間）
4	日本の近代化	・大正期の白樺派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第５次男女共同参画基本計画	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること（２時間） ・事後学修第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと（２時間）
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ、・ジェンダーエンパワーメント指数などのデータから日本をみる	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること（２時間） ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること（２時間）
6	性役割の形成①	・性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GID と SOGI と人権	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返ること（２時間） ・事後学修：テキスト P40～52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成（２時間）
7	性役割の形成②	・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向	・事前学修：ハラスメントの事例を一つ探し、具体的内容をレポートする　　準備をすること（２時間） ・事後学修：結婚と母性信仰に関して、レポートを作成（２時間）
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・６名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ	・事前学修：６名の女性に関するプレゼン（２時間） ・事後学修：６名の女性から学んだことのレポート作成（２時間）
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること（２時間） ・事後学修：M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成 　　すること（２時間）
10	アサーティブコミュニケーション①	・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修：アサーティブネスについて調べること（２時間） ・事後学修：アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える（２時間）
11	アサーティブコミュニケーション②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること（２時間） ・事後学修：ワークシート#11（２時間）
12	リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解する	・事前学修：リプロの意味と現状を調べる（２時間） ・事後学修：ワークシート#12（２時間）
13	DV とデート DV	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：DV とデート DV に関してレポートを作成（２時間） ・事後学修：ワークシート#13（２時間）

	14	プレゼンテーション	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（２時間） ・事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（２時間）
	15	まとめ	・まとめ	・事前学修：まとめのワークシート（２時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（２時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書

評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。
担当者の 研究室等	石井研究室（寝屋川キャンパス、７号館５階）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。 受講生のワークの進捗状況や社会現象の発生に応じて内容が前後することもある。

科目名	データサイエンス展開	科目名（英文）	Data Scicence Applications
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪　晴彦.石井　三恵.伊藤　譲.後藤　一章.瀬川　智広.横山　喬之.米本　涼
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	IT・インターネットの利用が日常化し人とのつながりが増えるとともに、デジタル情報やデータの影響を受ける場面が飛躍的に増加している。今後のデジタル駆動社会においては情報化・デジタル化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていく「データリテラシー」を身に付けていることが必要となっている。 本科目では、政策、衣食住、ものづくり、イベント広告、まちづくりの広範な分野における数理・データサイエンス・AI とデジタル技術の実践例を通じて、これらが社会や産業、日常生活の基盤になりつつあることを学ぶ。また、高度情報社会において、データを駆使し諸問題を解決する、また価値を創造する人材の素養を涵養する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AI が、Society5.0（データ駆動型社会）やインダストリー4.0 の基盤となっていること、それが自らの生活と密接に結びつくことを理解し説明できる。 (2) 数理・データサイエンス・AI が対象とする「データの活用領域」 は広範にわたり「社会で活用されているデータ」が社会や日常生活の課題解決に不可欠であることを理解し説明できる。 (3) 数理・データサイエンス・AI は様々な適用領域の知見と組み合わせることにより、価値創出するものであることを理解し説明できる。 (4) 数理・データサイエンス・AI は万能ではなく、その活用への留意事項（個人情報、データ倫理、AI 社会原則等）や、情報のセキュリティ・漏洩等などデータを守る上での留意事項の重要性を理解し説明できる。
授業方法と留意点	・産官学のさまざま分野の講師によるオムニバス形式である（12 回分）。 （外部から講師を招聘するため，日程やテーマが変更となることがある。） ・事前学習として、関連動画を視聴（もしくは資料を精読）し興味や関心、講師への質問をレポートとしてまとめる。 ・事後学修では授業で理解したことをまとめ、到達目標の(1)から(4)の達成度を自己分析・評価する。 ・事前事後学習のレポートはすべて ICT ツールを利用する。
科目学習の効果（資格）	・AI・データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア形成や就職活動に役立てることができる。 ・数理・データサイエンス・AI の関連資格への興味を拡大することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的と概要 オリエンテーション グループワークの概説	事後学修：レポート（1 時間）
2	データ駆動社会	・Society5.0 概論 ・オープンデータ活用 ・デジタルトランスフォーメーション（DX）	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
3	サイバーセキュリティ	サイバー攻撃と防御の最前線、データ駆動や AI による最先端のセキュリティ技術を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
4	食サービス×データサイエンス	食品産業におけるデータ分析やデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
5	ものづくり×データサイエンス	ものづくりの設計や製造現場におけるデータサイエンスや AI 技術の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
6	イベント×データサイエンス	イベント企画におけるデジタル技術の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
7	数理・データサイエンス・AI を知る	・数理・データサイエンス・AI のメリット・デメリットをグループワークで学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
8	広告×データサイエンス	広告業界における SNS マーケティングなどデジタル技術・データサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
9	言語×データサイエンス	言語とデータ化、テキストマイニングの仕組みと技術を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
10	まちづくり×データサイエンス	地方創生など新たなまちづくりにおけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
11	ヘルスケア×データサイエンス	医薬品開発やヘルスケアにおけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
12	スポーツ×データサイエンス	選手のコンディションや戦況分析などスポーツ科学におけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
13	衣料×データサイエンス	顧客のニーズに即応する衣料品開発と製造におけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
14	政策×データサイエンス	サイバー空間における大規模人口シミュレーション技術を用いた選挙や年金などの制度設計を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
15	社会人としてのデータサイエンス	社会人として身につけておくべき DX 思考、情報倫理、協働姿勢などをグループワークで学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）

関連科目	情報系科目すべて
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	事前学習およびグループワーク課題 30%、事後課題レポート 70%で評価する。
学生への メッセージ	社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】1 号館 4F 諏訪教授室、7 号館 3F 石井教授室、1 号館 3F 伊藤教授室 米本研究室（7 号館 5 階）
備考	

科目名	コンピュータビジョン入門	科目名（英文）	Introduction to Computer Vision
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博.新居　英志
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	われわれの視覚機能をコンピュータを使って実現する分野がコンピュータビジョンである。外界から入力される画像や映像から物体認識をしたり、状況を理解させたりすることをプログラムで実現するものである。このためにプログラミングの基礎から始めて、各種の画像処理の手法をプログラム作成を通じて学ぶ。さらに機械学習の初歩的な課題に取り組み、その仕組みを知ることを目的とする。
到達目標	プログラミングの基礎スキルを獲得し、それに基づいて各種の画像処理手法や機械学習の仕組みを学び、自分でプログラミングする素養を身につけること。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを使用してプログラムを作成します。初歩的なプログラムの作成から始めて、徐々にステップアップします。欠席した場合には自分でフォローアップしないとついてこれなくなりますので注意が必要です。
科目学習の効果（資格）	基本的なプログラムの作成を通してプログラミングを学び、基本情報処理試験の基礎技能を養います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション： コンピュータビジョンとは python ことはじめ	授業概要 画像処理と OpenCV python プログラミングの方法	自分でコンピュータビジョンについて調べる。 課題の完成
2	python 入門（1）	演算とリスト	授業内容の予習 課題の完成
3	python 入門（2）	制御構造と論理演算	授業内容の予習 課題の完成
4	python 入門（3）	関数	授業内容の予習 課題の完成
5	python 入門（4）	その他	授業内容の予習 課題の完成
6	OpenCV プラグらミング（1）	画像入力装置と静止画・動画フォーマット デジタル画像と配列	授業内容の予習 課題の完成
7	OpenCV プラグらミング（2）	色空間 濃淡変換	授業内容の予習 課題の完成
8	OpenCV プラグらミング（3）	フィルタ処理	授業内容の予習 課題の完成
9	OpenCV プラグらミング（4）	２値画像処理	授業内容の予習 課題の完成
10	OpenCV プラグらミング（5）	複数画像の利用	授業内容の予習 課題の完成
11	OpenCV プラグらミング（6）	幾何学変換	授業内容の予習 課題の完成
12	OpenCV プラグらミング（7）	距離画像処理	授業内容の予習 課題の完成
13	OpenCV プラグらミング（8）	特徴抽出と機械学習	授業内容の予習 課題の完成
14	機械学習プログラミング(1)	ディープラーニング	授業内容の予習 課題の完成
15	機械学習プログラミング(2)	最終プロジェクト	授業内容の予習 課題の完成

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	OpenCV による画像処理入門（改訂第３版）	小枝、上田、中村	講談社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内課題(60%)、プロジェクト課題(40%)
学生へのメッセージ	われわれの視覚情報処理を知ることは、脳のしくみを知ることにつながります。プログラミングは創造的な活動のひとつです。文系理系に関わらず、興味のある人の参加を待っています。
担当者の研究室等	寺内研究室（寝屋川キャンパス、１１号館１０階）、新居研究室（寝屋川キャンパス、７号館５階）
備考	

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名（英文）	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲.大川　謙蔵.大塚　正人.尾山　廣.佐藤　大作.白鳥　武.村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は，学部の枠を越えた教養応用科目で，大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています. 科目のテーマである SDG s （持続可能な開発目標）とは，国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で，わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています. つまり，この科目は SDG s の全体像を主体的に学ぶ，本格的なアクティブラーニング型教養科目です．反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク，ＡＢＤと振り返りにより生きた知識として定着させます．さらに，法学，経済学，環境工学，建築学，農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め，獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます．このような流れを通じて，大学生として必要な，SDGs を理解するための教養（特に，社会，経済，環境等）を身につけ，その知識をもとに考え，自分の意見を持ち，討議ができるようになります.
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について学び，説明と討議をすることができる. (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる. (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる. (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる.
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど，アクティブラーニングの手法を駆使します．授業開始時には，事前学習における知識の定着を確認するため，ICT ツールによるクイズ，ミニプレゼンを行い，中盤から後半部で各テーマをとりあげます．学生は解説時にはメモをとり，グループワークにより課題に取り組みます．授業の最後には，振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます．また，授業資料の管理状態も評価対象です.
科目学習の効果（資格）	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る．自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる．ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP１を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後：CHAP１を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か①	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か②	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
4	SDGs とは何か③	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
5	気候変動に関する諸問題１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 13 を学び，ABD サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し，関連する話題に関して説明できるようになっておくこと. ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw
6	気候変動に関する諸問題２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 14，15 を学び，ABD サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し，関連する話題に関して説明できるようになっておくこと. ・気候変動の対策 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPZjE
7	日本の食文化１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標 2、3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：日本の食文化１の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：日本の食文化２の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後：第１回レポート
9	地球共生デザインを考えるⅠ： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：16、10（特に 10.2,10.3）、5（特に 5.1,5.2）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）の ABD サマリを作成する。 事前 2：【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 A-カナダ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみること。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
10	地球共生デザインを考えるⅡ： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：目標：16、10（特に 10.2,10.3）、4（特に 4.5,4.7）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）の ADB サマリを作成する 事前 2：前回も使った【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまと

				めてみること。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
	11	日本の国際貢献と法整備支援１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：目標 6、9、13 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事を読み、法制度と法整備の必要性について、の概要を把握しておくこと。 https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html
	12	日本の国際貢献と法整備支援２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1：目標 16、11、10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf
	13	持続可能な企業経営と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP4 を学び、ABD サマリを作成する。
	14	持続可能な企業経営と ESG 投資２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する。
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習 事後：第２回レポート

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680 円＋税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前・事後学習課題・ABD サマリ（個人：15%） ・取組み姿勢（チーム：20%） ・成果発表・プレゼンテーション１回（チーム：10%） ・振り返りシート（個人：20%）、・レポート２回（個人：20%）、・授業資料管理（個人：5%） ※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。
学生へのメッセージ	授業では，摂南大学のすべての学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の研究室等	【枚方キャンパス】大塚教授（薬学部１号館 5F） 【寝屋川キャンパス】村瀬准教授（１号館７F）、伊藤教授（１号館３F）、尾山教授（理工学部１号館９F）、白鳥准教授（１２号館７階）、佐藤准教授（１号館３F）、大川准教授（11 号館 9F）
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で，教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています．期末試験はないので、毎回の提出物と授業中の取り組み姿勢が重要です。

科目名	まちづくり入門	科目名（英文）	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	熊谷　樹一郎.池内　淳子.伊藤　譲.稲地　秀介.上野山　裕士.加嶋　章博.久保　貞也.中塚　華奈.野長瀬　裕二.野村　佳子.増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動を続けている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	（１）まちづくりの課題を多面的に理解できる （２）大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する （３）主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多才な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果（資格）	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる姿勢を理解する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（１）	オリエンテーション 都市計画とまちづくり 理工学部都市環境工学科　熊谷教授	事前：シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後：授業担当者から指示する
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（２）	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方市駅周辺開発室　部長　大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（３）	都心とまちづくり 大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻　嘉名 光市 教授	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（４）	グループ発表 理工学部都市環境工学科　熊谷教授	授業担当者から指示する
5	民間団体が関わるまちづくり（１）	産業とまちづくり 経済学部　野長瀬教授	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり（２）	商業とまちづくり 経営学部　久保准教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり（３）	空き家とまちづくり 理工学部住環境デザイン学科　稲地准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり（４）	観光とまちづくり 経済学部　野村教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり（５）	グループ発表 理工学部都市環境工学科　熊谷教授	授業担当者から指示する
10	市民（大学生）が関わるまちづくり（１）	まちづくりの担い手としての市民 法学部　増田講師	授業担当者から指示する
11	市民（大学生）が関わるまちづくり（２）	福祉とまちづくり 現代社会学部　上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民（大学生）が関わるまちづくり（３）	都市農業とまちづくり 農学部　中塚准教授	授業担当者から指示する
13	市民（大学生）が関わるまちづくり（４）	歴史・文化とまちづくり 理工学部建築学科　加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民（大学生）が関わるまちづくり（５）	防災とまちづくり 理工学部建築学科　池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表 C科　熊谷教授	事前：これまでの講義の振り返り 事後：振り返りレポート

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、各回の事後レポートがすべて提出されていることも評価の前提となります。グループワークを通じた発表を含む授業中の課題（60%）、事後レポートの採点結果（40%）とした上で、総合評価されます。
学生へのメッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス・1号館4階 熊谷教授室

備考	

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TTO1461a1～TTO1465a1,L 科：LTO1366a1～LTO1370a1,D 科・S 科：ITO1371a1～ITO1375a1,J 科：JTO1361a～1JTO1365a1,W 科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。 なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC（英語の場合）の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 ※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし
2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出
3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により
4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出
5	成果報告会	留学での成果を披露	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship（EMI）、摂南大学 PBL プロジェクトⅠなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前授業評価　30%　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合） 現地活動評価　40%　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合） 事後授業評価　30%　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）
学生へのメッセージ	参加した学生は多くのことを得て帰国しています。ある程度まとまった期間海外に行けるのは今のうちかもしれません。新しいチャレンジとして、この機会をぜひ活用してください。
担当者の	鎌田講師室（寝屋川キャンパス２号館２階）

研究室等	
備考	

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名（英文）	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	ﾌﾞｰﾙｵﾓｯﾄﾞ ｻｯｼﾞｬﾄﾞ
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論（入門）. This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire proper attitude to become responsible to the global environment. 5. Improve problem solving ability to tackle global issues. 6. Improve ability to communicate about serious issues using English.
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The course will also challenge students to rethink about their inherent ideas and values that are tied to their cultural environment. Additionally, building from the contents students should have learned from グローバル・シチズンシップ論（入門）, students will communicate their ideas with students abroad to expand their knowledge about global citizenship. *本科目の履修申請にあたっては以下の事項に留意すること。 - 本格目はグローバル・シチズンシップ副専攻を履修している２年次以上の学生を主な対象としているが、寝屋川キャンパスの２年次以上の学生であれば履修申込が可能である。 - 全て英語で実施される科目なので、履修者には少なくとも TOEIC500 点程度の英語力をあらかじめ備えていることが期待される。履修申請時には現在所持している TOEIC スコア等、自身の英語力を自己申告する必要があり、グローバル・シチズンシップ副専攻の履修者以外の学生については、履修の可否について選考が行われる場合がある。 - 本科目の開講曜日、時限は、履修登録後に登録済学生の各所属学部での時間割に配慮しつつ調整、決定されるので、平日の５限または６限といった遅い時間帯の開講となる可能性がある。 - そのほか、履修に関する留意事項について不明の点があれば２号館２階グローバル教育センター（旧・国際交流センター）に相談すること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with

	(date might change)			students abroad (date might change)
	9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
	12	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	13	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	14	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	15	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)

関連科目：グローバル・シチズンシップ論（入門）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
2			
3			

評価方法（基準）

Attendance and participation: 30%
Completion of assignments: 30%
Presentations: 40%

学生へのメッセージ

Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other.

We will be doing online exchanges with students in different countries in this course. This will be an interesting collaboration, so let's look forward to learning together. If you are not confident in your English skills, I will support you so please do not worry.

担当者の研究室等：教員室１（２号館２階）

備考：

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。 なお、事前に承認された活動（例：協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト）の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。 ・当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。 ・異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要に応じてリーダーシップをとる経験を得る。 ・副専攻履修の開始時から継続的な訓練を行って身につけた外国語運用能力をさらに向上させる。帰国後の TOEIC（英語の場合）の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・挫折や失敗の経験も含めた成果を、副専攻を新たに履修する後輩学生への助言として還元し、自身の卒業研究や進路決定に生かす。 ※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（　）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬　（9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬　（11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度　8 月中旬～9 月上中旬　（2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬　（3 月～4 月下旬） 【注意】新型コロナウィルス拡大の	派遣先では、安全と健康を最優先しつつ、団体行動、ルール順守が求められる。応用レベルに相応しい成果報告につなげられるよう、積極的に行動し、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。	事前授業では、応用レベルの参加者に相応しい「地球市民」概念の理解、派遣先の社会事情と課題について自ら学び準備をする姿勢が求められる。SDGs 関連のワークショップ、グローバル教育センターが提供する語学トレーニングのプログラムにおいてもリーダーシップをとることが期待される。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループ
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>事前授業評価　30%　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合）
現地活動評価　40%　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合）
事後授業評価　30%　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td></td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>鎌田講師室（寝屋川キャンパス２号館２階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	大学教養基礎Ⅱ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上野山　裕士.森　亜貴
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	摂南大学のなかでもとくに文系学科における学びについて、対話、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング手法を用いて理解を深める。大学教養基礎Ⅱでは、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びを取り上げる。この講義を通じて履修者は、摂南大学における学修方法を体得するとともに、学修者自身の関心事を明確にすることが期待される。
到達目標	①摂南大学、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びの概要を理解し、その特徴を説明することができる。 ②アクティブ・ラーニング手法の体験を通じて、摂南大学における主体的な学びの手法を理解し、実践することができる。 ③自らの学術的な関心事を口頭および文章を用いて表現することができる。
授業方法と留意点	PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、グループでの対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れた授業を実施する。受講生には、それらに主体的に参画することを求める。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明、グループの決定、本講義における学びの方法について対話的に考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】本講義における学びの方法を復習する
2	経営学部における学びについて（オンデマンド）	経営学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】経営学部について調べる 【事後】講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
3	農学部（食農ビジネス学科）における学びについて（オンデマンド）	農学部（食農ビジネス学科）教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】農学部（食農ビジネス学科）について調べる 【事後】講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
4	現代社会学部における学びについて（オンデマンド）	現代社会学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】現代社会学部について調べる 【事後】講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
5	経営学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】調査および対話内容の整理
6	経営学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】調査および対話内容の整理
7	農学部（食農ビジネス学科）における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる　【事後】調査および対話内容の整理
8	農学部（食農ビジネス学科）における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】調査および対話内容の整理
9	現代社会学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】調査および対話内容の整理
10	現代社会学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】調査および対話内容の整理
11	プレゼンテーションに向けたポスター作成	グループとして学びのテーマを１つ選定し、発表用のポスターを作成する	【事前】ポスター作成に向けた準備 【事後】ポスター発表会に向けた準備
12	ポスター発表会、ふりかえり①	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
13	ポスター発表会、ふりかえり②	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	学びレポートの作成（オンデマンド）	グループで取り上げたテーマのなかからさらに学術的関心事を絞り込み、文献等を用いてレポートを作成する	【事前】レポート作成に向けた情報収集 【事後】レポート記載内容のふりかえり
15	レポートに対するフィードバック（オンデマンド）	受講生から提出された学びレポートを踏まえた総括的講義	【事前】各学部における学びの内容の復習 【事後】授業全体のふりかえり

関連科目	大学教養基礎Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	グループワークおよびポスター発表会への参画度合い（ピア評価；15%）、グループで作成するポスター（25%）のほか、個人で作成する事前学

（基準）	修シート（30%）、学びレポート（20%）、ふりかえりシート（10%）の内容を総合的に評価し、60%以上を合格とする。評価にあたっては、成果物の内容に加えて、ルーブリック表などを用いた担当教員による評価、プロジェクトメンバーによるピア評価を積極的に取り入れる。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 3 号館 3 階　上野山研究室 2 号館 2 階　ラーニングセンター
備考	・本講義ではオンデマンド授業と対面授業を実施します。対面授業は、2024 年 9 月 3 日（火）、4 日（水）の 1 限～5 限に開講し、履修者はこの対面授業にすべての時間、出席することが必須となります。 ・講義の性質上、履修者は、ファシリテーターとしての基礎的な素養を身につけていることが期待されます。 ・本講義では授業準備やふりかえりなど、事前事後学修に 60 時間程度取り組んでいただきます。

科目名	ポジティブ行動支援の基礎・基本	科目名（英文）	Basic of Positive Behavior Support
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	平成 28 年６月に「発達障害者支援法」が一部改正され、「発達障害者の支援は社会的障壁の除去に資すること」を旨として行われなければならないこととされた。言うまでもなく周りの人間の意識こそが一番の障壁となる。この学修を通して、発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮ができるようになることでその障壁を少しでも取り除く原動力になろう。そのためにはまず知ることが大切だ。教職課程を履修している学生だけでなく、興味・関心のあるすべての学生の参加を待っている。
到達目標	①ポジティブ行動支援の概要と実践事例を理解する ②応用行動分析理論の考え方を理解し、実際の生活に生かす ③発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮について学ぶ ④「友達や家族の良い行動」に着目し、適切な支援・配慮ができるようになる ⑤「自分自身の良い行動」に着目し、自己有能感・自己有用感を培う
授業方法と留意点	①授業は対面式で行う。ICT ツールは Teams を使用する ②グループワークを取り入れるので積極的に自分の経験や意見を発表すること ③教科書は特に指定しないが、参考図書は随時紹介する。積極的に活用すること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ポジティブな行動支援を学ぶ意義と本授業のガイダンス	ポジティブ行動支援を学ぶ意義を理解する 授業の進め方や評価方法等について知る	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
2	ポジティブな行動支援とは	ポジティブな支援とネガティブな支援の違いについて、実際に学校現場等で行われている指導の事例を基に理解する	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
3	ポジティブな人間関係づくり	同じ場で学ぶ学生同士でできるポジティブ行動支援を考え、演習を行う	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
4	応用行動分析の基礎　1	ポジティブ行動支援の基礎となる応用行動分析の考え方を知る	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
5	応用行動分析の基礎　2	事例を基に、応用行動分析の理論をもとにその支援方法を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
6	コミュニケーションが苦手でこだわりの強い生徒へのポジティブ行動支援　1	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
7	コミュニケーションが苦手でこだわりの強い生徒へのポジティブ行動支援　2	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
8	落ち着きがなかったり、不注意で失敗することが多かったりする生徒へのポジティブ行動支援	事例を基に、主に ADHD の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
9	傷付きやすい人へのポジティブ行動支援	事例を基に、主にいわゆる「繊細さん」について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
10	保護者と良い関係が結べなかったと思う人へのポジティブ行動支援　1	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
11	保護者と良い関係が結べなかったと思う人へのポジティブ行動支援　2	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
12	大人の発達障害へのポジティブ行動支援　1	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
13	大人の発達障害へのポジティブ行動支援　2	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
14	障害を持つ子の保護者とポジティブ行動支援	障害を持つ子の保護者の話を聴き、自分にできそうなポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
15	まとめ	この講義全体を振り返り、自分にできるポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）

関連科目	心理を扱った科目及び教職科目全般と関連を持つ。ただしこれらの予備知識は必要としない。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / はじめてのポジティブ行動支援 / 松山康成 / 明治図書 2 / 保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック / 三田地真実他 / 金剛出版 3 /	
評価方法 （基準）	授業の出席・積極的参加　６０％　レポート４０％
学生への メッセージ	本講座を履修し、一緒に学修することで、実際の生活に役立つ知識・技能を身につけ、「共に幸せになる幸せ」を実感しましょう。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス７号館３階　松浦研究室
備考	

科目名	人間関係論（ファシリテータートレーニング）	科目名（英文）	Human Relations Approach (Facilitator Training)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「ラボラトリー方式の体験学習」という人間関係に関わる実習（グループ活動）を行い、その体験から自分自身と他者との関り、人間関係の持ち方、自分自身について気づき、学ぶ授業です。実習後はその体験をふりかえり、次の学びにどう生かすかを考え、次の実習に生かしていきます。体験から得た学びに関する理論に関する講義（小講義）もあります。
到達目標	・体験を通し、自分自身の人間関係の持ち方、他者への関わり方、自分自身について気づく ・体験から気づいた点を生かし、グループ関係をよりよく保つための働きかけができる
授業方法と留意点	実習（グループ活動）とそのふりかえり、ディスカッション、講義 体験（実習）からの学びが中心ですので、出席と参加度を重視します
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 体験学習の体験	授業についての説明 体験学習についての説明 ミニ実習	
2	体験学習①	情報誌を使った実習とふりかえり	授業での学びをまとめる
3	体験学習のサイクル	講義	この授業での自身の目標を決める 学んだことをまとめる
4	体験学習②	コミュニケーションに関する実習	体験での学びをまとめる
5	コミュニケーションについて	講義	学んだことをまとめる
6	体験学習③	「聴く」実習	体験での学びをまとめる
7	ジョハリの窓とフィードバックについて	講義	学んだことをまとめる
8	体験学習④	コンセンサス実習① （正解のある課題）	体験での学びをまとめる
9	グループにおける合意形成について	講義	学んだことをまとめる
10	体験学習⑤	コンセンサス実習② （正解のない課題）	体験での学びをまとめる
11	体験学習⑥	POPO（グループを観察する）	体験での学びをまとめる
12	ファシリテーション、リーダーシップについて	講義	学んだことをまとめる
13	体験学習⑦	活動的な実習	体験での学びをまとめる
14	ふりかえり	これまでの授業で学んだことをグループごとにふりかえる	ミニレポート
15	まとめ	授業全体のまとめ、ふりかえり 今後にどう生かすか	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間関係トレーニング	津村俊充・山口真人編	ナカニシヤ出版
2	プロセスエデュケーション	津村俊充	金子書房
3			

評価方法（基準）	実習参加態度（30%）、課題（20%）、期末レポート（50%）
学生へのメッセージ	さまざまな活動を通し、自分自身について、これからの生き方について考えるきっかけになる授業だと思います。自ら学び、学び方を学ぶ授業です。いつもと違う自分を試してみたい、何かチャレンジしてみたいという人にはおすすめです。
担当者の研究室等	教員室２（寝屋川キャンパス２号館２階）
備考	

科目名	大学教養入門	科目名（英文）	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂口　有芸.加野　佑弥.中澤　芽衣.松本　恭幸
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,J 科：JKY1357a1,W 科：WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です．本科目の目的は，大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり，自らが主体的に知識を獲得し，対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得することです．授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに，チームワーク能力，コミュニケーション能力等を身につけることを目指します．
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている． (2)ABD による読書法を身につけている． (3)チームワーク能力を身につけ，対話を通じた協働学習をすることができる． (4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている． (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている． (6)コミュニケーション能力を身につけ，自分の考えを相手に伝え，相手の考えを理解することができる． (7)自主的，計画的に学ぶ学習習慣を身につけている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術を修得します．教養の入門書として一般書を教材として，ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や ICT ツールを活用して，読書，対話，発表等の協働学習による学びを体験します．この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です．したがって，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識，ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法，自主学習の習慣などが身につく． 学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章　私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で，どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験	事前学習：『おとなの教養』　序章を読む(1.5 時間以上)
2	教養入門：第一章　宗教	教科書の紹介，概要 チーム作り，授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習：教科書　第一章を読む(1.5 時間以上)
3	教養入門:第三章　人類の旅路	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：教科書　第三章を読む(1.5 時間以上)
4	教養入門:第四章　人間と病気	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
5	教養入門：第五章　経済	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書　第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（1 時間以上） 事後学習：第１回レポートト（0.5 時間以上）
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：SDGs とは何か,指定した資料を調べる（1.5 時間以上）
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：SDG s とは何か，図書館，ネット等で調べる．自分の意見を持つ．(1.5 時間以上)
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：UNAI とは何かを調べる（1.0 時間以上） 後学習：第２回レポート（0.5 時間以上）
10	自分を知る教養：岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章　「性格は変わらない」は本当か？ 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する（1.5 時間以上）
11	自分を知る教養： 第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第二章を読み事前学習シートを作成する（1.5 時間以上）
12	自分を知る教養： 第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第三章を読み事前学習シートを作成する（1.5 時間以上）
13	自分を知る教養： 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書　第四章を読み事前学習シートを作成する（1.5 時間以上）
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（1 時間以上） 後学習：第３回レポート

				（0.5 時間以上）
	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（1.5 時間以上）

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

・授業への取り組み・ディスカッション 15%
・プレゼン相互評価・グループポスター 15%
・レポート 15%
・振り返りシート・個人ポスター・メモ 20%
・クイズ 15%
・事前学習シート 15%
・ファイリング 5%

以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，原則として出席率 80%以上の学生を合格者の対象とする．

学生への
メッセージ

この科目は摂南大学独自の教養科目です．授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の
研究室等

【寝屋川キャンパス】
坂口有芸（７号館５F），加野　佑弥（７号館５F），中澤芽衣（３号館３F），松本恭幸（３号館３F）

備考

この科目は，入学式～キックオフセミナーからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています．また，学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます．

科目名	大学教養実践	科目名（英文）	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新居　英志.加野　佑弥.坂口　有芸.森　亜貴.米本　涼
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1		

授業概要・目的	この科目は，チームで協働して読書を行い，プレゼンテーションと対話を通じて，学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です．前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです． 本科目の目的は，大学生として必要な教養として，文学，社会学や経済学の入門的知識を身につけ，その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します．そして，知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します．
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ，実践的に討議することができている． (2)ABD による読書法の基礎（要約，プレゼンテーション，対話）を身に付けている． (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる． (4)チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている． (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる． (6)テーマにそった対話（感想，質疑応答）を行うことができる． (7)自主学習の習慣を身に付けている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．大学生として必要な教養を身につけ，身につけた教養，知識をもとに，社会課題の解決策を協働学習により検討します．この科目では，これまでの授業とは異なり，教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき,それを元に社会課題について討議できる．ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABD とは） 協働学習（p.18-47：要約，プレゼン，対話），振り返りシート	『おとなの教養２』序章を読み，事前学習シートを作成する。
2	私たちはいま、どこにいるのか？： 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け，役割分担，確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書第一章を読み，事前学習シートを作成する．
3	私たちはいま、どこにいるのか？： 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
4	私たちはいま、どこにいるのか？： 第三章「想像の共同体」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 投票と表彰，振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する． ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表１回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	教科書第四章～六章を読み，事前学習シートを作成する． 事後学習：第１回レポート
6	説明力を鍛えるヒント： 第一章「間違いだらけの数学観」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	『数学的思考法』第一章を読み，事前学習シートを作成する．
7	説明力を鍛えるヒント： 第二章「試行錯誤という思考法」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
8	説明力を鍛えるヒント： 第三章「数学的思考のヒント」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する．
9	説明力を鍛えるヒント： 第四章「論理的な説明の鍵」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み，事前学習シートを作成する．
10	説明力を鍛えるヒント 中間発表２回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度） 事後学習：第２回レポート
11	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	『星の王子さま』1～10 章を読み，事前学習シート（要約、感想）を作成する（2 時間程度）
12	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 11～20 章を読み，事前学習シートを作成する
13	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 21～27 章を読み，事前学習シートを作成する
14	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話）	教科書あとがきを読み，事前学習シートを作成する

			QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	
	15	教養として文学作品に触れる：中間発表３回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度） 事後学習：第３回レポート

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養 2	池上彰	NHK 出版
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
3	数学的思考法―説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

・授業への取り組み 15%
・プレゼン 15%
・レポート 20%
・振り返りシート 15%
・クイズ 15%
・事前学習シート 15%
・ファイリング 5%

以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，成績評価の対象は原則として出席率 80%以上の学生とする．

学生への メッセージ	この授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎，コミュニケーション力，ファシリテーション力，と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸(7 号館５F），新居英志(7 号館 5F），森亜貴(2 号館 2F ラーニングセンター)．加野佑弥（７号館５階），米本研究室（７号館５階）
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．この授業は原則的に対面で実施します．やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします．

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。 講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういった経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聞き理解を深めます。特に苦手な学生は予習・復習を確実に行い、疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解（文章読解） 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス　7 号館 3 階　全学教育機構
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。 講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験（SPI や玉手箱等の総合適性検査）対応力をつけるために、予習・復習を確実に行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解（文章読解） 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス　7 号館 3 階　全学教育機構
備考	

科目名	エリアスタディーズ　北アメリカ	科目名（英文）	Area Studies: North America
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1568a0		

授業概要・目的	アメリカ合衆国とカナダが位置する北アメリカ地域の歴史、政治経済、社会文化について多角的、学際的に学ぶ授業です。国際学部のディプロマ・ポリシーのうち、主として「国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている」の部分の基礎をつくる科目であり、教職課程における「異文化理解」区分の選択科目でもあります。 人種問題、移民問題、銃規制問題、同性婚問題、医療問題など、日本語によるニュース報道も多く比較的身近なアメリカ合衆国の時事問題をとりあげ、それら諸問題の背景を深く掘り下げる形で、まずはアメリカ合衆国の歴史、政治経済、社会文化についての知識と理解を身につけます。続いて、カナダとの対比や日本との関係を視野にいれた学びを進めます。学期終盤には、特定のトピックをより深く掘り下げながら学習内容を振り返る総合演習を行います。
到達目標	（1）アメリカ合衆国とカナダの歴史、政治経済、社会文化の特徴について、具体例を挙げて対比しながら説明することができる。 （2）北アメリカ地域の事例を通じて、多様な文化背景と価値観を持つ人々の共生について批判的に思考し、日本社会における多文化共生についても当事者意識を持ち、事実に基づいた意見を交換できるようになる。
授業方法と留意点	・受講生があらかじめ指示された動画や文献資料を参照しておき、教室では講義ではなく、グループワークや質疑応答、内容確認の小テスト等を行う授業形式、いわゆる「反転授業」を取り入れた授業を行います。15 回すべて反転授業をするわけではありませんが、毎週、十分な予習・復習時間とインターネットにつながった PC が使用できる環境を確保すること、準備をした上で授業に出席し、積極的な発言（Teams への投稿による文章での発言を含む）をすることが必要です。 ・予習、復習時はもちろん、授業時間中も Teams と Moodle を常時活用します。これらのツールには早いうちに十分に習熟し、通信環境や機器に不足がある人はそれを整え、操作に必要な技能と知識を身につけて下さい。可能な人はノート PC やタブレットを教室に持ち込んでください。ノート PC の持ち込みが無理な人は、十分に充電されたスマートフォンとノートや筆記用具を持ち込んで下さい。 ・スマートフォンは、受け身の姿勢での動画視聴や簡単な用語の検索には向いていますが、画面が小さく同時に二つのアプリを参照することには向きません。大学レベルの授業内容について、複数の資料を同時に参照したり、資料を見ながらコメントを書くといった、自分の頭を使った能動的な作業をすることには向きません。パソコンまたはタブレットを教室に持ち込むことができない人は、文字資料は自分で印刷して教室に持ち込む必要がありますし、メモやノートは紙に書いて、後でタイピングしてコメント投稿する作業が求められます。 ・グループワークでは自分の担当部分に責任を持ち、学生同士、互いに敬意を持って教えあうこと。わからないことは放置せず、教員に質問すること。 ・15 回の授業スケジュールと中身は、例年、受講生の皆さんと相談しながら多少の変動があります。Teams, Moodle へ常時アクセスし、教員からのアナウンスを見逃さないようにする必要があります。 ・学期中可能な場合には、北米地域の出身者や滞在経験者をゲストスピーカーとして招き、受講生との質疑を行います。 ・毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とします。
科目学習の効果（資格）	海外での研修や留学に際して、また国内での異文化交流に際して必要となる時事問題知識、一般常識、国際感覚。高度な英語力を身に着けるための基盤となる英語圏の社会についての基礎知識。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容・方法説明	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
2	アメリカの歴史１　建国期	あれほど乱射事件が起きているのにアメリカで銃規制が難しいのはなんで？：植民地時代、独立戦争までさかのぼって考える。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
3	アメリカの歴史２　領土拡張と奴隷制	アメリカで銃規制が難しいのはなぜか？その２：領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
4	アメリカの歴史３　南北戦争の原因と結果	アメリカの人種問題の原点：民主主義の拡大と領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
5	アメリカの地理１　北部・南部	「アメリカ南部」とは？アメリカの南のほう？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
6	アメリカの地理２　中西部	ニュースでよく見る「アメリカ中西部のラストベルト」とは？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
7	アメリカの歴史４　第二次世界大戦	今のアメリカ人は「昔、日本に原爆落としたのは悪かった」と思っているのか？：日米における戦争と原爆の記憶	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
8	アメリカの民族１　ヨーロッパ系	WASP?ユダヤ系？イタリア系？みんな「白人」じゃないの？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
9	アメリカの民族２　アジア系	日本人も差別される？アジア系はみんな成功している？「モデルマイノリティ」とは？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(2 時間程度)
10	アメリカの民族３　ラティノ／ヒスパニック	中南米系、「ラティンクス」といった呼ばれ方もする移民グループ。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
11	アメリカの宗教	個人の自由を大切にしているはずのアメリカで、妊娠中絶や同性愛がなぜあれほど大きな政治問題なのか	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
12	アメリカとカナダ	カナダはアメリカと同じような国か？実は、けっこう違います。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(2 時間程度)
13	日米関係	日米安保破棄という可能性を真面目に考えてみましょう。→「日米における原爆投下の歴史記憶」にテーマ変更の可能性あり。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）

	14	まとめ１　アメリカの進歩と分断	「進歩」と「分断」のキーワードでこれまで学んだ内容を整理してみましょう。	ここまでの全ての資料やノートにあらためて目を通し、まとめ課題に取り組み始める。(5時間程度)
	15	まとめ２	まとめ課題についての質疑応答を通じ、全体を振り返ります。	もしも質疑の時間が足りなければアポイントをとって研究室へ

関連科目	英語圏比較文化論、グローバルスタディーズ(英語と諸地域)、地域研究プロジェクト(英語と諸地域) ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点７０％（平常のMoodle小テスト、Teams投稿、グループ課題、口頭での質疑参加による評価の合計） まとめ&振り返りフォーム課題３０％（平常の自身のTeams投稿、小レポートや小テスト、グループワーク課題を見直し、ファクトチェックをして整理したものを学期末に提出）
学生への メッセージ	アメリカ合衆国やカナダは実に面白い国です。決して「楽」な授業にはしませんが、アメリカ、北米地域のことを知りたい学生には「楽しい」授業にしたいです。一緒にがんばりましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階鳥居研究室
備考	

科目名	エリアスタディーズ　ラテンアメリカ	科目名（英文）	Area Studies: Latin America
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田　豪
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1569a0		

授業概要・目的	日本から遠く離れていながらも，実は関係が深かったりするラテンアメリカ地域に関する基礎知識の獲得を目的とした授業です． 授業では，地図上の位置といった初歩な事項の確認から始まり，「ラテン」アメリカが形成されるまでの歴史，その歴史から生じた社会問題などを見ていきます．
到達目標	①ラテンアメリカ地域の特徴を少なくとも一つ述べることが出来る ②日本や私たちの生活とラテンアメリカとの関連性を少なくとも一つ指摘できる． ③ラテンアメリカ地域の抱える課題を理解し，説明することが出来る．
授業方法と留意点	授業内では次回までの課題（講読や簡単なリサーチ）を指示することがあります．必ず準備して授業に臨むようにしてください． 授業で興味・関心をもったことや質問などを毎回リアクションペーパーに記入し，Teams を通じて提出してもらいます．提出されたリアクションペーパーへの回答やコメントは次の授業で行います． リアクションペーパー以外でも，Teams を利用した双方向性のある授業を行いたいと考えています．詳しくは初回授業で説明します．
科目学習の効果（資格）	言語（スペイン語）が使われている地域に対する関心を深めることで，言語学習へのモチベーション増大や，関連知識による言語習得促進が期待できます．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方などのガイダンス	シラバスをよく読むこと（1 時間）． 出された課題に取り組むこと（2 時間）．
2	ラテンアメリカの地理	主要な国の確認 地域名称の由来	地図でラテンアメリカ地域を確認しておくこと（1 時間） 出された課題に取り組むこと（2 時間）
3	「ラテンアメリカ」以前の「古代」文明期	ラテンアメリカに残る世界遺産（文化遺産） インカ・マヤ・アステカなどの先住民による古代文明	ラテンアメリカの世界遺産について調べること（2 時間） 出された課題に取り組むこと（2 時間）
4	アメリカ大陸の「発見」？	ヨーロッパ人による征服過程 歴史認識をめぐる論争	「新」大陸発見までの過程などを調べること（2 時間） 出された課題に取り組むこと（2 時間）
5	ラテンアメリカの食文化	世界に広がったラテンアメリカ発の食材・食文化	ラテンアメリカ各国の料理を調べること（2 時間） 出された課題に取り組むこと（2 時間）
6	ラテンアメリカ諸国の成立	各国独立過程の概観	ラテンアメリカ諸国の独立について調べること（2 時間） 出された課題に取り組むこと（2 時間）
7	独立後のラテンアメリカ	20 世紀初頭のラテンアメリカの状況	指示された資料を読み込んでおくこと（2 時間） 出された課題に取り組むこと（2 時間）
8	ラテンアメリカ社会の特徴	ラテンアメリカ社会の多様性について	指示された資料を読み込んでおくこと（2 時間） 出された課題に取り組むこと（2 時間）
9	ラテンアメリカの模索	第二次世界大戦後のラテンアメリカの政治・経済	ラテンアメリカ諸国の経済指標を調べ，考察すること（2 時間） ここまで学んだラテンアメリカの歴史について復習すること（2 時間）
10	世界の中のラテンアメリカ	ここまでの授業内容の小括	ラテンアメリカの歴史を振り返り，自身の興味・関心を考えること（3 時間） 出された課題に取り組むこと（2 時間）
11	現在のラテンアメリカ①：継続される模索	地域統合や反グローバリゼーション運動の紹介	国際ニュースを講読・視聴し，ラテンアメリカ関連のものがないか確かめること（2 時間） ニュース内容と授業内容の関連性を考察すること（2 時間）
12	現在のラテンアメリカ②：拡大する混乱	国内政治・社会で生じている問題	国際ニュースを講読・視聴し，ラテンアメリカ関連のものがないか確かめること（2 時間） 出された課題に取り組むこと（2 時間）
13	もう一つのアメリカ	アメリカ合衆国とラテンアメリカの関係	国際ニュースを講読・視聴し，ラテンアメリカ関連のものがないか確かめること（2 時間） 出された課題に取り組むこと（2 時間）
14	ラテンアメリカと日本	移住と日系社会	日系人について調べておくこと（2 時間） 授業内容を振り返り，自分のラテンアメリカに対する興味・関心の変化を観察すること（2 時間）
15	おわりに	課題レポートに対するフィードバック 授業全体の総括	期日までに課題レポートを提出すること（3 時間） 授業でのフィードバックおよび総括を復習しておくこと（2 時間）

関連科目：スペイン語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	リアクションペーパー：30% 事前準備・理解度確認のための課題：40% 課題レポート：30%
学生への メッセージ	陽気なイメージが強い地域かもしれませんが，常に発展のための模索を続け，様々な課題に取り組み続けるといった歴史・傾向を持つ地域でもあります．ラテンアメリカから学べる事は決して少なくないはずです．
担当者の 研究室等	
備考	この授業では，リアクションペーパーや課題を Forms を通じて実施する予定です．

科目名	エリアスタディーズ　東アジア	科目名（英文）	Area Studies: East Asia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都　晶子.田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1570a0		

授業概要・目的	中国と韓国の社会と文化の概要を学び、東アジア地域への理解を深める。
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要を理解することができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。 第1、2、4、6、8、10、12、14、15回は中国、第3、5、7、9、11、13回は韓国を対象とし、レジュメ・資料を配布し、映像資料も用います。
科目学習の効果（資格）	日本を含む東アジア地域に対する理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【中国】導入:中国とは？(小都)	中国の民族・人口、地理・食、言語について、地図を使って学ぶ。	配布資料の復習（事後）(1時間)
2	【中国】華北（小都）	北京を取り上げて、華北地域の社会と文化を学ぶ。また中国政治の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）(各1時間)
3	【韓国】韓国新聞についての基礎知識（田中）	韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事後)(1時間)
4	【中国】華東（小都）	上海を取り上げて、華東地域の社会と文化を学ぶ。また中国社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）(各1時間)
5	【韓国】韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（1）（田中）	記事の輪読と解説:現代社会の諸相（1）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)(各1時間)
6	【中国】華中（小都）	中原の歴史や中華思想について学び、漢民族社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）(各1時間)
7	【韓国】韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（2）（田中）	記事の輪読と解説:現代社会の諸相（2）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)(各1時間)
8	【中国】西南・西北（小都）	中国の少数民族地域の社会と文化について学び、その特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）(各1時間)
9	【韓国】韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（3）（田中）	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（1）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)(各1時間)
10	【中国】華南（小都）	広州を取り上げて、華南地域の社会と文化を学ぶ。また香港・マカオの社会と文化を学び、一国二制度について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）(各1時間)
11	【韓国】韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（4）（田中）	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（2）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)(各1時間)
12	【中国】台湾（小都）	台湾の社会と文化を学び、中国・台湾と日本の関係を考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）(各1時間)
13	【韓国】韓国社会を読み解くための補助線（田中）	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)(各1時間)
14	【中国】華僑・華人（小都）	世界と日本の華僑・華人について学ぶ。	配布資料の予習・復習（事前および事後）(各1時間)
15	【中国】中国パートのまとめと確認テスト（小都）	これまでの中国パートの内容のまとめと確認テスト	中国パートの内容を復習して、確認テストに備える（事前）(4時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中国パート（60%）、韓国パート（40%）を合算して評価します。 中国パート（第1、2、4、6、8、10、12、14、15回）については、授業内で実施する課題および確認テストによって評価します。 韓国パート（第3、5、7、9、11、13回）については、授業内で指示する課題への取り組み（提出状況および内容）に基づいて評価します。
学生へのメッセージ	東アジアに関する基礎的な知識を身につけ、自分が暮らす世界への理解を広げてください。
担当者の研究室等	小都研究室（7号館3階）・田中研究室（7号館4階）
備考	授業の進行スケジュールについては、出席者の状況に応じて調整する可能性があります。

科目名	エリアスタディーズ　西アジア・南アジア	科目名（英文）	Area Studies: West and South Asia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹村　嘉晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1571a0		

授業概要・目的	南アジア地域の国々（インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、マルディヴなど）は、インドの王朝による支配を受け、その後はイギリス植民地（インド帝国）として支配されるという歴史的・文化的経験を共有していることから、インド世界と称されることがしばしばある。本講義では、インドに基軸をおきながら、その複合的社会における人びとの暮らしや社会変容の動態を歴史的かつ多面的に捉え、現代の南アジア地域に対する理解を深めることを目的とする。
到達目標	1）われわれが生きる同時代の問題として、南アジア地域の諸相とグローバル世界との接合をとらえ、政治・経済・社会・文化・宗教・生活世界といった多様な側面と関連づけながら、その特性を総合的に理解することを目指す。 2）授業内での発言や質疑および小論文などの課題を通じて、複眼的かつ論理的に思考・解明する力や情報リテラシー能力、ならびに発進力を養う。
授業方法と留意点	本授業は講義形式で行い、授業の理解を助けるためにスライドや音響・映像資料を用いる。 受講者には毎回リアクションペーパーの提出を課し、コメントや質問を求める。リアクション・ペーパーのフィードバックや内容の確認は、次回の授業時に冒頭で取り上げて解説する。 受講者には積極的な参加姿勢を求め、質問や意見を頻繁に尋ねる。各講義の中で取り上げた問題や事象について、自ら問いや疑問を立て、批判的思考を学び、自らの意見をまとめてノートにとる訓練をしてもらいたい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の目的、内容、授業の進め方などについて説明する。	シラバスを読んでおくこと
2	南アジアの暮らしと社会:多民族・多宗教・多言語	多様性と変化	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
3	南アジアの暮らしと食:ファスト・フードとスーパー・フード	ファスト・フード、ストリート・フード、アーユルヴェーダ、菜食主義	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
4	南アジアの暮らしと食:宗教と食	食のタブー	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
5	南アジアの暮らしと衣:サリーとジェンダー	ファッションがつくるインド	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
6	南アジアの暮らしと衣:ファスト・ファッションと労働環境	「ラナ・プラザの悲劇」	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
7	南アジアの暮らしと信仰:ヒンドゥー教とカースト制度	多宗教社会のなかのヒンドウー教	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
8	南アジアの暮らしと信仰:不可触民と留保政策	差別と優遇をめぐる問題	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
9	学外演習 国立民族学博物館の南アジア展示を巡る	モノからみる南アジア世界	学外演習の課題を事前に配布するので予習しておくこと
10	学外演習 国立民族学博物館の西アジア展示を巡る	モノからみる西アジア世界	学外演習の課題を事前に配布するので予習しておくこと
11	南アジアの暮らしとつながり：婚姻・家族・親族の多様性	現代社会における家族形態の変容	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
12	南アジアの暮らしとつながり：生殖と科学技術	生まれることをめぐる問題	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
13	グローバリゼーションと南アジア文化:逆輸入したヨーガ	ヨーガの隆盛とソフト・パワー	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
14	グローバリゼーションと南アジア文化:印流ブームの到来？!	グローバルに浸透するインド映画の動向	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
15	まとめと授業内試験	学習到達度の確認と論述試験	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代インドを知るための 60 章	広瀬崇子・近藤正規・井上恭子・南埜猛編	明石書店
2	ようこそ南アジア世界へ	石坂晋哉・宇根義己・舟橋健太編	昭和堂
3	新版インドを知る事典	山下博司・岡光信子	東京堂出版

評価方法（基準）	平常点で総合的に評価する。 平常点の内訳は、授業への参加姿勢が 30%（2/3 以上の出席とリアクション・ペーパーの提出、質問・コメントなど積極的な発言）、課題の提出が 30%（授業内容に関連した小論文の提出、南アジアに関する小説の書評または映画評）、授業内記述試験が 40%（学期末に複数の設問から選択に

	よる論述）で評価する。
学生へのメッセージ	日頃からニュース、新聞、ネットなどで南アジアや西アジアに関する記事に目を向け、現在の社会情勢に触れてもらいたい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後の学習時間の目安は計 60 時間。

科目名	エリアスタディーズ　東南アジア	科目名（英文）	Area Studies: Southeast Asia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田　達.渡辺　彩加
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1572a0		

授業概要・目的	東南アジアを大陸部と島嶼部に大別して、それぞれの地域における各国の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。大陸部を渡辺、島嶼部を上田が担当する。
到達目標	＊東南アジアについての基礎的な知識を習得する。 ＊東南アジアに関する報道に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。
授業方法と留意点	＊講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 ＊受講者にはペーパー等で適宜コメントや質問を求める。次回授業冒頭で取り上げて解説する。 ＊話をただ聞きながらではなく、自分で考えながらノートをとること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。（上田・渡辺）	紹介する資料を参照すること。
2	東南アジア（大陸部）の国々	自然環境、民族、宗教（渡辺）	紹介する資料を参照すること。
3	東南アジア（大陸部）の宗教	仏教の広がりとその受容・発展（渡辺）	紹介する資料を参照すること。
4	東南アジア（大陸部）の歴史	国家形成、植民地支配と独立（渡辺）	紹介する資料を参照すること。
5	東南アジア（大陸部）の国々――ベトナム	ベトナム・カンボジア・ラオス ベトナム戦争、内戦（渡辺）	紹介する資料を参照すること。
6	東南アジア（大陸部）の国々――タイ	タイ 観光、多民族（渡辺）	紹介する資料を参照すること。
7	東南アジア（大陸部）の国々――ミャンマー	ミャンマー 宗教、多民族（渡辺）	紹介する資料を参照すること。
8	東南アジア（大陸部）のまとめ	前半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。（渡辺）	到達度の確認課題のために学修事項を復習すること。
9	東南アジア（島嶼部）の国々	自然環境、民族、宗教（上田）	紹介する資料を参照すること。
10	東南アジア（島嶼部）の宗教	イスラームとキリスト教の広がり（上田）	紹介する資料を参照すること。
11	東南アジア（島嶼部）の歴史	植民地支配と独立（上田）	紹介する資料を参照すること。
12	東南アジア（島嶼部）の国々――マレーシア	マレーシア（上田）	紹介する資料を参照すること。
13	東南アジア（島嶼部）の国々――インドネシア	インドネシア（上田）	紹介する資料を参照すること。
14	東南アジア（島嶼部）の国々――東ティモール	東ティモール（上田）	紹介する資料を参照すること。
15	東南アジア（島嶼部）のまとめ	後半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。（上田）	到達度の確認課題のために学修事項を復習すること。

関連科目	東南アジアに関連するすべての講義科目 他地域のエリアスタディーズ科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	東南アジアを知る事典	桃木至朗他編	平凡社
2	入門　東南アジア近現代史	岩崎育夫	講談社
3	東南アジア文化事典	信田敏宏編	丸善出版

評価方法（基準）	前半と後半のそれぞれについて、次の観点から評価する。 ＊平常点　40%　　（授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する） ＊到達度の確認を問う課題　　60%　（授業期間中に行う）
学生へのメッセージ	東南アジアのことをともに学びましょう！
担当者の研究室等	７号館５階上田研究室 ７号館２階（非常勤講師室）
備考	＊受講者数等によって、評価方法を変更することがある。初回授業時に指示するので必ず出席すること。 ＊質問は原則として授業中に受け付ける。 ＊事前事後学習時間は、60 時間以上とする。

科目名	エリアスタディーズ　アフリカ	科目名（英文）	Area Studies: Africa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林　耕次
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1573a0		

授業概要・目的	アフリカについてまったく何も知らないという人はいないと思います。みなさんはそれぞれに、アフリカにかんして何らかのイメージや知識をもっています。では、みなさんがもっているアフリカについてのイメージや知識とは、どのようなものでしょうか。それらはどこでどのように得られたものでしょうか。 本授業では、アフリカのさまざまなトピック（自然、歴史、文化、言語、現代的問題）について、実際に現地で人びとがどんな暮らしをしているのか、どんな問題に直面しているのか、具体的に学んでいきます。一般にわたしたちのよく知っているアフリカ（たとえば紛争や貧困、開発支援など）の問題を、より具体的に、現地の人たちの視点から見ていくと、わたしたちのあまり知らないアフリカ（伝統の変化、紛争の現実、仕事の仕方、助け合いの方法など）が見えてきます。 本授業では、アフリカの外からアフリカの問題を考えるのではなく、アフリカの中からアフリカの問題や世界の問題を考えることを目指します。
到達目標	・自分が知っているアフリカのイメージや知識について理解する。 ・アフリカの人びとの実際の生活や現地の実態について理解する。 ・以上を踏まえたうえで、「アフリカとどのように関わることができるか」について考え、自分なりの答えを出す。 ・「アフリカから世界を見ると、どのような問題が見えてくるのか」考え、自分なりの答えを出す。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題(小テスト等)に対しては解説を行う。また、遠隔授業で実施する場合には Moodle を授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。 履修者の人数、関心、理解度などに応じて、シラバスの内容を一部修正する場合があります。
科目学習の効果（資格）	・異文化理解に役立つ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・今後の授業内容の概要 ・履修者の興味関心の確認 ・講師の紹介	【事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
2	アフリカのイメージ	日本で入手できるアフリカの情報（ニュース、文化、モノなど）を紹介しながら、アフリカに対するイメージ、自分との距離などを考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
3	自然環境（１）	アフリカ大陸にみられる各地の自然環境の特徴を学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
4	自然環境（２）	生業（農耕と牧畜、狩猟採集）をとおして、自然環境に根差した人びとの文化について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
5	アフリカの歴史（１）	アフリカで勃興した王国と、その繁栄を支えた交易について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
6	アフリカの歴史（２）	太平洋奴隷交易と植民地支配について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
7	アフリカの歴史（３）	独立後の政治・社会的混迷と、その後の成長について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
8	小テストと解説	第1回～第7回までの内容に関する理解の確認をおこなう。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
9	食文化	各地の特色をまとめるとともに、食文化について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
10	言語と国家	言語の多様性とともに、国家のなかにいきる民族の関係について考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
11	複数の宗教	キリスト教やイスラム教だけでなく、それらと在来宗教が共存している状況を学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
12	都市の経済	アフリカの都市部における小規模ビジネスとお金の使い方について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
13	農村の経済	農村開発について、どうすれば人びとの生活の向上に貢献できるかを考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
14	開発とビジネスパートナー	日本がアフリカで実施している支援事業や経済協力について学ぶ。	【事前・事後】これまでの授業内容を振り返り、試験勉強をすること。
15	小テストと総括	第 9 回～第 14 回までの内容に関する理解の確認をおこなう。試験の解説をもとに、これまでの授業を振り返り総括する。	【事前・事後】試験の結果をもとに、復習をすること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アフリカ社会を学ぶ人のために	松田素二 編	世界思想社
2	ようこそアフリカ世界へ	遠藤貢・阪本拓人 編	昭和堂

	3	アフリカで学ぶ文化人類学	石田慎一郎・橋本栄莉ほか編	昭和堂
評価方法 （基準）	①コメントシート：30% ②小テスト：40% ②学習の到達度を測る課題：30%			
学生への メッセージ	授業前後に参考文献に目を通し、講義内容の理解を深めるようにしてください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室			
備考	参考文献は上記のほか、適宜授業中に紹介します。 授業時間外に質問等をする場合は、授業時間の前後に 7 号館 2 階（非常勤講師室）に来てください。 事前事後の総学習時間の目安は 60 時間。			

科目名	エリアスタディーズ　ヨーロッパ	科目名（英文）	Area Studies: Europe
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1574a0		

授業概要・目的	現代のヨーロッパを理解するために、3 つの地域（フランス、イギリス、ベルギー）に焦点をあて、多角的な観点からそれぞれの地域が抱える特徴的な問題を考察する。フランスにおいては、フランス革命から始まる共和政について理解し、ナショナリズムと政教分離（ライシテ）の問題から、国家における多様性と共存のあり方について検討する。イギリスについては、産業革命による社会の近代化、そしてヴィクトリア時代の文化の形成を踏まえたうえで、ジェンダーについて検討する。そして、ヨーロッパの十字路、ヨーロッパの見える国とされるベルギーに焦点を当て、国家の成立、文化的アイデンティティ、言語の問題などを検討し、現在ヨーロッパについて考察する。今日にも関わる重要な問題を、歴史の視点を含めて考察することで、グローバルな視点で国際社会の多様性を理解し、人文・社会的知識を習得し、思考力と判断力に基づいて問題を発見する力を養う。
到達目標	フランス、イギリス、ベルギーの歴史やそれぞの地域が抱える諸問題を理解するとともに、そうしたことが現代社会にどのような影響を与えているかを説明することができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。 パワーポイントによる授業を行い、それに関するレジュメ・資料を配布する。また、適宜、その他参考となる資料も配布する。 授業登録者が多かった場合は、Teams にアップしたレジュメを事前に各自がダウンロードや印刷するようにする。
科目学習の効果（資格）	フランス、イギリス、ベルギーの歴史と地域の特徴をめぐる学習を通じて、現代のヨーロッパ世界を深部から理解できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	現代のヨーロッパ	・現代のヨーロッパ ・フランス、イギリス、ドイツの特徴	事前に、現代ヨーロッパを地図で確認するとともに、フランス、イギリス、ドイツのイメージについて書きだす。授業後は、それぞれの地域の特徴について整理する。
2	ヨーロッパの君主国と共和国	・ヨーロッパの国々の特徴を知る	事前：ヨーロッパの各国が君主国か、共和国かを調べる 事後：情報を整理する
3	イングランドの宗教と君主の歴史	イギリスにおける女性君主	事前に、イギリス人女性について思い浮かぶ人を調る 事後；授業後はそれに関して考察する。
4	イギリスの君主と政治	・イギリスの政治の基本 ・王室の存在	事前：現在のイギリスについて、イメージすることを考えてくる。
5	帝国としてのイギリス	・イギリスの発展 ・コモンウェルス	事前：イギリスの旧植民地について調べてくる 事後：情報を整理する
6	イギリスの諸問題	・イギリスと移民 ・スコットランドやアイルランドとの関係	事前；アイルランドについて調べてくる 事後：これまでの授業をふりかえる
7	フランスの旧体制	・フランスの歴史 ・フランスの君主	事前：フランスの歴史について調べてくる 事後：フランスの歴史の特徴を整理する
8	共和国フランス	・啓蒙思想 ・フランス革命	事前；フランス革命について調べてくる 事後："共和国"とは何かについて考える
9	フランスにおける政教分離	・第三共和政期のフランスの政策	事後：政治と宗教の在り方について考える
10	フランスの移民	・フランスの移民の歴史	事前；現在のフランスのナショナルチームについて調べてくる
11	現在フランスの諸問題	・フランスにおける公共 ・スカーフ問題	事後：これまでのフランスの内容を整理する
12	ベルギーの歴史	・ベルギーという国ができるまでの歴史 ・ベルギー王国の成立	事前；ベルギーのイメージを書き出す
13	ベルギーの言語問題	・公用語をめぐる制度の歴史と諸論争	事後：ベルギーの言語事情と各国の言語事情を比較する
14	ベルギーの諸問題	・現在のベルギーやヨーロッパに関する諸問題	事後：これまでのベルギーに関する内容をふりかえる
15	総括	・これまでの授業をまとめ、現代ヨーロッパの諸問題について考察する。	事前：授業で扱った内容全体を復習する。 事後：現代のヨーロッパないし日本が抱える問題とも比較する。

関連科目	共同体論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶ西洋史［近現代］	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題と小レポート（30%）、小テスト（１0%）、最終テスト（60%）
学生へのメッセージ	ヨーロッパのフランス、イギリス、ベルギーについて見ていきます。それぞれ特徴的なこともあれば、共通することもあり、こうした地域の持つ問題の多くは、現代の日本社会ともかかわってきます。日々の世界のニュースにも関心を持ち、授業に取り組んでください。
担当者の研究室等	7 号館 4 階加来研究室
備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。

科目名	エリアスタディーズ　オセアニア	科目名（英文）	Area Studies: Oceania
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フリッツ　ミキ
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1575a0		

授業概要・目的	オセアニアは、オーストラリアやニュージーランドだけでなく、小さな島嶼国（とうしょこく）と呼ばれる島国が数多く存在する地域であり、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアという３つの地域によっても異なる特色をもつ。特に大陸からの離散性という特徴から、様々な伝統的習慣や文化を色濃く残している点も特徴的である。こうした様々な地域のオセアニアの歴史、経済、教育、文化などを概観することで、この地域の特色や実態を理解する。また、歴史的に日本とのつながりも強い地域であり、「日本とのつながり」という観点からこの地域を学び、理解を深めることも目的とする。
到達目標	・オセアニアという地域の特徴を理解する ・オセアニア地域の歴史、経済、教育、文化などについて理解する ・オセアニア地域と日本のつながりについて理解する
授業方法と留意点	講義による知識の習得と、その中でペアワーク、グループワークやディスカッションを通し、知識を深めたり、共有する。 また、特に関心をもった国やトピックについてプレゼンテーションを実施してもらう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	このクラスの説明、自己紹介、オセアニア地域の導入	次回授業の予習
2	オセアニアについての概要	オセアニアの成り立ち、地理的、文化的、社会的概要を学ぶ	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
3	オーストラリアについて	オーストラリアの歴史、経済、社会状況等について理解を深める	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
4	ニュージーランドについて	ニュージーランドの歴史、経済、社会状況等について理解を深める	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
5	ポリネシア地域について	ポリネシア地域の歴史、経済、社会状況等について理解を深め、この地域の島嶼国の特徴を捉える	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
6	メラネシア地域について	メラネシア地域の歴史、経済、社会状況等についての理解を深め、この地域の島嶼国の特徴を捉える	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
7	ミクロネシア地域について	ミクロネシア地域の歴史、経済、社会状況等についての理解を深め、この地域の島嶼国の特徴を捉える	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
8	日本とのつながり（１） 核実験	マーシャル諸島で実施された核実験について理解を深め、核被害の実態などから放射能被害の考察を深める	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
9	日本とのつながり（２） 日本による委任統治 ー南洋群島ー	ミクロネシア地域をかつて日本が委任統治領、（南洋群島）として統治していた歴史を学び、現在にも残る爪痕も見ながら日本との関係を深める	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
10	日本とのつながり（３） 太平洋戦争	太平洋戦争の激戦地であったこの地域の歴史と現在も残るその爪痕について理解を深める	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
11	日本とのつながり（４） 日本のオセアニア地域への国際協力	オセアニアの様々な地域の島嶼国に青年海外協力隊や専門家などの技術協力や無償資金協力が行われてきた実態と内容について理解を深める	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
12	島嶼国と気候変動	環礁国の多いオセアニアにとって深刻な問題である気候変動について理解を深める	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
13	ミクロネシア地域の文化的社会状況と教育	米国と自由連合協定を締結しているミクロネシア地域の文化的社会状況とそこに関わる教育事情について理解を深める	授業のワークシート課題の完成、復習と次回の予習
14	これまでの授業の総括 まとめテスト 最終プレゼンテーションの準備	ここまでの内容をまとめ、最終プレゼンテーションの準備	授業の振り返り プレゼンテーションの準備
15	最終プレゼンテーション	これまでの内容から特に興味を持った内容についてプレゼンテーションを実施する	プレゼンテーションの振り返り

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミクロネシアを知るための 60 章	印東道子（編著）	明石書店
2	南太平洋を知るための 58 章　メラネシア　ポリネシア	吉岡政徳・石森大知（編著）	明石書店

	3	太平洋諸島の歴史を知るための 60 章　日本とのかかわり	石森大知・丹羽典生（編著）	明石書店
評価方法 （基準）	まとめ（小）テスト 20%、課題（レポート含む）40%、最終プレゼンテーション 30%、授業への参加度、積極性 10%			
学生への メッセージ	オセアニアは実は日本ととてもつながりの深い地域であり、一般的にイメージされがちな南の島のイメージ以上に様々な側面を持っています。そんなオセアニアについて積極的に学びたいという姿勢を歓迎します。			
担当者の 研究室等				
備考	事前事後の総合学習時間は 30 時間を目安とする。			

科目名	共同体論	科目名（英文）	Theory of Community
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1576a0		

授業概要・目的	この授業では様々な共同体のあり方を検討するために、ハプスブルク家の支配地域を題材とする。中世後期から第一次世界大戦までに多様な地域を支配したハプスブルク家の所領は、現在では、オーストリア、ハンガリー、スペイン、ベルギー、チェコ、スロヴァキアなどに相当し、言語、文化、法など様々な地域を内包している。このハプスブルクの歴史を通して、中世都市内の共同体、近世の政治的共同体と宗派による共同体、近代国家における少数民族のための共同体、さらにヨーロッパ連合など多様な共同体のあり方や、共同体間の繋がり、そして共同体とそこに属する人との関係を検討する。共同体の多様性と、そこに属すことはどういうことなのかを見ていくことで、グローバルな視点で国際社会の多様性を理解するとともに、人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につける。
到達目標	共同体を、個人や地域・国家とのかかわり、さらにトランスナショナルなかかわりの中で多層的にとらえる視点を身につける。また、さまざまな共同体の仕組みを説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いて授業を行い、資料を配布する。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。
科目学習の効果（資格）	グローバル社会のなかで国家や共同体（コミュニティ）が存在する意味について広く学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	共同体（コミュニティ）についての考察	授業の概要説明をおこなった後、多文化主義の観点から「共同体がもつ意味」について考える。	「共同体」という言葉から連想する事柄を列挙してくる。ハプスブルクと聞いて思いつくものを確認する。
2	ハプスブルク家の支配	・ハプスブルク家の歴史の概要	ハプスブルク家の人物について調べる。
3	ハスブルク家の拡大	・ハプスブルク家の支配領域の拡大 ・地域の自立性と国家的統合 ・国家間の紐帯	神聖ローマ皇帝カール５世について調べてくる。地図で所領を確認する。
4	近世前半のオーストリア(宗派対立)	・ヨーロッパの宗派対立 ・オーストリアでの宗派争い	カトリックとプロテスタントの違いについて調べてくる。
5	近世前半のネーデルラント（統一と分離）	・都市・領邦の自治とネーデルラントの統一 ・ネーデルラントの反乱と南北分離	オランダ独立戦争について調べてくる。カルヴァン派とイエズス会について調べてくる。
6	近世前半のスペイン	・スペインにおける集権化 ・異端審問	フェリペ２世について調べてくる。スペインにおけるユダヤ人とイスラームについて確認する。
7	近世後半の概要と啓蒙について	・17 世紀初めにおける所領の変化 ・近世の社団と啓蒙思想	これまでの授業のポイントを整理する。啓蒙という言葉について調べてくる。
8	マリア・テレジア（１）	・マリア・テレジアの即位 ・マリア・テレジアの啓蒙に対する態度	オーストリア継承戦争とマリア・テレジアについて調べてくる。
9	マリア・テレジア（２）	・マリア・テレジアの啓蒙改革 ・農村や教育への国家介入	啓蒙改革の一つの「脱宗教化」について、この時代宗教の影響が強かったと思われるものを書きだす。
10	ヨーゼフ２世（１）	・ヨーゼフ２世の改革 ・集権化と地方自治 ・自由と保護	ヨーゼフ２世について調べてくる。
11	ヨーゼフ２世（２）	・ヨーゼフ２世の改革 ・民族運動	ハンガリーの歴史について調べてくる。
12	アウスグライヒ（１）	・フランツ・ヨーゼフの改革 ・オーストリアとハンガリー	フランツ・ヨーゼフについて調べてくる。民族の定義について考える。
13	アウスグライヒ（２）	・多民族国家における試み	・サラエボ事件について調べてくる。
14	ポスト・ハプスブルク	・現代社会における公用語の問題 ・国家におけるマイノリティ	・チェコとスロヴァキアの歴史について調べる。
15	総括	・ハプスブルク家の支配のまとめと共同体について	これまでの授業を振り返り、論点をまとめる。

関連科目	エリアスタディーズ・ヨーロッパ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ハプスブルク史研究入門	大津留厚ほか	昭和堂
2	ハプスブルクの実験	大津留厚	春風社
3			

評価方法（基準）	授業中に課す課題（20%）、期末テスト（80%）
学生へのメッセージ	ハプスブルク家はヨーロッパにおいて広大な領域を支配しました。その領域は、バラバラの文化や政治体制があり、最終的にはそうした伝統が維持され、今では様々な国ができています。そうしたできた国では、連邦制であったり、公用語が複数あったりと、さらに国内の地域に高い自立性が認められているケースが多いです。こうした多様性があり、多層な共同体がくっついたり、離れたりすることはどういうことなのかを、ハプスブルク家の歴史を通して考えていきます。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　加来研究室
備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。

科目名	多文化共生論	科目名（英文）	Multiculturalism
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1577a0		

授業概要・目的

人類は共同生活をおくる集団の中で進化してきたといわれます。しかしながら、他の人と共に生きることは必ずしも容易ではなく、しばしば苦痛をともないます。共生することはどうして難しいのでしょうか。その困難を克服する道はないのでしょうか。

この授業では、主に「暴力」をキーワードに、生物人類学や社会学をはじめ、さまざまな研究成果を学びつつ、人と人とが共生することの難しさを考えます。また、現代社会において残存する暴力の具体的事例について向き合い、克服に向けて努力する方法を考えます。

※本授業は、「国際教養」プログラム対応科目である（「外国語学部」の学生のみ）。

到達目標

・主に生物人類学や社会学等における暴力の説明方法について理解し、自分なりに説明できる。

・学んだ知識を具体的事例の解釈に応用することができる。

・既往の科学的成果について批判的に考えることができる。

授業方法と留意点

講義を聴いて既往研究の知見を理解し、小テスト（理解度チェック）や小課題を通じて応用力と批判的思考を養います。また、学期末に関連テーマのレポートを提出してもらいます。

・コメントシートやレポートへのフィードバック（提出物へのコメントや質問への回答）は、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合にはオフィスアワーに教員の研究室、またはメールにて行う。

科目学習の効果（資格）

この授業により、共生、暴力、理性、制度といった抽象的な概念について議論するための、一つのフレームワークを習得することができると考えます。ただし、それは「たたき台」のようなものですので、今後の人生の中でこれを自分なりに磨き上げたり、場合によっては別のものと取り換えたりしながら、自分なりの「共生」観を育んでいきましょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション:多文化共生へのアプローチ	多文化共生についてどのようにアプローチすればよいか、この授業の基本的立場を理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
2	世界の真理を求めて:近代啓蒙主義	近代啓蒙主義の基本的な特徴について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
3	文化は客観的に記述できない？：啓蒙主義批判	啓蒙主義への批判的立場について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
4	自然主義的アプローチの紹介	自然主義的アプローチの基本的な考え方について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
5	人類の進化史（１）	人類進化の歴史に関する基本的知識ついて学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
6	人類の進化史（２）	人類進化の歴史に関する基本的知識ついて学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
7	暴力の進化的起源（１）	ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
8	暴力の進化的起源（２）	ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
9	道徳の進化的起源	道徳の進化的起源についての仮説について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
10	理性の効力	理性が暴力の減少にいかに貢献したかについて考える。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
11	信頼と安心：制度の持つ力	信頼についての研究成果をもとに社会の慣習や諸制度の役割の重要性について理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
12	いじめの構造	いじめに関する社会学的研究から、その発生条件や予防策について検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
13	日本の女性差別	女性差別が温存される要因について検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
14	家族の地域的多様性と文化接触	家族の地域的・歴史的多様性と異文化理解の難しさについて理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
15	総括：共生に向けて	授業の振り返りと総括を行う。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。

関連科目

「暮らしの中の文化」「グローバル社会と日本」「共同体論」など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暴力の人類史　上・下	ピンカー、S.	青土社
2	我々はどこから来て、今どこにいるのか？上・下	トッド、E.	文藝春秋
3	万物の黎明	グレーバー、D.・ウェングロウ、D.	光文社

評価方法（基準）

最終レポート 70%、授業への取り組み（課題、理解度チェック、コメント・質疑）30%

学生への

生物学や社会科学の知見は日進月歩で変わります。継続的な学びの習慣と批判的思考力を身に着けることが重要です。

メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 5 階小林講師室。 ※用事がある場合には、事前に必ずメールで伝えること（hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp）
備考	・事前・事後学習は 60 時間を目安とする。

科目名	風土と地理	科目名（英文）	Climate and Geography
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1578a0		

授業概要・目的	この授業では現代社会における諸問題について、地理学という学問分野の視点・切り口から学びます。 地理学とは、空間・地域・環境といった視点から、私たち人類が住む世界の成り立ちを理解し、説明しようとする学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、研究対象も方法も多岐にわたっているという特徴を持ちます。 本講義では、地理学を通じて「通りいっぺんの社会評論」ではない、社会課題の捉え方・視点・考え方を養います。
到達目標	・地理学の基本となる考え方について説明できること。 ・特定の社会問題について地理学的な視点から捉えることができること。
授業方法と留意点	・主に　①地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。 ・学生の皆さんには、理解度を問うための小課題（理解度チェック）とレポートに取り組んでもらいます。 ・提出物へのコメントや質問への回答などのフィードバックは、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合には休み時間や教員オフィスアワー等に、教員の研究室、またはメール等にて行う。
科目学習の効果（資格）	担当教員は、地理学を学ぶことに以下のような利点があると考えています。少し難しいですが、授業を最後まで受講することで理解できるでしょう。 （1）一つの見方や方法論に縛られない複眼的思考が身につく。 （2）さまざまな事象が地域・場所によって異なることを理解し、比較する視点を持つことができる。 （3）個人、地域社会、都市、国家、世界とスケールを変えて物事をみることができる。 （4）距離や空間の広がり／狭まりが社会にどんな影響を及ぼすか考えることができる。 （5）人と人、

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学とはどのような学問か?	この授業の概要を理解し、地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
2	地図の発達史	地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
3	自然環境と人類	自然環境と人類との関係を捉える視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
4	人口動態を捉える	人口の増減や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
5	家族形態の地域的多様性	家族が地域的に多様であり、歴史的にも変動してきたことを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
6	都市空間の発達と構造	都市の発達と構造をとらえる視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
7	産業からみた都市の変遷	産業の変化に伴い、都市がどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
8	人口減少と日本の地域課題	人口減少、経済停滞期において日本の諸地域が抱える問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
9	日本の農村と社会	日本の農村とその社会について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
10	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
11	国際貿易について	国際貿易の発展とその理由、そしてリスクについて理解します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
12	ツーリズムの発展と課題	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
13	これからのツーリズム	コロナ以後の観光のあり方について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
14	疾病と地理学	主に感染症についての地理学的知見について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
15	これからの社会と地理学:総括	授業の総括と、今後の社会を考えるうえで必要な視点について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代人文地理学	佐藤廉也・宮澤仁編	放送大学教育振興会
2			

	3			
評価方法 （基準）	レポート 70%、小テストおよびコメント 30%
学生への メッセージ	大学の地理学は、以下の点で高校までの地理とはまったく違います。 （1）扱うテーマが多岐に及ぶこと。さらに他分野との相互交流があること。 （2）試験のための勉強ではなく、自分の関心事について探索したり、深めるための学問であること。 この授業をみなさん自身の学びのために活用してもらえることを切に願います。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 5 階小林研究室。 ※用事がある場合は、かならず先にメールで用件を伝えてください（hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp）。
備考	

科目名	国際関係論	科目名（英文）	International Relations
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原田　豪
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1579a0		

授業概要・目的	国際ニュースなどを見ていると，一見「何でそうなるの？」と不思議に思う事が出てきます．これは皆さんが良く知っている国内社会と国際社会の間に大きな違いがあるからです．この授業では，この違いをはじめとし，国際関係を見る上で気を付けなければならない点や，どのような見方がされているかなどの理解を目的としたものとなります． 授業では，各回で重要概念を関連した歴史事例と共に紹介し，この歴史から作られた主要な国際関係理論を確認していきます．
到達目標	①国内社会と国際社会の違いを挙げ，説明できる． ②国際関係に影響する要因を少なくとも１つ挙げ，事例説明に適用できる． ③物事を捉える視点は複数あることを理解し，複眼的思考を試みることが出来る．
授業方法と留意点	次回授業で導入する重要概念に関する資料を配りますので，必ず目を通し，理解に努めてください．この準備を通じて「理解したと思ったこと」と，「授業内で示された事」を突き合わせることが授業では求められます． また，この授業では毎回リアクションペーパーをTeamsを通じて提出してもらいます．突き合わせの結果生じた疑問など，積極的に記入してください．追加説明あるいはその疑問をテーマとした議論で応答します．
科目学習の効果（資格）	国際関係だけでなく，「異なる視点を持つ他者」との交流にも役立つ複眼的思考の練習となります．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方などのガイダンス	シラバスをよく読むこと（1時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
2	国際社会の特徴とは？	国内社会と国際社会の違い	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
3	国際社会を構成するものとは？	現在の国際社会体制の起源	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
4	国際関係において安定は可能か？	第一次世界大戦の勃発過程	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
5	国際関係において秩序は作り出せるのか？	国際連盟の構想意図と帰結	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
6	国際関係における今の秩序とは？	国際連合設立交渉過程	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
7	国際関係の歴史的展開	ここまでの歴史的展開のまとめ	これまでの授業を振り返り，疑問点を明らかにしておくこと（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
8	国際関係を動かすものとは？①：生存のために	リアリズムの紹介	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
9	国際関係を動かすものとは？②：繁栄のために	リベラリズムの紹介	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
10	国際関係を動かすものとは？③：共存のために	コンストラクティビズムの紹介	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
11	国際関係を動かす主な要因	ここまでの国際関係理論のまとめ	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
12	国家以外の存在は？	非国家主体の特徴について	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
13	国際的課題への取り組み方は？	グローバルイシューとグローバル・ガバナンス	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
14	国際関係の可能性？	EUの紹介	事前配布資料を読み，理解に努める（2時間） 毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間）
15	おわりに	授業の総括	ここまでの授業内容を振り返っておくこと(2時間) これまで見た国際ニュースなどに対し，自分が用いた視点を省察すること（3時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『国際政治学をつかむ【第３版】』	村田晃嗣　他	有斐閣
2	『国際政治史：主権国家体系のあゆみ』	小川浩之・板橋拓己・青野利彦	有斐閣
3			

評価方法（基準）	リアクションペーパー：50% 期末試験：50%
学生へのメッセージ	日々のニュースで「何で？」と感じることは少なくないはずです．この授業では疑問に対する完全な解答を示すことはできません．しかし，考えるための手がかりは提供できるかと思います．
担当者の研究室等	
備考	この授業では，リアクションペーパーをFormsを通じて実施する予定です．

科目名	音声学	科目名（英文）	Phonetics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1589a0		

授業概要・目的	英語の音韻体系に基づいた調音音声学を中心とし、日本語や他の言語とも比較しながら、次のような内容について演習も交えて理解を深めていく。①母音や子音の発音記号とその音声的特徴、②音連続における連結・脱落・同化現象及び強勢やイントネーション、③語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性、④中英語から現代英語へ至る音韻の歴史的変遷、⑤英国から北米・オセアニア・アジアにも広がる国際共通語としての英語の変種などについて具体例とともに学ぶ。
到達目標	この科目は、主として１年次の学生を対象とし、言語の音声の特徴について、英語を軸にし、必要に応じて日本語や他の言語とも比較しながら学んでいく。英語の音声の仕組み、英語の文法と音声の関連性、英語の歴史的変遷、国際共通語としての英語の実態などについて理解することをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	・授業は主に講義形式で行うが、授業の後半にはグループワークも取り入れる。 ・レポートを（中間と期末の）計２回作成し、提出する。 ・音声学は学問の一分野であり、単なる発音練習ではないので、誤解のないようにしてほしい。
科目学習の効果（資格）	TOEIC などのリスニング力（聴解力）の向上が期待できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション （調音）音声学について	（調音）音声学とは何かについて、英語と日本語の例を比較しながら、その概要を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
2	母音について（１）―英語の単母音を中心に	英語の単母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
3	母音について（２）―英語の二重母音を中心に	英語の二重母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
4	母音からみた英語の変種（方言）について	母音からみた英国・北米・オセアニア・アジアなどの英語の変種について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
5	子音について（１）―英語の閉鎖音や摩擦音を中心に	英語の閉鎖音や摩擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
6	子音について（２）―英語の鼻音や破擦音を中心に	英語の鼻音や破擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
7	子音と半母音（接近音）について	子音と半母音（接近音）について、日英語を比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
8	音（音韻）の単位について―分節音と異音、音節とモーラなど レポートの提出	分節音と異音、音節とモーラなどの概念について、音韻構造の観点から理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
9	音韻論と形態論の接点について レポートのフィードバック	・音韻論と形態論のインターフェイスの観点から、日英語の現象について考察する。 ・レポートの解答（模範）例を示しながら、内容や書き方について総評する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
10	音の変化について―連結・脱落・同化など	音連続における連結・脱落・同化などの現象について、具体例とともに理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
11	強勢（アクセント）について	英語の強勢（アクセント）の特徴について、体系的に理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
12	文法と音声の関連性について	英語の語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
13	リズムとイントネーションについて	英語のリズムやイントネーションについて、体系的に理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
14	音韻の歴史的変遷について レポートの提出	中英語から現代英語へ至る音韻の歴史的変遷について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（２時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること（２時間）。
15	総括 レポートのフィードバック	・これまでの学習内容を総括する。 ・レポートの解答（模範）例を示しなが	これまでの授業で学んだ内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること

			ら、内容や書き方について総評する。	（４時間）。

関連科目	他の語学科目など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント・音声教材を利用する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語教師のための音声指導 Q&A	内田洋子、杉本淳子	研究社
2	辞書		
3			

評価方法 （基準）	レポート 60%、　授業中の発言・討論、宿題・提出物等 40% ※ただし、原則として授業への出席率が 80%以上であることを単位修得の条件とする。
学生への メッセージ	内容はやや難しいですが、知的好奇心を持っている人には向いている科目といえるでしょう。
担当者の 研究室等	７号館４階　中島研究室
備考	

科目名	英語学概論	科目名（英文）	Introduction to English Linguistics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	船本　弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1590a0		

授業概要・目的	世界で使用される様々な英語（World Englishes）、母語英語の歴史や諸特徴、英語の音声・音韻、英語の語彙の形成過程、英文法・構文の理論（特に形式主義と機能主義による文法観の違い）など、英語に係る様々な研究分野について学ぶ。授業は講義形式で行うが、学生諸君には授業で身に着けた概念や考え方を用いて、英語のさまざまな現象やデータを自分の力で分析し考察することが求められる。英語が今ある姿で世界中の人々に使われるようになるまでには様々な出来事があり、それを深く追究することによって英語の「なぜ？」に答えられるようになることがこの授業の大きな目的である。
到達目標	・国際共通語としての英語の多様性について理解を深めることができる。 ・英語学研究の様々な分野について、基本的な考え方や分析・記述方法について理解することができる。 ・英語の文法、音声を含め、コミュニケーションにおける英語使用の様々な側面について、基本的な知識、考え方を用いて説明することができる。
授業方法と留意点	教科書は指定せず、板書、スライド、映像、配布物等を用いて授業を行うため、出席することが重要である。もちろん、ただそういった教材を得るためにただ教室にいるのではなく、授業への積極的な参加がきわめて重要である。授業中には課題や小テスト等を随時行い、それらのパフォーマンスも成績評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	教職課程（英語）の必修科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、英語学は何を研究するか？	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
2	国際語としての英語	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
3	英語の歴史①	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
4	英語の歴史②	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
5	英語音声学	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
6	英語音韻論	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
7	形態論①	確認小テスト	（予習）(2 時間)
8	形態論②	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
9	形態論③	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
10	文法論	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
11	形式文法①	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
12	形式文法②	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
13	機能文法①	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
14	機能文法②	レクチャー、グループ学習、演習	（予習）(2 時間)
15	まとめテスト		総復習（3 時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業中に指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）	期末テスト：　40% 授業での取り組み（課題、小テスト、その他提出物等）：　60%
学生へのメッセージ	英語学は英語という言葉を研究する学問であるが、英語学の中には、実に様々な領域やアプローチがある。学問的な概念ををただ知るのではなく、常に疑問と批判の精神をもって授業に臨んでほしい。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　船本研究室
備考	

科目名	言語学	科目名（英文）	Linguistics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	船本　弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1591a0		

授業概要・目的	この授業の目的は「言語」とは何かを理解し、また「言語」に対する基本的な知識を身に着け、多面的で複雑な言語を幅広い視野に立って観察することである。世界で使用される言語には多様性と共通性の両面があり、それらを科学的な方法によって理解することは、外国語学習のためにも必要であり有用でもある。
到達目標	（１）言語の一般的特徴（普遍性および固有性）に関する基本的な特徴を理解し、説明することができる。 （２）言語がもつ多面的な性質を知り、具体的なデータを様々な観点から分析することができる。 （３）自分の母語を他の言語と相対的に見ることによってふだん何気なく使用している母語の特徴に気づき、それを言語学的な概念を用いて記述・説明することができる。
授業方法と留意点	教科書は指定せず、板書、スライド、映像、配布物等を用いて授業を行うため、出席することが重要である。もちろん、ただそういった教材を得るためにただ教室にいるのではなく、授業への積極的な参加がきわめて重要である。授業中には課題や小テスト等を随時行い、それらのパフォーマンスも成績評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	言語の関する一般的な知識を得ることができる。言語が人間に固有の「プロパティー」であると見なし、動物も含めた「コミュニケーション」の在り方を見直すことで、ことばによって人が関わり合い、人間社会を形成する過程まで見通す力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本授業の目的、授業の進め方等について説明する。	充分時間をかけ、事前にシラバスを読んでくること。（２時間）
2	言語の基本的特徴	人間が使用する言語の基本的な特性について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
3	人間の言語、動物のコミュニケーション	人間の使う言語と動物が行うコミュニケーションの違いについて学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
4	世界のことば①：言語の系統	世界に分布する諸言語の数え方や分類法にまつわる問題を考察する	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語について系統を確認しておくこと。（２時間）
5	世界のことば②：ピジンとクレオル	人や文化の接触によって生まれる言語について知る	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
6	文字①	人間が発明した文字の歴史や特徴について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
7	文字②	人間が発明した文字の歴史や特徴について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語の発音について確認しておくこと。（２時間）
8	中間まとめ	第1回から第7回の内容について復習する。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
9	ことばと社会①：バリエーション	社会的変種について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
10	ことばと社会②：言語政策	社会において言語をめぐる諸問題を取り上げ、国家が取り組む言語政策について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
11	ことばと心理①：認識と分節	人が言語を通じて世界を認識し分節化する仕組みについて学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
12	ことばと心理②：サピア・ウォーフの仮説	言語の普遍性と相対性について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
13	ワークショップ：言語分析	具体的な言語資料を提示し、分析を行う	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
14	ふりかえり	この授業絶対をとおして学んだことを振り返り、ポイントを整理する	これまでに学んだことについて復習し、理解できた点や理解が不十分な点を整理しておくこと。（２時間）
15	まとめテスト	この授業で学んだことの総復習として理解度を確認する	これまでに学んだことの総復習をしておくこと。（２時間）

関連科目	音声学、英語学概論、各言語科目等。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜教室で指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）	授業での取り組み、課題、小テスト、その他の提出物等：60% 定期試験：40%
学生へのメッセージ	この授業は言語一般についてできるだけ幅広い視野に立って学ぶ。授業は講義形式で行い、非常に学術的な内容を扱うため、集中を切らさずに臨んでほしい。学問的な概念ををただ知るのではなく、常に疑問と批判の精神をもって授業に臨んでほしい。
担当者の研究室等	７号館５階　船本研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	日本語史概説	科目名（英文）	History of Japanese Language
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1592a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることは、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。
到達目標	日本語の文字、読み、言葉遣い、発音の特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。
授業方法と留意点	スライドおよび配布するプリントに沿って講義する。授業終了時に、ペーパー（コメントや課題）を提出する。
科目学習の効果（資格）	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	日本史の流れを復習する
2	３つの文字体系の背景１	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる
3	３つの文字体系の背景２	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する
4	３つの文字体系の背景３	カタカナの成立つについて学ぶ	カタカナの用法について整理する
5	３つの文字体系の背景４ 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	３つの文字体系の用法についてまとめる
6	《確認小テスト》 読みの背景１	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する
7	読みの背景２	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する
8	方言の背景１	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる
9	方言の背景２	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる
10	方言の背景３	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる
11	方言の背景４	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する
12	《確認小テスト》 発音の変化の背景１	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する
13	発音の変化の背景２	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる
14	発音の変化の背景３	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習

関連科目	日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論、ことばに関する授業すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	最終確認テスト（６０％）、確認小テスト（１０％）、毎回のペーパー（３０％）。 最終週の《最終確認テスト》の受験を必須とする。
学生へのメッセージ	日本語の歴史を知ることで、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。
担当者の研究室等	７号館４階（橋本研究室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は、約 60 時間。

科目名	ミュージアムへの招待	科目名（英文）	Introduction to Museum Studies
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山　博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1606a0		

授業概要・目的	【そもそも博物館とはなにか】 全国で5,700館を数える「博物館」だが、じつは歴史系博物館以外にも、美術館・文学館・記念館・民芸館・動物園・水族館といった施設が含まれる。この授業では、そのなかでもとくに注目すべき成功を収めている「ベネッセハウス」ならびに「ベネッセアートサイト直島」を取り上げ、なぜこの施設・場所・展示が世界的に高い評価を受けているのかを考察する。さらに、同地で展示されている現代美術の具体的な作品を確認し、モダンアートはどこがおもしろく、いかに多くの人びとに影響を及ぼし続けるのかを検討する。この考察・確認・検討は、博物館がどこから来て、なにをするのか、そしてどこへ向かうのかという大きな問題と向かい合う機会となるだろう。
到達目標	【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになること】 1. 良い博物館の条件とはなにか。 2. 良い博物館資料の条件とはなにか。 3. 博物館を運営することのむずかしさと大切さとはなにか。
授業方法と留意点	【授業をふまえたクイズへの応答】 1. 講義に出席する。 2. 講義後の制限時間内に、提示されたクイズへの応答をMoodle経由で入力する。 3. 講義前に配布されるフィードバックシートを確認し、講義で解説を聞く。 4. 校外実習を進める。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格の取得（必修科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の概要と資格取得の条件･諸注意について解説する。	事前：Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載情報を検索して確認する（60分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
2	拠点	ベネッセアートサイト直島の起源と展開を解説する。	事前：Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
3	地域	ベネッセアートサイト直島と瀬戸内国際芸術祭について解説する。	事前：Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
4	素材	ヤニス･クネリス作品の由来と魅力について確認する。	事前：Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
5	緊張	李禹煥作品の由来と魅力について確認する。	事前：Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
6	光線	ジェームズ･タレル作品の由来と魅力について確認する。	事前：Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
7	空間	安藤忠雄建築の由来と魅力について確認する。	事前：Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
8	普遍	ウォルター･デ･マリア作品の由来と魅力について確認する。	事前：Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
9	写実	須田悦弘作品の由来と魅力について確認する。	事前：Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90

				分)。
	10	記憶	クリスチャン・ボルタンスキー作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。
	11	世界	内藤礼作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。
	12	夢幻	維新派舞台の由来と魅力について確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。
	13	博物館見学	指定された博物館に行き、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象博物館のサイトと展示内容を確認する (90 分)。 事後:現地での経験をふまえつつ、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に応答する (120 分)。
	14	博物館見学	指定された博物館に行き、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象博物館のサイトと展示内容を確認する (90 分)。 事後:現地での経験をふまえつつ、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に応答する (120 分)。
	15	総括	実習課題の振り返りと授業内容を総括する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:博物館の役割と見学の経験を照らし合わせて自分にとっての博物館の意味を考えつつ、別の博物館を見学しに行ってみる (240 分)。

関連科目	「他の学芸員課程の科目」／表象と感性プロジェクト／表象文化論／暮らしの中の文化

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	直島誕生　過疎化する島で目撃した「現代アートの挑戦」全記録	秋元雄史	ディスカヴァー・トゥエンティワン
2			
3			

評価方法
(基準)

【クイズの回答による評価】

1. 毎回の回答［80%］
2. ワークシート［20%］
3. いずれも「好奇心」と「論理性」を基準とする。

学生への
メッセージ

【コンディションを整えること】

1. 資格取得の要件であるため、当然、出席は大切にする。
2. さらに、より良い回答をするために、講義に集中できるコンディションを整える。
3. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。

担当者の 研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室

備考

【自分の回答を自分で採点すること】

1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。
2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの回答の採点を試みる。

科目名	Speaking & Writing a	科目名（英文）	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing a』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing a』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	B5 Notebook for writing		
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
担当者の研究室等	Herke's office --> Building 7, 3rd floor
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名（英文）	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎づくりをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章也メモなどが書けるようになる。絵や写真を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
5	詳細に説明するたもの表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
8	確認（振り返り）を要求するための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
9	確認（振り返り）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
10	説明を求めるための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
12	会話の開始と終結のための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
13	会話の開始と終結することの実戦練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト　10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	In this course, we will be focusing on speaking in class and writing for homework. The writing will be in the form of a journal. The ideas that you write in the journal will be used for the speaking activities in the next class, so it is important to keep up with your writing homework. I look forward to talking with you in class.
担当者の研究室等	7号館3階　フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はオフィスアワーにて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名（英文）	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	このクラスは主にコミュニケーションのクラスで、生徒はペアやグループで他の人と英語を使います。このコミュニケーションの多くは、授業の前に行う短いライティングの練習に基づいています。高校で学んだ英語を実践し、スピーキング力を向上させる良い環境となるでしょう。This is primarily a communication class in which students will use English with others in pairs and in groups. A lot of this communication is based on the short writing exercises that students will do before class. This will be a good environment to practice the English you learned in high school and improve your speaking skills.
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名（英文）	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	このクラスは英語でのコミュニケーションクラスです。英語を使う努力をし、積極的に授業に参加することが期待されます。また、出席率も高いことが期待されます。This is an English communication class. Students are expected make an effort to use English and actively participate in class activities. Good attendance is also expected. In this course, we will be focusing on speaking in class and writing for homework. The writing will be in the form of a journal. The ideas that you write in the journal will be used for the speaking activities in the next class, so it is important to keep up with your writing homework.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名（英文）	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, do their homework assignments will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名（英文）	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates. Don't be afraid to make mistakes because that is how you learn. Do your best and you will enjoy this class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名（英文）	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｽﾀﾝｼｭｰ ｱﾚｻﾝﾄﾞﾛ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, and do their homework assignments will achieve the most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	原則として、出席率 80%以上(12 回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上休んだ場合(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）単位が取得できる見込みはありません。 テキスト(教科書)を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業における評価点をゼロとして扱います。 その他の詳細は、第 1 回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Speaking & Writing a	科目名（英文）	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	コンデン　ロバート
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Please try your best and don't be afraid to make mistakes.
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名（英文）	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑨
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Please try your best and don't be afraid to make mistakes.
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名（英文）	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, and do their homework assignments will achieve the most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Reading a	科目名（英文）	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキャニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Midsummer Night's Dream</td><td>W. Shakespeare　原作</td><td>Oxford University Press</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>多読活動　20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>たくさん読んで、楽しく英語の読解力を養いましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 4 階齋藤研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	Reading a	科目名（英文）	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキャニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Reading Leader</td><td>Robert Hickling</td><td>金星堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>速読・多読活動　20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>精読・速読・多読を通じて、英語を読む楽しさを体験して下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館４階　西川研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	Reading a	科目名（英文）	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキャニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>The Truman Show【New Format Edition】/映画総合教材『トゥルーマン・ショー』【新装版】</td><td>（著者）Andrew Niccol　（編著）Kim R. Kanel　神谷久美子</td><td>松柏社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>多読活動　20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>精読・速読・多読を通じて、英語を読む楽しさを体験しましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館３階　天野研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	Reading a	科目名（英文）	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池田　景子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキャニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>指定なし（共通教材を利用する）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>多読活動　20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・このクラスでは共通教材の myON をはじめとするオンラインの教材とパソコンを使いこなすことが必須です。ICT スキルを重視します
・まずは遅刻、欠席を極力減らすように、体調管理をしっかりやりましょう。最初が肝心です。３回を超える欠席がある学生には原則として単位を認めません。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 3 階 鳥居研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のためのテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	Reading a	科目名（英文）	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池田　景子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキャニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Mary Poppins(メアリ・ポピンズ)</td><td>P. L. Travers. 林容吉、堀内克明編</td><td>英光社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>多読活動　20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>たくさん読んで、楽しく英語の読解力をつけましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館　　4 階　　池田研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	Reading a	科目名（英文）	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキャニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Reading Leader</td><td>Robert Hickling</td><td>金星堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>多読活動　20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>精読・速読・多読を通じて、英語を読む楽しさを体験して下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館４階　西川研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	Reading a	科目名（英文）	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキャニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>The Truman Show【New Format Edition】/映画総合教材『トゥルーマン・ショー』【新装版】</td><td>（著者）Andrew Niccol　（編著）Kim R. Kanel　神谷久美子</td><td>松柏社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>多読活動　20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>精読・速読・多読を通じて、英語を読む楽しさを体験しましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館３階　天野研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	Reading a	科目名（英文）	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原　郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキャニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Timed Reading for Fluency 1</td><td>Paul Nation, Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>多読活動　20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>e-Leaning 多読教材を活用し、楽しく大量に英語を聴き読みしながらリーディング力をつける習慣をつけましょう。英語を英語のまま理解できる感覚がわかれば、あとは 7,000 冊以上の英語の本から自分の英語力と興味にあった本を毎日読み進めてみてください。授業では平易な文章の精読と速読を繰り返し、演習形式で授業を進めていきます。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 4 階（柏原研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	Reading a	科目名（英文）	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキャニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Get the Signal</td><td>佐藤選 / 内野駿介 / Ayed Hasian</td><td>金星堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>多読活動　20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>語彙・文法を基盤とした読解力を身につけていきましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館５階　後藤研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	TOEIC a	科目名（英文）	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柏原　郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（1）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （2）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （3）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （4）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2: 応答問題　Part4: トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC b
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST</td><td>古澤弘美/Braven Smillie</td><td>センゲージラーニング株式会社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生への メッセージ	TOEICa では、TOEIC の各パート毎に演習を行いますので、各パートの特徴をつかみ、数多くの問題を解きながら TOEIC 本番で力を発揮して下さい。また、e-Learning 教材 ATR Call Brix の学習実績が評価 10%となっております。携帯からでもアクセスできる教材ですので、授業内外で学習を進めて下さい。TOEIC は受験の回数を重ねるごとに得点が上昇しますので、数多くチャレンジしてみて下さい。
担当者の 研究室等	７号館４階（柏原研究室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	TOEIC a	科目名（英文）	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2: 応答問題　Part4: トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC b
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST / 古澤弘美/Braven Smillie / センゲージラーニング株式会社 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生への メッセージ	語彙やまとまった表現は事前に調べノートしておくこと。 リスニング箇所は、何度も聴いて予習をしておくこと。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	TOEIC a	科目名（英文）	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7 の内容を予習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(1 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)

				の課題学習（1 時間）

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SMART ROUTE TO THE TOEIC(R) L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	センゲージラーニング株式会社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生への メッセージ	授業はマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。 評価方法等の詳しい内容は第 1 回目の授業でハンドアウトを配布し説明します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	TOEIC a	科目名（英文）	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森田　真
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2: 応答問題　Part4: トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC b
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST / 古澤弘美/Braven Smillie / センゲージラーニング株式会社 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生への メッセージ	皆さま、ご入学おめでとうございます。大学受験においても英語の学習を頑張ってきたかと思いますが、大学に入っても英語力をさらに向上させるために、この授業では TOEIC 対策を行います。TOEIC テストで高得点を取れるように一緒に頑張って行きましょう。Moodle の入り方、ATR CALL、私のメールアドレスは初回の授業でお伝えします。では、教室でお待ちしております。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	TOEIC a	科目名（英文）	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2: 応答問題　Part4: トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC b
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST</td><td>古澤弘美/Braven Smillie</td><td>センゲージラーニング株式会社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生への メッセージ	TOEIC のスコアアップは授業前後の各自の学習次第です。がんばってください。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	TOEIC a	科目名（英文）	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関山　博久
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（1）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （2）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （3）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （4）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2: 応答問題　Part4: トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC b
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST / 古澤弘美/Braven Smillie / センゲージラーニング株式会社 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	TOEIC a	科目名（英文）	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松木園　久子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（1）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （2）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （3）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （4）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2: 応答問題　Part4: トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC b
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST</td><td>古澤弘美/Braven Smillie</td><td>センゲージラーニング株式会社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生へのメッセージ	就職のためにも、できるだけ早くスタートを切るのが有利です！具体的な目標(スコア)を立てて取り組みましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	TOEIC a	科目名（英文）	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山川　温
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1: 写真問題　Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2: 応答問題　Part4: トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC b
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST / 古澤弘美/Braven Smillie / センゲージラーニング株式会社 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Communicative English Grammar	科目名（英文）	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大井　良友
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際的に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の１年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという４つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標･テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習（1時間）

関連科目：Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Make Your Way! Communicating while Abroad	田地野 彰（監修）	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 100%
学生へのメッセージ	授業の進め方などの詳細は初回授業にて説明するので必ず出席すること。 また、初回授業から教科書を使用するので、予め入手しておくこと。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はオフィスアワーに対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名（英文）	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際的に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の１年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという４つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標･テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間））
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	絲復習（1時間）

関連科目：Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Essential Grammar in Use with answers	Raymond Murphy	CUP
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中のテスト・発言・討論、宿題・課題・提出物等（100%）
学生へのメッセージ	会話をするにも作文をするにもしっかりとした基礎文法の徹底が大切です。 本講座では基礎文を繰り返して学習し、自信を持って次の段階に行けるようにオーラル演習を重視しています。 積極的に参加してください。 本は必ず購入してください。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名（英文）	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	船本　弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際的に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の１年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという４つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標･テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
2	考えを文にして伝える：英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
3	自分の立場を表明する：肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
4	相手に質問する：疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
5	知りたい内容を求める：疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
6	存在を知らせる：存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
7	事象を客観的に表現する：非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
8	基本動詞を活用する：have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
9	視点を変える：受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
10	時系列に即して述べる：時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
11	文の内容を評価・判断する：助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
12	文のつながりを意識する：代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
13	時間や空間を指定する：前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習（1時間）

関連科目	Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業において適宜指示する		
2			
3			

評価方法（基準）	授業中のテスト・発言・討論、宿題・課題・提出物等（100%）
学生へのメッセージ	文法・語彙は英語学習の基本ですので、これまでに学習した内容を復習しながらしっかり身につけていきましょう。
担当者の研究室等	７号館５階 船本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名（英文）	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際的に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の１年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという４つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標･テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習（1時間）

関連科目	Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生のための基礎英文法 グラマーからリーディングへ Basic Grammar for College Students	小中　秀彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中のテスト，発言・討論，宿題・課題・提出物等（100%）
学生へのメッセージ	これからの英語学習、習得のために、文法・語彙は英語学習の基本を学び、基礎知識をしっかり身につけていきましょう。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Communicative English Grammar	科目名（英文）	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	江崎　早苗
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際的に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の１年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標･テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
2	考えを文にして伝える：英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
3	自分の立場を表明する：肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
4	相手に質問する：疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
5	知りたい内容を求める：疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
6	存在を知らせる：存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
7	事象を客観的に表現する：非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
8	基本動詞を活用する：have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
9	視点を変える：受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
10	時系列に即して述べる：時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
11	文の内容を評価・判断する：助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
12	文のつながりを意識する：代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
13	時間や空間を指定する：前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習（1 時間）

関連科目	Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業において適宜指示する		
2			
3			

評価方法（基準）	授業中のテスト・発言・討論、宿題・課題・提出物等（100%）
学生へのメッセージ	文法・語彙は英語学習の基本ですので、これまでに学習した内容を復習しながらしっかり身につけていきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師控え室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名（英文）	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際的に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の１年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという４つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標･テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習（1時間）

関連科目	Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Essential Grammar in Use with answers	Raymond Murphy	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中のテスト・発言・討論、宿題・課題・提出物等（100%）
学生へのメッセージ	文法・語彙は英語学習の基本ですので、これまでに学習した内容を復習しながらしっかり身につけていきましょう。
担当者の研究室等	７号館 2F 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に講師室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名（英文）	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際的に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の１年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという４つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標･テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習（1時間）

関連科目	Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of People 人とつながる英語コミュニケーション	Peter Vincent , 中里　菜穂子 & Alan Meadows	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業において適宜指示する		
2			
3			

評価方法（基準）	授業中のテスト・発言・討論、宿題・課題・提出物等（100%）
学生へのメッセージ	語彙は英語の部品、文法は規模の大きな意味のまとまりを作るネットワークです。これまでに学習した内容を復習しながら、使えるようにしっかり身につけていきましょう。
担当者の研究室等	７号館４階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名（英文）	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	花房　ともえ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際的に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の１年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標･テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
2	考えを文にして伝える：英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
3	自分の立場を表明する：肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
4	相手に質問する：疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
5	知りたい内容を求める：疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
6	存在を知らせる：存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
7	事象を客観的に表現する：非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
8	基本動詞を活用する：have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
9	視点を変える：受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
10	時系列に即して述べる：時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
11	文の内容を評価・判断する：助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
12	文のつながりを意識する：代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
13	時間や空間を指定する：前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習（1 時間）

関連科目	Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Learn English with Pop Hits! ポップスでスタート！ 基礎英語	角山 照彦/Timothy F. Hawthorne	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test（改訂新版）	西谷 恒志	成美堂
3			

評価方法（基準）	授業中のテスト・発言・討論、宿題・課題・提出物等（100%）
学生へのメッセージ	文法・語彙は英語学習の基本ですので、これまでに学習した内容を復習しながらしっかり身につけていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名（英文）	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	コンデン　ロバート
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words　以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	このクラスは英語でのコミュニケーションクラスです。英語を使う努力をし、積極的に授業に参加することが期待されます。また、出席率も高いことが期待されます。This is an English communication class. Students are expected make an effort to use English and actively participate in class activities. Good attendance is also expected.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名（英文）	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words　以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
担当者の研究室等	フーパー研究室　（7 号館 3 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名（英文）	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words　以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名（英文）	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｽﾀﾝｼｭｰ ｱﾚｻﾝﾄﾞﾛ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	This is a communicative and collaborative class in which students are expected to complete classroom and homework activities. Students will regularly participate in pair work and groupwork.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	原則として、出席率 80%以上(12 回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上休んだ場合(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く) 単位が取得できる見込みはありません。 テキスト(教科書)を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業における評価点をゼロとして扱います。 その他の詳細は、第 1 回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Speaking & Writing b	科目名（英文）	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words　以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	このクラスは主にコミュニケーションのクラスで、生徒はペアやグループで他の人と英語を使います。このコミュニケーションの多くは、授業の前に行う短いライティングの練習に基づいています。高校で学んだ英語を実践し、スピーキング力を向上させる良い環境となるでしょう。This is primarily a communication class in which students will use English with others in pairs and in groups. A lot of this communication is based on the short writing exercises that students will do before class. This will be a good environment to practice the English you learned in high school and improve your speaking skills.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名（英文）	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates. Please make sure to submit your journals, and other work, on time.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名（英文）	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates. It is important to have your journals ready for each class as we use them for speaking activities. I look forward to speaking with you in class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名（英文）	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words　以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	このクラスは英語でのコミュニケーションクラスです。英語を使う努力をし、積極的に授業に参加することが期待されます。また、出席率も高いことが期待されます。This is an English communication class. Students are expected make an effort to use English and actively participate in class activities. Good attendance is also expected.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名（英文）	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	⑨
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words　以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, and do their homework assignments will achieve the most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名（英文）	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words　以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, and do their homework assignments will achieve the most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名（英文）	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池田　景子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading a より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（サポーティングアイデア）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：時系列）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
5	韻について理解を深める（1）頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：比較）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
7	韻について理解を深める（2）脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：原因結果）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
9	韻について理解を深める（3）押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：プロセス）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（復習）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習（1 時間）

関連科目：Speaking &Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	精読・速読・多読を通じて、英語を読む楽しさを体験して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館３階　鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名（英文）	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading a より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（サポーティングアイデア）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：時系列）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
5	韻について理解を深める（1）頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：比較）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
7	韻について理解を深める（2）脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：原因結果）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
9	韻について理解を深める（3）押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：プロセス）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（復習）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習　（1 時間）

関連科目：Speaking ＆Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Notting Hill【New Format Edition】/映画総合教材『ノッティング・ヒルの恋人』新装版	（著者）Richard Curtis　（編著）Kim R. Kanel　神谷久美子	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		

	2			
	3			

評価方法 （基準）	多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 3 階天野研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名（英文）	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading a より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（サポーティングアイデア）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：時系列）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
5	韻について理解を深める（1）頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：比較）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
7	韻について理解を深める（2）脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：原因結果）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
9	韻について理解を深める（3）押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：プロセス）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（復習）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習（1 時間）

関連科目：Speaking &Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation/ Casey Malarcher	Seed Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
2			

	3
評価方法 （基準）	多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	たくさんの英文を読んで、読解力を養います。同時に資格試験にも対応できるスキルも学びましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名（英文）	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading a より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（サポーティングアイデア）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：時系列）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
5	韻について理解を深める（1）頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：比較）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
7	韻について理解を深める（2）脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：原因結果）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
9	韻について理解を深める（3）押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：プロセス）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（復習）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習（1 時間）

関連科目：Speaking &Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Link	Robert Hickling	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	精読・速読・多読を通じて、英語を読む習慣を身につけて下さい。一冊でも多く、英語書籍を読んで、英語を読む楽しみを経験して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館４階　西川研究室
備考	毎回の授業のためのテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名（英文）	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading a より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（サポーティングアイデア）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：時系列）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
5	韻について理解を深める（1）頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：比較）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
7	韻について理解を深める（2）脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：原因結果）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
9	韻について理解を深める（3）押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：プロセス）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（復習）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習（1 時間）

関連科目：Speaking &Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Get the Signal!	佐藤選 / 内野駿介 / Ayed Hasian	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	語彙・文法を基盤とした読解力を身につけていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はオフィスアワーに対応する。

科目名	Reading b	科目名（英文）	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池田　景子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading a より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（サポーティングアイデア）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：時系列）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
5	韻について理解を深める（1）頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：比較）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
7	韻について理解を深める（2）脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：原因結果）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
9	韻について理解を深める（3）押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：プロセス）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（復習）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習（1 時間）

関連科目：Speaking &Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	フランケンシュタイン	Mary Shelley 著、岡田春馬編注	三修社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	楽しく英文を読んで読解力を養いましょう。
担当者の 研究室等	7 号館４階　池田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名（英文）	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading a より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（サポーティングアイデア）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：時系列）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
5	韻について理解を深める（1）頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：比較）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
7	韻について理解を深める（2）脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：原因結果）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
9	韻について理解を深める（3）押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：プロセス）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（復習）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習（1 時間）

関連科目：Speaking &Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Link	Robert Hickling	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	精読・速読・多読を通じて、英語を読む習慣を身につけて下さい。一冊でも多く、英語書籍を読んで、英語を読む楽しみを経験して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館４階　西川研究室
備考	毎回の授業のためのテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名（英文）	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading a より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（サポーティングアイデア）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：時系列）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
5	韻について理解を深める（1）頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：比較）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
7	韻について理解を深める（2）脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：原因結果）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
9	韻について理解を深める（3）押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（文章構成：プロセス）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル（復習）の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習（1 時間）
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習　（1 時間）

関連科目：Speaking ＆Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Notting Hill【New Format Edition】/映画総合教材『ノッティング・ヒルの恋人』新装版	（著者）Richard Curtis　（編著）Kim R. Kanel　神谷久美子	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		

	2			
	3			

評価方法 （基準）	多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 3 階天野研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名（英文）	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の英文から必要な情報を正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Readin g)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。 また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading a より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読、精読、多読の３つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
2	英語の文	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
3	品詞と働き	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
4	名詞と冠詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
5	代名詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
6	形容詞・比較	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
7	動詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
8	５文型と前置詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
9	助動詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
10	分詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
11	不定詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
12	動名詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
13	時制	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
14	仮定法	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1 時間)
15	総復習	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習 (1 時間)

関連科目：Speaking &Writing b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stories of Pioneers: Paths to Reading through Grammar/文法と読解の相互学習	Kumi Yamada	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	速読、多読活動 20% 授業中の小テスト、発言、討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	学問に王道なしです。毎日コツコツ頑張りましょう。
担当者の 研究室等	7 号館５階　後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	TOEIC b	科目名（英文）	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	関山　博久
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題　Part4:トーク問題	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit114 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8 から Unit14 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC a
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST / 古澤弘美/Braven Smillie / センゲージラーニング株式会社 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	TOEIC b	科目名（英文）	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松木園　久子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（1）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （2）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （3）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （4）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題　Part4:トーク問題	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit114 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8 から Unit14 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC a
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST</td><td>古澤弘美/Braven Smillie</td><td>センゲージラーニング株式会社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生へのメッセージ	就職のためにも、できるだけ早くスタートを切るのが有利です！具体的な目標(スコア)を立てて取り組みましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	TOEIC b	科目名（英文）	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田　真
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題　Part4:トーク問題	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit114 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8 から Unit14 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC a
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST / 古澤弘美/Braven Smillie / センゲージラーニング株式会社 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生への メッセージ	皆さま、はじめまして。後期の授業で TOEIC-b の授業を担当する森田です。前期で TOEIC-a を履修した方が多いと思いますが、前期で使ったテキストをこちらの授業でも進めていきます。TOEIC を学習していくことで、英語のリスニング力、リーディング力を向上させていきましょう。Moodle や ATR Call の入り方や私のメールアドレスは初回の授業でお伝えします。宜しくお願いします。では、教室でお待ちしております。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	TOEIC b	科目名（英文）	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山川　温
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題　Part4:トーク問題	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit114 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8 から Unit14 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC a
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST</td><td>古澤弘美/Braven Smillie</td><td>センゲージラーニング株式会社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生への メッセージ	TOEICは、英語だけでなく、実は、ビジネスに関する語彙や知識を学べる一石二鳥の科目です。この授業は、学生のみなさんが、近未来の仕事の現場を考えるのに、きっとよい機会になる、と思っています。みなさんと一緒に学べることを楽しみにしています！
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	TOEIC b	科目名（英文）	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山川　温
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題　Part4:トーク問題	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit114 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8 から Unit14 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC a
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST</td><td>古澤弘美/Braven Smillie</td><td>センゲージラーニング株式会社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生への メッセージ	TOEICは、英語だけでなく、実は、ビジネスに関する語彙や知識を学べる一石二鳥の科目です。この授業は、学生のみなさんが、近未来の仕事の現場を考えるのに、きっとよい機会になる、と思っています。みなさんと一緒に学べることを楽しみにしています！
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	TOEIC b	科目名（英文）	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松木園　久子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題　Part4:トーク問題	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit114 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8 から Unit14 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC a
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST</td><td>古澤弘美/Braven Smillie</td><td>センゲージラーニング株式会社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生へのメッセージ	就職のためにも、できるだけ早くスタートを切るのが有利です！具体的な目標(スコア)を立てて取り組みましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	TOEIC b	科目名（英文）	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題　Part4:トーク問題	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit114 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8 から Unit14 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2) の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC a
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST / 古澤弘美/Braven Smillie / センゲージラーニング株式会社 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生への メッセージ	TOEIC のスコアアップは授業前後の各自の学習次第です。がんばってください。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	TOEIC b	科目名（英文）	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	（１）簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 （２）品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 （３）ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 （４）PC やスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit10 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題　Part4:トーク問題	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit11 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit12 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習:Unit13 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題　Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習:Unit114 の内容を予習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8 から Unit14 の内容を復習してくること。(0.5 時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (0.5 時間)

関連科目	TOEIC a
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / SMART ROUTE TO THE TOEICR L&R TEST / 古澤弘美/Braven Smillie / センゲージラーニング株式会社 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	e-Learning（ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)）10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	Drama	科目名（英文）	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	イハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面で捉え、アイコンタクトやジェス チャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式 で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の 選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。 ※詳しくは初回授業で授業計画等と合わせて説明します。
到達目標	国際学部の 1 年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語に よる明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによっ て適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力 して課題にとりくみ、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。 ※詳しくは初回授業で授業計画等と合わせて説明します。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習(場面ごとの抜き出し上演)方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. (1hour)
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の 抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
12	Script writing 脚本制作（1）	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身の振り返りを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)

関連科目	英語科目一般、教職課程
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	『随時プリントを配布』		
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『随時プリントを配布』		
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中の発表や取り組む姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%) ※詳しくは初回授業で授業計画等と合わせて説明します。
学生への メッセージ	コミュニケーションは文字にできる言語以外の要素で大きく変わります。読み取り方（受信）と表現方法（発信）の両方を、世界的人気作を題材に学んでいきましょう。言葉を使って表現する/言葉を使わずに表現することの面白さを楽しく元気に体験しましょう！ Acting ability is not a requirement for this class. We will have fun learning togther through actions and gestures and original script writing.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Drama	科目名（英文）	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ホト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面で捉え、アイコンタクトやジェス チャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式 で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の 選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の 1 年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語に よる明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによっ て適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力 して課題にとりくみ、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習(場面ごとの抜き出し上演)方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の 抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
12	Script writing 脚本制作（1）	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)

関連科目	英語科目一般、教職課程

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『随時プリントを配 布』		
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業中の発表や取り組む姿勢など(70%)
課題やレポートなどの提出物(30%)</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>同じ言葉でもそれを発するときの表情、ジェスチャー、強調する単語、イントネーションなどで、相手に伝わるメッセージは全く変わってきます。この授業では、英語特有の韻やリズムを楽しみつつ、様々な状況に合わせた自然で表情豊かな表現ができるように練習をしましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	Drama	科目名（英文）	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面で捉え、アイコンタクトやジェス チャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式 で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の 選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の 1 年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語に よる明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによっ て適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力 して課題にとりくみ、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習(場面ごとの抜き出し上演)方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
2	Politeness ポライトネス(1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
3	Politeness ポライトネス(2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の 抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
12	Script writing 脚本制作（1）	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. 1 hour

関連科目	英語科目一般、教職課程

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『随時プリントを配 布』		
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業中の発表や取り組む姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)
学生への メッセージ	同じ言葉でもそれを発するときの表情、ジェスチャー、強調する単語、イントネーションなどで、相手に伝わるメッセージは全く変わってきます。この授業では、英語特有の韻やリズムを楽しみつつ、様々な状況に合わせた自然で表情豊かな表現ができるように練習をしましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Drama	科目名（英文）	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面で捉え、アイコンタクトやジェス チャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式 で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の 選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の 1 年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語に よる明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによっ て適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力 して課題にとりくみ、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習(場面ごとの抜き出し上演)方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の 抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
12	Script writing 脚本制作（1）	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)

関連科目	英語科目一般、教職課程

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>Handout</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	授業中の発表や取り組む姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)
学生への メッセージ	Acting ability is not a requirement for this class. We will have fun learning togther through actions and gestures and original script writing.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室で対応する。

科目名	Drama	科目名（英文）	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面で捉え、アイコンタクトやジェス チャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式 で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の 選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の 1 年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語に よる明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによっ て適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力 して課題にとりくみ、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習(場面ごとの抜き出し上演)方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. (1hour)
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の 抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
12	Script writing 脚本制作（1）	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身の振り返りを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)

関連科目	英語科目一般、教職課程

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Notting Hill【New Format Edition】/映画総合教材『ノッティング・ヒルの恋人』新装版	（著者）Richard Curtis　（編著）Kim R. Kanel　神谷久美子	松柏社
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	授業中の発表や取り組む姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)
学生への メッセージ	英語でのコミュニケーションではジェスチャーや表情などの非言語コミュニケーションも使用され、大事な役割となります。 映画での英語使用、ジェスチャーなどを通して、皆さんのコミュニケーションスキルを磨きましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Drama	科目名（英文）	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面で捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の 選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。 ※詳しくは初回授業で授業計画等と合わせて説明します。
到達目標	国際学部の 1 年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語に よる明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとりくみ、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。 ※詳しくは初回授業で授業計画等と合わせて説明します。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習(場面ごとの抜き出し上演)方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. (1hour)
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の 抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
12	Script writing 脚本制作（1）	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身の振り返りを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)

関連科目	英語科目一般、教職課程
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>1</td><td>Stories from Shakespeare (Book)</td><td>原作 W. Shakespeare/ 再話 A. Collins</td><td>Pearson</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>随時プリントを配布</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業中の発表や取り組む姿勢など(70%)
課題やレポートなどの提出物(30%)

※詳しくは初回授業で授業計画等と合わせて説明します。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>コミュニケーションは文字にできる言語以外の要素で大きく変わります。読み取り方（受信）と表現方法（発信）の両方を、世界的人気作を題材に学んでいきましょう。言葉を使って表現する/言葉を使わずに表現することの面白さを楽しく元気に体験しましょう！</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 4 階　齋藤研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業時間に対応する。</td></tr>
</table>

科目名	Topic Studies Ⅰa	科目名（英文）	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	花房　ともえ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	本授業のトピックは「English through Pop Songs」で、毎授業１曲１アーティストを取り上げ、その曲の歌詞と楽曲の背景、またはフォークやロックの歴史を知る。歌詞に出てくる単語・文法を学習し、楽曲やアーティストに関するリーディングを行う。演習を通じて語彙力・文法力・読解力・リスニング力の強化を目指し、楽曲またはアーティストについて、学習した表現を使って自分の考えや感想を英語で発信する基礎づくりをする。
到達目標	(1) 楽曲・アーティストに関する事柄・背景・歴史を理解する。 (2) 予習した内容や疑問点を整理し、積極的に授業に参加する。 (3) 学習した概念や表現を用いて、自分の考えや感想を英語で表現できるようになる。
授業方法と留意点	（1）事前に単語を調べ、Reading Exercise を読んでくることを課題とする。必ず準備をして授業に臨むこと。 （2）これらの課題をもとに質問形式で内容を確認する演習型の授業を行う。 （3）毎回紙の辞書または電子辞書を持ってくること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・目的、評価などについて説明を行う。	講義の復習・課題など（１時間）
2	Unit 1	Stand by Me Ben E. King	予習：Unit1［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
3	Unit 2	Jailhouse Rock Elvis Presley	予習：Unit 2［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
4	Unit 3	Blowin'in in the Wind Bob Dylan	予習：Unit 3 ［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
5	Unit 4	Puff, the Magic Dragon Peter, Paul and Mary	予習：Unit 4 ［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
6	Unit 5	I've Gotta Get a Message to You Bee Gees	予習：Unit 5 ［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
7	Unit 6	Bridge Over Troubled Water Simon & Garfunkel	予習：Unit 6［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
8	Unit 7	Take Me Home, Country Roads John Denver	予習：Unit 7［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
9	Unit 8	Imagine John Lennon	予習：Unit 8［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
10	Unit 9	I Need to Be in Love The Carpenters	予習：Unit 9［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
11	Unit 10	Honesty Billy Joel	予習：Unit 10［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
12	Unit 11	Hotel California Eagles	予習：Unit 11 ［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
13	Unit 12	I just Called to Say I Love You Stevie Wonder	予習：Unit 12［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
14	Unit 13	Pride (In the Name of Love) U2	予習：Unit13 ［Reading Exercise］ 講義の復習・課題など（１時間）
15	総括とまとめテスト	後期講義で取り上げた事柄を総復習する。 その後まとめテストを行う。	後期講義の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Enjoying English through Pop Songs	関戸冬彦 /小林愛明 /山中章子 /吉田要	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	(1)平常点５０％（小テスト、宿題、提出物、授業参加度等） (2)レポート提出 ３０％ (3)期末のまとめテスト２０％ 詳しくは１回目の授業でプリントを配布し説明をする。
学生へのメッセージ	(1) 予習・復習は必ず行うこと。 (2) 特段の事情なく授業回数の３分の１以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies Ⅰa	科目名（英文）	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate many critical social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果（資格）	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
2	Unit exercises - Crime	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
3	Unit exercises - Mobile phones	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
4	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
5	Unit exercises - Junk food	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
6	Unit exercises - Celebrity marriage	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
7	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
8	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
9	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
10	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
11	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
12	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)

関連科目	トピックスタディーズⅡなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN'UN-DO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, read up on lessons, and do their homework will achieve the most.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies Ⅰa	科目名（英文）	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	この授業では、文化研究、異文化コミュニケーションに必要なキーワード、事例を学びます。まず、各 unit の内容を担当者が講義を行い、皆さんのキーワード理解の手助けを行います。次に、キーワードに関連する事例を学び、各自の異文化に関するトピックへの理解を深めます。この授業を通して、英語で文化研究、異文化コミュニケーションに関するトピックを学び、英語を使用し、英語で学ぶスキルを身につけていきましょう。
到達目標	(1)文化、異文化コミュニケーションに関連するキーワードを知り、理解する。 (2)英語を通して、異文化コミュニケーションに関連する事例を理解できる。 (3)自身の意見を英語で書き、発信できる。
授業方法と留意点	講義スタイル、グループワークを織り交ぜ、英語力と、異文化コミュニケーションに関連するトピックの両方を学習します。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	Essentialism	講義の復習・課題など（１時間）
2	Unit 1	Non-essentialism	予習：Unit1 講義の復習・課題など（１時間）
3	Unit 2	Socialization	予習：Unit 2 講義の復習・課題など（１時間）
4	Unit 3	Cultural Identity	予習：Unit 3 講義の復習・課題など（１時間）
5	Unit 4	Cultural Hybridity	予習：Unit 4 講義の復習・課題など（１時間）
6	Unit 5	Stereotypes	予習：Unit 5 講義の復習・課題など（１時間）
7	Unit 6	Representation	予習：Unit 6 講義の復習・課題など（１時間）
8	Unit 7	Time and Culture	予習：Unit 7 講義の復習・課題など（１時間）
9	Unit 8	Discourse	予習：Unit 8 講義の復習・課題など（１時間）
10	Unit 9	Collectivism and Individualism	予習：Unit 9 講義の復習・課題など（１時間）
11	Unit 10	Masculine and Feminine Culture	予習：Unit 10 講義の復習・課題など（１時間）
12	Unit 11	High-context and Low-context Culture	予習：Unit 11 講義の復習・課題など（１時間）
13	Unit 12	Power-Distance	予習：Unit 12 講義の復習・課題など（１時間）
14	Unit 13	Globalization and Cultural Identity	予習：Unit13 講義の復習・課題など（１時間）
15	総括とまとめテスト	今学期の講義で取り上げた事柄を総復習	今学期の講義の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Exploring Landscapes of Culture & Communication/英語で学ぶはじめての異文化コミュニケーション論	（著者）JA Kusaka　Michael Ruddick　Simon Pryor	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	(1)平常点５０％（小テスト、宿題、提出物、授業参加度等） (2)レポート提出　３０％ (3)期末のまとめテスト２０％
学生へのメッセージ	(1) 予習・復習は必ず行うこと。 (2) 特段の事情なく授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies Ⅰb	科目名（英文）	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柏原　郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	さまざまなICT英語学習教材を試しながら、最新の英語教材を使いこなせるようになることを目指します。また自分の英語力、興味にあったICT教材を選ぶことができ、英語学習を楽しみながら継続できるようになることを目的とする。
到達目標	自身が目標とする英語力に達するには、どのICT教材をどれ位の学習量をこなさなければいけないのか、ICT教材の各自の学習データを客観的に分析できるようになる。また適切な目標設定を行い、資格認定試験等で目標値を達成できる。
授業方法と留意点	ICT教材を毎回紹介し、それぞれのアプリ、コンテンツ、ソフト等効果的な学習法を紹介していきます。実際に試しながら、授業内外で英語継続学習を行い、学習履歴データを各自分析します。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション	授業運営について 成績・評価方法などの説明 英語総合力測定	事前学習：シラバスの内容を読んでくること（0.5時間） 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
2	ICT英語教材：最新英語教材アプリの実践（１）	ICT英語教材：最新アプリ（１）の教材紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
3	ICT英語教材：最新英語教材アプリの実践（２）	ICT英語教材：最新アプリ（２）の教材紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
4	ICT英語教材：最新英語教材アプリの実践（３）	ICT英語教材：最新アプリ（３）の教材紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
5	ICT英語教材：最新英語教材アプリの実践（４）	ICT英語教材：最新アプリ（４）の教材紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
6	ICT英語教材：最新英語教材アプリの実践（５）	ICT英語教材：最新アプリ（５）の教材紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
7	ICT英語教材：Web英語教材コンテンツの実践（１）	ICT英語教材：Web英語教材（Reading強化）コンテンツの紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
8	ICT英語教材：Web英語教材コンテンツの実践（２）	ICT英語教材：Web英語教材（Reading強化）コンテンツの紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
9	ICT英語教材：Web英語教材コンテンツの実践（３）	ICT英語教材：Web英語教材（Listening強化）コンテンツの紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
10	ICT英語教材：Web英語教材コンテンツの実践（４）	ICT英語教材：Web英語教材（Listening強化）コンテンツの紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
11	ICT英語教材：Web英語教材コンテンツの実践（５）	ICT英語教材：Web英語教材（Writing強化）コンテンツの紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
12	ICT英語教材:Moodle英語教材コンテンツの実践（１）	ICT英語教材：Moodle英語教材（Listening強化）コンテンツの紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
13	ICT英語教材:Moodle英語教材コンテンツの実践（２）	ICT英語教材：Moodle英語教材（Listening強化）コンテンツの紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
14	ICT英語教材:Moodle英語教材コンテンツの実践（３）	ICT英語教材:Moodle英語教材(Reading速読強化）コンテンツの紹介・学習方法解説及び教材実践	事前学習:授業で紹介されるICT教材について調べてくること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)
15	Review	既習内容の到達度確認問題	事前学習：これまでの既習内容を総復習すること(0.5時間) 事後学習:授業で紹介したICT教材学習を行う(0.5時間)

関連科目	トピックスタディーズ
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	Placement & Review Test 10% 提出課題、クラスでの貢献度や発表 60% ICT 教材進捗度 30%
学生への メッセージ	ICT を積極的に活用したさまざまな英語学習法を授業内で紹介して行きます。無料でアクセスできるコンテンツも紹介して行きますので、是非試してみてください。自分にあった学習法がみつかれば、自然と英語学習時間が増え、自信につながります。
担当者の 研究室等	７号館 ４階 柏原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。

科目名	Topic Studies Ⅰb	科目名（英文）	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朱　琳
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	This course offers an immersive experience in English language learning through the medium of film. Students will engage with a diverse selection of movies or movie clips to enhance their listening skills, expand their vocabulary, comprehend idiomatic expressions, and gain deeper insights into cultural and social issues around the world. Through discussions and analysis of films in various genres and cultural contexts, students will develop a deeper appreciation for the art of filmmaking while exploring cultural nuances through the English language.
到達目標	Improve listening and speaking skills by learning new words, mimicking speech patterns, and experiencing everyday phrases and idioms. Explore cultural and social similarities and differences through discussions and activities based on films, gaining a broader understanding of global cultural issues. Analyze themes, narratives, and cinematic styles in films to deepen understanding of film as an art form and a reflection of society.
授業方法と留意点	Active participation in class discussions and activities are encouraged in this course. Depending on the length of the films, it is not feasible to watch them in their entirety during class time. Therefore, students will be required to finish watching the assigned movies outside of class. Taking notes during the viewing in and out of the class time aids in completing the assignments and participating in discussions in each session.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Overview of course objectives and expectations	Review the materials of the week. 1 hour
2	Vocabulary Acquisition and Speech Patterns	Learn new words and phrases from selected movie clips Practice mimicking speech patterns and idiomatic expressions	Review the materials of the week. 1 hour
3	Vocabulary Acquisition and Speech Patterns	Learn new words and phrases from selected movie clips Practice mimicking speech patterns and idiomatic expressions	Review the materials of the week. 1 hour
4	Cultural and Social Discussions	Discuss cultural and social themes depicted in assigned films Explore similarities and differences across cultures	Review the materials of the week. 1 hour
5	Cultural and Social Discussions	Discuss cultural and social themes depicted in assigned films Explore similarities and differences across cultures	Review the materials of the week. 1 hour
6	Drama Genre	Analyze themes, narratives, and cinematic techniques in drama films Understand film's role as an artistic reflection of society	Review the materials of the week. 1 hour
7	Drama Genre	Analyze themes, narratives, and cinematic techniques in drama films Understand film's role as an artistic reflection of society	Review the materials of the week. 1 hour
8	Midterm Review and Presentations	Review key concepts covered thus far Prepare and deliver presentations on favorite movie scenes or cultural insights	Review the materials of the week. 1 hour
9	Midterm Review and Presentations	Review key concepts covered thus far Prepare and deliver presentations on favorite movie scenes or cultural insights	Review the materials of the week. 1 hour
10	Comedy/Musical Genre	Engaging in improvisation exercises Analyzing comedic and musical scenes	Review the materials of the week. 1 hour
11	Comedy/Musical Genre	Engaging in improvisation exercises Analyzing comedic and musical sequence	Review the materials of the week. 1 hour
12	Suspense/Horror Genre	Studying cinematography and sound design in creating tension Discussing cultural influences on horror themes and motifs	Review the materials of the week. 1 hour
13	Documentary Genre	Exploring cultural diversity and global perspectives through documentaries from different regions Investigating how documentaries shed light on social, political, and environmental issues worldwide	Review the materials of the week. 1 hour
14	Genre Exploration and Practical Film Activities	Conduct a hands-on film analysis session where students analyze scenes from selected films based on themes, narrative structures, and cultural	Review the materials of the week. 1 hour

			representations.	
	15	Genre Exploration and Practical Film Activities Conlusion and Feedback	Conduct a hands-on film analysis session where students analyze scenes from selected films based on themes, narrative structures, and cultural representations. Reflection on the course and give time to receive feedback	Review the materials of the week. 1 hour

関連科目	Speaking and Writing a, Speaking and Writing bほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	指定なし※オープンソースの教材を利用する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Class participation, assignments, mid-term presentation and final project or exam account for 100% of the grade. Details will be explained during the first class session.
学生への メッセージ	Throughout the semester, we'll engage in discussions, analyze films, and participate in activities aimed at deepening our understanding of cinema and its cultural significance. Whether you're passionate about comedy, drama, suspense, or documentary, there will be something for everyone to enjoy and learn from.
担当者の 研究室等	非常勤講師室（７号館２階))
備考	

科目名	Topic Studies Ⅰb	科目名（英文）	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship.
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire the necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Improve problem-solving ability to tackle global issues. 5. Improve ability to communicate about serious issues using English.
授業方法と留意点	Through a problem-posing approach, students will be challenged to rethink dominant ideologies and how they contradict the ideas of global citizenship. This course will be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries. Please note that this course will be taught entirely in English.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	COIL Project - Exploring cultural differences (date might change)	Collaboration with Australian and Indonesian students	1. Research for information and examples related to the COIL project. 2. Prepare for online/offline communication with students abroad
6	COIL Project - Exploring cultural differences (date might change)	Collaboration with Australian and Indonesian students	1. Research for information and examples related to the COIL project. 2. Prepare for online/offline communication with students abroad
7	COIL Project - Exploring cultural differences (date might change)	Collaboration with Australian and Indonesian students	1. Research for information and examples related to the COIL project. 2. Prepare for online/offline communication with students abroad
8	COIL Project - Exploring cultural differences (date might change)	Collaboration with Australian and Indonesian students	1. Research for information and examples related to the COIL project. 2. Prepare for online/offline communication with students abroad
9	COIL Project - Exploring cultural differences (date might change)	Collaboration with Australian and Indonesian students	1. Research for information and examples related to the COIL project. 2. Prepare for online/offline communication with students abroad
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice
11	COIL Project - Exchanging opinions on WWII (date might change)	Collaboration with students at Fayetteville State University	1. Research for information and examples related to the COIL project. 2. Prepare for online/offline communication with students abroad
12	COIL Project - Exchanging opinions on WWII (date might change)	Collaboration with students at Fayetteville State University	1. Research for information and examples related to the COIL project. 2. Prepare for online/offline communication with students abroad
13	COIL Project - Exchanging opinions on WWII (date might change)	Collaboration with students at Fayetteville State University	1. Research for information and examples related to the COIL project. 2. Prepare for online/offline communication with students abroad
14	COIL Project - Exchanging opinions on WWII (date might change)	Collaboration with students at Fayetteville State University	1. Research for information and examples related to the COIL project. 2. Prepare for online/offline communication with students abroad
15	Final Reflection	Doing story circles to share the online collaboration experiences with each other.	Final reflection report

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
2			
3			

評価方法 （基準）	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Presentations: 40%
学生への メッセージ	We will be doing online exchanges with students in different countries in this course. This will be an interesting collaboration, so let's look forward to learning together. If you are not confident in your English skills, I will support you so please do not worry. Join this course if you would like to challenge yourself.
担当者の 研究室等	7 号館 3 階チュウ研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を 15 時間程度とする。

科目名	Topic Studies Ⅰb	科目名（英文）	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate many critical social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果（資格）	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
2	Unit exercises - Japan's LGBTs	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
3	Unit exercises - Japan's LGBTs	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
4	Unit exercises－Sexism and gender roles	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
5	Unit exercises－Sexism and gender roles	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
6	Unit exercises - Sleeping	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
7	Unit exercises - Sleeping	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
8	Unit exercises - Japan's population crisis	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
9	Unit exercises - Japan's population crisis	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
10	Unit exercises - Parasite singles	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
11	Unit exercises - J-pop	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
12	Unit exercises - Cosmetic surgery and physical appearance	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)

関連科目	トピックスタディーズⅡなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN'UN-DO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, read up on lessons, and do their homework will achieve the most.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies Ⅰb	科目名（英文）	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	花房　ともえ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	英米のアーティストを題材した文章を読み聞き、演習を通じて読解力やリスニング力の強化を図る。また学習した表現を使って自分の考えを英語で発信する基礎づくりをする。
到達目標	(1) 楽曲・アーティストに関する事柄・背景・歴史を理解する。 (2) 予習した内容や疑問点を整理し、積極的に授業に参加する。 (3) 学習した概念や表現を用いて、自分の考えや感想を英語で表現できるようになる。
授業方法と留意点	（1）事前にテキストの単語を調べ、各 Chapter の Reading Comprehension を読んでくることを課題とする。必ず準備をして授業に臨むこと。 （2）これらの課題をもとに質問形式で内容を確認する演習型の授業を行う。 （3）毎回紙の辞書または電子辞書を持ってくること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・目的、評価などについて説明を行う。	講義の復習・課題など（１時間）
2	Chapter 1	Michael Jackson	予習：Chapter 1［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
3	Chapter ２	The Beatles	予習：Chapter 2 ［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
4	Chapter ３	Beyonce	予習：Chapter 3 ［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
5	Chapter ４	Stevie Wonder	予習：Chapter 4 ［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
6	Chapter ５	The Eagles & The Beach Boys	予習：Chapter 5 ［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
7	Chapter ６	Madonna	予習：Chapter 6［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
8	中間まとめテスト	Chapter 1～６の復習テストを行う。	Chapter 1～６の復習 講義の復習・課題など（１時間）
9	Chapter 7	ABBA	予習：Chapter 7 ［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
10	Chapter 8	Adele	予習：Chapter 8［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
11	Chapter 9	Susan Boyle	予習：Chapter 9 ［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
12	Chapter 10	Lady Gaga	予習:Chapter 10 ［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
13	Chapter 11	Whitney Houston	予習:Chapter 11 ［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
14	Chapter 12	Aerosmith	予習:Chapter 12 ［Part 7 Reading Comprehension］ 講義の復習・課題など（１時間）
15	期末まとめテスト	Chapter ７～１２の復習テストを行う。	Chapter ７～１２の復習 講義の復習・課題など（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポップ・ミュージック・ワールド	本多吉彦 / 狩野紀子 / 土屋武久 / Christopher Piper	三修社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	(1)授業時間内の学習活動参加度、小テスト、課題、提出物等　６０％ (2)中間・期末のまとめテスト　４０％ 詳しくは１回目の授業でプリントを配布し説明をする。
学生へのメッセージ	予習・復習は必ず行うこと。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	中国語で読み解くⅠ	科目名（英文）	Chinese Reading Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1650e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが，２年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に，より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験４級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で６割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	１年次後期の中国語科目「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」は１冊の教科書を３科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解くⅠ」で奇数課，「表現するⅠ」で偶数課を学び，これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話するⅠ」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで３科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し，それぞれの基準で成績を評価する。しかし，実質上３科目を１つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単元テスト以外に授業ごとに小テストを行うことがある。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級および４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一課 発音編１	声調／単母音／複母音	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
2	第六課 お名前は（1）	姓名の言い方／“ne”／呼びかけのことば／“ba”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
3	第六課 お名前は（2）	本文・会話練習ｐ48～49（氏名と職業の紹介）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
4	第九課 おいくつ（1）	数詞／年齢の言い方／量詞／“有”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
5	第九課 おいくつ（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
6	第九課 おいくつ（3）	会話練習ｐ66～67（親族の言い方・数え方）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
7	第十四課 中秋節（1）	年月日・曜日の言い方／“快～了”／“了”（文末の了）／前置詞の“跟”／“一辺～一辺～”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
8	第十四課 中秋節（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
9	第十四課 中秋節（3）	会話練習ｐ96～97（カレンダー・中国の伝統祝日）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
10	第十六課 手作り料理（1）	助動詞の“会”／結果補語／“不”と“没”／方位詞	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
11	第十六課 手作り料理（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
12	第十六課 手作り料理（3）	会話練習ｐ108～109（いろいろなスポーツ）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
13	第十九課 おみやげ（1）	“有点儿”と“一点儿”／進行の表し方／“是～的”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
14	第十九課 おみやげ（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
15	第十九課 おみやげ（3）	会話練習ｐ126～127（リビングルーム・各種動作その２）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずです。
担当者の 研究室等	中西（7 号館 3 階中西研究室） 欒（7 号館 2 階非常勤控室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室または非常勤講師室を訪ねること。

科目名	中国語で読み解くⅠ	科目名（英文）	Chinese Reading Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1650e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが，２年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に，より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験４級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で６割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	１年次後期の中国語科目「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」は１冊の教科書を３科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解くⅠ」で奇数課，「表現するⅠ」で偶数課を学び，これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話するⅠ」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで３科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し，それぞれの基準で成績を評価する。しかし，実質上３科目を１つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単元テスト以外に授業ごとに小テストを行うことがある。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級および４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一課 発音編１	声調／単母音／複母音	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
2	第六課 お名前は（1）	姓名の言い方／“ne”／呼びかけのことば／“ba”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
3	第六課 お名前は（2）	本文・会話練習ｐ48～49（氏名と職業の紹介）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
4	第九課 おいくつ（1）	数詞／年齢の言い方／量詞／“有”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
5	第九課 おいくつ（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
6	第九課 おいくつ（3）	会話練習ｐ66～67（親族の言い方・数え方）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
7	第十四課 中秋節（1）	年月日・曜日の言い方／“快～了”／“了”（文末の了）／前置詞の“跟”／“一辺～一辺～”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
8	第十四課 中秋節（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
9	第十四課 中秋節（3）	会話練習ｐ96～97（カレンダー・中国の伝統祝日）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
10	第十六課 手作り料理（1）	助動詞の“会”／結果補語／“不”と“没”／方位詞	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
11	第十六課 手作り料理（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
12	第十六課 手作り料理（3）	会話練習ｐ108～109（いろいろなスポーツ）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
13	第十九課 おみやげ（1）	“有点儿”と“一点儿”／進行の表し方／“是～的”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
14	第十九課 おみやげ（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
15	第十九課 おみやげ（3）	会話練習ｐ126～127（リビングルーム・各種動作その２）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずです。
担当者の 研究室等	中西（7 号館 3 階中西研究室） 欒（7 号館 2 階非常勤控室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室または非常勤講師室を訪ねること。

科目名	中国語で表現するⅠ	科目名（英文）	Chinese Expressions I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1651e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが，２年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に，より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験４級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で６割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	１年次後期の中国語科目「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」は１冊の教科書を３科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解くⅠ」で奇数課，「表現するⅠ」で偶数課を学び，これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話するⅠ」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで３科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し，それぞれの基準で成績を評価する。しかし，実質上３科目を１つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単元テスト以外に授業ごとに小テストを行うことがある。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級および４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第二課 発音編２	声母表／無気音と有気音／そり舌音／消えるｏとｅ／同じｉでも違う音	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
2	第四課 発音編４	第３声＋第３声→第２声＋第３声／不の声調変化／一の声調変化／軽声／声調の組み合せ／隔音マーク／ｒ化	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
3	第七課 ご出身は（1）	指示代名詞「こそあど」／“的”／“都”と“也”／動詞述語文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
4	第七課 ご出身は（2）	本文・会話練習 p54～55（各種動作その1）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
5	第十課 和食はいかが（1）	“過”guo／“請”qing／“還是”haishi／形容詞述語文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
6	第十課 和食はいかが（2）	本文・会話練習ｐ72～73（いろいろな食べ物・形容表現その1）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
7	第十二課 買い物（1）	助動詞“可以”／動詞の重ね型／方向補語／連動文／お金の言い方	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
8	第十二課 買い物（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
9	第十二課 買い物（3）	会話練習ｐ84～85（衣服と値段）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
10	第十五課 食事の前は（1）	時刻の言い方／時間量の言い方／禁止表現“別”／“挺”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
11	第十五課 食事の前は（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
12	第十五課 食事の前は（3）	会話練習ｐ102～103（一日の日程）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
13	第十八課 スキー場で（1）	前置詞の“用”／“一下”／二重目的語をとる動詞	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
14	第十八課 スキー場で（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
15	第十八課 スキー場で（3）	会話練習ｐ120～121（身体部位・各種症状）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。

関連科目：「中国語で読み解くⅠ」「中国語で会話するⅠ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%″
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずです。
担当者の 研究室等	中西（7 号館 3 階研究室） 大西・曹（7 号館 2 階非常勤講師控室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室または非常勤講師室を訪ねること。

科目名	中国語で表現するⅠ	科目名（英文）	Chinese Expressions I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1651e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが，２年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に，より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験４級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で６割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	１年次後期の中国語科目「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」は１冊の教科書を３科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解くⅠ」で奇数課，「表現するⅠ」で偶数課を学び，これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話するⅠ」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで３科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し，それぞれの基準で成績を評価する。しかし，実質上３科目を１つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単元テスト以外に授業ごとに小テストを行うことがある。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級および４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第二課 発音編２	声母表／無気音と有気音／そり舌音／消えるｏとｅ／同じｉでも違う音	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
2	第四課 発音編４	第３声＋第３声→第２声＋第３声／不の声調変化／一の声調変化／軽声／声調の組み合せ／隔音マーク／ｒ化	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
3	第七課 ご出身は（1）	指示代名詞「こそあど」／“的”／“都”と“也”／動詞述語文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
4	第七課 ご出身は（2）	本文・会話練習 p54～55（各種動作その1）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
5	第十課 和食はいかが（1）	“過”guo／“請”qing／“還是”haishi／形容詞述語文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
6	第十課 和食はいかが（2）	本文・会話練習ｐ72～73（いろいろな食べ物・形容表現その1）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
7	第十二課 買い物（1）	助動詞“可以”／動詞の重ね型／方向補語／連動文／お金の言い方	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
8	第十二課 買い物（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
9	第十二課 買い物（3）	会話練習ｐ84～85（衣服と値段）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
10	第十五課 食事の前は（1）	時刻の言い方／時間量の言い方／禁止表現“別”／“挺”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
11	第十五課 食事の前は（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
12	第十五課 食事の前は（3）	会話練習ｐ102～103（一日の日程）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
13	第十八課 スキー場で（1）	前置詞の“用”／“一下”／二重目的語をとる動詞	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
14	第十八課 スキー場で（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
15	第十八課 スキー場で（3）	会話練習ｐ120～121（身体部位・各種症状）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。

関連科目：「中国語で読み解くⅠ」「中国語で会話するⅠ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%″
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずです。
担当者の 研究室等	中西（7 号館 3 階研究室） 大西・曹（7 号館 2 階非常勤講師控室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室または非常勤講師室を訪ねること。

科目名	中国語で表現するⅠ	科目名（英文）	Chinese Expressions I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1651e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが，２年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に，より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験４級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で６割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	１年次後期の中国語科目「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」は１冊の教科書を３科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解くⅠ」で奇数課，「表現するⅠ」で偶数課を学び，これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話するⅠ」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで３科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し，それぞれの基準で成績を評価する。しかし，実質上３科目を１つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単元テスト以外に授業ごとに小テストを行うことがある。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級および４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第二課 発音編２	声母表／無気音と有気音／そり舌音／消えるｏとｅ／同じｉでも違う音	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
2	第四課 発音編４	第３声＋第３声→第２声＋第３声／不の声調変化／一の声調変化／軽声／声調の組み合せ／隔音マーク／ｒ化	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
3	第七課 ご出身は（1）	指示代名詞「こそあど」／“的”／“都”と“也”／動詞述語文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
4	第七課 ご出身は（2）	本文・会話練習 p54～55（各種動作その1）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
5	第十課 和食はいかが（1）	“過”guo／“請”qing／“還是”haishi／形容詞述語文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
6	第十課 和食はいかが（2）	本文・会話練習ｐ72～73（いろいろな食べ物・形容表現その1）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
7	第十二課 買い物（1）	助動詞“可以”／動詞の重ね型／方向補語／連動文／お金の言い方	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
8	第十二課 買い物（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
9	第十二課 買い物（3）	会話練習ｐ84～85（衣服と値段）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
10	第十五課 食事の前は（1）	時刻の言い方／時間量の言い方／禁止表現“別”／“挺”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
11	第十五課 食事の前は（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
12	第十五課 食事の前は（3）	会話練習ｐ102～103（一日の日程）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
13	第十八課 スキー場で（1）	前置詞の“用”／“一下”／二重目的語をとる動詞	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
14	第十八課 スキー場で（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
15	第十八課 スキー場で（3）	会話練習ｐ120～121（身体部位・各種症状）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。

関連科目	「中国語で読み解くⅠ」「中国語で会話するⅠ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%″
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずです。
担当者の 研究室等	中西（7 号館 3 階研究室） 大西・曹（7 号館 2 階非常勤講師控室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で会話するⅠ	科目名（英文）	Chinese Conversation I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	左　虹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1652e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが，２年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に，より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験４級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で６割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	１年次後期の中国語科目「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」は１冊の教科書を３科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解くⅠ」で奇数課，「表現するⅠ」で偶数課を学び，これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話するⅠ」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで３科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し，それぞれの基準で成績を評価する。しかし，実質上３科目を１つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単元テスト以外に授業ごとに小テストを行うことがある。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級および４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第三課 発音編３	鼻音（-n，-ng）を伴う母音／またしても消えるｅ／ｅのヴァリエーション	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
2	第五課 どうぞよろしく（1）	人称代名詞／挨拶ことば／“是”／“ma”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
3	第五課 どうぞよろしく（2）	本文・会話練習ｐ42～43（国名、紹介）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
4	第八課 飲み物は（1）	疑問詞／助動詞の“想”／反復疑問文／“喜歡”xihuan	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
5	第八課 飲み物は（2）	本文・会話練習ｐ60～61（喫茶店の飲み物と食べ物）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
6	第十一課 家庭訪問（1）	助動詞の“要”／主述述語文／比較の言い方／前置詞の“給”gei	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
7	第十一課 家庭訪問（2）	本文・会話練習ｐ78～78（形容表現その2）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
8	第十三課 道案内（1）	“怎麼”／前置詞の“離”“从”“往”／“得”（助動詞）／動詞の“在”／動詞のあとの“了”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
9	第十三課 道案内（2）	本文・会話練習ｐ90～91（乗り物と駅前の建物）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
10	第十七課 カニの季節（1）	助動詞“能”／前置詞の“在”／“再”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
11	第十七課 カニの季節（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
12	第十七課 カニの季節（3）	会話練習ｐ114～115（禁止マーク・いろいろな会社）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
13	第二十課 空港まで（1）	“把”構文／“被”構文／存現文／“祝”祈る言葉	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
14	第二十課 空港まで（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
15	第二十課 空港まで（3）	会話練習ｐ132～133（各種動作その３・自然現象）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。

関連科目：「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト：50% 単元テスト：50%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずです。
担当者の 研究室等	左・欒（7 号館 2 階非常勤講師控室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室または非常勤講師室を訪ねること。

科目名	中国語で会話するⅠ	科目名（英文）	Chinese Conversation I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1652e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが，２年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に，より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験４級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で６割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	１年次後期の中国語科目「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」は１冊の教科書を３科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解くⅠ」で奇数課，「表現するⅠ」で偶数課を学び，これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話するⅠ」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで３科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し，それぞれの基準で成績を評価する。しかし，実質上３科目を１つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単元テスト以外に授業ごとに小テストを行うことがある。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級および４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第三課 発音編３	鼻音（-n，-ng）を伴う母音／またしても消えるｅ／ｅのヴァリエーション	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
2	第五課 どうぞよろしく（1）	人称代名詞／挨拶ことば／“是”／“ma”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
3	第五課 どうぞよろしく（2）	本文・会話練習ｐ42～43（国名、紹介）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
4	第八課 飲み物は（1）	疑問詞／助動詞の“想”／反復疑問文／“喜歡”xihuan	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
5	第八課 飲み物は（2）	本文・会話練習ｐ60～61（喫茶店の飲み物と食べ物）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
6	第十一課 家庭訪問（1）	助動詞の“要”／主述述語文／比較の言い方／前置詞の“給”gei	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
7	第十一課 家庭訪問（2）	本文・会話練習ｐ78～78（形容表現その2）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
8	第十三課 道案内（1）	“怎麼”／前置詞の“離”“从”“往”／“得”（助動詞）／動詞の“在”／動詞のあとの“了”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
9	第十三課 道案内（2）	本文・会話練習ｐ90～91（乗り物と駅前の建物）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
10	第十七課 カニの季節（1）	助動詞“能”／前置詞の“在”／“再”	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
11	第十七課 カニの季節（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
12	第十七課 カニの季節（3）	会話練習ｐ114～115（禁止マーク・いろいろな会社）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
13	第二十課 空港まで（1）	“把”構文／“被”構文／存現文／“祝”祈る言葉	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
14	第二十課 空港まで（2）	新出単語・本文	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。
15	第二十課 空港まで（3）	会話練習ｐ132～133（各種動作その３・自然現象）	指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（１時間）。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること（１時間）。

関連科目：「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト：50% 単元テスト：50%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずです。
担当者の 研究室等	左・欒（7 号館 2 階非常勤講師控室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室または非常勤講師室を訪ねること。

科目名	スペイン語文法Ⅰ	科目名（英文）	Spanish Grammar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大久保　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1660e0		

授業概要・目的	スペイン語は、スペインやラテンアメリカを中心に、4億人を超える人びとが用い、20カ国の公用語となっている国際語です。国連の公用語でもあります。同じスペイン語圏でも歴史、文化、暮らしぶりは多様で、地域差のある文化に親しんだり経験したりできる点は、スペイン語学習の醍醐味の一つといえます。この授業ではスペイン語の基礎文法を学びます。アルファベットと発音から始め、直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解し、短文を正確に読み書きできる力を養います。
到達目標	スペイン語の基礎的な文法事項のうち、名詞の性・数に基づいて冠詞や形容詞を正しく用いることができるようになること、および動詞の直説法現在の活用を正確に身につけ、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができるようになることを目標とします。そうして、スペイン語の4技能を徐々に身につけていきます。
授業方法と留意点	教科書の第６課までを学習範囲とし、練習問題を通じてスペイン語文法の基礎的理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。 ・各課の最初のページに掲載されている対話文を暗唱すること。
科目学習の効果（資格）	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 発音とアクセントの規則	アルファベット、母音と子音の発音、音節の分け方とアクセントの規則	教科書を読み、音声を聴く。授業後には学習した語彙を実際に発音してみる。(1時間)
2	第１課	あいさつ表現、基本的な疑問詞、主語の人称代名詞、定冠詞	教科書第１課文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。授業後には練習問題を解く。(1時間)
3	第１課、第２課	名詞の性と数、数詞（０～１５）、不定冠詞、形容詞の語尾変化	教科書第１課対話文と第2課文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。授業後には練習問題を解く。数詞を暗記する。(1時間)
4	第２課	接続詞 y と o、感嘆文、数詞（１６～３０）	第２課の対話文を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。数詞を暗記する。授業後には第１課と２課を総復習し小テストに備える。(1時間)
5	第１課と第２課の小テスト①と解説	重要ポイント： 音節の分け方とアクセントの規則、名詞の性・数に応じた冠詞と形容詞の用い方、主語の人称代名詞	テスト後の見直し。(1時間)
6	第３課	動詞 ser と estar	教科書第３課の文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。授業後には動詞 ser と estar の現在形を暗記し、練習問題を解く。(1時間)
7	第３課、第４課	hay の用法、所有形容詞（前置形）、時刻の尋ね方・表し方	教科書第３課の対話文と第４課の文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。数詞（０～３０）を暗記する。授業後には練習問題を解く。
8	第４課	指示形容詞、指示代名詞、否定文、前置詞のまとめ	教科書第４課の対話文を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。授業後には第３課と第４課を総復習し小テストに備える。(1時間)
9	第３課と第４課の小テスト②と解説	重要ポイント:動詞 ser と estar の使い分けと主語の人称代名詞に対応した活用、動詞 estar と hay の使い分け	テスト後の見直し。(1時間)
10	第５課	－ar 動詞、－er 動詞、－ir 動詞の現在形規則活用	教科書第５課の文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。規則活用を正確に習得し、授業後には練習問題を解く。(1時間)
11	第５課	acabar de＋動詞の原形、天候表現	教科書第５課の対話文を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。授業後には練習問題を解く。(1時間)
12	第６課	不規則動詞（一人称単数のみ不規則な動詞、語幹母音変化動詞）	教科書第６課の文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。不規則活用を正確に習得し、授業後には練習問題を解く。(1時間)
13	第６課	不規則動詞（一人称及び nosotros/vosotros 以外が語幹が変化、その他の不規則動詞）	教科書第６課の対話文を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。不規則活用を正確に習得し、授業後には第５課と第６課を総復習し小テストに備える。(1時間)
14	第５課と第６課の小テスト③ 総復習と質疑応答	重要ポイント:現在形の規則活用と非規則活用を正確に暗記する。学習範囲を丁寧に見直し、疑問点をすべて明らかにする。	テスト後の見直し。学習した文法項目の総復習を行い、理解度確認試験に備える。(1時間)
15	理解度確認試験と解説	理解度確認試験の実施と解説。学期を通じた理解度の確認と要点の復習	全学習範囲の総復習を行い、「スペイン語文法Ⅱ」での継続学習に繋げる。(1時間)

関連科目	スペイン語表現　　スペイン語会話Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エッセンシャル　初級スペイン語	柏木典子　他	三修社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
2	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
3			

評価方法 （基準）	臨時試験（小テストと期末の理解度確認試験） 80%、課題 20%
学生への メッセージ	・まず辞書（中古で結構です）を入手し使いこなす姿勢が必要です。最初は参考書欄の１に挙げたコンパクトな辞書で十分です。スペイン語を継続学修しようと決めたら、２に挙げた本格的な辞書に切り替えるとよいでしょう（始めからこちらを使用するのが最善策ですが）。 ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切にして地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（授業時間以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、間違いを恐れず能動的に楽しく学ぶ姿勢を持ち続けることが大切です。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 ・授業内で行う試験についてはすべて、返却後、解答の提示と解説を受ける。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を準備しておき、解説を受ける。 ・授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じ得ます。

科目名	スペイン語文法Ⅰ	科目名（英文）	Spanish Grammar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野　吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1660e0		

授業概要・目的	スペイン語は、スペインやラテンアメリカを中心に、4億人を超える人びとが用い、20カ国の公用語となっている国際語です。国連の公用語でもあります。同じスペイン語圏でも歴史、文化、暮らしぶりは多様で、地域差のある文化に親しんだり経験したりできる点は、スペイン語学習の醍醐味の一つといえます。この授業ではスペイン語の基礎文法を学びます。アルファベットと発音から始め、直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解し、短文を正確に読み書きできる力を養います。
到達目標	スペイン語の基礎的な文法事項のうち、名詞の性・数に基づいて冠詞や形容詞を正しく用いることができるようになること、および動詞の直説法現在の活用を正確に身につけ、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができるようになることを目標とします。そうして、スペイン語の4技能を徐々に身につけていきます。
授業方法と留意点	教科書の第６課までを学習範囲とし、練習問題を通じてスペイン語文法の基礎的理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。 ・各課の最初のページに掲載されている対話文を暗唱すること。
科目学習の効果（資格）	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 発音とアクセントの規則	アルファベット、母音と子音の発音、音節の分け方とアクセントの規則	教科書を読み、音声を聴く。授業後には学習した語彙を実際に発音してみる。(1時間)
2	第１課	あいさつ表現、基本的な疑問詞、主語の人称代名詞、定冠詞	教科書第１課文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。授業後には練習問題を解く。(1時間)
3	第１課、第２課	名詞の性と数、数詞（０～１５）、不定冠詞、形容詞の語尾変化	教科書第１課対話文と第2課文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。授業後には練習問題を解く。数詞を暗記する。(1時間)
4	第２課	接続詞 y と o、感嘆文、数詞（１６～３０）	第２課の対話文を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。数詞を暗記する。授業後には第１課と２課を総復習し小テストに備える。(1時間)
5	第１課と第２課の小テスト①と解説	重要ポイント： 音節の分け方とアクセントの規則、名詞の性・数に応じた冠詞と形容詞の用い方、主語の人称代名詞	テスト後の見直し。(1時間)
6	第３課	動詞 ser と estar	教科書第３課の文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。授業後には動詞 ser と estar の現在形を暗記し、練習問題を解く。(1時間)
7	第３課、第４課	hay の用法、所有形容詞（前置形）、時刻の尋ね方・表し方	教科書第３課の対話文と第４課の文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。数詞（０～３０）を暗記する。授業後には練習問題を解く。
8	第４課	指示形容詞、指示代名詞、否定文、前置詞のまとめ	教科書第４課の対話文を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。授業後には第３課と第４課を総復習し小テストに備える。(1時間)
9	第３課と第４課の小テスト②と解説	重要ポイント:動詞 ser と estar の使い分けと主語の人称代名詞に対応した活用、動詞 estar と hay の使い分け	テスト後の見直し。(1時間)
10	第５課	－ar 動詞、－er 動詞、－ir 動詞の現在形規則活用	教科書第５課の文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。規則活用を正確に習得し、授業後には練習問題を解く。(1時間)
11	第５課	acabar de＋動詞の原形、天候表現	教科書第５課の対話文を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。授業後には練習問題を解く。(1時間)
12	第６課	不規則動詞（一人称単数のみ不規則な動詞、語幹母音変化動詞）	教科書第６課の文法を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。不規則活用を正確に習得し、授業後には練習問題を解く。(1時間)
13	第６課	不規則動詞（一人称及び nosotros/vosotros 以外が語幹が変化、その他の不規則動詞）	教科書第６課の対話文を読みながら音声を聴き、意味を調べておく。不規則活用を正確に習得し、授業後には第５課と第６課を総復習し小テストに備える。(1時間)
14	第５課と第６課の小テスト③ 総復習と質疑応答	重要ポイント:現在形の規則活用と非規則活用を正確に暗記する。学習範囲を丁寧に見直し、疑問点をすべて明らかにする。	テスト後の見直し。学習した文法項目の総復習を行い、理解度確認試験に備える。(1時間)
15	理解度確認試験と解説	理解度確認試験の実施と解説。学期を通じた理解度の確認と要点の復習	全学習範囲の総復習を行い、「スペイン語文法Ⅱ」での継続学習に繋げる。(1時間)

関連科目	スペイン語表現　　スペイン語会話Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エッセンシャル　初級スペイン語	柏木典子　他	三修社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
2	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
3			

評価方法 （基準）	臨時試験（小テストと期末の理解度確認試験） 80%、課題 20%
学生への メッセージ	・まず辞書（中古で結構です）を入手し使いこなす姿勢が必要です。最初は参考書欄の１に挙げたコンパクトな辞書で十分です。スペイン語を継続学修しようと決めたら、２に挙げた本格的な辞書に切り替えるとよいでしょう（始めからこちらを使用するのが最善策ですが）。 ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切にして地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（授業時間以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、間違いを恐れず能動的に楽しく学ぶ姿勢を持ち続けることが大切です。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 ・授業内で行う試験についてはすべて、返却後、解答の提示と解説を受ける。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を準備しておき、解説を受ける。 ・授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じ得ます。

科目名	スペイン語表現	科目名（英文）	Spanish Expressions
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大久保　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1661e0		

授業概要・目的	スペイン語の発音および語彙を集中的に学ぶ。いわゆる素読は、外国語教育・学修において根幹をなす。 毎回の暗記・暗唱を通して、スペイン語の基礎文法を体得する。 語彙も正確に適切に使えるよう、ニュアンスを含めた語義解釈を文章理解を通して行う。
到達目標	文字レベルの正確な発音と語レベルの強勢、および文の抑揚への意識を高める。 モデルとなる文をしっかり記憶し、語彙を変えるなどして、異なる文を作れるようになる。
授業方法と留意点	しっかりと発声し筆記すること、文や語彙を正確に覚えて（声でも文字でも）再現することを目指すため、毎回きちんと予習・暗記した状態で授業に臨むこと。毎課、暗記・暗唱テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	すべての学習の基礎たる暗記・暗唱、予習・自習・復習を徹底すること。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の説明 簡単な語彙とその発音	テキストを購入しておくこと 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
2	はじめに アルファベット	簡単な語彙とその発音	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
3	はじめに 発音	簡単な語彙とその発音 母音、子音、音節、アクセント	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
4	第１課 名詞	名詞の性・数、定冠詞、不定冠詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
5	第２課 動詞 ser	主語人称代名詞、ser、国籍・出身の言い方、疑問文・否定文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
6	第３課 動詞 estar	estar、所有形容詞、前置詞＋定冠詞、直説法現在規則活用動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
7	第１～３課 復習	第１～３課の内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
8	筆記テスト	第１～3 課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
9	第４課 形容詞	形容詞、ser/estar＋形容詞、直接目的語と前置詞 a、ir と venir、ir a +不定詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
10	第５課 不規則活用動詞	不規則活用動詞 conocer/saber、hacer、指示形容詞、指示代名詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
11	第６課 tenerr 型動詞	tener, tener que +不定詞、前置詞格人称代名詞、中性指示代名詞、基数、mente 副詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
12	第４～６課 復習	第４～６課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
13	第４～６課 復習	第４～６課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
14	筆記テスト	第４～６課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
15	テストの解説 本科目の振り返り	何がどこまで覚えられたか、できるようになったかを考える	語句・文の意味を辞書で調べ覚える

関連科目	スペイン語の科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語パスポート	西川喬	弘学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（ポケット）プログレッシブ西和・和西辞典		小学館
2			
3			

評価方法（基準）	暗記・暗唱の小テスト３０％　＋　中間・期末の筆記テスト７０％
学生へのメッセージ	言語は文字である以前に音声です。この事実を思い出してください。チャットやメールなどの視覚媒体に偏ったコミュニケーションのありように気づくことが、おそらく語学の第一歩です。本科目は、よく聴き、よく覚え、よく唱えることを基礎にします。
担当者の研究室等	７号館２階　講師控室
備考	授業内容および進捗は、あくまでも計画です。クラスの規模や理解度に応じて、随時計画を修正・変更します。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上を要する。辞書を用意すること（ここに挙げたものをはじめ、初回授業時にいくつか紹介する）。

科目名	スペイン語表現	科目名（英文）	Spanish Expressions
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1661e0		

授業概要・目的	スペイン語の発音および語彙を集中的に学ぶ。いわゆる素読は、外国語教育・学修において根幹をなす。 毎回の暗記・暗唱を通して、スペイン語の基礎文法を体得する。 語彙も正確に適切に使えるよう、ニュアンスを含めた語義解釈を文章理解を通して行う。
到達目標	文字レベルの正確な発音と語レベルの強勢、および文の抑揚への意識を高める。 モデルとなる文をしっかり記憶し、語彙を変えるなどして、異なる文を作れるようになる。
授業方法と留意点	しっかりと発声し筆記すること、文や語彙を正確に覚えて（声でも文字でも）再現することを目指すため、毎回きちんと予習・暗記した状態で授業に臨むこと。毎課、暗記・暗唱テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	すべての学習の基礎たる暗記・暗唱、予習・自習・復習を徹底すること。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の説明 簡単な語彙とその発音	テキストを購入しておくこと 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
2	はじめに アルファベット	簡単な語彙とその発音	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
3	はじめに 発音	簡単な語彙とその発音 母音、子音、音節、アクセント	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
4	第１課 名詞	名詞の性・数、定冠詞、不定冠詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
5	第２課 動詞 ser	主語人称代名詞、ser、国籍・出身の言い方、疑問文・否定文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
6	第３課 動詞 estar	estar、所有形容詞、前置詞＋定冠詞、直説法現在規則活用動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
7	第１～３課 復習	第１～３課の内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
8	筆記テスト	第１～3 課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
9	第４課 形容詞	形容詞、ser/estar＋形容詞、直接目的語と前置詞 a、ir と venir、ir a +不定詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
10	第５課 不規則活用動詞	不規則活用動詞 conocer/saber、hacer、指示形容詞、指示代名詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
11	第６課 tenerr 型動詞	tener, tener que +不定詞、前置詞格人称代名詞、中性指示代名詞、基数、mente 副詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
12	第４～６課 復習	第４～６課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
13	第４～６課 復習	第４～６課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
14	筆記テスト	第４～６課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
15	テストの解説 本科目の振り返り	何がどこまで覚えられたか、できるようになったかを考える	語句・文の意味を辞書で調べ覚える

関連科目	スペイン語の科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語パスポート	西川喬	弘学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（ポケット）プログレッシブ西和・和西辞典		小学館
2			
3			

評価方法（基準）	暗記・暗唱の小テスト３０％　＋　中間・期末の筆記テスト７０％
学生へのメッセージ	言語は文字である以前に音声です。この事実を思い出してください。チャットやメールなどの視覚媒体に偏ったコミュニケーションのありように気づくことが、おそらく語学の第一歩です。本科目は、よく聴き、よく覚え、よく唱えることを基礎にします。
担当者の研究室等	講師控室（７号館２階）
備考	授業内容および進捗は、あくまでも計画です。クラスの規模や理解度に応じて、随時計画を修正・変更します。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上を要する。辞書を用意すること（ここに挙げたものをはじめ、初回授業時にいくつか紹介する）。

科目名	スペイン語会話Ⅰ	科目名（英文）	Spanish Conversation Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	モンセラート　ロイデ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1662e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸にまたがる広域かつ多様な文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語文法Ⅰ」で学びつつある文法の知識を活かしながら、日常的によく使う表現をまずは身につける。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを実践する。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な問いかけや応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言すること。疑問点があれば何なりと質問し、理解できるまで説明を求めること。必要に応じて小テストを実施する。以下に示す授業計画は目安であり、履修生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unidad 1: Hola, como te llamas?	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 あいさつ表現；クラスで使う表現	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad 1: Hola, como te llamas?	アクセントのルール 単語の発音練習 級友とあいさつを交わす。	第１課の前半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
3	Unidad 1: Hola, como te llamas?	地図を見ながらスペイン語圏を確認：イスパノアメリカ諸国の国名と位置およびスペインの 17 自治州 pp.6-10 の活動	第１課の後半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
4	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	主語になる人称代名詞 国籍・職業を表す語 疑問詞、指示詞	第２課の前半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
5	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	pp.16-20 の活動	第２課の後半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
6	Unidad 3: Mi universidad	定冠詞と不定冠詞 所有詞 動詞 ser, estar	第３課の前半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
7	Unidad 3: Mi universidad	pp.26-30 の活動	第３課の後半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
8	Repaso y presentacion ここまでの復習と理解度確認	復習と理解度確認中間テストまたはプレゼンテーション	第 3 課までで学習したことを声に出して反復練習し、既出の語彙の意味を再確認する。プレゼンの準備をする。
9	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	動詞の現在形 Presente de indicativo 疑問詞	第４課の前半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
10	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	数字（11-30） 時刻の表現 前置詞 pp.34-36 の活動	第４課の後半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
11	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	pp.37-40 の活動	第4課全般で学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
12	Unidad 5: La familia	指示詞 所有詞 pp.41-43 の活動	第５課の後半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
13	Unidad 5: La familia	動詞 tener 数字（30-100） pp.44-46 の活動	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
14	Unidad 5: La familia	人の記述 pp.47-50 の活動	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
15	Repaso y examen oral final 理解度確認テスト	これまでの総復習と目標達成度確認 これまでに学習した事項や表現の復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語文法Ⅰ、スペイン語表現

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Muy Bien! 1（いいね！スペイン語）	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。

（基準）	授業における課題（50%）期末試験　(50%)から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)
学生への メッセージ	スペイン語は日本語話者にとって聞き取りも発話もとても簡単な言語です。教員とも同級生とも積極的に対話してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間数として 15 時間以上を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に解説を行う。

科目名	スペイン語会話Ⅰ	科目名（英文）	Spanish Conversation Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘスス　マルティン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1662e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸にまたがる広域かつ多様な文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語文法Ⅰ」で学びつつある文法の知識を活かしながら、日常的によく使う表現をまずは身につける。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを実践する。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な問いかけや応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言すること。疑問点があれば何なりと質問し、理解できるまで説明を求めること。必要に応じて小テストを実施する。以下に示す授業計画は目安であり、履修生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unidad 1: Hola, como te llamas?	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 あいさつ表現；クラスで使う表現	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad 1: Hola, como te llamas?	アクセントのルール 単語の発音練習 級友とあいさつを交わす。	第１課の前半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
3	Unidad 1: Hola, como te llamas?	地図を見ながらスペイン語圏を確認：イスパノアメリカ諸国の国名と位置およびスペインの 17 自治州 pp.6-10 の活動	第１課の後半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
4	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	主語になる人称代名詞 国籍・職業を表す語 疑問詞、指示詞	第２課の前半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
5	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	pp.16-20 の活動	第２課の後半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
6	Unidad 3: Mi universidad	定冠詞と不定冠詞 所有詞 動詞 ser, estar	第３課の前半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
7	Unidad 3: Mi universidad	pp.26-30 の活動	第３課の後半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
8	Repaso y presentacion ここまでの復習と理解度確認	復習と理解度確認中間テストまたはプレゼンテーション	第 3 課までで学習したことを声に出して反復練習し、既出の語彙の意味を再確認する。プレゼンの準備をする。
9	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	動詞の現在形 Presente de indicativo 疑問詞	第４課の前半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
10	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	数字（11-30） 時刻の表現 前置詞 pp.34-36 の活動	第４課の後半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
11	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	pp.37-40 の活動	第4課全般で学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
12	Unidad 5: La familia	指示詞 所有詞 pp.41-43 の活動	第５課の後半５ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
13	Unidad 5: La familia	動詞 tener 数字（30-100） pp.44-46 の活動	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
14	Unidad 5: La familia	人の記述 pp.47-50 の活動	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
15	Repaso y examen oral final 理解度確認テスト	これまでの総復習と目標達成度確認 これまでに学習した事項や表現の復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語文法Ⅰ、スペイン語表現

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Muy Bien! 1（いいね！スペイン語）	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。

（基準）	授業における課題（50%）期末試験　(50%)から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)
学生への メッセージ	スペイン語は日本語話者にとって聞き取りも発話もとても簡単な言語です。教員とも同級生とも積極的に対話してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間数として 15 時間以上を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に解説を行う。

科目名	インドネシア語文法	科目名（英文）	Indonesian Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1670e0		

授業概要・目的	人口２億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語（Bahasa Indonesia）の基礎的な運用能力の向上を目指す。インドネシア語を初めて学ぶにあたっては基礎的な文法を把握し、単語力を増強することが求められる。そこで、本授業では特にインドネシア語の基本文法を学び、読む力と書く力を養っていくことを目的とし、持続的なインドネシア語運用能力の向上を図る。
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることができるようになる。 特に文法能力を高めることができ、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターすることができる。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語会話Ⅰ」および「インドネシア語表現Ⅰ」と同じ教科書を用います。授業には必ず持参してください。なお、インドネシア語の運用能力をより高めたければ、参考書欄に挙げた単語集や辞書の購入をお勧めします。 定期試験期間中の期末試験は行わず、授業最終回に復習を兼ねての最終試験を実施します。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課 第２課	修飾の関係を表す語順、「ＡはＢです」という表現、場所や方向、移動などの表現、指示代名詞や複数の人称代名詞を学ぶ。	学んだことの再確認（第１課・第２課）
2	第３課 第４課	否定語、呼びかけの語、前置詞句、助動詞を学ぶ。	学んだことの再確認（第３課・第４課）
3	第５課 第６課	助動詞、疑問詞、比較の表現、接辞法を学ぶ。	学んだことの再確認（第５課・第６課）
4	第７課	接頭辞 meN-を学ぶ。	学んだことの再確認（第７課）
5	第８課	疑問詞、助数詞、重複を学ぶ。	学んだことの再確認（第８課）
6	第９課	時刻や時間の長さ、時の表現で使われる前置詞を学ぶ。	学んだことの再確認（第９課）
7	第 10 課	日付や曜日の言い方、前置詞 untuk や atas の使い方を学ぶ。	学んだことの再確認（第 10 課）
8	第 11 課 第 12 課	経験や回数、期間を表す表現、接尾辞-i を伴う動詞の形、接尾辞-kan について学ぶ。	学んだことの再確認（第 11 課・第 12 課）
9	第 13 課	他動詞の３つの語形、他動詞文の文型を学ぶ。	学んだことの再確認（第 13 課）
10	第 14 課	接頭辞 di-を用いる文型、丁寧な否定語として使われる kurang について学ぶ。	学んだことの再確認（第 14 課）
11	第 15 課 第 16 課	命令・依頼・勧誘・禁止の表現、理由の尋ね方とその答え方、感情の表現を学ぶ。	学んだことの再確認（第 15 課・第 16 課）
12	第 17 課 第 18 課	yang 節内での他動詞の語形、前置詞としての dalam の使い方、条件や譲歩などの接続詞、-nya を伴う副詞句を学ぶ。	学んだことの再確認（第 17 課・第 18 課）
13	第 19 課	疑問文、疑問詞を接続詞のように用いる表現を学ぶ。	学んだことの再確認（第 19 課）
14	第 20 課	接頭辞 se-を用いた同等比較、接続詞 bahwa を学ぶ。	学んだことの再確認（第 20 課）
15	総まとめ	これまでに学んだことについての理解度確認テスト（臨時試験）を実施し、総復習を行う。	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語会話Ⅰ、インドネシア語表現Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
3			

評価方法（基準）	最終回の「理解度確認テスト」70%、「積極的な授業参加」の度合い 30% 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢が大切です。
担当者の研究室等	７号館４階　浦野研究室
備考	基本的には予習は必要ないが、授業内容を確実に理解するために事後学習は必ず行うこと。事後学習の総時間数は 15 時間程度を目安とする。

科目名	インドネシア語文法	科目名（英文）	Indonesian Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1670e0		

授業概要・目的	人口２億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語（Bahasa Indonesia）の基礎的な運用能力の向上を目指す。インドネシア語を初めて学ぶにあたっては基礎的な文法を把握し、単語力を増強することが求められる。そこで、本授業では特にインドネシア語の基本文法を学び、読む力と書く力を養っていくことを目的とし、持続的なインドネシア語運用能力の向上を図る。
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることができる。 授業では、特に文法能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語会話Ⅰ」と同じ教科書を用います。授業には必ず持参してください。 授業内で課した課題や演習には口頭と板書でフィードバックをおこなうため、受講者はかならずメモやノートをとること。 なお、インドネシア語の運用能力をより高めたければ、参考書欄に挙げた単語集や辞書の購入をお勧めします。 定期試験期間中の期末試験は行わず、授業最終回に復習を兼ねての最終試験を実施します。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課 第２課	修飾の関係を表す語順、「ＡはＢです」という表現、場所や方向、移動などの表現、指示代名詞や複数の人称代名詞を学ぶ。	学んだことの再確認（第１課・第２課）
2	第３課 第４課	否定語、呼びかけの語、前置詞句、助動詞を学ぶ。	学んだことの再確認（第３課・第４課）
3	第５課 第６課	助動詞、疑問詞、比較の表現、接辞法を学ぶ。	学んだことの再確認（第５課・第６課）
4	第７課	接頭辞 meN-を学ぶ。	学んだことの再確認（第７課）
5	第８課	助数詞、重複を学ぶ。	学んだことの再確認（第８課）
6	第９課	時刻や時間の長さ、時の表現で使われる前置詞を学ぶ。	学んだことの再確認（第９課）
7	第 10 課	日付や曜日の言い方、前置詞 untuk や atas の使い方を学ぶ。	学んだことの再確認（第 10 課）
8	第 11 課 第 12 課	経験や回数、期間を表す表現、接尾辞-i を伴う動詞の形、接尾辞-kan について学ぶ。	学んだことの再確認（第 11 課・第 12 課）
9	第 13 課	他動詞の 3 つの語形、他動詞文の文型を学ぶ。	学んだことの再確認（第 13 課）
10	第 14 課	接頭辞 di-を用いる文型、丁寧な否定語として使われる kurang について学ぶ。	学んだことの再確認（第 14 課）
11	第 15 課 第 16 課	命令・依頼・勧誘・禁止の表現、理由の尋ね方とその答え方、感情の表現を学ぶ。	学んだことの再確認（第 15 課・第 16 課）
12	第 17 課 第 18 課	yang 節内での他動詞の語形、前置詞としての dalam の使い方、条件や譲歩などの接続詞、-nya を伴う副詞句を学ぶ。	学んだことの再確認（第 17 課・第 18 課）
13	第 19 課	疑問文、疑問詞を接続詞のように用いる表現を学ぶ。	学んだことの再確認（第 19 課）
14	第 20 課	接頭辞 se-を用いた同等比較、接続詞 bahwa を学ぶ。	学んだことの再確認（第 20 課）
15	総まとめ	これまでに学んだことについての理解度確認テストを実施し、総復習を行う。	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語会話Ⅰ、インドネシア語表現Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
3			

評価方法（基準）	最終回の「理解度確認テスト」70%、「積極的な授業参加」の度合い 30% 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1.インドネシア語は学びやすい言語です。外国語学習が苦手な人でも勉強すればするほど能力がどんどん伸びます。最初は中学・高校で親しんできた英語との違いにとまどうかもしれませんが、必ず身につきます。いっしょに頑張りましょう。 2.インドネシア語は、シンガポールやマレーシア、ブルネイなどで話されているマレー語とほぼ同一の言語です。オランダ、東ティモールへ旅行する際にもインドネシア語が役立つことがあります。インドネシア語を学んでどんどん世界を広げてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	基本的に予習は必要ありませんが、授業内容を確実に理解するためにも事後学習は必ず行うこと。事後学習の総時間数は、最低でも 15 時間程度が必要です。 連絡方法は初回授業時に通知する。

科目名	インドネシア語表現Ⅰ	科目名（英文）	Indonesian Expressions I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾃｨｳｸ ｲﾋﾃｨｱﾘ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1671e0		

授業概要・目的	インドネシア語（Bahasa Indonesia）は、東南アジア最大の人口を抱え、日本との友好関係が強いインドネシア共和国の国語である。 本授業は、インドネシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、基礎的な文法を学ぶ「インドネシア語文法」および、日常会話を主とする「インドネシア語会話Ⅰ」と連動しつつ、インドネシア語の基礎的な運用能力の修得を学修の到達目標として、基礎的な表現（単語・慣用表現等）を重点的に教授する。
到達目標	インドネシア語の基礎的な文法知識を得る。 インドネシア語の日常レベルの多様な単語を覚える。 インドネシア語の社会と文化について基礎的知識を得る。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行うが、都度グループワークをすることで学習内容の定着を図る。 本講義は、教科書に基づく内容と、独自教材による内容がある。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話Ⅰ」と連動する科目なので、それぞれの学習内容をしっかりと復習すること。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験Ｅ級に合格可能な知識を得る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インドネシア語とインドネシアについて	授業の進め方について説明する。合わせて、インドネシア語の特徴と、インドネシア語を国語とするインドネシア共和国の概要について説明する。	事後に学習内容を復習する。
2	「人」に関わる単語と表現	インドネシアで社会的な関係の核となっている親族を中心に、人に関わる単語および日常のあいさつに代表されるような、人と人をつなぐ表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
3	「家」に関わる単語と表現	インドネシアの人々の日常的な暮らしに関わる単語および表現を学ぶ。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
4	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現により、形容詞の用い方を学ぶ。合わせて数詞と通貨について学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
5	「食」に関わる単語と表現	「食」に関わる単語や代表的な料理名、表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
6	「時間」と「空間」に関わる単語と表現	英語や日本語とも比較しながら、季節や年・月・週など「時間」に関わる単語と表現および、上下、方角、州や市などの行政区分のように、「空間」に関する単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
7	「学校」と「教育」に関わる単語と表現	学校制度や塾など、現代のインドネシアにおける「学校」と「教育」に関する単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
8	「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現	慣習や有形・無形の文化遺産、公定宗教など、「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現を学ぶ	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
9	短編ドキュメンタリーを見る	インドネシア語で制作された短編ドキュメンタリーを見ながら、単語と表現を学ぶ	事後に当日の学習内容を復習する。小レポートを提出する。
10	短文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、日常生活に関する短文読解に挑戦する	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
11	「自然」と「アウトドア」に関わる単語と表現	山、川、湖、雨、風、宇宙、天候など「自然」に関わる単語と表現、および「アウトドア」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
12	「都市生活」に関わる単語と表現	道案内や多様な乗り物に関わる単語と表現、および禁止表現、許可表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
13	「身体」と「病気」に関わる単語と表現	「身体」と「病気」に関わる単語と表現を学ぶ	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
14	読解	これまで学んだ内容を活かしながら、インドネシアの伝統文化に関わる短文の読解に挑戦する。	事前にこれまで学んだ単語を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
15	まとめとテスト	これまでの学習の総合的な振り返りを行う。 到達度確認テストを行う。	事後にこれまでの学習内容を復習する。

関連科目	「諸言語輪講」(1 年次前期)、「インドネシア語文法」(1 年次後期)、「インドネシア語会話Ⅰ」(1 年次後期)、「インドネシア語表現 II」(2 年次前期)、「インドネシア語会話 II」(2 年次前期)、「総合インドネシア語」(2 年次前期)、「総合マレー語」(2 年次後期)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレス＋インドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2			

	3
評価方法 （基準）	平常点 20%、課題 30%、到達度確認テスト 50% 詳細は初回授業で指示する。
学生への メッセージ	簡単な単語から少しずつインドネシア語で話しましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、計 15 時間以上行うこと。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話Ⅰ」と 3 科目共通の教科書を用いるので、重複して購入しないよう注意すること。

科目名	インドネシア語表現Ⅰ	科目名（英文）	Indonesian Expressions I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金子　正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1671e0		

授業概要・目的	インドネシア語（Bahasa Indonesia）は、東南アジア最大の人口を抱え、日本との友好関係が強いインドネシア共和国の国語である。 本授業は、インドネシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、基礎的な文法を学ぶ「インドネシア語文法」および、日常会話を主とする「インドネシア語会話Ⅰ」と連動しつつ、インドネシア語の基礎的な運用能力の修得を学修の到達目標として、基礎的な表現（単語・慣用表現等）を重点的に教授する。
到達目標	インドネシア語の基礎的な文法知識を得る。 インドネシア語の日常レベルの多様な単語を覚える。 インドネシア語の社会と文化について基礎的知識を得る。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行うが、都度グループワークをすることで学習内容の定着を図る。 本講義は、教科書に基づく内容と、独自教材による内容がある。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話Ⅰ」と連動する科目なので、それぞれの学習内容をしっかりと復習すること。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験Ｅ級に合格可能な知識を得る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インドネシア語とインドネシアについて	授業の進め方について説明する。合わせて、インドネシア語の特徴と、インドネシア語を国語とするインドネシア共和国の概要について説明する。	事後に学習内容を復習する。
2	「人」に関わる単語と表現	インドネシアで社会的な関係の核となっている親族を中心に、人に関わる単語および日常のあいさつに代表されるような、人と人をつなぐ表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
3	「家」に関わる単語と表現	インドネシアの人々の日常的な暮らしに関わる単語および表現を学ぶ。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
4	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現により、形容詞の用い方を学ぶ。合わせて数詞と通貨について学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
5	「食」に関わる単語と表現	「食」に関わる単語や代表的な料理名、表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
6	「時間」と「空間」に関わる単語と表現	英語や日本語とも比較しながら、季節や年・月・週など「時間」に関わる単語と表現および、上下、方角、州や市などの行政区分のように、「空間」に関する単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
7	「学校」と「教育」に関わる単語と表現	学校制度や塾など、現代のインドネシアにおける「学校」と「教育」に関する単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
8	「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現	慣習や有形・無形の文化遺産、公定宗教など、「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現を学ぶ	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
9	短編ドキュメンタリーを見る	インドネシア語で制作された短編ドキュメンタリーを見ながら、単語と表現を学ぶ	事後に当日の学習内容を復習する。小レポートを提出する。
10	短文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、日常生活に関する短文読解に挑戦する	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
11	「自然」と「アウトドア」に関わる単語と表現	山、川、湖、雨、風、宇宙、天候など「自然」に関わる単語と表現、および「アウトドア」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
12	「都市生活」に関わる単語と表現	道案内や多様な乗り物に関わる単語と表現、および禁止表現、許可表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
13	「身体」と「病気」に関わる単語と表現	「身体」と「病気」に関わる単語と表現を学ぶ	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
14	読解	これまで学んだ内容を活かしながら、インドネシアの伝統文化に関わる短文の読解に挑戦する。	事前にこれまで学んだ単語を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
15	まとめとテスト	これまでの学習の総合的な振り返りを行う。 到達度確認テストを行う。	事後にこれまでの学習内容を復習する。

関連科目	「諸言語輪講」(1 年次前期)、「インドネシア語文法」(1 年次後期)、「インドネシア語会話Ⅰ」(1 年次後期)、「インドネシア語表現 II」(2 年次前期)、「インドネシア語会話 II」(2 年次前期)、「総合インドネシア語」(2 年次前期)、「総合マレー語」(2 年次後期)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレス＋インドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2			

	3
評価方法 （基準）	平常点 20%、課題 30%、到達度確認テスト 50% 詳細は初回授業で指示する。
学生への メッセージ	インドネシア語を学ぶと、世の中の動きをさらに別の角度から読み解いていくことができます。 学びやすい言語でもあるのでぜひ楽しみながら学んでください。
担当者の 研究室等	金子研究室（７号館５階）
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、計 15 時間以上行うこと。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話Ⅰ」と 3 科目共通の教科書を用いるので、重複して購入しないよう注意すること。

科目名	インドネシア語会話Ⅰ	科目名（英文）	Indonesian Conversation Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1672e0		

授業概要・目的	人口２億以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語（Bahasa Indonesia）の基礎的な運用能力の向上を目指す。特に初めてインドネシア語を学ぶことを前提としてボキャブラリーを増やしながら、発音と基本文法を踏まえ、日常会話を話す事が出来るようになることを目的とする。なお、本授業は「インドネシア語表現　Ⅰ」と運動させて行っていく。
到達目標	インドネシア語で日常会話を話す事が出来る。
授業方法と留意点	各会話文を学んで、関連授業に学んだを加えて、新しい会話文の作成と会話練習を行う。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文字と発音	インドネシア語の文字と発音について・聞き取り・会話学習	学習内容を覚えるための復習。
2	会話 1・会話 2	会話文「私の名前は健治です」　「どこに住んでいますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
3	会話 3・会話 4	会話文「こちらは作文のクラスではありません」「ヒダヤット先生は今いません」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
4	会話 5・会話 6	会話文「もうインドネシア語が上手ですね」「もっと大きいのはありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
5	会話 7	会話文「この小包を送りたいのですが」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
6	会話 8	会話文「州がいくつあるかわかりますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
7	会話 9	会話文「9 時半にここで会いましょう」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
8	会話 10	会話文「7 月 16 日です」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
9	会話 11	会話文「バリ島に行ったことがありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
10	会話 12	会話文「これはペンペックというんです」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
11	会話 13	会話文「招待状はもう受け取りました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
12	会話 14	会話文「アジア・アフリカ会議が行われました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
13	会話 15・会話 16	会話文「どうぞお入りください」　「なぜインドネシアが好きのですか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
14	会話 17・会話 18	会話文「与えられたテーマは...」「乾季でも雨がよく降ります」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
15	理解度確認テスト	これまでに学んだことの復習臨時試験「ペーパーテスト」	これまでに学んだことの復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・佐藤正範編	小学館
3			

評価方法（基準）	クラス活動参加及び会話学習：70% 理解度確認テスト 30% 詳細は初回授業で指示する。
学生へのメッセージ	新しい言語を学ぶには、あらゆる進歩を楽しむことができるように、興味と好奇心が必要です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階：非常勤講師室　（水曜日・金曜日）
備考	事前事後学修総時間数の目安は 15 時間以上とします。 連絡方法は初回授業時に通知する。

科目名	インドネシア語会話Ⅰ	科目名（英文）	Indonesian Conversation I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾃｨｳｸ ｲﾋﾃｨｱﾘ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1672e0		

授業概要・目的	人口２億以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語（Bahasa Indonesia）の基礎的な運用能力の向上を目指す。特に初めてインドネシア語を学ぶことを前提としてボキャブラリーを増やしながら、発音と基本文法を踏まえ、日常会話を話す事が出来るようになることを目的とする。なお、本授業は「インドネシア語表現　Ⅰ」と運動させて行っていく。
到達目標	インドネシア語で日常会話を話す事が出来る。
授業方法と留意点	各会話文を学んで、関連授業に学んだを加えて、新しい会話文の作成と会話練習を行う。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文字と発音	インドネシア語の文字と発音について・聞き取り・会話学習	学習内容を覚えるための復習。
2	会話 1・会話 2	会話文「私の名前は健治です」　「どこに住んでいますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
3	会話 3・会話 4	会話文「こちらは作文のクラスではありません」「ヒダヤット先生は今いません」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
4	会話 5・会話 6	会話文「もうインドネシア語が上手ですね」「もっと大きいのはありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
5	会話 7	会話文「この小包を送りたいのですが」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
6	会話 8	会話文「州がいくつあるかわかりますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
7	会話 9	会話文「9 時半にここで会いましょう」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
8	会話 10	会話文「7 月 16 日です」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
9	会話 11	会話文「バリ島に行ったことがありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
10	会話 12	会話文「これはペンペックというんです」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
11	会話 13	会話文「招待状はもう受け取りました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
12	会話 14	会話文「アジア・アフリカ会議が行われました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
13	会話 15・会話 16	会話文「どうぞお入りください」　「なぜインドネシアが好きのですか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
14	会話 17・会話 18	会話文「与えられたテーマは...」「乾季でも雨がよく降ります」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
15	理解度確認テスト	これまでに学んだことの復習臨時試験「ペーパーテスト」	これまでに学んだことの復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
3			

評価方法（基準）	クラス活動参加及び会話学習：70% 理解度確認テスト 30% 詳細は初回授業で指示する。
学生へのメッセージ	新しい言語を学ぶには、あらゆる進歩を楽しむことができるように、興味と好奇心が必要です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階：非常勤講師室
備考	事前事後学修総時間数の目安は 15 時間以上とします。 連絡方法は初回授業時に通知する。

科目名	人間の探究	科目名（英文）	Study on Humanities
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LHU1801a1		

授業概要・目的	本授業は、近現代の西洋哲学史の主要な流れを概観することを目的とする。その際に、20 世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガー(1889-1987)の思想を視座とする。 哲学が自分自身で森に分け入って探索することであるとすれば、哲学史はそのような探索の先人の記録である。哲学史を学ぶことは、自分自身で探索することとは異なるかもしれない。しかし、それらの知は自分自身で探索する際の豊かな道標となるはずである。
到達目標	授業で扱う西洋哲学史上の人物について、 ①時代背景 ②考えの要点 ③後の時代に与えた影響 の３点を理解すること。
授業方法と留意点	Teams を使用して、配布したテキストを読み進めます（毎回、ある程度の読書量があります）。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に関する小テストに答えてもらいます。
科目学習の効果（資格）	西洋哲学史における代表的な議論の幾つかを学ぶことによって、ものごとに対する多義的な見方を身に着け、複雑な現実を単純化せずに捉えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業全体の概要	予習：特になし 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
2	ハイデガーの前期思想（１）	『存在と時間』を中心に（１）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
3	ハイデガーの前期思想（２）	『存在と時間』を中心に（２）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
4	ハイデガーの前期思想（３）	『存在と時間』を中心に（３）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
5	ハイデガーの前期思想（４）	『存在と時間』を中心に（４）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
6	ハイデガーの中期思想（１）	「芸術作品の根源」を中心に（１）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
7	ハイデガーの中期思想（２）	「芸術作品の根源」を中心に（２）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
8	ハイデガーの後期思想（１）	「物」講演を中心に（１）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
9	ハイデガーの後期思想（２）	「物」講演を中心に（２）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
10	フランス現代思想（１）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（１）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
11	フランス現代思想（２）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（２）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
12	フランス現代思想（３）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（３）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
13	フランス現代思想（４）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（４）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
14	フランス現代思想（５）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（５）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
15	まとめ	授業全体の内容の復習	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと

				（予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています）

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代思想入門	千葉雅也	講談社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press
2	ハイデガー事典	ハイデガー・フォーラム	昭和堂
3			

評価方法（基準）	Google Form等によって提出する課題で評価する（100%）
学生へのメッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があります。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	授業では以上のテーマを順次扱う予定ですが、進行状況によっては、内容や順番が変更される可能性があります。

科目名	文学から学ぶ	科目名（英文）	Introduction to Literature
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊.杉山　博昭.古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LHU1802a1		

授業概要・目的	我々は文学作品を通して、人間を、自然を、社会を、そして自分自身を見つめ直すことが可能となる。この授業では、①韻文②散文③演劇の３つのテーマを設定し、人間は何をどのように表現してきたのか読み解いていく。知識を得るだけではなく、物事の見方や考え方を身につけることを目的とする。
到達目標	文学作品の愉しみ方がわかる 人間の思想や文化についての見識を深めることができる
授業方法と留意点	講義を中心としますが、3 つのテーマそれぞれで課題にもとづいたプレゼンテーションをしていただくことがあります。
科目学習の効果（資格）	素敵な出会いがあるかも

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	①韻文から学ぶ（橋本）	言葉と意味の関係について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
2	①韻文から学ぶ（橋本）	和歌と歌ことばについて学ぶ	課題に向けて調べる、考える
3	①韻文から学ぶ（橋本）	俳句と季語について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
4	①韻文から学ぶ（橋本）	流行歌の背景について学ぶ	課題の準備をする
5	①小括（橋本・杉山・古矢）	まとめ・補足 課題のプレゼンテーションをする	プレゼンテーションの準備をする
6	②散文から学ぶ（古矢）	「90 年代文学」とは何か	課題に向けて調べる、考える
7	②散文から学ぶ（古矢）	「セカイ」は安寧か　90 年代の「セカイ系」表象について（１）	課題に向けて調べる、考える
8	②散文から学ぶ（古矢）	「セカイ」は安寧か　90 年代の「セカイ系」表象について（２）	課題に向けて調べる、考える
9	②散文から学ぶ（古矢）	迫り来る「ホラー」　90 年代の「ホラー」表象について（１）	課題の準備をする
10	②小括（古矢・杉山・橋本）	迫り来る「ホラー」　90 年代の「ホラー」表象について（２）	プレゼンテーションの準備をする
11	③演劇から学ぶ（杉山）	80 年代の小劇場演劇について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
12	③演劇から学ぶ（杉山）	90 年代前半の小劇場演劇について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
13	③演劇から学ぶ（杉山）	90 年代後半の小劇場演劇について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
14	③演劇から学ぶ（杉山）	00 年代の小劇場演劇について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
15	③小括（杉山・橋本・古矢）	時代と演劇の相関について学ぶ	課題に向けて調べる、考える

関連科目	日本の文学、中国の文学、英語圏の文学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業参加度）40%、課題 60%（20%×3 回）
学生へのメッセージ	小説を読むだけが文学ではない！　「表現する」ことの可能性を探ろう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階（橋本、古矢）、7 号館 5 階（杉山）
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。

科目名	歴史に学ぶ	科目名（英文）	Introduction to History
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上　司樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LHU1803a1		

授業概要・目的	講義するのは、歴史から見たヨーロッパ論です。なお歴史（の学び）とは、年代や事件の、単なる暗記ではありません（もちろん知識は、ないより、あった方がいいですが）。本質的には、昔を知ることで、今を知る。つまり異文化理解です（異文化理解≒自文化理解）。大学は、知性や教養を磨くには、このうえなくすばらしい場。ただ、それも自分しだい。せっかく受講するのなら、単位以上の何かを手に入れてほしいと思います。
到達目標	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に着ける。
授業方法と留意点	教科書は使わない。プリントを配布し、パワーポイントを使って講義する。単位を取る方法は２つ。第１は、こつこつ授業に出てノートを取り（プリントにメモして）、毎回のレスポンス・ペーパーで点数を稼ぐ方法。第２は、一発勝負の、レポートにすべてを賭ける方法。（この授業では出席を取らないから）第２の方法にも可能性はある、が、全 15 回の授業内容に匹敵するレポートの材料を集めるには、それなりの本を何冊も、自分で読まなければならない（なお、ネットからのコピペは、やめたほうがいい。大学教員にはすぐに見抜かれるし、カンニング扱いで得点は０点、下手すれば学期の全単位剥奪... 危険きわまりない）。つまらない結論だが、第１の方法が、もっとも簡単かつ安全だろう。王道とは、そんなものである。急がば回れ。Festina lente（ゆっくり急げ）。 フィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に着ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって	歴史は異文化理解／ 手で食べる文化は劣っている？／ 知らないうちは否定から入るな	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
2	歴史を学ぶにあたって	なぜ昔は恋愛結婚がめずらしかったのか？／ 乳幼児のおよそ半分が死んでしまう／ 戦争と出産は命がけの仕事	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
3	歴史を学ぶにあたって	政略結婚にも親心／ 就活や通勤がない世界／ 家は職場、家族はチーム	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
4	歴史を学ぶにあたって	結婚は仕事／ 恋愛結婚させるのは「言語道断、残忍な親」／ Love is blind（恋は盲目）	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
5	歴史を学ぶにあたって	「長靴をはいた猫」は結婚できない男の夢／ 男尊女卑になる社会構造／ それでも、勝ち負けはっきりした結婚（または人生）などない	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
6	３つの源流	ローマの遺産＋ゲルマン人＋キリスト教＝ヨーロッパ（文明・文化）／ 例えば洋食（ヨーロッパ的食文化）／ パンとワインはローマから	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
7	３つの源流	大量の肉食（とビール）はゲルマンから／ 大量の肉食は必ずしも「豊かさ」に由来しない／ ローマとゲルマンを仲立ちしたキリスト教	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
8	３つの源流	移民・難民と混血・文化融合がヨーロッパを生んだ／ 宗教は、ものの考え方、生活習慣に関わる／ キリスト教と共に広がったパンとワイン	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
9	ローマの遺産	偉大な文明のお手本／ 文明の三点セット、都市・文字・国家／ ローマがヨーロッパに町づくりを教えた	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
10	ローマの遺産	話す言語は 20 以上もあるが、書く文字はただ１つ／ ローマがヨーロッパに読み書きを教えた／ 政治的にはバラバラなヨーロッパが、文化的にはひとつであり続けてきた秘密	プリントの読み返しと先読み
11	ローマの遺産	ローマがヨーロッパに国づくりを教えた／ 独裁者も民主国家もローマを引き合いに出す／ それでも、ローマだけがヨーロッパをつくったのではない	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
12	ゲルマン人	素朴な文化の源／ 例えば洋服（ヨーロッパ的服飾文化）／ 洋服（西洋服）の原点は西洋（ヨーロッパ）にあらず	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
13	ゲルマン人	イギリスもフランスもゲルマン人が建てた国／ 王侯貴族が受け継ぐゲルマンの戦士的文化／ それでも、ゲルマン人だけがヨーロッパをつくったのではない	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
14	キリスト教	ローマとゲルマンの仲立ち、もしくはヨーロッパをプロデュース／ 魚料理・たまご料理・洋菓子を発展させたキリスト教／ 書物（または文字）の宗教キリスト教	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
15	キリスト教	欧米の個人名（パーソナル・ネーム）は、ほとんどキリスト教から／ 日曜を休日にしたのはキリスト教／ 政教分離や教会離れが進んだ今も	プリントの読み返し／ レスポンス・ペーパー

<table>
<tr><td>関連科目</td><td></td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>レスポンス・ペーパー（50%）、レポート（50%）。レポートは授業内容から出題（だから、授業のプリントとノートがあれば書ける問題で、あらためて文献を読む必要はない）。授業に出ているだけでは１点も付けない（出席点はない）が、やる気がある人には最大限チャンスを与える（この点は、これまでの受講生にも定評がある）。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td></td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前事後学習時間の目安は計６０時間。
授業時間外の質問等は、授業の前後に対応する。</td></tr>
</table>

科目名	法学入門	科目名（英文）	Introduction to Jurisprudence
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LSO1805a1		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。
科目学習の効果（資格）	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
2	憲法と法律（法令の種類）	・法治国家と法の支配 ・国際社会と法	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
3	民事法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点 ・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪 ・闇バイトを通じた犯罪関与	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
6	刑事法②	・犯罪の成立要件 ・・ストーカー行為規制法の最前線	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
7	労働法②	・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
8	民事法②（家族法①）	・家族の範囲	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
9	民事法③（家族法②）	・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
10	民事法④（家族法③）	・離婚の法的効果	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
11	民事法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
12	民事法⑥（不法行為法②）	・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
13	民事法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブル―敷金と敷引特約	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
14	民事法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
15	刑事法②＋行政法＋民事法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・　和田仁孝	法律文化社
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）</td><td>末川　博/編著</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td>現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）</td><td>伊藤　正己＝加藤一郎/編著</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>3</td><td>判例法学（第5版）</td><td>西村　健一郎＝西井　正弘＝初宿　正典/編著</td><td>有斐閣</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 10 階　　小野教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。
オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。</td></tr>
</table>

科目名	世界の政治	科目名（英文）	World Politics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LSO1806a1		

授業概要・目的	本講義は、比較政治学の基礎的な議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における政治制度の問題に注目するものである。
到達目標	比較政治学の基本的な考え方や方法論に親しむことで、それらの観点からなされる「世界の政治」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を比較政治の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	１．原則として講義形式をとり、内容に即したレジュメを配布する。また、指示された課題にも各自取り組むものとする。 ２．授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信・課題等の提出、という 2 つの手段を適宜組み合わせて行なう。 ３．基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。 ４．本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果（資格）	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	社会科学の方法（１）	第 1 章　比較政治学とは何か	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	社会科学の方法（２）	第 1 章　比較政治学とは何か 第 2 章　制度論	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	社会科学の方法（３）	第 2 章　制度論	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	政治制度（１）	第 3 章　選挙制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	政治制度（２）	第 4 章　執政制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	政治制度（３）	第 5 章　政党制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	政治制度（４）	第 6 章　議会制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	政治制度（５）	第 7 章　官僚制	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	政治制度（６）	第 8 章　司法制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	政治制度（７）	第 9 章　中央銀行制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	政治制度（８）	第 10 章　中央・地方関係制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	日本の政治制度（１）	第 3 章　選挙制度 第 4 章　執政制度 第 5 章　政党制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	日本の政治制度（２）	第 6 章　議会制度 第 7 章　官僚制 第 8 章　司法制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	日本の政治制度（３） まとめと補遺	第 9 章　中央銀行制度 第 10 章　中央・地方関係制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

<table>
<tr><td>関連科目</td><td></td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>比較政治制度論</td><td>建林正彦ほか</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。
（課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>毎回の授業だけでなく、課題への取り組みに際して教科書は必携なので、必ず購入すること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 4 階　田中研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。</td></tr>
</table>

科目名	日本国憲法	科目名（英文）	Japanese Constitution
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LS01807a1		

授業概要・目的	・憲法は、専断的になりがちな公権力に制限を加え、国民の基本的人権を広く保障しようとする国家の基礎法である。 ・日本国憲法は、主に基本的人権とそれを担保するための統治機構の規定から構成される。 ・こうした憲法上の規定をめぐり争われる、国民と国家機関ないし国家類似団体間での法的紛争をめぐる諸問題について、身近な事例を取り上げながら、わかりやすく解説を加える。 ・また、講義を通じて、事例から憲法上の争点を抽出する能力、争点に対する考え方（判例や学説）を理解する能力、および、争点に対する結論とその論拠についてコンパクトにまとめて提示できる能力の養成を目的とする。
到達目標	・「立憲主義」とはどういうものかを説明できるようになる。 ・日本国憲法上の論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解を説明できる。 ・公務員試験に出題される憲法に関する問題を素早く解けるようになる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、質疑応答を通じて受講生との双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・各種の公務員試験（行政職、警察官、消防官など）では、必ず、憲法やそれに関連する問題が出題されます。 ・これらの試験を受けようとする人は充分に理解してください。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	憲法と立憲主義	・憲法と法律 ・立憲主義 ・権力分立と法の支配	教科書の入手 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
2	日本国憲法の制定過程	・マッカーサー・ノート ・大日本帝国憲法改正限界論 ・日本国憲法の正当性	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
3	平和主義	・日本国憲法９条１項の解釈 ・日本国憲法９条２項の解釈 ・自衛隊の海外活動 ・集団的自衛権	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
4	人権総論①	・人権とは何か ・近代自然法と社会契約説 ・夜警国家と福祉国家 ・公共の福祉 ・プログラム規定	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
5	人権総論②	・天皇の人権享有主体性 ・外国人の人権享有主体性 ・子どもの人権とその制約 ・憲法の私人間効力（直接適用説と間接適用説） ・法の下の平等	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
6	人権各論①精神的自由権（1）	・思想良心の自由 ・信教の自由とその限界 ・政教分離の原則と違憲審査基準	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
7	人権各論②精神的自由権（2）	・表現の自由とその類型 ・表現の自由に対する規制類型 ・報道の自由と限界 ・学問の自由と最先端科学研究	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
8	人権各論③経済的自由権(1)	・　職業選択と営業のの自由 ・居住と移転の自由	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
9	人権各論③経済的自由権(2)	・財産権の保障 ・財産権の限界 ・私有財産に対する正当な補償	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
10	人権各論④人身の自由	・適正手続の保障 ・罪刑法定主義 ・令状主義とその例外 ・接見交通権 ・黙秘権と拷問の禁止 ・残虐な刑罰と死刑制度 ・刑事補償請求権	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
11	人権各論⑤社会権	・生存権の保障 ・教育を受ける権利 ・労働基本権	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
12	人権各論⑥包括的基本権	・幸福追求権 ・新しい人権 ）	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
13	統治機構①国会	・国権の最高機関性と「政治的美称説」 ・二院制 ・委員会中心主義 ・議員の免責特権	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
14	統治機構②内閣と裁判所	・議院内閣制 ・独立行政委員会 ・内閣不信任決議と衆議院の解散 ・司法権の独立と「児島惟謙」 ・違憲審査制	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）

			・違憲判決の効果	
	15	統治機構③財政、地方自治、憲法の保障	・財政民主主義 ・地方自治の本旨 ・憲法改正の手続と限界	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）

関連科目：行政法、民法及び刑法その他諸法と密接に関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基本学習・企業犯罪と経済刑法	松澤伸ほか	商事法務
2	2024年度から新しい教科書に変更します		
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法（第8版）	芦部　信喜＝高橋　和之（補訂）	岩波書店
2	憲法の時間（第2版）	浮田徹ほか	有斐閣
3			

評価方法（基準）：・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度5%＋課題の得点95%）。定期試験は実施しない。

学生へのメッセージ：・各種国家試験や資格試験、および、公務員試験受験予定者は、この講義そのものが試験対策になり得ますので、積極的に受講してください。

担当者の研究室等：11号館10階　小野教授室

備考：本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。
オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。

科目名	住まいとデザイン	科目名（英文）	Design and Living Environment
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩波　由佳
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LNA1810a1		

授業概要・目的	住まいは人間の生活と深くかかわっている。原初は身の安全をはかる場所として、心の拠り所として作られ、さらには快適に過ごせる美しい空間を求めて発達してきた。また住まいの成立には自然環境の他に社会的背景や文化、風俗習慣なども深くかかわってくる。 この講義では、住宅、建築、インテリア、都市について、形態やデザイン様式の移り変わりを映像資料などを用いて多様な角度から学び、基礎的知識を習得する。そして様々な時代で求められたデザインを感じとり、現代のよりよい住宅、住生活を創造する感性を身に着けることを目的とする。
到達目標	日常生活において、住まいやインテリアの選定などの際に、授業で学んだ内容や優れたデザインを参照して快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に着けることができる。 日本文化の基本である住宅や建築についての知識を教養として身に着けることで、留学などの海外生活や国内での留学生との交流の際に、正しく自国の文化を論じる能力を培うことができる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。適宜プリントを配布し、パワーポイント等映像資料を用いて理解の一助とする。授業終了後、授業内容に対する質問を提出すること。質問内容に応じて加点の対象とする。フィードバックは授業時に行う。
科目学習の効果（資格）	住まい環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	住まいの成り立ちと気候風土文化１ 　花鳥風月 ～温暖で豊かな四季の国	日本の気候風土に適した木造住宅の特徴と発達を学び、日本人の心情や文化が住宅に反映する事例を知る。 全国の民家を概観する。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
2	日本の住まいの移り変わり(1) 　自分で作る ～洞窟を出て竪穴を	人類最古の住まいおよび日本での原始の住まいはどのようなものであったかを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
3	日本の住まいの移り変わり(2) 　貴族の優雅、武士の剛健 ～寝殿造・書院造...	日本文化の基盤が形成された時期の住まいやしつらい、生活環境、美的感覚を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
4	日本の住まいの移り変わり(3) 　デザインの極みは何処に ～美をめぐる闘い　秀吉･利休・後水尾上皇	爛熟期の文化の中での書院造の完成と茶室の成立、数寄屋まで成熟から洗練を加えてゆく過程の美意識を学ぶ。現代の和風住宅につながる流れを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
5	住まいの成り立ち　気候風土文化２ 　白夜の過ごし方 ～厳寒の森と湖の国	日本と同様に木造の文化を持つが気候の厳しいフィンランドの住宅、住生活、および快適な生活を創る北欧デザインについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
6	住まいのデザインを構成するもの 　光　採光・照明 ～あたたかい光、クールな光	光の特徴や種類、扱い方を学び、効果的な照明による快適な空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
7	住まいのデザインを構成するもの 　家具・ファブリックス ～くつろぐ、あつまる、ぼんやりする	家具やファブリックス、アクセサリーの種類や効果的な用い方を事例を通して学ぶ	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
8	住まいの成り立ち　気候風土文化３ 　月の砂漠 ～乾燥とオアシスの国	湿潤な日本と対照的な乾燥地帯であるエジプトの住宅、住生活および厳しい環境下での快適な生活を創る工夫と持続可能な取り組みについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
9	住まいのデザインを構成するもの 涼しさの演出 ～色彩・水・風	色彩や視覚、触覚によって感じる温度感覚の違いや効果的な使い方を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
10	住まいの成り立ち　気候風土文化４ 石積みの壁 ～自然を征服、永遠のモニュメント	西洋の気候風土に応じて発達した組積造の住まいの構造や特質について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
11	西洋の住まいの移り変わり(1) 　荘厳なる様式 ～華麗なる宮廷生活へようこそ	近代以前のヨーロッパの成熟した宮殿・邸宅の建築、室内デザインについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
12	西洋の住まいの移り変わり・世界(2) 　あたらしい人と生活のデザイン ～鉄、ガラス、コンクリート　アーツ・アンド・クラフツ運動からアールヌーヴォー、ゼセッシオン、グラスゴー派、モデルニスモ	社会の変革により出てきた新しいデザイン運動であるイギリスのアーツアンドクラフツ運動、フランス・ベルギーのアールヌーヴォー、ヨーロッパ各地で展開したウィーンのゼセッシオン、マッキントッシュによるグラスゴー派、ガウディによるモデルニスモについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
13	西洋の住まいの移り変わ	民衆のための合理的デザインの追求と	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。

		り・世界(3) 　あたらしい人と生活のデザイン ～普遍なるものへの旅 バウハウス、そして三大巨匠の時代へ	モダニズムへ至る軌跡を学ぶ。そして三大巨匠とされるライト、ミース、コルビュジェの住宅デザインについて学ぶ。	気になった単語やフレーズを調べてみる。
	14	現代の住まい 最先端デザインと生活スタイル ～現在に生きて暮らす	現代に展開する住宅や建築の事例を通して、現在とこれからの環境や生活空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	15	住宅をデザインする 　わたしの住みたい住まい ～とにかくイメージ、そして描いてみよう	自分にとって快適な空間を考え、表現する。	住宅、建築、インテリア雑誌などに目を通して自分の好みを考えておく。

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロングセラー・デザイン　文房具から椅子まで」	コロナブックス編集部	平凡社
2	アパートメント　世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社
3	FURNITURE DESIGN　20 世紀の家具のデザイン	ゼンバッハ＆ロイトホイザー＆ゲッセル	タッシェン・ジャパン

評価方法 （基準）	定期試験 90%授業への質問、授業への取り組み姿勢 10%。 合格ラインは定期試験の点数 60 点。
学生への メッセージ	テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで目にする住宅、建築に関するニュースに興味をもって見てみよう。ドラマや映画、音楽ＰＶで使われている場所、漫画や小説に出てくる場所など空間に対しても注目する。また自宅や友人の家、カフェやショップなどで心地よさを感じたらそれはなぜかを考えてみよう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	試験は自筆ノート持ち込み可であるので、授業の板書、話の内容を毎回整理してまとめておくと良い。 授業時間外の対応（メール等）については授業時に指示する。 事前事後の総学習時間の目安は 60 時間程度。

科目名	食品機能学	科目名（英文）	Functional Food Science
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大橋　貴生
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LNA1811a1		

授業概要・目的	食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系（体調リズム）、神経系（精神の高揚や鎮静）などの生体機能の調節に関与する機能性食品の特性についての知識を習得する。本講義では、食品の一次機能（栄養素）、二次機能（味、触感など）および三次機能（生体機能の調節などの新規機能）について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。また、がんや老化に加え、肥満、高血圧、脂質異常症（高脂血症）、糖尿病などの生活習慣病を取り上げ、食生活とヒトの健康のかかわりについて習得することを目的とする。
到達目標	食品に含まれる栄養・機能成分が列挙でき、それぞれ生体調節機能と、ヒトの健康との係わりについて説明できる。 食品に関わるニュースを理解できるようになり、自分なりの意見を持てるようになる。 また、得られた知識を日々の食生活に活かすことができるようになる。
授業方法と留意点	配布資料に沿って、希望する学生は対面での受講可能な動画配信型授業（ハイフレックス方式）を行う。 中間試験および総合試験(筆記)に代わるまとめ課題を課す。 １回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明する。 受講生の理解を効果的に引き出すために、シラバス記載の順序が前後する場合がある。 毎回の講義に Moodle 上で課題を課し、翌週に解説する。
科目学習の効果（資格）	食品成分の機能についての知識が得られ、健康と食生活とのかかわりが理解できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	食品機能学とは	食品の特性、一次機能（栄養素）、二次機能(味、食感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
2	機能性食品	保健機能食品、特別用途食品および健康食品など、新しい食品の形態や制度について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
3	遺伝子組換え食品	遺伝子組換えの基礎的な概念を解説した後、実際にどのように利用されているかを、関連する法令とともに紹介する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
4	活性酸素	活性酸素と疾病、がん、および老化などとの関連について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
5	抗酸化機能食品	ポリフェノールなど抗酸化物質と、それら含む抗酸化機能性食品らについて解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
6	ミネラルとビタミンの機能性	ヒトの健康な生活に不可欠なミネラルとビタミンを含む食品について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
7	炭水化物	ヒトを含む全ての生物のエネルギー源である炭水化物（糖）について、解説する	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
8	難消化性食品成分	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品および乳酸菌類について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
9	中間試験	第１回から第８回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。	第 1 回から第 8 回までの内容を復習しておく。(1時間)
10	脂質と肥満	食品に含まれる脂質成分、および脂質と肥満との関係性について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
11	機能性脂質食品成分	肥満の解消に有効な機能性食品について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
12	高血圧と血圧降下作用がある食品成分	ヒトはなぜ高血圧になるのか、について簡単に説明した後、高血圧を解消するための食品について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
13	糖尿病	糖尿病になるメカニズムを解説し、その後に糖尿病にならないための食生活について、解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
14	免疫機能を活性化する食品	免疫について、簡単に説明した後、免疫機能を活性化する食品成分について解説する。免疫と深く関わりがあるアレルギーについても解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。(1時間)
15	総合試験(筆記)	第 10 回から第 14 回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。その後、内容について解説する。	第 10 回から第 14 回までの内容を復習しておく。(1時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂　食品機能学第４版	青柳　康夫　編	建帛社
2	わかりやすい食品機能学第２版	森田英利・田辺創一　編著	東京化学同人
3	食べ物と健康　食品の科学	太田英昭　他	南江堂

評価方法 （基準）	講義毎の課題（30%）、中間試験（35%）および総合試験(筆記)に代わるまとめの課題（35%）を総合的に判断して、評価を行う。
学生への メッセージ	本講義により、日常的に頻繁に触れる食品、健康とのかかわりについての知識が得られます。 食品にまつわるニュースなどが理解でき、食品に関する蘊蓄を語れるようになり、自分の意見を持てるようになることが目標です。 １回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明します。履修する場合は、必ず、出席をしてください。
担当者の 研究室等	理工学部・生命科学科　１号館８階　大橋准教授室
備考	授業時の出席管理（出席および欠席）は、大学の規則に従って行います。 毎回の講義への出席が必須です。 やむを得ず欠席する場合があっても、出席率が 80%以上の場合のみ、成績評価対象とします。 教務課発行の欠席届が受理された場合、控えを提出してください。 欠席届が受理された回については、欠席扱いにはせず、出席率の計算には、欠席届控えの提出回数分を全授業回数から差し引いて出席率を算出します。 事前事後学習には、毎回１時間以上かけてください。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池田　景子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 1A The Visual Village	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
3	Unit 1A The Visual Village	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
4	Unit 1B My Journey in Photographs	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
5	Unit 1B My Journey in Photographs	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
6	Unit 2A Love: A Chemical Reaction?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
7	Unit 2A Love: A Chemical Reaction?	Listening、Reading、文法を通し Unit 2A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
8	中間テスト	Unit 1A-2A	事前：中間テスト勉強
9	Unit 2B Feathers of Love	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
10	Unit 2B Feathers of Love	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
11	Unit 3A How Safe Is Our Food?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
12	Unit 3A How Safe Is Our Food?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
13	Unit 3B Genetically Modified Foods	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
14	Unit 3B Genetically Modified Foods	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 63B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
15	まとめテスト	Unit 2B-3B	事前：まとめテストの勉強

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Explorer 4	Paul Macintyre and David Bohlke	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（中間課題、まとめの課題等も含む）　80%
学生へのメッセージ	
担当者の	7 号館 4 階　池田研究室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷川　明代
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 Uniquely Japanese Hospitality	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
3	Unit 2 "Time Machine" With a Flag on Top	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
4	Unit 3 Start and Finish Work Earlier	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
5	Unit 4 Humanoids in the Aging Society	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
6	Unit 5 No Longer a Man's World	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
7	Unit 6 What Will the 2020 Games Give Us?	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
8	Unit 7 Your Name Is Not on the List	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
9	Unit 8 When Quakes Hit, Eruptions May Follow	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
10	Unit 9 As Young as 70 Years Old	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
11	Unit 10 The Music Industry Needs to Change	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
12	Unit 11 Don't Kill Lions to Prove Manhood	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
13	プレゼンテーション	与えられた課題のプレゼンテーションを行う	事前：プレゼンテーションの準備をする
14	プレゼンテーション 復習	与えられた課題のプレゼンテーションを行う 復習	事前：プレゼンテーションの準備をする
15	まとめテスト	まとめテスト	事前：まとめテストの準備をする。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading in Action Basic	Tetsuhito Shizuka	金星堂
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100%
学生への メッセージ	音読を中心に行い、英語の４技能を効果的に向上させましょう。ペアやグループでのやり取り通じてコミュニケーションの楽しさを実感してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおおよそ １５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	キアン　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	ロバートカプランの 「書き手責任」の英語枠組みと「読み手責任」の日本語語学論を尊重し、比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 e-テキストが無料配布する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明します。	
2	Vocabulary１	Yes/No 質問と自由回答式質問を区別する方法、および両方を使用する場合の長所と短所（Taboo ゲームを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
3	Vocabulary２	同義語、反意語またはイディオムや言い換える方法を練習するために（Taboo ゲームを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
4	Miscommunication& Mistranslation	誤解と誤訳のリーディング、グループワーク(新聞などを用います)	教科書予習や課題（１時間程度）
5	外国文化紹介/身近な英語表現(１)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
6	Conjuctions 接続詞	「ストーリーライター」のグループ演習を通じて、接続詞を積極的に取り入れ、文に新しい意味を追加する	教科書予習や課題（１時間程度）
7	Presentation Project 準備	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題（１時間程度）
8	Presentation Project 発表	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題（１時間程度）
9	Men and Women	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習（１時間程度）
10	外国文化紹介/身近な英語表現(２)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
11	Across Cultures	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題（１時間程度）
12	外国文化紹介/身近な英語表現(3)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
13	Food and Health	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題（１時間程度）
14	外国文化紹介/身近な英語表現(4)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
15	まとめと振り返り	前期で学んだことについて一人一人が振り返り共有をしていきます	まとめテストに向けて勉強

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Explorer 4（無料配布する）	Paul MacIntyre, David Bohlke	National Geographic Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance & Participation（授業への参加、貢献）: 60% Homework（小テスト、まとめテスト等も含む）: 20% Group Report/Presentation: 10% Vocab.doc: 10%

	(Setsunan Policy: If you have 3 unexcused absences, it's a Fail)
学生への メッセージ	Take best advantage of your sensei and university resources.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行う。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超えて課題を提出しなかった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Chapter 1 を始める	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法等の説明	事前学習：Chapter 1 を予習する。文法解説を読み、Exercises をしておく。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
2	１　5 つの基本文型	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
3	２　動詞	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
4	３　進行形・未来形・助動詞	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
5	５　前置詞・接続詞（1）	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
6	６　形容詞・副詞と比較級	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
7	１５　関係詞	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
8	授業後、中間テスト	Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	指示した箇所の予習 中間テストの勉強
9	８　不定詞	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
10	９　動名詞と分詞	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
11	１０　各種疑問文・It の特別用法	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
12	１２　完了形	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
13	１３　接続詞（11）（時制の一致を含む）	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
14	１４　仮定法	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解）	事前学習：文法解説を読み、Exercises をしておく。英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習：要点の書き出しとまとめ
15	まとめ（期末）テスト	期末テスト（後半の学習内容の確認）	まとめテストに向けての勉強

関連科目	他の英語科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>1</td><td>Slow & Steady</td><td>佐藤哲三/ 小手川巧光　他 3 名</td><td>南雲堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業への参加、貢献（質問に対する発言、板書、小テスト、中間・期末まとめテストなど）100%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>授業には毎回辞書を持参すること。
伝えてある箇所の予習が出来ていることを前提に授業をします。
語彙やまとまった表現は事前に調べノートしておくこと。
リスニング箇所は、何度も聴いて予習をしておくこと。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは随時行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する.。

理解度によっては、進む Chapter の順序を変える場合があります。</td></tr>
</table>

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞｰﾙｵﾐｯﾄﾞ ｻｯｼﾞｬﾄﾞ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など	予習：テキスト Unit1-10 ににざっと目を通す 復習：自習用音声の使用に慣れる
2	Unit 1 Dissolving Bags	インドネシア発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
3	Unit 2 Farm beneath the Streets	イギリス発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
4	Unit 3 Mechanics are Men - Think Again!	アメリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
5	Unit 4 Pets Get High- class Health Care	アメリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
6	Unit 5 Life with the Iron Lady	フランス発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
7	Unit 1-5 の復習テスト	復習テストを行う	予習：Unit 1-5 の Web 動画や音声ファイルの視聴及びテキストの問題の復習で、理解を完全にしておくこと 復習：テストの模範解答を確認する
8	Unit 6 Drone for the Disabled	アルゼンチン発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
9	Unit 7 Crucial Minutes	アメリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
10	Unit 8 Mites vs Parasites	スペイン発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
11	Unit 9 Gearing up for a New Top Speed	南アフリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
12	Unit 10 New Skin from a Printer	フランス発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
13	研究発表	与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、学生同士でも評価し合う	予習：プレゼンテーションの準備 復習：プレゼンテーション内容の振り返り
14	研究発表	与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、学生同士でも評価し合う	予習：プレゼンテーションの準備 復習：プレゼンテーション内容の振り返り
15	まとめテスト	Unit1-10 のまとめテストを行う	予習：前期全体の復習 復習：テスト後に掲示される解答をもとに復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	AFP SciTech Futures　AFP で学ぶ世界の科学	椋 1 平　淳	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法	全学共通英語課題　20%

（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	フランスを拠点とする報道機関 AFP 通信が有する映像ニュースから科学・技術に関する最新映像を視聴し、刻々と変容する世界の事象を生きた英語で学びましょう。また、発展的に自ら調べ、発表する課題をこなすことにより、プレゼンテーションの形式に慣れてください。
担当者の研究室等	教員室１（２号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	キアン　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	ロバートカプランの 「書き手責任」の英語枠組みと「読み手責任」の日本語語学論を尊重し、比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 e-テキストが無料配布する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明します。	
2	Vocabulary１	Yes/No 質問と自由回答式質問を区別する方法、および両方を使用する場合の長所と短所（Taboo ゲームを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
3	Vocabulary２	同義語、反意語またはイディオムや言い換える方法を練習するために（Taboo ゲームを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
4	Miscommunication& Mistranslation	誤解と誤訳のリーディング、グループワーク(新聞などを用います)	教科書予習や課題（１時間程度）
5	外国文化紹介/身近な英語表現(１)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
6	Conjuctions 接続詞	「ストーリーライター」のグループ演習を通じて、接続詞を積極的に取り入れ、文に新しい意味を追加する	教科書予習や課題（１時間程度）
7	Presentation Project 準備	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題（１時間程度）
8	Presentation Project 発表	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題（１時間程度）
9	Men and Women	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習（１時間程度）
10	外国文化紹介/身近な英語表現(２)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
11	Across Cultures	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題（１時間程度）
12	外国文化紹介/身近な英語表現(3)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
13	Food and Health	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題（１時間程度）
14	外国文化紹介/身近な英語表現(4)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
15	まとめと振り返り	前期で学んだことについて一人一人が振り返り共有をしていきます	まとめテストに向けて勉強

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Explorer 4（無料配布する）	Paul MacIntyre, David Bohlke	National Geographic Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Attendance & Participation（授業への参加、貢献）: 60%
Homework（小テスト、まとめテスト等も含む）: 20%
Group Report/Presentation: 10%
Vocab.doc: 10%

	(Setsunan Policy: If you have 3 unexcused absences, it's a Fail)
学生への メッセージ	Take best advantage of your sensei and university resources.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	張　瑛周
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1: Welcome to the Big Apple	テキス・授業についての説明 Checklink の登録 Unit 1: お礼を伝える 現在形 自己紹介をする	事前：Unit 1 の予習 事後：Unit 1 の課題
2	Unit 2: What's the Boss Like?	感想を述べる 代名詞 友人を紹介する	事前：Unit 2 の予習 事後：Unit 2 の課題
3	Unit 3: Masa's First Day on the Job	勤務時間について述べる 前置詞 行動予定について書く	事前：Unit 3 の予習 事後：Unit 3 の課題
4	Unit 4: Summer Fun	週末にしたことを述べる 過去形 ある 1 日を振り返る	事前：Unit 4 の予習 事後：Unit 4 の課題
5	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction	相手を励ます 可算・不可算名詞 必要なものについて書く	事前：Unit 5 の予習 事後：Unit 5 の課題
6	Unit 6: Brainstorming	提案する 進行形 健康状態について書く	事前：Unit 6 の予習 事後：Unit 6 の課題
7	Unit 7: Glad to Be of Service	助けを求める WH 疑問文 人物を紹介する	事前：Unit 7 の予習 事後：Unit 7 の課題
8	Unit 8: Socializing with Co-Workers	パーティに誘う 動名詞・不定詞 好きなことについて書く	事前：Unit 8 の予習 事後：Unit 8 の課題
9	Unit 9: New York State	約束する 未来形 未来の自分について書く	事前：Unit 9 の予習 事後：Unit 9 の課題
10	Unit10: Sports Talk	好みを伝える 比較級・最上級 自分の価値観について書く	事前：Unit 10 の予習 事後：Unit 10 の課題
11	Unit 11: Tour Day	確認する 助動詞 大学の規則について書く	事前：Unit 11 の予習 事後：Unit 11 の課題
12	Unit 12: Party Time!	喜びを伝える 現在完了形 最近したことについて書く	事前：Unit 12 の予習 事後：Unit 12 の課題
13	Unit 13: Office Meeting	感想を述べる 関係詞 人物について書く	事前：Unit 13 の予習 事後：Unit 13 の課題
14	Unit14: A Bit of History	観光名所を案内する 受動態 通っている大学について書く	事前：Unit 14 の予習 事後：Unit 14 の課題
15	Uni 15: Farewell, Masa and Lucy	お別れの言葉を述べる 接続詞 普段の習慣について書く	事前：Unit 15 の予習 事後：Unit 15 の課題

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Missions! Basic	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） …100%
学生への メッセージ	ストーリーを通じて楽しく英語の 4 技能を学びましょう。予習を必ず行った上で授業に出席して下さい。皆さんの積極的な学習が、スキルアップにつながります。 授業計画は履修生の理解度や能力に応じて、適宜変更する場合がある。この場合、履修生には事前に通知するものとする。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池田　景子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 1A The Visual Village	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
3	Unit 1A The Visual Village	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
4	Unit 1B My Journey in Photographs	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
5	Unit 1B My Journey in Photographs	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
6	Unit 2A Love: A Chemical Reaction?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
7	Unit 2A Love: A Chemical Reaction?	Listening、Reading、文法を通し Unit 2A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
8	中間テスト	Unit 1A-2A	事前：中間テスト勉強
9	Unit 2B Feathers of Love	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
10	Unit 2B Feathers of Love	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
11	Unit 3A How Safe Is Our Food?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
12	Unit 3A How Safe Is Our Food?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3A を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
13	Unit 3B Genetically Modified Foods	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
14	Unit 3B Genetically Modified Foods	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 63B を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
15	まとめテスト	Unit 2B-3B	事前：まとめテストの勉強

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Explorer 4	Paul Macintyre and David Bohlke	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（中間課題、まとめの課題等も含む）　80%
学生へのメッセージ	
担当者の	7 号館 4 階　池田研究室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋　侑里
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	本講座では、英文法、新しい語彙を学び、習得します。言語、文化、社会的背景など様々な要因が異なる視点から物事をみることで、自身の視野を広げ、異文化を身近なものと捉えることを目的とする。英語や外国文化（とくにアメリカ文化）を楽しみながら学んでいきましょう。 また英文法やイディオムを習得するだけではなく、英語で実際に自分の考えを表現する。価値観や言語の異なる相手と円滑なコミュニケーションを取ることを目的とする。
到達目標	１）基礎英語と日常英語の知識と使い方を向上させます。 ２）様々なトピックに関する専門的な文章をよりよく理解できるようになります。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容・目的、評価などについて説明を行います。	教科書の予習、復習 Students will need to read the Topic Preview and Vocabulary Preview pages in the coursebook about the week's topic before each class and review the vocabulary discussed in class as homework.
2	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 be 動詞	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
3	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 可算名詞/不可算名詞	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
4	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 一般動詞(現在時制)	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
5	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 代名詞	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
6	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 一般動詞(過去時制)	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
7	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 進行形	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
8	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 未来形	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
9	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 助動詞	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
10	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 前置詞	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
11	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 現在完了	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
12	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 比較	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
13	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 WH 疑問文	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
14	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 動名詞/不定詞	教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
15	まとめ・振り返り	全体のまとめ・振り返りを行います。	全体の総復習。学期中に習得した英文法、イディオム、発音を復習し、習得した段階にする。

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～ - We Love L.A.！	Robert Hickling/臼倉美里	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Class participation and attitude = 30% In-class quizzes = 40% Class attendance = 30%
学生への メッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, read up on lessons, and do their homework will get the most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池田　景子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 4B The Future of Fashion: Dream weavers	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
3	Unit 4B The Future of Fashion: Dream weavers	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
4	Unit 5A The DNA Trail	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5A を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
5	Unit 5A The DNA Trail	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5A を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
6	Unit 5B Fantastic Voyage	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
7	Unit 5B Fantastic Voyage	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題・中間テスト勉強
8	中間テスト	Unit 4B-5B	事後：復習・課題
9	Unit 6A Racing to Rescue Koalas	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6A を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
10	Unit 6A Racing to Rescue Koalas	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
11	Unit 6B For the Love or Elephants	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
12	Unit 6B For the Love or Elephants	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
13	Unit 7A A Crowd in Harmony	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7A を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
14	Unit 7A A Crowd in Harmony	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7A を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
15	まとめテスト	Unit 6A-7A	事前：まとめテストの勉強

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Explorer 4	Paul Macintyre and David Bohlke	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階　池田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおおよそ １５ 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷川　明代
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 There Is More than One Way to Be a Leader	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
3	Unit 2 A Cool Response to Food Waste	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
4	Unit 3 Haiku-Having Fun with Words and Ideas	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
5	Unit 4 Could Your Face Cost You Your Privacy?	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
6	Unit 5 Russia's City of the East	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
7	Unit 6 The Healing Power of Music	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
8	Unit 7 Looking at Life through the Eyes of a Cat	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
9	Unit 8 Designing Solutions to Everyday Problems	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
10	Unit 9 Currying Favor in Britain and Japan	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
11	Unit 10 Interacting with Others in a Globalized World	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
12	Unit 11The Tragedy of Rana Plaza	小テスト 教科書の問題に取り組む 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事後：復習課題に取り組む
13	プレゼンテーション	与えられた課題のプレゼンテーションを行う	事前：プレゼンテーションの準備をする
14	プレゼンテーション 復習	与えられた課題のプレゼンテーションを行う 復習	事前：プレゼンテーションの準備をする
15	まとめテスト	まとめテスト	事前：まとめテストの準備をする。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Pleasure in Reading Aloud and Retelling	Anthony P. Newell Takane Yamaguchi	金星堂
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100%
学生への メッセージ	音読を中心に行い、英語の４技能を効果的に向上させましょう。ペアやグループでのやり取り通じてコミュニケーションの楽しさを実感してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおおよそ １５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	キアン　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	ロバートカプランの 「書き手責任」の英語枠組みと「読み手責任」の日本語語学論を尊重し、比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 e-テキストが無料配布する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明します。	
2	Vocabulary１	Yes/No 質問と自由回答式質問を区別する方法、および両方を使用する場合の長所と短所（Taboo ゲームを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
3	Vocabulary２	同義語、反意語またはイディオムや言い換える方法を練習するために（Taboo ゲームを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
4	Miscommunication& Mistranslation	誤解と誤訳のリーディング、グループワーク(新聞などを用います)	教科書予習や課題（１時間程度）
5	外国文化紹介/身近な英語表現(１)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
6	Conjuctions 接続詞	「ストーリーライター」のグループ演習を通じて、接続詞を積極的に取り入れ、文に新しい意味を追加する	教科書予習や課題（１時間程度）
7	Presentation Project 準備	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題（１時間程度）
8	Presentation Project 発表	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題（１時間程度）
9	Men and Women	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習（１時間程度）
10	外国文化紹介/身近な英語表現(２)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
11	Across Cultures	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題（１時間程度）
12	外国文化紹介/身近な英語表現(3)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
13	Food and Health	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題（１時間程度）
14	外国文化紹介/身近な英語表現(4)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
15	まとめと振り返り	前期で学んだことについて一人一人が振り返り共有をしていきます	まとめテストに向けて勉強

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新研究から読む世界のおもしろ科学 Our Science	田中　博晃 / 山西　博之 / Bill Benfield	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Attendance & Participation（授業への参加、貢献）: 60%
Homework（小テスト、まとめテスト等も含む）: 20%
Group Report/Presentation: 10%

	Vocab.doc: 10% (Setsunan Policy: If you have 3 unexcused absences, it's a Fail)
学生への メッセージ	Take best advantage of your sensei and university resources.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Lesson 1　を始める	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明 小テスト（語彙、フレーズなど）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
2	1 Miracle Cure, or just a Lemon?	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
3	2 Stolen　Goods	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
4	3 Okinawa Ink	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
5	4 No More Tears	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
6	5 The Way of the Pub	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
7	6 Whodunnit	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
8	授業後、中間テスト	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング） 中間テスト（前半の学習内容の確認）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく） 中間テスト勉強
9	7 Checkpoint Charlie and the Berlin　Wall	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
10	8 Queen Victoria's "Gift"	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
11	9 Two Scottish Heritages	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
12	10 Do You Believe in Magic?	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
13	11 That Sinking Feeling	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
14	12 Famous street Artist7s Joke and　Gesture	英文読解 Exercises（英問英答、語彙、TorF 、リスニング）	教科書の予習（Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく）
15	まとめテスト	期末のテスト 学期後半の学習内容の確認	まとめテストに向けて勉強

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Everyday History	Jim Knudsen	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加、貢献（質問に対する発言、小テスト、まとめテスト等） 100%
学生への メッセージ	授業には毎回辞書を持参すること。 予習がしてあることを前提に授業をするので、必ず予習しておくこと。 語彙やまとまった表現は事前に調べノートしておくこと。 リスニング箇所は、何度も聴いて予習をしておくこと。 教科書を購入していない受講生は単位取得の意志無しと見做す。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞｰﾙｵﾐｯﾄﾞ ｻｯｼﾞｬﾄﾞ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など	予習：テキスト Unit1-10 ににざっと目を通す 復習：自習用音声の使用に慣れる
2	Unit 11　Caring for Strays	トルコ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
3	Unit 12 Coal before Comfort	モザンビーク発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
4	Unit 13　Lifesaving Lake	コンゴ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
5	Unit 14 Saving a Wooden Giant	トルコ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
6	Unit 15　Protecting an Ancient City	パキスタン発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
7	Unit 11-15 の復習テスト	復習テストを行う	予習：Unit 11-15 の Web 動画や音声ファイルの視聴及びテキストの問題の復習で、理解を完全にしておくこと 復習：テストの模範解答を確認する
8	Unit 16　Disappearing Island	アメリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
9	Unit 17　Lots and Lots of Lithium	ポルトガル発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
10	Unit 18　High-tech Telescope, Low-tech Environment	アメリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
11	Unit 19　Monitoring the Melting Ice	チリ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
12	Unit 20　Creating Mars in the Desert	オマーン発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習：Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
13	研究発表	与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、学生同士でも評価し合う	予習：プレゼンテーションの準備 復習：プレゼンテーション内容の振り返り
14	研究発表	与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、学生同士でも評価し合う	予習：プレゼンテーションの準備 復習：プレゼンテーション内容の振り返り
15	まとめテスト	Unit11-20 のまとめテストを行う	予習：前期全体の復習 復習：テスト後に掲示される解答をもとに復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	AFP SciTech Futures　AFP で学ぶ世界の科学	椋 1 平　淳	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法	全学共通英語課題　20%

（基準）	TOEIC Bridge のスコア　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%
学生へのメッセージ	フランスを拠点とする報道機関 AFP 通信が有する映像ニュースから科学・技術に関する最新映像を視聴し、刻々と変容する世界の事象を生きた英語で学びましょう。また、発展的に自ら調べ、発表する課題をこなすことにより、プレゼンテーションの形式に慣れてください。
担当者の研究室等	教員室１（２号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	キアン　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	ロバートカプランの 「書き手責任」の英語枠組みと「読み手責任」の日本語語学論を尊重し、比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 e-テキストが無料配布する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明します。	
2	Vocabulary１	Yes/No 質問と自由回答式質問を区別する方法、および両方を使用する場合の長所と短所（Taboo ゲームを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
3	Vocabulary２	同義語、反意語またはイディオムや言い換える方法を練習するために（Taboo ゲームを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
4	Miscommunication& Mistranslation	誤解と誤訳のリーディング、グループワーク(新聞などを用います)	教科書予習や課題（１時間程度）
5	外国文化紹介/身近な英語表現(１)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
6	Conjuctions 接続詞	「ストーリーライター」のグループ演習を通じて、接続詞を積極的に取り入れ、文に新しい意味を追加する	教科書予習や課題（１時間程度）
7	Presentation Project 準備	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題（１時間程度）
8	Presentation Project 発表	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題（１時間程度）
9	Men and Women	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習（１時間程度）
10	外国文化紹介/身近な英語表現(２)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
11	Across Cultures	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題（１時間程度）
12	外国文化紹介/身近な英語表現(3)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
13	Food and Health	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題（１時間程度）
14	外国文化紹介/身近な英語表現(4)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えそうな英語表現（必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います）	教科書予習や課題（１時間程度）
15	まとめと振り返り	前期で学んだことについて一人一人が振り返り共有をしていきます	まとめテストに向けて勉強

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新研究から読む世界のおもしろ科学 Our Science	田中　博晃 / 山西　博之 / Bill Benfield	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Attendance & Participation（授業への参加、貢献）: 60%
Homework（小テスト、まとめテスト等も含む）: 20%
Group Report/Presentation: 10%

	Vocab.doc: 10% (Setsunan Policy: If you have 3 unexcused absences, it's a Fail)
学生への メッセージ	Take best advantage of your sensei and university resources.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	張　瑛周
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1: Welcome to L.A.	自己紹介 テキスト・授業についての説明 Checklink の登録 Unit 1: be 動詞	事前：Unit 1 の予習 事後：Unit 1 の課題
2	Unit 2: I Love Fruits!	可算・不可算名詞	事前：Unit 2 の予習 事後：Unit 2 の課題
3	Unit 3: Campus Life	一般動詞・現在時制	事前：Unit 3 の予習 事後：Unit 3 の課題
4	Unit 4: Lunchtime	代名詞	事前：Unit 4 の予習 事後：Unit 4 の課題
5	Unit 5: First Date	一般動詞・過去時制	事前：Unit 5 の予習 事後：Unit 5 の課題
6	Unit 6: Where's Linda?	進行形	事前：Unit 6 の予習 事後：Unit 6 の課題
7	Unit 7: Andy's News	未来形	事前：Unit 7 の予習 事後：Unit 7 の課題
8	Unit 8: Shopping in Santa Monica	助動詞	事前：Unit 8 の予習 事後：Unit 8 の課題
9	Unit 9: Moving Day	前置詞	事前：Unit 9 の予習 事後：Unit 9 の課題
10	Unit 10: A Beautiful View	現在完了	事前：Unit 10 の予習 事後：Unit 10 の課題
11	Unit 11: Sunday Fun	比較	事前：Unit 11 の予習 事後：Unit 11 の課題
12	Unit 12: Seeing Stars	WH 疑問文	事前：Unit 12 の予習 事後：Unit 12 の課題
13	Unit 13: Buying Food for a BBQ	動名詞・不定詞	事前：Unit 13 の予習 事後：Unit 13 の課題
14	Unit 14: Putting on a New Face	接続詞	事前：Unit 14 の予習 事後：Unit 14 の課題
15	Unit 15: Nice Surprises	受動態	事前：Unit 15 の予習 事後：Unit 15 の課題

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	We Love L.A.!	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） …100%
学生へのメッセージ	L.A.に行った気分になって、楽しく英語の 4 技能を学びましょう。予習を必ず行なった上で授業に出席して下さい。皆さんの積極的な学習姿勢が、スキルアップにつながります。 授業計画は履修生の理解度や能力に応じて、適宜変更する場合があります。この場合、履修生には事前に通知します。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池田　景子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 4B The Future of Fashion: Dream weavers	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
3	Unit 4B The Future of Fashion: Dream weavers	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
4	Unit 5A The DNA Trail	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5A を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
5	Unit 5A The DNA Trail	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5A を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
6	Unit 5B Fantastic Voyage	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
7	Unit 5B Fantastic Voyage	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題・中間テスト勉強
8	中間テスト	Unit 4B-5B	事後：復習・課題
9	Unit 6A Racing to Rescue Koalas	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6A を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
10	Unit 6A Racing to Rescue Koalas	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
11	Unit 6B For the Love or Elephants	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
12	Unit 6B For the Love or Elephants	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6B を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
13	Unit 7A A Crowd in Harmony	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7A を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
14	Unit 7A A Crowd in Harmony	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7A を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
15	まとめテスト	Unit 6A-7A	事前：まとめテストの勉強

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Explorer 4	Paul Macintyre and David Bohlke	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階　池田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおおよそ １５ 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋　侑里
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	本講座では、英文法、新しい語彙を学び、習得します。言語、文化、社会的背景など様々な要因が異なる視点から物事をみることで、自身の視野を広げ、異文化を身近なものと捉えることを目的とする。英語や外国文化（とくにアメリカ文化）を楽しみながら学んでいきましょう。 英文法やイディオムを習得するだけではなく、英語で実際に自分の考えを表現する。価値観や言語の異なる相手と円滑なコミュニケーションをとることを目的とする。
到達目標	１）基礎英語と日常英語の知識と使い方を向上させます。 ２）様々なトピックに関する専門的な文章をよりよく理解できるようになります。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容・目的、評価などについて説明を行います。	教科書の予習、復習 Students will need to read the Topic Preview and Vocabulary Preview pages in the coursebook about the week's topic before each class and review the vocabulary discussed in class as homework.
2	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 be 動詞	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
3	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 可算名詞/不可算名詞	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
4	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 一般動詞(現在時制)	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
5	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 代名詞	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
6	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 一般動詞(過去時制)	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
7	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 進行形	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
8	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 未来形	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
9	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 助動詞	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
10	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 前置詞	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
11	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 現在完了	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
12	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 比較	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
13	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 WH 疑問文	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
14	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 動名詞/不定詞	教科書の予習、復習。教科書の予習、復習。英文法に加えて、単語のスペリング、イディオムを確認すること。英会話を音読し、発音練習をおこなうこと。
15	まとめ・振り返り	全体のまとめ・振り返りを行います。	全体の総復習。学期中に習得した英文法、イディオム、発音を復習し、習得した段階にする。

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～ - We Love L.A.！	Robert Hickling/臼倉美里	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Class participation and attitude = 30% In-class quizzes = 40% Class attendance = 30%
学生への メッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, read up on lessons, and do their homework will get the most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	韓国語Ⅰ	科目名（英文）	Korean Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森　類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LK01817e1		

授業概要・目的	この授業では、ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格に対応できるための「基礎力」を養成することを目的とする（本授業「韓国語Ⅰ」で基礎力を養成し、「韓国語Ⅱa」でハングル能力検定５級もしくはTOPIK1級合格水準に達する実力をつける）。教科書は『チュクチュク チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2022 年）を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格に向けた基礎力を養成する。 ①文法事項・単語力（基本的な文法と表現、単語数約 250 語程度） ②読解力と作文能力 ③リスニング力 ④発話力（決まり文句としてのあいさつやあいづち、簡単な意思表示）
授業方法と留意点	1）文法事項・語彙の復習の時間をとって着実に学習を重ねること。 2）進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3）受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4）フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格に向けた基礎力養成

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1)　ガイダンス 2)　Ⅰ．ハングルを習おう！ 第１課 母音字１	・授業の進め方、成績評価、学習方法 ・母音字１	文字・語彙の復習（60 分）
2	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第２課 子音字１	平音１（初声） 平音２（終声）	文字・語彙の予習・復習（120 分）
3	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第３課 母音字２	母音字２	文字・語彙の予習・復習（120 分）
4	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第４課 子音字２	平音２（初声） 激音２（初声）	文字・語彙の予習・復習（120 分）
5	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第５課 バッチム	終声（バッチム）	文字・語彙の予習・復習（120 分）
6	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第６課 母音字３	母音字３	文字・語彙の予習・復習（120 分）
7	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第７課 子音字３	濃音（初声） 濃音（終声） 日本語のハングル表記	文字・語彙の予習・復習（120 分）
8	第８課 知っておこう	教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則	表現・発音の予習・復習（120 分）
9	Ⅱ話してみよう！ 第１課 こんにちは	丁寧語尾～です、ます（ヘヨ体）	文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
10	Ⅱ話してみよう！ 第１課 こんにちは	助詞（～は）	文字・文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
11	Ⅱ話してみよう！ 第２課 これは何ですか。	指示詞（この、その、あの）	文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
12	Ⅱ話してみよう！ 第２課 これは何ですか。	助詞（～が） 助詞（だけ、のみ）	文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
13	Ⅱ話してみよう！ 第３課 アメリカンコーヒーありますか。	存在詞 ～です、ます（ハムニダ体）	文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
14	Ⅱ話してみよう！ 第３課 アメリカンコーヒーありますか。	リウル脱落 助詞（～と）	文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
15	期末のまとめと理解度確認テスト（期末評価）	期末の総まとめ	文法事項・語彙の復習（120 分）

関連科目：「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」など韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク　チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典　第２版	油谷幸利ほか編	小学館
2			
3			

評価方法（基準）：課題の遂行　20%
小テスト　40%

	期末の理解度確認テスト　40%
学生への メッセージ	特段の事情なく授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　森研究室
備考	質問は授業の前後の時間やオフィスアワーに受け付ける。Teams やメールでの質問も受け付ける。

科目名	韓国語Ⅰ	科目名（英文）	Korean Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LK01817e1		

授業概要・目的	この授業では、ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格に対応できるための「基礎力」を養成することを目的とする。（本授業「韓国語Ⅰ」で基礎力を養成し、「韓国語Ⅱa」でハングル能力検定５級もしくはTOPIK１級合格水準に達する実力をつける。） 教科書は『チュクチュク　チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、２０２１年）を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格に向けた基礎力を養成する。 ①文法事項・単語力（基本的な文法と表現、単語数約 250 語程度） ②読解力と作文能力 ③リスニング力 ④発話力（決まり文句としてのあいさつやあいづち、簡単な意思表示）
授業方法と留意点	1）文法事項・語彙の復習の時間をとって着実に学習を重ねること。 2）進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3）受講学生の理解を助けるため、 適宜プリントを配布することもある。 4）フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格に向けた基礎力養成

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス Ⅰ.ハングルを習おう！ 第１課　母音字１	授業の進め方、成績評価、学習方法 母音字１	文字・語彙の復習（６０分）
2	Ⅰ.ハングルを習おう！ 第２課　子音字１	平音１（初声） 平音２（終声）	文字・語彙の予習・復習（１２０分）
3	Ⅰ.ハングルを習おう！ 第３課　母音字２	母音字２	文字・語彙の予習・復習（１２０分）
4	Ⅰ.ハングルを習おう！ 第４課　子音字２	平音２（初声） 激音２（初声）	文字・語彙の予習・復習（１２０分）
5	Ⅰ.ハングルを習おう！ 第５課　パッチム	終声（パッチム）	文字・語彙の予習・復習（１２０分）
6	Ⅰ.ハングルを習おう！ 第６課　母音字３	母音字３	文字・語彙の予習・復習（１２０分）
7	Ⅰ.ハングルを習おう！ 第７課　子音字３	濃音２（初声） 濃音２（終声） 日本語のハングル表記	文字・語彙の予習・復習（１２０分）
8	Ⅰ.ハングルを習おう！ 第８課　知っておこう	教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則	表現・発音の予習・復習（１２０分）
9	Ⅱ.話してみよう！ 第１課　こんにちは	丁寧語尾～です、～ます（ヘヨ体）	文法事項・語彙の予習・復習（１２０分）
10	Ⅱ.話してみよう！ 第１課　こんにちは	助詞（～は）	文字・文法事項・語彙の予習・復習（１２０分）
11	Ⅱ.話してみよう！ 第２課　これは何ですか？	指示詞（この、その、あの）	文字・文法事項・語彙の予習・復習（１２０分）
12	Ⅱ.話してみよう！ 第２課　これは何ですか？	助詞（～が） 助詞（だけ、のみ）	文字・文法事項・語彙の予習・復習（１２０分）
13	Ⅱ.話してみよう！ 第３課　アメリカンコーヒーありますか？	存在詞「ヘヨ体」 「ハムニダ体」	文字・文法事項・語彙の予習・復習（１２０分）
14	Ⅱ.話してみよう！ 第３課　アメリカンコーヒーありますか？	助詞（～と）	文字・文法事項・語彙の予習・復習（１２０分）
15	後半のまとめと理解度確認テスト（期末評価）	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備（１２０分）

関連科目：「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」など韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク　チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典　第２版	油谷幸利ほか編	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	課題の遂行　２０％ 小テスト　４０％ 期末の理解度確認テスト　４０％
学生へのメッセージ	特段の事情なく授業の３分の１以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問がある場合は、授業の前後の時間に受け付ける。

科目名	韓国語Ⅰ	科目名（英文）	Korean Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈　明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LK01817e1		

授業概要・目的	この授業では、ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）1 級合格に対応できるための「基礎力」を養成することを目的とします（本授業「韓国語Ⅰ」で基礎力を養成し、「韓国語Ⅱa」でハングル能力検定５級もしくは TOPIK1 級合格水準に達する実力をつけます)。 教科書は『チュクチュク チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級』（朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021 年）を使用します。教科書に沿って授業を進めていきます。 語学としての韓国語の学習はもちろんですが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにします。
到達目標	ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格に向けた基礎力を養成する。 ①文法事項・単語力（基本的な文法と表現、単語数約 250 語程度） ②読解力と作文能力 ③リスニング力 ④発話力（決まり文句としてのあいさつやあいづち、簡単な質疑応答）
授業方法と留意点	1）文法事項・語彙の復習の時間をとって着実に学習を重ねて下さい。 2）進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性があります。 3）適宜プリントを配布します。 4）フィードバックは基本的に授業内に行います。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス Ⅰ．ハングルを習おう！ 第１課 母音字１	授業の進め方、成績評価、学習方法 母音字１	文字・語彙の復習（60 分）
2	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第２課 子音字１	平音１（初声） 平音２（終声）	文字・語彙の予習・復習（120 分）
3	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第３課 母音字２	母音字２	文字・語彙の予習・復習（120 分）
4	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第４課 子音字２	平音２（初声） 激音２（初声）	文字・語彙の予習・復習（120 分）
5	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第５課 バッチム	終声（バッチム）	文字・語彙の予習・復習（120 分）
6	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第６課 母音字３	母音字３	文字・語彙の予習・復習（120 分）
7	Ⅰ．ハングルを習おう！ 第７課 子音字３	濃音（初声） 濃音（終声） 日本語のハングル表記	文字・語彙の予習・復習（120 分）
8	中間の理解度確認テスト 第８課 知っておこう	「Ⅰ.ハングルを習おう！第１課～7 課」の内容 教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則	理解度確認テストの準備（120 分）
9	Ⅱ話してみよう！ 第１課 こんにちは	丁寧語尾～です、ます（ヘヨ体）	文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
10	Ⅱ話してみよう！ 第１課 こんにちは	助詞（～は）	文字・文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
11	Ⅱ話してみよう！ 第２課 これは何ですか。	指示詞（この、その、あの）	文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
12	Ⅱ話してみよう！ 第２課 これは何ですか。	助詞（～が） 助詞（だけ、のみ）	文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
13	Ⅱ話してみよう！ 第３課 アメリカンコーヒーありますか。	存在詞 ～です、ます（ハム二ダ体）	文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
14	Ⅱ話してみよう！ 第３課 アメリカンコーヒーありますか。	リウル脱落 助詞（～と）	文法事項・語彙の予習・復習（120 分）
15	期末のまとめ(総まとめと理解度確認)	既習文法事項の総確認	文法事項・語彙の復習と理解度確認の準備（120 分）

関連科目	「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」など韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典　第２版	油谷幸利ほか編	小学館
2			

	3			
評価方法 （基準）	小テスト　40% ワークプリント　10% 期末の理解度確認テスト（音読・筆記）　50%
学生への メッセージ	1.特段の事情なく授業を3回以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2.当然のことですが、基礎が重要です。文字・語彙・文法事項を確実に予習・復習しながら授業を受けるようにしてください。
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	質問は授業の前後の時間に受け付ける。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ１
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	人形寺　英利子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な力を養成することに重点を置く。 事実を客観的に説明する方法、引用の方法、意見を論理的に記述する方法、考えをまとめる方法などを学び、わかりやすい文章の書き方を実践的にトレーニングする。
到達目標	他者に伝えることを意識して、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポート課題を提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	復習：プリント
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	復習：教科書の「はじめに」「第１回」「第２回」、プリント
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ 課題１にむけて説明文を書く練習をする	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ 課題１にむけて説明文を書く練習をする
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	復習：教科書「はじめに」「第１回」「第２回」「第３回」、プリント
5	構成 要約	レポートなどの文章構成を学ぶ 要旨の要約の作成方法を学ぶ	復習：教科書「第５回」「第６回」、プリント
6	フィードバック 構成や要約の復習	課題１のフィードバック	課題１を見直す 教科書「第５回」「第６回」
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第７回」
8	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第８回」、プリント
9	意見を述べる ５～８の復習	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 課題２に向けてこれまでの復習	復習：教科書「第５回」～「第９回」、プリント
10	課題２の構成	課題２の構成	復習：教科書「第５回」～「第９回」、プリント
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	復習：教科書「はじめに」～「第１０回」
12	レポートの書き方１・２ 資料収集の方法	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明 文献の探索について学ぶ	復習：教科書「第 11 回」～「第 13 回」
13	レポートの作成 フィードバック	レポートの作成 分からない点を質問する	復習：教科書、課題２を踏まえて、最終レポートの作成に生かす
14	【課題３】レポート 提出	レポートを提出する	予習復習：これまでの小テストを見直し、復習テストに備える
15	レポートの講評 小テストの復習テスト	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学全学教育機構編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３点（70%）、授業に取り組む姿勢・小テストの復習テスト（30%）により評価する。 課題３点を一度でも提出しない場合は不合格となる。 出席・宿題もチェックして加点。 コピーアンドペースト（いわゆるコピペ）は禁止。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）を使い分けましょう。 これからの大学生活、社会生活のためにも、自分が普段何気なく使っている言葉や自分の考えていることに向き合ってみてください。 受け身で文章の力はつきません。主体的に取り組むことが重要です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	総学習時間の目安は 15 時間。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 提出課題については、個別にフィードバックをする。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	1 時間の事前学習を目安とする
5	構成・要約	レポートなどの文章構成・要約を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
6	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す 1 時間の事前学習を目安とする
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
8	文章の引用を練習する	文章の引用を練習する	1 時間の事前学習を目安とする
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前学習を目安とする
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前学習を目安とする
13	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す 1 時間の事前学習を目安とする
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する 1 時間の事前学習を目安とする
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 1 時間の事前学習を目安とする

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学全学教育機構編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、１５時間。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ３
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	八島　由香
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。教科書に沿って授業を進めるため、教科書は毎回持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第 2～11 回の授業内で、語彙力などの基本的な学力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方１	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前課題 ： シラバスを確認し、教科書の目次に目を通す。 事後課題 ： 教科書「はじめに 文章で伝える」、「第 1 回 文章の書き方１」を読み、授業内容の復習をする。小テストに向けた学習をする。
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ ※小テスト①の実施	事前課題 ： 教科書「第 2 回 文章の書き方２」を読み、練習問題を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
3	事実と意見	事実の意見のかき分けを学ぶ ※小テスト②の実施	事前課題 ： 教科書「第 3 回 事実と意見」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
4	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ 【課題①】の概要を知り、構成を考える ※小テスト③の実施	事前課題 ： 教科書「第 5 回 構成」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
5	説明文を書く【課題①】	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く（第 6 回までに提出） ※小テスト④の実施	事前課題 ： 本授業、第 1～5 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
6	要約	文章の要旨を要約する方法を学ぶ 【課題①】を提出する ※小テスト⑤の実施	事前課題 ： 教科書「第 6 回 要約」を読み、練習問題 1～6 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑥の実施	事前課題 ： 教科書「第 7 回 文章を引用する」を読み、練習問題 1～4 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
8	【課題①】フィードバック	【課題①】の見直しをする ※小テスト⑦の実施	事前課題 ： 本授業、第 5～7 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題・小テストの復習をする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑧の実施	事前課題 ： 教科書「第 8 回 図表を引用する」を読み、練習問題 1・2 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
10	意見を述べる 論説文を書く【課題②】	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 資料を引用して意見を述べる文章を書く（第 12 回までに提出） ※小テスト⑨の実施	事前課題 ： 教科書「第 9 回 意見を述べる」を読み、練習問題を解く。教科書 「第 10 回 課題②論説文」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
11	論説文を書く【課題②】	【課題②】に取り組む （第１２回までに提出） ※小テスト⑩の実施	事前課題 ：小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点をおさえる 【課題③】の概要を知り、構成を考える 【課題②】の提出をする	事前課題 ： 【課題②】に取り組み、完成させる。教科書「第 11 回 レポートの書き方１」、「第 12 回 レポートの書き方 2」を読む。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。課題に取り組む。
13	レポートを書く【課題③】	【課題③】に取り組む （第１４回までに提出）	事前課題 ： 教科書「第 11 回 レポートの書き方１」、「第 12 回 レポートの書き方 2」を復習しておく。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。課題に取り組む。
14	【課題②】フィードバック	【課題②】の見直しをする 【課題③】の提出をする	事前課題 ： 【課題③】に取り組む。本授業、第 8～１２回の内容を復習する。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする	事前課題 ： 本授業、第１１・１２回の内容を復習する。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>大学生の日本語文章表現</td><td>摂南大学全学教育機構編</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題２回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。
課題、レポートを一度でも提出しない場合は、不合格となる。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルが身につくはずです。積極的に授業に臨んでください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>７号館２階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15時間である。
提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。また、授業に関する情報や配布資料は、Moodle に掲載する。初回の授業（ガイダンス）で、Moodle の授業ページへの登録方法などの説明をする。</td></tr>
</table>

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ４
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	人形寺　英利子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な力を養成することに重点を置く。 事実を客観的に説明する方法、引用の方法、意見を論理的に記述する方法、考えをまとめる方法などを学び、わかりやすい文章の書き方を実践的にトレーニングする。
到達目標	他者に伝えることを意識して、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポート課題を提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	復習：プリント
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	復習：教科書の「はじめに」「第１回」「第２回」、プリント
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ 課題１にむけて説明文を書く練習をする	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ 課題１にむけて説明文を書く練習をする
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	復習：教科書「はじめに」「第１回」「第２回」「第３回」、プリント
5	構成 要約	レポートなどの文章構成を学ぶ 要旨の要約の作成方法を学ぶ	復習：教科書「第５回」「第６回」、プリント
6	フィードバック 構成や要約の復習	課題１のフィードバック	課題１を見直す 教科書「第５回」「第６回」
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第７回」
8	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第８回」、プリント
9	意見を述べる ５～８の復習	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 課題２に向けてこれまでの復習	復習：教科書「第５回」～「第９回」、プリント
10	課題２の構成	課題２の構成	復習：教科書「第５回」～「第９回」、プリント
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	復習：教科書「はじめに」～「第１０回」
12	レポートの書き方１・２ 資料収集の方法	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明 文献の探索について学ぶ	復習：教科書「第 11 回」～「第 13 回」
13	レポートの作成 フィードバック	レポートの作成 分からない点を質問する	復習：教科書、課題２を踏まえて、最終レポートの作成に生かす
14	【課題３】レポート 提出	レポートを提出する	予習復習：これまでの小テストを見直し、復習テストに備える
15	レポートの講評 小テストの復習テスト	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学全学教育機構編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３点（70%）、授業に取り組む姿勢・小テストの復習テスト（30%）により評価する。 課題３点を一度でも提出しない場合は不合格となる。 出席・宿題もチェックして加点。 コピーアンドペースト（いわゆるコピペ）は禁止。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）を使い分けましょう。 これからの大学生活、社会生活のためにも、自分が普段何気なく使っている言葉や自分の考えていることに向き合ってみてください。 受け身で文章の力はつきません。主体的に取り組むことが重要です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	総学習時間の目安は 15 時間。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ５
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川　知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 大学生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 説明文・論説文・レポートの３つの課題を提出する。 不定期に日本語の基礎的語彙力などの小テストを行う。 フィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 教科書第１回「文章の書き方１」	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	―――
2	教科書第２回「文章の書き方２」	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	教科書第３回「事実と意見」	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	教科書第４回【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題を書く
5	教科書第５「構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	教科書第６回「要約」	要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
7	課題１のフィードバック これまでの復習科書	課題１の反省 ここまでの復習問題を解く	課題１を見直す これまでの復習
8	教科書第７回「文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	教科書第８回「図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 教科書第 9 回「意見の述べ方」	文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	引用の復習
11	教科書第 10 回【課題２】論説文	与えられた資料を引用して意見を述べる文章を書く	課題を書く
12	教科書第 11 回 12 回「レポートの書き方１・2」 レポート課題の説明	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明	レポートを作成の準備をする
13	レポートの作成準備	レポートの作成準備	レポートを作成する
14	課題２のフィードバック レポートの作成準備	課題２の反省 レポートの作成準備	課題２を見直す レポートを作成する
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する 小テストの復習テスト	レポート提出 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学全学教育機構編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）・レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト・復習テスト（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 課題、レポートがＤ評価の場合、再提出となる。再提出は、単位取得の必須条件。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	j 事前事後学習時間の目安は 15 時間

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ６
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	八島　由香
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。教科書に沿って授業を進めるため、教科書は毎回持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第 2～11 回の授業内で、語彙力などの基本的な学力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方１	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前課題 ： シラバスを確認し、教科書の目次に目を通す。 事後課題 ： 教科書「はじめに 文章で伝える」、「第 1 回 文章の書き方１」を読み、授業内容の復習をする。小テストに向けた学習をする。
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ ※小テスト①の実施	事前課題 ： 教科書「第 2 回 文章の書き方２」を読み、練習問題を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
3	事実と意見	事実の意見のかき分けを学ぶ ※小テスト②の実施	事前課題 ： 教科書「第 3 回 事実と意見」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
4	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ 【課題①】の概要を知り、構成を考える ※小テスト③の実施	事前課題 ： 教科書「第 5 回 構成」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
5	説明文を書く【課題①】	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く（第 6 回までに提出） ※小テスト④の実施	事前課題 ： 本授業、第 1～5 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
6	要約	文章の要旨を要約する方法を学ぶ 【課題①】を提出する ※小テスト⑤の実施	事前課題 ： 教科書「第 6 回 要約」を読み、練習問題 1～6 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑥の実施	事前課題 ： 教科書「第 7 回 文章を引用する」を読み、練習問題 1～4 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
8	【課題①】フィードバック	【課題①】の見直しをする ※小テスト⑦の実施	事前課題 ： 本授業、第 5～7 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題・小テストの復習をする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑧の実施	事前課題 ： 教科書「第 8 回 図表を引用する」を読み、練習問題 1・2 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
10	意見を述べる 論説文を書く【課題②】	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 資料を引用して意見を述べる文章を書く（第 12 回までに提出） ※小テスト⑨の実施	事前課題 ： 教科書「第 9 回 意見を述べる」を読み、練習問題を解く。教科書「第 10 回 課題②論説文」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
11	論説文を書く【課題②】	【課題②】に取り組む （第１２回までに提出） ※小テスト⑩の実施	事前課題 ：小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点をおさえる 【課題③】の概要を知り、構成を考える 【課題②】の提出をする	事前課題 ： 【課題②】に取り組み、完成させる。教科書「第 11 回 レポートの書き方１」、「第 12 回 レポートの書き方 2」を読む。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。課題に取り組む。
13	レポートを書く【課題③】	【課題③】に取り組む （第１４回までに提出）	事前課題 ： 教科書「第 11 回 レポートの書き方１」、「第 12 回 レポートの書き方 2」を復習しておく。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。課題に取り組む。
14	【課題②】フィードバック	【課題②】の見直しをする 【課題③】の提出をする	事前課題 ： 【課題③】に取り組む。本授業、第 8～１２回の内容を復習する。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする	事前課題 ： 本授業、第１１・１２回の内容を復習する。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>大学生の日本語文章表現</td><td>摂南大学全学教育機構編</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題２回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。
課題、レポートを一度でも提出しない場合は、不合格となる。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルが身につくはずです。積極的に授業に臨んでください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>７号館２階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15時間である。
提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。また、授業に関する情報や配布資料は、Moodle に掲載する。初回の授業（ガイダンス）で、Moodle の授業ページへの登録方法などの説明をする。</td></tr>
</table>

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	再
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川　知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 大学生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 説明文・論説文・レポートの３つの課題を提出する。 不定期に日本語の基礎的語彙力などの小テストを行う。 フィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 教科書第１回「文章の書き方１」	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	―――
2	教科書第２回「文章の書き方２」	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	教科書第３回「事実と意見」	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	教科書第４回【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題を書く
5	教科書第５「構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	教科書第６回「要約」	要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
7	課題１のフィードバック これまでの復習科書	課題１の反省 ここまでの復習問題を解く	課題１を見直す これまでの復習
8	教科書第７回「文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	教科書第８回「図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 教科書第 9 回「意見の述べ方」	文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	引用の復習
11	教科書第 10 回【課題２】論説文	与えられた資料を引用して意見を述べる文章を書く	課題を書く
12	教科書第 11 回 12 回「レポートの書き方１・2」 レポート課題の説明	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明	レポートを作成の準備をする
13	レポートの作成準備	レポートの作成準備	レポートを作成する
14	課題２のフィードバック レポートの作成準備	課題２の反省 レポートの作成準備	課題２を見直す レポートを作成する
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する 小テストの復習テスト	レポート提出 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学全学教育機構編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）・レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト・復習テスト（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 課題、レポートがＤ評価の場合、再提出となる。再提出は、単位取得の必須条件。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	j 事前事後学習時間の目安は 15 時間

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ１
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	人形寺　英利子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。考えや経験のまとめ方、他人に読んでもらう文章の書き方、他人に納得してもらう話し方などについて学び、実践する。
到達目標	適切な表現を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、ディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。グループワークを通して、論理的に話し合う力を養う。 後半はグループワークが主となるため、出席し、能動的に参加することが必要である。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 メールの書き方(前期に実施しなかった場合)	授業の目的、進め方の説明 メールの書式・用語・マナーを学ぶ	教員にメールを送る レポートの復習プリント
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	レポートの書き方の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と方法を学ぶ	敬語の復習プリント
5	ディスカッション１（準備） 課題１のフィードバック	・ディスカッションの資料配付・事前準備 ・課題１の復習	テーマの下調べ 課題１を見直す
6	ディスカッション２（説明）	・グループに分かれ、ディスカッションの練習をする。 ・練習	テーマの下調べ
7	ディスカッション３（実践）	・グループに分かれ、ディスカッションを行う ・ディスカッションの報告文を書く	足りない資料を探す
8	レジュメの書き方	レジュメ（配付資料）の書き方を学ぶ・練習	これまでの復習
9	【課題2】レジュメ作成	ディシュカッションの経過をレジュメにまとめる	資料作成の準備
10	プレゼンテーション１（説明・準備） 課題２のフィードバック	・プレゼンテーションの説明 ・課題②のフィードバックを元にグループレジュメ作成	発表の準備
11	プレゼンテーション２(読み原稿作成)	プレゼンテーションの準備 ・読み原稿を作成	発表の準備
12	プレゼンテーション３(リハーサル)	準備したレジュメ、読み原稿を元に、プレゼンテーションのリハーサルを行う・聴く	・リハーサルを通して、プレゼンテーションの見直し ・質疑応答の準備 ・自己評価表提出
13	プレゼンテーション４（本番）	資料を用いて、プレゼンテーションを行う・聴く	自己評価表・レポート（報告文）の準備
14	【課題３】報告文	プレゼンテーションの内容をレポート（報告文）にまとめる	レポートの復習
15	課題３の総評 小テストの復習テスト	課題３のフィードバック 小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学全学教育機構編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（70%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格とする。 グループワークを全て欠席した場合は単位の認定ができない（事情により対応する）。 コピーアンドペースト（いわゆるコピペ）は禁止。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）を区別する必要があります。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、自分が何気なく使っている言葉に向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。 フィードバックは、授業内で行う。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（１）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	１時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（２）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	１時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（３）	資料引用の復習（図表の引用）	１時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	１時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題１のフィードバック ディスカッションの準備	課題１のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
6	ディスカッション（１）	グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
7	ディスカッション（２）	グループでディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題２ 中間報告文	ディスカッションした内容を報告文にまとめる。	報告文の準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
9	フィードバック レジュメの作成	報告文のフィードバック レジュメの作成を行なう	１時間の事前事後学習を目安とする。
10	リハーサル	グループごとにリハーサルを行う	１時間の事前事後学習を目安とする。
11	プレゼンテーション（１）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	１時間の事前事後学習を目安とする。
12	プレゼンテーション（２）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	１時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題３報告文	発表内容を報告文にまとめる	１時間の事前事後学習を目安とする。
14	課題３のフィードバック メールの書き方	課題３のフィードバック メールの書き方の練習	１時間の事前事後学習を目安とする。
15	【復習テスト】	小テストの復習テスト	１時間の事前事後学習を目安とする。小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学全学教育機構編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ３
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	八島　由香
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切かなどについて、実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。はじめのうちは教科書に沿って授業を進めるため、教科書を持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第 2～10 回の授業内で、語彙力などの基本的な学力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方	本授業の目的、進め方の説明 わかりやすい文章の書き方を確認する	事前課題 ： シラバスを確認し、教科書の第１～4回に目を通す。 事後課題 ： 授業内容の復習をする
2	文章の書き方 論説文の書き方	わかりやすい文章の書き方を確認する 論説文を書くための構成や引用などを確認する 【課題①】の概要を知り、構成を考える。 ※小テスト①の実施	事前課題 ： 教科書の第 5～10 回に目を通す。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。小テストの復習をする。
3	論説文を書く【課題①】	資料を引用して意見を述べる文章を書く（この回で提出） ※小テスト②の実施	事前課題 ： 本授業、第１・2 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
4	ディスカッションとは ディスカッション　1-1	ディスカッションの方法を学ぶ 本授業におけるディスカッションのやり方の説明 ※小テスト③の実施	事前課題 ： 小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
5	ディスカッション　1-2 【課題①】フィードバック	グループディスカッションを行う 【課題①】の見直しをする ※小テスト④の実施	事前課題 ： 小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。返却された課題・小テストの復習をする。
6	ディスカッション　2-1	グループディスカッションを行う 【課題②】に関する説明 ※小テスト⑤の実施	事前課題 ： ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。小テストの復習をする。
7	ディスカッション 2-2	グループディスカッションを行う ※小テスト⑥の実施	事前課題 ： ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。小テストの復習をする。
8	ディスカッションの報告【課題②】	グループディスカッションの報告をレポートにする（この回で提出） ※小テスト⑦の実施	事前課題 ： 自分のグループのディスカッションの内容を振り返っておく。 事後課題 ： 小テストの復習をする。
9	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの方法を学ぶ 本授業におけるプレゼンテーション、資料作成の方法 【課題③】に関する説明 ※小テスト⑧の実施	事前課題 ： 小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
10	プレゼンテーションの資料作成と準備　1 【課題②】フィードバック	プレゼンテーション資料の作成をする 【課題②】の見直しをする ※小テスト⑨の実施	事前課題 ： プレゼンテーション資料の作成方法を確認し、資料を集める。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： プレゼンテーション資料を作成する。返却された課題・小テストの復習をする。
11	プレゼンテーション資料作成と準備　2	プレゼンテーション資料の作成と準備をする	事前課題 ： プレゼンテーション資料の作成をする。 事後課題 ： プレゼンテーション資料を完成させる。返却された課題・小テストの復習をする。
12	プレゼンテーション 1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
13	プレゼンテーション 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
14	プレゼンテーションの報告【課題③】	プレゼンテーションの内容を文章化する（この回で提出）	事前課題 ： 自分のグループのプレゼンテーションの内容を見返し、ある程度、文章化しておく。 事後課題 ： 今までの授業内容を振り返る。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする 授業を振り返る	事前課題 ： 今までの授業内容を振り返る。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>大学生の日本語文章表現</td><td>摂南大学全学教育機構編</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題 3 回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。（【課題③】30%のうちの 10%は、プレゼンテーションの資料などにあてる。）
課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルが身につくはずです。積極的に授業に臨んでください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15 時間である。
提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。また、授業に関する情報や配布資料は、Moodle に掲載する。初回の授業（ガイダンス）で、Moodle の授業ページへの登録方法などの説明をする。</td></tr>
</table>

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ４
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	人形寺　英利子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。考えや経験のまとめ方、他人に読んでもらう文章の書き方、他人に納得してもらう話し方などについて学び、実践する。
到達目標	適切な表現を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、ディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。グループワークを通して、論理的に話し合う力を養う。 後半はグループワークが主となるため、出席し、能動的に参加することが必要である。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 メールの書き方(前期に実施しなかった場合)	授業の目的、進め方の説明 メールの書式・用語・マナーを学ぶ	教員にメールを送る レポートの復習プリント
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	レポートの書き方の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と方法を学ぶ	敬語の復習プリント
5	ディスカッション１（準備） 課題１のフィードバック	・ディスカッションの資料配付・事前準備 ・課題１の復習	テーマの下調べ 課題１を見直す
6	ディスカッション２（説明）	・グループに分かれ、ディスカッションの練習をする。 ・練習	テーマの下調べ
7	ディスカッション３（実践）	・グループに分かれ、ディスカッションを行う ・ディスカッションの報告文を書く	足りない資料を探す
8	レジュメの書き方	レジュメ（配付資料）の書き方を学ぶ・練習	これまでの復習
9	【課題2】レジュメ作成	ディシュカッションの経過をレジュメにまとめる	資料作成の準備
10	プレゼンテーション１（説明・準備） 課題２のフィードバック	・プレゼンテーションの説明 ・課題②のフィードバックを元にグループレジュメ作成	発表の準備
11	プレゼンテーション２(読み原稿作成)	プレゼンテーションの準備 ・読み原稿を作成	発表の準備
12	プレゼンテーション３(リハーサル)	準備したレジュメ、読み原稿を元に、プレゼンテーションのリハーサルを行う・聴く	・リハーサルを通して、プレゼンテーションの見直し ・質疑応答の準備 ・自己評価表提出
13	プレゼンテーション４（本番）	資料を用いて、プレゼンテーションを行う・聴く	自己評価表・レポート（報告文）の準備
14	【課題３】報告文	プレゼンテーションの内容をレポート（報告文）にまとめる	レポートの復習
15	課題３の総評 小テストの復習テスト	課題３のフィードバック 小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学全学教育機構編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（70%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格とする。 グループワークを全て欠席した場合は単位の認定ができない（事情により対応する）。 コピーアンドペースト（いわゆるコピペ）は禁止。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）を区別する必要があります。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、自分が何気なく使っている言葉に向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ５
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川　知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。 グループワークでは、ディスカッションとプレゼンテーションを行う。 また、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 導入	授業の目的、進め方の説明	―――――
2	レポートの書き方１	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト１	前回の復習
3	レポートの書き方２	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト２	前回の復習
4	【課題１】レポート 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
6	課題１フィードバック 8回目以後のグループワーク 授業の説明 ディスカッション準備	課題１のフィードバック ディスカッションの前に個人の意見をまとめる 小テスト３	ディスカッションの準備テーマの下調べ 課題１を見直す
7	グループワーク ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う 小テスト４	ディスカッションの復習と予習
8	グループワーク ディスカッション２	ディスカッションを行う 小テスト５	ディスカッションの復習と予習
9	グループワーク 課題２ディスカッションの報告文１	ディスカッションの報告文を作成する 小テスト６	報告文の準備
10	グループワーク プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの資料作成 小テスト７	プレゼンテーション資料の準備
11	グループワーク プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
12	グループワーク プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
13	【課題３】報告文２	グループワークの報告文を作成する	グループワークの復習 グループワーク報告文の準備
14	メールの書き方	メールの書き方やマナーを学ぶ	メールの書き方の復習
15	小テストの復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学全学教育機構編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（２0%、20%、30%）、授業への取り組む姿勢・小テスト・復習テスト（30%）により評価する。 課題提出と課題Ｄ評価の再提出は単位取得の必須条件となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ６
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	八島　由香
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切かなどについて、実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。はじめのうちは教科書に沿って授業を進めるため、教科書を持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第 2～10 回の授業内で、語彙力などの基本的な学力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方	本授業の目的、進め方の説明 わかりやすい文章の書き方を確認する	事前課題 ： シラバスを確認し、教科書の第１～4 回に目を通す。 事後課題 ： 授業内容の復習をする
2	文章の書き方 論説文の書き方	わかりやすい文章の書き方を確認する 論説文を書くための構成や引用などを確認する 【課題①】の概要を知り、構成を考える。 ※小テスト①の実施	事前課題 ： 教科書の第 5～10 回に目を通す。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。小テストの復習をする。
3	論説文を書く【課題①】	資料を引用して意見を述べる文章を書く（この回で提出） ※小テスト②の実施	事前課題 ： 本授業、第１・2 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。課題に取り組む。
4	ディスカッションとは ディスカッション　1-1	ディスカッションの方法を学ぶ 本授業におけるディスカッションのやり方の説明 ※小テスト③の実施	事前課題 ： 小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
5	ディスカッション　1-2 【課題①】フィードバック	グループディスカッションを行う 【課題①】の見直しをする ※小テスト④の実施	事前課題 ： 小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。返却された課題・小テストの復習をする。
6	ディスカッション　2-1	グループディスカッションを行う 【課題②】に関する説明 ※小テスト⑤の実施	事前課題 ： ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。小テストの復習をする。
7	ディスカッション 2-2	グループディスカッションを行う ※小テスト⑥の実施	事前課題 ： ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。小テストの復習をする。
8	ディスカッションの報告【課題②】	グループディスカッションの報告をレポートにする（この回で提出） ※小テスト⑦の実施	事前課題 ： 自分のグループのディスカッションの内容を振り返っておく。 事後課題 ： 小テストの復習をする。
9	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの方法を学ぶ 本授業におけるプレゼンテーション、資料作成の方法 【課題③】に関する説明 ※小テスト⑧の実施	事前課題 ： 小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・小テストの復習をする。
10	プレゼンテーションの資料作成と準備　1 【課題②】フィードバック	プレゼンテーション資料の作成をする 【課題②】の見直しをする ※小テスト⑨の実施	事前課題 ： プレゼンテーション資料の作成方法を確認し、資料を集める。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： プレゼンテーション資料を作成する。返却された課題・小テストの復習をする。
11	プレゼンテーション資料作成と準備　2	プレゼンテーション資料の作成と準備をする	事前課題 ： プレゼンテーション資料の作成をする。 事後課題 ： プレゼンテーション資料を完成させる。返却された課題・小テストの復習をする。
12	プレゼンテーション 1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
13	プレゼンテーション 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
14	プレゼンテーションの報告【課題③】	プレゼンテーションの内容を文章化する（この回で提出）	事前課題 ： 自分のグループのプレゼンテーションの内容を見返し、ある程度、文章化しておく。 事後課題 ： 今までの授業内容を振り返る。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする 授業を振り返る	事前課題 ： 今までの授業内容を振り返る。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>大学生の日本語文章表現</td><td>摂南大学全学教育機構編</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題 3 回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。（【課題③】30%のうちの 10%は、プレゼンテーションの資料などにあてる。）
課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルが身につくはずです。積極的に授業に臨んでください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15 時間である。
提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。また、授業に関する情報や配布資料は、Moodle に掲載する。初回の授業（ガイダンス）で、Moodle の授業ページへの登録方法などの説明をする。</td></tr>
</table>

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	再
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川　知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。 グループワークでは、ディスカッションとプレゼンテーションを行う。 また、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 導入	授業の目的、進め方の説明	―――――
2	レポートの書き方１	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト１	前回の復習
3	レポートの書き方２	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト２	前回の復習
4	【課題１】レポート 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
6	課題１フィードバック 8回目以後のグループワーク 授業の説明 ディスカッション準備	課題１のフィードバック ディスカッションの前に個人の意見をまとめる 小テスト３	ディスカッションの準備テーマの下調べ 課題１を見直す
7	グループワーク ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う 小テスト４	ディスカッションの復習と予習
8	グループワーク ディスカッション２	ディスカッションを行う 小テスト５	ディスカッションの復習と予習
9	グループワーク 課題２ディスカッションの報告文１	ディスカッションの報告文を作成する 小テスト６	報告文の準備
10	グループワーク プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの資料作成 小テスト７	プレゼンテーション資料の準備
11	グループワーク プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
12	グループワーク プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
13	【課題３】報告文２	グループワークの報告文を作成する	グループワークの復習 グループワーク報告文の準備
14	メールの書き方	メールの書き方やマナーを学ぶ	メールの書き方の復習
15	小テストの復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学全学教育機構編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（２0%、20%、30%）、授業への取り組む姿勢・小テスト・復習テスト（30%）により評価する。 課題提出と課題Ｄ評価の再提出は単位取得の必須条件となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	MOS(Microsoft Office Specialist)資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前：情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す(30 分) 事後：事後課題の完成(30 分)
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権(1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権(2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策(1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策(2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習(1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表練習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション(1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション(2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション(3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
15	【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1 時間)

関連科目	情報リテラシーⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>30 時間アカデミック Office2019</td><td>杉本くみ子、大澤栄子</td><td>実教出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>〈改訂 4 版〉情報モラル & 情報セキュリティ</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%) を総合して評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>初めて PC を使う方は少し大変かもしれませんが，今後必ず必要となるスキルですので頑張ってください.</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>非常勤控室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>質問等は,Teams のチャットまたはメールでお答えします.なるべく早く返信するつもりですが 1-2 日の余裕を見ていただけるとありがたいです.</td></tr>
</table>

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	MOS(Microsoft Office Specialist)資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前：情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す(30 分) 事後：事後課題の完成(30 分)
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権(1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権(2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策(1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策(2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習(1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表練習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション(1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション(2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション(3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
15	【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1 時間)

関連科目	情報リテラシーⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>30 時間アカデミック Office2019</td><td>杉本くみ子、大澤栄子</td><td>実教出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>〈改訂 4 版〉情報モラル & 情報セキュリティ</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%) を総合して評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td></td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td></td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	MOS(Microsoft Office Specialist)資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前：情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す(30 分) 事後：事後課題の完成(30 分)
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権(1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権(2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策(1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策(2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習(1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表練習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション(1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション(2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション(3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
15	【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1 時間)

関連科目	情報リテラシーⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>30 時間アカデミック Office2019</td><td>杉本くみ子、大澤栄子</td><td>実教出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>〈改訂 4 版〉情報モラル & 情報セキュリティ</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%) を総合して評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>初めて PC を使う方は少し大変かもしれませんが，今後必ず必要となるスキルですので頑張ってください.</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>非常勤控室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>質問等は,Teams のチャットまたはメールでお答えします.なるべく早く返信するつもりですが 1-2 日の余裕を見ていただけるとありがたいです.</td></tr>
</table>

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	MOS(Microsoft Office Specialist)資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前：情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す(30 分) 事後：事後課題の完成(30 分)
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権(1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権(2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策(1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策(2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習(1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表練習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション(1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション(2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション(3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
15	【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1 時間)

関連科目	情報リテラシーⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>30 時間アカデミック Office2019</td><td>杉本くみ子、大澤栄子</td><td>実教出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>〈改訂 4 版〉情報モラル & 情報セキュリティ</td><td>富士通 FOM</td><td>FOM 出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%) を総合して評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td></td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td></td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	星山　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり，デジタル社会において学ぶべき教養である．本講義ではその基礎として，データ分析の歴史，背景や現状について知り，データの種類・解析方法や AI に必要な技術，その応用例などを様々な事例を通して学び理解する．また，エクセルを用いて実際にデータを処理し，その活用方法を身に付けることを目的とする．
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に，データサイエンス・AI の基本的な使い方，およびその際に注意すべきことを理解できるようになること．
授業方法と留意点	本講義は対面形式の講義です．毎週の課題は計画的にこなしてください．
科目学習の効果（資格）	「データサイエンティスト検定　リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス データサイエンスとは	・大学のシステム（moodle,Teams,メール,OneDrive）の利用方法について ・本講義の受講方法，注意点など ・データサイエンス，AI とは	事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テスト
2	社会で起きている変化(1)	・日本企業の国際競争力低下 ・情報通信メディアの普及 ・DX（デジタル・トランスフォーメーション） ・演習「Excel の基本的な操作(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
3	社会で起きている変化(2)	・デジタル社会の提言 ・Society5.0 ・演習「Excel の基本的な操作(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
4	社会で活用されているデータ(1)	・データの種類 ・１次データ，２次データ，メタデータ ・オープンデータ ・演習「時系列データの可視化(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
5	社会で活用されているデータ(2)	・構造化データ，非構造化データ ・テキストデータ，画像・音声データ ・アノテーション ・演習「時系列データの可視化(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
6	データ・AI の活用領域	・データサイエンスの活用事例 ・研究開発，マーケティング，品質管理におけるデータ分析 ・演習「平均の算出とその可視化」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
7	データ・AI 利活用のための技術(1)	・データの一次分析と可視化 ・言語処理，画像処理，音声処理技術について ・演習「標準偏差の算出とその可視化」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
8	データ・AI 利活用のための技術(2)	・データ解析（予測，グルーピングパターン発見，最適化） ・特化型 AI と汎用 AI ・自動機械学習 ・演習「大量のデータを扱う方法(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
9	データ・AI 利活用の現場(1)	・データサイエンスのサイクル ・製造業のデータ・AI 活用 ・演習「大量のデータを扱う方法(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
10	データ・AI 利活用の現場(2)	・小売業のデータ・AI 活用 ・サービス業のデータ・AI 活用 ・公共・インフラのデータ・AI 活用 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
11	データ・AI 利活用の現場(3)	・データ・AI 活用による新しいビジネス領域 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
12	データ・AI 利活用の最新動向	・AI などを活用した新しいビジネス ・AI 最新技術の活用例 ・演習「度数分布表とヒストグラムの作成」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	・ELSI とは何か ・データの倫理 ・個人情報とプライバシー ・演習「散布図の作成と相関係数の算出」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	・バイアス ・社会的合意の形成に向けて ・演習「定性データの扱い方とクロス集計」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
15	データを守る上での留意事項	・情報セキュリティとは ・情報セキュリティ脅威に関する事例 ・データの守り方 ・演習「総合演習」	事前：　授業テーマの予習 事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>情報リテラシーI</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>AI データサイエンスリテラシー入門</td><td>吉岡剛志他</td><td>技術評論社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題レポートの提出：40%
演習課題の提出：40%
確認テスト：20%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>知識習得のためには時間が必要ですが，多数の先輩が受講の後に独学で「IT パスポート」」や「MOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）」等に合格しています．就活時のアピールの為にも頑張ってください．疑問は放置せず何でも質問してください．</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業時間外の質問等は，Teams のチャットまたはメールでお願します．なるべく早く返信するつもりですが 1-2 日の余裕を見ていただけるとありがたいです．</td></tr>
</table>

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり，デジタル社会において学ぶべき教養である．本講義ではその基礎として，データ分析の歴史，背景や現状について知り，データの種類・解析方法や AI に必要な技術，その応用例などを様々な事例を通して学び理解する．また，エクセルを用いて実際にデータを処理し，その活用方法を身に付けることを目的とする．
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に，データサイエンス・AI の基本的な使い方，およびその際に注意すべきことを理解できるようになること．
授業方法と留意点	本講義は対面形式の講義です．毎週の課題は計画的にこなしてください．
科目学習の効果（資格）	「データサイエンティスト検定　リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス データサイエンスとは	・大学のシステム（moodle,Teams,メール,OneDrive）の利用方法について ・本講義の受講方法，注意点など ・データサイエンス，AI とは	事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テスト
2	社会で起きている変化(1)	・日本企業の国際競争力低下 ・情報通信メディアの普及 ・DX（デジタル・トランスフォーメーション） ・演習「Excel の基本的な操作(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
3	社会で起きている変化(2)	・デジタル社会の提言 ・Society5.0 ・演習「Excel の基本的な操作(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
4	社会で活用されているデータ(1)	・データの種類 ・１次データ，２次データ，メタデータ ・オープンデータ ・演習「時系列データの可視化(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
5	社会で活用されているデータ(2)	・構造化データ，非構造化データ ・テキストデータ，画像・音声データ ・アノテーション ・演習「時系列データの可視化(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
6	データ・AI の活用領域	・データサイエンスの活用事例 ・研究開発，マーケティング，品質管理におけるデータ分析 ・演習「平均の算出とその可視化」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
7	データ・AI 利活用のための技術(1)	・データの一次分析と可視化 ・言語処理，画像処理，音声処理技術について ・演習「標準偏差の算出とその可視化」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
8	データ・AI 利活用のための技術(2)	・データ解析（予測，グルーピングパターン発見，最適化） ・特化型 AI と汎用 AI ・自動機械学習 ・演習「大量のデータを扱う方法(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
9	データ・AI 利活用の現場(1)	・データサイエンスのサイクル ・製造業のデータ・AI 活用 ・演習「大量のデータを扱う方法(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
10	データ・AI 利活用の現場(2)	・小売業のデータ・AI 活用 ・サービス業のデータ・AI 活用 ・公共・インフラのデータ・AI 活用 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
11	データ・AI 利活用の現場(3)	・データ・AI 活用による新しいビジネス領域 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
12	データ・AI 利活用の最新動向	・AI などを活用した新しいビジネス ・AI 最新技術の活用例 ・演習「度数分布表とヒストグラムの作成」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	・ELSI とは何か ・データの倫理 ・個人情報とプライバシー ・演習「散布図の作成と相関係数の算出」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	・バイアス ・社会的合意の形成に向けて ・演習「定性データの扱い方とクロス集計」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
15	データを守る上での留意事項	・情報セキュリティとは ・情報セキュリティ脅威に関する事例 ・データの守り方 ・演習「総合演習」	事前：　授業テーマの予習 事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>情報リテラシーI</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>AI データサイエンスリテラシー入門</td><td>吉岡剛志他</td><td>技術評論社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題レポートの提出：40%
演習課題の提出：40%
確認テスト：20%</td></tr>
<tr><td>学生へのメッセージ</td><td>使いこなすには多くの練習時間が必要ですが，多くの先輩が受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています．就活時のアピールの為にも頑張ってください．さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう．疑問は放置せず何でも質問してください．</td></tr>
<tr><td>担当者の研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業時間外に質問したい場合，Teams のチャット機能で対応します
事前事後学習時間の目安は 15 時間。</td></tr>
</table>

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	星山　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり，デジタル社会において学ぶべき教養である．本講義ではその基礎として，データ分析の歴史，背景や現状について知り，データの種類・解析方法や AI に必要な技術，その応用例などを様々な事例を通して学び理解する．また，エクセルを用いて実際にデータを処理し，その活用方法を身に付けることを目的とする．
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に，データサイエンス・AI の基本的な使い方，およびその際に注意すべきことを理解できるようになること．
授業方法と留意点	本講義は対面形式の講義です．毎週の課題は計画的にこなしてください．
科目学習の効果（資格）	「データサイエンティスト検定　リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス データサイエンスとは	・大学のシステム（moodle,Teams,メール,OneDrive）の利用方法について ・本講義の受講方法，注意点など ・データサイエンス，AI とは	事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テスト
2	社会で起きている変化(1)	・日本企業の国際競争力低下 ・情報通信メディアの普及 ・DX（デジタル・トランスフォーメーション） ・演習「Excel の基本的な操作(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
3	社会で起きている変化(2)	・デジタル社会の提言 ・Society5.0 ・演習「Excel の基本的な操作(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
4	社会で活用されているデータ(1)	・データの種類 ・１次データ，２次データ，メタデータ ・オープンデータ ・演習「時系列データの可視化(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
5	社会で活用されているデータ(2)	・構造化データ，非構造化データ ・テキストデータ，画像・音声データ ・アノテーション ・演習「時系列データの可視化(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
6	データ・AI の活用領域	・データサイエンスの活用事例 ・研究開発，マーケティング，品質管理におけるデータ分析 ・演習「平均の算出とその可視化」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
7	データ・AI 利活用のための技術(1)	・データの一次分析と可視化 ・言語処理，画像処理，音声処理技術について ・演習「標準偏差の算出とその可視化」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
8	データ・AI 利活用のための技術(2)	・データ解析（予測，グルーピングパターン発見，最適化） ・特化型 AI と汎用 AI ・自動機械学習 ・演習「大量のデータを扱う方法(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
9	データ・AI 利活用の現場(1)	・データサイエンスのサイクル ・製造業のデータ・AI 活用 ・演習「大量のデータを扱う方法(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
10	データ・AI 利活用の現場(2)	・小売業のデータ・AI 活用 ・サービス業のデータ・AI 活用 ・公共・インフラのデータ・AI 活用 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
11	データ・AI 利活用の現場(3)	・データ・AI 活用による新しいビジネス領域 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
12	データ・AI 利活用の最新動向	・AI などを活用した新しいビジネス ・AI 最新技術の活用例 ・演習「度数分布表とヒストグラムの作成」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	・ELSI とは何か ・データの倫理 ・個人情報とプライバシー ・演習「散布図の作成と相関係数の算出」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	・バイアス ・社会的合意の形成に向けて ・演習「定性データの扱い方とクロス集計」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
15	データを守る上での留意事項	・情報セキュリティとは ・情報セキュリティ脅威に関する事例 ・データの守り方 ・演習「総合演習」	事前：　授業テーマの予習 事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>情報リテラシーI</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>AI データサイエンスリテラシー入門</td><td>吉岡剛志他</td><td>技術評論社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題レポートの提出：40%
演習課題の提出：40%
確認テスト：20%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>知識習得のためには時間が必要ですが，多数の先輩が受講の後に独学で「IT パスポート」」や「MOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）」等に合格しています．就活時のアピールの為にも頑張ってください．疑問は放置せず何でも質問してください．</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業時間外の質問等は，Teams のチャットまたはメールでお願します．なるべく早く返信するつもりですが 1-2 日の余裕を見ていただけるとありがたいです．</td></tr>
</table>

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり，デジタル社会において学ぶべき教養である．本講義ではその基礎として，データ分析の歴史，背景や現状について知り，データの種類・解析方法や AI に必要な技術，その応用例などを様々な事例を通して学び理解する．また，エクセルを用いて実際にデータを処理し，その活用方法を身に付けることを目的とする．
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に，データサイエンス・AI の基本的な使い方，およびその際に注意すべきことを理解できるようになること．
授業方法と留意点	本講義は対面形式の講義です．毎週の課題は計画的にこなしてください．
科目学習の効果（資格）	「データサイエンティスト検定　リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス データサイエンスとは	・大学のシステム（moodle,Teams,メール,OneDrive）の利用方法について ・本講義の受講方法，注意点など ・データサイエンス，AI とは	事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テスト
2	社会で起きている変化(1)	・日本企業の国際競争力低下 ・情報通信メディアの普及 ・DX（デジタル・トランスフォーメーション） ・演習「Excel の基本的な操作(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
3	社会で起きている変化(2)	・デジタル社会の提言 ・Society5.0 ・演習「Excel の基本的な操作(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
4	社会で活用されているデータ(1)	・データの種類 ・１次データ，２次データ，メタデータ ・オープンデータ ・演習「時系列データの可視化(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
5	社会で活用されているデータ(2)	・構造化データ，非構造化データ ・テキストデータ，画像・音声データ ・アノテーション ・演習「時系列データの可視化(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
6	データ・AI の活用領域	・データサイエンスの活用事例 ・研究開発，マーケティング，品質管理におけるデータ分析 ・演習「平均の算出とその可視化」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
7	データ・AI 利活用のための技術(1)	・データの一次分析と可視化 ・言語処理，画像処理，音声処理技術について ・演習「標準偏差の算出とその可視化」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
8	データ・AI 利活用のための技術(2)	・データ解析（予測，グルーピングパターン発見，最適化） ・特化型 AI と汎用 AI ・自動機械学習 ・演習「大量のデータを扱う方法(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
9	データ・AI 利活用の現場(1)	・データサイエンスのサイクル ・製造業のデータ・AI 活用 ・演習「大量のデータを扱う方法(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
10	データ・AI 利活用の現場(2)	・小売業のデータ・AI 活用 ・サービス業のデータ・AI 活用 ・公共・インフラのデータ・AI 活用 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
11	データ・AI 利活用の現場(3)	・データ・AI 活用による新しいビジネス領域 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
12	データ・AI 利活用の最新動向	・AI などを活用した新しいビジネス ・AI 最新技術の活用例 ・演習「度数分布表とヒストグラムの作成」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	・ELSI とは何か ・データの倫理 ・個人情報とプライバシー ・演習「散布図の作成と相関係数の算出」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	・バイアス ・社会的合意の形成に向けて ・演習「定性データの扱い方とクロス集計」	事前：　授業テーマの予習 事後：　課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施
15	データを守る上での留意事項	・情報セキュリティとは ・情報セキュリティ脅威に関する事例 ・データの守り方 ・演習「総合演習」	事前：　授業テーマの予習 事後：課題レポートの提出，演習課題の提出，確認テストの実施

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>情報リテラシーI</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>AI データサイエンスリテラシー入門</td><td>吉岡剛志他</td><td>技術評論社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題レポートの提出：40%
演習課題の提出：40%
確認テスト：20%</td></tr>
<tr><td>学生へのメッセージ</td><td>使いこなすには多くの練習時間が必要ですが，多くの先輩が受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています．就活時のアピールの為にも頑張ってください．さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう．疑問は放置せず何でも質問してください．</td></tr>
<tr><td>担当者の研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業時間外に質問したい場合，Teams のチャット機能で対応します
事前事後学習時間の目安は 15 時間。</td></tr>
</table>

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武.坂口　有芸.津村　忠.山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1827a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界および教育業界での業務経験を活かした内容も含まれる。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。 なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。 また、教員により課題の提出方法が異なるので注意すること。 課題ついては授業内にフィードバックする。 ※2023 年度以前の入学生は再履修クラスで受講すること
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5 時間)
3	社会化と大学-摂南大学を知る-	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・社会化について考える	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5 時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：２時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5 時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5 時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ

<table>
<tr><td></td><td>エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>平常点（30%）、グループ課題(20%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td></td></tr>
<tr><td>備考</td><td>必要に応じて授業内でレジュメを配布する。
なお、課題の提出方法は教員により異なるので各教員の指示に従うこと。</td></tr>
</table>

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1827a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、何故必要なのかを理解する ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける	・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること(0.5時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活において目標を考える	・事前学修：摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5時間) ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(0.5 時間)/講義で課された課題に取り組むこと(0.5時間/継続)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと（２時間）
5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	・SDGsに対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・事前学修：SDGsとは何かについて予習をしておくこと(0.5時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと（２時間）
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事後学修：社会で求められる人材について考えること(0.5時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(0.5時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(0.5時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(0.5時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) ・事後学修:期末レポートを作成すること(1.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>平常点（30%）、グループ課題(20%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>石井　三恵（７号館５階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>必要に応じて授業内でレジュメを配布する。
予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。
学生のワークの進捗状況により、内容が前後することもある。</td></tr>
</table>

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵.坂口　有芸.津村　忠.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1828a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に話題提供を行い、議論を進行することもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：１時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：２時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後：0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5 時間)
13	自分を高める④	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：１時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題につて調べること(事前：0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	
備考	

科目名	エンプロイメントデザインⅠ	科目名（英文）	Employment Design Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	坂口　有芸.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1829a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身につける。 課題ついては授業内にフィードバックする。 この科目は１年生向けの科目で、2024 年度入学生のみ履修ができる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーについて ・エンプロイアビリティとレポートについて	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること(２時間)
3	私が NO.1 プロジェクト② 中間振り返り	・講義 2 で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5 時間)
4	私が NO.1 プロジェクト③ 最終振り返り	・講義 2 で設定した個別の課題の結果を振り返り、共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5 時間) ・第 1 回課題「NO.1 プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること(２時間)
5	自身の意見を発信することを学ぶ	・意見と他者に同意する・反対することのみとの違いを理解する ・自分の意見を発信するためのスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること(0.5 時間)
6	議論を進めるファシリテーションの基本①	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(0.5 時間)
7	議論を進めるファシリテーションの基本②	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (0.5 時間)
8	就職活動の現状を知る①－就職部	・昨今の就職活動の事情について知る	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
9	就職活動の現状を知る②－就職部	・昨今の就職活動の事情について知る	・講義内容を振り返ること(0.5 時間) ・第 2 回課題（就職活動を想定して、自身が今取り組まなければならないこと）をレポートにまとめる(1 時間)
10	グループでリサーチプロポーザル（研究計画書）を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル（研究計画書）の作成」	・グループで課題に取り組むこと(２時間)
11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
13	自身の履歴について考える	・自身のここまでの人生を振り返り「節目になった出来事」について考える	・講義全体を振り返ること ・第 3 回課題「人生すごろく」を作成すること(２時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義 10 から取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・グループ課題「グループレポート」提出（0.5 時間）
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅠの振り返り	・講義を振り返ること(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	毎回のミニッツペーパー（30%）、グループ課題（20%）、個人レポート 3 回（50%）を総合的に判断する。

（基準）	
学生への メッセージ	自身の学生生活について考えるために、様々な内容を真摯な態度で聴いてほしい。 また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切さを学んでほしい。
担当者の 研究室等	坂口有芸（７号館５F） 加野佑弥
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 課題の評価基準・書き方に関する注意事項は、講義内またはポータルサイト/Teams で伝達する。

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之.廣﨑　小夜
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LPH1833a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。(DP1)
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）

関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生へのメッセージ	授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。（更衣不要） 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）

担当者の 研究室等	総合体育館１F　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之.廣﨑　小夜
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LPH1833a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。(DP1)
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）

関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生へのメッセージ	授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。（更衣不要） 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）

担当者の 研究室等	総合体育館１F　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山　喬之.廣﨑　小夜
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LPH1834a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ｉで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（３０分） 事後：本実習の理解を深める（３０分）
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（３０分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（３０分）
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
15	・ゲーム ・2 年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2 年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：全授業の総括（３０分）

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生への	授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。（更衣不要）

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館　1F　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山　喬之.廣﨑　小夜
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LPH1834a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ｉで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（３０分） 事後：本実習の理解を深める（３０分）
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（３０分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（３０分）
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
15	・ゲーム ・2 年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2 年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：全授業の総括（３０分）

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生への	授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。（更衣不要）

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館　1F　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	表象文化論	科目名（英文）	Studies of Culture and Representation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山　博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2508a0		

授業概要・目的	【イメージはいかに見て語られてきたのか】 美術史と美術批評の方法を学び、作品の「見方」と「語り方」を知る。毎回、重要な美術史家や美術批評家をひとりピックアップし、その代表的な著作と具体的な分析をふまえて、作品の「記述」と「評価」がいかに移り変わってきたのかを確認する。このプロセスをとおして、有名な画家の名前や代表的な作品をただ覚えて満足してしまうレベルを超え、自分の眼で作品を見て自分の言葉で作品を語ることのむずかしさとおもしろさを体感する。 ※この科目は、「表象と感性プロジェクト」の対応科目です。
到達目標	【以下の２点を自分の言葉で説明できるようになること】 1. イメージを「見て語る」方法が多岐にわたることの理由 2. イメージの前で自分だけの眼と言葉を持つことがむずかしい理由
授業方法と留意点	【授業をふまえたクイズへの応答】 1. 講義を受ける。 2. 講義後の制限時間内に、提示されたクイズの応答を Moodle 経由で入力する。 3. 講義前に配布のフィードバックシートを確認し、講義で解説を聞く。 4. 校外実習を進める。
科目学習の効果（資格）	芸術作品を鑑賞する方法の理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業概要の説明と歴史叙述について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する（60 分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90 分）。
2	伝記	「ジョルジョ・ヴァザーリ」の方法、つまり、作家の人生を基準にする見方と語り方を確認する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90 分）。
3	考古学	「ヨハン・ヴィンケルマン」の方法、つまり、古代の精神を基準にする見方と語り方を確認する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90 分）。
4	解剖学	「ジョヴァンニ・モレッリ」の方法、つまり、骨格のカタチを基準にする見方と語り方を確認する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90 分）。
5	様式論	「アロイス・リーグル」の方法、つまり、カタチの進化を基準にする見方と語り方を確認する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90 分）。
6	美術史	「ハインリヒ・ヴェルフリン」の方法、つまり、カタチの比較を基準にする見方と語り方を確認する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90 分）。
7	イコノロジー	「エルヴィン・パノフスキー」の方法、つまり、カタチの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90 分）。
8	知覚心理学	「エルンスト・ゴンブリッチ」の方法、つまり、眼差しの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90 分）。
9	フォーマリズム#1	「クレメント・グリーンバーグ」の方法、つまり、カタチの新しさを基準にする見方と語り方を確認する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90

			分)。
10	フォーマリズム#2	「マイケル・フリード」の方法、つまり、カタチの価値を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。
11	脱構築	「ロザリンド・クラウス」の方法、つまり、価値の相対化を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。
12	フェミニズム	「グリゼルダ・ポロック」の方法、つまり、ジェンダーの非対称を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。
13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する (90 分)。 事後:実地の経験をふまえつつ、関連情報も参考にしながら、ワークシート上の設問に応答する (120 分)。
14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する (90 分)。 事後:実地の経験をふまえつつ、関連情報も参考にしながら、ワークシート上の設問に応答する (120 分)。
15	総括	実習課題を振り返り、授業を総括する	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:芸術作品の見方と語り方の種類を再認識しつつ、それぞれの方法を自分なりに使いこなせるよう、知識を補いつつさらに美術鑑賞を続けていく (240 分)。

関連科目: 表象と感性プロジェクト／暮らしの中の文化／「学芸員課程の科目」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西洋美術史ハンドブック	(編) 高階秀爾・三浦篤	新書館
2	モダニズムのハード・コア 現代美術批評の地平	(編) 浅田彰・岡崎乾二郎・松浦寿夫	太田出版
3	美術史学の系譜	加藤哲弘	中央公論美術出版

評価方法 (基準)

【クイズの回答による評価】

1. 毎回の回答［80%］
2. ワークシート［20%］
3. いずれも「好奇心」と「論理性」を基準とする。

学生へのメッセージ

【コンディションを整えること】

1. より良い回答をするために、講義に集中できるコンディションを整える。
2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず進める。

担当者の研究室等: 7 号館 5 階 杉山研究室

備考

【自分の回答を自分で採点すること】

1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。
2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの回答の採点を試みる。

科目名	地域と歴史	科目名（英文）	Regions and Their History
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2509a0		

授業概要・目的	本講義では日本の文化について理解を深めることを目的とします。 取り上げるテーマは、 ①宮崎駿監督の映画『もののけ姫』からみる日本の中世社会 ②『ゴールデンカムイ』からみる日本の「周縁」 ③食から見る日本の歴史と文化 の３つを題材に日本の歴史や文化の相対化を試みます。 本講義を通して日本の歴史や文化、思想に関する理解を深め、現在の私たちの暮らしや世界の国々と比較するさいに役立ててください。 ※国際学部では、この科目は「歴史学プロジェクト」の対応科目です。
到達目標	日本の歴史や文化の特質を理解し、人々と地域の関係を深く理解し、自らの言葉で解説できる能力を習得できます。
授業方法と留意点	対面授業で行います。 教材を Teams にアップしますので、授業が始まるまでに各自印刷して用意しておいてください。 授業で課した課題については、整理して講義で紹介、講評する。
科目学習の効果（資格）	これから社会の中で生きていくためには人と人、人と集団の関係を理解することが求められます。また、異文化コミュニケーションをはかる際も日本の歴史や文化の特徴について知っておくことで、他の国の文化に触れるときにも深く理解することができるでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の目的や進め方について説明します。歴史学とはどのような学問か解説します。	もののけ姫について web や書籍で調べておく
2	日本の周縁社会 ～『もののけ姫』にみるエミシの世界～	単一民族国家ではない「日本」の領域と周縁について考えます。	蝦夷について調べておく
3	日本中世の村と町 ～『もののけ姫』の中の「日本」～	中世における村と町の成立と実態について解説します。	講義で説明した町と村の特質についてまとめておく
4	製鉄と身分社会 ～タタラ場の世界～	製鉄を通して、日本中世の生業、身分について考えます。	タタラ製鉄について web や書籍で調べておく
5	日本における自然界と神の世界 ～シシガミの世界～	日本の地理的環境や日本人の信仰について考えます。	web を用いて日本の神社で祀られる獣神の事例をまとめる
6	『もののけ姫』が描く「日本」とは？	『もののけ姫』を通して見える「日本」について受講者がそれぞれ考え、議論します。	もののけ姫を題材にレポートを作成する。
7	アイヌ民族の起源	アイヌ民族を含めた北方民族の起源と展開について考えます。	「アイヌ」「北方民族」について調べておく。
8	アイヌの人々の暮らしと生業	アイヌの人々の暮らし（集落、住居、衣服、食）や生業について解説します。	授業で紹介した事例の他にどのようなものがあるのかインターネットを使って調べる。
9	アイヌの人々の信仰と言語	アイヌの人々の信仰世界や言語について解説します。	自然を信仰する他の文化を調べ、まとめる。
10	アイヌの人々と和人	アイヌの人々と和人（本州のヤマト民族）との交流、対立、支配の歴史について考えます。	現代におけるアイヌの人々の活動について調査し、まとめる。
11	和食のイメージ、和食の源流	現代社会における和食のイメージを共有し、和食の起源について考える。	和食のイメージに関するワークシートを完成させる。
12	主食と食肉	主食（米・小麦）の伝来、肉食禁令の歴史を解説する。	肉食に関する法令を辞書や Web を用いて読み解く。
13	「和食」の成立	「和食」と呼ばれるものの歴史と解説します。	授業で解説する２種類の料理についてまとめる。
14	和食の広がり、現代社会における「和食」とは	江戸時代以降の和食の展開について解説し、現代社会における「和食」の定義と課題について考える。	身近な「和食」について考えを整理する。
15	確認テストと授業のまとめ	講義の総括を行います	今までのノートをまとめておく

関連科目	歴史学プロジェクト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	それぞれのテーマに即して、課題１（10%）、課題２（10%）、課題３（10%）を出す。 これと授業最終週の確認テスト（70%）をあわせて評価する。 詳しくは初回に説明します。
学生へのメッセージ	本講義で日本の文化や歴史がすべてわかるわけではありません。講義を通じて興味を持ったことがありましたら、Web や図書などで積極的に調べるとよいでしょう。

担当者の 研究室等	7 号館 4 階（赤澤研究室）
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	環境と社会	科目名（英文）	Environment and Society
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷　侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2510a0		

授業概要・目的	環境問題はしばしばグローバルな問題として着目されますが、実際に私たちに影響を与える環境に関わる「問題」は、地域単位で現出します。そのため、環境問題について考えるためには、何よりも地域を知り、地域固有の文脈に沿った解決策を考えていくことが重要なステップとなります。本講義では、国内外のさまざまな地域の環境や環境問題等について学びます。また、地域の自然環境と深く関わって発生する自然災害も扱います。これらを学ぶことで幅広い教養を身につけ、多角的な視野を獲得することを目指します。 ※国際学部では、この科目は「地理学プロジェクト」の対応科目です。 ※外国語学部では、この科目は「国際教養」プログラム対応科目です。 SDGs-13
到達目標	1. 環境とは何か、環境問題とは何かについて具体例をもとに説明できる幅広い知識を身につける 2. 私達が暮らしている大阪・関西の特徴や身近に起こる災害について理解する 3. 多角的な視野で国内外の多様な環境や環境問題を把握することができる
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題に対しては解説を行う。また、Moodle 等のオンラインツールを授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。
科目学習の効果（資格）	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
2	環境を学ぶための基礎知識１	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
3	環境を学ぶための基礎知識２	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
4	環境を学ぶための基礎知識３	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
5	環境を学ぶための基礎知識４	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
6	環境と自然災害１	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
7	環境と自然災害２	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
8	環境と自然災害３	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
9	環境と自然災害４	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
10	地球環境問題１	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
11	地球環境問題２	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
12	地球環境問題３	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
13	身近な地域の環境１	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
14	身近な地域の環境２	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む
15	身近な地域の環境３・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する;授業内で紹介した参考文献等を読む

関連科目	地理学プロジェクト（プロジェクト科目） 国際教養プログラム関連科目（暮らしの中の文化、多文化共生論等）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（60%）とレポート（40%）で評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階（大谷研究室）
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。

科目名	思想と文化	科目名（英文）	Ideas and Cultures
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2511a0		

授業概要・目的	皆さんが日本で暮らそうが、海外に飛び出そうが、思想と文化に対する理解が欠かせない。 この授業では、日本、そして世界の思想と文化について考える。これは限られた授業時間で扱うには、あまりにも大きなテーマである。そこでいくつかの視点を設けて考察を試みたい。 授業は大きく２部に分ける。第１部では、日本の思想と文化の本質について考えたい。一方で、その多様性にも目配りしたい。 第２部では世界に目を向け、大雑把にではあるが思想や文化の普遍性、特殊性について見ていきたい。 全体を通してキーワードとしてあげるのは、神話・信仰・宗教である。これらに無関心では思想や文化について学ぶことはできない。 ※この科目は「比較文化プロジェクト」の対応科目です。
到達目標	日本、あるいは世界の思想と文化について、大雑把であっても自分なりに説明し、考えることができる。 信仰や宗教の多様性について理解できる。
授業方法と留意点	講義が中心。ただし一部プレゼンテーションを求める。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の説明 思想と文化を学ぶことの意義	―
2	第１部 文化の基底　宗教	世界の三大宗教を中心に、基礎的な事柄を学ぶ	指摘された事柄について予習しておく。
3	日本の神仏	古くからの神仏観や、日本の神国思想について学ぶ	指摘された事柄について予習しておく。
4	日本の対外観	三国世界観や粟散辺土観について学ぶ	指摘された事柄について予習しておく。
5	鬼・妖怪・自然	目に見えないものへの畏れ、信仰について考える	指摘された事柄について予習しておく。
6	北と南	日本文化の多様性について、北海道や沖縄を例に考える	指摘された事柄について予習しておく。
7	第１部まとめ	課題をもとにプレゼンテーションをする	第１部の課題に取り組む。
8	第１部まとめ	課題をもとにプレゼンテーションをする	第１部の課題に取り組む。
9	第２部 宗教と文化	第１部を踏まえて、さらに世界の宗教について考察する	指摘された事柄について予習しておく。
10	世界の起源と終末	神話をもとに、世界の起源と終末のイメージを探る	指摘された事柄について予習しておく。
11	死と火と	神話をもとに、人類が死や文明とどのように向き合ってきたのか考える	指摘された事柄について予習しておく。
12	英雄伝説	神話をもとに、英雄とは何か、なぜ英雄を求めるのか考える	指摘された事柄について予習しておく。
13	世界から見た日本	世界が日本をどのように見てきたのか、イメージと現実との差異について考える	指摘された事柄について予習しておく。
14	第２部まとめ	課題をもとにプレゼンテーションをする	第２部の課題に取り組む。
15	第２部まとめ	課題をもとにプレゼンテーションをする	第２部の課題の取り組む。

関連科目	比較文化プロジェクト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（レポートまたはプレゼンテーション）２回60%、平常点（コメントペーパーなど）40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館4階　橋本研究室
備考	事前事後学習に必要な総時間数の目安は、60時間。

科目名	テクノロジーと人間	科目名（英文）	Technology and Human
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2512a0		

授業概要・目的	今日のテクノロジーの急速な進歩は、人間の思考、判断までをも「代行」し、最終的には、人間自身を社会から不要なものとして追放する可能性までも見え隠れしているように思われる。例えば、AI の進歩が人間の制御・理解を超える「シンギュラリティー」の可能性とそれがもたらす危機については、現実的な問題として真剣に議論がなされているところである。 本講義では、テクノロジーと人間の関わりについて、その根本にまでさかのぼりながら、現代のテクノロジーが人間とその社会に何をもたらしているのかについて、哲学的な考察を進めていく。 ※国際学部では、この科目は「人間存在論プロジェクト」の対応科目です。
到達目標	哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々のテーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。必要に応じて動画資料も利用する。参考資料は Moodle にアップする。 レポートは Moodle を通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。
科目学習の効果（資格）	哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義へのイントロダクション	人間とは何か 技術とは何か 人間と技術の関係について	テクノロジーと人間というテーマに対する自分なりのイメージをまとめておく。
2	人間について	人間をめぐる哲学的な問い 　理性／本能という対立軸 　世界内存在としての人間 　生と身体	人間とは何かという問題について、グループディスカッションをした上で考える。
3	技術について	人類史から見た人間と技術 　道具の使用 　文明の誕生･発展と技術 　産業の発展段階と技術 　　農業･工業･情報産業	人間にとって技術がどういう意味を持っているのかをグループディスカッションをした上で考える。
4	技術の進歩と人間の変容 (1)	人間の〈能力〉の拡張としてのテクノロジー？ 技術と人間の生／死をめぐる問題 　不老不死 　臓器移植 　遺伝子工学と生命操作をめぐる技術的問題と倫理的問題	技術は人間の〈能力〉を拡張するという主張の問題点を考える。
5	技術の進歩と人間の変容 (2)	脳と機械 　ロボット･AI･人間 　生命機械としての人間 　脳はコンピュータに置き換えられるか？	脳とコンピュータ･AI は同じものか、違うものかについて、グループディスカッションをした上で、自分なりの考えをまとめる。
6	技術の進歩と人間の変容 (3)	コンピュータ･AI と人間の対立 　シンギュラリティとは何か 　シンギュラリティをめぐる論争 　AI と人間との共生は可能か	シンギュラリティをめぐる論争に対して、自分の立場を明らかにし、グループディスカッションを行う。
7	ハイデガーの技術論	技術の支配と人間 　世界の構造としての技術＝テクネー 　技術の支配と主体としての人間の〈喪失〉 　主体としての企業･国家の台頭	授業で解説をしたハイデガーの技術論をふまえた上で、技術支配について自分の考えをまとめる。
8	テクノロジーと社会 (1)	技術のもたらす未来 　ユートピアとディストピア 産業革命が社会にもたらした影響 　工場での大量生産と人間の疎外 　モータリゼーションとは何であったのか	技術のもたらす未来をどう描くか、グループディスカッションをした上で、自分の考えをまとめる。
9	テクノロジーと社会 (2)	情報化の進展と社会の変質 　テクノロジーとコミュニケーション 　20 世紀における新しいメディアの登場 　マスメディアが社会に与えた影響	20 世紀のマスメディアの発展の意義はどこにあるのかについて自分の考えをまとめる。
10	テクノロジーと社会 (3)	消費化社会と情報化社会 　消費化と情報化 　資本主義と消費社会 　広告と流行	消費化社会の問題点について、具体例を挙げて、グループディスカッションをした上で、自分の考えをまとめる。
11	テクノロジーと社会 (4)	インターネットの発展の光と影 　インターネットの歴史 　SNS の〈爆発〉 　ポスト・トゥルースの社会 　国家の介入とプロパガンダ	インターネットと SNS について、ディスカッションをした上で、その問題点を自分の経験に即してまとめる。
12	テクノロジーと社会 (5)	リアルとヴァーチャルの葛藤 　世界の成立とリアリティ	メタバースについてどう評価するかについて、グループディスカッションをした上で、自分の考えをま

			ヴァーチャルな世界？ メタバースがもたらす未来	とめる。
	13	テクノロジーと地球環境	人新世と地球の生態系の危機 人類史における大型哺乳類の絶滅 産業革命以降の環境問題 気候変動と地球温暖化 テクノロジーは環境問題を解決するか	テクノロジーによって環境問題を解決できるかどうかについて、ディスカッションをした上で、自分の考えをまとめる。
	14	巨大科学をめぐって	危険社会とは何か 原子力をめぐる技術と危険（リスク） 原発事故はどうして起きたのか 医療技術とリスク	原子力の利用を社会はこれからどうすべきかについて、グループディスカッションをした上で、自分の考えをまとめる。
	15	まとめ	講義を通じてテクノロジーと人間をめぐる諸問題を振り返る	授業全体をまとめておくこと。

関連科目	人間存在論プロジェクト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	サピエンス全史（上）（下）	ハラリ	河出書房新社
2	ホモ・デウス（上）（下）	ハラリ	河出書房新社
3			

評価方法 （基準）	授業内でのレポート・平常点（40%）とセクション毎にレポート課題（60%）
学生への メッセージ	我々は、テクノロジーの「進歩」を無反省に受け入れてしまいがちですが、人間の本質への問いかけ、また、人類史の全体から見直すことで、その問題点が見えてきます。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　有馬研究室
備考	適宜参考資料を紹介する。 事前事後学習に 60 時間必要。

科目名	異文化の理解	科目名（英文）	Cross-Cultural Understanding
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金子　正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2513a0		

授業概要・目的	文化人類学は異文化理解の学問であり、自分たちとは異なる社会に生きる人々の営為についての理解をもたらしてきた。同時に、他者との邂逅において自分たちの考え方や価値観の自明性について再考する機会を提供してきた。本講義では、こうした文化人類学の考え方について、いくつかのトピックを事例としてとりあげ、それぞれ文化人類学者の著作に触れながら解説する。 ※国際学部では、この科目は「都市と周縁プロジェクト」の対応科目です。
到達目標	文化や社会について新たな視座で捉えられるようになる。 自分たちとは異なる暮らしをする人々についての理解を得る。
授業方法と留意点	講義形式で行う。必要な資料についてはプリントして配布する。映像資料を適宜用いて理解の一助としたい。 授業内でコメントや質問を書く機会を設けるので、授業への主体的な参与を求める。 講義内容に関してフィールドワークを課すことがある。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション		配布した資料を読むこと。
2	文化人類学の歴史	文化人類学が成立した時代状況について解説する。	配布した資料を読むこと。
3	文化概念の展開	19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての文化概念の展開について概説する。	配布した資料を読むこと。
4	文化人類学の考え方	歴史的な解説を踏まえて、文化人類学の視座について解説する。	配布した資料を読むこと。
5	贈与と交換①	事例研究としてクラ交換を取り上げて解説する。	配布した資料を読むこと。
6	贈与と交換②	贈与交換をとらえる視点について解説する。	配布した資料を読むこと。
7	国家なき社会①	事例研究としてヌアー族の民族誌を取り上げる。	配布した資料を読むこと。
8	国家なき社会②	国家なき社会についての学びが示唆することについて解説する。	配布した資料を読むこと。
9	聖と俗①	宗教や信仰をめぐってなされてきた諸研究を概観する。	配布した資料を読むこと。
10	聖と俗②	宗教概念の広がりについて概説する。	配布した資料を読むこと。
11	民族とエスニシティ①	東南アジア地域の事例をもとに民族やエスニシティに関する理解を深める。	配布した資料を読むこと。
12	民族とエスニシティ②	東アジア地域の事例をもとに、民族やエスニシティに関する理解を深める。	配布した資料を読むこと。
13	観光①	東南アジア地域の事例をもとに、文化という概念の広がりについて解説する。	配布した資料を読むこと。
14	観光②	観光と文化の関わりから学びうることについて解説する。	配布した資料を読むこと。
15	まとめ	授業全体の振り返りと総括を行う。 到達度の確認課題を実施する。	到達度の課題課題に備えること。

関連科目：「都市と周縁プロジェクト」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	文化人類学の思考法	松村圭一郎ほか編	世界思想社
2	文化人類学キーワード 改訂版	山下晋司＆船曳建夫編	有斐閣
3	人類学のコモンセンス―文化人類学入門	浜本満＆浜本まり子編	学術図書出版社

評価方法（基準）	平常点（40%）と到達度の確認課題（60%）から総合的に評価する
学生へのメッセージ	文化人類学は、人間の社会や文化の多様性を理解するために大変重要な学問分野です。家は人が住まうもの？、動物を模したカラフルな棺の意味は？、同じように見えて違う、違うように見えて同じ、という物質レベルの理解からはじめて人間の多様性とその未来について考えてみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階金子研究室
備考	事前事後学習の総学習時間は、60 時間を目安とする。

科目名	多文化社会と日本語	科目名（英文）	Multicultural Society and Japanese Language
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮﨑　玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2514a0		

授業概要・目的

・現代の日本には、多様な文化的・言語的背景を持つ人々が暮らしています。また、今後皆さんが海外に出て行くこともあるでしょう。この授業では、多文化共生社会で生きるために、文化の多様性を受け入れること、価値観の違いを乗り越えて意志疎通を図ることの意義を考えます。グループディスカッションなどを通して、自文化を振り返りながら、異文化理解や多文化共生のために必要な知識やコミュニケーションスキルを学び、それらを身に付けるトレーニングをします。

※国際学部では、この科目は「国際社会と日本語プロジェクト」の対応科目です。
※外国語学部では、この科目は「外国語専門職」プログラム・「国際教養」プログラム対応科目です。

到達目標

・多文化共生や異文化コミュニケーションに関する専門用語を理解し、基礎的な知識を得る。
・多文化共生や異文化経験の具体的な事例について、観察・分析し、考察することができる。
・異文化コミュニケーションスキルについて学び、身に付ける。

授業方法と留意点

・講義
　プリント資料の内容を熟読する。
・タスク
　多文化共生や異文化コミュニケーションについて考えるタスク・活動を行う。授業外の課題として行うものもある。ペアワーク、グループワークも含まれる。
（授業の進行状況により、授業テーマの順番や内容が多少変更することがあります）

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	シラバスを読んでおく
2	異文化理解とは	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題（1.5H）
3	異文化コミュニケーションのために（1）	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題（1.5H）
4	異文化コミュニケーションのために（2）	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題（1.5H）
5	コミュニケーション・スタイル	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題（1.5H）
6	言語コミュニケーション（1）	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題（1.5H）
7	言語コミュニケーション（2）	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題（1.5H）
8	非言語コミュニケーション（1）	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題（1.5H）
9	非言語コミュニケーション（2）	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題（1.5H）
10	異文化適応と多文化共生	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題（1.5H）
11	多文化共生とコミュニケーション	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題（1.5H）
12	自分を知る	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題（1.5H）
13	異文化コミュニケーションスキル・トレーニング（1）	講義、タスク、グループワーク	レポート作成（2H）
14	異文化コミュニケーションスキル・トレーニング（2）	講義、タスク、グループワーク	総復習（2H）
15	確認テスト	テスト、フィードバック	総復習（2H）

関連科目

国際社会と日本語プロジェクト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション	八代京子・世良時子	三修社
2	多文化共生のための異文化コミュニケーション	原澤伊都夫	明石書店
3	その他は授業で指示する		

評価方法（基準）

課題及びレポート（50%）、テスト（40%）、授業・グループワークへの取り組み(10%）により総合的に評価する。

学生へのメッセージ

外国語を学習している皆さんにとって、「多文化共生」や「異文化コミュニケーション」について学ぶことは非常に大切なことです。
授業を通して多くの「気づき」が生じると思います。
授業では、異文化コミュニケーションスキルを習得するためのタスク、個人ワークやグループワークも行うので、積極的に授業に参加してください。

担当者の研究室等

7 号館 2 階　非常勤講師室

備考

事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	英語圏異文化交流論	科目名（英文）	Cross-Cultural Communication in the English-Speaking World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	福田　祐司
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2515c0		

授業概要・目的	こんにちの「英語圏」はもはや、母国語を英語とするアメリカやイギリス、カナダ、オーストラリアといった国々にとどまりません。英語が世界の共通言語であると見るならば、およそ地球上のあらゆる国が英語圏であると言えます。そのことはもちろん、我々の暮らす戦後日本社会においても例外ではありません。 この授業はまず「英語圏」における「異文化」とは何かという疑問から出発し、時に映画や音楽などのポピュラーカルチャーを参照しながら、英語圏ひいては欧米諸国を介した文化交流の諸相について概説していきます。その上で「英語文化圏としての日本」がどのような国でありうるのかということについても、主に 20 世紀の日米文化交流史に注目しながら議論を進展させていきたいと思います。 一連の講義を通じて、学習者には授業で扱う大小さまざまなトピックを各自の個性的な問題関心に引きつけて考察する力を身につけ、国際社会における日本文化のあり方について客観的かつ批判的に議論できるようになってほしいと思います。 本科目は、国際学部カリキュラムにおける「文化構想領域」の「接続科目」の一つです。国際学部のディプロマ・ポリシーのうち、主に「世界の国と地域の歴史、社会、文化についての個別的知識とともに、国と地域間の関係性等について学際的に理解できる」の項目を担う科目です。英語教職課程を履修する学生にとっては、「異文化理解」区分の必修科目になります。
到達目標	１．さまざまな背景をもつ他者の存在を尊重し、文化交流について主体的に考えることができる。 ２．日米文化交流史とその社会的背景を把握し、多文化共存社会の実態や展望について意見することができる。 ３．国際社会における日本の立場について考察し、文化の発信と受容のあり様を議論することができる。 ４．　さまざまな文献を通じて異文化の事情について調べる習慣を身につける。
授業方法と留意点	PowerPoint スライドを用いて講義します。スライドはオンラインで共有するよう調整します。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション：「英語圏異文化交流」とは	授業の進め方・レポート課題等に関するアナウンス。	授業の概要と論点を確認する。（２時間）
2	ポストコロニアルの遺産	大航海時代から欧米列強による帝国主義的植民地政策へ至る歴史の確認、および被植民地におけるカウンターカルチャーの展開について。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
3	英語圏文化のダイナミズム	「英語圏」における「異文化」としての「東洋」の言説と表象、およびパレスチナ・イスラエル問題の端緒について。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
4	文化交流の諸相	純粋な国民的文化はありえるのか？文化の交流と習合性、混淆性に関する社会理論。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
5	閑話休題：世界におけるシティポップとエキゾティシズム	シティポップに見る「他者」としての日本。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
6	日米文化交流史：序説	日本における欧米文化の受容史について、とくにジャズと映画に注目しながら。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
7	日本の帝国主義政策と欧米のポピュラー文化	都市のモダンな娯楽文化はいかにして戦争の時代を迎えたか。	これまでの授業内容を復習し、要点を整理する。（２時間）
8	モダンダンスの受容とアメリカニズムへの眼差し	モダンダンスおよびジャズはいかにして日本に受容され、統制されたか。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
9	ジャズの受容と日本的土着化	ジャズはいかにして日本に受容され、土着化し、統制されたか。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
10	「軽音楽」と文化統制	ジャズの統制・健全化によって生じた「軽音楽」の実態について。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
11	「軽音楽」と文化工作：中国編	歌手・女優の李香蘭こと山口淑子が総力戦体制下の日本およびその支配地域で果たした役割。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
12	「軽音楽」と文化工作：東南アジア編	音楽ジャンルの戦時的「平準化」と音楽関係組織の一元的再編、東南アジアへの（職業的）前線慰問、戦時下における音楽映画の諸相。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
13	戦後日本社会と「解放」：統制と工作の断絶と継承、そして連合軍向け娯楽提供事業①	GHQ/SCAP による占領政策を軸に、戦後日本における英語圏文化の広がりとポピュラー音楽の実践、その環境。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
14	戦後日本社会と「解放」：統制と工作の断絶と継承、そして連合軍向け娯楽提供事業②	日米文化交流史から見た戦前と戦後の連続性と断絶性について。何が終わり、何が始まり、何が変わらなかったのか。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（２時間）
15	総括	文化を取り巻く社会的力学と歴史的変遷から今日のわれわれが学び取るべきものは何か。	これまでの授業内容を総復習し、要点を整理する。（２時間）

関連科目	エリアスタディーズ(北アメリカ)、地域研究プロジェクト（英語と諸地域）ほか
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	PowerPoint スライドを使用		
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポストコロニアリズム	本橋哲也	岩波書店
2	Tokyo Boogie Woogie: Japan's Pop Era and Its Discontents	Hiromu Nagahara	Harvard UP
3	ポストコロニアル研究の遺産 : 翻訳不可能なものを翻訳する	磯前順一［ほか］編	人文書院

評価方法 (基準)	中間レポート（期末レポートの下書き）30%・期末レポート 70%
学生への メッセージ	英語圏の近現代史を捉え直しつつ、異なる文化的背景（民族的アイデンティティや国家との関係性など）を持つ人びとが交流し、あたらしい文化を紡いでいくことの意義を学んでください。また、そのうえでグローバル化が進む現代日本社会における問題点を発見し、みずから考えていく力をいっしょに養っていければと思います。 授業の進度については、学生の理解度に応じて適宜調整していく予定です。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語圏比較文化論	科目名（英文）	Comparative Cultural Studies in the English-Speaking World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2516c0		

授業概要・目的	20 世紀初頭から現在にかけ、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアなど英語圏の主要各国の人々は、ヨーロッパにルーツを持つキリスト教徒の白人が権力を持つことが当然とされる社会から、マイノリティの人権が重視される多文化主義社会への変化を経験してきました。その過程では、多文化社会化への反発もあり、再調整が繰り返し行われてきました。また、そのような歴史的経験を持つ英語圏の大衆文化、特にアメリカ合衆国を拠点とするハリウッド映画やポピュラー音楽は、日本を含む世界の文化、社会に多大な影響を与えてきました。 この授業では、20 世紀～21 世紀の英語圏の映像表現と音楽表現が過去 100 年の歴史の中でどのように変化してきたのか、そして日本社会がどのような影響を受けて来たのかを、いくつかの具体的事例を取り上げて考察します。各事例について、英語文献を含む解説記事や、映像や音源の一次資料を読解する訓練も行います。 本科目は、国際学部カリキュラムにおける「文化構想領域」の「接続科目」の一つです。国際学部のディプロマ・ポリシーのうち、主に「世界の国と地域の歴史、社会、文化についての個別的知識とともに、国と地域間の関係性等について学際的に理解できる」の項目を担う科目です。英語教職課程を履修する学生にとっては、「異文化理解」区分の必修科目になります。
到達目標	(1)英語圏の歴史、文化、社会について、特に多文化の共生や異文化理解に関わる事象について、基礎的な知識と理解を身につけている。 (2)上記のうちいくつかの重要な概念や事象については、日本語だけでなく英語でもキーワードを理解し、あらかじめ準備をすれば英語で説明することができる。 (3)英語圏の社会事情と日本社会との関係について当事者意識を持ち、事実検証と批判的思考を行い、意見交換をすることができる。 (4)テーマに基づいて資料を読解し、質疑と作文を行う学修方法、学修習慣を身につけている。 (5)PC やスマートフォンなどの情報端末、Teams, Moodle, 機械翻訳ツールなどを、学修のために使いこなすことができる。 (6)就職活動や卒業研究レポート作成を可能にする実践的日本語能力、英語能力、ファクトチェック能力を身につける。
授業方法と留意点	・いわゆる「反転授業」を取り入れた授業方法をとりますので、授業時間外に動画や資料を閲覧してノートをつくる予習・復習時間の確保が必須です。毎回、オンデマンドで利用できる動画、電子資料、リンクされたインターネット上の資料を指定し、それらを文章にまとめた予習課題を提出していただきます。授業時間はそのぶん、質疑、クイズ、グループワーク、その場で可能なコメントや課題の作成に用います。 ・予習復習には PC を多いに活用することが求められますが、逆に、「あえて手書きで書く、しかも指定の文章を書き写すだけ」という少々変わった課題も出ます。自分なりの勉強の仕方がある人は退屈に感じるかもしれませんが、多くの人に効果の高い学習法ですので、広い心で取り組みましょう。 ・授業時間中も、Teams, Moodle を中心に ICT を活用する授業になります。授業時間にも可能な限りノート PC を持ち込みましょう。スマホでできる作業もありますが、スマホは画面が小さく、資料を読みながら質問コメントを書く、調べものをしながら課題作成を進める、といった情報編集作業には向きません。 ・授業時間内外での Teams への質問、コメントの投稿を重視します。資料を読んで（観て）、疑問点を見つけ、「何がどう分からないか」を他の学生や教員に伝わるように表現する訓練を重視します。少しでも多くの質問、コメントを Teams に投稿し、教室内でも質問を出して、教員の解説、周囲の学生の意見や感想を引きだすことが、授業内容のより良い理解、よりよい成績につながります。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とします。レポート、その他課題に関する質問等は Teams、オフィスアワー、または電子メールによるアポイントメントにて対応します。
科目学習の効果（資格）	海外研修や留学、異文化交流に必要で、英語力向上の基盤にもなる国際教養、国際常識、ICT 技能の獲得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション:英語圏の映画、音楽と多様性	授業で取り上げるトピックの概要だけでなく、受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います	配付した資料の予習を開始。(2 時間程度)
2	現代日本の「多文化共生」と人種表象	事例研究：インターネットで「炎上」するブラックフェイス、ほか	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計 3 時間程度)
3	アメリカ・ハリウッド映画の黒人表象（１）	事例研究：『國民の創生』(1915)ほか	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計 3 時間程度)
4	アメリカ・ハリウッド映画のアジア人表象	事例研究『チート』(1915) ほか	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計 3 時間程度)
5	アメリカ・ハリウッド映画の先住民表象	事例研究：20 世紀の西部劇映画作品群	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計 3 時間程度)
6	アメリカ・ハリウッド映画の黒人表象（２）	公民権運動以降の黒人表象の概観	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計 3 時間程度)
7	アメリカ・ポピュラー音楽の人種表象（１）	事例研究：戦前ジャズ、戦後ジャズ	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計 3 時間程度)
8	「アメリカ・ポピュラー音楽の人種表象（２）	事例研究：ロック、カウンターカルチャー	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計 3 時間程度)
9	アメリカ・ポピュラー音楽の人種表象（３）	事例研究：ソウル、ヒップホップ	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計 3 時間程度)
10	日本におけるアメリカ映画、音楽受容の歴史と現在	事例研究：日本の「黒人音楽」	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計 3 時間程度)
11	イギリスの映像・音楽における多文化主義の現在	事例研究：UK グライム、リナ・サワヤマほか	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計 3 時間程度)
12	カナダの映像・音楽における多文化主義の現在	事例研究：TV ドラマ『大草原の小さなモスク』(2007～2012)ほか	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計 3 時間程度)
13	オーストラリアの映像・音楽	事例研究：『ソウルガールズ』(2012)ほ	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オ

		における多文化主義の現在	か	ンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など（合計 3 時間程度）
	14	英語圏の多文化主義の経験	ここまでの事例を総合して議論する	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など（合計 3 時間程度）
	15	まとめ	学期末まとめ課題作成のための総合演習	最終課題に使う可能性のある全ての資料やメモを用意して(2 時間程度)持ち込む。授業後、まとめ課題を作成する。(5 時間程度)

関連科目	エリアスタディーズ(北アメリカ)、地域研究プロジェクト（英語と諸地域）ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Teams 投稿を主とした平常の質疑への貢献 30% 平常のミニレポート 40% 学期末のまとめ課題 30%
学生へのメッセージ	この授業で扱うトピックの多くは英語圏の大学でも扱うものであり、英語圏での生活体験のない日本の学生にとっては比較的高度なものといえます。分からないことを自分ですぐに調べる力、分からないことを言葉にして質問できる力を鍛える必要があります。とはいえ、とにかく食らいついていく気持ちがあれば心配は要りません。難しいと思ってもとにかく資料を読む、分からないことは何でも質問して、どういうことなのか考える、今まで知らなかった言葉をどんどん使って文章を書く、そうやって自分の技能と知識を高める、自分の可能性を広げる、という意識でやりましょう。なんとかなります。
担当者の 研究室等	７号館３階　鳥居研究室
備考	

科目名	中国語と生活文化	科目名（英文）	Chinese Language and Cultures of Daily Life
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2517e0		

授業概要・目的	日本は古来より中国の文化を取り入れることに熱心であり、漢字はもちろん、仏教、茶、祝日など、中国起源を示しているものも少なくない。この授業では、中国の生活文化を題材とした中国語文を読みながら、同時に日本の文化と対照し、議論を通じて日中の共通点と互いの独自性について理解する。
到達目標	中国語文を通じて、中国の社会と文化の諸相に触れ、日中両国の共通点と互いの独自性について考え、客観的な視点から日本と中国の相互理解を深めることができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、１年後期、及び２年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。授業方法として、学習資料を輪読し、授業によりグループワークやグループ発表を行う。 授業内で課した課題に対して当日または次週に必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の進め方、成績の評価、呼称の変化	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
2	大学生の恋情	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
3	飲食の変化	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
4	「ハイミス」現象	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
5	子供の政策	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
6	住宅	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
7	復習・中間テスト	これまでの内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
8	現代婚姻観	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
9	海外旅行	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
10	中国版の LINE「WeChat」	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
11	服装の変革	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
12	移民	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
13	春節	単語、本文の朗読、翻訳、ビデオを見る	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に１時間，復習に１時間を要する。
14	復習・テスト	学期後半の内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
15	まとめ	全体の復習、質問答え	授業の内容を復習、次の内容を予習する。

関連科目	中国語圏とその言語文化、中国語圏での地域と共生

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知ってる？今の中国～衣食住遊～	山下輝彦・路元	朝日出版社
2			
3			

評価方法（基準）	テスト、発表、課題、授業に取り込む姿勢などを総合して評価する。 テスト60%、グループ発表と課題など４0%。
学生へのメッセージ	中国に対する関心をより高め、中国に対する理解をより深めましょう。
担当者の研究室等	7号館２階　非常勤講師室
備考	

科目名	中国語圏の言語文化	科目名（英文）	Languages and Cultures in the Chinese-speaking World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2518e0		

授業概要・目的	中国語圏を形成する中国，台湾，香港，シンガポールでは多様な方言が話されるが，その文字＝漢字は共通であり，漢字によって中国語圏は強固にまとまっている。中国語圏の周辺でも日本や朝鮮，ベトナムの言語もそれぞれ中国語からの借用語＝漢字語の割合が高いことから，東アジア全体として漢字文化圏を形成していると言える。そして漢字は基本的には表意文字であるため、あらゆる漢字は，その部品が担う役割を理解することでその意味を説明することができる。本講義では『常用漢字コアイメージ辞典』 に述べられている意味のイメージに関する記述を参考にしながら、古代中国語の音韻体系と古代文字の形を手がかりに、古代人のものの見方や発想法，そして現代の中国語や日本語で使われる漢字との繋がりについて考える。
到達目標	日常使用する漢字について，それを構成する部品が何の象形なのか，どのような意味を担っているのか，それらを組み合わすことで何を表現しているのかを説明できるようになる。また，未知の漢字に接した時もその意味や読音を推測できるようになる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1 年後期、及び 2 年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。講義形式で授業を行う。一回の授業で 4～5 の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考える。CALL 教室の機能を利用することで，各学生の手元の作業状況を全員で共有しながら演習の要素も取り入れて授業を進める。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 4 級。漢字能力検定 2 級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業のガイダンス。 人体・姿勢	プリント教材を配布する。この授業の目的及び目標を概説する。 人・女・子・鬼・兄… 小テスト。	この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
2	身体部位 1	頭・毛・目・耳・口… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
3	身体部位 2	手・足… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
4	動物 1	牛・馬・羊… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
5	動物 2	犬・鹿・豚… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
6	単元テスト 1 動物 3	第 1 回～第 5 回の理解度を確認する。 鳥・虫・蛇… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
7	天体・気象	日・月・水… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
8	鉱物	土・火・金… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
9	人工物	高・示… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
10	単元テスト 2 器具 1	第 6 回～第 10 回の理解度を確認する。 方・網・工… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
11	器具 2	玉・父・車… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
12	器具 3	刀・辛・戈… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
13	動作	又・口・之… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
14	状態	束・阜・変… 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し，事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
15	単元テスト 3 形状	第 10 回～第 14 回の理解度を確認する。 宇・王・弗… 小テスト。	この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。

関連科目：「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社
2			

	3
評価方法 （基準）	小テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
学生への メッセージ	講義の内容をノートする必要は言うまでもないが、試験では複数の語から 1 つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に結びついているかを授業を通して理解してほしい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)
備考	教材として，プリントを授業中に配布する。

科目名	スペインの言語と文化	科目名（英文）	Language & Culture Studies: Spain
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2519e0		

授業概要・目的	スペイン語の基礎文法の学習を通して、スペインの諸地域の言語、文化、歴史について学ぶ。また、言語と社会つまり人間との関わりを考察する。
到達目標	初級文法の基礎が分かるようになる。簡単な文章を正確に読み理解するとともに、スペインの文化を知ることができる。
授業方法と留意点	＊この科目は「地域言語科目」のうち、1 年後期、及び 2 年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	受業概要説明 受講上の注意 スペイン語の学習状況確認	教科書を購入しておく
2	第１課	名詞の性・数、冠詞、形容詞 「これは何ですか」	授業内容の予習復習
3	第２課	主語の代名詞、ser, estar、指示詞、前置詞	授業内容の予習復習
4	１，２課まとめと応用	文法のまとめ 世界遺産の映像とそのテキスト読解:バルセロナ、パンプローナ	授業内容の予習復習
5	第３課	規則動詞現在形、国籍・言語の言い方、都市や住宅に関する語彙、文の種類	授業内容の予習復習
6	第４課	tener, ir, venir, querer, poder,ほか不規則活用動詞、食事・あいさつの表現	授業内容の予習復習
7	３，４課まとめと応用	世界遺産の映像とそのテキスト読解:オビエド、サンティアゴ・デ・コンポステラ	授業内容の予習復習
8	中間テスト	第1～４課までの内容	授業内容の予習復習
9	第５課	基数詞、時刻表現、比較級・最上級、家族・知人に関する表現	授業内容の予習復習
10	第６課	目的語の代名詞、gustar 型動詞、身体部位、hay	授業内容の予習復習
11	５，６課まとめと応用	世界遺産の映像とそのテキスト読解:サラマンカ、アビラ	授業内容の予習復習
12	第７課	再帰動詞、天候などの表現、季節・月・曜日の表現、所有詞	授業内容の予習復習
13	７課まとめと応用	世界遺産の映像とそのテキスト読解:セゴビア	授業内容の予習復習
14	期末テスト	５～７課までの内容	授業内容の予習復習
15	前期内容まとめ テストのフィードバック	学習事項および学習内容について質疑応答	授業内容の予習復習

関連科目	スペイン語の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶌教隆ほか	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	臨時試験および中間テスト 70%、受講態度・授業中の受け答え　30%
学生へのメッセージ	予習復習自習を必ず行うこと。特に辞書を用いてテキストの文の意味を調べて授業に臨むこと。
担当者の研究室等	7 号館２階　非常勤講師室
備考	クラスの規模や習熟度に応じて授業計画を適宜修正しうる。 事前・事後学習の総時間数として 60 時間以上を要す。

科目名	ラテンアメリカの言語と文化	科目名（英文）	Language & Culture Studies: Latin America
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2520e0		

授業概要・目的	スペイン語の基礎文法を学びながら、5億人規模のスペイン語話者を擁す広大なラテンアメリカの多様な文化について学ぶ。
到達目標	ラテンアメリカの言語と文化について学ぶことを通じて、なぜスペイン語がこれほどまでに広域言語となったのか、いかに格差の大きな多民族社会であるか、現代世界においていかなる先駆的役割を果たしてきたか、理解できるようになる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、お呼び2年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。 各回に予定しているテーマについてのスペイン語で書かれたテキストを事前に配布します。必ず予習して授業に臨んでください。授業の中でテーマの理解を深めるための解説を行い、視聴覚教材を活用します。最初の3回程度は、「スペイン語文法Ⅰ」で学んだ範囲の知識で読める文章を読み、以後「スペイン語文法Ⅱ」で学びつつある知識を駆使して読めるレベルの文章に取り組みます。「文法Ⅰ」「同Ⅱ」で用いている教科書を常に持参してください。
科目学習の効果（資格）	スペイン語という国連公用語でもある広域言語の運用力を基礎固めし、同時にスペイン語圏の大部分を占めるラテンアメリカの文化的多様性について知り、親しむ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション:ラテンアメリカ地域とは？	スペイン語とはどんな言語か？:スペイン語圏、スペイン語のバリエーション、ラテンアメリカの諸文明と先住民言語、ラテンアメリカ起源の食べ物	事前：ラテンアメリカの地図に親しんでおく 事後：マヤ、インカ、アステカの先住民文明について調べる
2	ラテンアメリカの地理 地域の多様性と共通性	気候と地形 緯度と高度による各地域の多様性 言語文化の共通軸と地域差	事前：配布された教材の予習 事後：白地図にスペイン語で国名、首都名、主要な山脈、河川等を書き入れる。
3	ラテンアメリカの食文化	トウモロコシとジャガイモの文化圏	事前：配布された教材の予習 事後：ラテンアメリカの市場（メルカード）に溢れる民芸品について調べる
4	ラテンアメリカの映画と音楽	ラテンアメリカ映画の黄金期、亡命と再生、音楽の三つの伝統	事前：配布された教材の予習 事後：映画作品の鑑賞
5	ラテンアメリカの美術と音楽	先スペイン時代の美術、植民時時代の美術、現代美術	事前：配布された教材の予習 事後：時代を問わず、建築物、絵画、彫刻の具体的作品について調べる
6	メソアメリカの古代文明	テオティワカン、アステカ、マヤ諸文明	事前：配布された教材の予習 事後：いずれかの文明の遺跡について調べる
7	アンデスの古代文明	インカ帝国の遺跡や街並み	事前：配布された教材の予習 事後：いずれかの文明の遺跡について調べる
8	前半の振り返りと中間テスト	オリエンテーションで学習した基礎知識～第 6 課までの文法内容及び各テーマについて問われる	事前：第7回までの学習内容の復習 事後：中間テストの添削
9	植民地社会の文化変容	世界文化遺産を訪ねて	事前：配布された教材の予習 事後：植民地時代の世界文化遺産のひとつについて調べる
10	メキシコ	メスティソ社会 米国との国際関係	事前：配布された教材の予習 事後：世界無形文化遺産メキシコ料理について調べる
11	中米地域	「中米のスイス」コスタリカと生物多様性 メキシコを通過する対米移民	事前：配布された教材の予習 事後：「中米紛争」について調べる
12	カリブ海地域	キューバの歴史と現在、首都 La Habana	事前：配布された教材の予習 事後：キューバの名所や音楽について調べる
13	アンデス諸国	黄金郷 El Dorado の伝説 コロンビアのコーヒー産業 高山地帯での暮らし	事前：配布された教材の予習 事後：アンデス諸国から日本にデカセギする日系ラティーノについて調べる
14	ラプラタ（コノ・スール）地域	アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ	事前：配布された教材の予習 事後：この地域における民族構成の違い、ヨーロッパ的町並みについて調べる
15	総まとめ	既習項目の理解度確認	事前：これまでの総復習 事後：解答・解説の確認

関連科目	「スペイン語文法Ⅱ」「スペイン語読解」「スペイン語会話Ⅱ」「スペインの言語と文化」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（ポケット）プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	臨時試験と中間テスト 60%、授業内の受け答えと調べもの課題への取組み 40%
学生へのメッセージ	理解度を見て、授業計画を変更したり、順序を前後させたりすることがあり得ます。教材の配布は Teams のファイルで行います。 映画、音楽、美術、文学、歴史、環境問題、国際関係等々、何らかの糸口から、広大かつ多様性に富んだラテンアメリカへの関心を持ち始めるよ

	うになることを期待しています。スペイン語ひとつでこの地域のどこへ行っても通用するのですから。
担当者の 研究室等	講師控室（７号館２階）
備考	事前・事後学習の総時間数は 60 時間以上を要する。

科目名	インドネシア語と生活文化	科目名（英文）	Indonesian Language and Cultures of Daily Life
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金子　正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2521e0		

授業概要・目的	本講義は、インドネシア（及び東南アジア世界）に関心を持つ学生を対象に、インドネシアにおける衣・食・住および伝統文化や伝統芸能、宗教をとりあげ、これらの現代的な変化や将来的な課題について理解することを学修の到達目標とする。講義においては、ことわざや所作など生活に関わるインドネシア語の短いフレーズや語彙を合わせて学ぶ言語的な視点も含めて多角的な理解に取り組むことで、異文化を理解し、多文化の中で生きるための思考力を養成する。
到達目標	インドネシアにおける衣・食・住および伝統文化や伝統芸能、宗教をとりあげ、これらの現代的な変化や将来的な課題について理解する。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、及び2年前期のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とする。 ※講義内容に関してフィールドワークを課すことがある。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	本講義の目的・概要・進め方、など	
2	衣・食・住その①：都市	インドネシアの生活世界における衣・食・住について、都市に注目しながら、画像や映像などをもとにしながら学ぶ。	事前学習：インドネシアの都市について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
3	衣・食・住その②：村落	インドネシアの生活世界における衣・食・住について、グループで調べる。	事前学習：インドネシアの農村について調べる。 事後学習：グループでの発表の準備をする。
4	グループでのプレゼンテーション（1）	インドネシアの生活世界における衣・食・住について、グループで調べた内容を発表する。	事前学習：グループでの発表の準備をする。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
5	生業	インドネシアの生業、特に農林水産業に関わる言葉や表現を、配布資料のほか、画像や映像などをもとにしながら学ぶ。	事前学習：インドネシアの農林水産業について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
6	エネルギーと生活文化	インドネシアの人々の生活の中で、近年劇的な変化が続いている「エネルギー」の問題と、生活文化の変化を学ぶ。	事前学習：インドネシアの人々がこれまで使ってきた「燃料」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
7	衛生・水・疾病	インドネシアの人々の生活の中で重要度が増している「衛生・水・疾病」の問題と、生活文化の変化を学ぶ。	事前学習：インドネシアにおける「水」や「疾病」の問題について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
8	伝統文化と世界観①	インドネシアにおける伝統文化と世界観について、いくつかの民族集団を取り上げながら紹介する。	事前学習：インドネシアにおける「慣習（adat）」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
9	伝統文化と世界観②	インドネシアにおける伝統文化の中でも特に舞踊・武術などの「身体表現」について学ぶ。	事前学習：インドネシアにおける伝統文化について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
10	映像の中のインドネシア	インドネシアに関する短編のドキュメンタリー映画もしくは研究映像を見ることで、日本との世界観や生き方の違いを考える。	事前学習：インドネシア人の「人生観」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
11	学校経験を比較する	インドネシアと日本の学校経験を比較しながら、それぞれが抱える課題や特徴を考える。	事前学習：インドネシアの「学校制度」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
12	インドネシア人の国内移動（観光・就労・就学・移住）	インドネシア人の国内移動（観光・就労・就学・移住）にはどういう特徴があるのかを学ぶ。	事前学習：インドネシア人の「国内観光」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
13	インドネシア人の海外移動（観光・就労・就学・移住）	インドネシア人の海外移動（観光・就労・就学・移住）にはどういう特徴があるのかを学ぶ。	事前学習：インドネシア人の「訪日観光」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
14	グループでのプレゼンテーション（2）	これまで学んだ内容に関してグループごとに小テーマを決めて、グループでのプレゼンテーションを準備する。	事前学習：これまで習った内容を総合的に復習する。 事後学習：グループでの発表の準備をする。
15	発表とまとめ	グループで調べた内容を発表する。そののち、全体のまとめをする。	

関連科目	１年次・２年次の各インドネシア語科目、２年次・3年次の各接続科目（インドネシア・マレーシア関連）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代インドネシアを知るための 60 章	村井吉敬、間瀬朋子、佐伯奈津子（編著）	明石書店

	2	インドネシアの基礎知識	加納啓良	めこん
	3			
評価方法 （基準）	平常点（30%）課題（30%）最終課題のレポート（40%）で評価する。			
学生への メッセージ	1年後期で身につけた初歩のインドネシア語をもとに、ちょっとずつインドネシアの人びとの生活文化を読み解いていきます。 語学の授業ではなかなか用いることができなかった多様な画像や資料なども取り入れつつ、東南アジアから具体的に世界を捉え直すきっかけとなるような授業になればいいなと思っています。			
担当者の 研究室等	金子研究室（7号館5階）			
備考				

科目名	インドネシア語と現代文化	科目名（英文）	Indonesian Language and Contemporary Cultures
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野　崇央.大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2522e0		

授業概要・目的	われわれの生きる基盤ともいえる「文化」は、現代においては人々の行動を考える上での重要な要素となっている。グローバル化の真っただ中にある今、現代文化の多様性と画一性を考えることは十分に意義のあることと言える。そこで、本授業においては現代文化を象徴するモノ、すなわち、SNS、ポピュラーミュージック、マンガ、アニメ、ゲーム等といったモノを題材に、インドネシアの現代文化の様相を考察する。考察にあたってはインドネシア語で書かれた一次資料を活用し、語学運用能力の向上に結びつけていく。
到達目標	インドネシア語運用能力を向上させることができ、さらにインドネシアの生の姿を知ることができる。
授業方法と留意点	本授業は、教員側からの講義も行うが、受講生もテーマに合わせて作業を行う。テーマに応じてディスカッション、グループワーク等を行う。授業時には辞書を必ず携行すること。 ※この科目は、「地域言語科目」のうち、１年後期および２年前期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション〔浦野・大坪〕	授業の進め方を説明する。 インドネシアにかんする基礎知識を確認する。	インドネシアはどういった特徴をもつ国なのか、事前に調べておきましょう。
2	インドネシアの音楽①〔浦野〕	インドネシアの音楽事情を把握し、歌詞を翻訳することを通じて、インドネシア文化に触れる。	インドネシアの音楽事情について、事前に調べておきましょう。
3	インドネシアの音楽②〔浦野〕	インドネシアの音楽事情を把握し、歌詞を翻訳することを通じて、インドネシア文化に触れる。	翻訳するとはどういったことなのかを事前に把握しておきましょう。
4	インドネシアの音楽③〔浦野〕	インドネシアの音楽事情を把握し、歌詞を翻訳することを通じて、インドネシア文化に触れる。	翻訳することになっているインドネシア語の歌詞を自然な日本語表現にするにはどのような工夫が必要かを考えてみましょう。
5	インドネシアのテレビ〔浦野〕	インドネシアのテレビ事情を把握し、人びとの日常を理解する。	配布プリント（インドネシアのテレビ番組表）を事前に目を通し、特徴を見つけ出してみましょう。
6	インドネシアのマンガ①〔浦野〕	インドネシア語で書かれたマンガ作品を読み、表現法について学ぶと同時に人びとの感性に触れてみる。	配布プリント（マンガ作品）を事前に読み込み、日本語に訳してみましょう。
7	インドネシアのマンガ②〔浦野〕	インドネシア語で書かれたマンガ作品を読み、表現法について学ぶと同時に人びとの感性に触れてみる。	配布プリント（マンガ作品）を事前に読み込み、日本語に訳してみましょう。
8	まとめ〔浦野〕	これまでに学んだことを再確認する。	これまでに学んだことを復習しましょう。
9	インドネシアのユーチューバーとインスタグラマー①〔大坪〕	インドネシアのユーチュバーやインスタグラマーたちを紹介し、それぞれが得意とする分野と背景を概観します。 かなり早いテンポの日常会話を聞きながらシャドーイングとディクテーションも実施します。	聞き取れた表現や学んだ表現を復習しながら、日本語へ翻訳してみましょう。短いフレーズを覚えましょう。
10	インドネシアのユーチューバーとインスタグラマー②〔大坪〕	前回に引き続き、かなり早いテンポの日常会話を聞きながら、シャドーイングとディクテーションを実施します。 K-POP や韓国のユースカルチャーが好きなインドネシアのユーチューバーが書いた韓国旅行記も読みます。	配布プリント(旅行記)を音読し、わからない単語や表現は調べたり、質問できるようにマークしておくこと。 事後学習では、もう１度ていねいに翻訳してみましょう。
11	インドネシアのユーチューバーとインスタグラマー③〔大坪〕	前回に引き続き、K-POP や韓国のユースカルチャーが好きなユーチューバーが書いた韓国旅行記を読みます。 インドネシア出身の K-POP メンバーによる「自己紹介」に触れます。	旅行記については事前に、自然な日本語表現をいくつか考えてみましょう。 自己紹介は、表情や身振りを加えて何度も練習してみましょう。
12	インドネシアのビデオゲーム①〔大坪〕	90 年代後半のインドネシアを舞台とするビデオゲームのシーンを見ながら、表現法について学びます。 またインドネシアの人びとの日常やジャワ島での慣習などについても知識を得ます。	配布プリントを事前に読み、何度も発音を練習しましょう。 短いフレーズの表現を覚えましょう。
13	インドネシアのビデオゲーム②〔大坪〕	前回に引き続き、ビデオゲームの代表的シーンを見ながら表現を学びます。 またゲーム実況者の動画を見ながら、日常の感情表現についても学びます。	配布プリントを事前に読み、何度も発音を練習しましょう。 短いフレーズの表現を翻訳しましょう。
14	インドネシアのビデオゲーム③〔大坪〕	前回に引き続き、ビデオゲームの各シーンで引用されたインドネシアの歴史や音楽ジャンルなどについてとりあげ、知識を深めます。	配布プリントを事前に読み、何度も発音を練習しましょう。 短いフレーズの表現を覚えましょう。 どのシーンが気になったのか覚えておきましょう。
15	まとめ〔大坪〕	これまでに学んだことを確認し、受講生のみなさんそれぞれが関心をもったことを共有しましょう。	これまでに学んだことを復習しつつ、自分が関心を持ったことを説明できるようにしましょう。

関連科目	インドネシア語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館

2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への積極的な参加度合い（40%）および到達度の確認を測る課題（60%） 詳細は１回目の授業で伝える。
学生への メッセージ	インドネシアは現在、とても勢いのある国です。特に若い人たちが元気な国です。彼らの日常を知り、我々の豊かな未来社会への道標としましょう。
担当者の 研究室等	７号館４階　浦野研究室 ７号館２階　非常勤講師室（大坪）
備考	事前事後学習時間の目安は、60 時間以上とする。 質問は原則として授業時間中に受け付けることとする。

科目名	グローバルスタディーズ（英語と諸地域）	科目名（英文）	Global Studies (English-Speaking World)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	船本　弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2528c0		

授業概要・目的	本授業では、世界に広がる英語と関連する文化について概観し、学ぶことを目的とする。 ※この科目は「地域研究プロジェクト（英語と諸地域）」の対応科目です。
到達目標	英語の世界各地における特徴および役割について、文化と合わせて理解を深める。
授業方法と留意点	テーマに応じて、視聴覚教材も用いながら授業を進める。グループディスカッションへの貢献など、積極的な参加を求める。 テストやプレゼンテーションに関するフィードバックは随時、授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
科目学習の効果（資格）	・教員養成 ・異文化理解 ・教養

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画などの説明、世界の諸英語と文化とは	授業計画と概要の確認（4時間）
2	世界に広がる諸英語	英語の世界的な広がりと文化を捉えるモデル	世界の諸英語と文化についての予習・復習（4時間）
3	イギリスの英語と文化	イギリス英語の歴史と現状、アメリカの文化	イギリスの英語と文化についての予習・復習（4時間）
4	アメリカの英語と文化	アメリカ英語の歴史と現状、アメリカの文化	アメリカの英語と文化についての予習・復習（4時間）
5	オーストラリアの英語と文化	オーストラリア英語の歴史と現状、オーストラリアの文化	オーストラリアの英語と文化についての予習・復習（4時間）
6	国連の英語	国連で使用される英語のあり方と国際社会の文化	国連で使用される英語と国際社会における文化についての予習・復習（4時間）
7	中東の英語と文化	中東地域の英語と文化	中東の英語と文化についての予習・復習（4時間）
8	情報社会の英語と文化	情報社会における英語の広まりと文化	情報社会の英語と文化についての予習・復習（4時間）
9	時事問題の英語と翻訳される文化	時事問題の英語と翻訳される文化	時事問題の英語と翻訳される文化についての予習・復習（4時間）
10	映画を通じて世界に発信される英語	映画を通じて世界に発信される英語	映画を通じて世界に発信される英語についての予習・復習（4時間）
11	外国語としての英語と文化	外国語として学ばれる英語と文化の役割	外国語としての英語と文化についての予習・復習（4時間）
12	授業内テスト	前週までの内容に関する授業内テスト、解説、フィードバック	授業内テストに備えた予習・授業内テストの振り返り（4時間）
13	世界英語と文化のワークショップ①	世界英語のデータ分析の実践	世界英語のデータ分析についての予習・復習（4時間）
14	世界英語と文化のワークショップ②	世界英語のデータ分析の実践	世界英語のデータ分析についての予習・復習（4時間）
15	期末プレゼンテーション	期末プレゼンテーションと意見交換、フィードバック	期末プレゼンテーションの準備と、授業内容の総復習（4時間）

関連科目	地域研究プロジェクト（英語と諸地域）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂新版　広がり続ける英語の世界	竹下裕子（編著）	アスク出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English around the World: An Introduction	Edgar W. Schneider	Cambridge University Press
2	Global Englishes	Jennifer Jenkins	Routledge
3	Analysing English in a Global Context: A Reader	A. Burns and C. Coffin	Routledge

評価方法（基準）	授業への積極的な参加 20% 課題 10% 授業内テスト 40% 期末プレゼンテーション 30%
学生へのメッセージ	英語は世界の様々な地域で使われています。世界に広がる英語の現状や特徴、英語に関連する文化について学んでみましょう。
担当者の研究室等	7号館5階　船本研究室
備考	授業内容については、進度等により調整する場合がある。毎回の授業のための教科書の読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間は60時間程度とする。

科目名	グローバルスタディーズ（東アジア世界）	科目名（英文）	Global Studies (East Asia)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2529e0		

授業概要・目的	日本では「アジア雑貨」「アジアンフード」のように日本をアジアの外側と位置づける立場もあります。しかし実際には地図の上で日本は東アジアの一部に位置するうえ，古くから中国や台湾，朝鮮，モンゴル，ベトナムなどの東アジア地域と文化的なつながりを保ってきました。とりわけ関西地方は東アジア地域と密接につながっていたことから，古いものから新しいものまでを身近なところで目にすることができます。この授業は，それぞれの地域のことを個々に切り分けて学ぶのではなく，日本との関係を出発点にこれら地域の歴史や文化を探ることが目的です。 ※この科目は「地域研究プロジェクト（東アジア世界）」の対応科目です。
到達目標	東アジア各地域が文化的な多様性を展開するとともに，常に連携し，時に対立しながら一つの世界を形成していたことに関心を寄せ，日本とこれら地域とのつながりに関して課題を探求することができる。また，その過程で学んだことを第三者に明確かつ具体例を示しながら説明することができる。
授業方法と留意点	授業は主に演習形式で行います。学期中に２回の学外授業を実施しますので，そのための事前調査および事後の報告が授業の中心になります。これらの活動はグループを単位として実施しますので，グループの各メンバーは自分に与えられた役割を確実に果たすことを求められます。報告や提出物（報告に使った PPT）に対して授業の中でフィードバックを行います。※すでに学外授業の日程を決めています。土曜日などに実施しますので，必ず下の「授業計画」で日程を確認してスケジュールしておいてください。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験，ハングル能力検定試験のそれぞれ４級程度，および通訳案内士資格取得に必要な文化的知識。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業のスケジュール（講義と校外学習 10/19・現地調査 12/14）	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
2	国立民族学博物館の概要と実習課題	報告例を聞いたあと質疑応答。展示の概要を把握したあと，調査グループを作る。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
3	10/7 民博実習の事前調査	グループごとに調査のテーマを決め，まとめた案を報告する。役割分担を決めたうえ PPT の雛形を作成し，共有設定する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
4	発表資料の作成と報告の準備①	グループごとに資料を作成し，報告の手順を打ち合わせる。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
5	発表資料の作成と報告の準備②	グループごとに資料を作成し，報告の手順を打ち合わせる。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
6	民博実習報告①中国・台湾	10/19 民博実習および文献で調査したことをグループ単位で報告する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
7	民博実習報告②朝鮮・極東	10/19 民博実習および文献で調査したことをグループ単位で報告する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
8	民博実習報告③モンゴル・ベトナム	10/19 民博実習および文献で調査したことをグループ単位で報告する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
9	11/16 現地調査の方法	東アジアに関連する調査地の選定と報告。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
10	発表資料の作成と報告の準備①	グループごとに資料を作成し，報告の手順を打ち合わせる。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
11	発表資料の作成と報告の準備②	グループごとに資料を作成し，報告の手順を打ち合わせる。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
12	現地調査報告①	12/14 現地調査および文献調査の結果をグループ単位で報告・質疑応答・講評する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
13	現地調査報告②	12/14 現地調査および文献調査の結果をグループ単位で報告・質疑応答・講評する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
14	現地調査報告③	12/14 現地調査および文献調査の結果をグループ単位で報告・質疑応答・講評する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）
15	現地調査報告④	12/14 現地調査および文献調査の結果をグループ単位で報告・質疑応答・講評する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと　1　時間）

関連科目	地域研究プロジェクト（東アジア世界）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度（プレゼンへの貢献度や他の発表に対する発言）：70% プレゼン資料と発表の達成度：30%
学生へのメッセージ	あらゆる物や事に対して「なぜ？」と問うこと，その答えを模索する態度を大切にしたいと考えています。
担当者の	中西研究室（7 号館 3 階）

研究室等	
備考	プレゼンへの貢献度は，グループメンバー間で評価することとします。

科目名	グローバルスタディーズ（スペイン語と諸地域）	科目名（英文）	Global Studies (Spanish-Speaking World)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2530e0		

授業概要・目的	※この科目は「地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域)」の対応科目です。 スペイン語圏はヨーロッパとアメリカ大陸にまたがって広がっている。この授業ではスペインとラテンアメリカの歴史と文化を学ぶ。スペイン語諸国の特徴は独自の伝統を保持する一方で、歴史の中で民族と文化がまじりあい、その融合から固有の文化を生み出してきた点にある。本授業の目的は独自の伝統と文化の融合に焦点を当てて、スペインとラテンアメリカの歴史と文化に関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。
到達目標	スペインおよびラテンアメリカの歴史と文化の事象について説明できる。 スペイン語圏の歴史の流れと文化の融合を自らの思考で考察できる。
授業方法と留意点	・レジュメを配布して講義形式で行う。映像を使用したり、グループ（個人）ワークを交える場合がある。 ・毎回、講義の内容に関して考えたことをリアクションペーパーとして提出する。 ・学期末に理解度確認テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	スペイン語圏を通して多角的な世界認識ができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要の説明	シラバス、授業計画をよく確認しておく。
2	スペイン（1）ローマ時代からアンダルス	スペインにおけるイスラーム文化の影響	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
3	スペイン（2）黄金時代	1492 年以降のスペイン帝国の繁栄	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
4	スペイン（3）バスクとカタルーニャの独立運動	地方の民族主義と独立運動の背景	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
5	スペイン（4）大衆文化	祝祭やアートの持つ意味とは	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
6	ラテンアメリカとはどのような地域か	ラテンアメリカの歴史・文化の共通性と多様性	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
7	先コロンブス期の新大陸(1)	新大陸の農耕文化と文明の発祥	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
8	先コロンブス期の新大陸(2)	メソアメリカ文明とアンデス文明	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
9	植民地時代（1）	スペイン人による新大陸の征服	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
10	植民地時代（2）	広大な土地をいかに統治したのか	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
11	ラテンアメリカ諸国の独立	独立の背景と独立運動の指導者たち	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
12	国民国家建設とアイデンティティの模索	国民を作り出す事業	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
13	先住民の伝統文化	スペイン文化と先住民文化の融合、祝祭、民族衣装	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。
14	キューバ革命	冷戦期の米国とラテンアメリカの関係	レジュメを見直し、キーワードについて調べる。テストに備える。
15	理解度確認テストとふりかえり	既習事項の確認と解説・補足説明	テストの見直し

関連科目	地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	物語 ラテン・アメリカの歴史	増田義郎	中央公論社
2	スペイン史 10 講	立石博高	岩波書店
3			

評価方法（基準）	理解度確認テスト 40%、リアクションペーパー30%、課題への取り組み 30%
学生へのメッセージ	アジアから離れた地域を一度勉強すると世界の見方が広がります。知らないことが多いと思いますが、ひとつでも新しい異文化の事象や世界史の知識を得てほしいと思います。
担当者の研究室等	７号館５階　藤井研究室
備考	クラスの規模や学習の状況に応じて、グループ（個人）ワークの実施の有無なども含め、授業内容を変更する場合がある。 事前事後学習の総時間数の目安は 60 時間とする。

科目名	グローバルスタディーズ（東南アジア世界）	科目名（英文）	Global Studies (Southeast Asia)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2531e0		

授業概要・目的	本講義の目的は、「東南アジア世界」に関する知見を広げ、深めることである。「東南アジア世界」とは、インドネシア・カンボジア・シンガポール・タイ・東ティモール・フィリピン・ブルネイ・ベトナム・マレーシア・ミャンマー・ラオスの 11 カ国を指すが、本授業では授業冒頭に東南アジアの国ぐについて日本との関係性を主眼において把握し、その後、インドネシアをめぐるテーマ取り上げ、アプローチすることとしたい。 ※国際学部では、この科目は「地域研究プロジェクト（東南アジア世界）」の対応科目です。
到達目標	東南アジアの国ぐにと日本との関係を知ることができる。 インドネシア語が話されている地域のことを学ぶ意義が理解できる。 インドネシア語が話されている地域に関する基本的な知識を得ることができる。 社会・文化的多様性のもつインドネシアを知ることで、柔軟な思考を養うことができる。
授業方法と留意点	プリント教材や映像資料を用いての講義形式を中心としつつも、受講生が主体的にグループディスカッションやプレゼンテーションを行い、またレポート課題をこなし、さらに授業最終回には理解度確認試験を行うこととする。 本授業は、遅刻厳禁である。その点を十分に理解したうえで受講すること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等についての説明を行う。 また、東南アジア世界を知ることの意味を考える。	「地域研究」という研究手法を確認しておくこと。
2	東南アジア世界の特徴	東南アジア世界の基本的知識を確認する。	最近の新聞報道から「東南アジア」関連のものを探してみること。
3	インドネシアのイメージ	インドネシアの魅力は何なのかを探る。	回りの人に「インドネシア」についてイメージすることを尋ねてみること。
4	インドネシアの特徴	インドネシアの概要について理解する。	インドネシアの地理を把握しておくこと。
5	インドネシアの歴史	インドネシアの建国の歴史を把握する。	中学・高校の歴史の授業でインドネシアについて何を学んだのかを復習しておくこと。、
6	インドネシアの人びと①	インドネシアの民族や言語事情を理解する。	インドネシア語の成り立ちを確認しておくこと。
7	インドネシアの人びと②	インドネシアの宗教事情を理解する。	インドネシアの宗教地図を作製すること。
8	インドネシアの教育事情	インドネシアの教育事情について把握する。	インドネシアの教育と日本の教育の違いを把握すること。
9	インドネシアの交通・通信事情	インドネシアの交通や通信の状況について把握する。	インドネシアのインフラ事情を調べてみること。
10	インドネシア社会の風景	映画を通じて、インドネシア社会を捉えてみる。	インドネシアの社会風景についての小レポート課題をこなすこと。
11	インドネシアにおけるニッポン 日本におけるインドネシア（インドネシアと日本との関係）	インドネシアの中の「ニッポン」、日本の中の「インドネシア」を探し出し、それらが何を象徴しているのかを把握する。また、インドネシアと日本のつながりを把握する。	モノ、ヒト、コトのそれぞれにおいての「ニッポン」あるいは「インドネシア」としてどういったものが挙げられるでしょうか。考えてみましょう。さらに、インドネシアに暮らす日本人、日本に暮らすインドネシア人の滞在背景を探ってみましょう。
12	学生によるプレゼンテーション①	プレゼン発表に際してのテーマを決め、文献資料を収集するとともに、発表用資料を作成する。	プレゼン発表の準備を行うこと。
13	学生によるプレゼンテーション②	プレゼン発表会を実施する。	プレゼン資料を作成すること。
14	学生によるプレゼンテーション③	プレゼン発表会を実施する。	プレゼンの予行演習をすること。
15	まとめ	総括として、理解度確認試験を実施し、東南アジアおよびインドネシアに関する知見を確認する。	これまでに学んだことを再確認すること。

関連科目	地域研究プロジェクト（東南アジア世界）、世界を学ぶ、エリアスタディーズ 東南アジア、インドネシア語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシアの事典	石井米雄監修	同朋舎出版
2	東南アジア文化事典	信田敏宏編	丸善
3	地図で見る東南アジアハンドブック	ユーグ・テルトレ	原書房

評価方法（基準）	プレゼン課題への取り組み（25%）、授業への積極的な参加姿勢（15%）、最終試験の結果（60%）から総合的に判断する。
学生へのメッセージ	普段あまり接することのない「東南アジア世界」や「インドネシア」から何が見えてくるのかを考えてみましょう。必ずや新たな発見があるはずです。
担当者の研究室等	７号館４階　浦野研究室
備考	本授業のやり方は、受講者数によって一部変更する場合があります。また、東南アジアにおいて突発的な出来事（事件や事故等を含む）があった

	場合、それをテーマとして取り上げることがあり、各回のテーマは変更することがありますので、ご留意ください。初回の授業でそのことを説明します。 この授業の事前・事後学習は、総計 60 時間を目安とします。

科目名	英語で考える環境問題	科目名（英文）	Environmental Issues in English
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2532b0		

授業概要・目的	地球環境に関する情報を入手し、英語で意見を述べることができるようになります。 本科目は、国際学部カリキュラムにおける「国際共生領域」の「接続科目」の一つです。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、地球環境な社会問題について、英語を使って自分の考えを表現し、他者とコミュニケーションをとることができる。
授業方法と留意点	リスニング、リーディング、ディスカッションに重点を置いた課題をこなしながら、地球環境における出来事について学習する。日本および世界の環境問題に精通していることが必要です。授業は、グループワークを中心としたアクティブラーニングスタイルで行います。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	環境問題に関わるトピックについての英語講義を聞きながら、自らの意見を英語で述べてみる。	環境問題に関わるトピックの英文記事をリサーチする（1時間）。
2	SDGs and environmental issues SDGs と環境問題	SDGs と環境問題についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	SDGs と環境問題に関する英語表現を勉強する（1時間）。
3	Climate change and global warming 気候変動・地球温暖化	気候変動・地球温暖化についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	気候変動・地球温暖化に関する英語表現を勉強する（1時間）。
4	Nuclear and renewable energy 原子力・再生可能エネルギー	原子力と再生可能エネルギーについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	原子力と再生可能エネルギーに関する英語表現を勉強する（1時間）。
5	Food production 食糧生産	食糧生産についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	食糧生産に関する英語表現を勉強する（1時間）。
6	オンライン国際協働学習(1) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2時間)
7	オンライン国際協働学習(2) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2時間)
8	オンライン国際協働学習(3) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2時間)
9	オンライン国際協働学習(4) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2時間)
10	Deforestation 森林破壊	森林破壊についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	森林破壊に関する英語表現を勉強する（1時間）。
11	Ocean pollution 海洋汚染	海洋汚染についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	海洋汚染に関する英語表現を勉強する（1時間）。
12	Plastic waste 廃プラスチック	廃プラスチックについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	廃プラスチックに関する英語表現を勉強する（1時間）。
13	Air pollution 空気汚染	空気汚染についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	空気汚染に関する英語表現を勉強する（1時間）。
14	Sustainable City 持続可能な都市	持続可能な都市についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	持続可能な都市に関する英語表現を勉強する（1時間）。
15	最終プレゼンテーションと振り返り	最終プレゼンテーションを行い、これまでの学びを振り返ります。	授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること（2 時間）

関連科目：英語で考える社会問題

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs x Discussion	Reiko Yoshihara, Chiyo Hayashi, Emi Itoi, Noriko Iwamoto, Audrey Morrell	Kinseido
2	Think Smart – Critical Thinking in Critical Times	Michael Hood	Kinseido
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、宿題、発話活動等）75% 共通課題（プレゼンテーション）25%
学生へのメッセージ	We will learn about a wide range of environmental issues across the globe in this course. In addition to learning about problems, we will also learn about potential solutions. Please be prepared to work in groups and research on different issues on a weekly basis. There will be an opportunity to present information that you have gathered and exchange opinions with students in a different country.

	Let's have fun learning together in this course!
担当者の 研究室等	7 号館 3 階チュウ研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内でも行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	英語で考える社会問題	科目名（英文）	Social Issues in English
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2533b0		

授業概要・目的	国際社会についての情報を英語で入手できるようになる。 本科目は、国際学部カリキュラムにおける「国際共生領域」の「接続科目」の一つです。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、グローバルな社会問題について、英語を使って自分の考えを表現し、他者とコミュニケーションをとることができる。
授業方法と留意点	リスニング、リーディングとディスカッションを中心としたタスクをこなしながら、国際社会での出来事や教養を学んでいく。耳から入る英語の情報を漠然と聞き流すのではなく、集中して聞くタスクをこなしていくことで、グローバル化していく社会で起こる様々な出来事を整理して理解できるようにする。また日ごろから、日本語によるニュースや時事問題に習熟しておくことが必要になる。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で実施する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方など。社会問題に関わるトピックについての英語講義を聞きながら、自らの意見を英語で述べてみる。	社会問題に関わるトピックの英文記事をリサーチする（1時間）。
2	SDGs と社会問題	SDG s についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	SDG s に関する英語表現を勉強する（1時間）。
3	SDGs と社会問題	SDG s についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	SDG s に関する英語表現を勉強する（1時間）。
4	女性に優しい社会	女性に優しい社会についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	女性に優しい社会に関する英語表現を勉強する（1時間）。
5	女性に優しい社会	女性に優しい社会についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	女性に優しい社会に関する英語表現を勉強する（1時間）。
6	オンライン国際協働学習(1) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2 時間)
7	オンライン国際協働学習(2) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2 時間)
8	オンライン国際協働学習(3) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2 時間)
9	オンライン国際協働学習(4) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2 時間)
10	人口増加	人口増加についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	人口増加に関する英語表現を勉強する（1時間）。
11	質の高い教育	質の高い教育についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	質の高い教育に関する英語表現を勉強する（1 時間）。
12	ブラック企業	ブラック企業についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	ブラック企業に関する英語表現を勉強する（1 時間）。
13	フードロス	フードロスについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	フードロスに関する英語表現を勉強する（1時間）。
14	フードロス	フードロスについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	フードロスに関する英語表現を勉強する（1時間）。
15	最終プレゼンテーションと振り返り	最終プレゼンテーションを行い、これまでの学びを振り返ります。	授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること（2 時間）

関連科目	英語で考える環境問題

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs x Discussion	Reiko Yoshihara, Chiyo Hayashi, Emi Itoi, Noriko Iwamoto, Audrey Morrell	Kinseido
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、宿題、発話活動等）75% 共通課題（プレゼンテーション）25%
学生へのメッセージ	As our English improves to a certain level, we can start to use English to communicate serious issues, and this course provides the opportunity to do so. We will be using English to discuss issues in the global society so that we will become prepared to exchange ideas on serious topics with English speakers in the future. We will also have the opportunity to work with students from different countries. Let's have fun and learn at the same time :)

担当者の 研究室等	7 号館 3 階チュウ研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内でも行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	英語で考える社会問題	科目名（英文）	Social Issues in English
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞｰﾙｵﾓｯﾄﾞ ｻｯｼﾞｬﾄﾞ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2533b0		

授業概要・目的	国際社会についての情報を英語で入手できるようになる。 本科目は、国際学部カリキュラムにおける「国際共生領域」の「接続科目」の一つです。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、グローバルな社会問題について、英語を使って自分の考えを表現し、他者とコミュニケーションをとることができる。
授業方法と留意点	リスニング、リーディングとディスカッションを中心としたタスクをこなしながら、国際社会での出来事や教養を学んでいく。耳から入る英語の情報を漠然と聞き流すのではなく、集中して聞くタスクをこなしていくことで、グローバル化していく社会で起こる様々な出来事を整理して理解できるようにする。また日ごろから、日本語によるニュースや時事問題に習熟しておくことが必要になる。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で実施する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方など。社会問題に関わるトピックについての英語講義を聞きながら、自らの意見を英語で述べてみる。	社会問題に関わるトピックの英文記事をリサーチする（1時間）。
2	SDGs と社会問題	SDG s についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	SDG s に関する英語表現を勉強する（1時間）。
3	SDGs と社会問題	SDG s についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	SDG s に関する英語表現を勉強する（1時間）。
4	女性に優しい社会	女性に優しい社会についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	女性に優しい社会に関する英語表現を勉強する（1時間）。
5	女性に優しい社会	女性に優しい社会についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	女性に優しい社会に関する英語表現を勉強する（1時間）。
6	オンライン国際協働学習(1) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2時間)
7	オンライン国際協働学習(2) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2時間)
8	オンライン国際協働学習(3) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2時間)
9	オンライン国際協働学習(4) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。(2時間)
10	人口増加	人口増加についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	人口増加に関する英語表現を勉強する（1時間）。
11	質の高い教育	質の高い教育についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	質の高い教育に関する英語表現を勉強する（1 時間）。
12	ブラック企業	ブラック企業についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	ブラック企業に関する英語表現を勉強する（1 時間）。
13	フードロス	フードロスについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	フードロスに関する英語表現を勉強する（1時間）。
14	フードロス	フードロスについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	フードロスに関する英語表現を勉強する（1時間）。
15	最終プレゼンテーションと振り返り	最終プレゼンテーションを行い、これまでの学びを振り返ります。	授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること（2 時間）

関連科目	英語で考える環境問題

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs x Discussion	Reiko Yoshihara, Chiyo Hayashi, Emi Itoi, Noriko Iwamoto, Audrey Morrell	Kinseido
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、宿題、発話活動等）75% 共通課題（プレゼンテーション）25%
学生へのメッセージ	As our English improves to a certain level, we can start to use English to communicate serious issues, and this course provides the opportunity to do so. We will be using English to discuss issues in the global society so that we will become prepared to exchange ideas on serious topics with English speakers in the future. We will also have the opportunity to work with students from different countries. Let's have fun and learn at the same time :)

担当者の 研究室等	教員室１（２号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内でも行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	中国語を通して見る世界	科目名（英文）	Global Issues in Chinese
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2534e0		

授業概要・目的	世界の動きは地球規模の問題を中国語のメディアを通して読み取り、日本メディアの態度と対比することで多角的な視野を身につける。災害や貧困、戦争、エネルギー、スポーツ、芸術などさまざまなトピックについて日本と中国語圏の間で関心の対象が同じなのか違うなのか、どのような部分に着目し、何を発信しようとしているかについて議論する。また、メディアの政治的な立場によって取り上げる重点や評価が大きく異なることを知るとともに、その背景について考える。 本講義は中国の様々の視点を通して、現代中国社会を理解することを目的とする。
到達目標	現代中国の文化、社会的な背景知識が分かるようになる。 中国の社会現象、社会問題に対する理解が深められるようになる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期、及び2年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象する。 各テーマを中心に、理解度を把握するとともに、タイムリーな内容を加えて講義形式で授業を進める。授業内で課した課題に対して、口頭または文書でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の進め方､成績の評価など	オリエンテーション、自己紹介、講義の概要	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
2	中国の概況と方言	授業の内容を理解して､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
3	中国の祝祭日	授業の内容を理解して､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
4	中国の食文化	授業の内容を理解して､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
5	中国の茶文化	授業の内容を理解して､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
6	中国の都市	授業の内容を理解して､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
7	中国の映画	授業の内容を理解して､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
8	中国の都市武侠小説とドラマ	授業の内容を理解して､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
9	中国の流行音楽	授業の内容を理解して､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
10	PPT発表の説明と作成について	授業の内容を理解して、発表の準備	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
11	グループ発表１	発表､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
12	グループ発表２	発表､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
13	グループ発表３	発表､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
14	グループ発表４	発表､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
15	グループ発表５	発表､リフレクションペーパーを完成する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。

関連科目	「中国語で読み解くⅢ」「中国語で表現するⅢ」「中国語で会話するⅢ」「中国語圏の地域と共生」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表、課題、授業のに取り込む姿勢などを総合して評価する。 授業の発表：60％ 課題と参加度：40％
学生へのメッセージ	フレーズをたくさん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各60分の学習を要する。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の昼休み時間に非常勤講師室を訪ねること。

科目名	中国語圏の地域と共生	科目名（英文）	Regional Issues and Inclusive Societies in the Chinese-Speak
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2535e0		

授業概要・目的	「本講義では、中国と日本の共生といテーマを主眼に、両国の古代から現代に及ぶまでの共生の歴史と現在について考察していく。授業の主眼は日中関係論に置く。両国間における各種の「摩擦」は相互不理解によると思われる。よって、相互理解の一助になることを期待している。
到達目標	中国と日本の関わり合いの歴史を学び、今後の日中関係について冷静に分析できるようになる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期、及び2年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。 講義形式で授業を行う。資料を配布するが、講義を聞きながらメモをすること。授業で課した課題については必ず提出しましょう。
科目学習の効果（資格）	中国語圏への理解向上、就職試験などに役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日中関係史　はじめに	中国語圏の国家・地域について 日本と中国の関わり合いについて、古代から現代まで振り返る。	授業ノートをまとめ、各事項について覚えるようにする。(30分くらい)
2	日中関係史	古代における日本と中国　その一	授業ノートをまとめ、各事項について復習する。(30分くらい)
3	日中関係史	古代における日本と中国　その二	授業ノートをまとめ、各事項について復習する。(30分くらい)
4	日中関係史	遣唐使　その実態	授業ノートをまとめ、各事項について復習する。(30分)
5	日中関係史	遣唐使　日本にもたらした影響とその終焉	授業ノートについてまとめ、各事項について復習する。 チェックテストに備えて、これまでの対策問題を解いておく。(1時間)
6	第1回チェックテスト	1～5回　総復習とテスト	テストでできなかった問題等について、まとめておく。
7	日中関係史	遣唐使以降の日本と中国 寺社の中国貿易、倭寇など。	授業ノートをまとめ、各事項についてまとめておく。(30分)
8	日中関係史	日清戦争、日露戦争	授業ノートをまとめ、各事項についてまとめておく。(30分)
9	日中関係史	日中戦争	授業ノートをまとめ、各事項についてまとめておく。(30分) 次回のテストに備え、復習をしておく。(1時間)
10	第2回チェックテスト	7～8回　総復習とテスト	テストでできなかった問題等についてまとめておく。(30分)
11	渡来人	日本に多大な影響を与えた渡来人について学ぶ。	授業ノートをまとめ、各事項についてまとめておく。(30分)
12	渡来人・留学生・新華僑	歴史の中における日本への来訪者、現代社会において世界で活躍する新華僑について学ぶ。	授業ノートをまとめ、各事項についてまとめておく。(30分)
13	現代における日中関係	国交正常化以降の日本と中国の関わり合いについて学ぶ。	授業ノートをまとめ、各事項についてまとめておく。(30分) 次回のテストに備え復習をしておく。(30分)
14	第3回チェックテスト	11～13回　総復習とテスト	テストでできなかった問題等についてまとめておく。(30分) 次回、レポートを授業中にまとめるので、その下準備をしておく。(1時間)
15	総復習	これまで習得した事項の中からトピックを一つまとめレポートを書く。	一学期間学んだことを振り返る。(30分)

関連科目	現代中国論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	チェックテスト3回　60点　授業最後の小テスト　20点　　最終レポート20点
学生へのメッセージ	覚えなければいけない事項が多く、履修の際はその点に留意して履修していただきたい。中華圏に対する関心をより高め、中華圏に対する理解をより深めましょう。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	

科目名	スペインから世界を見る	科目名（英文）	Spain as a Microcosm of Europe
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2536e0		

授業概要・目的	スペイン語の基礎文法の学習を通して、スペインの諸地域の言語、文化、歴史について学ぶ。スペインの食、祭り、芸術、文学などのテーマを概観する。
到達目標	初級文法の基礎が分かるようになる。簡単な文章を正確に読み理解するとともに、スペインの文化を知ることができる。
授業方法と留意点	＊この科目は「地域言語科目」のうち、1 年後期、2 年前期、及び 2 年後期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級レベル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要説明、教科書前半の復習	教科書を購入しておくこと
2	第８課	点過去、副詞	予習復習
3	第９課	線過去、職業・施設に関する表現	予習復習
4	８，９課のまとめと応用	世界遺産の映像とそのテキストの読解：マドリッド、アルカラ・デ・エナレス	予習復習
5	第１０課	未来、過去未来	予習復習
6	第１１課	現在分詞、過去分詞、現在完了、不定語・否定語、不定詞	予習復習
7	１０，１１課のまとめと応用	世界遺産の映像とそのテキストの読解：トレド、グラナダ	予習復習
8	中間テスト	８～１１課の内容	予習復習
9	第１２課	能動文と受動文、２つの受動文、序数詞、疑問詞、宗教の表現	予習復習
10	第１３課	関係詞、情報機器の語彙、複文、縮小辞・増大辞	予習復習
11	１２，１３課のまとめと応用	世界遺産の映像とそのテキストの読解：コルドバ、セビリア	予習復習
12	第１４課	命令法、接続法現在	予習復習
13	１４課のまとめと応用	世界遺産の映像とそのテキストの読解：バレンシア	予習復習
14	期末テスト	１２～１４課の内容	予習復習
15	後期の学主内容のまとめ 期末テストのフィードバック	学習内容および方法についての質疑応答	予習復習

関連科目	スペイン語の科目、「スペインの言語と文化」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶌教隆ほか	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	臨時試験および中間テスト 70%、受講態度・授業中の受け答え　30%
学生へのメッセージ	予習復習自習を必ず行うこと。特に辞書を用いてテキストの文の意味を調べて授業に臨むこと。
担当者の研究室等	7 号館２階　非常勤講師室
備考	前期開講の接続科目「スペインの言語と文化」と併せて受講すると効果的である。 事前・事後学習の総時間数として 60 時間以上を要す。

科目名	ラテンアメリカから世界を見る	科目名（英文）	Contemporary Global Issues from Latin American Perspectives
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2537e0		

授業概要・目的	現代世界の地球規模課題をめぐるラテンアメリカの先駆的な取り組みについて、日本語文献とスペイン語の平易な文献を読み解きながら学ぶ。 テーマの理解を深めるために視聴覚教材を用いる。
到達目標	グローバルサウスから眺めた世界の見え方が日本や欧米先進諸国とは異なることを知る。 スペイン語で比較的平易な論説文の内容を理解できるようになる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期、及び2年後期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。 事前に配布される資料を読んだうえで授業に臨むこと。 いずれのテーマについても、「日本ではどうか」という省察を加えてほしい。
科目学習の効果（資格）	スペイン語技能検定５級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要説明、ラテンアメリカとは？（地域の概念とさまざまな呼称）	1年後期、2年前期に学習したスペイン語の文法を見直しておく
2	現代ラテンアメリカの政治・経済・社会状況：民主化とその後の課題、経済の市場化と貧困、国際社会のなかのラテンアメリカ	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
3	地球規模課題とは：人間の安全保障、MDGs と SDGs	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
4	非核兵器地帯の創設と世界の軍縮への貢献	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
5	地球環境政治におけるラテンアメリカの役割	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
6	草の根から世界を変える：世界社会フォーラムにみる国際的連帯	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
7	セクシュアリティの多様性をめぐるラテンアメリカ社会の変容	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
8	中間レポート提出	前半のまとめ	ここまでで取り組んだテーマのなかからひとつを選び、さらに調べ、考察を深める。
9	グローバル世界を生きる先住民：権利回復から自己表象へ	レポートに対するコメント 日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
10	多民族・複文化国家における教育の平等化	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
11	貧困問題への取組み：ラテンアメリカの社会保障制度	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
12	メキシコの「麻薬戦争」と国際社会	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
13	国際人権レジームとラテンアメリカの人権保護	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
14	期末レポート提出	後半のまとめ	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
15	学習内容の振り返り	レポートに対するコメントと参考文献案内	総復習

関連科目	すべてのスペイン語関連の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資料を配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度・予習・復習 50%、中間・期末レポート 50%

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	講師控室（７号館２階）
備考	事前・事後学習の総時間数は 60 時間以上を要する。 クラスの規模や習熟度に応じて授業計画を適宜修正しうる。 提出を求めた課題やレポートは、コメントを書き入れ、Teams で個別に返却する。

科目名	インドネシア語で世界を知る	科目名（英文）	Understanding the World in Indonesian
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金子　正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2538e0		

授業概要・目的	本講義は、特に、宗教・政治・経済・社会問題を取り上げ、インドネシアの人々がどのように世界を捉えているかをインドネシア語の多様な資料に基づきながら理解することを学修の到達目標とする。本講義では、各回それぞれのトピックスを設定し、日本・インドネシア・その他の国／地域（さらには個々の国・地域の中で、個々の国・地域を横断して）存在する多様な立場や関係性を認識することで、グローバリゼーションの中での世界をより深く理解し、多様性の中で生きるための思考力を養成する。
到達目標	インドネシアの人々が捉えている世界のさまざまな事象について、インドネシア語で理解できる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1 年後期、2 年前期、及び 2 年後期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。 内容に関する平易なフィールドワークを課すことがあります。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定 C 級に向けた、社会や文化の基礎知識

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	本講義の目的・概要・進め方、など	事前学習：インドネシアと日本の関係について調べる。 事後学習：講義の内容に関連するインドネシア語の言葉を調べる。
2	インドネシア人の日本イメージ	インドネシアで発売されている観光ガイドブックや、訪日観光の動向などを用いながら、インドネシア人の日本イメージについて考える。	事前学習：「訪日観光」について調べる。 事後学習：講義の内容に関連するインドネシア語の言葉を調べる。
3	「資源」を巡る問題	インドネシアはいま、資源国として国際的な影響力を増している。インドネシアの戦略から現代世界を見なおしてみる。	事前学習：「資源問題」について調べる。 事後学習：講義の内容に関連するインドネシア語の言葉を調べる。
4	グループワーク１－①	事前課題の内容から学生の関心ごとにグループ分けを行い、各グループのテーマによるオンラインでのデータ収集・グループワーク・ディスカッションを行う。	事前学習：事前課題に取り組む。 事後学習：グループのテーマについて調べ、発表準備をする。
5	グループワーク１－②	第 4 回のテーマに基づくグループごとの発表	事前学習：グループのテーマについて調べ、発表準備をする。 事後学習：講義の内容に関連するインドネシア語の言葉を調べる。
6	「スポーツ」をめぐる問題	サッカー世界大会やオリンピックなどで、インドネシアはどのような競技に力を入れているのか、あるいは日本との選手交流はどうなっているのか、など、オリンピック、サッカー、バドミントンなどから、インドネシアにおけるスポーツを通じて、現代世界を見なおしてみる。	事前学習：スポーツについて調べる。 事後学習：講義の内容に関連するインドネシア語の言葉を調べる。
7	グループワーク 2－①	対象社会に暮らす多様なひとのライフヒストリを知ることは、対象社会をよりよく理解するための重要な手段のひとつである。学生の関心ごとにグループ分けを行い、各グループのテーマによるオンラインでのデータ収集・グループワーク・ディスカッションを行う。	事前学習：対象となる人物を探す。 事後学習：グループのテーマについて調べ、発表準備をする。
8	グループワーク 2－②	グループごとの検討・準備。	事前学習：グループのテーマについて調べ、発表準備をする。 事後学習：グループのテーマについて調べ、発表準備をする。
9	グループワーク 2－③	グループごとの検討・準備。	事前学習：グループのテーマについて調べ、発表準備をする。 事後学習：グループのテーマについて調べ、発表準備をする。
10	グループワーク 2－④	第 4 回のテーマに基づくグループごとの発表	事前学習：グループのテーマについて調べ、発表準備をする 事後学習：発表内容に関するフィードバックに基づき、事後学習を行う。
11	インドネシアの宗教	インドネシアにおける宗教多様性から、宗教とともに生きることについて考える。	事前学習：「宗教」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について自分でも調べる。
12	イスラームの一夫多妻制	インドネシアにおいて最大の信徒を抱えるイスラームについて、一夫多妻制をめぐる法令の紹介や動画により、世俗国家と、宗教との関係性を理解する。	事前学習：イスラームについて調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について自分でも調べる。
13	災害	多様な災害が国際的な関係の中で、インドネシアがどのような課題を抱えているのかを考える。	事前学習：近年インドネシアを襲った自然災害について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
14	全体の振り返り	これまでの学習内容を振り返る。最終課題を示す。	事前学習：これまでの資料を確認する。 事後学習：最終課題に関して情報収集とレポート発表の準備をする。
15	まとめ	最終課題に関して簡単な口頭発表をする。	事後学習：最終課題に関して発表の準備をする。 事後学習：フィードバックに基づき、レポートを仕

				上げ、提出する。

関連科目	１年次・２年次の各インドネシア語科目、２年次・3 年次の各接続科目（インドネシア・マレーシア関連）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（30%）課題（30%）最終課題のレポート（40%）で評価する。
学生へのメッセージ	2 年生前期の「インドネシア語と生活文化」では人々の生活の視線からインドネシアを捉え直しましたが、この講義では、まさに今私たちが日本で見ている世界の動きが、インドネシアの人々の立場からはどう見えるのか、あるいはそれに対してどのようなアクションを起こしているのかを学ぶことを目的としています。教員にとってもかなりチャレンジングな授業ですから、一緒にこの時代を多角的に読み解いていきましょう。
担当者の研究室等	金子研究室（7 号館 5 階）
備考	

科目名	マレー語圏の地域を知る	科目名（英文）	Understanding the Malay World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2539e0		

授業概要・目的	マレー語は、古くから東南アジア海域社会での共通語として広く使用されてきた。現在、マレー語を国語と定めている国はマレーシア、ブルネイ、シンガポールの三国だが、インドネシアやフィリピン南部、タイ南部、東ティモールなどは、広くマレー語圏として捉えることが可能である。本授業では、マレー語がどのような広がりを見せてきたのかを、まず歴史的に捉えることから始める。その上で、現代においてマレー語がそれぞれの国でどのような使われ方をしているのかを見ていく。
到達目標	さまざまな国におけるマレー語の役割について、より深い知識が得られることができる。
授業方法と留意点	この科目は 「地域言語科目」のうち、 1 年後期 、 2 年前期のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マレー語の歴史①	マレー語の広がり	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
2	マレー語の歴史②	マレー語の文字	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
3	マレー語の歴史③	マレー語の辞書	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
4	マレー語とマレーシア①	マレーシアにおけるマレー語と教育	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
5	マレー語とマレーシア②	マレーシアにおけるマレー語と多言語状況	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
6	マレー語とマレーシア③	マレーシアにおけるマレー語の地域的多様性	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
7	マレー語とマレーシア④	マレーシアにおけるポピュラーカルチャーとマレー語	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
8	復習①	前半部の授業に関する到達度の確認課題を行う。	授業内容について復習しておくこと。
9	マレー語とシンガポール	シンガポールにおけるマレー語の使用状況	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
10	マレー語とブルネイ	ブルネイにおけるマレー語の使用状況	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
11	マレー語とインドネシア①	マレー語とインドネシア語の関係	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
12	マレー語とインドネシア②	インドネシアにおけるインドネシア語の展開および使用状況	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
13	マレー語とインドネシア③	インドネシアにおけるインドネシア語とマレーシアのマレー語との異同	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
14	マレー語の広がり	東ティモール、タイ、フィリピンといった隣接諸地域のマレー語をめぐる社会状況	授業時に配布する資料や、指示した動画資料を見て、授業内容の振り返りを行う。
15	復習②	後半部の授業内容に関する到達度の確認課題	授業内容について復習しておくこと。

関連科目	インドネシア語やマレー語関係の講義や授業

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出物や小レポート：40% 到達度の確認課題：60% 詳細は初回授業時に指示する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階　上田研究室
備考	

科目名	国際社会と経済	科目名（英文）	International Community and Economy
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2580a0		

授業概要・目的	経済のグローバル化が進み、国境を越えた企業活動が活発になっている。この授業では、海外直接投資と企業の立地戦略の視点に立って、国境を越えて活動する企業（多国籍企業、グローバル企業）と地域の関係を、①国や地域の投資環境の分析、②企業の立地戦略、③途上国における貧困問題解決志向ビジネス（BOP ビジネス）の 3 つの側面から学ぶことを目的とする。この 3 点についてグループワークとプレゼンテーションを行う。
到達目標	・投資環境、企業の立地戦略、BOP ビジネスに関して理論と事例を説明できる。 ・投資環境や企業の立地選択の指標を用いて分析できる。 ・グループワークに意欲的に参加し、グループとしての結論を導くことができる。 ・グループ討論の成果を明快に発表できる。
授業方法と留意点	・理論と事例の解説はレジュメを配布して講義形式で行う。またテーマに沿ってグループワークとプレゼンテーションを行う。 ・講義の回には内容に関して考えたことをリアクションペーパーとして提出する。 ・学期末には、投資環境、企業の立地戦略、BOP ビジネスのいずれかを選んで、学期末レポートを作成・提出する。
科目学習の効果（資格）	・企業のグローバル戦略の着眼点を知ることができる。 ・経済やビジネスに関心のある履修者にとっては文化演習や卒業研究の手がかりとなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	企業活動の世界への広がり	授業の概要説明および国際ビジネスの視座の解説	レジュメを読み直して、授業の目的と方法および国際ビジネスの視座をよく確認する。
2	海外直接投資	国境を越えた企業活動を量的に把握するための海外直接投資を知る。	紹介する資料を読んで海外直接投資の役割の理解を深める。
3	海外直接投資データベースの使い方	海外直接投資の統計データを用いて国の国際投資状況を調べる。	UNCTAD Stat の使い方を覚え、いくつかの国について調べて図表化する。
4	Doing Business 指標による投資環境の分析	Doing Business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察する。	Doing Business の各指標の意味を調べ、グループワークのための下調べをしておく。
5	グループワーク(1)：投資環境分析	海外直接投資と Doing Business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察し、発表する。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
6	プレゼンテーション(1)	前週の討論内容の発表と講評	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。
7	国際分業、バリューチェーン、立地優位性	国際分業とバリューチェーンの概念を踏まえて、国の立地優位性と企業の立地戦略を学ぶ。	紹介する資料を読んで立地優位性の理解を深めておく。
8	企業の立地選択の事例	インドの IT 産業から企業の立地戦略を考察する。	紹介する資料を読んで企業の立地戦略の理解を深めておく。
9	グループワーク(2)：海外進出の際の立地戦略	仮想の日本企業を考案し、国の立地優位性と国際分業を踏まえて、海外進出の計画を考える。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
10	プレゼンテーション(2)	前週の討論内容の発表と講評	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。
11	途上国における BOP ビジネス	貧困層を対象とする BOP ビジネスとは何かを学ぶ。	紹介する資料を読んでBOPビジネスの概要について理解を深めておく。
12	BOP ビジネスの事例	日系企業を中心とした BOP ビジネスの事例を紹介する。	グループワークに備えて情報収集をしておく。また期末レポートの作成に着手する。
13	グループワーク(3)：BOP ビジネス	困りごとを解決するビジネスを立案する。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
14	プレゼンテーション(3)	前週の討論内容の発表と講評（期末レポートの提出）	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。また、期末レポートを完成させる。
15	まとめと期末レポートの講評	講義の要点の整理と期末レポートへのフィードバックを行う。	期末レポートを提出し、フィードバックを確認する。

関連科目：経済学入門　経営学入門　国際ビジネス論　地域とビジネスプロジェクト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての国際経営	中川功一ほか	有斐閣
2	新興市場ビジネス入門	今井雅和	中央経済社
3	BOP ビジネス入門	菅原秀幸ほか	中央経済社

評価方法（基準）	期末レポート（40%）、グループワークへの取り組みとプレゼンテーションの内容（40%）、リアクションペーパー（20%）で評価する。
学生へのメッセージ	普段の生活では世界の動きに注目することは少ないかもしれませんが、グローバル化の時代を生きる私たちの生活は世界の変動の影響を強く受けています。履修者のみなさんが世界に目を向け、その変化に関心を持ち、自分たちの生活とのかかわりのなかで世界における企業の活動を考えられるようになることを願っています。
担当者の研究室等	７号館５階　藤井研究室
備考	参考書の読み込み、プレゼンテーションの準備、レポート作成などにかかる事前・事後学習の総時間数は約６０時間を目安とする。

科目名	メディアリテラシー論	科目名（英文）	Media Literacy
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2581a0		

授業概要・目的	この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目（外国語学部の場合）である。 現代社会においては、インターネットの発達に伴い、メディアからの情報の量も質も大きく様変わりしている。文字通り、情報の洪水の奔流の中で、嘘と真実を見分ける能力が必要とされている。また、ソーシャルメディアを通じて、自ら情報発信をする機会も格段に増えており、情報を読みとる力と発信する力の両方が必要とされているのである。 この講義では、メディアの社会的特性を理解し、適切な情報読解と発信をするために必要な知識とスキルを修得することを目標とする。
到達目標	新聞・テレビの情報が歪んでしまうメカニズムを理解する。 インターネットの情報の真偽を見抜くためのスキルを修得する。 インターネットでの発信を正しく行うための倫理とスキルを身につける。
授業方法と留意点	講義方式で行う。適宜、資料を配布・紹介する。 レポートは Moodle を通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	メディアとメディアリテラシー	メディアとは何か メディアリテラシーとは何か メディアリテラシーのレベル	メディアリテラシーという言葉の意味についてまとめる。
2	新聞とニュースについて（1）	新聞と世論形成 新聞の中立性と「偏向」	新聞各紙のニュースの取り上げ方の違いについて調べる。
3	新聞とニュースについて（2）	日本の新聞の経営面における問題 新聞とインターネット 新聞のデジタル化とニュースサイト	ニュースサイトのまとめと新聞記事の違いについて調べる。
4	新聞とニュースについて(3)	事例研究。朝日新聞における「慰安婦報道」について	朝日新聞と読売・産経新聞の対立の本当の理由は何かを考える。
5	テレビについて（1）	テレビの映像の特性 番組編集 「やらせ」の問題 「ムスタン王国」について	テレビの「やらせ」の事例について、さらに各自で調べてみる。
6	テレビについて（2）	NHK と民放 NHK の受信料問題 テレビの番組編成・広告における問題 ニュース番組における報道の問題	NHK と民放の違いについて考えてみる。 NHK の受信料問題についての各自の考えをまとめる。
7	テレビについて（3）	事例研究。「発掘!あるある大事典」捏造事件	テレビの捏造事件が起きる背景についてまとめる。
8	メディアと広告	広告・CM の影響力と価値 産業としてのメディアと広告	テレビ CM が喚起するイメージについて、各自で調べてみる。
9	メディアと〈権力〉	新聞・テレビの権力との関わり メディアの支配者としての〈資本〉	授業内容をまとめる。 権力によるメディアへの介入について他の事例を調べる。
10	インターネット社会について	インターネット社会の過去 インターネット社会の現在 インターネット社会の今後のあり方	授業内容をまとめる。 インターネットの将来について議論する。
11	インターネットと倫理	ネット社会とリアル社会の倫理のズレ インターネットとプライバシー 著作権の問題 匿名性の問題	ネット社会での倫理的逸脱について各自で調べる。
12	ソーシャルメディアについて（1）	コミュニケーション空間としての SNS 電子掲示板の問題 ブログ、ホームページ ネット炎上の問題	電子掲示板やブログでの炎上の事例を調べる。
13	ソーシャルメディアについて（2）	まとめサイト フェイスブック ツイッター ソーシャルメディアと情報の商業的利用	フェイスブック、ツイッターについて、各自の利用法について報告する。
14	ソーシャルメディアについて（3）	まとめサイト閉鎖の問題 アメリカ大統領選挙におけるフェイク・ニュース問題	インターネットにおける嘘と本当を見抜くために何が必要かについて各自の考えをまとめる。
15	まとめ	メディアリテラシーについてのまとめ	

関連科目	メディアビジネスプログラム科目（外国語学部）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネット炎上の研究	田中辰雄・山口真一	勁草書房
2	Ｑアノンを追う	藤原学思	朝日新聞出版
3	信じてはいけない ： 民主主義を壊すフェイクニュ	平和博	朝日新聞出版

	ースの正体
評価方法 （基準）	授業内のレポート・平常点（40%）と授業後のレポート課題（60%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（有馬研究室）
備考	事前事後学習　計 60 時間

科目名	現代社会論	科目名（英文）	Modern Society
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2582a0		

授業概要・目的	昨今、わたしたちの日常において、「ブラック企業」「婚活」「インスタ映え」「イクメン」「パワハラ」といった新しい概念をもった言葉が頻繁に使われ、それをめぐる言説が展開されている。これらの言葉や言説はまさに、現代社会を象徴しているものであるといえよう。本授業では、こういった言葉や言説をめぐる現象について、さまざまな観点から再確認することを通じて、私たちの社会の構造がいかなるものであるのかを明らかにする。なお、本講義ではとりわけ社会と人との関わり合いに焦点を当てることとしたい。
到達目標	本講義を通じて、現代社会の姿を明らかとできると同時に、自身のふるまい方あるいは立ち位置を再確認することが可能となる。そして、報道されるニュースの奥深い考察をすることができる。
授業方法と留意点	本授業は、一方的な講義形式に終わらせること無く、出来るかぎり、学生諸君の生の声を取り入れていきたい。 なお、本授業においては、遅刻は厳禁であるので、その点を留意されたい。
科目学習の効果（資格）	現代の社会現象を改めて見直すことを通じて、社会人としての基礎教養の獲得につながるであろう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	プロローグ 「現代社会論」の目指すこと①	授業内容や授業の進め方、評価基準等について説明する。また、現代社会を捉える意味を考える。	新聞から「現代社会」を象徴していると思われる事柄を抜き出してみましょう。
2	「現代社会論」の目指すこと②	「現代社会」の概念を把握し、今後へのステップとする。	現代社会のキーワードを考えてみましょう。
3	ことばについて考える	社会において重要な要素である「ことば」について考察する。	今の流行り言葉を挙げてみましょう。
4	社会のなかの「人」	「人」をテーマに、現代社会を捉えることの意義を考える。そして、現代社会における人間関係を客観的なまなざしをもって捉えなおす。	自身のアイデンティティは何なのかを考えてみましょう。
5	血液型性格判断からみえるもの①	現代社会における血液型性格判断の現実を把握する。	人の性格の作られ方を考えてみましょう。
6	血液型性格判断からみえるもの②	血液型性格判断の誕生から浸透までを把握し、先入観の作られ方を探る。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
7	占いからみえるもの	現代社会における各種占いの存在意義を探る。	いろいろな「占い」の結果で使われている表現を抜き出してみましょう。
8	「ジェンダー」の現実	現代社会における「ジェンダー」の現実を把握し、「ジェンダー」概念の作られ方の背景を探る。	「ジェンダー」という用語を説明できるようにしておきましょう。
9	男と女の関係性	男・女といった「性」に対する認識を再確認し、男と女をめぐる固定観念について考察する。	男の立場および女の立場でメリット・デメリットを考えてみましょう。
10	性の多様化	「男・女」という区別を超えた性の多様化を考える。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
11	差別をめぐる問題の構造	社会における「差別」の構造を探る。特に、人が人を区別し、ひいてはそれが差別にいたることについての意味と構造を考える。	回りで起こっている「差別」を挙げてみましょう。
12	ハラスメントの構造	男と女、男と男、女と女の場面をめぐるセクシュアル/アカデミック/アルコール・ハラスメントにみられる権力構造についての考察を行なう。	世の中に出回っている「○○ハラスメント」を探してみましょう。
13	人口減少社会の構造と問題点	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の問題点について考察する。	「少子化」を説明できるようにしましょう。また、日本以外の国の人口構造を把握しましょう。
14	「モノ」に翻弄される人びと	現代におけるコミュニケーション・ツール（たとえば、電話、携帯メール、インターネット、Facebook、LINE 等）の意味と役割を考える。	自身のコミュニケーション・ツールの使い方を見つめ直してみましょう。
15	まとめ	「人」・「モノ」・「コト」のかかわり合いの意味について考え、「現代社会」の意味づけおよびそれにあたって必要とされる眼差しについて総括する。 （最終試験）	これまでに何を学んだのかをまとめてみましょう。

関連科目	時事問題Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の課題（15%）および最終試験（85%）により評価する。 詳細は、第１回目の授業で伝える。

学生への メッセージ	本講義を通じて、わたしが期待することは、受講生諸君に先入観や固定観念といったものを打ち崩してもらうことです。そのためには、積極的に発言をし、議論を交わしていく必要があります。ともに切磋琢磨していきましょう。
担当者の 研究室等	７号館４階　浦野研究室
備考	本授業は、現代社会の事象を題材に進めていく。よって、突発的な事件や事故が発生した際は、シラバスの授業計画に伴わず、題材として取り上げることがあることを留意されたい。 また、受講者数（50 名以下の場合）によっては学生諸君にプレゼンテーションをしてもらいながら授業を進めることとしたい。 なお、授業の方法等の詳細は第１回目の授業で伝える。 本授業における事前・事後学習は、総時間６０時間を目安とする。

科目名	地域と観光	科目名（英文）	Regional Tourism
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大谷　侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2583a0		

授業概要・目的	エコツーリズムとは、地域の自然や文化、歴史などの魅力を活かしながら、それらの資源の持続的な利用を前提とする観光の形であり、今後の観光を考えていく上で重要な概念です。本講義では、エコツーリズムの背景や理念を学ぶとともに、国内外の様々な事例を通じて、エコツーリズムの現状と課題、今後の展望について考えます。 本授業では、自らエコツーリズムを企画するなど、能動的に授業に取り組むことを求めます。そして、受講者が持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来るようになることを期待します。 なお、この科目は外国語学部では「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目です。
到達目標	1. エコツーリズムについて理解し、説明できる 2. 持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来る
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題に対しては解説を行う。また、Teams 等のオンラインツールを授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。
科目学習の効果（資格）	旅行業務取扱管理者等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（１時間以上）
2	マスツーリズムとエコツーリズム１	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（１時間以上）
3	マスツーリズムとエコツーリズム２	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（１時間以上）
4	地域の自然とエコツーリズム１	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（１時間以上）
5	地域の自然とエコツーリズム２	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（１時間以上）
6	エコツーリズムのさまざまな展開１	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（１時間以上）
7	エコツーリズムのさまざまな展開２	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（１時間以上）
8	エコツーリズムのさまざまな展開３	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（１時間以上）
9	エコツーリズムを体験する１	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（１時間以上）
10	エコツーリズムを体験する２	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（１時間以上）
11	エコツーリズムを体験する３	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（１時間以上）
12	エコツーリズムを企画する１	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う（１時間以上）
13	エコツーリズムを企画する２	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う（１時間以上）
14	エコツーリズムを企画する３	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う（１時間以上）
15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する（１時間以上）

関連科目	観光ホスピタリティプログラム関連科目（ホスピタリティ論、アーバンツーリズム論等）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、プレゼンテーションの内容、議論やグループワークへの参加状況等）（60%）とレポート（40%）で評価します。
学生へのメッセージ	

担当者の 研究室等	7号館5階（大谷研究室）
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。

科目名	英語意味論・語用論	科目名（英文）	English Semantics and Pragmatics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	船本　弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2593a0		

授業概要・目的	「文法構造」「形式（音声・文字）」「意味」という言語がもつ３つの側面のうち、「意味」は分かったように思えてもそれを記述するとなるとなかなか難しい領域である。しかし、意味が変化したり他の言語表現と関連しあったりする現象には一定の規則性がある。また、辞書に定義される意味というレベルを超えて具体的な場面でなされる個々の発話を観察してみると、「意味」に関する理解を深めるためのアプローチはさらにいくつかあることがわかる。言語使用によるコミュニケーションが成立するためには、その基礎となっている語彙や表現がどのような意味を持ち、それが実際の場面でどのように使われ、どのような意図を伝えているかということを理解することが重要になる。さらに、学期の終盤には意味論・語用論に関する最新の研究動向も紹介する。この講義では、英語の意味・用方を様々な角度から見わたすことで、「ことばの不思議」に興味を持ち、その疑問に対して「なぜか」という問いを深める姿勢を涵養する。
到達目標	１．同意語、上位語・下位語といった語彙どうしの意味的関係を理解できるようになる。 ２．意味とコンテクストの関係を理解できるようになる。 ３．意味変化のメカニズムを理解できるようになる。 ４．場面に応じた言葉の使われ方や会話の成立について理解できるようになる。
授業方法と留意点	この講義では、英語に焦点を当てながら、ことばの意味、場面との関係、意味の変化などについて学ぶ（日本語をはじめとするいくつかの言語にも触れる）。英語が表す「意味」の側面を扱う意味論と、言語が実際の場面でどのように使われ、どのような意味を伝えるのかといった「言語使用」を扱う語用論について見ていく。主に講義形式となるが、授業時に課題やアンケート等により理解度を測ったり、興味のある点について簡単な論述を課すこともある。 授業時に行う課題等に関するフィードバックは，次回以降の授業内で行う。
科目学習の効果（資格）	教員の免許状取得のための選択科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方に関する説明。英語学のいくつかの分野を振り返りながら、日常に見られるさまざまな意味にかかわる現象を紹介し、意味への興味を喚起する。	英語学の諸分野について復習をしておく。（２時間）
2	英語の意味論と語用論	英語学における意味の扱いと位置づけを明らかにする。意味論と語用論がそれぞれ何を問題としているか，さらに両者が互いにどう関連しあうかを考え，本科目で扱う内容の全体像をつかむ。	「意味」の意味について調べておく。（２時間）
3	意味と指示物	意味と指示物の関係を考えながら、誤用、比喩、うそ、皮肉といった言葉遣いにかかわるメカニズムを考える。	うそと誤用はどのように違うのか、考えておく。（２時間）
4	意味と辞書	辞書に意味がどのように掲載されるかを考えながら、意味記述の難しさを考えていく。	多義語の get の意味分類がどのようになっているのか、辞書で調べておく。（２時間）
5	語の意味的関係①	多義性，類犠性，同音性，反義性などの意味に関わる性質について学ぶ。	英語の多義語，反意語の例を調べておく。（２時間）
6	語の意味的関係②	語彙の持つ関係性を考察しながら、意味の構成性や語彙の意味関係の多様性を考えていく。その過程で、意味をどのように形式化できるのか、またはできないのかについても考える。	「ゲシュタルト理論」について調べておく。（２時間）
7	文法と意味	文法は意味と構造を結びつける記号体系の根幹をなす領域であるが、なかでも「構文」と呼ばれる現象から文法と意味の関係を具体的事例をもとに考える	文法と意味の「レベル」とはどういう概念であるか調べておく。（２時間）
8	意味の変化	意味の向上、意味の下落といった意味変化の規則性を考え、その要因を社会的、言語的に探っていく。	意味の向上の例が日本語にないか調査しておく。（２時間）
9	意味の習得	ことばの習得、主に意味にかかわる習得について考え、カテゴリー化、プロトタイプについて学ぶ。	幼児の言語習得がどのように進んでいくのかを調べておく。（２時間）
10	意味の普遍性と相対性	色名や親族関係の用語などの例を見ながら、多言語間の単語の指示物の相違を考えて、意味が相対的であることを考える。	色名が他言語ではどのようにあらわされるのかを調べておく。（２時間）
11	意味とコンテクスト	意味の成立が文脈や使用場面に依存していることを考える。また話の情報構造について考察し、旧情報、新情報といった談話を成立させる情報の価値について考察する。	話といった具体的なテキストを使って、新情報、旧情報がどのようにあらわされているのか、考えてみる。（２時間）
12	会話の成立	P.H.グライスの「強調の原理」という考え方を学び，「会話の格率」（量（Quantity）、質（Quality）、関係（Relation)、様態（Manner)）という点から会話の成立要件となる理論を学ぶ。	意味のある会話を成り立たせるにはどのようなことが必要かを考える。（２時間）
13	発話行為	具体的な事例を使用して、発話が状況や対人関係に及ぼす影響を語用論的に分析していく。	語や表現がコンテクストの中で具体的に使用されるとまったく別の意味を表す事例を考えておく。（２時間）
14	意味論・語用論の新しいアプローチ	機能主義言語学における意味と言語使用に関する考え方を紹介する。	日常的に使用する言語表現をいくつか取り上げ、それらが具現する機能を説明できるようにする。（２時間）

	15	まとめテスト	授業時間内に実施する。	この授業をとおして学んだ内容に関するテスト。
関連科目	スピーキング・リスニング・オーラルコミュニケーション・イングリッシュ・プレゼンテーション			

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語の意味	池上嘉彦(編)	大修館書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	各回の課題等への取り組み　(40%) まとめテスト　(60%)
学生への メッセージ	普段から使っている言葉の意味がどうやって生まれてくるのかを考えてみよう。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　船本研究室
備考	配布資料の読み込みなど、事前・事後学習にかける総時間数を 60 時間程度とする。

科目名	日本語音韻論	科目名（英文）	Japanese Phonology
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2594a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語音韻論」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。
到達目標	日本語の発音やアクセントの特徴について、正確な知識をもとに説明することができる。
授業方法と留意点	スライドおよび配布するプリントに基づいて講義する。講義後、ペーパー（コメントや課題）を提出する。 授業中には、はっきりと声に出して発音をすること。
科目学習の効果（資格）	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	外国語の音と日本語の音の違いを考える
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	調音器官について調べる
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語、外国語の母音について調べる
4	子音１	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する
5	子音２	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	濁音の調音について、徹底的に復習する
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	ここまでの学習を振り返る
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	撥音・促音・調音について調べる
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	拍の一覧表をまとめる
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	日本語と外国語のリズムの違いを考える
11	アクセント１	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	アクセントの東西の違いをまとめる
12	アクセント２	アクセントの高低配分	アクセントの法則を整理し、調べる
13	アクセント３	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセント以外の発音方法について調べる
14	音の交替	母音交替・連濁	母音交替、連濁の例を調べる
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの総括をし、復習テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	音声学 日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	最終確認テスト（６０％）、確認小テスト（１０％）、講義時のペーパー（３０％）。 単位認定には最終確認テストの受験を必須とする。
学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。 実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。
担当者の研究室等	７号館４階（橋本研究室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は、約 60 時間。

科目名	英語構造論	科目名（英文）	English Syntax
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2595a0		

授業概要・目的	英語の構造について概観し、英語がほかの言語とどのように異なっているのかを理解し説明できるようになることを目的とする。特に、文法用語として頻繁に使われるものがどういった概念であるのかを把握し、そうした用語がなぜ必要なのかまでを理解することを目指す。
到達目標	英語の基礎知識や教養に加え、英語（構造）に関わる諸問題について理解を深めたい。特に、コミュニケーションとの関わりの中で英語の構造を理解できるようになる。同時に日本語との比較を行うことで、英語の構造について深い考察ができるようになる。
授業方法と留意点	・基本的には講義形式で進めるが、ペアワークやグループでの討議の時間も設ける。 ・本講義は受講生として言語（とりわけ構造や意味）に興味がある学生を想定している。「英語学概論（英語学Ⅰ）」や「英語意味論・語用論（英語学Ⅱ）」を履修済みであることが望ましい。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。 毎週小テストを行い、また単元ごとにもテストを実施する。原則として出席点なるものは存在しないので、出席していたからといって合格できるわけではない。 授業中に訳読は行わないので、履修生は必ず事前に指定範囲を熟読の上、内容を理解した上で受講すること
科目学習の効果（資格）	・言語の構造・意味の理解 ・大学院進学 ・教員の免許状取得のための選択科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明	授業の計画・内容の確認と、機能（言語学）的アプローチの予習（２時間）
2	機能（言語学）的アプローチ	機能（言語学）的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	機能（言語学）的アプローチの復習と、言い換え表現の予習（２時間）
3	言い換え表現(本当に言い換え可能か？)	言い換え表現について理解を深め、グループで議論を行う。	言い換え表現の復習と、トピック（とコメント）・主題（と題述）の予習（２時間）
4	トピック（とコメント）・主題（と題述）	トピック（とコメント）・主題（と題述）について理解を深め、グループで議論を行う。	トピック（とコメント）・主題（と題述）の復習と、旧情報と新情報（there 構文など）の予習（２時間）
5	旧情報と新情報（there 構文など）	旧情報と新情報（there 構文など）について理解を深め、グループで議論を行う。	旧情報と新情報（there 構文など）の復習と、焦点と強調（倒置表現など）の予習（２時間）
6	焦点と強調（倒置表現など）	焦点と強調（倒置表現など）について理解を深め、グループで議論を行う。	焦点と強調（倒置表現など）の復習と、照応と代用（代名詞など）の予習（２時間）
7	照応と代用（代名詞など）	照応と代用（代名詞など）について理解を深め、グループで議論を行う。	照応と代用（代名詞など）の復習と、中間のまとめ（テスト）の準備（２時間）
8	中間のまとめ（テストなど）	これまでの授業内容の総括を行い、理解をより一層深める。	これまでの授業内容の復習と、認知（言語学）的アプローチの予習（２時間）
9	認知（言語学）的アプローチ	認知（言語学）的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	認知（言語学）的アプローチの復習と、類像性（恣意性の有無）の予習（２時間）
10	類像性（恣意性の有無）	類像性（恣意性の有無）について理解を深め、グループで議論を行う。	類像性（恣意性の有無）の復習と、類義語（英語）の予習（２時間）
11	類義語①（英語）	類義語（英語）について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語（英語）の復習と、類義語（日本語との比較）の予習（２時間）
12	類義語②（日本語との比較）	類義語（日本語との比較）について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語（日本語との比較）の復習と、文法化と意味変化（英語）の予習（２時間）
13	文法化と意味変化①（英語）	文法化と意味変化（英語）について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化（英語）の復習と、文法化と意味変化（日本語との比較）の予習（２時間）
14	文法化と意味変化②(日本語との比較)	文法化と意味変化（日本語との比較）について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化（日本語との比較）の復習と、総まとめ（確認テスト）の準備（２時間）
15	まとめ（確認テスト）	これまでの授業で扱ったトピックについて総括し、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総まとめ（確認テスト）の準備と、授業後の振り返り（２時間）

関連科目	英語学概論（英語学Ⅰ）、英語意味論・語用論（英語学Ⅱ）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Oxford Modern English Grammar	Bas Aarts	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The Cambridge Grammar of the English Language	Rodney Huddleston、Geoffrey K. Pullum	Cambridge University Press
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（50%） 確認試験（50%）
学生へのメッセージ	ただ単に単位が欲しい学生は履修しないように。いわゆるコスパからすると良くない授業だと思います。
担当者の研究室等	７号館４階　藤原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、議論や小テストの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ

	60 時間程度とする。

科目名	日本の文学	科目名（英文）	Japanese Literature
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2598a0		

授業概要・目的	【日本近代文学とマスメディア】 本講義では、文学作品をただ読むのではなく、その作品が掲載された雑誌や新聞などといった媒体（メディア）を通じて読者へと至るプロセスを検証する。近代日本のメディアのなかでも特に文学との関係が深い「新聞」「雑誌」「映画」を取り上げ、これらを時系列的にではなく各メディアごとに確認していく。 扱う作家や作品は、坪内逍遥、尾崎紅葉、夏目漱石、森鴎外、芥川龍之介、菊池寛、横光利一、吉川英治、吉屋信子など多岐にわたる。これらが、同時代においてはどのようなメディアを通じて登場したか、テキストだけを読んでいては考察することのできないその文学の「場」を知る機会としてほしい。
到達目標	日本の近代小説とマスメディアとの関係について説明し、考察をまとめることができる。
授業方法と留意点	講義を中心に進める。 毎回、講義後にコメントを提出してもらう。 コメントに対しては授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認
2	文学とマスメディア（1）	近代文学と出版メディアの概要	配布プリントの確認
3	文学とマスメディア（2）	昭和初期の円本ブームについて	配布プリントの確認
4	文学とマスメディア（3）	文芸復興期の出版メディアについて	配布プリントの確認
5	文学とマスメディア（4）	大正・昭和初期のラジオ、映画等について	配布プリントの確認
6	新聞と文学（1）	近代の新聞メディアの発展について	配布プリントの確認
7	新聞と文学（2）	夏目漱石と新聞について	配布プリントの確認
8	新聞と文学（3）	芥川龍之介と新聞について	配布プリントの確認
9	新聞と文学（4）	横光利一と新聞について	配布プリントの確認
10	女性雑誌と文学（1）	近代の女性雑誌メディアの発展について	配布プリントの確認
11	女性雑誌と文学（2）	大正期の女性雑誌と文学について	配布プリントの確認
12	女性雑誌と文学（3）	女性雑誌と女流作家の関係について	配布プリントの確認
13	女性雑誌と文学（4）	昭和初期（主に戦時中）の女性雑誌と文学について	配布プリントの確認
14	総括・試験の説明	授業の総括を行い、試験の説明を行う	配布プリントの確認
15	試験	レポートを提出する （人数が多い場合は教場試験を実施する）	

関連科目	文学およびメディアに関する科目（「メディア文化論」など）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	履修者が多数の場合（80 人以上を目安とする） 試験９０％ 平常点（コメントシートの内容）１０％ 上記以外の場合 平常点（コメントシートの内容）60% レポート 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階（古矢研究室）
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 60 時間。

科目名	中国の文学	科目名（英文）	Chinese Literature
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2599a0		

授業概要・目的	中国文化の中で文学は最も輝かしいものの一部です。中国文学は中国文化の基本的精神を内包し、中国人の美的な追及を表している。古代の神話から唐詩、宋詞、明清の小説などの作品、背景及ぶ作者の紹介により中国の歴史、文化を知る。
到達目標	古代から近代に至る中国文学の基本的な流れを理解できる。 各時代の主要作品の特徴を把握し、時代や社会との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	映像、資料を用いて講義形式で授業を進めるが，グループプレゼンなど演習の要素も取り入れる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中国文学概論①	映像、資料を学習する	講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える（事前・事後にそれぞれ１時間）
2	中国文学概論②	映像、資料を学習する	要点整理（事前・事後にそれぞれ１時間）
3	楚辞　　屈原	映像、資料を学習する	一回目の課題（事前・事後にそれぞれ１時間）
4	唐詩①　　李白	映像、資料を学習する	要点整理（事前・事後にそれぞれ１時間）
5	唐詩②　　杜甫	映像、資料を学習する	要点整理（事前・事後にそれぞれ１時間）
6	唐詩③　白居易	映像、資料を学習する	二回目の課題（事前・事後にそれぞれ１時間）
7	明清小説①　　西遊記	映像、資料を学習する	要点整理（事前・事後にそれぞれ１時間）
8	明清小説②　　三国演義	映像、資料を学習する	要点整理（事前・事後にそれぞれ１時間）
9	明清小説③　　封神演義	映像、資料を学習する	三回目の課題（事前・事後にそれぞれ１時間）
10	四大民間伝説	映像、資料を学習する	要点整理（事前・事後にそれぞれ１時間）
11	現代中国文学　　魯迅	映像、資料を学習する	要点整理（事前・事後にそれぞれ１時間）
12	当代文学①　　三体	映像、資料を学習する	四回目の課題（事前・事後にそれぞれ１時間）
13	当代文学②　　三体	映像、資料を学習する	要点整理（事前・事後にそれぞれ１時間）
14	ノーベル賞受賞者莫言の作品	映像、資料を学習する	最後の課題（事前・事後にそれぞれ１時間）
15	まとめ	資料を学習する	課題の再提出（事前・事後にそれぞれ１時間）

関連科目	特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業の平常点（プレゼンなど）五割、期末試験五割
学生へのメッセージ	中国文化、中国文学を知りたい学生の参加を歓迎します。中国語を受講していない学生の受講も歓迎します。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	

科目名	ホテルビジネス論	科目名（英文）	Hotel Business
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊達　寛
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2601a0		

授業概要・目的	新型コロナウイルスの流行で大きな影響を受けた、観光・宿泊・航空産業であったが、アフターコロナを迎え国内旅行需要と訪日外国人需要は順調に回復している。2025年に開かれる大阪関西万博、2030年秋頃の開業を目指す大阪IRに向け、一層注目されるホテル産業と言える。ホテル・宿泊業は航空産業と同じく、在庫の出来ないサービス財を扱っており、また固定費比率の高い産業である。その産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を含めて学習し、将来展望を考察することができる。観光業界の一角を担う航空会社で長年にわたり販売促進業務を担いホテルとの協業も経験し、また航空会社の企画、総務・HR 採用業務も担当した実務経験者の教員が企業経営や会社収支分析も含め、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。
到達目標	・ホテル事業の基礎的な事業知識や、その実態について理解する。 ・在庫の出来ないサービス財、固定費比率の高い産業特性を理解し、その課題や将来展望を受講者自身の考えのもと説明できる知識を身につける。 ・様々なホテル経営方式の違いを学習し、チェーンビジネスの特性を理解する。 ・ホテル、宿泊産業に関心を持つ受講生については、この授業で得た知識を契機に業界や企業研究を深め、進路選択に積極的に活用することを目指す。
授業方法と留意点	対面授業を前提にパワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を毎回配布し、受講者自身が重要な部分をパワーポイントから読み取り、資料に記入する。また、理解を深めるため関連する動画資料も活用する。 授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。配布資料の空欄となってる要点について、パワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくことが重要。日頃からホテル関連の報道等に関心をもって接し、授業に臨んでほしい。 毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出していただきます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックいたします。
科目学習の効果（資格）	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる。(特に公的資格取得には繋がるものではない)。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などを説明。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	キーワード：グランドホテル、セザール・リッツ、スタットラーについて事前に調べること。.関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
3	日本の宿泊業の歴史（1）第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	キーワード：築地ホテル館、帝国ホテル、Frank・Lloyd・Wright、小林一三について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
4	日本の宿泊業の歴史（2）終戦から現代まで	前回に引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	キーワード：ホテルニューグランド、東京ヒルトンホテル、国際観光ホテル整備法について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	キーワード：ラグジャリーホテル、宿泊特化型ホテルについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	キーワード：装置産業、労働集約的産業、固定費と変動費について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	キーワード：運営受託方式、フランチャイズ方式、経営と運営について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	キーワード:スケールメリット、チェーンビジネス、ブランド、Royaltyについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	キーワード:市場細分化戦略、マルチブランド戦略、マリオットインターナショナルについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。

10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	キーワード：ホテルオークラ、五島慶太、プリンスホテル、星のリゾートについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	キーワード：旅館業法、簡易宿泊所、民泊新法、約款について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	キーワード：ユニフォームシステム、客室稼働率、客室単価、Revper について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
13	ホテルの組織と仕事（1）宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	キーワード：総支配人、ドアマン、コンシェルジュについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
14	ホテルの組織と仕事（2）料飲・宴会部門など	前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	キーワード：Food and Beverage Division、ソムリエについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
15	まとめ	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
2	ホテルビジネス 2023 パンデミックを越えて	吉田雅也	三恵社
3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館

評価方法
（基準）

授業計画に示した各回のキーワードについて事前に調べ、授業終了後のレポートに反映すること。
１０回以上の出席票をかねたレポート提出がない場合は評価の対象とならない。
定期試験６０％、授業後に提出するレポート、授業参加姿勢４０％で総合的に評価する。
２０分以上の遅刻・早退は３回で１回の欠席とする。
（定期試験は幅広い範囲への対応が求められるので、各回授業で配布される資料のポイントを復習して、自らの知識として整理しておくことが重要となる）

学生への
メッセージ

アフターコロナ期の訪日外国人の回復、2025 年大阪関西万博、2030 年秋頃の開業を目指す大阪 IR、に向け業績の活況が期待されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。
また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。

担当者の
研究室等

７号館４階（伊達・沖中研究室）

備考

毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出していただきます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックいたします。

科目名	ホスピタリティ基礎論	科目名（英文）	Introduction to Hospitality
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沖中　美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2602a0		

授業概要・目的	・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、ホスピタリティを言語、文化　そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく授業である。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。 ※外国語学部所属生のみ、この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。
到達目標	・現代社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することが出来る。（知識・理解） ・ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。（知識・理解） ・実務社会で求められる意識・態度（ビジネスマナーの基本）を取得できる。
授業方法と留意点	Power point と配布資料で主に講義形式で授業を進めていく。適宜、受講生同士がコミュニケーションを行うようディスカッションも取り入れる。 授業内で毎回、資料を配布。授業の最後に、小レポートを課し提出。 フィードバックは必要に応じて授業内で行う。
科目学習の効果（資格）	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものと考える。ビジネスマナーの基本も身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。本講義で取り上げるホスピタリティへのアプローチ方法を理解する。	ホスピタリティに関する文献を読む（4時間）
2	ホスピタリティの原義	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、「ホスピタリティ」が持つ意味を考察する。「もてなし」や「サービス」と比較する。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく（4時間）
3	ホスピタリティと人間	人を思いやる「感情」面からアプローチし、人を思いやり伝えることの大切さを理解する。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。（4時間）
4	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表出の仕方感じ方などに文化や時代による違いを考察してみる。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。（4時間）
5	事例研究１　「感動はこうして生まれる」	外食産業におけるホスピタリティの実例を考察する。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4時間）
6	ホスピタリティと産業	サービス産業、ホスピタリティ産業が求める時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。（4時間）
7	事例研究２　「ホテル産業の変化予測」	代表的なホスピタリティ産業「ホテル」の事例を研究する。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4時間）
8	エアラインにおけるホスピタリティ	ホスピタリティ産業といわれる実際の企業を取り上げて、ホスピタリティと産業の関係性を考察する。	ＡＮＡのニュースを読む（4時間）
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験（スポーツ、アルバイトなど）を振り返る。（4時間）
10	ホスピタリティとコミュニケーション１	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。（4時間）
11	ホスピタリティとコミュニケーション２	ホスピタリティを相手に伝えるための具体的なコミュニケーション方法やビジネスマナーについて理解する。	授業で学んだビジネスマナーを復習し、体得する。
12	事例研究３「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4時間）
13	現代社会におけるホスピタリティ（ダイバーシティ＆インクルージョン）	現代社会の中で求められる多様性を受け入れることの重要性をホスピタリティの観点から理解する。	ダイバーシティーに力を入れている企業を調べる（4時間）
14	ユニバーサルサービス	「あらゆる人の立場に立った公平な情報とサービスを提供する」というユニバーサルサービスについて考える。	ユニバーサルサービスに関する文献を読む。（4時間）
15	まとめ	授業全体のまとめ	１５回分の復習をする（４時間）

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～２０１４年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（２０１５年度～入学生）　エアラインビジネス論　ホテルビジネス論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	参加態度 10%　毎回の小レポート 40%　期末テスト 50%
学生への メッセージ	・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。 ・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰しも最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。 ・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。
担当者の 研究室等	７号館４階（伊達・沖中研究室）
備考	

科目名	エアラインサービス論	科目名（英文）	Airline Service
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊達　寛
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2604a0		

授業概要・目的	日本の主要航空会社で長年にわたり販売や総務・企画などの実務を担い、海外支店や関連航空会社の HR・採用業務・事業運営全般などを担当した実務経験者の教員が、社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。 パイロットやＣＡ、グランドスタッフ以外も幅広く、航空機を安全、定時に運航するために多種多様な職種の役割やその協力体制について、実務経験に基づいた講義を行うことにより、航空産業での業務実態を説明する。
到達目標	航空産業の企業活動を参考に、社会人として企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することも目標とする。 客室乗務員やグランドスタッフというイメージに目が向きがちな航空会社の、公共交通機関としての社会的使命を正確に理解するとともに、航空機を運航するための様々な職種の存在を知り、進路検討の幅を広げる。 将来、航空産業を目指すための知識や意識を得る。
授業方法と留意点	対面授業を前提にパワーポイントを使用して授業をする。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を毎回配布し、受講者自身が重要な部分をパワーポイントから読み取り、配布資料に記入する。また、理解を深めるための動画資料も活用する。 授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。配布資料の空欄になっている要点についてパワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくことが重要。受講にあたっては、日ごろから航空業界に関する報道(新聞、ＴＶニュース等)に関心をもって授業に臨んで欲しい。 毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出してもらいます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックします。
科目学習の効果（資格）	航空産業の様々な業種を知る事により、将来の進路の検討材料に資する（特に公的資格取得には直接繋がるものではない）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
2	航空運送事業の特性	在庫ができないサービス財、固定費比率の高さをはじめ航空運送事業の特性とイベントリスクの影響の大きさについて解説する。	キーワード；定期航空運送事業、固定費と変動費について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
3	安全運航	航空会社にとって安全とは経営の基盤であり社会への責務である。安全を守りつづけるための取組みについて説明する。また、安全と保安の違いについても解説する。	キーワード；国際民間航空機関、ハインリッヒの法則、インシデントについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
4	営業(セールス)	誰に何をどうやって売っているの? インターネットの進歩に伴い、大きく形態が変わりつつある営業・販売部門の実態について解説する。	キーワード；レベニューマネジメントについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
5	予約・案内業務	飛行機を利用しようとする顧客がまず最初に接する航空会社の代表。第一印象がすべてを決める、声だけの接客。あらゆる問い合わせに正確、迅速に対応しなければないない予約・案内業務について説明する。	キーワード；ＣＲＳ、ＧＤＳについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
6	旅客サービス（ＧＳ）	この次も選んでいただくために、顧客満足を追求するグランドスタッフの業務についいて説明する。	キーワード；Ｃ．Ｉ．Ｑ、ｅチケットについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
7	グランドハンドリング（ＧＨ）	グランドハンドリングがいなければ航空機は飛べない重要な仕事。定時運航を守るため、到着から出発まで安全第一に時間との闘いの業務について解説する。	キーワード；Ｇ．Ｓ．Ｅ、マーシャリングについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
8	航空機整備	航空機整備の業務も幅広く、その役割や目的にいろいろ違いがある。何のためにどういう整備が行われているのか、安全運航に直結する仕事について説明する。	キーワード；一等航空整備士、Ｃ整備について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
9	運航管理	運航方式、管制、飛行ルートについて説明。地上のパイロットとも呼ばれる航空機の飛行計画、監視を担う運航管理者について説明する。	キーワード；フライトプラン、ディスパッチャーについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
10	運航乗務員（パイロット）	安全運航を担う運航乗務員の職業意識や具体的業務・訓練について説明する。また、航空機が飛ぶ飛行の原理についても解説する。	キーワード；航空大学校、自社養成パイロットについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
11	客室乗務員（ＣＡ）Ｉ	客室乗務員の最大の業務は保安業務。安	キーワード；安全阻害行為について事前に調べるこ

			全運航を担う業務内容と職業意識について説明する。	と。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
	12	客室乗務員（ＣＡ）Ⅱ	客室乗務員の具体的業務の流れとキャリアパスについて説明。CA になるための訓練の厳しさについても紹介する。	キーワード；CA ブリーフィング、チーフパーサー、について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
	13	機内サービス	機内で提供される食事を担当するケータリング会社や機内エンターテーメント、機内販売について解説する。	キーワード；ケータリング、ギャレイ、ＨＡＣＣＡＰについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
	14	航空貨物	新型コロナ禍の時期に旅客運送は低迷したが、その裏で経営を支え、注目を集めている航空貨物事業と業務について説明する。	キーワード；フレイター、ロジスティックについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
	15	まとめと特別講義	ここまで説明してきた航空会社の業務についてのまとめとポイントについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。

関連科目	エアラインビジネス論、ホテルビジネス論、ホスピタリティ論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	航空産業入門第２版	ANA 総合研究所	東洋経済新報社
2	エアラインオペレーション入門改定新版	ＡＮＡ総合研究所	イカロス出版
3	数字で見る航空(2023)	国土交通省航空局	日本航空協会

評価方法 （基準）	授業計画に示した各回のキーワードについて事前に調べ、授業終了後に提出するレポートの参考とすること。 １０回以上の出席票をかねたレポートの提出がない場合は評価の対象とならない。 定期試験６０％、授業後に提出するレポート、授業参加姿勢４０％で総合的に評価する。 ２０分以上の遅刻・早退は３回で１回の欠席とする。 （定期試験は幅広い範囲の対応が求められるので、各回配布される資料のポイントを復習して、自らの知識として整理しておくことが重要となる）
学生への メッセージ	航空産業に携わる人はパイロットとＣＡだけと思ってませんか？実際には業務は多岐にわたり、パイロットやＣＡは業界の一部の職種です。航空産業にはどのような仕事があってどのような人が向いているのかを実務者の観点から分り易く解説します。アフターコロナ期を迎えた航空産業は、国内需要と訪日外国人需要が着実に回復しつつあります。 航空業界に関心を持っている学生には興味深い講義ですし、将来の進路と考えている学生諸君には大変参考になると思います。
担当者の 研究室等	７号館４階（伊達・沖中研究室）
備考	毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出していただきます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックいたします。

科目名	ミュージアムコレクション論	科目名（英文）	Studies on Museum Collections
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉山　博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2607a0		

授業概要・目的	【博物館資料の価値とはなにか】 博物館資料の種類・特質・収集・整理・保管について「理論」を学ぶ。博物館になくてはならない博物館資料は、美術・歴史・民俗・考古などさまざまな領域に属し、さらに絵画・彫刻・工芸・映像など豊富なジャンルにわたる。その分類法をふまえつつ、まずは具体的な作品の魅力や鑑賞法に触れ、個々の資料が持つかけがえのない価値とはなにかを考える。その考察をとおして、個々人が抱く作品への興味や関心を大きく育み、博物館資料を仕事として取り扱う際の基本的知識を裏打ちする。
到達目標	【以下の３点を自分の言葉で説明できるようになること】 1. 博物館資料が有するふたつの資料価値 2. 博物館資料の構造的特性と資料価値の関係 3. 上述のふたつの資料価値が衝突する際の対応策
授業方法と留意点	【なにを問うべきかを考えること】 1. 講義に出席する。 2. 講義中の制限時間内に、Moodle 経由で質問を入力する。 3. 講義前に配布される Q&A シートを確認し、講義でフィードバックを受ける。 4. 校外実習に参加する。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格の取得（必修科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の概要と博物館資料の定義について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、レジュメ掲載作品を検索して確認する（60 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
2	絵画資料#1	絵画資料のうち、フレスコ画の歴史、特性と価値を解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
3	絵画資料#2	絵画資料のうち、テンペラ画の歴史、特性と価値を解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
4	絵画資料#3	絵画資料のうち、油彩画の歴史、特性と価値を解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
5	絵画資料#4	絵画資料のうち、水彩画の歴史、特性と価値を解説する。	実習は 2 コマを充当する。別の曜日に 2 コマ連続で実施する。 事前：絵画資料の特性をもういちど復習しておく（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
6	絵画資料#5	絵画資料のうち、現代美術、ミクストメディアの歴史、特性と価値を解説する。	実習は 2 コマを充当する。別の曜日に 2 コマ連続で実施する。 事前：絵画資料の特性をもういちど復習しておく（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
7	彫刻資料#1	彫刻資料のうち、木像と銅像の特性と価値を解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
8	彫刻資料#2	彫刻資料のうち、現代美術とインスタレーションの特性と価値を解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
9	自然史資料	自然史資料である、生体資料などの特性と価値を解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
10	資料収集	博物館資料の収集をめぐる意義と問題点を解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
11	資料活用	博物館資料の活用をめぐる意義と問題点を解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
12	博物館見学	［校外実習］実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は 3 コマ分に相当する。 事前：見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する（60 分） 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる（120 分）。
13	博物館見学	［校外実習］実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのか	見学は 3 コマ分に相当する。 事前：見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾

			を確認する。	向や展示の方針を確認する（60 分） 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる（120 分）。
	14	博物館見学	［校外実習］実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は 3 コマ分に相当する。 事前：見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する（60 分） 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる（120 分）。
	15	おわりに	実習課題の振り返りと授業内容を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：博物館資料の価値が衝突する事例を複数考える。その事例に該当する作品を探し、鑑賞しに行く（240 分?）。

関連科目	「他の学芸員課程の科目」／表象と感性プロジェクト／表象文化論／暮らしの中の文化

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

【質問内容による評価】

1. 毎回の質問内容［80%］
2. ワークシートの内容［20%］
3. いずれも「好奇心」と「論理性」を基準とする。

学生への
メッセージ

【コンディションを整えること】

1. 資格取得の要件であるため、当然、出席は大切にする。
2. さらに、より良い質問をするために、講義に集中できるコンディションを整える。
3. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。

担当者の 研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室

備考

【自分の質問に自分で応答すること】

1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。
2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの質問に応答を試みる。

科目名	博物館資料保存論	科目名（英文）	Preservation of Museum Collections
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2608a0		

授業概要・目的	博物館にとって資料はなくてはならないものです。資料がなければ博物館は成り立たないと言っても過言ではありません。したがって資料の収集、管理、保存は学芸員にとって最も重要な仕事の１つとなります。また、一口に「資料」といっても例えば考古、歴史、民俗など様々な種類があります。本授業では学芸員の職務の経験を活かし、講義だけでなく、実際の技術も身に付けることを目的とする。
到達目標	資料の種類、取り扱い方、整理・管理・保存・修復の方法などの基礎的な知識と技能を習得できる。
授業方法と留意点	対面で行います。 座学と実習を行います。 本授業は学芸員資格取得に必須となる受業であるため欠席は認めません。必ず毎回参加してください。 連絡事項や課題の提出は Teams で行います。フィードバックは講義の中で行います。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格の取得（必修科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	資料とは何か、資料保存とは何か	講義の進め方、自己紹介、博物館に関する話などをします。 資料の定義、種類について解説し、資料保存の基本的な考えについて講義します。	資料の分類と内容について復習する
2	考古資料の保存（１）	埋蔵文化財、考古資料の保存方法について講義します。	文化財保護法について復習する
3	考古資料の保存（２）	遺物の接合実習をします。	考古の接合の事例を書籍や web で調べる
4	考古資料の保存（３）	遺物の接合の続きと実測をします。	実測図を完成させ、次週までに提出する。
5	民俗資料の保存	民俗資料の保存の方法について講義します。	さまざまな民俗資料について博物館の HP から調査する
6	石造物の保存（１）	石造物の保存方法について講義し、実測とスケッチをします。	実測図、スケッチの続きを行う。
7	石造物の保存（２）	石造物の実測、スケッチの続きをします。	実測図、スケッチを完成させ、次週までに提出する。
8	歴史資料の保存（１）	歴史資料の整理方法、保存方法について講義します。	授業で課した語句、地名について辞書で調べる
9	歴史資料の保存（２）	古文書修復の実習をします。	裏打ちの方法について復習する
10	歴史資料の保存（３）	和本の装丁の実習をします。	和本の装丁をもう一度やってみる。
11	燻蒸とＩＰＭ	虫損から資料を守る燻蒸とＩＰＭ(総合的有害生物管理）という２つの方法を比較検討します。	燻蒸と虫干しについて復習する
12	資料保存の現場	博物館見学	３コマ分です。 日程は講義中に決めます。
13	資料保存の現場	博物館見学	３コマ分です。 日程は講義中に決めます。
14	資料保存の現場	博物館見学	３コマ分です。 日程は講義中に決めます。
15	まとめ（確認テスト）	授業のまとめと筆記試験を行います（持ち込み不可）	今までのノートをまとめておく。

関連科目	他の学芸員課程の講義。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題および実技テスト（40%）、確認テスト（60%）
学生へのメッセージ	学芸員を目指す方にとって必須の科目です。単に知識を得るだけでなく、私の経験をもとに資料保存の現実について一緒に考えたり、また保存に関わる基礎的な技能を身につけましょう。積極的な姿勢を望みます。
担当者の研究室等	赤澤研究室（7 号館 4 階）
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。 課外実習の日程は天候などによって変更する場合がある。

科目名	ディスプレイ論	科目名（英文）	Museum Display Planning
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細田　慈人
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2609a0		

授業概要・目的	博物館施設における展示とは何か。展示の意義と役割について理解し、効果的な展示手法に関する理論の裏付けと実践に活用できる技術を身につけることをめざす。博物館施設の展示に関する基礎的知識の習得と実践的作業の理解。
到達目標	博物館施設における展示とは何かを説明することができる。また、具体的な展示物に即した効果的な展示を自ら考え、実施することが出来る。博物館施設の展示に関する基礎的な知識と技術の習得。
授業方法と留意点	博物館施設における展示の概要、具体的な展示の形態や手法を講義形式で学ぶ。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。展示を実際に企画することで、実際に展示を担当する際に必要な技能や知識を養う。また、展示の企画立案を最終目標とするので博物館を見学し、レポートを作成する。また、レポートに関しては授業内容を理解したうえで実際の展示を見学し、各自で長所短所を見出しているかどうかを評価する。その為、普段より様々な展示、陳列について観察していることが望ましい。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格認定のため必修の科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	受講上の注意と博物館展示の前提知識	授業のねらいと受講上の諸注意、また博物館における展示を学ぶ上での前提知識を理解する。	事前:博物館施設の活動について調べておくこと(1時間)。 事後：授業を振り返り、授業のねらいと受講上の諸注意についてまとめておくこと（1時間)。
2	博物館施設の歴史	博物館施設の歴史について理解する。	事前：博物館施設の歴史について調べておくこと（1.5時間)。 事後：授業を振り返り、博物館施設の歴史についてまとめておくこと（2時間)。
3	博物館施設の定義と役割	博物館施設の定義と役割について理解する。	事前:博物館の定義と役割について調べておくこと（1.5時間)。 事後：授業を振り返り、博物館の定義と役割についてまとめておくこと（2時間)。
4	学芸員の役割	博物館における学芸員の役割について理解する。	事前：学芸員の職務について調べておくこと（1.5時間)。 事後：授業を振り返り、学芸員の役割、実際の職務についてまとめておくこと（2時間)。
5	展示論の提唱と発展	博物館における展示を学問的に理解する。	事前：展示論について調べておくこと（1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の形態と手法についてまとめておくこと（2時間)。
6	展示の意義	展示の意義について理解する。	事前:博物館施設における展示について調べておくこと（1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の意義についてまとめておくこと（2時間)。
7	展示計画の立案から実施まで	展示に至るまでの立案・資料借用・陳列の三工程について、実例をもとに展示企画を実行する上での注意点を理解する。	事前：事前に自身の展示テーマを考え、どのような資料を展示するか考えておくこと（5時間)。 事後：授業を振り返り展示計画立案から実施までについてその手順､内容をまとめておくこと(2時間)。
8	展示の形態・手法	様々な展示形態について実例をもとに具体的に把握し、展示の手法について理解する。	事前：博物館施設を見学し、実際の展示について理解を深めておくこと（2時間)。 事後：授業を振り返り、様々な展示形態、手法についてまとめておくこと（2時間)。
9	展示のための設備と補助具	展示作業に必要な設備と補助具について理解する。	事前:展示作業に必要な設備と補助具について調べておくこと（1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示のための設備と補助具についてまとめておくこと（2時間)。
10	展示資料調査と借用・返却	展示資料の調査方法や資料を借用・返却する際の留意点、資料の運搬方法などについて理解する。	事前：博物館資料論について調べておくこと（1.5時間)。 事後：授業を振り返り、調書作成の方法、資料の梱包方法についてまとめておくこと（1.5時間)。
11	展展示資料の取り扱い①～美術品・工芸品～	展示資料（美術資料と工芸品）の取り扱いについて理解する。	事前：絵画、陶磁器、漆芸品、茶道具、刀剣、鎧、彫刻などの諸資料について確認しておくこと（5時間)。 事後：授業を振り返り、各資料について理解を深めておくこと（3時間)。
12	展示資料の取り扱い②～考古資料・歴史～	展示資料（考古資料・歴史資料）の取り扱いについて理解する。	事前：土器、石器、木簡などの考古資料、古文書・典籍ほか文字資料、民俗資料などを含む歴史資料について調べておくこと。(5時間)。 事後:授業を振り返り各資料についての理解を深めておく（3時間)。
13	展示の広報	展示の広報手段、その内容、配慮すべき事項など展示に関する広報について理解する。	事前:展示で使用される広報手段について調べておくこと（1.5時間)。 事後：授業を振り返り、現在の展示広報についてまとめておくこと（2時間)。
14	展示の評価	展示の評価について理解する。	事前:展示評価の手法、情報入手のツールについて確認しておくこと（1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示評価の基準についてまとめておくこと（2時間)。
15	授業のまとめ	後半の授業内容について理解度を確認する。	事前:自身が企画した展示について確認しておくこと（5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の重要事項についてま

				とめておくこと（3 時間）。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	展示論―博物館の展示をつくる―	日本展示学会	雄山閣
2	博物館展示論	黒沢浩	講談社
3	博物館展示・教育論（博物館シリーズ３）	小原巌	樹村房

評価方法 （基準）	授業参加度（30%）、博物館展示見学レポート（30%）、期末課題（40%）によって評価する。 博物館実務を学ぶための必須となる授業であるため、出席 7 割以上、または博物館展示見学レポート及び展示企画書を提出しなかった場合、不合格または評価不能とする。
学生への メッセージ	第 1 回の授業において、受講心得と成績評価について資料を配布するので必ず確認すること。 各種博物館施設に足を運び、実際の展示に接するとともに、展示の形態や手法について理解に努めること。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問・相談等は当該授業の前後に対応する。 見学レポートについては博物館施設・相当施設・類似施設のいずれか 2 館を見学したうえでレポートを作成すること。作成を指示する展示企画案は、必ず提出すること。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名（英文）	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の２年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
6	日本から外国へ、外国から日本へという２つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
9	芸術や音楽を通した日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありように及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
13	通信システムやSNSを使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
14	疫病や災害を通した日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること（１時間）

関連科目	Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト（40%）、課題やレポートなどの提出物（30%）、授業中の発表や取り組む姿勢など（30%）を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	Dear ELHT students: We will be working together in this course to explore Japanese culture and society from both local and international perspectives. Please be prepared to do group work, discussions, and express your opinions in English. If you stay committed and work hard in this course, I promise this course will be both fun and educational :)
担当者の 研究室等	チュウ講師室（３号館３階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はオフィスアワーにて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名（英文）	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の２年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
6	日本から外国へ、外国から日本へという２つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
9	芸術や音楽を通した日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
10	コンピュータや AI の普及が日本の社会のありように及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
14	疫病や災害を通した日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること（１時間）

関連科目	Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Handout		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト（40%）、課題やレポートなどの提出物（30%）、授業中の発表や取り組む姿勢など（30%）を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	言語Xで言うことを言語Yに置き換える・・・のではない、英語との付き合いを始めよう！　言語以外の知識や感性や経験が全部、つながっていきますように！
担当者の 研究室等	7号館4階　齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はオフィスアワーにて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名（英文）	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本　弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の２年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や週間から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
3	企業と小使者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
5	学生と社会の関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
6	日本から外国へ、外国から日本へという２つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
9	芸術や音楽を通した日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありように及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
13	通信システムやSNSを使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
14	疫病や災害を通した日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（1時間）
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること（1時間）

関連科目	Topic Studies Ⅰa, b; Topic Studies Ⅱa, b　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Future Time: News Reports from Japan's Next Generation	Paul Stapleton and Atsuko Uemura	ナショナルジオグラフィックラーニング
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2			

	3
評価方法 （基準）	小テスト（４０％）、課題やレポートなどの提出物（３０％）、授業中の発表や取り組む姿勢など（３０％）を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	トピックごとに(1)知る、(2)議論する、(3)発信する、という３部構成で授業を進め、課題への取り組みを通して知識の定着をはかる。課題は授業中に取り組むことが多く、授業には必ず出席し積極的に参加することが重要である。
担当者の 研究室等	7 号館５階　船本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を 15 時間程度とする。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名（英文）	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の２年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
6	日本から外国へ、外国から日本へという２つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
9	芸術や音楽を通した日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありように及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
14	疫病や災害を通した日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること（１時間）

関連科目	Topic Studies I, II, III など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Portraits of Japan	Paul Stapleton, Atsuko Uemura	センゲージ ラーニング
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト（40%）、課題やレポートなどの提出物（30%）、授業中の発表や取り組む姿勢など（30%）を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	予習を重視した授業を行いますので、継続してがんばってほしいと思います。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名（英文）	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の２年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
6	日本から外国へ、外国から日本へという２つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
9	芸術や音楽を通した日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
10	コンピュータや AI の普及が日本の社会のありように及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
14	疫病や災害を通した日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること（１時間）

関連科目：Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト（40%）、課題やレポートなどの提出物（30%）、授業中の発表や取り組む姿勢など（30%）を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	予習を重視した形で行います。がんばった分だけ TOEIC などのスコア向上につながることでしょう。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 ハーキー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名（英文）	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	F
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の２年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
6	日本から外国へ、外国から日本へという２つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
9	芸術や音楽を通した日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありように及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
14	疫病や災害を通した日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること（１時間）

関連科目	Topic Studies I, II, III など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Hot Topics Japan	Stephanie Alexander	Compass Publishing
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト（40%）、課題やレポートなどの提出物（30%）、授業中の発表や取り組む姿勢など（30%）を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	In this class we will focus on improving your ability to express your ideas and commute them clearly. I look forward to teaching you this year!
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を 15 時間程度とする。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名（英文）	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松吉　翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の２年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
6	日本から外国へ、外国から日本へという２つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
9	芸術や音楽を通した日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
10	コンピュータや AI の普及が日本の社会のありように及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
14	疫病や災害を通した日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること（１時間）

関連科目：Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Cross-Cultural Awareness―英語で学ぶ異文化の不思議―	石井隆之 他	開文社出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2			

	3
評価方法 （基準）	小テスト（40%）、課題やレポートなどの提出物（30%）、授業中の発表や取り組む姿勢など（30%）を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	身近にある当たり前を見つめ直し、遠くのものを近くに置き、これまでとは違った視点から物事を見ましょう。 また、映像や読解を通して日本や各国の社会文化についての理解を深めましょう！
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名（英文）	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の２年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
6	日本から外国へ、外国から日本へという２つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
9	芸術や音楽を通した日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
10	コンピュータや AI の普及が日本の社会のありように及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
14	疫病や災害を通した日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること（１時間）

関連科目	Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym II with Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『CLIL 英語で培う文化間意識』	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト（40%）、課題やレポートなどの提出物（30%）、授業中の発表や取り組む姿勢など（30%）を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	予習を重視した形で行います。がんばった分だけ TOEIC などのスコア向上につながることでしょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名（英文）	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の２年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
6	日本から外国へ、外国から日本へという２つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
9	芸術や音楽を通した日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
10	コンピュータや AI の普及が日本の社会のありように及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
14	疫病や災害を通した日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること（１時間）

関連科目	Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Hot Topics Japan 1	Alexander, S.	Compass
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『CLIL 英語で培う文化間意識』	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト（40%）、課題やレポートなどの提出物（30%）、授業中の発表や取り組む姿勢など（30%）を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck! In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Any student who is absent for more than four classes (per semester) will fail the course. If you come to class more than 30 minutes late, it will count as one absence.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名（英文）	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の２年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
6	日本から外国へ、外国から日本へという２つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
9	芸術や音楽を通した日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありように及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
13	通信システムやSNSを使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
14	疫病や災害を通した日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること（１時間）

関連科目	Topic Studies I, II, III など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Glances of Japan	坂部俊行／岡島徳昭/Howard Tarnoff	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2			

	3
評価方法 （基準）	小テスト（40%）、課題やレポートなどの提出物（30%）、授業中の発表や取り組む姿勢など（30%）を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	予習レポートを重視した授業を行いますので、継続してがんばってほしいと思います。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を 15 時間程度とする。

科目名	Academic Reading ＆ Listening	科目名（英文）	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに１つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的要素を持つ英文を教材とし、様々な修辞法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を操る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。
授業方法と留意点	・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Solo and group work	Review notes; do the reading
2	Ancient literature of the Greeks	Solo and group work	Review notes; do the reading
3	Ancient literature of the Romans	Solo and group work	Review notes; do the reading
4	European folk tales	Solo and group work	Review notes; do the reading
5	Japanese folk tales	Solo and group work	Review notes; do the reading
6	Medieval literature – Beowulf	Solo and group work	Review notes; do the reading
7	Elizabethan prose and Shakespeare	Solo and group work	Review notes; do the reading
8	Rennaissance literature – Machiavelli	Solo and group work	Review notes; do the reading
9	Classical literature – Rime of the Ancient Mariner	Solo and group work	Review notes; do the reading
10	Classical literature – A Christmas Carol	Solo and group work	Review notes; do the reading
11	Horror – Dracula	Solo and group work	Review notes; do the reading
12	E19th century literature – The Hobbit	Solo and group work	Review notes; do the reading
13	19th century literature – 1984	Solo and group work	Review notes; do the reading
14	Modern literature and song	Solo and group work	Review notes; do the reading
15	The future of literature	Solo and group work	Review notes; do the reading

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動（30%） 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等（70%）
学生へのメッセージ	Come prepared to take notes as we explore the wonders of literature together.
担当者の研究室等	7号館4階高橋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Academic Reading ＆ Listening	科目名（英文）	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに１つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的要素を持つ英文を教材とし、様々な修辞法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を操る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。
授業方法と留意点	・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction、文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション、英語の言葉遊びについて Concerning the Sound of a Train Whistle...	英語の言葉遊びに関する復習(1時間程度)
2	笑いのツボを理解する	A Little Darkness	英語のコメディに関する予習、復習（1時間程度）
3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	A Little Darkness	第3週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
4	日本語の作品を英訳で読む	Genjitsu House	第4週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
5	歌詞に隠された物語を読む	Genjitsu House	第5週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
6	自分の思い出を語る	The Silent Traders	第6週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
7	小説風の自伝を読む	The Silent Traders	第7週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
8	短編小説、小説の結末部分を読む	Mogera Wogura	第8週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
9	言葉のリズムを楽しもう	Mogera Wogura	第9週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
10	気軽に英詩を楽しもう	The Maiden in the Manger	第10週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
11	会話の意図をつかみとる	The Maiden in the Manger	第11週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
12	モットーを書く	Where the Bowling Pin Stands	第12週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
13	事実と虚構の狭間を読む	Where the Bowling Pin Stands	第13週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
14	逸話を語る	Love Suicide at Kamaara	第14週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
15	名作の原文を読む	Love Suicide at Kamaara	第15週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stories of Pioneers	山田久美	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動（30%） 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等（70%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館5階　後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	Academic Reading & Listening	科目名（英文）	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	う
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞｰﾙｵﾐｯﾄﾞ ｻｯｼﾞｬﾄﾞ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに１つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的要素を持つ英文を教材とし、様々な修辞法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を操る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。
授業方法と留意点	・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction、文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション、英語の言葉遊びについて	英語の言葉遊びに関する復習(1時間程度)
2	笑いのツボを理解する	英語のコメディについて読む、英語のコメディ番組を視聴する	英語のコメディに関する予習、復習（1時間程度）
3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	George Bernard Shaw, "Pygmalion"など	第3週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
4	日本語の作品を英訳で読む	Japanese stories in translation: "Kenji and Ryunosuke"など	第4週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
5	歌詞に隠された物語を読む	Suzanne Vega, "Luke"など	第5週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
6	自分の思い出を語る	Two autobiographies: Martin Luther King Jr. and Ellen Glasgowなど	第6週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
7	小説風の自伝を読む	Graham Green, "A Sort of Life"など	第7週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
8	短編小説、小説の結末部分を読む	Raymond Carverなど	第8週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
9	言葉のリズムを楽しもう	Haiku and Japanese poemsなど	第9週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
10	気軽に英詩を楽しもう	Robert Frost, "The Road Not Taken"など	第10週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
11	会話の意図をつかみとる	Tennessee Williams, "The Street Named Desire"など	第11週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
12	モットーを書く	Benjamin Franklin, "Thirteen Virtues" and "Poor Richard's Maxims"など	第12週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
13	事実と虚構の狭間を読む	Tim O'Brian, "Ambush"など	第13週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
14	逸話を語る	Lori Peikoff, "Table for Two"など	第14週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
15	名作の原文を読む	Charles Dickens, "Great Expectations"など	第15週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社
2	Graded Readersシリーズ（Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readersなど）		
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動（30%） 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等（70%）
学生へのメッセージ	Although reading is a solitary interiorizing activity, it can simultaneously open us up to new worlds, ideas and people.
担当者の研究室等	教員室１（２号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Academic Reading ＆ Listening	科目名（英文）	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	え
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに１つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的要素を持つ英文を教材とし、様々な修辞法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を操る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。
授業方法と留意点	・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction、文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション、英語の言葉遊びについて Concerning the Sound of a Train Whistle...	英語の言葉遊びに関する復習(1時間程度)
2	笑いのツボを理解する	A Little Darkness	英語のコメディに関する予習、復習（1時間程度）
3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	A Little Darkness	第3週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
4	日本語の作品を英訳で読む	Genjitsu House	第4週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
5	歌詞に隠された物語を読む	Genjitsu House	第5週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
6	自分の思い出を語る	The Silent Traders	第6週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
7	小説風の自伝を読む	The Silent Traders	第7週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
8	短編小説、小説の結末部分を読む	Mogera Wogura	第8週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
9	言葉のリズムを楽しもう	Mogera Wogura	第9週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
10	気軽に英詩を楽しもう	The Maiden in the Manger	第10週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
11	会話の意図をつかみとる	The Maiden in the Manger	第11週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
12	モットーを書く	Where the Bowling Pin Stands	第12週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
13	事実と虚構の狭間を読む	Where the Bowling Pin Stands	第13週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
14	逸話を語る	Love Suicide at Kamaara	第14週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
15	名作の原文を読む	Love Suicide at Kamaara	第15週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Short Stories in Japanese: New Penguin Parallel Text	Michael Emmerich	Penguin Books
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動（30%） 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等（70%）
学生へのメッセージ	Although reading is a solitary interiorizing activity, it can simultaneously open us up to new worlds, ideas and people.
担当者の研究室等	7号館3階 Herke's office
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Academic Reading ＆ Listening	科目名（英文）	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	お
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	コンデン　ロバート
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに１つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。 ※詳細は初回授業時に説明をします。
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的要素を持つ英文を教材とし、様々な修辞法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を操る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。 ※詳細は初回授業時に説明をします。
授業方法と留意点	・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する ※詳細は初回授業時に説明をします。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction、文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション、英語の言葉遊びについて	英語の言葉遊びに関する復習(1時間程度)
2	笑いのツボを理解する	英語のコメディについて読む、英語のコメディ番組を視聴する	英語のコメディに関する予習、復習（1時間程度）
3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	George Bernard Shaw, "Pygmalion"など	第3週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
4	日本語の作品を英訳で読む	Japanese stories in translation: "Kenji and Ryunosuke"など	第4週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
5	歌詞に隠された物語を読む	Suzanne Vega, "Luke"など	第5週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
6	自分の思い出を語る	Two autobiographies: Martin Luther King Jr. and Ellen Glasgow など	第6週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
7	小説風の自伝を読む	Graham Green, "A Sort of Life"など	第7週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
8	短編小説、小説の結末部分を読む	Raymond Carver など	第8週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
9	言葉のリズムを楽しもう	Haiku and Japanese poems など	第9週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
10	気軽に英詩を楽しもう	Robert Frost, "The Road Not Taken"など	第10週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
11	会話の意図をつかみとる	Tennessee Williams, "The Street Named Desire"など	第11週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
12	モットーを書く	Benjamin Franklin, "Thirteen Virtues" and "Poor Richard's Maxims"など	第12週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）
13	事実と虚構の狭間を読む	Tim O'Brian, "Ambush"など	第13週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
14	逸話を語る	Lori Peikoff, "Table for Two"など	第14週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
15	名作の原文を読む	Charles Dickens, "Great Expectations"など	第15週に扱う作品の事前読解、復習（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Graded Readers シリーズ（Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など）		
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動（30%） 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等（70%） ※詳細は初回授業時に説明をします。
学生へのメッセージ	Although reading is a solitary interiorizing activity, it can simultaneously open us up to new worlds, ideas and people.
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Academic Reading & Listening	科目名（英文）	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	か
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに一つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的な要素を持つ英文を教材とし、様々な修辞法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を繰る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。
授業方法と留意点	・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション:英語の言葉遊びについて	英語の言葉遊びに関する復習（1時間程度）
2	笑いのツボを理解する	英語のコメディについて読む。英語のコメディ番組を視聴する	英語のコメディに関する予習（1時間程度）
3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	George Bernard Shaw "Pigmalion"など	第３週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
4	日本語の作品を英訳で読む	Japanese stories in translation "Kenji and Ryunosuke"など	第４週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
5	歌詞に隠された物語を読む	Suzanne Vega "Luke"など	第５週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
6	自分の思い出を語る	Two autobiographies: Martin Luther King Jr. and Ellen Glasgow など	第６週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
7	小説風の自伝を読む	Graham Green "A Sort of Life"など	第７週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
8	短編小説、小説の結末部分を読む	Raymond Carver など	第８週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
9	言葉のリズムを楽しもう	Haiku and Japanese poems など	第９週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
10	気軽に英詩を楽しもう	Robert Frost "The Road Not Taken" など	第10週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
11	会話の意図をつかみとる	Tennessee Williams "The Streetcar Names Desire" など	第11週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
12	モットーを書く	Benjamin Franklin "Thirteen Virtues" and "Poor Richard's Maxims" など	第12週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
13	事実と虚構の狭間を読む	Tim O'Brien "Ambush"など	第13週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
14	逸話を語る	Lori Peikaff "Table for Two"など	第14週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）
15	名作の原文を読む	Charles Dickens "Great Expectations"など	第１５週に扱う作品の事前読解、演習（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Timed Reading for Fluency. 2	Paul Nation / Casey Malarcher	Cengage
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Graded readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など		
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動（３０％） 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等（７０％）
学生へのメッセージ	I look forward to meeting you in class.
担当者の研究室等	７号館２階　講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等はステューデントアワーにて対応する。

科目名	Academic Writing Workshop	科目名（英文）	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	To give students the basic skills leading towards writing an essay, starting from the paragraph level and including free-writing tasks, note-taking, planning, mind-mapping (listing) and draft-writing.
到達目標	Students will be able to develop their English fluency and accuracy writing skills.
授業方法と留意点	This class will focus on writing skills, but will also develop students' vocabulary and ability to research and write.
科目学習の効果（資格）	TOEIC

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	An overall look at the course, and getting to know one another.	Writing assignment
2	Unit 1 Topic: Introductions	Narrative Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
3	Unit 2 Topic: Memories	Narrative Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
4	Unit 3 Topic: Friends	Descriptive Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
5	Unit 4 Topic: Places	Descriptive Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
6	Unit 5 Topic: Pets	Compare and Contrast Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
7	Unit 6 Topic: Schools	Compare and Contrast Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
8	Review Units 1-6	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.	
9	Unit 7 Topic: Habits	Cause and Effect Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
10	Unit 8 Topic: Relationships	Cause and Effect Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
11	Unit 9 Topic: Routines	Summary Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
12	Unit 10 Topic: Jobs	Summary Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
13	Unit 11 Topic: Issues	Opinion Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
14	Unit 12 Topic: Smartphones	Opinion Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
15	Review tasks Units 7-12	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing Together- Ftrom Sentence to Paragraph	Ma	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation: Vocabulary challenges 20% Weekly writing, homework, presentation, and attitude 80%
学生へのメッセージ	You will need to bring a notebook (B5 size) to every class, from Class 1 to write in, pen - your tool and the textbook. You need to buy the textbook as part of taking this class. Try to write as much as you can. You learn by doing. Don't worry about making mistakes. Mistakes are an important part of learning another language. Keep a well-organized, and neatly written notebook.
担当者の研究室等	Nishikawa's office is in Building 7, 4th floor
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Academic Writing Workshop	科目名（英文）	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	パラグラフレベルで論理的な英語の文章が書けるよう構造や文法、スタイルを学び、エッセイの基礎を身につけるための演習を行う。クラス内でのピアレビュー、教員・友人からのフイードバックを通じてライティング力を磨く。
到達目標	専門課程や留学先の大学での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要の説明	ブレインストーミング	テキストの予習・復習（1時間）
2	パラグラフの定義と構成	トピックセンテンス	テキストの予習・復習（1時間）
3	論旨の展開	結びのセンテンス	テキストの予習・復習（1時間）
4	パラグラフ執筆演習	描写のパラグラフを書き始める	テキストの予習・復習（1時間）
5	パラグラフ執筆演習	描写のパラグラフを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
6	パラグラフ執筆演習	時系列・手順のパラグラフを書き始める	テキストの予習・復習（1時間）
7	パラグラフ執筆演習	時系列・手順のパラグラフを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
8	中間チェック	パラグラフライティングテストと振り返り演習	テキストの予習・復習（1時間）
9	エッセイの定義と構成	主題文（Thesis Statement）	テキストの予習・復習（1時間）
10	エッセイ執筆演習	アウトラインとをつくる	テキストの予習・復習（1時間）
11	エッセイ執筆演習	比較対照のエッセイを下書きする	テキストの予習・復習（1時間）
12	エッセイ執筆演習	比較対照のエッセイを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
13	エッセイ執筆演習	論述のエッセイを下書きする	テキストの予習・復習（1時間）
14	エッセイ執筆演習	論述のエッセイを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
15	まとめ	エッセイライティングテストと振り返り演習	テキストの予習・復習（1時間）

関連科目	Speaking & Writing a/b, Advanced Academic Writing Workshop a/b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Perspectives: Reading & Writing Book 2	中西のりこ, Nicholas Musty, 大竹翔子, Tam Shuet Ying, Mary Ellis	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Success with College Writing－From Paragraph to Essay	Dorothy E Zemach &Lisa A. Rumisek	Macmillan Language House
2			
3			

評価方法（基準）	授業内ライティングテスト　30% その他の授業内外課題および提出物 70%
学生へのメッセージ	自分の考えを英語で順序よく伝えることを通して、ライティング力を伸ばすだけでなく、思考力・判断力・表現力を養いましょう。
担当者の研究室等	７号館３階　天野研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Academic Writing Workshop	科目名（英文）	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	う
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	To give students the basic skills leading towards writing an essay, starting from the paragraph level and including free-writing tasks, note-taking, planning, mind-mapping (listing) and draft-writing.
到達目標	Students will be able to develop their English fluency and accuracy writing skills.
授業方法と留意点	This class will focus on writing skills, but will also develop students' vocabulary and ability to research and write.
科目学習の効果（資格）	TOEIC

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	An overall look at the course, and getting to know one another.	Writing assignment
2	Unit 1 Topic: Explanatory Paragraphs	Narrative Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
3	Unit 2 Topic: Information Paragraphs	Narrative Paragraphs, Supporting Sentences	Writing assignment
4	Unit 3 Topic: Opinion Paragraphs	Descriptive Paragraphs, Concluding Sentences	Writing assignment
5	Unit 4 Topic: Descriptive Paragraphs	Descriptive Paragraphs, Adding Information (Accuracy)	Writing assignment
6	Unit 5 Topic: Comparative Paragraphs	Compare and Contrast Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
7	Unit 6 Topic: Contrast Paragraphs	Compare and Contrast Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
8	Unit 7 Topic: Cause and Effect Paragraphs	Explaining Reasons for Specific Situations, Conjunctions	Writing assignment
9	Unit 8 Topic: Argumentative Paragraphs	Different Views, Counter-Arguments (Fluency)	Writing assignment
10	Unit 9 Topic: Problem and Solution Paragraphs	Cause and Effect Paragraphs, Auxiliary Verbs "could" & "would" (Accuracy)	Writing assignment
11	Unit 10 Topic: Time Order Paragraphs	Clarifying the Chronological Order of Events (Fluency)	Writing assignment
12	Unit 11 Topic: Process Paragraphs	Writing Step-by-Step Instructions Effectively (Accuracy)	Writing assignment
13	Unit 12 Topic: Summaries	Writing a Summary (Fluency)	Writing assignment
14	Unit 13 Topic: Essays	Essay Structure (Accuracy)	Writing assignment
15	Unit 14 Topic: Concluding Paragraphs	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Real Writing	Mariko Kawasaki	NAN'Un-DO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	B5 Notebook for writing		
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation: Vocabulary challenges 20% Weekly writing, homework, presentation, and attitude 80%
学生へのメッセージ	You will need to bring a notebook (B5 size) to every class, from Class 1 to write in, pen - your tool and the textbook. You need to buy the textbook as part of taking this class. Try to write as much as you can. You learn by doing. Don't worry about making mistakes. Mistakes are an important part of learning another language. Keep a well-organized, and neatly written notebook.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Academic Writing Workshop	科目名（英文）	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	え
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	パラグラフレベルで論理的な英語の文章が書けるよう構造や文法、スタイルを学び、エッセイの基礎を身につけるための演習を行う。クラス内でのピアレビュー、教員・友人からのフイードバックを通じてライティング力を磨く。
到達目標	専門課程や留学先の大学での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要の説明	ブレインストーミング	テキストの予習・復習（1時間）
2	パラグラフの定義と構成	トピックセンテンス	テキストの予習・復習（1時間）
3	論旨の展開	結びのセンテンス	テキストの予習・復習（1時間）
4	パラグラフ執筆演習	描写のパラグラフを書き始める	テキストの予習・復習（1時間）
5	パラグラフ執筆演習	描写のパラグラフを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
6	パラグラフ執筆演習	時系列・手順のパラグラフを書き始める	テキストの予習・復習（1時間）
7	パラグラフ執筆演習	時系列・手順のパラグラフを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
8	中間チェック	パラグラフライティングテストと振り返り演習	テキストの予習・復習（1時間）
9	エッセイの定義と構成	主題文（Thesis Statement）	テキストの予習・復習（1時間）
10	エッセイ執筆演習	アウトラインとをつくる	テキストの予習・復習（1時間）
11	エッセイ執筆演習	比較対照のエッセイを下書きする	テキストの予習・復習（1時間）
12	エッセイ執筆演習	比較対照のエッセイを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
13	エッセイ執筆演習	論述のエッセイを下書きする	テキストの予習・復習（1時間）
14	エッセイ執筆演習	論述のエッセイを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
15	まとめ	エッセイライティングテストと振り返り演習	テキストの予習・復習（1時間）

関連科目	Speaking & Writing a/b, Advanced Academic Writing Workshop a/b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing From Within 1	Curtis Kelly	Cambridge
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内ライティングテスト　30% その他の授業内外課題および提出物 70%
学生へのメッセージ	自分の考えを英語で順序よく伝えることを通して、ライティング力を伸ばすだけでなく、思考力・判断力・表現力を養いましょう。 In addition to the work in the textbook, I will also give you some handouts and instructions on writing academic essays, which we will also practice.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Academic Writing Workshop	科目名（英文）	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	お
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	与那嶺　裕紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	パラグラフレベルで論理的な英語の文章が書けるよう構造や文法、スタイルを学び、エッセイの基礎を身につけるための演習を行う。クラス内でのピアレビュー、教員・友人からのフイードバックを通じてライティング力を磨く。
到達目標	専門課程や留学先の大学での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要の説明	ブレインストーミング	テキストの予習・復習（1時間）
2	パラグラフの定義と構成	トピックセンテンス	テキストの予習・復習（1時間）
3	論旨の展開	結びのセンテンス	テキストの予習・復習（1時間）
4	パラグラフ執筆演習	描写のパラグラフを書き始める	テキストの予習・復習（1時間）
5	パラグラフ執筆演習	描写のパラグラフを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
6	パラグラフ執筆演習	時系列・手順のパラグラフを書き始める	テキストの予習・復習（1時間）
7	パラグラフ執筆演習	時系列・手順のパラグラフを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
8	中間チェック	パラグラフライティングテストと振り返り演習	テキストの予習・復習（1時間）
9	エッセイの定義と構成	主題文（Thesis Statement）	テキストの予習・復習（1時間）
10	エッセイ執筆演習	アウトラインとをつくる	テキストの予習・復習（1時間）
11	エッセイ執筆演習	比較対照のエッセイを下書きする	テキストの予習・復習（1時間）
12	エッセイ執筆演習	比較対照のエッセイを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
13	エッセイ執筆演習	論述のエッセイを下書きする	テキストの予習・復習（1時間）
14	エッセイ執筆演習	論述のエッセイを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
15	まとめ	エッセイライティングテストと振り返り演習	テキストの予習・復習（1時間）

関連科目	Speaking & Writing a/b, Advanced Academic Writing Workshop a/b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Real Writing. From structured paragraph to complete essay	川﨑　眞理子, Ayed Hasian, Samuel Haugh, 中野　陽子, 茨木　正志郎	Nan'un-do
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内ライティングテスト　30% その他の授業内外課題および提出物 70%
学生へのメッセージ	自分の考えを英語で順序よく伝えることを通して、ライティング力を伸ばすだけでなく、思考力・判断力・表現力を養いましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Academic Writing Workshop	科目名（英文）	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	か
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	パラグラフレベルで論理的な英語の文章が書けるよう構造や文法、スタイルを学び、エッセイの基礎を身につけるための演習を行う。クラス内でのピアレビュー、教員・友人からのフイードバックを通じてライティング力を磨く。
到達目標	専門課程や留学先の大学での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要の説明	ブレインストーミング	テキストの予習・復習（1時間）
2	パラグラフの定義と構成	トピックセンテンス	テキストの予習・復習（1時間）
3	論旨の展開	結びのセンテンス	テキストの予習・復習（1時間）
4	パラグラフ執筆演習	描写のパラグラフを書き始める	テキストの予習・復習（1時間）
5	パラグラフ執筆演習	描写のパラグラフを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
6	パラグラフ執筆演習	時系列・手順のパラグラフを書き始める	テキストの予習・復習（1時間）
7	パラグラフ執筆演習	時系列・手順のパラグラフを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
8	中間チェック	パラグラフライティングテストと振り返り演習	テキストの予習・復習（1時間）
9	エッセイの定義と構成	主題文（Thesis Statement）	テキストの予習・復習（1時間）
10	エッセイ執筆演習	アウトラインとをつくる	テキストの予習・復習（1時間）
11	エッセイ執筆演習	比較対照のエッセイを下書きする	テキストの予習・復習（1時間）
12	エッセイ執筆演習	比較対照のエッセイを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
13	エッセイ執筆演習	論述のエッセイを下書きする	テキストの予習・復習（1時間）
14	エッセイ執筆演習	論述のエッセイを完成させる	テキストの予習・復習（1時間）
15	まとめ	エッセイライティングテストと振り返り演習	テキストの予習・復習（1時間）

関連科目	Speaking & Writing a/b, Advanced Academic Writing Workshop a/b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing to Communicate 1	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Success with College Writing−From Paragraph to Essay	Dorothy E Zemach &Lisa A. Rumisek	Macmillan Language House
2			
3			

評価方法（基準）	授業内ライティングテスト　30% その他の授業内外課題および提出物 70%
学生へのメッセージ	Please be prepared to do a lot of writing in this class. We will learn by writing and also reading model paragraphs, and examine the techniques that are being used to write paragraphs that could better convey your ideas. This class will be conducted entirely in English, so please be prepared to work hard and use a lot of English!
担当者の研究室等	７号館３階　チュウ研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Debate	科目名（英文）	Debate
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2630c0		

授業概要・目的	We will learn about the purpose of debating and skills related to constructing arguments. Students will have the opportunity to debate with each other and also watch examples from debate contests. Ultimately, students can express their ideas with more persuasiveness and logic.
到達目標	1. Students can build thoughtful arguments to express their opinions. 2. Students can express their ideas with more persuasiveness. 3. Students can express their ideas with more emphasis on logic. 4. Students can resolve conflicts when there are different opinions through communication. 5. Students can become more confident in their English skills.
授業方法と留意点	Asking thoughtful questions is one of the key components of teaching debate in this course. Students will be challenged with questions to help them re-consider their perspectives.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Introduction to the course Sharing experience in debating	Weekly assignments
2	Principles of debating 1	Learn the principles of debating and arguments	Weekly assignments
3	Principles of debating 2 Do we use our phones too much?	Consider the advantages and disadvantages in arguments Debate on phone usage	Weekly assignments
4	Stakeholders in arguments 1 Should people get married earlier?	Consider different stakeholders in arguments Debate on marriage age	Weekly assignments
5	Stakeholders in arguments 2 Should we do more to stop people smoking and drinking?	Consider different stakeholders in arguments Debate on smoking and alcohol	Weekly assignments
6	Building thoughtful arguments 1 Should everyone learn English?	Practice building thoughtful arguments Debate on English as a universal language	Weekly assignments
7	Building thoughtful arguments 2 Divorce: Is it better than an unhappy marriage?	Practice building thoughtful arguments Debate on marriage and divorce	Prepare for midterm debate contest
8	Midterm debate contest	Group debate contest	Peer assessment
9	Scalability and generalization 1 Should both parents work?	Practice identifying over-generalization and consider the scalability of arguments Debate on whether both parents should work	Weekly assignments
10	Scalability and generalization 2 Who should take responsibility for what children watch on TV?	Practice identifying over-generalization and consider the scalability of arguments Debate on responsibility on TV contents for children	Weekly assignments
11	Advantages and disadvantages 1 Should we do more to stop people gambling?	Practice on identifying advantages and disadvantages in arguments Debate on gambling	Weekly assignments
12	Advantages and disadvantages 2 Should men and women be treated equally?	Practice on identifying advantages and disadvantages in arguments Debate on gender equality	Weekly assignments
13	Refutation of arguments 1 Should fast fashion be encouraged?	Practice refuting different opinions Debate on fast fashion	Weekly assignments
14	Refutation of arguments 1 Should products be	Practice refuting different opinions Debate on lifespan of products	Prepare for final debate contest

		designed intentionally with an expiration date?		
	15	Final debate contest	Group debate contest	Peer assessment

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Which side are you on? Forming views and opinions New Edition	Gillian Flaherty / Hideo Oka	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Midterm and final debate contests (40%) Attendance, participation in class, and weekly assignments (60%)
学生への メッセージ	Learning to debate is to learn to think critically. We will learn how to be logical and distinguish facts from opinions so that we can become more persuasive. Please be prepared to do a lot of group work and discussions, especially exchanging opinions on various issues.
担当者の 研究室等	7号館3階チュウ研究室
備考	Please be prepared to spend at least 60 minutes reviewing and completing weekly assignments per week.

科目名	Debate	科目名（英文）	Debate
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2630c0		

授業概要・目的	授業での活動は原則として全て英語で行う。毎回異なるテーマを設定し，それに関連するスキルを学ぶことによって自分の意見を述べられるよう準備したうえで，プレゼンテーションおよびディベートを英語で実施する。これらの言語活動をとおして他者との双方向的な英語コミュニケーションで必要とされる知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	主に国際学部の２年次の学生を対象とし，英語によるプレゼンテーションやディベートを実践することをとおして，自分の意見を発信するだけでなく，相手の意見もよく聞いて，対話による相互理解の姿勢を身につける。授業の活動ではテーマに関する情報の収集方法とスキルを学び，考えを組み立てて表現することができるようになる。意見の不一致が起こりやすい状況設定のもとで，双方が根拠を挙げながら分かりやすいことばでテーマに沿った議論ができるようになる。
授業方法と留意点	ソクラテス式問答法と現代の修辞学的手法により、学生は主張を疑い、その根底にある仮定を明らかにする方法を学びます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一原理	これまでの発表経験をふりかえり、これからめざしたい発表を考える	練習と復習
2	描写（１）	時系列にそって出来事を伝える	練習と復習
3	描写（２）	位置関係がわかるように伝える	練習と復習
4	比較（１）	本物と偽物の違いを述べる	練習と復習
5	比較（２）	文書などの引用と盗用の違いなどについて述べる	練習と復習
6	プロセスを伝える（１）	使い方を説明する	練習と復習
7	プロセスを伝える（2）	作り方を説明する	練習と復習
8	総合実践（１）	グループ対抗のプレゼンテーション大会	練習と復習
9	メリットとデメリットを述べる（１）	オール電化は得か損か	練習と復習
10	メリットとデメリットを述べる（２）	外見の美しさは得か損かなど	練習と復習
11	相手の意見を引き出す質問（１）	話を方向づける Yes/No の質問など	練習と復習
12	相手の意見を引き出す質問（２）	話を展開する 5W1H の質問など	練習と復習
13	異なる立場で考える（１）	片思いする人 vs 追われて困惑する人	練習と復習
14	異なる立場で考える（２）	消費者と製造者にとっての商品価格	練習と復習
15	総合実践（２）	グループ対抗のディベート大会	練習と復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	A comprehensive evaluation will be made of quizzes (40%), submissions such as assignments and reports, presentations in class (50%), and attitude toward work (10%).
学生へのメッセージ	Debate is the beating heart of a democratic, free society. It is the mechanism by which people overcome their differences, reach agreement and move forward. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Any student who is absent for more than four classes (per semester) will fail the course. If you come to class more than 30 minutes late, it will count as one absence.
担当者の研究室等	Herke's office, Building 7 3F.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Debate	科目名（英文）	Debate
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2630c0		

授業概要・目的	授業での活動は原則として全て英語で行う。毎回異なるテーマを設定し，それに関連するスキルを学ぶことによって自分の意見を述べられるよう準備したうえで，プレゼンテーションおよびディベートを英語で実施する。これらの言語活動をとおして他者との双方向的な英語コミュニケーションで必要とされる知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	主に国際学部の２年次の学生を対象とし，英語によるプレゼンテーションやディベートを実践することをとおして，自分の意見を発信するだけでなく，相手の意見もよく聞いて，対話による相互理解の姿勢を身につける。授業の活動ではテーマに関する情報の収集方法とスキルを学び，考えを組み立てて表現することができるようになる。意見の不一致が起こりやすい状況設定のもとで，双方が根拠を挙げながら分かりやすいことばでテーマに沿った議論ができるようになる。
授業方法と留意点	ソクラテス式問答法と現代の修辞学的手法により、学生は主張を疑い、その根底にある仮定を明らかにする方法を学びます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一原理	これまでの発表経験をふりかえり、これからめざしたい発表を考える	練習と復習
2	描写（１）	時系列にそって出来事を伝える	練習と復習
3	描写（２）	位置関係がわかるように伝える	練習と復習
4	比較（１）	本物と偽物の違いを述べる	練習と復習
5	比較（２）	文書などの引用と盗用の違いなどについて述べる	練習と復習
6	プロセスを伝える（１）	使い方を説明する	練習と復習
7	プロセスを伝える（2）	作り方を説明する	練習と復習
8	総合実践（１）	グループ対抗のプレゼンテーション大会	練習と復習
9	メリットとデメリットを述べる（１）	オール電化は得か損か	練習と復習
10	メリットとデメリットを述べる（２）	外見の美しさは得か損かなど	練習と復習
11	相手の意見を引き出す質問（１）	話を方向づける Yes/No の質問など	練習と復習
12	相手の意見を引き出す質問（２）	話を展開する 5W1H の質問など	練習と復習
13	異なる立場で考える（１）	片思いする人 vs 追われて困惑する人	練習と復習
14	異なる立場で考える（２）	消費者と製造者にとっての商品価格	練習と復習
15	総合実践（２）	グループ対抗のディベート大会	練習と復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Issues: An Introduction to Discussion Skills	Pearson et al.	Seibido
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	A comprehensive evaluation will be made of quizzes (40%), submissions such as assignments and reports, presentations in class (50%), and attitude toward work (10%).
学生へのメッセージ	Debate is the beating heart of a democratic, free society. It is the mechanism by which people overcome their differences, reach agreement and move forward. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Any student who is absent for more than four classes (per semester) will fail the course. If you come to class more than 30 minutes late, it will count as one absence.
担当者の研究室等	Part-time Lecturer's Room, 2nd Floor, Building No. 7
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Debate	科目名（英文）	Debate
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	ＤＥ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2630c0		

授業概要・目的	このコースは、世界について議論し、自分の意見を効果的に表現できるようにすることを目的としています。
到達目標	*様々なトピックについて英会話ができるようになります。 *社会、健康、技術、芸術、文化などのトピックを議論するために語彙を使用することができるようになります。 *世界からの英語を話すことを聞くことより快適になります。 *あなたの意見を表現し、英語でより長い会話を持ってできるようになります。
授業方法と留意点	クラスメートと様々な意見を出し合いながら、ディスカッションをすることができる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション	事後学習・・・教科書の説明
2	Unit 1	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 1 の 事後学習・・・Unit 1 の復習
3	Unit 2	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 2 の予習 事後学習・・・Unit 2 の復習
4	Unit 3	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 3 の予習 事後学習・・・Unit 3 の復習
5	Unit 4	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 4 の予習 事後学習・・・Unit 4 の復習
6	Unit 5	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 5 の予習 事後学習・・・Unit 5 の復習
7	Unit 6	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 6 の予習 事後学習・・・Unit 6 の復習
8	中間試験、(Units 1-6)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 1-6 の復習
9	Unit 7	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 7 の予習 事後学習・・・Unit 7 の復習
10	Unit 8	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 8 の予習 事後学習・・・Unit 8 の復習
11	Unit 9	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 9 の予習 事後学習・・・Unit 9 の復習
12	Unit 10	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 10 の予習 事後学習・・・Unit 10 の復習
13	Unit 11	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 11 の予習 事後学習・・・Unit 11 の復習
14	最終試験、(Units 7-11)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 7-11 の復習
15	復習	課程の復習	事前学習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Issues	Garry Pearson, Graham Skerritt, Adrian Francis, Yoshizuka Hiroshi	Seibido
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	35%.　Test 1 35%.　Test 2 30%　Participation, In-class assignments, etc.
学生へのメッセージ	In this class we will work on improving your ability to make and defend your opinions. Each week we will build on the previous week's material, so it's important to try to come to every class and be prepared. I'm looking forward to teaching you this year!
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	Debate	科目名（英文）	Debate
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	ＦＧ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブルース　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2630c0		

授業概要・目的	このコースは、世界について議論し、自分の意見を効果的に表現できるようにすることを目的としています。
到達目標	*様々なトピックについて英会話ができるようになります。 *社会、健康、技術、芸術、文化などのトピックを議論するために語彙を使用することができるようになります。 *世界からの英語を話すことを聞くことより快適になります。 *あなたの意見を表現し、英語でより長い会話を持ってできるようになります。
授業方法と留意点	クラスメートと様々な意見を出し合いながら、ディスカッションをすることができる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション	事後学習・・・教科書の説明
2	Unit 1	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 1 の 事後学習・・・Unit 1 の復習
3	Unit 2	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 2 の予習 事後学習・・・Unit 2 の復習
4	Unit 3	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 3 の予習 事後学習・・・Unit 3 の復習
5	Unit 4	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 4 の予習 事後学習・・・Unit 4 の復習
6	Unit 5	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 5 の予習 事後学習・・・Unit 5 の復習
7	Unit 6	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 6 の予習 事後学習・・・Unit 6 の復習
8	中間試験、(Units 1-6)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 1-6 の復習
9	Unit 7	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 7 の予習 事後学習・・・Unit 7 の復習
10	Unit 8	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 8 の予習 事後学習・・・Unit 8 の復習
11	Unit 9	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 9 の予習 事後学習・・・Unit 9 の復習
12	Unit 10	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 10 の予習 事後学習・・・Unit 10 の復習
13	Unit 11	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 11 の予習 事後学習・・・Unit 11 の復習
14	最終試験、(Units 7-11)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 7-11 の復習
15	復習	課程の復習	事前学習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Issues	Garry Pearson, Graham Skerritt, Adrian Francis, Yoshizuka Hiroshi	Seibido
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	35%.　Test 1 35%.　Test 2 30%　Participation, In-class assignments, etc.
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	Debate	科目名（英文）	Debate
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	ＨＩ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2630c0		

授業概要・目的	授業での活動は原則として全て英語で行う。毎回異なるテーマを設定し，それに関連するスキルを学ぶことによって自分の意見を述べられるよう準備したうえで，プレゼンテーションおよびディベートを英語で実施する。これらの言語活動をとおして他者との双方向的な英語コミュニケーションで必要とされる知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	主に国際学部の２年次の学生を対象とし，英語によるプレゼンテーションやディベートを実践することをとおして，自分の意見を発信するだけでなく，相手の意見もよく聞いて，対話による相互理解の姿勢を身につける。授業の活動ではテーマに関する情報の収集方法とスキルを学び，考えを組み立てて表現することができるようになる。意見の不一致が起こりやすい状況設定のもとで，双方が根拠を挙げながら分かりやすいことばでテーマに沿った議論ができるようになる。
授業方法と留意点	クラスメートと様々な意見を出し合いながら、ディスカッションをすることができる。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: Fast Food or Healthy Food? ユニット1: ファストフードか健康的な食事か？	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
2	Unit 2: Smartphone Addiction ユニット2: スマートフォン中毒	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
3	Unit 4: Part-Time Jobs ユニット4: アルバイト	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
4	Debate Preparation ディベートの準備	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	ディベートの準備とクラスで学んだ内容の復習を行ってください（1時間）
5	Debate ディベート	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	クラスでそのトピックについてディベートしてください。
6	Unit 6: Too Shy and Too Scared ユニット6: 過度な内気と恐怖	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
7	Unit 7: Saving Our Oceans ユニット7: 海洋の保護	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
8	Unit 11: Trouble on Vacation ユニット 11: 旅行中のトラブル	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
9	Debate Preparation ディベートの準備	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	ディベートの準備とクラスで学んだ内容の復習を行ってください（1時間）
10	Debate ディベート	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	クラスでそのトピックについてディベートしてください。
11	Unit 12: Driving ユニット12: 運転	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
12	Unit 14: Robots ユニット14: ロボット	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
13	Unit 19: The Volunteers ユニット19: ボランティア	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
14	Debate Preparation ディベートの準備	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	ディベートの準備とクラスで学んだ内容の復習を行ってください（1時間）
15	Debate ディベート	授業で学んだ内容について発表する。	クラスでそのトピックについてディベートしてください。

関連科目	Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym II with Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	小テスト（10%）、課題やレポートなどの提出物（20%）、授業中のディベートや取り組む姿勢など（70%）を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	Good luck!
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Presentation	科目名（英文）	Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2631c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料やICTを用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトやICTを使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目：ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	The quality of your voice and pronunciation is just as important as the content of your speech. Audiences listen to passionate speakers. Let's present from the heart.
担当者の研究室等	7号館3階　Herke研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Presentation	科目名（英文）	Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2631c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料やICTを用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトやICTを使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の進め方を確認するとともに、アイコンタクトについて予習する。(1時間)
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1時間)
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する（1時間）
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1時間)
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1時間)
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1時間）
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1時間)
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容や表現方法について総復習する。(1時間)

関連科目	ドラマなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	Cengage
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	Giving a good presentation takes more than words. Voice, gesture, posture, movement, and visual aids contribute to making a good presentation. I'm looking forward to helping you improve your presentation skills. To pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Presentation	科目名（英文）	Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｽﾀﾝｼｭｰ ｱﾚｻﾝﾄﾞﾛ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2631c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Ready to Present: A Guide to Better Presentations	Malcolm Kostiuk, Herman Bartelen	センゲージ ラーニング株式会社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	This course aims to provide students with the skills necessary to deliver effective presentations at university and in their future careers. Students will learn how to research, plan, organize and present their ideas on a variety of themes. Students are expected to complete homework tasks, collaborate in pair/group work and actively participate in class. This course includes 7 presentations which will be given in front of the class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	原則として、出席率 80%以上(12 回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上休んだ場合(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く) 単位が取得できる見込みはありません。 テキスト(教科書)を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業における評価点をゼロとして扱います。 その他の詳細は、第 1 回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Presentation	科目名（英文）	Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2631c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料やICTを用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトやICTを使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Come prepared to speak.　There will be a focus on not just pronunciation, but clarity of message and cadence.　Presenting is the art of persuading, and proper presenting requires effort.　Try your best!
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion a	科目名（英文）	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1 年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。 また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Anne of Green Gables: A Graphic Novel	Mariah Marsden, Brenna Thummler	Andrews McMeel
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション　15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	In this class, we will be using Anne of Green Gables to discuss a wide variety of topics. Please bring your imagination and your willingness to speak to the classroom. If you do, you are sure to find kindred spirits there.
担当者の研究室等	7 号館 3 階　フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Discussion a	科目名（英文）	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1 年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。 また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
13	グループプロジェクト制作	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
14	グループプロジェクト発表実習	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	ペアワークとグループワーク	総復習を行う（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Impact Issues 2	Richard R Day	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション　15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	In English discussion, we often have different opinions. We often try to persuade the others that we are right and they are wrong by introducing new information and using logic. This may feel uncomfortable or even aggressive. However it is a part of English speaking culture. On this course we will practice saying our honest opinion and giving the reasons why we have this opinion. We will also practice politely attacking other people's opinion and defending our own using logic.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion a	科目名（英文）	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柑本　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1 年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。 また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	大学について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
3	技術について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
4	ルールについて語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
5	責任について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
6	投票について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
7	世界の国語について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
8	借用語について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
10	仕事について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
11	残業の話	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Issues	Garry Pearson Graham Skerritt Adrian Francis Hiroshi YOSHIZUKA	SEIBIDO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション　15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	You will have lots of group activities in this class. Communicate with your classmates actively and have fun learning!.
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion a	科目名（英文）	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1 年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。 また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	none		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション　15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion a	科目名（英文）	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1 年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。 また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション　15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	This class will cover a variety of interesting and relevant topics with a focus on critical thinking. Students will be required to discuss topics from multiple perspectives and engage in rigorous conversation and debate with each other. The final project will require refined presentation skills, which will be covered and practiced in the class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion a	科目名（英文）	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村田　幸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1 年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。 また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGｓ×Discussion	Reiko Toshihara	KINSEIDO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション　15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	We are going to practice speaking about many different topics in this class. Please try your best and don't be afraid to make mistakes.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	Discussion a	科目名（英文）	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田儀　勇樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1 年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。 また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
9	ジャプリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する　（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Read Aloud & Learn English: On Campus	角山　照彦 / Simon Capper	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『暗唱英文 100』100 Select Sentences for Memorization and Recitation		
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	教科書の音声をダウンロードして自宅学習を行いましょう。 予習・復習を怠らないようにし、良い辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 地道な努力により英語力は伸びてゆきます。 教科書の他、ニュースや歌、映画も視聴して楽しく学びましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion a	科目名（英文）	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞｰﾙｵﾐｯﾄﾞ ｻｯｼﾞｬﾄﾞ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1 年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。 また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Solutions : A Topic-based Communication and Discussion Textbook Student Book	Shawn Clankie, Yuki Maekawa, Masanobu Nakatsugawa, Tomohiro Endo	Cengage
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション　15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	・シラバスの詳細は、初回の授業にてお知らせします。 ・授業にただ出席するのではなく、積極的な参加が求められます。
担当者の研究室等	教員室１（２号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies Ⅱa	科目名（英文）	Topic Studies IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井岡　詩子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2635c0		

授業概要・目的	この授業では、欧米の批評言説と作品を扱います。批評言説の一部を英文で読解したうえで、その術語や概念、考え方を説明します。 批評とは、作品や世界に対する新たな視点を提供してくれるものです。いくつかの批評言説とそれに基づく作品解釈への理解を深めることで、自身を取り巻く文化や社会を批判的に見る姿勢を養います。また、英語で書かれた批評言説を読み解くための知識を身に付けます。
到達目標	（1）英語の文章を読解し、正確に和訳する。 （2）欧米の批評言説や作品に関する術語、概念を理解する。 （3）批評、作品、人文知に関わることで、自身の関心に合わせて英語の情報を収集、読解できる。
授業方法と留意点	英文テクストの読解、和訳と併せて、テクストの前提となる知識や作品の説明をおこないます。テクストはこちらで指定し配布しますが、履修者の関心に合わせて追加、変更する場合があります。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、成績評価について	シラバスを確認し、授業の全体像を把握する。
2	精神分析（1）	フロイト（1）	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
3	精神分析（2）	フロイト（2）	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
4	メディア論（1）	マクルーハン	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
5	メディア論（2）	キットラー	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
6	アンフォルム（1）	バタイユ	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
7	アンフォルム（2）	クラウス、ボワ	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
8	構造主義（1）	ソシュール	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
9	構造主義（2）	バルト	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
10	脱構築（1）	デリダ（1）	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
11	脱構築（2）	デリダ（2）	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
12	インファンティア（1）	アガンベン	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
13	インファンティア（2）	リオタール	テクストを読解し、課題の和訳に取り組む（事前）。授業内容を復習し、テクストへの理解を深める（事後）。
14	全体の復習	まとめテスト	全体の復習。
15	総括と補足	まとめテストの返却と解説	全体の復習。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業参加度） 10%、課題（英文和訳） 40%、まとめテスト 50%。 なお、出席回数が全体の 3 分の 2（10 回）以上の者を成績評価の対象とします。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	教科書は定めません。毎回、テクストを配布します。

	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とします。

科目名	Topic Studies Ⅱa	科目名（英文）	Topic Studies IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森　類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2635c0		

授業概要・目的	本授業の目的は次の３つである。 (1) ４技能（Listening・Speaking・Reading・Writing）の向上 (2) 英語によるディスカッション能力の向上 (3) Korean popular culture（韓国のポップカルチャー）について英語文献を通して学ぶこと。
到達目標	(1) ４技能をバランス良く向上させる。CEFR-J[A2-2]～[B1-1]が到達レベル目標である。 (2) 与えられた英語の問いについて、自分で考えを整理しそれを英語で表現できる。 (3) Korean popular culture（韓国のポップカルチャー）について英語を使って簡単な議論をし考察することができる。
授業方法と留意点	(1) 予習（関連知識の事前学習、本文の大意把握、単語の把握）をしてくることが求められる。 (2) 辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	(1) ４技能の向上 (2) TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方、成績評価、学習方法の説明	授業の復習（60 分）
2	'K-POP: A New Force in Pop Music'(2011),Korean Culture and Information Service,Ministry of Culture, Sports and Tourism の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
3	関連記事の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
4	'K-POP: A New Force in Pop Music'(2011),Korean Culture and Information Service,Ministry of Culture, Sports and Tourism の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
5	関連記事の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
6	'K-POP: A New Force in Pop Music'(2011),Korean Culture and Information Service,Ministry of Culture, Sports and Tourism の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
7	関連記事の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
8	中間のまとめ	第 2～7 回で扱ったトピックの整理	理解度確認テストの準備（120 分）
9	'PLUG INTO K-POP', KOREA [2024 VOL .20 No.1]の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
10	'PLUG INTO K-POP', KOREA [2024 VOL .20 No.1]の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
11	関連記事の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
12	Korean TV Shows（韓国ドラマ）に関する記事の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
13	Korean TV Shows（韓国ドラマ）に関する記事の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
14	Korean TV Shows（韓国ドラマ）に関する記事の読解	講義とディスカッション	授業の予習・復習（120 分）
15	期末のまとめと理解度確認テスト	理解度確認テスト	理解度確認テストの準備（120 分）

関連科目	トピック スタディーズⅡb など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題と提出物　30% 小テスト　30% 期末の理解度確認テスト　40%
学生へのメッセージ	1)　予習・復習は欠かさず行うこと。 2)　進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少変更する可能性がある。 3)　特段の事情なく授業回数の３分の１以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 4)　受講学生の理解を助けるため、適宜プリント配布などすることもある。 5)　教科書は担当教員が配布する。

担当者の 研究室等	7 号館 5 階　森研究室
備考	1）事前・事後学習総時間はおおよそ１５時間を目安とする。ただし、受講生によって必要な学習時間に差があるので、各自適切に調整する必要がある。 2）フィードバックは基本的に翌週以降の授業内で行う。 3）質疑については、授業の前後の時間またはオフィスアワーで応対する。

科目名	Discussion b	科目名（英文）	Discussion b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2636c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	春学期に履修した Discussion a に続き、CEFR-J[A2.2]を目標に、複数の英文を連続して発話できるスピーキング能力を身につける。また、スピーキング力を用いて、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	グループワーク	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	汚職について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
3	地方について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
4	高齢化社会について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
5	政治について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
6	環境について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
7	インフラについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
8	代替ネルギーについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
9	携帯電話について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
10	カリキュラムを語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
11	試験について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Take a Stance	Ichizo Ueda	Cengage
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション　15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	教科書の音声をダウンロードして自宅学習を行いましょう。 予習・復習を怠らないようにし、良い辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 地道な努力により英語力は伸びてゆきます。

	教科書の他、ニュースや歌、映画も視聴して楽しく学びましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion b	科目名（英文）	Discussion b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2636c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	春学期に履修した Discussion a に続き、CEFR-J[A2.2]を目標に、複数の英文を連続して発話できるスピーキング能力を身につける。また、スピーキング力を用いて、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	汚職について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
3	地方について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
4	高齢化社会について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
5	政治について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
6	環境について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
7	インフラについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
8	代替エネルギーについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
9	携帯電話について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
10	カリキュラムを語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
11	試験について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
13	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
14	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Impact Issues 2	Richard R Day	Language Solutions
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション　15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	In English discussion, we often have different opinions. We often try to persuade the others that we are right and they are wrong by introducing new information and using logic. This may feel uncomfortable or even aggressive. However it is a part of English speaking culture. On this course we will practice saying our honest opinion and giving the reasons why we have this opinion. We will also practice politely attacking other people's opinion and defending our own using logic.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion b	科目名（英文）	Discussion b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	う
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柑本　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2636c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	春学期に履修した Discussion a に続き、CEFR-J[A2.2]を目標に、複数の英文を連続して発話できるスピーキング能力を身につける。また、スピーキング力を用いて、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	汚職について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
3	地方について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
4	高齢化社会について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
5	政治について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
6	環境について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
7	インフラについて語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
8	代替エネルギーについて語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
9	携帯電話について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
10	カリキュラムを語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
11	試験について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Issues	Garry Pearson Graham Skerritt Adrian Francis Hiroshi YOSHIZUKA	SEIBIDO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション　15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	You will have lots of group activities in this class. Communicate with your classmates actively and have fun learning!.
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion b	科目名（英文）	Discussion b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	え
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田儀　勇樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2636c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	春学期に履修した Discussion a に続き、CEFR-J[A2.2]を目標に、複数の英文を連続して発話できるスピーキング能力を身につける。また、スピーキング力を用いて、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく（１時間）
2	汚職について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
3	地方について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
4	高齢化社会について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
5	政治について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
6	環境について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
7	インフラについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
8	代替エネルギーについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
9	携帯電話について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
10	カリキュラムを語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
11	試験について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する（１時間）
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う（１時間）

関連科目	英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	none		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『暗唱英文 100』100 Select Sentences for Memorization and Recitation		
2			
3			

評価方法（基準）	グループプロジェクトプレゼンテーション　15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion b	科目名（英文）	Discussion b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村田　幸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2636c0		

授業概要・目的	この講義ではSDGsに関する教材を取り扱う。SDGsを通して世界の様々な環境・人権・政治問題等を学び、テーマに対し様々な意見や問いを立てることを目的とする。また思考法についても取り扱いたい。英語でのコミュニケーション、特に話すことは、様々なテーマに対してアイデアを出し、問いを提起し、その内容を深めることにつながるからである。最近の生成AIの普及により、これらの活動がより容易になった。講義でもそれら使用したペアやグループワークを行う。 また上記に加え、学生の英語力の育成のためTOEICBridgeの練習を行う。
到達目標	(1) SDGsに関する包括的な知識の習得及び考察ができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.3]、後期はCEFR-J [B1.1]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	SDGsに関する教材を読み 、内容確認問題に取り組んでもらう。その後 テーマを 1 つ取り上げ、それについて思考法を通じアイデア出し、調べ学習、 ペアワーク や グループワークをしてもらう。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	
2	SDGs Unit 1 Live together ともに生きる	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
3	SDGs Unit 1 Live together ともに生きる	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
4	SDGs Unit 2 Create inclusive society ともに生きる社会を築く	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
5	SDGs Unit 2 Create inclusive society ともに生きる社会を築く	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
6	SDGs Unit 3 Think about food problems 食問題を考える	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
7	SDGs Unit 3 Think about food problems 食問題を考える	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
8	臨時試験①	2～7回目の講義内容	
9	SDGs Unit 4 Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
10	SDGs Unit 4 Ensure quality education for all すべての人に質の高い教育を	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
11	SDGs Unit 6 Don't use plastic プラスチックを使わない	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
12	SDGs Unit 6 Don't use plastic プラスチックを使わない	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
13	SDGs Unit 11 Live in an aging society 高齢化社会を生きる	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
14	SDGs Unit 11 Live in an aging society 高齢化社会を生きる	・SDGs についての語彙・読解・及びペア ワーク・グループワーク	講義内容の復習（1時間）
15	臨時試験②	8～14回目の講義内容	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で学ぶSDGsの基礎ーCLIL Primary SDGs	笹島 茂	三修社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（課題・授業参加等）40% 臨時試験（8回目及び15回目）各30%
学生へのメッセージ	We are going to practice speaking about many different topics in this class. Please try your best and don't be afraid to make mistakes.
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室

備考	

科目名	Topic Studies Ⅱb	科目名（英文）	Topic Studies IIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2637c0		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果（資格）	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
2	Unit 1.1 Is working part time good or bad for university students?	Advantages and disadvantages of working part time.	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
3	Unit 1.2 Should university students work part time?	What kind of work and how much is appropriate for university students?	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
4	Unit 2.1 Workplace Automation: What is it?	Technological innovations through history.	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
5	Unit 2.2 Should workplaces be more or less automated?	How do technological innovations effect work life?	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
6	Unit 3.1 Mass Tourism	What is mass tourism?	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
7	Unit 3.2 Mass Tourism	How does mass tourism affect local ways of living and working?	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
8	Midterm Evaluation	Midterm Evaluation Units 1-3	Review Units 1-3
9	Unit 4.1 What should we eat? Vegetarianism or Veganism.	Different food lifestyles.	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
10	Unit 4.2 What should we eat? Vegetarianism or Veganism.	Should everyone adopt a vegetarian lifestyle?	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
11	Unit 5.1 Is it better to be married or single? Who should I marry?	Marriage customs over time.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
12	Unit 5.2 Is it better to be married or single? Who should I marry?	What makes a marriage successful or not? Is marriage necessary?	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
13	Unit 6.1 Should immigration be increased or decreased?	Immigrants or temporary workers?	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
14	Unit 6.2 Should immigration be increased or decreased?	The question of mass immigration for Japan.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
15	Final Evaluation	Final Evaluation Units 4-6	Review Units 4-6

関連科目	トピック　スタディーズⅡa など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業にて配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 The textbook is a PDF. Students will receive the textbook on the first class.
担当者の研究室等	7 号館 3 階 Herke 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はオフィスアワーにて対応する。

科目名	Topic Studies Ⅱb	科目名（英文）	Topic Studies IIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤澤　宜広
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2637c0		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。(DP1)
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	シラバスの説明 Workers and the Workplaces 1. Job and Career Advancement（導入）	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義（1. Job and Career Advancement）の予習（1時間）
2	1. Job and Career Advancement	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（1. Job and Career Advancement）の復習及び予習（2. On the Job Health and Safety）（1時間）
3	2. On the Job Health and Safety	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（2. On the Job Health and Safety)の復習及び予習(3. Support Systems for Injured Workers）（1時間）
4	3. Support Systems for Injured Workers	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲(3. Support Systems for Injured Workers）の復習及び予習（4. Supervisors and Teamwork）（1時間）
5	4. Supervisors and Teamwork	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（4. Supervisors and Teamwork）の復習及び予習（5. Managing Family Life）（1時間）
6	Housing and Family Life 5. Managing Family Life	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（5. Managing Family Life）の復習及び予習（6. Using Information Services）（1時間）
7	6. Using Information Services	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（6. Using Information Services）の復習及び予習（7. Accessing Services）（1時間）
8	7. Accessing Services	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（7. Accessing Services）の復習及び予習（8. Men's Changing Roles）（1時間）
9	8. Men's Changing Roles	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（8. Men's Changing Roles）の復習及び予習（9. Dealing with Taxes）（1時間）
10	Taxes, Law and Community Issues 9. Dealing with Taxes	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（9. Dealing with Taxes）の復習及び予習（10. Dealing with the Law）（1時間）
11	10. Dealing with the Law	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（10. Dealing with the Law）の復習及び予習（11. Discussing Community Issues）（1時間）
12	11. Discussing Community Issues	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（11. Discussing Community Issues）の復習及び予習（12. Civic Participation）（1時間）
13	12. Civic Participation	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（12. Civic Participation）の復習及び予習（13. Parenting in the United States）（1時間）
14	Parenting and Workplace Roles 13. Parenting in the United States	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲（13. Parenting in the United States）の復習及び予習（1. Job and Career Advancement ～13. Parenting in the United States）（1時間）
15	1. Job and Career Advancement ～ 13. Parenting in the United States	既習範囲の総復習 課題・レポートの準備	課題・レポートの準備（1時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オンライン教材		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Business Partner A2+ Coursebook with Digital Resources	Margaret O'Keeffe, Lewis Lansford, et al.	Pearson Education
2	Intelligent Business Coursebook Elementary	Irene Barrall and Nikolas Barrall	Pearson Education
3	Mastering the American Accent, 2nd. ed.	Lisa Mojsin	Barron's Educational Series

評価方法 （基準）	授業への参加、貢献（ライティング、小テスト、まとめテスト等も含む）...80% 期末課題...20%
学生への メッセージ	There is no royal road to English learning.（英語学習に王道なし）にあるように英語学習に王道（＝ easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race.（急がば回れ）を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう！Keep your chin up!
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	中国語で読み解くⅡ	科目名（英文）	Chinese Reading II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2653e0		

授業概要・目的	1年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験４級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で６割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業では、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。 この科目は「地域言語科目」のうち、１年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	「中国語で会話するⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験４級レベルの中国語力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 第１課　大学生活　課文	授業方法のガイダンス 本文の日本語訳と解説、朗読	事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
2	第 1 課　大学生活　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
3	第 2 課　大学的作息時間　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
4	第 2 課　大学的作息時間　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
5	テスト 第３課　早飯　課文	第１回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第1～2課の内容を復習し、単元テストにそなえる。 事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
6	第３課　早飯　ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
7	第４課　喝茶　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
8	第４課　喝茶　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
9	テスト 第５課　飲食　課文	第２回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第3～4課の内容を復習し、単元テストにそなえる。 事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
10	第５課　飲食　ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
11	第６課　生活習慣　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
12	第 6 課　生活習慣　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
13	第７課　交通　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
14	第７課　交通　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
15	まとめとテスト	第３回単元テスト テストのフィードバックと文法・語彙の総復習	第5～7課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ことばと文化“一挙両得”中級中国語	陳淑梅・陸薇	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み：40% 単元テスト：60%
学生へのメッセージ	課文、ポイント、ドリルは事前に予習してください。
担当者の研究室等	小都研究室（7号館３階）
備考	授業の事前・事後に１時間の学習を要する。

科目名	中国語で読み解くⅡ	科目名（英文）	Chinese Reading II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2653e0		

授業概要・目的	1年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験4級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業では、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。 この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	「中国語で会話するⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験4級レベルの中国語力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 第1課　大学生活　課文	授業方法のガイダンス 本文の日本語訳と解説、朗読	事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
2	第 1 課　大学生活　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
3	第 2 課　大学的作息時間　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
4	第 2 課　大学的作息時間　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
5	テスト① 第3課　早飯　課文	第1回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第1～2課の内容を復習し、単元テストにそなえる。 事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
6	第3課　早飯　ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
7	第4課　喝茶　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
8	第4課　喝茶　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
9	テスト② 第5課　飲食　課文	第2回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第3～4課の内容を復習し、単元テストにそなえる。 事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
10	第5課　飲食　ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
11	第6課　生活習慣　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
12	第 6 課　生活習慣　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
13	第7課　交通　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
14	第7課　交通　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
15	まとめとテスト③	第3回単元テスト テストのフィードバックと文法・語彙の総復習	第5～7課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ことばと文化“一挙両得”中級中国語	陳淑梅・陸薇	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み：40% 単元テスト：60%
学生へのメッセージ	課文、ポイント、ドリルは事前に予習してください。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要する。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、小都）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語で表現するⅡ	科目名（英文）	Chinese Expressions II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2654e0		

授業概要・目的	1年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して表現する力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、これらを用いて中国語で正確に表現できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験4級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6割以上を正解する表現力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で、文法・語彙表現を解説し、本文を繰り返し音読する。さらに作文や暗唱を通して、これらを定着させる。 この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	「中国語で会話するⅡ」および「中国語で読み解くⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験4級レベルの中国語力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 1年生の復習	授業方法のガイダンス 1年生の学習内容の復習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
2	第1課　虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
3	第2課　地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
4	第3課　上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
5	第4課　2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習する（2時間）。
6	復習1、総合練習、小テスト	第1課から第4課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する（2時間）。
7	第5課　豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
8	第6課　道を尋ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
9	第7課　オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
10	第8課　ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習する（2時間）。
11	復習2、総合練習、小テスト	第5課から第8課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する（2時間）。
12	第9課　上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
13	第10課　朝食後は何をする？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
14	第11課　市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習する（2時間）。
15	復習3、総合練習、小テスト	第9課から第11課までの内容を復習する	テストを準備する（2時間）。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE！上海２　初級～中級編	楊凱栄・張麗群	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	テスト、発表、授業に取り組む姿勢（課題）などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テスト：60%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	小都研究室（7号館3階）
備考	学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。

科目名	中国語で表現するⅡ	科目名（英文）	Chinese Expressions II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2654e0		

授業概要・目的	1年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して表現する力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、これらを用いて中国語で正確に表現できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験４級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で６割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。試験や課題に対して用紙上または次回の授業で必ずフィードバックを行う。この科目は「地域言語科目」のうち、１年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	「中国語で会話するⅡ」および「中国語で読み解くⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験４級レベルの中国語の表現力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE！上海１の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
2	第１課　虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
3	第２課　地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
4	第３課　上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
5	第４課　2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
6	第 5 課　豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
7	復習 1、総合練習、小テスト	第 5 課までの内容を復習する	第 5 課までの内容を復習、次のの内容を予習する（2時間）。
8	第 6 課　道を尋ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
9	第 7 課　オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
10	第 8 課　ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
11	第 9 課　上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
12	第 10 課　朝食後は何をする？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
13	第 11 課　市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
14	復習 2、総合練習、小テスト、作文を書く	第 6 課から第 11 課までの内容を復習する	第 6 課から第 11 課までの内容を復習、発表の内容を準備する（2時間）。
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する（2時間）。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE！上海２　初級～中級編	楊凱栄・張麗群	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	テスト、課題、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テスト：60%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後に各 60 分の学修を要する。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、小都）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語で会話するⅡ	科目名（英文）	Chinese Conversation II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2655e0		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるようになる。中国語検定試験４級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で６割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。文法を理解する上で、正しい発音で会話できるように指導する。 この科目は「地域言語科目」のうち、１年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	「中国語で読み解くⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験４級レベルの中国語力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課 再会する	文法 ①反語文の表現 ②積極的な姿勢を示す「来」	事前に、第１課の単語を覚える。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
2	第２課 入学する手続き	文法 ①兼語文 ②介詞「跟～」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
3	第３課 リスニング授業	文法 ①形容詞の重ね型 ②助動詞「会」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
4	第４課 朝市を見物する	文法 ①存現文（場所詞＋動詞＋名詞） ②複文「除了 A～還 B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第５課 動物園	文法 ①様態補語「得」 ②副詞「再」と「又」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第６課 中秋の名月	文法 ①「快要～了」 ②複文「一辺 A～一辺 B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	復習 単元テスト１	・第１課～第６課の復習 ・単元テスト１	第１課～第６課の復習すること。
8	第７課 国慶節	文法 ①複文「因為 A～所以 B」 ②可能補語	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
9	第８課 京劇を見る	文法 ①「没想到～」 ②動詞「像」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
10	第９課 本を借りる	文法 ①副詞「剛剛」 ②複文「一 A～就 B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
11	第１０課 助け合い	文法 ①動詞「覚得」 ②指示代名詞	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
12	第１１課 ホテルを探す	文法 ①量詞「～宿」 ②複合方向補語「～出来」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
13	第１２課 端午の節句	文法 ①複文「雖然 A～但是 B」 ②助詞「什麼的」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
14	第１３課 日の出を見る	文法 ①動詞「打算」 ②複文「即使 A，也 B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文をじょ繰り返して読むこと
15	復習課 単元テスト２	単元テスト２	事前に、第７課～第 13 課の復習すること。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅡ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	We Can 中国語	徐 送迎	朝日出版社
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中日辞典　第3版</td><td>北京商務印書館・小学館</td><td>小学館</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>参加度と課題：50%
テスト：50%で評価する</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>教科書は必ず購入してください。
授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td></td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業の事前・事後に1時間の学習を要します。</td></tr>
</table>

科目名	中国語で会話するⅡ	科目名（英文）	Chinese Conversation II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2655e0		

授業概要・目的	基礎中国語で学んだものを復習しつつ、ワンランク上の聴く、話す、読む、書く力をバランスよく身に着けられるよう授業を進める。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるようになる。中国語検定試験４級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で６割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、１年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。 聴くと話すことを一体にして演習する。
科目学習の効果（資格）	「中国語で読み解くⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験４級レベルの中国語力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一課	①反語文 ②「来る」	単語を予習で覚える 本文の音読練習
2	第二課	①兼語文 ②「跟」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
3	第三課	①形容詞の重ね型 ②「会」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
4	第四課	①存現文 ②「除了～還～」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
5	第五課	①様態補語 ②「再」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
6	第六課	①「快要～了」 ②「一辺～一辺～」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
7	復習	単元「第一課～第六課」復習 テスト	前回までの内容を復習する
8	第七課	①「因為～所以～」 ②可能補語	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
9	第八課	①「没想到～」 ②「像」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
10	第九課	①「剛剛」 ②「一～就～」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
11	第十課	①「覚得」 ②指示代名詞	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
12	第十一課	①量詞「宿」 ②複合方向補語	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
13	第十二課	①「sui 然～但是～」 ②助詞「shenme 的」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
14	第十三課	①「即使～也～」 ②「打算」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
15	復習 テスト	第七課～第十三課単元テスト	復習

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅡ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	WE　CAN 中国語	徐 送迎	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度と課題 50% テスト 50%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業の事前・事後に１時間の学習を要する。 単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行う。一年後期中国語を履修していた学生が対象者。

科目名	中国語で読み解くⅢ	科目名（英文）	Chinese Reading III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2656e0		

授業概要・目的	2年生前期までの中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6～7割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業では、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。 この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	「中国語で会話するⅢ」および「中国語で表現するⅢ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験3級レベルの中国語力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 第8課　校園節　課文	授業方法のガイダンス 本文の日本語訳と解説、朗読	事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
2	第8課　校園節　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
3	第9課　体育　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
4	第9課　体育　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
5	テスト 第10課　歌舞伎和京劇　課文	第1回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第8～9課の内容を復習し、単元テストにそなえる。 事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
6	第10課　歌舞伎和京劇　ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
7	第11課　方言　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
8	第11課　方言　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
9	テスト 第12課　飯卓上的習慣　課文	第2回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第10～11課の内容を復習し、単元テストにそなえる。 事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
10	第12課　飯卓上的習慣　ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
11	第13課　過年　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
12	第13課　過年　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
13	第14課　年軽人的婚事　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
14	第14課　年軽人的婚事　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
15	まとめとテスト	第3回単元テスト テストのフィードバックと文法・語彙の総復習	第12～14課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅢ」「中国語で会話するⅢ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ことばと文化“一挙両得”中級中国語	陳淑梅・陸薇	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み：40% 単元テスト：60%
学生へのメッセージ	課文、ポイント、ドリルは事前に予習してください。
担当者の研究室等	小都研究室（7号館3階）
備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要する。

科目名	中国語で読み解くⅢ	科目名（英文）	Chinese Reading III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2656e0		

授業概要・目的	2年生前期までの中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6～7割以上を正解することのできる読解力を身につける。
授業方法と留意点	授業では、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。 この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	「中国語で会話するⅢ」および「中国語で表現するⅢ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験3級レベルの中国語力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 第8課　校園節　課文	授業方法のガイダンス 本文の日本語訳と解説、朗読	事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
2	第8課　校園節　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
3	第9課　体育　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
4	第9課　体育　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
5	テスト① 第10課　歌舞伎和京劇　課文	第1回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第8～9課の内容を復習し、単元テストにそなえる。 事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
6	第10課　歌舞伎和京劇　ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
7	第11課　方言　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
8	第11課　方言　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
9	テスト② 第12課　飯卓上的習慣　課文	第2回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第10～11課の内容を復習し、単元テストにそなえる。 事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
10	第12課　飯卓上的習慣　ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
11	第13課　過年　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
12	第13課　過年　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
13	第14課　年軽人的婚事　課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
14	第14課　年軽人的婚事　ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
15	まとめとテスト③	第3回単元テスト テストのフィードバックと文法・語彙の総復習	第12～14課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅢ」「中国語で会話するⅢ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ことばと文化“一挙両得”中級中国語』	陳淑梅・陸薇	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み：40% 単元テスト：60%
学生へのメッセージ	課文、ポイント、ドリルは事前に予習してください。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要する。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、小都）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語で表現するⅢ	科目名（英文）	Chinese Expressions III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2657e0		

授業概要・目的	2年生前期までの中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して表現する力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、これらを用いて中国語で正確に表現できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6～7割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。試験や課題に対して用紙上または次回の授業で必ずフィードバックを行う。この科目は「地域言語科目」のうち、１年後期、2年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	「中国語で会話するⅢ」および「中国語で読み解くⅢ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験3級レベルの中国語力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第12課　上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
2	第13課　日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
3	第14課　お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
4	第15課　日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
5	復習1、総合練習、小テスト	第12課から第15課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する（2時間）。
6	第16課　散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
7	第17課　列車のチケット	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
8	第18課　周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
9	第19課　帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
10	復習2、総合練習、小テスト	第16課から第19課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する（2時間）。
11	第20課　留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
12	第21課　何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
13	第22課　また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
14	復習3、総合練習、小テスト、作文を書く	第20課から第22課までの内容を復習する	テストと発表の内容を準備する（2時間）。
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する（2時間）。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で会話するⅢ」「中国語で読み解くⅢ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE！上海２　初級～中級編	楊凱栄・張麗群	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	テスト、発表、授業に取り組む姿勢((課題)などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テスト：60%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、小都）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語で表現するⅢ	科目名（英文）	Chinese Expressions III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2657e0		

授業概要・目的	2年生前期までの中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して表現する力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、これらを用いて中国語で正確に表現できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6～7割以上を正解する表現力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行い、文法・語彙表現を解説し、本文を繰り返し音読する。さらに作文や暗唱を通して、これらを定着させる。 この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	「中国語で会話するⅢ」および「中国語で読み解くⅢ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験3級レベルの中国語力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 前期の復習	授業方法のガイダンス 前期までの学習内容の復習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
2	第12課　上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
3	第13課　日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
4	第14課　お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
5	第15課　日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習する（2時間）。
6	復習1、総合練習、小テスト	第12課から第15課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する（2時間）。
7	第16課　散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
8	第17課　列車のチケット	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
9	第18課　周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
10	第19課　帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習する（2時間）。
11	復習2、総合練習、小テスト	第16課から第19課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する（2時間）。
12	第20課　留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
13	第21課　何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する（2時間）。
14	第22課　また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習する（2時間）。
15	復習3、総合練習、小テスト	第20課から第22課までの内容を復習する	テストを準備する（2時間）。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で会話するⅢ」「中国語で読み解くⅢ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE！上海２　初級～中級編	楊凱栄・張麗群	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	テスト、発表、授業に取り組む姿勢（課題）などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テスト：60%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	小都研究室（7号館3階）
備考	学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。

科目名	中国語で会話するⅢ	科目名（英文）	Chinese Conversation III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2658e0		

授業概要・目的	基礎中国語で学んだものを復習しつつ、ワンランク上の聴く、話す、読む、書く力をバランスよく身に着けられるよう授業を進める。
到達目標	日常会話レベルの中国語力を身につけるとともに、中国語検定試験３級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で 6～7 割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1 年後期、及び 2 年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。 聴くと話すことを一体にして演習する。
科目学習の効果（資格）	「中国語で読み解くⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験３級レベルの中国語力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第十四課	①「如果～就～」 ②助動詞「願意」	前期内容の復習 新しい単語を覚える 練習問題の解答
2	第十五課	①「為了～、為」 ②助動詞「応該」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
3	第十六課	①「既是～又～」 ②「据説～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
4	第十七課	①受け身文 ②「可是」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
5	第十八課	①「把」構文 ②「連～都～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答 復習
6	第十九課	①「～起来」 ②助詞「地」	新しい単語を覚える 練習問題の解答 復習
7	復習回	単元テスト	新しい単語を覚える 練習問題の解答
8	第二十課	①「既～又～」 ②動詞＋一下児	新しい単語を覚える 練習問題の解答
9	第二十一課	①「早就」 ②「向～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
10	第二十二課	①「去～zenme 走？」 ②「往～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
11	第二十三課	①「就像～一様」 ②助動詞「得」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
12	第二十四課	①「建議～」 ②「通過～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
13	第二十五課	①「zhe 様」 ②「不知道～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
14	第二十六課	①可能補語 ②「対～来説」	新しい単語を覚える 練習問題の解答 復習
15	復習回 単元テスト	単元テスト	復習

関連科目	中国語で読み解くⅡ、中国語で表現するⅡ、中国語で会話するⅡ 中国語で読み解くⅢ、中国語で表現するⅢ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	WE　CAN 中国語	徐 送迎	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度及び課題 50% テスト 50%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業の事前・事後に 1 時間の学習を要する。 単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行う。一年後期及び二年前期に中国語を履修していた学生が対象者。

科目名	中国語で会話するⅢ	科目名（英文）	Chinese Conversation III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2658e0		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行う。
到達目標	日常会話レベルの中国語力を身につけるとともに、中国語検定試験３級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で 6～7 割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。この科目は「地域言語科目」のうち、1 年後期、及び 2 年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。
科目学習の効果（資格）	「中国語で読み解くⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験３級レベルの中国語力を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１４課 ボランティア	文法 ①複文「如果 A, 就 B」 ②助動詞「願意」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
2	第１５課 運動会	文法 ①介詞「為了～」「為～」 ②助動詞「応該」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
3	第１６課 孔子廟を参拝する	文法 ①複文「既是Ａ～又是Ｂ」 ②挿入語「据説～」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
4	第１７課 スピーチコンクール	文法 ①受身文「被～」 ②接続詞「可是」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
5	第１８課 農家を訪問する	文法 ①「把」構文 ②「連Ａ都（也）Ｂ」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
6	第１９課 試験	文法 ①複合方向補語「～起来」 ②助詞「地」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
7	復習課 単元テスト１	・第１４課～第１９課の復習 ・単元テスト１	事前に、第 14 課～第 19 課を復習すること
8	第２０課 コートを買う	文法 ①複文「既Ａ、又Ｂ」 ②動量補語「一下児」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
9	第２１課 懇親会	文法 ①副詞「早就」 ②介詞「向～」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
10	第２２課 道を尋ねる	文法 ①「去～怎麼走？」 ②介詞「往～」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
11	第２３課 九寨溝	文法 ①「就像～一様」 ②助動詞「得」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
12	第２４課 兵馬俑	文法 ①動詞「建議」 ②介詞「通過～」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
13	第２５課 仕事を探す	文法 ①指示代名詞「這様」 ②「不知道～」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
14	第２６課 見送り	文法 ①可能補語 ②「対～来説」 本文、課題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
15	復習課 単元テスト２	・第２０課～第２６課の復習 ・単元テスト２	事前に、第 20 課～第 26 課の復習すること。

関連科目	中国語で読み解くⅡ、中国語で表現するⅡ、中国語で会話するⅡ 中国語で読み解くⅢ、中国語で表現するⅢ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	We Can 中国語	徐 送迎	朝日出版社
2			

	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典　第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			

評価方法 （基準）	出席と課題の提出50% テスト50%で評価する。
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要します。

科目名	スペイン語文法Ⅱ	科目名（英文）	Spanish Grammar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	磯野　吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2663e0		

授業概要・目的	スペイン語は、スペインやラテンアメリカを中心に、4億人を超える人びとが用い、20カ国の公用語となっている国際語です。国連の公用語でもあります。同じスペイン語圏でも歴史、文化、暮らしぶりは多様で、地域差のある文化に親しんだり経験したりできる点は、スペイン語学習の醍醐味の一つといえます。この授業ではスペイン語文法Ⅰで学んだ基礎文法をさらに発展させます。現在形の動詞だけでなく点過去形、線過去形、現在完了形などを用いた文の構造を理解し、短文を正確に読み書きできる力を養います。
到達目標	スペイン語の基礎的な文法事項のうち、動詞の現在形の活用だけでなく点過去形、線過去形、現在完了形の活用などを正確に身につけ、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。 教科書（2023年度「スペイン語文法Ⅰ」で使用した教科書）の既習項目を復習し、第11課までを学習範囲とし、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。
科目学習の効果（資格）	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定５級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 既習項目の復習	名詞の性・数、冠詞、ser 動詞、estar 動詞、疑問文と否定文、形容詞	教科書第1課～第3課に目を通しておき、授業後には応用練習問題を解く。(1時間)
2	既習項目の復習	直説法現在の規則活用と不規則活用、目的格人称代名詞、動詞 gustar、時刻表現	教科書3課～第5課に目を通しておき、授業後には応用練習問題を解く。(1時間)
3	復習項目のテスト 第6課　Nuestro equipo es mas fuerte.	復習項目のテスト実施と解説 所有詞、指示詞	現在形の活用を暗記する。第1課～第5を復習しテストに備える。教科書第6課に目を通しておき、授業後には練習問題を解く。(1時間)
4	第6課　Nuestro equipo es mas fuerte. 第 7 課　Trate de ser traductora.	比較級、最上級 点過去形（規則動詞）	教科書第6課と第7課に目を通しておき、授業後には練習問題を解く。点過去形の規則動詞の復習。(1時間)
5	第 7 課　Trate de ser traductora.	点過去形（不規則動詞）、疑問詞	教科書第7課に目を通しておき、授業後には練習問題を解く。点過去形の不規則動詞の復習。(1時間)
6	第6課と第7課のテスト	比較級、最上級、点過去形を用いた文の理解度確認と解説	テスト範囲の総復習とテスト後の見直し。(1時間)
7	第8課　Cuando era nina...	線過去形（規則動詞と不規則動詞）	教科書第8課に目を通しておき、授業後には練習問題を解く。線過去形の規則動詞と不規則動詞の復習。(1時間)
8	第8課　Cuando era nina... 第 9 課　De que estais hablando?	文の連結、動詞 haber 現在分詞	教科書第8課と第9課に目を通しておき、授業後には練習問題を解く。(1時間)
9	第 9 課　De que estais hablando ?	動詞 hacer、季節・月・曜日の表現、不定語と否定語	教科書第9課に目を通しておき、授業後には練習問題を解く。(1時間)
10	第8課と第9課のテスト	線過去形、現在分詞、不定語、否定語を用いた文の理解度確認と解説	テスト範囲の総復習とテスト後の見直し。(1時間)
11	第 10 課　Se llama Soseki Natsume.	過去分詞、受動文、現在完了形	教科書第 10 課に目を通しておき、授業後には練習問題を解く。(1時間)
12	第 10 課　Se llama Soseki Natsume. 第 11 課　Ven.	再帰動詞（基本的なはたらきと派生的なはたらき）	教科書第10課と第11課に目を通しておき、授業後には練習問題を解く。現在形の規則動詞と不規則動詞の復習。(1時間)
13	第 11 課　Ven.	二つの受動文、命令法、関係詞、不定詞のはたらき	教科書第 11 課に目を通しておき、授業後には練習問題を解く。(1時間)
14	第10課と第11課のテスト	現在完了形と再帰動詞を用いた文の理解度確認と解説	テスト範囲の総復習とテスト後の見直し。学習した文法項目の総復習を行い、臨時試験に備える。(1時間)
15	臨時試験 臨時試験の解説	臨時試験の実施、返却、解説。学期を通じた理解度の確認と要点の復習	全学習範囲の総復習を行う。(1時間)

関連科目	スペイン語読解　　スペイン語会話Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	動く！スペイン語　新正書法改訂版	福嶌教隆	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	臨時試験と小テスト 80%、練習問題の予習・提出物など授業参加意欲 20%
学生へのメッセージ	・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切にして地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。

	スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、間違いを恐れず能動的に楽しく学ぶ姿勢を持ち続けることが大切です。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 ・授業内で行う試験についてはすべて、返却後、解答の提示と解説を受ける。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を準備しておき、解説を受ける。 ・2023 年度後期「スペイン語文法Ⅰ」で使用した教科書を引き続き使用します。 ・授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じます。

科目名	スペイン語読解	科目名（英文）	Spanish Reading
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2664e0		

授業概要・目的	１年次後期に続き、スペイン語の基礎文法の知識を身につけ、それをもとに簡単な文章を読解する。 語彙も正確に適切に使えるよう、ニュアンスを含めた語義解釈を文章理解を通して行う。
到達目標	モデルとなる文をしっかり記憶し、語彙を変えるなどして、異なる文を作れるようになる。 平明なスペイン語の文が読めるようになる。辞書を有効に使えるようになる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1 年後期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。 教科書は用いず、毎回教材を配布します。 同時期に開講される「スペイン語文法Ⅱ」の進度内容に合わせて、学習事項を反映した文章を教材として選び配布します。 文や語彙を正確に覚えて（声でも文字でも）再現することを目指すため、毎回きちんと予習・暗記した状態で授業に臨むこと。
科目学習の効果（資格）	すべての学習の基礎たる暗記・暗唱、予習・自習・復習を徹底することで、スペイン語で文章を読んで理解できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 1 年次後期既習項目の復習（1）	授業の進め方の説明 動詞 ser, estar を含む文章の読解と応用	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
2	1 年次後期既習項目の復習（2）	直説法現在の規則活用と不規則活用、目的格代名詞、gustar 型動詞等を含む文章の読解と応用	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
3	1 年次後期既習項目の復習（3）	語幹母音変化動詞、基数、時刻表現等を含む文章の読解と応用	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
4	復習 所有詞、指示詞、比較級、最上級を含む文章の読解と応用	第１－3 回の学習内容の理解を踏まえた文章題	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
5	過去時制で書かれた文章の読解と応用（1）	直説法点過去（規則動詞および不規則動詞）	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
6	過去時制で書かれた文章の読解と応用（2）	直説法点過去（不規則動詞）および線過去	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
7	復習 点過去と線過去の使い分け	直説法点過去と線過去の両方を含む文章の読解と応用	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
8	筆記テスト	テスト後の解説・フィードバック	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
9	現在分詞を含む文章表現の理解	現在分詞、不定語・否定語、季節・月・曜日等を含む文章の読解と応用	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
10	過去分詞を含む文章表現の理解	過去分詞、受動文、現在完了を含む文章の読解と応用	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
11	復習	点過去、線過去、現在完了を含む文章の読解と応用	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
12	再帰動詞を含む文章表現の理解（1）	再帰動詞を多く用いた文章の読解と応用	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
13	再帰動詞を含む文章表現の理解（2）	再帰動詞のさまざまなはたらきを理解するための文章読解	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
14	筆記テスト	テスト前に点過去、線過去、現在完了を中心とした復習	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
15	テストの解説 本科目の振り返り	何がどこまで覚えられたか、できるようになったかを考える	語句・文の意味を辞書で調べ覚える

関連科目	「スペイン語文法Ⅱ」「スペイン語会話Ⅱ」「ラテンアメリカの言語と文化」「スペインの言語と文化」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（ポケット）プログレッシブ西和・和西辞典		小学館
2			
3			

評価方法（基準）	暗記・暗唱の小テスト３０％　＋　中間・期末の筆記テスト７０％
学生へのメッセージ	本科目は、よく読み、よく聴き、よく覚え、よく唱えることを基礎にします。
担当者の研究室等	講師控室（７号館２階）
備考	授業内容および進捗は、あくまでも計画です。クラスの規模や理解度に応じて、随時計画を修正・変更します。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上を要する。辞書を用意すること（ここに挙げたものをはじめ、初回授業時にいくつか紹介する）。

科目名	スペイン語会話Ⅱ	科目名（英文）	Spanish Conversation II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート　ロイデ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2665e0		

授業概要・目的	学びつつある文法の知識を活かし ながら、日常的によく使う表現をまずは身につける。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけ ること を実践する この授業ではスペイン語の基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進める。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。 スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な問いかけや応答ができるように なることをめざす。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1 年後期開講のスペイン語 の授業を履修している学生を対象とします。 第 5 課から第 12 課まで学習する予定です。受講にあたっては教科書、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、 受講生の理解度により進度を調整する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期で学習内容の確認 第 5 課(前半)	前期で学習したことの確認	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと 授業後は動詞の活用の確認
2	前期で学習内容の確認 第 5 課(前半)	前期で学習したことの確認	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと 授業後は動詞の活用の確認
3	5 課 La familia	指示詞 2 所有 2 動詞 Tener 数字 30-100 人の記述 家族の紹介	ご家族について話すこと 人の性格や案姿について話すこと 会話文を声に出して繰り返し練習する
4	第 6 課 En vacaciones voy a ir a...	Hay と Estar の用法 動詞 Ir, querer, tener que 月と季節 有名な場所 旅の計画 理由と目的	有名な場所について話す。 場所ややりたい生活について情報をやり 取りする 旅の計画や簡単な行程について皆の前に 話す
5	第 6 課 En vacaciones voy a ir a...	Hay と Estar の用法 動詞 Ir, querer, tener que 月と季節 有名な場所 旅の計画 理由と目的	有名な場所について話す。 場所ややりたい生活について情報をやり 取りする 旅の計画や簡単な行程について皆の前に 話す
6	第 7 課 Me gusta mucho la musica... Y a ti?	前置詞を伴う人称代名詞 好みの一致と不一致 動詞 Gustar, Encantar, Interesar 予定と招待	好み、趣味、興味について話す 計画と義務について話す イベントについて話す 会話文を声に出して繰り返し練習する
7	第 7 課 Me gusta mucho la musica... Y a ti?	前置詞を伴う人称代名詞 好みの一致と不一致 動詞 Gustar, Encantar, Interesar 予定と招待	好み、趣味、興味について話す 計画と義務について話す イベントについて話す 会話文を声に出して繰り返し練習する
8	復習 小テスト　『オラル』	第 5 課 から第 7 課までに学習した文法や 語彙・会話・表現の確認期末試験	授業前に第 5 課 から第 7 課までに学習し た文法および語彙、 会話での表現を総確認しておくこと
9	第 8 課 De compras	不規則活用する動詞 1 直接目的人称代名詞 数字 100ー1000000 序数 不定詞 買い物の語彙	市場や店頭について話す。 会話文を声に出して繰り返し練習する
10	第 8 課 De compras	不規則活用する動詞 1 直接目的人称代名詞 数字 100ー1000000 序数 不定詞 買い物の語彙	市場や店頭について話す。 会話文を声に出して繰り返し練習する
11	第 9 課 A comer!	直接目的人称代名詞と間接目的人称代名 詞 動詞 Saber Poder 動詞 Ser / Estar + 形容詞 料理、食べ物、飲み物の語彙	食べたいもの飲みたいものを話す。 会話文を声に出して繰り返し練習する
12	第 9 課 A comer!	直接目的人称代名詞と間接目的人称代名 詞 動詞 Saber Poder 動詞 Ser / Estar + 形容詞 料理、食べ物、飲み物の語彙	食べたいもの飲みたいものを話す。 会話文を声に出して繰り返し練習する
13	第 10 課 Los mexicanos se levantan pronto	代名動詞 天気 日常生活 日本や他の国々の習慣	1 日の生活について話す 天候について話す スペイン、ラテンアメリカ,日本の日常生 活について話す 会話文を声に出して繰り返し練習する
14	第 10 課 Los mexicanos se levantan pronto	代名動詞 天気 日常生活 日本や他の国々の習慣	1 日の生活について話す 天候について話す スペイン、ラテンアメリカ,日本の日常生 活について話す 会話文を声に出して繰り返し練習する
15	期末試験　『オラル』	後期に学習した文法や語彙・会話・表現の確認期末試験	授業前に後期に学習した文法や語彙 会話や表現を総確認しておくこと。

関連科目	スペイン語文法 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『Muy Bien! 1(いいね!ス ペイン語)』	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz- Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出 版社
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における課題(50%) 期末試験 『オラル』(50%)から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)
学生への メッセージ	スペイン語は日本語話者にとって聞き取りも発話もとても簡単な言語です。教員とも同級生とも積極的に 対話してください。 授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言すること。疑問点があれば何なりと質問し、理解で きるまで説明を求めること。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間数として 15 時間以上を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に解説を行う。

科目名	スペイン語圏社会講読（南欧）	科目名（英文）	Readings on the Spanish-Speaking World (Southern Europe)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2666e0		

授業概要・目的	スペインを中心とする南欧の文化、地理、社会についてスペイン語で読みながら知識を得る。 スペイン語での文章の読解を通して、南欧の社会問題を考える。 視聴覚教材等を適宜使用し、テーマの理解を深める。
到達目標	スペイン語の文法知識が深まり、長文の内容を正確に読み解くことができる。 語彙を修得し、辞書の使用で比較的平易な文章の内容が理解できる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とする。 事前に配布されたプリントを、辞書を使い自力で訳す。 受講生の理解度によっては、授業内容を変更する可能性もある。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５～６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 文法の復習	授業概要の説明 文法事項の復習	１年後期、２年前期に学習したスペイン語の文法を見直しておく
2	地理、歴史（１）	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
3	地理、歴史（２）	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
4	地理、歴史（３）	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
5	文化（１）	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
6	文化（２）	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
7	文化（３）	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
8	前半のまとめ	既習項目の確認	前半の復習
9	世界遺産（１）	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
10	世界遺産（２）	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
11	世界遺産（３）	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
12	社会問題（１）	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
13	社会問題（２）	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
14	後半のまとめ	既習項目の確認	後半の復習
15	総まとめ	既習項目の確認	総復習

関連科目：全てのスペイン語関連の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度、予習、復習 30% 中間、確認テスト 70%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間数として 15 時間以上を要す。

科目名	スペイン語圏社会講読（ラテンアメリカ）	科目名（英文）	Readings on the Spanish-Speaking World (Latin America)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2667e0		

授業概要・目的	ラテンアメリカの歴史、文化、社会、人びとの暮らしなどについて、スペイン語で書かれた文章を読みながら知識を得る。 報道記事や評論、ときには文学作品の一部の読解を通して、ラテンアメリカの社会問題について考える。
到達目標	スペイン語の文法知識が深まり、まとまりのある文章内容を正確に理解することができる。 辞書の助けを得れば平易な文章を読みこなせるようになる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。 事前に配布する教材を必ず予習して授業に臨んでください。 クラスの規模や習熟度に応じて授業計画を適宜修正することがあります。
科目学習の効果（資格）	スペイン語技能検定５級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 既習文法事項の復習	授業概要の説明 分包事項の復習	1年後期、2年前期に学習したスペイン語の文法を見直しておく
2	地理・歴史（１）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
3	地理・歴史（２）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
4	地理・歴史（３）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
5	文化（１）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
6	文化（２）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
7	文化（３）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
8	前半のまとめ	既習内容の確認	前半の復習
9	世界遺産（１）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
10	世界遺産（２）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
11	世界遺産（３）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
12	社会問題（１）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
13	社会問題（２）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
14	社会問題（３）	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
15	総まとめ	既習内容の確認	総復習

関連科目	すべてのスペイン語関連の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教材資料を配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度、予復習 50%、中間、期末の臨時試験 50%
学生へのメッセージ	これからも長く使える辞書としては、『西和中辞典』（高垣敏博ほか、小学館）をお薦めします。
担当者の研究室等	講師控室（７号館２階）
備考	事前・事後学習の総時間数は 15 時間以上を要する。

科目名	スペイン語文章構成	科目名（英文）	Spanish Composition
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2668e0		

授業概要・目的	文の要素と構造を正しく理解することを通して、スペイン語で作文することを学ぶ。 文法の精度を高めながら、論理的な文章になるよう推敲を重ねる。 モデルとなる文章を分析し、その暗記と模倣をもとにスペイン語の文構築が正確に出来る力を養う。
到達目標	基本文型を理解し、正確なスペイン語での文章表現ができる。 語彙力を高め、多様な表現を作ることができる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とする。 和西辞典は必須です。必ず購入し、事前学習で使用すること。 必ず与えられた練習問題を解いたうえで授業に臨み、スペイン語の文の構造と構文についての理解を深める。 受講生の理解度によっては、授業計画の進度が変更する可能性がある。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 文法の復習 語順	授業の概要についての説明 １年後期、２年前期に学習した文法の復習	テキストを購入しておく １年後期、２年前期に学習したスペイン語の文法を見直しておく
2	ser, estar, hay の使い分け	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
3	不定語・否定語	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
4	天候・気候の表現	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
5	gustar 型動詞	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
6	比較表現	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
7	完了・経験・継続の表現	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
8	前半のまとめ	既習項目の確認	前半の復習
9	点過去と線過去の使い分け	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
10	再帰動詞（１）	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
11	再帰動詞（２）	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
12	受け身の se を使った文・動詞３人称複数形を使った表現	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
13	一般の se を使った表現	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
14	後半のまとめ	既習項目の確認	後半の復習
15	総まとめ	既習項目の確認	総復習

関連科目	全てのスペイン語関連の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	表現のためのスペイン語作文	木越勉、古川亜矢	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2	和西辞典	小池和良ほか	小学館
3	ポケットプログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館

評価方法（基準）	授業への参加度、予習、復習 30% 中間、確認テスト 70%
学生へのメッセージ	主語と動詞、形容詞や副詞といった品詞の使い方、文型をよく理解することが大切です。これらにこだわって取り組んでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室

備考	授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。

科目名	総合インドネシア語	科目名（英文）	Comprehensive Indonesian
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2673e0		

授業概要・目的	これまでに学んだインドネシア語（Bahasa Indonesia）の基礎的運用能力を踏まえ、総合的な運用能力の一層の向上を目指す。 授業では、あらゆる文体の文章を取り上げ、幅広く「生きた」インドネシア語の「読む・書く・聴く・話す」の能力を高めていく。そして、特にインドネシア語の構造を理解し、的確な日本語訳文が作れるようにする。そのためには、授業で出てくるインドネシア語文について、文法を踏まえながら、その構造を説明し、受講生が完全に理解できるまで丁寧に解説する。
到達目標	インドネシア語運用能力のスキルアップが可能となると同時に、日本語による文章の仕組みも理解できる。
授業方法と留意点	授業で取り上げる文章はプリント教材を準備するので、予習や復習をしっかりとこなすこと。 授業時にはインドネシア語辞書を必ず携行すること。 ※この科目は「地域言語科目」のうち、１年後期・２年前期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基礎力確認演習①	既習事項の復習を行い、インドネシア語基礎的な運用能力を確認する。	学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
2	基礎力確認演習②	既習事項を踏まえた単文の講読や作文を行い、インドネシア語基礎的な運用能力を確認する。	学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
3	基礎力確認演習③	受動文や能動文の構文を復習し、インドネシア語基礎的な運用能力を確認する。	学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
4	会話文演習①	会話文の講読や作文を通じて、実践的なインドネシア語のスキルアップを図る。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
5	会話文演習②	会話文の講読や作文を通じて、実践的なインドネシア語のスキルアップを図る。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
6	短編小説に触れる①	簡単な短編小説の講読を通じて、あらゆる表現法を学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
7	短編小説に触れる②	短編小説の講読を通じて、あらゆる表現法を学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
8	復習	これまでに学んだことを復習し、中間テスト実施する。それにより、自身のインドネシア語運用能力を再確認する。	これまでに学んだことの復習をすること（１時間程度）。
9	インドネシアの教科書に触れる①	インドネシアで実際に使用されている教科書の講読を通じて、インドネシア語のスキルアップを図ると同時にインドネシアの教育事情について学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
10	インドネシアの教科書に触れる②	インドネシアで実際に使用されている教科書の講読を通じて、インドネシア語のスキルアップを図ると同時にインドネシアの教育事情について学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
11	インドネシアの教科書に触れる③	インドネシアで実際に使用されている教科書の講読を通じて、インドネシア語のスキルアップを図ると同時にインドネシアの教育事情について学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
12	エッセイに触れる①	インドネシア人の書いたエッセイの講読を通じて、ものの考え方や表現法について学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
13	エッセイに触れる②	インドネシア人の書いたエッセイの講読を通じて、ものの考え方や表現法について学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
14	エッセイに触れる③	インドネシア人の書いたエッセイの講読を通じて、ものの考え方や表現法について学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること（１時間程度）。
15	総復習とまとめ	これまでに学んだことの総復習を行い、最終テストを実施する。	これまでに学んだことの復習を行うこと（１時間程度）。

関連科目	インドネシア語科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次	Grup sanggar
2	インドネシア語学習辞典	川上雄作	遊文舎
3			

評価方法（基準）	２回の復習テスト〔中間テスト・最終テスト〕(85%)、授業への取り組み姿勢（15%） 詳細は初回授業で説明する。
学生への	インドネシア語をモノにするために一生懸命に取り組みましょう。

メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館４階　浦野研究室
備考	この授業で取り上げるプリント教材のレベルは、受講生のインドネシア語運用能力を見極めながら設定する。そのため、各回の授業テーマは前後することがあることもご了解いただきたい。

科目名	インドネシア語表現Ⅱ	科目名（英文）	Indonesian Expressions II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金子　正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2674e0		

授業概要・目的	本講義は、インドネシア語の基礎的な運用能力を既に習得している学生を対象とし、日常生活レベルでの、インドネシア語によるフォーマル／インフォーマルな表現能力の修得を学修の到達目標とする。 インドネシア語で書かれた短い物語や簡単な雑誌記事などの読解、フォーマルな招待状や短いレポートなどのインドネシア語での作文、個別課題によるインドネシア語での情報収集及びプレゼンテーションに取り組むことで、実践的に表現力を養成する。
到達目標	日常生活レベルでの、インドネシア語によるフォーマル／インフォーマルな表現能力の修得。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。 基本的には講義形式で行うが、都度グループワークをすることで学習内容の定着を図る。 本講義は独自教材を用いる（各回配布）。辞書は、小学館の『プログレッシブ・インドネシア語辞典』を指定する。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験Ｅ級に合格可能なインドネシア語の知識を得る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方について説明するとともに、インドネシアの社会と文化についての概要を学ぶ。	事後に学習内容を復習する。
2	読解（その 1）	インドネシア語で書かれた絵本を読む。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
3	読解（その 2）	インドネシア語で書かれた絵本を読む。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
4	読解（その 3）	インドネシア語で書かれた絵本を読む。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
5	動画で学ぶインドネシア文化（1）	伝統文化に関わる動画の内容を聞き取りながら、インドネシア文化を学ぶ	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
6	動画で学ぶインドネシア文化（2）	伝統文化に関わる動画の内容を聞き取りながら、インドネシア文化を学ぶ	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
7	動画で学ぶインドネシア文化（3）	伝統文化に関わる動画の内容を聞き取りながら、インドネシア文化を学ぶ	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
8	インドネシアのライフスタイル（1）	ライフスタイルに関わる易しいニュース記事を読む 小テストを実施する	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
9	インドネシアのライフスタイル（2）	ライフスタイルに関わる易しいニュース記事を読む	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
10	インドネシアのライフスタイル（3）	ライフスタイルに関わる易しいニュース記事を読む	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
11	インドネシア語で情報収集（1）	グループでテーマを決めてインドネシア語で情報収集	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
12	インドネシア語で情報収集（2）	グループでテーマを決めてインドネシア語で情報収集	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
13	インドネシア語でプレゼンテーション	集めた情報をもとにグループで発表	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
14	映画のあらすじを読む	インドネシア映画のあらすじを訳してみる	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
15	まとめとテスト	これまでの学習の総合的な振り返りを行う。 到達度確認テストを行う。	事後にこれまでの学習内容を復習する。

関連科目	「諸言語輪講」（1 年次前期）、「インドネシア語文法」（1 年次後期）、「インドネシア語会話Ⅰ」（1 年次後期）、「インドネシア語表現Ⅰ」（1 年次後期）、「インドネシア語会話 II」（2 年次前期）、「総合インドネシア語」（2 年次前期）、「総合マレー語」（2 年次後期）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレス＋インドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2	プログレッシブ・インドネシア語辞典		小学館
3			

評価方法（基準）	平常点 20%、課題 30%、到達度確認テスト 50% 詳細は初回授業で指示する。
学生へのメッセージ	インドネシア語を学ぶと、世の中の動きをこれまでとは別の角度から読み解いていくことができます。 すでに 1 年生の時に経験しているようにインドネシア語はとても学びやすい言語なので、ぜひ楽しみながら学んでください。
担当者の研究室等	7 号館 5 階金子研究室
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、計 15 時間以上行うこと。

科目名	インドネシア語会話Ⅱ	科目名（英文）	Indonesian Conversation II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2675e0		

授業概要・目的	これまでのインドネシア語学修通じて獲得した、単語力や文法の理解を踏まえインドネシア語によるコミュニケーション能力を一層高めることを目的とする。授業では旅行や日常生活などあらゆる場面を想定しシーンに応じたふさわしい自然な会話出来るように実践練習を行っていく。
到達目標	インドネシアの様々な生活習慣や文化が理解できる。 日常会話のように自然な会話ができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。 この科目はの授業方法は、各授業に一つのテーマの会話を行います。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インドネシアへ行く①機内にて	空港から飛行機に乗るまでの会話を CD 聞いて会話の実践練習を行う。 会話に通じて数の数え方、基本的な疑問詞、位置を表す単語などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
2	インドネシアへ行く②機内で買い物する。	空港から飛行機に乗るまでの会話を CD 聞いて会話の実践練習を行う。 会話に通じて数の数え方、基本的な疑問詞、位置を表す単語などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
3	インドネシアに上陸する①入国管理官と会話	入国管理局にての会話。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて人称代名詞・語根動詞などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
4	インドネシアに上陸する②税関	税関にて。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて人称代名詞・語根動詞などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
5	ホテルに泊まる①空港でホテルを予約する。	ホテルを予約する。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて ber-動詞・手段・方法を表す前置詞などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
6	ホテルに泊まる②ホテルに到着する	ホテルに到着する。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて ber-動詞・手段・方法を表す前置詞などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
7	現地ツアーに参加する。	現地ツアーに参加するの予約。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて ber-動詞・手段・方法を表す前置詞などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
8	第1回目～7回目の筆記テスト	第1回目～7回目の会話に使われる文法や単語の意味について。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
9	電話をかける①先生に電話をかける。	先生に会う約束ための電話。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて me-動詞と命令文を学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
10	電話をかける②警察に電話をかける。	緊急事態に警察に電話で伝えることを会話に通じて、me-動詞と命令文を学習	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
11	バリでの生活準備①住居を探す。	会話に通じて受動態・関係代名詞 yang、ter-動詞、me-kan 動詞、動詞以外の派生語を作る接頭辞 ke と接尾辞 an などを学習。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
12	日常生活①　出会い	会話に通じて受動態・関係代名詞 yang、ter-動詞、me-kan 動詞、動詞以外の派生語を作る接頭辞 ke と接尾辞 an などを学習。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
13	日常生活②　映画館で映画を見る。	会話に通じて受動態・関係代名詞 yang、ter-動詞、me-kan 動詞、動詞以外の派生語を作る接頭辞 ke と接尾辞 an などを学習。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
14	日常生活③　講義に遅刻する。	会話に通じて受動態・関係代名詞 yang、ter-動詞、me-kan 動詞、動詞以外の派生語を作る接頭辞 ke と接尾辞 an などを学習。	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。
15	第 9 回目～14 回目の筆記テスト	第 9 回目～14 回目の全ての内容の筆記テスト	聞き取り会話練習・新しい単語や、疲れている文法を学習すること。

関連科目	インドネシア語関連の諸科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業参加および積極的なクラス活動：50% 授業の 8 回目と 15 回目の筆記テスト：５０％ 詳細は初回授業で指示する。
学生への メッセージ	出来る限り挨拶から日常的な会話はインドネシア語で話しましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	連絡方法は初回授業時に通知する。

科目名	インドネシア語会話Ⅱ	科目名（英文）	Indonesian Conversation II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ﾃｨｳｸ ｲﾋﾃｨｱﾘ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2675e0		

授業概要・目的	これまでのインドネシア語学修通じて獲得した、単語力や文法の理解を踏まえインドネシア語によるコミュニケーション能力を一層高めることを目的とする。授業では旅行や日常生活などあらゆる場面を想定しシーンに応じたふさわしい自然な会話出来るように実践練習を行っていく。
到達目標	インドネシアの様々な生活習慣や文化が理解できる。 日常会話のように自然な会話ができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。 この科目はの授業方法は、各授業に一つのテーマの会話を行います。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インドネシアへ行く①機内にて	空港から飛行機に乗るまでの会話を CD 聞いて会話の実践練習を行う。 会話に通じて数の数え方、基本的な疑問詞、位置を表す単語などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
2	インドネシアへ行く②機内で買い物する。	空港から飛行機に乗るまでの会話を CD 聞いて会話の実践練習を行う。 会話に通じて数の数え方、基本的な疑問詞、位置を表す単語などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
3	インドネシアに上陸する①入国管理官と会話	入国管理局にての会話。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて人称代名詞・語根動詞などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
4	インドネシアに上陸する②税関	税関にて。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて人称代名詞・語根動詞などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
5	ホテルに泊まる①空港でホテルを予約する。	ホテルを予約する。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて ber-動詞・手段・方法を表す前置詞などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
6	ホテルに泊まる②ホテルに到着する	ホテルに到着する。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて ber-動詞・手段・方法を表す前置詞などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
7	現地ツアーに参加する。	現地ツアーに参加するの予約。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて ber-動詞・手段・方法を表す前置詞などを学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
8	第1回目～7回目の筆記テスト	第1回目～7回目の会話に使われる文法や単語の意味について。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
9	電話をかける①先生に電話をかける。	先生に会う約束ための電話。CD を聞いて会話の実践練習を行う。会話に通じて me-動詞と命令文を学習する。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
10	電話をかける②警察に電話をかける。	緊急事態に警察に電話で伝えることを会話に通じて、me-動詞と命令文を学習	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
11	バリでの生活準備①住居を探す。	会話に通じて受動態・関係代名詞 yang、ter-動詞、me-kan 動詞、動詞以外の派生語を作る接頭辞 ke と接尾辞 an などを学習。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
12	日常生活①　出会い	会話に通じて受動態・関係代名詞 yang、ter-動詞、me-kan 動詞、動詞以外の派生語を作る接頭辞 ke と接尾辞 an などを学習。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
13	日常生活②　映画館で映画を見る。	会話に通じて受動態・関係代名詞 yang、ter-動詞、me-kan 動詞、動詞以外の派生語を作る接頭辞 ke と接尾辞 an などを学習。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
14	日常生活③　講義に遅刻する。	会話に通じて受動態・関係代名詞 yang、ter-動詞、me-kan 動詞、動詞以外の派生語を作る接頭辞 ke と接尾辞 an などを学習。	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。
15	第 9 回目～14 回目の筆記テスト	第 9 回目～14 回目の全ての内容の筆記テスト	聞き取り会話練習・新しい単語や文法を学習すること。

関連科目	インドネシア語関連の諸科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業参加および積極的なクラス活動：50% 授業の 8 回目と 15 回目の筆記テスト：５０％ 詳細は初回授業で指示する。
学生への メッセージ	出来る限り挨拶から日常的な会話はインドネシア語で話しましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	連絡方法は初回授業時に通知する。

科目名	総合マレー語	科目名（英文）	Comprehensive Malay
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2676e0		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語（Bahasa Melayu）の基礎的な運用能力の習得を目指す。インドネシア語とマレー語は相互に意思疎通が可能なほどに近い言葉であるが、歴史的背景の違いや社会構成の違いから、異なる点を多く含む。本講義ではインドネシア語との相違に適宜言及しつつ、実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。
到達目標	インドネシア語とマレー語の違いを知る マレー語の運用能力の基礎を得ることができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2 年前期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。 確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかり行うこと。授業の進め方の詳細は初回授業画指示する。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	マレー語の基礎的な運用能力の習得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明する。マレー語がどのような国で話され、どのような歴史的背景をもつ言語であるのかを概説する。	練習問題に取り組むこと。
2	あいさつ、呼びかけ	マレー語の挨拶について学習する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
3	単語、綴り、発音１	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
4	単語、綴り、発音２	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
5	表現	マレー語独特の言い回しについて解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
6	文法１	マレー語の名詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
7	文法２	マレー語の形容詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
8	復習１	既習事項（表現、語彙）について復習するとともに、理解力を問うための到達度の確認課題を行う。	既習事項の確認
9	文法３	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
10	文法４	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
11	文法５	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
12	演習１	既習事項をふまえてマレー語で自己紹介文を作成する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
13	演習２	マレーシアの小学生程度を読者に想定した簡単なマレー語文を講読する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
14	復習２	既習事項（発音、文法、表現、語彙）について復習する。	既習事項の確認
15	総合復習	理解力を問うための到達度の確認課題を行う。確認課題の講評と、既習事項についてのフォローアップを行う。	復習に取り組むこと。

関連科目	インドネシア語関連のすべての授業 エリアスタディーズ（東南アジア）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	旅の指さし会話帳 15 マレーシア[第２版]	戸加里康子	情報センター出版局
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	到達度の確認課題（70%）、提出物等の授業への取り組み（30%）から評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。
学生へのメッセージ	わからないことがあれば、いつでも質問してください。
担当者の研究室等	７号館５階（上田研究室）
備考	事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。 連絡方法は初回授業時に通知する。

科目名	実践インドネシア語	科目名（英文）	Practical Indonesian
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金子　正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2677e0		

授業概要・目的	本講義は、日常生活レベルでの、インドネシア語によるフォーマル／インフォーマルな表現能力を習得している学生を対象とし、インドネシア語で社会生活を送る上で必要不可欠な表現能力の修得を学修の到達目標とする。文化・社会・政治・経済等の多様な分野のインドネシア語の新聞記事や論説などの読解のほか、個別課題によるインドネシア語での情報収集、グループ・ディスカッション、及びプレゼンテーションなどを取り入れることで、実践的にインドネシア語の運用能力を養成する。
到達目標	インドネシア語で社会生活を送る上で必要不可欠な表現能力の修得。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2 年前期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。 基本的に講義形式で行う。 資料は各回配布する。 テーマに関連してフィールドワークを課すことがある。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験Ｄ級、Ｃ級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方、学習上の注意点など	指示した資料に目を通す。
2	ライフスタイルに関する新聞記事を読む（1）	ファッションに関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
3	ライフスタイルに関する新聞記事を読む（2）	食文化に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
4	ライフスタイルに関する新聞記事を読む（3）	食文化に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
5	ライフスタイルに関する新聞記事を読む（4）	アウトドアに関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
6	ライフスタイルに関する新聞記事を読む（5）	映画に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
7	ライフスタイルに関する新聞記事を読む（6）	ペットに関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
8	振り返り学習	これまでに学んだ内容を振り返るとともに、インドネシア語能力に関する小テストを行う。	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
9	政治・経済・社会に関する記事を読む（1）	SDGs に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
10	政治・経済・社会に関する記事を読む（2）	ジャカルタの都市政策に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
11	政治・経済・社会に関する記事を読む（2）	都市生活に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
12	プレゼンテーション（1）	インドネシア語で、日本の観光スポットを紹介するプレゼンテーションのテーマを決めて情報収集をする。	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
13	プレゼンテーション（2）	前回決定したテーマに従って、引き続き情報収集をするとともに、プレゼンテーションの原案を作成する。	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
14	プレゼンテーション（3）	インドネシア語日本の観光スポットを紹介するプレゼンテーションをする。他の学生のプレゼンテーションに対してインドネシア語で質問する。	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
15	おわりに	授業内容のまとめをおこなう。	授業で学んだことの復習をする。

関連科目	１年次・２年次の各インドネシア語科目、２年次・３年次の各接続科目（インドネシア・マレーシア関連）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プログレッシブ・インドネシア語辞典		小学館
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（30%）課題（30%）到達確認度テスト（もしくは最終課題）（40%）で評価する。
学生への	この講義を受ける頃には、インドネシアについての知識も増え、インドネシア語もかなり使えるようになって自信がついてきたことだろうと思い

メッセージ	ます。もうワンステップ上を目指して、インドネシアの大学生と簡単なディスカッションもできるような語彙力、表現力をつけることができたらな、と思っています。
担当者の 研究室等	金子研究室（7 号館 5 階）
備考	

科目名	旅行インドネシア語	科目名（英文）	Indonesian for Travel
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2678e0		

授業概要・目的	日常生活レベルでの、インドネシア語によるフォーマル／インフォーマルな表現能力を修得している学生を対象とし、インドネシア語で社会生活を送る上で必要不可欠な表現能力の修得を学修の到達目標とする。 本授業は、個人旅行を想定した講義構成とし、「旅」のさまざまな場面に応じた実践的なインドネシア語の会話表現や語彙の学修とともに、インドネシア語の旅行案内や旅行関連記事などの多様な読解に取り組むことで、実践的にインドネシアの社会や文化について学び、インドネシア語の運用能力を養成する。
到達目標	個人でインドネシアへ観光旅行に行っても困らないインドネシア語の運用能力と、インドネシア社会に関する知識を修得することができる。来日したインドネシア人観光客に道案内や簡単な応対ができるようになる。
授業方法と留意点	本授業は、場面ごとの表現について、「読む・聴く・話す・書く」の総合的能力を活かして授業を進めていく。 テキストはプリント教材を配付する。 授業時には必ず辞書を携行すること。 中間テストと理解度確認テスト終了後に教室で全問の解説をおこなう。また理解が足りないところの復習方法も説明する。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。 ※この科目は「地域言語科目」のうち、１年後期、 2 年前期開講の インドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方、1 年次後期と 2 年次前期で学んだことの再確認。	いままでにインドネシア語の授業で学んだ文法事項を確認しておくこと。 授業で学んだことを復習すること。
2	基本的な表現	基本的な日常表現について、1 年次後期と 2 年次前期の復習を兼ねて修得する。	いままでに学んだ会話表現を確認しておくこと。 旅行にも用いられる会話表現の復習をすること。
3	搭乗する	飛行機内での会話表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
4	空港にて①	イミグレーションや税関、両替所等で必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
5	空港にて②	イミグレーションや税関、両替所等で必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
6	交通機関を利用する①	タクシーやバス、列車等に乗って移動する際に必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
7	交通機関を利用する②	タクシーやバス、列車等に乗って移動する際に必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
8	復習	これまでに修得したフレーズの再確認を行い、中間テストを実施する。	これまでに学んだことの復習
9	ホテルにて①	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際に必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
10	ホテルにて②	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際に必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
11	レストランにて	レストランや飲食施設を利用する際に必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
12	買い物をする	買い物をする際の表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
13	トラブルに巻き込まれる	トラブルに巻き込まれたり、病気に罹ったときに必要とされる表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
14	観光をする	観光地を巡る際の会話表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
15	総まとめ	これまでに習得した表現を再確認し、理解度確認テスト実施する。	これまで学んだ表現や単語を復習すること。

関連科目	インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%、授業への前向きな取り組み姿勢 20% 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1.1 年次後期と 2 年次前期の授業で得たインドネシア語能力をこの授業でさらに深めましょう。 2 インドネシア語にはアラビア語由来の単語や福建語など中国の地方語由来の単語、オランダ語由来の単語、. スペイン語由来の単語もあります。 インドネシア語を継続して学ぶことによって、さらに世界的な感覚と知識を身につけましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室

備考	随時、下調べなどの事前学習や「まとめ」などの事後学習について指示するが、この授業における事前・事後学習の総時間数は、60 時間以上である。 連絡方法は初回授業時に通知する。

科目名	心理学	科目名（英文）	Psychology
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LHU2804a1		

授業概要・目的	心理学のうち，特に「ことばとコミュニケーション」に関わる領域を中心に扱う。 私達はことばを用いて思考し，情報伝達を行う。その過程において，私達はどのようにしてことばを理解し，あるいは産出しているのか。また，他者とのやりとりの中では，ことばそのものの意味だけではなく，その状況に対する知識や判断，相手の意図の推測なども不可欠である。 本科目ではこのような話題について議論する。また，私達がどのようにしてこのようなことばを使えるようになったのかという観点から，こどもの言語獲得，第二言語修得についても考察する。
到達目標	言語心理学の基本的な考え方，基礎的な知識を得ることができる。そのことにより，日常生活の中で行われている言語活動やコミュニケーションについて，心理学的に説明し，考えることができるようになる。さらに，専攻言語の学習に活かすことができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。講義で用いる資料は，事前に moodle 上で配付するので，各自入手しておくこと。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	言語とは何か 言語の機能	配付資料にもとづいた本時の復習 期末レポートの準備
2	こどもの言語発達１	ことばの獲得 発話の発達	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
3	こどもの言語発達２	ことばの発達を支えるもの ことばの発達の個人差	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
4	こどもの言語発達３	ことばと思考 新しいことばの世界へ	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
5	単語の理解１	単語の認知 心的辞書の構造	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
6	単語の理解２	単語の処理 単語認識と身体 心的辞書と外的語彙	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
7	文の理解１	文の理解とは 意味表象の形成	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
8	文の理解２	文理解の実験的研究	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
9	文章理解１	文章理解とは 一貫性の確立	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
10	文章理解２	照応解決 文章理解における推論	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
11	文章理解３	文章理解と知識	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
12	会話１	会話でつたわるもの	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
13	会話２	会話の成立	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
14	会話３	対人配慮 言語的攻撃	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
15	第二言語習得	第二言語習得のために	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の授業内レポート 50%，期末レポート 50%
学生へのメッセージ	ふだん何気なく使っていることばについて，少し意識的になってみてください。
担当者の研究室等	７号館３階
備考	事前事後学習時間の目安は総計 60 時間。

科目名	経済学入門	科目名（英文）	Introduction to Economics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LSO2808a1		

授業概要・目的	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。 SDGs-1, 3, 8, 9, 10
到達目標	この講義では，受講学生が以下の事項ができるようになることを目標とする。 1）経済学で利用する基礎的な概念を理解し，その意味を説明することができる。 2）新古典派経済学の市場観（最適化と均衡）について説明することができる。 3）市場の機能や動きにかんするさまざまな見方を比較することができる。 4）GDP の三面等価について概念的に説明できる同時に，数値による計算ができる 5）マクロ経済における消費の決定について説明することができる 6） 45 度線分析にもとづいて，GDP の決定について説明できる 7） 財政政策のマクロ経済的効果について，数値例を用いて説明できる 8）産業連関表から経済活動のつながりを読み取ることができる
授業方法と留意点	基本的には配布プリントを用いて講義形式で進めるが、時おり時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。また授業の理解度を確認するために適宜課題を課す。なお受講者の理解度によって、シラバスの変更もあり得る。 授業の一部で反転授業形式を採用する。その際は受講者は事前に授業動画を視聴して課題に解答してください。 事前の動画視聴など事前の準備を行わないと授業に参加することができないことがありますので気を付けてください。
科目学習の効果（資格）	経済学的思考と基礎知識を修得し、日々の経済ニュースを理解できるようになることで，就職活動において企業を選択する際や，企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で，授業の進め方，課題提出の方法、成績評価基準について説明する	Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
3	消費者はどのように行動するか	経済学は，私たち消費者がどのように行動していると考えているかについて解説する	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
4	企業はどのように行動するか	現代経済において中心的な存在である企業がどのように考えて行動しているかについて解説する	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
5	需要と供給はどのように調整されるか（1）：市場均衡と市場の機能	市場という場で，消費者の行動（需要）と企業の行動（供給）がどのように調整されるかについて解説する	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
6	需要と供給はどのように調整されるか（2）：株式市場における価格決定	需要と供給が調整される市場が実際にどのように機能しているのかを株式市場を例に考える	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
7	経済調整の諸相（1）：抗争的交換	情報や権力に格差があるなかでの取引がどのようになるかについて考える	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
8	経済調整の諸相（2）：ゲーム的状況	他者との相互作用がある場合の経済調整がどのように行われるかについて解説する	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
9	経済循環と三面等価	経済循環の構造と国内総生産（GDP）の概念について解説する。	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
10	消費関数と貯蓄関数	人々の消費活動が経済全体ではどのように表現されるのかについて考える	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
11	GDP の決定：45 度線分析	45 度線分析の枠組みを用いて GDP がどのように決定されるかについて解説する	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
12	乗数理論：財政支出の効果	45 度戦分析の枠組みを用いて，財政政策がどのような効果をもつかについて解説する	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
13	投資と経済成長	経済において投資が果たす役割を確認しつつ，経済成長のメカニズムについて解説する	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
14	まとめ	全体の総括	授業の復習（0.5 時間） Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む（1.5 時間）。
15	期末テスト	期末テスト	期末テストに向けて準備を行う（3 時間）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>日本経済の常識</td><td>中原隆幸編</td><td>ナカニシヤ出版</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	授業時間内外の課題（50%），期末レポート（50%）で総合的に評価する。授業時間内外の課題および期末レポートはMoodle上で出題する。Moodleへの登録には期限を設けます。期限以降の登録は受け付けないので注意してください。
学生への メッセージ	日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は，小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいますが，実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには，少々難しく感じても，日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいと思います。
担当者の 研究室等	１号館７階　原田研究室
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありえます。

科目名	経営学入門	科目名（英文）	Introdution to Management
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LSO2809a1		

授業概要・目的	[授業概要] 働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっています。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理Ⅰでは、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。 [授業目的] 企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。
到達目標	[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。(DP3)
授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士、社会保険労務士

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	シラバスを読んできて下さい。また、速やかに教科書の手配をしてください。
2	人的資源管理入門	「人を管理する」ということの意味を考えます。	事前課題：配付資料および教科書の第１章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第１章を１時間程度読むこと
3	人間モデル	人はなぜなんのために働くのでしょうか。人事管理が対象としてきた人間観の変容について説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第２章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第２章を１時間程度読むこと
4	戦略的人的資源管理	企業の戦略と人的資源管理の関係について説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第３章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第３章を１時間程度読むこと
5	組織構造	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を検討します。	事前課題：配付資料および教科書の第５章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第５章を１時間程度読むこと
6	リーダーシップ(1)	働く人のモチベーションを引き出す様々なリーダーシップの考え方を説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと
7	リーダーシップ(2)	自律型人材には、どういったリーダーシップが有効だと考えられるでしょうか。現代の人的資源管理の課題として検討します。	事前課題：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと
8	LMX、フォロワーシップ	組織の成果はリーダーとフォロワーの相互作用のプロセスで生まれます。したがって、リーダーとフォロワーを１対１で見るLMXとリーダーに影響を与えるフォロワーについて説明します。	事前課題：配付資料を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料を１時間程度読むこと
9	組織コミットメントと心理的契約	コミットメントおよび心理的契約の内容を理解し、各々がどのように規定され（独立変数）、各々が何に影響を与えるのか（成果変数）について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第８章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第８章を１時間程度読むこと
10	中間テスト	これまでの学習内容を踏まえ、企業はどのような人的資源管理を行うべきなのか考えます。	事前課題：これまでの配付資料および教科書を１時間程度読むこと 事後学習：中間テストの内容を１時間程度復習すること
11	雇用	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのか学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第９章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第９章を１時間程度読むこと
12	評価	人事評価の目的は何でしょうか。また、誰が誰をどのように評価するのでしょうか。評価にはどのような種類があるのか等について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第11章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第11章を１時

				間程度読むこと
	13	昇進・賃金	前回で学んだ評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと
	14	労使関係、国際人的資源管理	労使関係は人的資源管理の中でどのような役割を担っているのかについて学びます。 また、なぜ企業はグローバル化を目指すのでしょうか。また、グローバル化している現在、企業はこれまでと違ってどのような人的資源管理をしているのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと
	15	期末テスト まとめ	これまでの学習内容を踏まえ、企業はどのような人的資源管理を行うべきなのか考えます。	事前課題：これまでの配付資料および教科書を 1 時間程度読むこと 事後学習：期末テストの内容を 1 時間程度復習すること

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス
2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社
3			

評価方法 （基準）	中間テスト 50 点、期末テスト 50 点、合計 100 点 なお、授業態度等が望ましくない場合や出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めない場合がある。
学生への メッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階（西之坊研究室）
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。

科目名	人体の構造と機能	科目名（英文）	Human Anatomy and Physiology
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宇野　恭介.川田　浩一
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LNA2812a1		

授業概要・目的	我々は案外、自分のからだの中で行われている現象を知らない。この科目では、ヒトのからだが細胞からなること、細胞が集まり組織が、組織が集まり器官（臓器）が出来ていること、さらにヒトという個体は 10 の器官系からなることを学習する。また、その中を往来したり反応したりする分子のはたらき（機能）について取り上げ、からだの中で営まれている現象について学習する。併せて最近話題となっている関連トピックスについても解説したい。
到達目標	新聞・ニュース等にでてくるような、人体の構造や機能に関する用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。授業は対面で行う。小テストや教科書およびビデオ教材を参照に、ビジュアルを用いてイメージを膨らませながら学習できるように進める。ほとんど毎回前回の授業に関する小テストを実施するため、復習は必須となる。さらに、次回授業の予習をすると、理解度が増す。小テストのフィードバックは授業内で行う。
科目学習の効果（資格）	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約６０兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシャボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生殖器系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器系の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生殖器系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器系のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
15	まとめと習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目	自然科学 Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	機能形態学	櫻田忍・櫻田司編	南江堂
2			
3			

評価方法（基準）	小テストを５０％、習熟度試験を５０％で評価する
学生への	社会人としての一般教養の幅を拡げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。

メッセージ	＜宇野恭介＞は、薬剤師免許を有し行政（北信がんプロ 5 年間）等の一端に携わった経験がある。また、国内及び欧州の研究機関において薬学の基礎研究に従事してきた（金沢大学 2 年、富山大学 7 年、独国ハインリヒ大学 6 月）。これらの経験から基礎生物から臨床薬理学的な観点に渡る広い視野で生理学及び解剖学の教授を行う。 ＜川田浩一＞は、薬剤師免許を有し臨床に携わった経験がある（調剤薬局 3 年）。また、本学以外に、薬学の基礎研究（千葉科学大学 14 年）および薬学基礎教育（千葉科学大学 2 年）に従事してきた。これらの経験を生かし、基礎生物から臨床薬理学的な観点に渡る広い視野で生理学及び解剖学を教授する。
担当者の 研究室等	枚方学舎（薬学部）1 号館 3 階　機能形態学研究室（宇野講師室）
備考	講義前の予習（教科書を読む 1 時間×15 回）、復習（ノートをまとめる、重要単語を暗記する 1 時間×15 回）

科目名	公衆衛生学	科目名（英文）	Public Health
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	立山　由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LNA2813a1		

授業概要・目的	公衆衛生学とは、人々（集団）の健康を維持増進するための学問です。本講義では、公衆衛生の歴史や概念、健康の指標や統計、人々の健康を守るための方法論（疫学）、疾病予防の考え方とその具体例（感染症、生活習慣病など）について地域および国際的な視点を踏まえて学びます。また、集団の健康を維持・改善するための制度や施策の概要についても学修します。
到達目標	1）公衆衛生の概念を理解できる。 2）公衆衛生と疾病の関係について説明ができる。 3）人々の健康と様々な制度や公衆衛生活動の関係を説明できる。 4）人々の健康が社会や環境から受ける影響について理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義を中心としますが、適宜、身近な社会課題に関する視聴覚教材や時事ニュース等を活用します。 １回目の講義で授業の進め方や成績評価方法について説明します。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	事前学習をしておく（教科書第１章）。 健康とは何かについて自分の考えをまとめておく。
2	保健統計（1）	人口統計	事前学習をしておく（教科書第２章）。 日本の社会的課題（少子化・高齢化・出生率・死亡率等）について情報収集してみる。
3	保健統計（2）	健康指標	事前学習をしておく（教科書第２章）。 日本の健康課題について考えておく。
4	疫学	疫学の歴史と指標	事前学習をしておく（教科書第３章）。 わからない点をまとめておく。
5	疾病予防と健康増進	疾病予防と健康増進の考え方	事前学習をしておく（教科書第４章）。 日本の疾病予防対策について情報収集してみる
6	感染症	感染症の疫学と予防	事前学習をしておく（教科書第５章）。 日本の感染症の課題について情報収集してみる。
7	非感染性疾患（１）	生活習慣病の疫学と予防	事前学習をしておく（教科書第５章）。日本の生活習慣病の現状について情報収集してみる。
8	非感染性疾患（２）	がんおよびその他疾患の疫学と予防	事前学習をしておく（教科書第５章）。 日本のがんの現状について情報収集してみる。
9	環境保健	地球規模の環境問題と取り組み	事前学習をしておく（教科書第６章）。 地球環境問題について情報収集してみる。
10	地域保健	地域社会と地域保健活動	事前学習をしておく（教科書第７章）。 日本の地域保健活動について情報収集してみる。
11	母子保健	女性と子供の健康	事前学習をしておく（教科書第８章）。 女性と子供を取り巻く健康問題について情報収集してみる。
12	国際保健（１）	世界の健康・日本の健康	事前学習をしておく（教科書第13章）。 世界の健康問題について情報収集してみる。
13	国際保健（２）	日本の保健医療の国際協力	事前学習をしておく（教科書第13章）。 国際保健分野の取り組みについて情報収集してみる。
14	倫理と人権	健康と人権の考え方	事前学習をしておく（教科書第１章）。 公衆衛生における倫理的配慮について考えてみる。
15	健康教育とヘルスプロモーション	健康教育とヘルスプロモーションの概念と考え方	事前学習をしておく（教科書第４章）。 日本または世界のヘルスプロモーション活動について情報収集してみる。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	シンプル衛生公衆衛生学 2024	辻一郎他	南江堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向 2023/2024	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
2	基礎から学ぶ 楽しい疫学 第４版	中村 好一	医学書院
3	グローバルヘルス 世界の健康と対処戦略の最新動向	木原正博/木原雅子（監訳）	メディカルサイエンスインターナショナル

評価方法（基準）	課題および/または小テスト(100%)で評価します（60%以上を合格とします)。 出席は、学生便覧にある履修の規定に従います（出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります)。
学生へのメッセージ	公衆衛生学を理解するうえで最低限必要な知識について講義します。 教科書だけでなく、ニュースや新聞等を読み、日本や世界で起きている出来事について関心を持って授業に臨んでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習時間として計 60 時間程度を要する。

科目名	韓国語Ⅱa	科目名（英文）	Korean IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安　昭炫
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKO2818e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅰ」で養成した基礎力を踏まえたうえで、ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格水準に達する実力を養成する。この授業では、文法や読解などを中心とした総合的な内容を扱う。 教科書は『チュクチュク チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級』（朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021 年）を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）1 級合格程度の実力を培う。主に、①文法事項・単語力（基本的な文法と表現、単語数約 700 語程度）②読解力と作文能力の 2 点を養う。具体的には次の通りである。 ・単語数 700 語 ・簡単な日記や手紙、メールなどの短い文を読み、内容を把握する。 ・100～150 語程度の簡単な文章を読み、内容を把握できる。
授業方法と留意点	1）文法事項・語彙の予習・復習の時間を充分にとって着実に学習を重ねること。 2）進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3）受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4）フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1)ガイダンス 2)Ⅱ話してみよう！ 第４課「いくらですか」	漢数詞	予習・復習（120 分）
2	Ⅱ話してみよう！ 第４課「いくらですか」	漢数詞の使い方	予習・復習（120 分）
3	Ⅱ話してみよう！ 第５課「モッツァレラチーズドッグを２つください」	・固有数詞 ・助数詞	予習・復習（120 分）
4	Ⅱ話してみよう！ 第５課「モッツァレラチーズドッグを２つください」	助詞：-を	予習・復習（120 分）
5	Ⅱ話してみよう！ 第６課「私たち今日はどこに行きますか」	～です、ます（ヘヨ体）	予習・復習（120 分）
6	Ⅱ話してみよう！ 第６課「私たち今日はどこに行きますか」	順序、並列：～して、～くて、～で	予習・復習（120 分）
7	Ⅱ話してみよう！ 第７課「木曜日はスジさんに会いません」	・否定形（前置否定） ・否定形（後置否定）	予習・復習（120 分）
8	Ⅱ話してみよう！ 第７課「木曜日はスジさんに会いません」	・年、月、曜日 ・～ますね、～ですね ・～が好きです	予習・復習（120 分）
9	Ⅱ話してみよう！ 第８課「どこで韓国語を学びましたか」	・過去形 ・原因、理由：～して、～ので	予習・復習（120 分）
10	Ⅱ話してみよう！ 第８課「どこで韓国語を学びましたか」	不規則活用	予習・復習（120 分）
11	Ⅱ話してみよう！ 第９課「梨泰院に行きたいです」	・願望：～したいです ・助詞：～より	予習・復習（120 分）
12	Ⅱ話してみよう！ 第９課「梨泰院に行きたいです」	・助詞：～に ・助詞　：～から	予習・復習（120 分）
13	Ⅱ話してみよう！ 第 10 課「ミュージカルを見に行きます」	・～しに行く／来る ・～しようとする	予習・復習（120 分）
14	Ⅱ話してみよう！ 第 10 課「ミュージカルを見に行きます」	・～だが、～けれど ・～ですよね、～でしょう ・助詞：～の	予習・復習（120 分）
15	期末のまとめと理解度確認テスト（期末評価）	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備（120 分）

関連科目	「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲa」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク　チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典　第２版	油谷幸利ほか編	小学館

	2			
	3			

評価方法 （基準）	課題の遂行　20% 小テスト　40% 期末の理解度確認テスト　40%
学生への メッセージ	1）特段の事情なく授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2）1 年次後期の「韓国語Ⅰ」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。「韓国語Ⅰ」履修程度の実力がない初学者は、本授業を履修しても授業についていけない可能性が高いので要相談となる。 3）「韓国語Ⅱa」と「韓国語Ⅱb」を両方履修することが望ましい。
担当者の 研究室等	7 号館　非常勤講師室
備考	質問は授業の前後の時間に受け付ける。Teams やメールで質問してくれてもかまわない。

科目名	韓国語Ⅱa	科目名（英文）	Korean IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沈　明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LK02818e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅰ」で養成した基礎力を踏まえたうえで、ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格水準に達する実力を養成する。この授業では、文法や読解などを中心とした総合的な内容を扱う。 教科書は『チュクチュク チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級』（朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021 年）を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）1 級合格程度の実力を培う。主に、①文法事項・単語力（基本的な文法と表現、単語数約 700 語程度）②読解力と作文能力の 2 点を養う。具体的には次の通りである。 ・単語数 700 語 ・簡単な日記や手紙、メールなどの短い文を読み、内容を把握する。 ・100～150 語程度の簡単な文章を読み、内容を把握できる。
授業方法と留意点	1）文法事項・語彙の予習・復習の時間を充分にとって着実に学習を重ねること。 2）進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3）受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4）フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1)ガイダンス 2)Ⅱ話してみよう！ 第４課「いくらですか」	漢数詞	予習・復習（120 分）
2	Ⅱ話してみよう！ 第４課「いくらですか」	漢数詞の使い方	予習・復習（120 分）
3	Ⅱ話してみよう！ 第５課「モッツァレラチーズドッグを２つください」	・固有数詞 ・助数詞	予習・復習（120 分）
4	Ⅱ話してみよう！ 第５課「モッツァレラチーズドッグを２つください」	助詞：-を	予習・復習（120 分）
5	Ⅱ話してみよう！ 第６課「私たち今日はどこに行きますか」	～です、ます（ヘヨ体）	予習・復習（120 分）
6	Ⅱ話してみよう！ 第６課「私たち今日はどこに行きますか」	順序、並列：～して、～くて、～で	予習・復習（120 分）
7	Ⅱ話してみよう！ 第７課「木曜日はスジさんに会いません」	・否定形（前置否定） ・否定形（後置否定）	予習・復習（120 分）
8	Ⅱ話してみよう！ 第７課「木曜日はスジさんに会いません」	・年、月、曜日 ・～ますね、～ですね ・～が好きです	予習・復習（120 分）
9	Ⅱ話してみよう！ 第８課「どこで韓国語を学びましたか」	・過去形 ・原因、理由：～して、～ので	予習・復習（120 分）
10	Ⅱ話してみよう！ 第８課「どこで韓国語を学びましたか」	不規則活用	予習・復習（120 分）
11	Ⅱ話してみよう！ 第９課「梨泰院に行きたいです」	・願望：～したいです ・助詞：～より	予習・復習（120 分）
12	Ⅱ話してみよう！ 第９課「梨泰院に行きたいです」	・助詞：～に ・助詞　：～から	予習・復習（120 分）
13	Ⅱ話してみよう！ 第 10 課「ミュージカルを見に行きます」	・～しに行く／来る ・～しようとする	予習・復習（120 分）
14	Ⅱ話してみよう！ 第 10 課「ミュージカルを見に行きます」	・～だが、～けれど ・～ですよね、～でしょう ・助詞：～の	予習・復習（120 分）
15	期末のまとめと理解度確認テスト（期末評価）	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備（120 分）

関連科目	「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲa」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク　チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典　第２版	油谷幸利ほか編	小学館

	2			
	3			

評価方法 （基準）	課題の遂行　20% 小テスト　40% 期末の理解度確認テスト　40%
学生への メッセージ	1）特段の事情なく授業を 3 回以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2）1 年次後期の「韓国語Ⅰ」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。「韓国語Ⅰ」履修程度の実力がない初学者は、本授業を履修しても授業についていけない可能性が高いので要相談となる。 3）「韓国語Ⅱa」と「韓国語Ⅱb」を両方履修することが望ましい。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問は授業の前後の時間に受け付ける。

科目名	韓国語Ⅱb	科目名（英文）	Korean IIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKO2819e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅰ」で養成した基礎力を踏まえた上で、ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級に合格できる実力を養う。「韓国語Ⅱa」が文法や読解などを中心とした総合的な内容を扱う一方、本科目「韓国語Ⅱb」は韓国語での発話コミュニケーション、つまり発音・リスニング・会話表現などを中心に行う。 教科書は『チュクチュク　チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級』（朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、２０２１年）を使用する。また、別途プリントや視聴覚教材の活用なども並行して行う。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格程度の実力を培う。 主に、次の２点を養う。 ①連音化されている単語や文章を把握しつつ、６～１０語程度の文章を聞いて理解できる。 ②決まり文句を用いて様々な場面に対応できる。（自己紹介、買い物、飲食店での注文など）
授業方法と留意点	1）予習をした上で授業に臨むこと。 2）進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3）受講学生の理解を助けるため、 適宜プリントを配布することもある。 4）フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級に合格する水準の実力養成

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1）ガイダンス 2）Ⅱ話してみよう！ 第４課「いくらですか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
2	Ⅱ話してみよう！ 第４課「いくらですか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
3	Ⅱ話してみよう！ 第５課「モッツァレラチーズドッグを２つください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
4	Ⅱ話してみよう！ 第５課「モッツァレラチーズドッグを２つください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
5	Ⅱ話してみよう！ 第６課「私たち今日はどこに行きますか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
6	Ⅱ話してみよう！ 第６課「私たち今日はどこに行きますか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
7	Ⅱ話してみよう！ 第７課「木曜日はスジさんに会いません」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
8	Ⅱ話してみよう！ 第７課「木曜日はスジさんに会いません」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
9	Ⅱ話してみよう！ 第８課「どこで韓国語を学びましたか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
10	Ⅱ話してみよう！ 第８課「どこで韓国語を学びましたか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
11	Ⅱ話してみよう！ 第９課「梨泰院に行きたいです」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
12	Ⅱ話してみよう！ 第９課「梨泰院に行きたいです」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
13	Ⅱ話してみよう！ 第１０課「ミュージカルを見に行きます」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
14	Ⅱ話してみよう！ 第１０課「ミュージカルを見に行きます」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
15	期末のまとめと理解度確認テスト（期末評価）	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備（１２０分）

関連科目	「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅲa」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク　チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典　第２版	油谷幸利ほか編	小学館
	2			
	3			

評価方法 （基準）	課題の遂行　２０％ 小テスト　４０％ 期末の理解度確認テスト　４０％
学生への メッセージ	１）特段の事情なく授業の３分の１以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 ２）１年次後期の「韓国語Ⅰ」を履修した学生、もしくは同等のレベルの韓国語学習（独習も含む）の経験がある学生が対象となる。 「韓国語Ⅰ」履修程度の実力がない初学者は、本授業を履修しても授業についていけない可能性が高いので要相談となる。 ３）「韓国語Ⅱa」と「韓国語Ⅱb」を両方履修することが望ましい。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問がある場合は、授業の前後の時間に受け付ける。

科目名	韓国語Ⅱb	科目名（英文）	Korean IIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沈　明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKO2819e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅰ」で養成した基礎力を踏まえた上で、ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級に合格できる実力を養う。「韓国語Ⅱa」が文法や読解などを中心とした総合的な内容を扱う一方、本科目「韓国語Ⅱb」は韓国語での発話コミュニケーション、つまり発音・リスニング・会話表現などを中心に行う。 教科書は『チュクチュク チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級』（朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021 年）を使用する。また、別途プリントや視聴覚教材の活用なども並行して行う。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級合格程度の実力を培う。主に、次の２点を養う。 ①連音化されている単語や文章を把握しつつ、6~10 語程度の文章を聞いて理解できる。 ②決まり文句を用いて様々な場面に対応できる（自己紹介、買い物、飲食店での注文など）
授業方法と留意点	1）予習をした上で授業に臨むこと。 2）進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3）受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4）フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定５級もしくは韓国語能力試験（TOPIK）１級に合格する水準の実力養成

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1)ガイダンス 2)Ⅱ話してみよう！ 第４課「いくらですか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
2	Ⅱ話してみよう！ 第４課「いくらですか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
3	Ⅱ話してみよう！ 第５課「モッツァレラチーズドッグを２つください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
4	Ⅱ話してみよう！ 第５課「モッツァレラチーズドッグを２つください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
5	Ⅱ話してみよう！ 第６課「私たち今日はどこに行きますか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
6	Ⅱ話してみよう！ 第６課「私たち今日はどこに行きますか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
7	Ⅱ話してみよう！ 第７課「木曜日はスジさんに会いません」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
8	Ⅱ話してみよう！ 第７課「木曜日はスジさんに会いません」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
9	Ⅱ話してみよう！ 第８課「どこで韓国語を学びましたか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
10	Ⅱ話してみよう！ 第８課「どこで韓国語を学びましたか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
11	Ⅱ話してみよう！ 第９課「梨泰院に行きたいです」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
12	Ⅱ話してみよう！ 第９課「梨泰院に行きたいです」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
13	Ⅱ話してみよう！ 第 10 課「ミュージカルを見に行きます」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
14	Ⅱ話してみよう！ 第 10 課「ミュージカルを見に行きます」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
15	期末のまとめと理解度確認テスト（期末評価）	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	理解度確認テストの準備（120 分）

関連科目：「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅲa」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『チュクチュク チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語初級』	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典　第２版』	油谷幸利ほか編	小学館
	2			
	3			

評価方法 （基準）	課題の遂行　20% 小テスト　40% 期末の理解度確認テスト　40%
学生への メッセージ	1）特段の事情なく授業を３回以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2)1 年次後期の「韓国語Ⅰ」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。「韓国語Ⅰ」履修程度の実力がない初学者は、本授業を履修しても授業についていけない可能性が高いので要相談となる。 3)「韓国語Ⅱa」と「韓国語Ⅱb」を両方履修することが望ましい。
担当者の 研究室等	7 号館２階　非常勤講師室
備考	質問は授業の前後の時間に受け付ける。

科目名	韓国語Ⅲa	科目名（英文）	Korean IIIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安　昭炫
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKO2820e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅱa」もしくは「韓国語Ⅱb」で養成した韓国語運用能力を踏まえた上で、ハングル能力検定 4 級（および 3 級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2 級（および 3 級）合格水準に達する実力を培う。文法や読解などを中心とした総合的な内容（発音なども含む）を扱う。 教科書は『チュクチュク チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級』（朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021 年）を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定 4 級（および 3 級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2 級（および 3 級）合格程度の実力を培う。主に、①文法事項・単語力 ②読解力と作文能力の 2 点を養う。具体的には次の通りである。 ・単語数 1200 語 ・指示・命令、依頼、誘いの受諾や拒否などにおける基礎的な文法や表現を理解し表現できる。
授業方法と留意点	1) 文法事項・語彙の予習および復習の時間を充分にとって着実に学習を重ねること。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4) フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定 4 級（および 3 級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2 級（および 3 級）合格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1)ガイダンス 2)Ⅱ話してみよう！ 第 11 課「157 番のバスに乗って下さい」	・助詞：～から～まで ・位置名詞 ：丁寧な命令、指示：～して下さい	予習・復習（120 分）
2	Ⅱ話してみよう！ 第 11 課「157 番のバスに乗って下さい」	・条件、仮定：～ば、～たら、～と ・不規則活用	予習・復習（120 分）
3	Ⅱ話してみよう！ 第 12 課「ここから景福宮に行けますか」	・助詞：～へ、～で、～として ・可能：～することができる） ・不可能：～することができない	予習・復習（120 分）
4	Ⅱ話してみよう！ 第 12 課「ここから景福宮に行けますか」	・～しなければならない ・前置否定（不可能）	予習・復習（120 分）
5	Ⅱ話してみよう！ 第 13 課「コンサートに一緒に行きましょうか」	提案・勧誘：～しましょうか	予習・復習（120 分）
6	Ⅱ話してみよう！ 第 13 課「コンサートに一緒に行きましょうか」	・提案・勧誘：～しましょう	予習・復習（120 分）
7	Ⅱ話してみよう！ 第 14 課「まず、この写真から見ます」	・意志・約束：～します ・動詞の連体形の過去形	予習・復習（120 分）
8	Ⅱ話してみよう！ 第 14 課「まず、この写真から見ます」	動詞の連体形の現在形	予習・復習（120 分）
9	Ⅱ話してみよう！ 第 15 課「友達とカラオケに行くつもりです」	予定、意志、推測：～するつもりです	予習・復習（120 分）
10	Ⅱ話してみよう！ 第 15 課「友達とカラオケに行くつもりです」	連体形：形容詞、指定詞、存在詞	予習・復習（120 分）
11	Ⅱ話してみよう！ 第 16 課「インターネットで検索してみてください」	行為の勧め：～してみてください	予習・復習（120 分）
12	Ⅱ話してみよう！ 第 16 課「インターネットで検索してみてください」	・理由、原因　：～から、～ので	予習・復習（120 分）
13	Ⅱ話してみよう！ 第 17 課「別の部屋に変えてください」	・依頼：～してください ・不規則活用	予習・復習（120 分）
14	Ⅱ話してみよう！ 第 17 課「別の部屋に変えてください」	病状を表す表現	予習・復習（120 分）
15	期末のまとめと理解度確認テスト（期末評価）	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備（120 分）

関連科目	「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典　第2版 / 油谷幸利ほか編 / 小学館 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題の遂行　20% 小テスト　40% 期末の理解度確認テスト　40%
学生への メッセージ	1）特段の事情なく授業回数の3分の1以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2）2年次前期の「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。 3）「韓国語Ⅲa」と「韓国語Ⅲb」を両方履修することが望ましい。
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	質問は基本的に授業の終了後に受け付ける。Teamsやメールでの質問も可とする。

科目名	韓国語Ⅲa	科目名（英文）	Korean IIIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈　明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKO2820e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅱa」もしくは「韓国語Ⅱb」で養成した韓国語運用能力を踏まえた上で、ハングル能力検定 4 級（および 3 級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2 級（および 3 級）合格水準に達する実力を培う。文法や読解などを中心とした総合的な内容（発音なども含む）を扱う。 教科書は『チュクチュク チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級』（朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021 年）を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定 4 級（および 3 級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2 級（および 3 級）合格程度の実力を培う。主に、①文法事項・単語力 ②読解力と作文能力の 2 点を養う。具体的には次の通りである。 ・単語数 1200 語 ・指示・命令、依頼、誘いの受諾や拒否などにおける基礎的な文法や表現を理解し表現できる。
授業方法と留意点	1）文法事項・語彙の予習および復習の時間を充分にとって着実に学習を重ねること。 2）進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3）受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4）フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定 4 級（および 3 級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2 級（および 3 級）合格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1)ガイダンス 2)Ⅱ話してみよう！ 第 11 課「157 番のバスに乗って下さい」	・助詞：～から～まで ・位置名詞 ：丁寧な命令、指示：～して下さい	予習・復習（120 分）
2	Ⅱ話してみよう！ 第 11 課「157 番のバスに乗って下さい」	・条件、仮定：～ば、～たら、～と ・不規則活用	予習・復習（120 分）
3	Ⅱ話してみよう！ 第 12 課「ここから景福宮に行けますか」	・助詞：～へ、～で、～として ・可能：～することができる） ・不可能：～することができない	予習・復習（120 分）
4	Ⅱ話してみよう！ 第 12 課「ここから景福宮に行けますか」	・～しなければならない ・前置否定（不可能）	予習・復習（120 分）
5	Ⅱ話してみよう！ 第 13 課「コンサートに一緒に行きましょうか」	提案・勧誘：～しましょうか	予習・復習（120 分）
6	Ⅱ話してみよう！ 第 13 課「コンサートに一緒に行きましょうか」	・提案・勧誘：～しましょう	予習・復習（120 分）
7	Ⅱ話してみよう！ 第 14 課「まず、この写真から見ます」	・意志・約束：～します ・動詞の連体形の過去形	予習・復習（120 分）
8	Ⅱ話してみよう！ 第 14 課「まず、この写真から見ます」	動詞の連体形の現在形	予習・復習（120 分）
9	Ⅱ話してみよう！ 第 15 課「友達とカラオケに行くつもりです」	予定、意志、推測：～するつもりです	予習・復習（120 分）
10	Ⅱ話してみよう！ 第 15 課「友達とカラオケに行くつもりです」	連体形：形容詞、指定詞、存在詞	予習・復習（120 分）
11	Ⅱ話してみよう！ 第 16 課「インターネットで検索してみてください」	行為の勧め：～してみてください	予習・復習（120 分）
12	Ⅱ話してみよう！ 第 16 課「インターネットで検索してみてください」	・理由、原因　：～から、～ので	予習・復習（120 分）
13	Ⅱ話してみよう！ 第 17 課「別の部屋に変えてください」	・依頼：～してください ・不規則活用	予習・復習（120 分）
14	Ⅱ話してみよう！ 第 17 課「別の部屋に変えてください」	病状を表す表現	予習・復習（120 分）
15	期末のまとめと理解度確認テスト（期末評価）	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備（120 分）

関連科目	「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典　第2版 / 油谷幸利ほか編 / 小学館 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題の遂行　20% 小テスト　40% 期末の理解度確認テスト　40%
学生への メッセージ	1）特段の事情なく授業を3回以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2）2年次前期の「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。 3）「韓国語Ⅲa」と「韓国語Ⅲb」を両方履修することが望ましい。
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	質問は、授業の前後の時間に受け付ける。

科目名	韓国語Ⅲｂ	科目名（英文）	Korean IIIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKO2821e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅱa」もしくは「韓国語Ⅱb」で養成した韓国語運用能力を踏まえた上で、ハングル能力検定４級(および３級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）２級（および３級）合格水準に達する実力を培う。「韓国語Ⅲa」では文法や読解などを中心とした総合的な内容を扱う一方、本科目「韓国語Ⅲb」では韓国語での発話コミュニケーション、つまり発音・リスニング・会話表現などを中心に学ぶ。 教科書は『チュクチュク　チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、２０２１年）を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定４級（および３級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）２級（および３級）合格程度の実力を培う。 主に、次の２点を養う。 ①社会的な出来事について、簡単な文章を作ることができる。 ②電話や公共機関における簡単な会話ができる。
授業方法と留意点	1）予習をした上で授業に臨むこと。 2）進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3）受講学生の理解を助けるため、 適宜プリントを配布することもある。 4）フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定４級（および３級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）２級（および３級）合格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1）ガイダンス 2）Ⅱ話してみよう！ 第１１課「１５７番のバスに乗ってください」	リスニング ディクテーション 表現応用	復習（１２０分）
2	Ⅱ話してみよう！ 第１１課「１５７番のバスに乗ってください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
3	Ⅱ話してみよう！ 第１２課「ここから景福宮に行けますか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
4	Ⅱ話してみよう！ 第１２課「ここから景福宮に行けますか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
5	Ⅱ話してみよう！ 第１３課「コンサートに一緒に行きましょうか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
6	Ⅱ話してみよう！ 第１３課「コンサートに一緒に行きましょうか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
7	Ⅱ話してみよう！ 第１４課「まず、この写真から見ます」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
8	Ⅱ話してみよう！ 第１４課「まず、この写真から見ます」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
9	Ⅱ話してみよう！ 第１５課「友達とカラオケに行くつもりです」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
10	Ⅱ話してみよう！ 第１５課「友達とカラオケに行くつもりです」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
11	Ⅱ話してみよう！ 第１６課「インターネットで検索してみてください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
12	Ⅱ話してみよう！ 第１６課「インターネットで検索してみてください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
13	Ⅱ話してみよう！ 第１７課「別の部屋に変えてください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
14	Ⅱ話してみよう！ 第１７課「別の部屋に変えてください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習（１２０分）
15	期末のまとめと理解度確認テスト（期末評価）	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備（１２０分）

関連科目	「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲa」など韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク　チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語　初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典　第２版 / 油谷幸利ほか編 / 小学館 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題の遂行　２０％ 小テスト　４０％ 期末の理解度確認テスト　４０％
学生への メッセージ	１）特段の事情なく授業の３分の１以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 ２）２年次前期の「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」を履修した学生、もしくは同等のレベルの韓国語学習（独習も含む）の経験がある学生が対象となる。 ３）「韓国語Ⅲa」と「韓国語Ⅲb」を両方履修することが望ましい。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問がある場合は、授業の前後の時間に受け付ける。

科目名	韓国語Ⅲb	科目名（英文）	Korean IIIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈　明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKO2821e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅱa」もしくは「韓国語Ⅱb」で養成した韓国語運用能力を踏まえた上で、ハングル能力検定４級（および３級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）２級（および３級）合格水準に達する実力を培う。「韓国語Ⅲa」では文法や読解などを中心とした総合的な内容を学ぶ一方、本科目「韓国語Ⅲb」では韓国語での発話コミュニケーション、つまり発音・リスニング・会話表現などを中心に学ぶ。 教科書は『チュクチュク チャラネ（ぐんぐん伸びる）韓国語　初級』（朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021 年）を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定４級（および３級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）２級（および３級）合格程度の実力を培う。主に、次の２点を養う。 ①社会的な出来事について、簡単な文章を作ることができる。 ②電話や公共機関における簡単な会話ができる。
授業方法と留意点	1）予習をした上で授業に臨むこと。 2）進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3）受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4）フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定４級（および３級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）２級（および３級）合格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1)ガイダンス 2)Ⅱ話してみよう！ 第 11 課「157 番のバスに乗って下さい」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
2	Ⅱ話してみよう！ 第 11 課「157 番のバスに乗って下さい」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
3	Ⅱ話してみよう！ 第 12 課「ここから景福宮に行けますか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
4	Ⅱ話してみよう！ 第 12 課「ここから景福宮に行けますか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
5	Ⅱ話してみよう！ 第 13 課「コンサートに一緒に行きましょうか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
6	Ⅱ話してみよう！ 第 13 課「コンサートに一緒に行きましょうか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
7	Ⅱ話してみよう！ 第 14 課「まず、この写真から見ます」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
8	Ⅱ話してみよう！ 第 14 課「まず、この写真から見ます」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
9	Ⅱ話してみよう！ 第 15 課「友達とカラオケに行くつもりです」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
10	Ⅱ話してみよう！ 第 15 課「友達とカラオケに行くつもりです」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
11	Ⅱ話してみよう！ 第 16 課「インターネットで検索してみてください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
12	Ⅱ話してみよう！ 第 16 課「インターネットで検索してみてください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
13	Ⅱ話してみよう！ 第 17 課「別の部屋に変えてください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
14	Ⅱ話してみよう！ 第 17 課「別の部屋に変えてください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習（120 分）
15	後半のまとめと理解度確認テスト（期末評価）		理解度確認テストの準備（120 分）

関連科目	「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『チュクチュク　チャラネ　ぐんぐん伸びる韓国語初級』	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典　第２版』	油谷幸利ほか編	小学館
	2			
	3			

評価方法 （基準）	課題の遂行　20% 小テスト　40% 期末の理解度確認テスト　40%
学生への メッセージ	1）特段の事情なく授業を３回以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としません。 2）２年次前期の「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。 3）「韓国語Ⅲa」と「韓国語Ⅲb」を両方履修することが望ましい。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	質問は、授業の前後の時間に受け付ける。

科目名	コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	Communication Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠.橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LJA2824a1		

授業概要・目的	社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。 講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の前線で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。
到達目標	この授業を通じて学生には、高度なコミュニケーションスキルにより社会活動において自らが望む相応の結果を出せるようになることが期待される。 SDGs4 SDGs10
授業方法と留意点	授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。 社会状況によってはオンラインになることもあります。情報はMicrosoft Teamsにて発信しますので、必ず確認するようにしてください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	事前にシラバスを熟読しておくこと。 講義内容を復習し、理解しておくこと。 (目安：30分)
2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	事前にコミュニケーションの本質を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：30分)
3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	事前に論理的思考方法の概略を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	事前に非言語コミュニケーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	事前にプレゼンテーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション（個人プレゼンの準備）	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション（個人プレゼン完成） ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと。 (目安：2時間)
8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	事前にディスカッションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
13	グループディスカッション③	グループディスカッション実践演習（模擬選考） ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	事前にダイバーシティの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：2時間)
15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。	事前に全ての範囲を復習しておくこと。 (目安：2時間)

			※評定あり	

関連科目	キャリアデザインⅡ、数的能力開発、就職実践基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション 15 点、言語理解 20 点、グループデイスカッション 10 点、総合演習レポート 25 点
学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　全学教育機構
備考	

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名（英文）	Employment Design II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武.石井　三恵.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LCA2830a1		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てるとが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。(DP1)
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付けること。
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点（特に聴く態度）について	・事前学修：シラバスを熟読すること(１時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。 （警察官）	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	ホームレス状態を生み出さない日本を目指して(NPO 法人事務局長)	・大阪市で活動をする NPO 法人 Homedoor の実践を通じて、 ホームレス問題や NPO の運営の方法を学ぶ。 年間 1000 名以上の生活相談に対応するなかで見えてきた ホームレス問題の課題や今後の展望についても触れる。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
4	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
5	「公務員がハブになり市民・企業と協力して子どもを救う。」 ～公務員に向いていない人間が公務員になった結果～	・門真市の現状、降雨員としてのキャリアいついて自らの体験を踏まえてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
6	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで（摂大 OB/NPO 法人代表）	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性“を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	しあわせのまちづくり ～主役は地域住民！『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方～ （社会福祉協議会職員）	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉 協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
8	講義の中間まとめと就職活動の現状について	・講義の中間まとめ ・就職活動について(就職部)	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
9	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ（IT/役員）	・現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること(2時間) ・事後学修：中間レポートを作成すること(2時間)
10	働くことってどんなこと？日本で働くことと SDGs、みんなで持続可能な働き方を探していこう！(デジタルサービス)	・日本を取り巻く環境、仕事と必要なスキル、SDGs との繋がり、キャリアを自分ごととして考えるという内容をお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財 (金融/人材開発)	・仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	ともに強いまちを創る～公務員という選択～ （摂南大学ＯＢ／市役所職員）	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	先人(企業家)に学ぶ仕事への心構え （商工会議所/職員）	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ （摂南大学 OB/経営者）	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
15	講義のおさらい	・講義全体のおさらい	・事前学修：講義の全体を振り返ること(0.5時間) ・事後学修：最終課題を作成すること(1.5時間)

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の感想レポート（30%）、中間レポート１回（30%）、期末レポート１回(40%)を総合的に判断する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>石井三恵（７号館５F）
水野武（７号館３F）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>講師・内容は事情により変更することもある。
教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。
参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。</td></tr>
</table>

科目名	スポーツと健康	科目名（英文）	Sports and Health
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬川　智広
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LPH2835a1		

授業概要・目的	人生 100 年といわれる現代社会において、豊かな人生を送るためには健康的で活力に満ちた生活を末長く送ることが大切とされている。 本講義ではスポーツが心身の健康にもたらす様々な効果について学習し、生涯にわたり健康の保持・増進にむけた取り組みを実践するために必要な基礎知識を身につける。 SDGs-3,5,16,17
到達目標	（1）現代社会における健康問題について理解できる。 （2）健康づくりのための基礎知識を習得し、健康の保持・増進にむけた取り組みを実践することができる。 （3）持続可能な社会を実現するためにスポーツのもつ様々な効果や影響力を活用するための基礎知識を得ることができる。 （4）身近な社会問題や健康づくりをテーマとして議論や発表をすることで、主体的にに学ぶ姿勢を身につけることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントや資料を用いた講義形式で行う。授業テーマにそった議題についてグループワークを行ったり、自らの考えをプレゼンテーションする機会を取り入れる。小レポートを課す。
科目学習の効果（資格）	心身の健康保持・増進に関する知識が身につき、受講者自身の健康管理ができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツと健康について	オリエンテーション スポーツと健康とは 講義全体の概要、到達目標および成績評価について説明する	事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間以上）
2	現代社会の健康問題	健康の定義と現代社会が抱える健康問題について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
3	運動習慣が身体にもたらす効果	人間にとって体を動かすことの意義や効果について理解する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
4	適切な体重と食生活	適切な体重について理解する 健康に良い食生活について考える （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
5	生活習慣病	現代生活と生活習慣病の関係について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
6	飲酒・喫煙・薬物が身体に及ぼす影響	飲酒、喫煙、薬物が身体におよぼす影響について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
7	睡眠・休息・ストレス	睡眠や休息が身体にもたらす影響について学習する。 またストレス発生のメカニズムを理解し、心の健康について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
8	安全で効果的にスポーツを楽しむための基礎知識（1）	安全で効果的に運動をするための基礎知識を学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
9	安全で効果的にスポーツを楽しむための基礎知識（2）	安全で効果的な運動を実際に体験する （実技・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：実技で得た知識や情報について振り返る（１時間以上）
10	スポーツの意義と社会的役割（1）	スポーツを通じた共生社会のあり方について考える （講義・グループディスカッション）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
11	スポーツの意義と社会的役割（2）	スポーツの意義と社会的役割について自ら調べ発表する （グループディスカッション・発表）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報について振り返る（１時間以上）
12	スポーツと SDGs（1）	SDGs に関する基礎知識や SDGs におけるスポーツの効果や影響力について学習する （講義・グループディスカッション）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報について振り返る（１時間以上）
13	スポーツと SDGs（2）	SDGs におけるスポーツの効果や影響力について自ら調べ発表する （個人発表）	事前：発表の準備をする（１時間以上） 事後：他者の発表の要点をまとめる（１時間以上）
14	スポーツと SDGs（3）	SDGs におけるスポーツの効果や影響力についてグループでまとめて発表する （グループ発表）	事前：発表の準備をする（１時間以上） 事後：他者の発表の要点をまとめる（１時間以上）
15	スポーツと健康まとめ	授業のまとめ　自身の健康づくりのための取り組みや持続可能な社会実現に向けた関わり方について考える	事前：指定されたテーマについて予習する（２時間以上） 事後：自身の健康づくりの取り組みを実践する

			（レポート）	

関連科目	スポーツ科学実習、生涯スポーツ実習、スポーツ文化論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	これからの健康とスポーツの化学	阿部孝・琉子友男	講談社
2	大学生の健康・スポーツ化学	片桐文子　他	道和書院
3			

評価方法 （基準）	小レポート（５０％）、グループワーク・発表（２０％） 最終授業終了後のレポート課題（３０％）
学生への メッセージ	健康的で活力に満ちた人生を送るために、スポーツがもたらす様々な効果や期待される可能性について共に考えましょう。
担当者の 研究室等	総合体育館１階　研究室
備考	学習の効果を高めることを目的とし、授業の進捗状況や理解度、時事問題と関連して授業テーマの順序を変更する場合があります。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Mathematical Ability Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKY2844a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この授業を通して、授業で取り組んだ数的問題を概ね解けるようになっていることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。 初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2時間）

関連科目	就職実践基礎・コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS出版事業部	PS出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階
備考	Teamsコードは、コピー＆ペーストでの入力を推奨します。 実施した小テスト、中間テストのフィードバック（解答・解説）はmoodleに掲示、あるいは次回授業内で実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Mathematical Ability Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKY2844a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業内課題および態度）：40%、中間テスト・最終テスト：50%、SmartSPI：10% ※第１回の平常点は、実力テスト（点数は成績に影響しない）を実施するため８点（成績の８％）とする
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週１時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	ラーニングセンター（２号館２階） ７号館３階　全学教育機構
備考	授業で実施する小テストや中間テストの解答・解説はmoodleに掲示、あるいは次回授業内などで実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。 事前事後学習時間の目安は15時間。

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current Issues Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	斉藤　穂高
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKY2846a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、国際学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。 受験料（3 級 3,300 円、準 2 級 3,800 円、2 級 4,800 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 最近の時事問題について議論し考える	・授業の進め方と受講ルールについての説明 ・確認アンケートの実施 ・時事問題を学ぶ意義を考える	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく
2	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
3	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
4	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
5	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
6	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
7	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
8	中間確認テスト	・講義内容や小テストをもとにした中間確認テストを行う ・最近の時事問題について解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
9	ニュース検定に向けて準備する	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定に向けての準備	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する。
10	「ニュース時事能力検定３級」受検(変更の可能性あり)	・「ニュース時事能力検定３級」を受検する。	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・検定に向けて学習する。
11	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
12	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
13	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
14	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
15	最終確認テスト	・小テストや講義内容を踏まえて、四択ないし記述式の試験を行う	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・最終確認テストの準備

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>時事問題Ⅱ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>『2024 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編』</td><td></td><td>毎日新聞社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業への参加度（発言、発表など）　５０％
小テスト　１０％
中間・最終確認テスト　２０％
ニュース時事能力検定成績　２０％</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>時事問題を理解し説明できるスキルは、現代社会を生きる我々にとって不可欠なものです。一緒に学んでいきましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前事後学習時間の目安は 60 時間。</td></tr>
</table>

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current Issues Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣　有
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKY2846a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」３級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。 受験料（3 級 3,300 円、準 2 級 3,800 円、2 級 4,800 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 最近のニュースを知り、その背景を考える。	この授業の進め方についての説明 時事問題とは？ ニュース検定とは？	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 過去問等の回答（１時間）
2	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
3	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
4	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
5	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
6	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
7	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
8	中間確認テスト 最近のニュースを知り、その背景を考える。	中間確認テスト（小テスト・授業内容にもとづく）を行う 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの復習（１時間）
9	最近のニュースを知り、その背景を考える。	中間確認テストの解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
10	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する（変更の可能性あり）	「ニュース時事能力検定」受検に向けた準備学習を行う（2 時間）
11	学生による時事問題発表 (1)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間）
12	学生による時事問題発表 (2)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間）
13	学生による時事問題発表 (3)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間）
14	学生による時事問題発表 (4)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間）
15	学生による時事問題発表 (5)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマか	小テスト・授業内容を復習をする

		最終確認テスト	らとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。 最終確認テスト。	

関連科目	時事問題Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2024 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集　基礎編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度（提出物、発言、発表など）　５０％ 小テスト　１０％ 中間・最終確認テスト　２０％ ニュース時事能力検定成績　２０％
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。 授業時間外の応対については、授業時に指示する。

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current Issues Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保田　ちひろ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKY2846a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。 受験料（3 級 3,300 円、準 2 級 3,800 円、2 級 4,800 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　3級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業のガイダンス 時事問題を理解し、その背景を考える。	授業の目的及び進め方を説明する。教科書の時事問題を解説する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 授業内容の復習。（２時間）
2	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 授業内容、小テストの復習。（２時間）
3	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 授業内容、小テストの復習。（２時間）
4	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 授業内容、小テストの復習。（２時間）
5	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 授業内容、小テストの復習。（２時間）
6	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 授業内容、小テストの復習。（２時間）
7	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 授業内容、小テストの復習。（２時間）
8	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 授業内容、小テストの復習。（２時間）
9	中間確認テスト	中間確認テストを行う。 最近のニュースを取り上げ、解説する。	授業内容の復習。（１時間） 「ニュース時事能力検定」に向けての準備学習を行う。（２時間）
10	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する.。	「ニュース時事能力検定」に向けての準備学習を行う。（３時間）
11	時事問題を理解し、その背景を考える。 プレゼンテーションの概説	最近のニュースを取り上げ、解説する。 時事問題の発表方法について概説する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 時事問題発表の準備。（２時間）
12	学生によるプレゼンテーション（１）	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 時事問題発表の準備。（２時間）
13	学生によるプレゼンテーション（２）	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 時事問題発表の準備。（２時間）
14	学生によるプレゼンテーション（３）	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 時事問題発表の準備。（２時間）
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。（１時間） 授業内容を復習する。（２時間）

関連科目	時事問題Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2024 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	授業への参加度（発言、発表など）　５０％ 小テスト　１０％ 中間・最終確認テスト　２０％ ニュース時事能力検定成績　２０％
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current Issues Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松永　健聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKY2846a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、国際学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」などのテーマを中心に、現在社会で起きている問題に対して、正確かつ適切な情報を収集する能力を養うことを目的とする。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。 現在社会で起きている問題に対して、正確かつ適切な情報を収集することができる。
授業方法と留意点	主に講義とグループデスカッションを併用しておこなう。第11回から14回では、個人またはグループでのプレゼンテーションをおこなう予定である。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。 受験料（3級　3,300円、準2級　3,800円、2級　4,800円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。 また、受講を決めた者は必ず下記記載の教科書を各自で入手すること。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　3級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明 時事問題を学習する意義と方法を理解できるようになる	新聞に目を通す（2時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2時間)
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す（2時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2時間)
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す（2時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2時間)
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す（2時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2時間)
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す（2時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2時間)
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す（2時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2時間)
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す（2時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2時間)
8	中間確認テスト	中間確認テストをおこなう	新聞に目を通す（2時間） これまでの復習をする（2時間）
9	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す（2時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2時間)
10	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する（4時間）
11	学生によるプレゼンテーション（1）	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。	新聞に目を通す（2時間） プレゼンテーションの準備（2時間）
12	学生によるプレゼンテーション（2）	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。	新聞に目を通す（2時間） プレゼンテーションの準備（2時間）
13	学生によるプレゼンテーション（3）	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。	新聞に目を通す（2時間） プレゼンテーションの準備（2時間）
14	学生によるプレゼンテーション（4）	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。	新聞に目を通す（2時間） プレゼンテーションの準備（2時間）
15	最終確認テスト　復習	最終確認テスト（これまでの小テスト・授業内容にもとづく）を行う	新聞に目を通す（2時間） 最終確認テストの復習をする（2時間）

関連科目：時事問題Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2024 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度（発言、発表など）　３０％ 小テスト　１０％ 中間・最終確認テスト　４０％ ニュース時事能力検定成績　２０％
学生への メッセージ	受講生の皆さんには、授業への積極的な参加と、受講生同士の協力が求められます
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	斉藤　穂高
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKY2847a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、国際学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準２級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。 受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。 受験料（3 級　3,300 円、準 2 級　3,800 円、2 級　4,800 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 最近の時事問題について議論し考える	・授業の進め方と受講ルールについての説明 ・確認アンケートの実施 ・時事問題を学ぶ意義を考える	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく
2	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
3	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
4	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
5	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
6	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
7	「ニュース時事能力検定」受検(変更の可能性あり)	・ニュース検定を受験する	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
8	中間確認テスト	・講義内容や小テストをもとにした中間確認テストを行う	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
9	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
10	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
11	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
12	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
13	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
14	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
15	最終確認テスト	・小テストや講義内容を踏まえて、四択ないし記述式の試験を行う	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・最終確認テストの準備

関連科目	時事問題Ⅱ
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>『2024 年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編』</td><td></td><td>毎日新聞社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業への参加度（発言、発表など）　５０％
小テスト　１０％
中間・最終確認テスト　２０％
ニュース時事能力検定成績　２０％</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>時事問題を理解し説明できるスキルは、現代社会を生きる我々にとって不可欠なものです。一緒に学んでいきましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前事後学習時間の目安は 60 時間。
履修者数によっては時事問題プレゼンテーションから、適宜講義などに変更する可能性がある。</td></tr>
</table>

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣　有
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKY2847a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準２級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。 受験料（3 級 3,300 円、準 2 級 3,800 円、2 級 4,800 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 最近のニュースを知り、その背景を考える。	授業の進め方についての説明 時事問題とは？ ニュース検定とは？ 難易度の確認（過去問など）	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 過去問等の回答（１時間）
2	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストとテキストの解説 最近のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
3	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストとテキストの解説 最近のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
4	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストとテキストの解説 最近のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
5	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストとテキストの解説 最近のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
6	中間確認テスト 最近のニュースを知り、その背景を考える。	中間確認テストを行う テキストの解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間） 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習（１時間）
7	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する。（変更の可能性あり）	「ニュース時事能力検定」受検に向けた準備学習を行う（2 時間）
8	学生による時事問題発表 (1)	プレゼンテーションの内容・日程の確認	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間）
9	学生による時事問題発表 (2)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間）
10	学生による時事問題発表 (3)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間）
11	学生による時事問題発表 (4)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間）
12	学生による時事問題発表 (5)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間）
13	学生による時事問題発表 (6)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間）
14	学生による時事問題発表 (7)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論す	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（１時間）

			る。	
	15	学生による時事問題発表 (8) 最終確認テスト	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。 最終確認テスト。	時事問題発表準備（2 時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1 時間）

関連科目	時事問題Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2024 年度版ニュース検定公式テキスト　「時事力」発展編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度（発言、発表など）　５０％ 小テスト　１０％ 中間・最終確認テスト　２０％ ニュース時事能力検定成績　２０％
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。 小テストについては授業中にフィードバックをします。

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保田　ちひろ
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKY2847a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準２級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。 受験料（3 級 3,300 円、準 2 級 3,800 円、2 級 4,800 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス 最近のニュースを知り、その背景を理解する。	授業の目的と進め方についての説明する。 教科書を解説する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） 授業内容の復習を行う。（2 時間）
2	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） 授業内容、小テストの復習を行う。（2 時間）
3	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） 授業内容、小テストの復習を行う。（2 時間）
4	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） 授業内容、小テストの復習を行う。（2 時間）
5	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） 授業内容、小テストの復習を行う。（2 時間）
6	中間確認テスト	中間確認テストを行う。 教科書及び小テストの解説。	授業内容、小テストをまとめ予習を行う。（１時間） 「ニュース時事能力検定」に向けた学習を行う。（２時間）
7	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する。	「ニュース時事能力検定」に向けた学習を行う。（３時間）
8	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） 授業内容、小テストの復習を行う。（2 時間）
9	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） 授業内容、小テストの復習を行う。（2 時間）
10	最近のニュースを正確に知り、その背景を考える。 発表方法の概説	最近、話題のニュースを取り上げ、解説する。 時事問題の発表を行う方法を概説する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） プレゼンテーションの準備をする。（2 時間）
11	学生によるプレゼンテーション(1)	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） プレゼンテーションの準備をする。（2 時間）
12	学生によるプレゼンテーション(2)	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） プレゼンテーションの準備をする。（2 時間）
13	学生によるプレゼンテーション(３)	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） プレゼンテーションの準備をする。（2 時間）
14	学生によるプレゼンテーション(４)	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） プレゼンテーションの準備をする。（2 時間）
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。（１時間） 授業内容の整理・復習を行う。（2 時間）

関連科目	時事問題Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2024 年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	授業への参加度（発言、発表など）　５０％ 小テスト　１０％ 中間・最終確認テスト　２０％ ニュース時事能力検定成績　２０％
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松永　健聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LKY2847a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、国際学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」などのテーマを中心に、現在社会で起きている問題に対して、正確かつ適切な情報をもとに自分の意見を表現する能力を養うことを目的とする.。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準２級相当の知識を有する。 現在社会で起きている問題に対して、正確かつ適切な情報をもとに自分の意見を表現することができる。
授業方法と留意点	主に講義とグループデスカッションを併用しておこなう。また、第 8 回から 14 回では、個人またはグループでのプレゼンテーションをおこなう予定である。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。 受験料（3 級　3,300 円、準 2 級　3,800 円、2 級　4,800 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。 また、受講を決めた者は必ず下記記載の教科書を各自で入手すること。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明 時事問題を学習する意義と方法を理解できるようになる	新聞に目を通す（2 時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2 時間)
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す（2 時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2 時間)
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す（2 時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2 時間)
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す（2 時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2 時間)
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す（2 時間） 授業で取り上げたニュースについて調べる(2 時間)
6	中間確認テスト	中間確認テストをおこなう	新聞に目を通す（2 時間） これまでの復習をする（2 時間）
7	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する（4 時間）
8	学生によるプレゼンテーション（1）	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す（2 時間） プレゼンテーションの準備（2 時間）
9	学生によるプレゼンテーション（2）	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す（2 時間） プレゼンテーションの準備（2 時間）
10	学生によるプレゼンテーション（3）	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す（2 時間） プレゼンテーションの準備（2 時間）
11	学生によるプレゼンテーション（4）	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す（2 時間） プレゼンテーションの準備（2 時間）
12	学生によるプレゼンテーション（5）	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す（2 時間） プレゼンテーションの準備（2 時間）
13	学生によるプレゼンテーション（6）	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す（2 時間） プレゼンテーションの準備（2 時間）
14	学生によるプレゼンテーション（7）	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す（2 時間） プレゼンテーションの準備（2 時間）
15	最終確認テスト　復習	最終確認テスト（これまでの小テスト・授業内容にもとづく）を行う	新聞に目を通す（2 時間） 最終確認テストの復習をする（2 時間）

関連科目	時事問題Ⅰ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>2024 年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編</td><td></td><td>毎日新聞社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業への参加度（発言、発表など）　３０％
小テスト　１０％
中間・最終確認テスト　４０％
ニュース時事能力検定成績　２０％</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>受講生の皆さんには、授業への積極的な参加と、受講生同士の協力が求められます</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前事後学習時間の目安は 60 時間</td></tr>
</table>

科目名	地域とビジネスプロジェクト	科目名（英文）	Project on Regional Business
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3544a0		

授業概要・目的	・この科目は「地域とビジネスプロジェクト」の対応科目である。 ・講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。 ・授業内容は、同基幹科目の「国際ビジネス論」との関連性が高く、食品やアパレルから機械や自動車に至るまで私たちの日常生活と関係が深い業界に注目し、そのビジネスに関する最新の動向とその背景について調査・分析していく。また、グローバル企業のマーケティング戦略について事例に基づいて考察するとともに、資源や原材料の調達などにかかるサプライチェーンにも目を向けてみたい。
到達目標	グローバル企業の事業戦略やマーケティング戦略などについて、自ら課題や問題点を発見し、その解決に向けて新しい発想を生み出す柔軟な思考力・判断力を習得することを目標とする。また、その際、複眼的・客観的にそれらを把握する態度、および仲間と協調して活動する姿勢を身につけることも目標に含まれている。
授業方法と留意点	・講義と演習を組み合わせ、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れながら学生が主体となって取り組む授業である。 ・原則として授業への出席率が８０%以上であることを単位修得の条件とする。
科目学習の効果（資格）	業界・企業研究に活かすことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション プレゼンテーションとグループディスカッションのスキルについて	・授業の内容や進め方などの説明を聞いて理解する。 ・プレゼンテーションとディスカッションののスキルについて実例とともに学ぶ。	・授業の内容や進め方について確認し、計画を立てる（2時間）。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる（2時間）。
2	小麦、大豆、代替肉 それらに関する業界・企業の動向について	授業テーマに関するニュースや新聞記事を活用しながら、関連企業の動向や事業戦略とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
3	とうもろこし、さとうきび、バイオ燃料 それらに関する業界・企業の動向について	授業テーマに関するニュースや新聞記事を活用しながら、関連企業の動向や事業戦略とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
4	パーム油、コーヒー豆、フェアトレード それらに関する業界・企業の動向について	授業テーマに関するニュースや新聞記事を活用しながら、関連企業の動向や事業戦略とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
5	綿花、木材、住環境 それらに関する業界・企業の動向について	授業テーマに関するニュースや新聞記事を活用しながら、関連企業の動向や事業戦略とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
6	エネルギー関連 それらに関する業界・企業の動向について	授業テーマに関するニュースや新聞記事を活用しながら、関連企業の動向や事業戦略とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
7	金属、半導体関連 それらに関する業界・企業の動向について	授業テーマに関するニュースや新聞記事を活用しながら、関連企業の動向や事業戦略とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
8	自動車、電池関連 それらに関する業界・企業の動向について	授業テーマに関するニュースや新聞記事を活用しながら、関連企業の動向や事業戦略とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
9	プレゼンテーションの準備	各グループで設定した研究テーマに関するプレゼンテーションの準備をを行う。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
10	グループによるプレゼンテーション（1）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
11	グループによるプレゼンテーション（2）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
12	グループによるプレゼンテーション（3）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
13	グループによるプレゼンテーション（4）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
14	グループによるプレゼンテーション（5）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
15	総括（まとめ）	・これまでの授業の内容を総括し、要点を整理する。 ・プレゼンテーションの内容やスキルについて総評する。	・これまでの授業で扱った内容について、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。 ・自分たちのプレゼンテーションについて講評に基づいて振り返り、改善すべき点などを確認する（2時間）。

関連科目	「世界を学ぶ」、「日本を学ぶ」、「国際ビジネス論」など
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 会社四季報 業界地図 2024 年版 / 東洋経済新報社[編] / 東洋経済新報社 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	プレゼンテーション（研究発表） 50%、 グループディスカッションなどの授業時の取り組み・成果物 50%
学生への メッセージ	グループワークが中心となるため、メンバーと協調して活動する姿勢を大切にしてください。
担当者の 研究室等	７号館４階 中島研究室
備考	

科目名	国際貢献・ボランティアプロジェクト	科目名（英文）	Project on International Cooperation and Volunteer Work
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	原田　豪
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3545a0		

授業概要・目的	グローバル化が進んだ現在，私たちの日常生活を維持するには，国際社会の安定が必要不可欠です．にもかかわらず，安定とは程遠いニュースが日々伝えられています．なぜ国際社会を安定させることは難しいのでしょうか？本授業では，基幹科目で学ぶ知識を用いながら，主に「平和」と「開発」の側面からこの問いに取り組みます． プロジェクト科目に属するこの授業は，①自分の主張の正当性を論理的に説明し，②さらに事例を関連付けて正当性を補強していく実践などを行います．これらの実践を通じて，国際問題の複雑さに対する理解を深めるだけでなく，「考える」・「伝える」能力を磨くことがこの授業の目的となります．
到達目標	①与えられた課題に対し，必要なデータを探すことが出来る． ②見つけたデータを用い，論理的な主張を構成出来る． ③他者が主張する論理を理解した上で，批判的検討を加えることが出来る．
授業方法と留意点	基幹科目で必要な背景知識を得ていることを前提として，この授業では与えられたテーマに関するグループワーク・プレゼンテーション・ディベートを順に行っていきます． 可能であれば，パソコンを持参してください．
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方などのガイダンスおよびグループ分け	シラバスをよく読むこと（1時間） グループ内で意思疎通を図ること（3時間）
2	ディベートとは？	一般的なディベート方法に関する導入	ディベートについて調べておくこと（2時間） 授業内容を振り返っておくこと（2時間）
3	ディベート入門	ディベート練習	配布資料を読み込んでおくこと（2時間） 授業内容を振り返っておくこと（2時間）
4	前半発表の準備①	与えられた課題に関する調査およびプレゼン準備	基幹科目の関連内容を振り返っておくこと(2時間) 調査・準備を進めること（2時間）
5	前半発表の準備②	与えられた課題に関する調査およびプレゼン準備	基幹科目の関連内容を振り返っておくこと(2時間) 調査・準備を進めること（2時間）
6	前半発表の準備③	あり得る反論・疑問の検討	基幹科目の関連内容を振り返っておくこと(2時間) 発表の段取りを整えること（2時間）
7	前半発表①	準備した発表および対となるグループとのディベート	自分たちのプレゼン内容を見返しておくこと（2時間） 発表に対する振り返りを行うこと（2時間）
8	前半発表②	準備した発表および対となるグループとのディベート	自分たちのプレゼン内容を見返しておくこと（2時間） 発表に対する振り返りを行うこと（2時間）
9	前半まとめ	前半発表へのフィードバック 後半の準備	基幹科目の関連内容を振り返っておくこと(2時間) フィードバックを基に，改善点を考えること（2時間）
10	後半発表の準備①	与えられた課題に関する調査およびプレゼン準備	基幹科目の関連内容を振り返っておくこと(2時間) 調査・準備を進めること（2時間）
11	後半発表の準備②	与えられた課題に関する調査およびプレゼン準備	基幹科目の関連内容を振り返っておくこと(2時間) 調査・準備を進めること（2時間）
12	後半発表の準備③	あり得る反論・疑問の検討	基幹科目の関連内容を振り返っておくこと(2時間) 発表の段取りを整えること（2時間）
13	後半発表①	準備した発表および対となるグループとのディベート	自分たちのプレゼン内容を見返しておくこと（2時間） 発表に対する振り返りを行うこと（2時間）
14	後半発表②	準備した発表および対となるグループとのディベート	自分たちのプレゼン内容を見返しておくこと（2時間） 発表に対する振り返りを行うこと（2時間）
15	総括	後半発表へのフィードバック 授業全体のレビュー	授業の改善点を考えておくこと（3時間） 授業全体を振り返っておくこと（1時間）

関連科目	国際貢献論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生のためのディベート入門	内藤真理子・西村由美	ナカニシヤ出版
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み・参加：40% プレゼンテーションおよびディベートの評価：60%
学生へのメッセージ	ディベートの方法を一部取り入れ，「どちらが論理的であったか」を聴衆からの評価で判断しますが，「論戦に勝つ」を目的とはしません．「相手の主張をきちんと理解し，応答する」といった意見交換の練習を行う場にしたいと思っています．
担当者の研究室等	
備考	基幹科目の国際貢献論とリンクしているため，同授業にも同等の取り組みが求められます．

科目名	ことばと社会	科目名（英文）	Language and Society
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3547a0		

授業概要・目的	本授業ではことばと社会の密接な関係について考察し、ことばが実際に用いられる「文脈」の変化が言語の運用にどのような影響を与えるのかを探る。さまざまな場面における言語表現を題材にして、主に日本語における社会と言語の関係についての実地調査を実践する。受講生はグループに分かれ、各グループで設定した課題について実際に言語データを収集、課題に関係する文献資料を調査研究し、最終的にグループでの研究発表を行う。課題は言語使用における地域差、社会階級、年齢、使用場面がどのように影響を与えるかについてとする。このような取り組みを通して、言語と社会の関係について、深く理解する試みを実践する。なお受講生は、音声学、日本語音韻論、日本語語彙論、英語構造論、英語意味論語用論のいずれかの授業を履修し、その内容について理解していることが望ましい。
到達目標	言語使用における地域差、社会階級、年齢、使用場面がどのように影響を与えるかについて理解できる
授業方法と留意点	プロジェクト科目と密接に関係する科目ですので、両方の授業で１セットであるという認識を持ってください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会言語学とは	社会言語学とは何かについて概略を学ぶ	充分時間をかけ、事前にシラバスを読んでくること。（２時間）
2	言語と地域	言語と地域について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
3	言語と社会階層	言語と社会階層について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
4	言語と民族	言語と民族について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語について系統を確認しておくこと。（２時間）
5	言語とジェンダー	言語とジェンダーについて学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
6	言語と年齢	言語と年齢について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
7	言語の選択	言語の選択について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語の発音について確認しておくこと。（２時間）
8	中間まとめ	第1回から第7回の内容について復習する。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
9	言語の状況差、適切さ(スタイルとレジスター)	言語の状況差、適切さ(スタイルとレジスター)について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
10	ディスコース分析	ディスコース分析について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
11	コミュニケーションの民族誌	コミュニケーションの民族誌について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
12	相互行為的社会言語学	相互行為的社会言語学について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。次週までに各自が学んでいる言語の語形変化について確認しておくこと。（２時間）
13	社会言語学と異文化コミュニケーション	社会言語学と異文化コミュニケーションについて学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
14	会話分析	会話分析について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。（２時間）
15	総復習	総復習を行う。	これまでに学んだことの総復習をしておくこと。（２時間）

関連科目	言語コミュニケーションプロジェクト 音声学・各言語科目等。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂版 社会言語学 基本からディスコース分析まで	岩田祐子（著），重光由加（著），村田泰美（著）	ひつじ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業の成果物（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階　藤原研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	メディア文化論	科目名（英文）	Media Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3548a0		

授業概要・目的	【近代メディアとイデオロギー】 主に明治以降の「近代」に成立したメディアと、そのメディアを媒介に形成されるイデオロギーについて講義する。特にルイ・アルチュセールの「イデオロギーと国家のイデオロギー装置」における論考を手がかりに、メディアが近代以降にイデオロギー装置として機能してきたことを辿りながら、改めて現代における身近なメディアを捉えなおすことを試みたい。 ※この科目は「メディアと現代社会プロジェクト」の対応科目です。
到達目標	近代メディア史を概括できる メディアとイデオロギーの諸関係を理解できる 現代のメディアに関する問いと考察を言語化できる
授業方法と留意点	講義を中心に進める。 毎回、講義後にコメントを提出してもらう。 コメントに対しては授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認
2	メディアとは何か（１）	２回にわたり、マクルーハン「メディア論」などの古典を紹介しながら、それらを批判的に論じながらメディアについて考察する。アルチュセール、フーコー、ブルデューなどの現代思想を援用しながら、本講義の論点を明確にしていく。	配布プリントの確認
3	メディアとは何か（２）	承前	配布プリントの確認
4	活字（１）	２回にわたり、出版メディアを中心とした考察を行う。新聞や雑誌が近代以降どのように発展し、それらがどのように権力と接してきたかを検証する。	配布プリントの確認
5	活字（２）	承前	配布プリントの確認
6	幻燈（１）	２回にわたり、映画、写真などの映像メディアに関する考察を行う。リアリズムの概念を崩したばかりでなく、人間の視覚がいかに変容したかを捉えたい。	配布プリントの確認
7	幻燈（２）	承前	配布プリントの確認
8	記録（１）	２回にわたり、記録メディアについて考察する。フィルム、録音技術など「複製」技術が文化体験をどのように変えたのかを議論したい。	配布プリントの確認
9	記録（２）	承前	配布プリントの確認
10	音声（１）	２回にわたり、音声に関するメディアについて考える。電話、ラジオ、蓄音機、拡声器などの音声メディアが、身体と社会にどう影響をもたらし、近代社会を形成していったかを確認する。	配布プリントの確認
11	音声（２）	承前	配布プリントの確認
12	装置（１）	２回にわたり、アルチュセールの「イデオロギー装置」について考察する。近代国家の成立とともに誕生したメディアが権力といかに不可分であるかを確認していく。	配布プリントの確認
13	装置（２）	承前	配布プリントの確認
14	総括・試験の説明	授業の総括を行い、試験の説明を行う	配布プリントの確認
15	試験	試験を実施する（またはレポートを提出する）	試験のふりかえり

関連科目：「メディアと現代社会プロジェクト」「日本の文学」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

履修者が多数の場合（80 人以上を目安とする）
試験９０％
平常点（コメントシートの内容）１０％

	上記以外の場合 平常点（コメントシートの内容）60% レポート 40%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館４階（古矢研究室）
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 60 時間。

科目名	ジェンダーとマイノリティ	科目名（英文）	Issues on Gender and Minorities
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3549a0		

授業概要・目的	本講義ではジェンダーとマイノリティについて理解するために、全体的な問題を示した上でいくつかトッピクに着目する。各トッピクに関しては、それぞれ概要を説明したうえで、事象や実例を取り上げる。具体的には、ジェンダーの歴史・描かれるマイノリティ・地方自治体の活動・外国人に関する認識などに注目し講義する。 こうした中で、マイノリティとよばるものの歴史的な背景を知り、そして、多様な背景をもつ人々と共生する現代社会の理解を深めることを目的とする。
到達目標	・ジェンダーやセクシュアリティについて説明できるようになる。 ・様々なマイノリティについて理解し、問題点を考察し、調査する方法を習得する。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使って、対面式の授業を行う。 適宜、スマートフォンなどを使用して、調べたりする時間を取ることもある。 ワークシートや資料を通した簡単なディスカッションも行う。 課題提出や資料の配布などに Teams を使用する。
科目学習の効果（資格）	マイノリティという多文化共生社会に必要な知識を身につけることで、社会で諸問題を解決する力を養い、世界の多様な文化に触れる際に問題意識をもって関わることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	マイノリティを研究することについて	どのようなものがマイノリティと呼ばれるのかを考えてくる。
2	ジェンダーとセクシュアリティ	・ジェンダーとは ・セクシュアリティに関係する言葉	ジェンダーとセクシュアリティの違いを考えてくる。
3	マイノリティと差別	・様々なマイノリティ ・何が問題か ・戦争とマイノリティ	授業後、マイノリティやジェンダーについていまのところの関心を書き出す。
4	自治体の取り組み	・寝屋川や京都の自治体の取り組みを知る ・自分で興味のある自治体の活動を調べて、まわりｔｐディスカッション	授業後、調べた自治体について活動内容をまとめる。
5	病とマイノリティ	・優生思想 ・ハンセン病	最近のマイノリティに関するニュースを調べてくる。
6	描かれるマイノリティ	・絵画や小説の中のマイノリティ	マイノリティが描かれる映画、小説、絵画などを調べてくる。
7	映像から見るマイノリティ	・ハンセン病	授業後、映像やアートで表現することの意味を考える。
8	ジェンダーの歴史―全体―	・女性の権利 ・女らしさとは	・「女らしさ」「男らしさ」について考えてくる。
9	ヨーロッパを中心としたジェンダーの歴史	・ヨーロッパの女性史 ・女性参政権運動	ヨーロッパで有名な女性について調べてくる。どうして有名ないのかも考えてくる。
10	アジアを中心としたジェンダーの歴史	・日本の女性 ・アジアの女性 ・世界の比較	ヨーロッパの女性と比較して、日本の女性について考えてくる。
11	ジェンダーに関する諸問題	・現代の様々な活動 ・これからに向けての展望	・授業後、これまでのジェンダーの内容についてまとめ、自分で考察してみる。
12	国家と外国人	・外国人とは何か？	・外国人の定義を考えてくる。
13	ヨーロッパの移民	・イギリスやフランスの移民について ・資料から移民を考える	・ヨーロッパの移民の問題のニュースを調べてくる。
14	マイノリティの言葉	・資料からマイノリティを考える	授業後、資料からどんなことが言えるのかを考える。
15	まとめ	・授業内試験 ・ジェンダーやマイノリティについて、振り返る	授業の内容をまとめ、自分なりに考察したことをレポートにする。

関連科目	マイノリティ研究プロジェクト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業中のコメントシートや課題）20%、小レポート（2 回程度）20%、試験 60%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	事前事後学習の総学習時間は、60 時間を目安とする。

科目名	比較政治学	科目名（英文）	Comparative Political Science
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3550a0		

授業概要・目的	本講義は、世の中に対する「ものの見方」の一つとして比較政治学という学問分野を取り上げ、現代世界の諸問題についての理解の方法論を修得し、その現実的な解決策を模索していくことを目指すものである。 ※この科目は「地域研究・国際政治プロジェクト」の対応科目（基幹科目）である。 ※【外国語学部生向け】この科目は、外国語学部パッケージプログラム（国際貢献）の「国際平和論」対応科目であるが、テキスト・内容は昨年度までのものから全面的に刷新されている。履修時には注意されたい。
到達目標	「比較政治学」という学問分野の議論と研究手法に触れ、現代社会に対する理解を深める。
授業方法と留意点	１．原則として講義形式をとり、内容に即したレジュメを配布する。また、指示された課題にも各自取り組むものとする。 ２．授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信・課題等の提出、という２つの手段を適宜組み合わせて行なう。 ３．基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。 ４．本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果（資格）	現代社会の諸問題を理解するための手法としての「比較政治学」についての基礎的な理解を得て、自らの「ものの見方」に取り入れることが期待される。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義内容およびテキストについて導入を行なう。 序章　比較政治学とは何か	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	比較政治学の方法論	補章　方法論	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	「国家」とは何か	第 1 章　国家	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	民主化の理論と研究	第 2 章　民主化	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	複数の「民主主義」	第 3 章　民主主義体制	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	「権威主義体制」とは何か	第 4 章　権威主義体制	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	政治と「暴力」	第 5 章　政治的暴力	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	「政軍関係」とは何か	第 6 章　政軍関係	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	政治文化論の射程	第 8 章　政治文化	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	選挙と政治	第 9 章　選挙	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	「政党」とは何か	第 10 章　政党	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	「政党システム」とは何か	第 11 章　政党システム	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	「執政制度」とは何か	第 12 章　執政制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	「福祉国家」のゆくえ	第 15 章　福祉国家	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	「ポピュリズム」とは何か	第 18 章　ポピュリズム	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキス

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>トを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>・世界の政治（世界の政治）　※（　）は外国語学部開講科目
・地域研究・国際政治プロジェクト</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>よくわかる比較政治学</td><td>岩崎正洋･松尾秀哉･岩坂将充(編著)</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。
（課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>毎回の授業だけでなく、授業内で提示する課題への取り組みの際にも教科書は必携なので、必ず購入の上で受講すること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 4 階　田中研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前事後学習の総学習時間は、課題への取り組みも含めて 60 時間を目安とする。
授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。

※【外国語学部生向け】この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献）の対応科目であり、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能となっている。ただし、上で述べたように、テキスト・内容は昨年度までのものから全面的に刷新されている。履修時には注意されたい。</td></tr>
</table>

科目名	国際ビジネス論	科目名（英文）	Lecture on International Business
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3551a0		

授業概要・目的	・この科目は「地域とビジネスプロジェクト」の対応科目である。 ・講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。 ・本授業では、グローバル企業の事業展開やマーケティング戦略、およびサプライチェーンや物流などに注目し、地政学的リスクや SDGs の対応策なども含めてビジネス論に関する理解を深めていく。
到達目標	グローバル企業の事業戦略やマーケティング戦略などについて、自ら課題や問題点を発見し、その解決に向けて新しい発想を生み出す柔軟な思考力・判断力を習得することを目標とする。また、その際、複眼的・客観的にそれらを把握する態度、および仲間と協調して活動する姿勢を身につけることも目標に含まれている。
授業方法と留意点	・講義と演習を組み合わせ、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れながら学生が主体となって取り組む授業である。 ・原則として授業への出席率が８０％以上であることを単位修得の条件とする。
科目学習の効果（資格）	業界・企業研究に活かすことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション プレゼンテーションやディスカッションのスキルについて	・授業の内容や進め方などの説明を聞いて理解する。 ・プレゼンテーションやディスカッションのスキルについて実例とともに学ぶ。	・授業の内容や進め方について確認し、計画を立てる（2 時間）。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる（2 時間）。
2	流通・小売業界について	授業テーマに関する業界の動向、および企業の事業戦略やビジネスモデルについて事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4 時間）。
3	飲食業界について	授業テーマに関する業界の動向、および企業の事業戦略やビジネスモデルについて事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4 時間）。
4	アパレル業界について	授業テーマに関する業界の動向、および企業の事業戦略やビジネスモデルについて事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4 時間）。
5	脱炭素化・ESG の取り組みについて	授業テーマに関する業界の動向、および企業の事業戦略やビジネスモデルについて事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4 時間）。
6	運輸・物流業界について	授業テーマに関する業界の動向、および企業の事業戦略やビジネスモデルについて事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4 時間）。
7	キャッシュレス決済について	授業テーマに関する業界の動向、および企業の事業戦略やビジネスモデルについて事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4 時間）。
8	E コマース（EC）について	授業テーマに関する業界の動向、および企業の事業戦略やビジネスモデルについて事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4 時間）。
9	プレゼンテーションの準備	各グループで設定した研究テーマに関するプレゼンテーションの準備を行う。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4 時間）。
10	グループによるプレゼンテーション（1）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2 時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
11	グループによるプレゼンテーション（2）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2 時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
12	グループによるプレゼンテーション（3）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2 時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
13	グループによるプレゼンテーション（4）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2 時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
14	グループによるプレゼンテーション（5）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2 時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
15	総括（まとめ）	・これまでの授業の内容を総括し、要点を整理する。 ・プレゼンテーションの内容やスキルについて総評する。	・これまでの授業で扱った内容について、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。 ・自分たちのプレゼンテーションについて講評に基づいて振り返り、改善すべき点などを確認する（2 時間）。

関連科目	「世界を学ぶ」、「日本を学ぶ」、「地域とビジネスプロジェクト」など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>会社四季報 業界地図 2024 年版</td><td>東洋経済新報社[編]</td><td>東洋経済新報社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	プレゼンテーション(研究発表) 50%、 グループディスカッションなどの授業時の取り組み・成果物 50%
学生への メッセージ	グループワークが中心となるため、メンバーと協調して活動する姿勢を大切にしてください。
担当者の 研究室等	７号館４階 中島研究室
備考	

科目名	国際貢献論	科目名（英文）	International Cooperation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	原田　豪
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3552a0		

授業概要・目的	昨今，自国第一を当然とする主張が各国・各地域で強まりつつあります．誰もが自分を優先すれば，まとまりは失われ争いが頻発しそうなものですが，そこまではまだ至っていません．なぜでしょうか？ この授業では，国際社会の秩序を保つ要因である国際機構に注目し，どのように出現し，変化してきたかを見ていきます．国際機構の発展を振り返ることを通じて，国際機構を通じた国際協調維持の難しさと国際貢献の重要性を考えることが授業の目的となります． ※国際学部では，この科目は「国際貢献・ボランティアプロジェクト」の対応科目です．
到達目標	①戦後体制と呼ばれるものが現在抱える問題を少なくとも１つ述べることが出来る． ②国際社会に対する日本の貢献に関し，自分の意見を持ち，論理的に主張できる． ③国際機構に期待されている役割とその困難さの関係性を理解し，説明できる．
授業方法と留意点	講義形式で行います． 授業で興味・関心をもった事柄や，質問などを記入するリアクションペーパーを毎回実施します．
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業ガイダンス	シラバスをよく読むこと（1時間） 指示された準備を行うこと（2時間）
2	国際機構とは何か	国際機構の働きについて	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
3	地球規模の国際機構の始まり	第一次世界大戦と国際連盟	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
4	機能する国際機構の模索	国際連盟と国際連合の比較	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
5	国際連合	国際連合の初期制度設計とその意図	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
6	冷戦期の国際連合	国際連合の機能不全状態について	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
7	国際連合の新たな活動	国連平和維持活動の始まりと発展	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
8	小括:国際機構を通じた平和の追求	ここまでのまとめ	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 期末課題の準備をすること（2時間）
9	経済領域における国際秩序の模索	ブレトンウッズ体制・GATT	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
10	WTOの創設と課題	WTOの課題と現状	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
11	自由貿易を巡る対立	南北問題の解説	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
12	開発問題	国際社会の課題としての開発問題	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
13	国による取り組み:日本の場合	日本のODA・国際貢献	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
14	民間による取り組み	ボランティア・NGOによる活動の特徴	毎日，国際ニュースをチェックすること（2時間） 授業内容をノートにまとめるなど復習に努めること（2時間）
15	おわりに	授業のまとめ	これまでの授業内容を振り返っておくこと(2時間) 期末課題に取り組むこと（3時間）

関連科目	国際貢献・ボランティアプロジェクト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	リアクションペーパー：40%

（基準）	期末課題：60%
学生へのメッセージ	国際機構は英語では International Organization となります．この語には「国際レベルでの組織化」の意味も含まれるそうです．非常に遅々とした歩みではありますが，国際社会でも何らかの組織化が確かに起こってきたことを知ってもらえればと思います．
担当者の研究室等	
備考	基幹科目であるこの授業は単体でも受講に問題ありませんが，内容は国際貢献・ボランティアプロジェクトとリンクしています． また，この授業ではリアクションペーパーや課題を Forms を通じて実施する予定です．

科目名	Studies in Media and Communication	科目名（英文）	Studies in Media and Communication
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3553c0		

授業概要・目的	The purpose of this course is to investigate the role that media and communication plays in the world on both an individual and societal level. The topics this course will explore include the origin of media, media bias and its role in society, the influence of media on collective thought, the differences between disinformation and misinformation, the positive effect of media, social media, misuse of media, and propaganda. 本科目は、国際学部カリキュラムにおける「社会協創領域」の「接続科目」の一つです。
到達目標	Students will better appreciate the influence that media and communication have on their lives. Students will learn how to express their opinions on the subject matter using refined and thoughtful English. There will be a focus on cultivating critical thinking skills in this class. A secondary focus will be on improving notetaking and analytical skills.
授業方法と留意点	The course is lecture-based with content from the teacher, articles, and multimedia. Diligent notetaking is required for this class, as well as active speaking and writing through exercises, assignments, and projects.
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation and an intro to media	Solo and group work	Review topics and organize notes
2	The origins of media and communication; media in history	Solo and group work	Review topics and organize notes
3	The origins of media and communication; media in history	Solo and group work	Review topics and organize notes
4	The methods of modern media and its influence	Solo and group work	Review topics and organize notes
5	The methods of modern media and its influence	Solo and group work	Review topics and organize notes
6	Media bias and its societal foundations	Solo and group work	Review topics and organize notes
7	Media bias and its societal foundations	Solo and group work	Review topics and organize notes
8	The positive effects and necessity of media as a tool	Solo and group work	Review topics and organize notes
9	Misinformation and disinformation	Solo and group work	Review topics and organize notes
10	Misinformation and disinformation	Solo and group work	Review topics and organize notes
11	Social media and its role	Solo and group work	Review topics and organize notes
12	Social media and its role	Solo and group work	Review topics and organize notes
13	Group research project	Group work	Contribute towards group project
14	Group research project	Group work	Contribute towards group project
15	Group Presentation	Group work	Contribute towards group project

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Course grading is as follows: Assignments are 80% of the final grade; the group project is 20% of the final grade. Any missed work due to absences is expected to be completed by students when able as assignments are a significant part of the grade.
学生へのメッセージ	This course will have a positive impact on your lives, so try your best as we explore this wonderful topic together. Don't forget your notebooks and writing utensils, though!
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Studies in Hospitality and Tourism	科目名（英文）	Studies in Hospitality and Tourism
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3554b0		

授業概要・目的	Students enrolled in this course will explore the meaning of hospitality from various cultures and the purpose of tourism from the perspective of various stakeholders. Students will also examine the role of tourism in a sustainable society. 本科目は、国際学部カリキュラムにおける「社会協創領域」の「接続科目」の一つです。
到達目標	1. Students can demonstrate an understanding of the similarities and differences of hospitality in various cultures. 2. Students can demonstrate an understanding of various types of tourism and their stakeholders. 3. Students can demonstrate an understanding of important tourism events in Japan through conducting research. 4. Students can interact with people from different cultural backgrounds in English to express their ideas.
授業方法と留意点	The instructor will provide mini-lectures and students will engage in group discussions. Students will also design and implement projects to learn how different cultures perceive hospitality. There might be opportunities to interact with people from different cultures online and in person. This course is taught entirely in English, and students are required to complete weekly assignments to create a portfolio to document learning outcomes.
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	An introduction to the course where everyone should attend. Making groups for project-based learning.	Starting a portfolio for this course.
2	Understanding hospitality 1	Definition, origin, and evolution of hospitality in Japan. Hospitality project-based learning 1	Research about the concept of hospitality in a targeted culture.
3	Understanding hospitality 2	Hospitality project-based learning 2	Confirm research findings on hospitality in a targeted culture.
4	Understanding hospitality 3	Hospitality project-based learning 3 Group presentations (date might change)	Share research findings on hospitality with people from the targeted culture.
5	Ecotourism	Definition of ecotourism and its stakeholders.	Find examples and an itinerary to share with group members in the following week.
6	Religious tourism	Definition of religious tourism and its stakeholders.	Find examples and an itinerary to share with group members in the following week.
7	Scenic tourism	Definition of scenic tourism and its stakeholders.	Find examples and an itinerary to share with group members in the following week.
8	Adventure tourism	Definition of adventure tourism and its stakeholders.	Find examples and an itinerary to share with group members in the following week.
9	Cultural tourism	Definition of cultural tourism and its stakeholders.	Find examples and an itinerary to share with group members in the following week.
10	Recreational tourism	Definition of recreational tourism and its stakeholders.	Find examples and an itinerary to share with group members in the following week.
11	Agricultural tourism	Definition of agricultural tourism and its stakeholders.	Find examples and an itinerary to share with group members in the following week.
12	Gourmet tourism	Definition and examples of gourmet tourism. Choosing one specific type of tourism to conduct a group project. Planning for the tourism project	Begin of tourism group project.
13	Tourism project 1 - data collection	Continue planning for the tourism project and gathering data.	Data collection through actual visits.
14	Tourism project 2 - progress report	Report on progress of tourism project.	Data collection through actual visits and creating a final presentation.
15	Tourism project 3 - presentation	Presentation on tourism project. Peer evaluation. Review of key concepts in the course.	Submit learning portfolio.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Printouts will be provided by the instructor		
2			

	3			
評価方法 （基準）	Class participation using English, asking questions, enthusiasm, and attendance - 30% Learning portfolio including weekly assignments - 30% Group projects - 40%
学生への メッセージ	Let us learn about different types of tourism from all over the world, and at the same time, reflect on how tourism affects sustainability and also identify who are the stakeholders behind tourism. Weekly assignments must be submitted to create a learning portfolio to monitor progress.
担当者の 研究室等	7 号館 3 階チュウ研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内でも行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	中国語で読み解く地域社会	科目名（英文）	Local Communities: Issues in Chinese
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3555e0		

授業概要・目的	本講義は、映像資料を含むさまざま中国語テキストを読み解くことによって、変化する中国語圏の地域の諸相を理解し、中国語圏への関心を深めることを目的とする。これまでに学んできた中国語圏に関する総合的な理解をもとに、授業計画に示した各回の授業テーマにそくして、個別具体的なトピックを取り上げて検討する。
到達目標	中国語圏の地域の諸相について理解を深め、中国語を通して中国語圏とのかかわりかたを説明することができる。
授業方法と留意点	授業は、各回のテーマにそくした中国語テキストの読解が半分、このテキストの背景を理解するための講義が半分の構成で進める。2 年生後期までに開講された中国語の授業レベルを前提としている。 この科目は「地域言語科目」のうち、1 年後期、2 年前期、2 年後期、及び 3 年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	中国語能力の向上、中国語を通した中国語圏理解の向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業方法のガイダンス 社会主義	事後に授業内容を復習する（1 時間）。
2	豊かさを求めて①	発展する都市の変貌	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
3	周辺に生きる	中国東北地域にみる農村、少数民族	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
4	香港	一国二制度と民主化運動	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
5	台湾	植民地支配の記憶	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
6	在外中国人	関西の中国人社会	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
7	コロナ禍を経て	コロナ禍・アフターコロナの中国語圏社会	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
8	授業のまとめとテスト	前半の授業の総括、確認テスト	事前に第 2～7 回の授業内容を復習し、テストに備える（2 時間）。事後にテストを振り返る（30 分）。
9	豊かさを求めて②	経済発展、デジタルイノベーション	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
10	持続可能な社会を目指して①	少子高齢化、ジェンダー	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
11	持続可能な社会を目指して②	環境、貧困	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
12	ことば	言語、コミュニケーション	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
13	生活習慣	飲食、冠婚葬祭	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
14	文化	文学、映画	事前に配布された中国語テキストを予習する（1 時間）。事後に授業内容を復習する（1 時間）。
15	授業のまとめとテスト	後半の授業の総括、確認テスト	事前に第 9～14 回の授業内容を復習し、テストに備える（2 時間）。事後にテストを振り返る（30 分）。

関連科目	「中国語圏から社会を考える」「中国語で表現するⅢ」「中国語で会話するⅢ」「中国語で読み解くⅢ」ほか中国語の接続科目、地域言語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み：50% 確認テスト：50%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	小都研究室（7 号館 3 階）
備考	テーマやトピックは受講者の状況、関心にしたがって調整する可能性がある。

科目名	中国語圏から社会を考える	科目名（英文）	Communities in the Chinese-speaking World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3556e0		

授業概要・目的	今日地球レベルで国際化、情報化、開放化が進んでいる。この流れの中で世界最大の発展途上国の中国も凄まじい発展を遂げながら、さまざまな問題を抱えている。いまの中国のもつ魅力と問題点を歴史的、総合的な視点から明らかにしていくことが本授業の目標である。具体的には現代中国社会に関して、政治、経済、教育、文化、人口問題などを中心に議論をしながら、中国の全体像を正しく捉えてその社会の理解を深めたい。
到達目標	現代中国についての自分なりの見方を獲得できる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期、2年後期、3年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。授業にはプリントを使用し、現代中国に関わる幾つかのトピックについて講義を行う。単方向の授業となりがちなので、毎回授業後半には授業の振り返りとしてレポートを課すので、質問などがある際はレポートに付け加える形で書いてほしい。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	常識力の向上。就職、面接試験に有効。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ユニットⅠ　現代中国の概況	中国の国情について	次回用のプリント・地図等配布。学習課題：人口分布の不均衡、地域差　復習 30 分
2	ユニットⅠ　現代中国の概況	多民族国家としての中国	学習課題：多民族 復習 30 分
3	ユニットⅠ　現代中国の概況	インバウンドにみる日本と中国の関係	学習課題：インバウンドが日本にもたらすものを考察してみる。 復習 30 分
4	ユニットⅠ　現代中国の概況	台湾ちついて知る	学習課題：台湾の現在、歴史、民俗について、知識を整理する。 復習 30 分
5	復習	１チェックテスト	学習課題：現代中国についての基本知識を復習しておく。 チェックテストで間違えた箇所を復習する　30 分
6	ユニットⅡ　中国近現代史	中国の近現代史について学ぶ。その１歴代王朝　最後の王朝清、辛亥革命　中華民国の成立	学習課題：中国の歴代王朝、清の没落から中華民国の成立に及ぶ足跡を整理する。 復習 30 分
7	ユニットⅡ　中国近現代史	その２　中華民国の成立から、日中戦争、中華人民共和国の成立	学習課題：中華民国の成立以降中華人民共和国の成立まで、その複雑な過程を整理しておく。 復習　30 分
8	ユニットⅡ　中国近現代史	その３　中華人民共和国の建国以降、文化大革命まで	学習課題：中華人民共和国建国以降も中国は政治的紆余曲折の道を歩む。その過程と結果を復習しておく。 復習 30 分
9	ユニットⅡ　中国近現代史	その４　文化大革命の終焉から改革開放路線、現在に至るまで	学習課題：文化大革命の終焉後、政治から経済へと舵を切る中国。その道のりを整理しておく。 復習 30 分
10	復習	チェックテスト	学習課題：中国の近現代史について知識を整理する。チェックテストで間違えた箇所はしっかり復習する。 復習 30 分
11	ユニットⅢ　直近の中国	習近平第３期政権について学ぶ。	学習課題：中国のトップセブンに着いた七人の名前、顔写真を覚える。 復習 30 分
12	ユニットⅢ　直近の中国	中国の大学生、就職状況についていまなぶ	学習課題：中国の若者たちの生活について学ぶ。 復習 30 分
13	ユニットⅢ　直近の中国	中国と日本の経済的結びつきを考える	学習問題：今後の日中問題について考える。 復習 30 分
14	復習	チェックテスト	学習課題：直近の中国について知識を整理する。
15	復習　これｋらの日本と中国	総復習	これまで学習したことを自分なりにまとめて提出する。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験は実施しない。 授業期間中随時行う復習チェックテスト、レポート（授業最後の時間を利用）、授業に臨む積極性等により総合的に評価する。 評価基準 チェックテスト 60%　レポート、課題　平常評価　40%
学生へのメッセージ	授業中の私語は他の受講生の迷惑となるので慎んでほしい。随時レポート、チェックテストを課し、知識の定着を図るので、授業後も復習を心がけること。事前・事後に各 60 分の学修を要する。レポートは提出前に自分用にも記録をとることを勧める。

	チェックテストの平均点が六割に満たない者、出席率が三分の二を越えないものは、如何なる理由があれ、単位は認定できません。履修の際はこの点をふまえて慎重に履修するようにしてください。 新聞を読むことを勧める。特に現代中国にかかわる記事には注目すること。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業外で連絡の必要な場合は水曜昼休みに講師控室までお越しください。

科目名	スペイン語を通して学ぶヨーロッパ社会	科目名（英文）	Understanding European Societies in Spanish
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3557e0		

授業概要・目的	これまでに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、教材、新聞、雑誌、ウェブページなどのメディアで用いられるスペイン語の文章を読み、様々な文体のスペイン語に慣れること。国内外の文化的・歴史的・社会的なことがらを知ること。
到達目標	スペイン語の文法知識を定着させ、時事問題や文化に関する文章が正確に理解できる。スペイン語の様々な文体の文章を正確に発音し日本語に訳すことができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1 年後期、2 年前期、2 年後期、及び 3 年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。 スペイン語で書かれた新聞記事、ウェブ記事、文学作品などを配布する。予習として、文章の正確な日本語訳・要約に、毎回必ず取り組むこと。 世界の文化や時事問題に日ごろから注意を向けておくこと。 授業計画はあくまで目安であり、集団の関心や習熟度を見て、テーマやペースを変える場合がある。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級、３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要の説明	授業の進め方 多様なメディア、文体	授業概要と課題を理解する。
2	スペインの歴史・文化に関する文章（1）	訳読、リスニング、スピーキング練習	文章の要約作成、リスニング、スピーキング
3	スペインの歴史・文化に関する文章（2）	訳読、リスニング、スピーキング練習	文章の要約作成、リスニング、スピーキング
4	スペインの歴史・文化に関する文章（3）	訳読、リスニング、スピーキング練習	文章の要約作成、リスニング、スピーキング
5	時事スペイン語の文章（1）	訳読、リスニング、スピーキング練習	文章の要約作成、リスニング、スピーキング
6	時事スペイン語の文章（2）	訳読、リスニング、スピーキング練習	文章の要約作成、リスニング、スピーキング
7	時事スペイン語の文章（3）	訳読、リスニング、スピーキング練習	文章の要約作成、リスニング、スピーキング
8	中間テストと解説	既習事項の再確認	到達度の確認
9	ヨーロッパの歴史・文化に関する文章（1）	訳読、リスニング、スピーキング練習	文章の要約作成、リスニング、スピーキング
10	ヨーロッパの歴史・文化に関する文章（2）	訳読、リスニング、スピーキング練習	文章の要約作成、リスニング、スピーキング
11	時事スペイン語の文章（3）	訳読、リスニング、スピーキング練習	文章の要約作成、リスニング、スピーキング
12	時事スペイン語の文章（4）	訳読、リスニング、スピーキング練習	文章の要約作成、リスニング、スピーキング
13	時事スペイン語の文章（5）	訳読、リスニング、スピーキング練習	文章の要約作成、リスニング、スピーキング
14	理解度確認テスト	既習事項の再確認	既習事項を総点検し、試験に備える。
15	テストの解説	既習事項の再確認	スペイン語メディアの文章表現をあらためて考える。

関連科目	スペイン語関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	和訳と要約の発表（５０%）、中間テストと理解度確認テスト（５０%）
学生へのメッセージ	語学の基本は文法です。常に文法事項を見直し、理解を深めてください。 毎日、スペイン語を聴いて、発音し、耳と口で覚えることも意識してください。
担当者の研究室等	7 号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間数として 60 時間以上を要す。

科目名	スペイン語を通して学ぶラテンアメリカ社会	科目名（英文）	Understanding Latin American Societies in Spanish
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3558e0		

授業概要・目的	スペイン語の基礎文法と語彙を学びながら、ラテンアメリカの社会、文化、歴史について学ぶ。主にラテンアメリカ地域の文化事象、重要人物、現代の社会問題を取り上げて、スペイン語の文章を読み解きながら学ぶ。後半は各自ラテンアメリカの社会文化事象をひとつ選び、スペイン語で短いプレゼンテーションを行う。
到達目標	スペイン語の語彙力を高め、中級レベルの文章を読解できる。 ラテンアメリカ社会の基本的な特性を理解できる。
授業方法と留意点	※この科目は、「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期、2年後期、及び3年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。 プリントを配布し、講読形式で授業を行う。映像資料も活用する。事前に配布されるスペイン語の文章を読んだ上で授業に臨むこと。辞書を持参すること。 学期後半にスペイン語によるプレゼンテーションを実施するので、受講生の主体的な取り組みが求められる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４～５級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要の説明。ラテンアメリカ諸国を知る。	スペイン語を公用語とする国を覚える。
2	アルゼンチン	スペイン語文の読解と解説	事前に文章を読み、語彙の意味を調べる。国の特徴を整理する。
3	ペルー	スペイン語文の読解と解説	事前に文章を読み、語彙の意味を調べる。国の特徴を整理する。
4	キューバ	スペイン語文の読解と解説	事前に文章を読み、語彙の意味を調べる。国の特徴を整理する。
5	コスタリカ	スペイン語文の読解と解説	事前に文章を読み、語彙の意味を調べる。国の特徴を整理する。
6	メキシコ	スペイン語文の読解と解説	事前に文章を読み、語彙の意味を調べる。国の特徴を整理する。
7	中間テストと解説	既習事項の理解度確認と解説	既習事項を見直し、テストに備える。
8	死者の日	スペイン語文の読解と解説	事前に文章を読み、語彙の意味を調べる。文化事象の特徴を整理する。
9	メキシコ壁画運動	スペイン語文の読解と解説	事前に文章を読み、語彙の意味を調べる。文化事象の特徴を整理する。
10	先住民文化	スペイン語文の読解と解説	事前に文章を読み、語彙の意味を調べる。文化事象の特徴を整理する。
11	アメリカ合衆国への移民	スペイン語文の読解と解説	事前に文章を読み、語彙の意味を調べる。社会事象の特徴を整理する。
12	プレゼンテーション（1）	ラテンアメリカの社会文化事象についてスペイン語で短い発表を行う。	各自選んだ事象について調べ、スペイン語で原稿とスライドを作成する。
13	プレゼンテーション（2）	ラテンアメリカの社会文化事象についてスペイン語で短い発表を行う。	各自選んだ事象について調べ、スペイン語で原稿とスライドを作成する。
14	プレゼンテーション（3）	ラテンアメリカの社会文化事象についてスペイン語で短い発表を行う。	各自選んだ事象について調べ、スペイン語で原稿とスライドを作成する。
15	理解度確認テストとふりかえり	これまでに学んだことを再確認する。プレゼンテーションのフィードバックを行う。	既習事項を再確認し、テストに備える。

関連科目	すべてのスペイン語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加度及び課題　20% 理解度確認テスト（中間・期末）40% プレゼンテーション　40%
学生へのメッセージ	語学学習は既習事項を何度も再確認することが大切です。学習した範囲を必ず見直すようにしてください。
担当者の研究室等	7号館5階　藤井研究室
備考	事前事後学習時間の目安は60時間とする。

科目名	インドネシア語で考える現代社会	科目名（英文）	Contemporary Societies in Indonesian
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3559e0		

授業概要・目的	昨今のグローバル化の急速な進展は、われわれの生活環境や人間関係を大きく変容させている。特にICT化による影響は著しく、インターネットやSNSを通じて国境を越えた人のつながりが生まれると同時に、数多の情報が氾濫しており、真偽の確認に困難を極めるほどである。本授業においては、インドネシア語で書かれたあらゆる情報を分析し、情報の取捨選択をしながら現代社会のありようを探っていく。また、社会変容に伴い、インドネシア語の新語や流行語も数多く生まれている。それらについても、社会構造分析の手立てとする。
到達目標	インドネシア語運用能力を向上させることができ、さらに現代インドネシアの姿を知ることができる。
授業方法と留意点	本授業は、教員側からの講義も行うが、受講生もテーマに合わせて作業を行う。テーマに応じてディスカッション、グループワーク等を行う。授業時には辞書を必ず携行すること。また、本授業では相応のインドネシア語運用能力（特に「読む」力）が必要とされるので、留意されたい。 ※この科目は、「地域言語科目」のうち、１年後期、２年前期、２年後期および３年前期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスおよびインドネシア語運用能力の確認	授業の進め方を説明する。 インドネシア語運用能力の確認をする。	これまでに学んだインドネシア語について、再復習しておきましょう。
2	インドネシアの活字メディア	インドネシアの活字メディアの実情を把握する。	インドネシアの活字メディアを日本のメディアと比較してみましょう。
3	インドネシアと日本の関係について知る①	インドネシアと日本は、緊密な関係性をもっている。そこで、両国間関係を題材とした新聞・雑誌記事を通して、実情を把握する。	インドネシアと日本がどういう関係を築いてきたのかを事前に把握しておきましょう。
4	インドネシアと日本の関係について知る②	インドネシアと日本の関係を題材とした新聞・雑誌記事を通して、実情を把握する。	インドネシアでは日本の何が人気なのか、把握してみましょう。
5	インドネシアと日本の関係について知る③	インドネシアと日本の関係を題材とした新聞・雑誌記事を通して、実情を把握する。	インドネシア人にとっての日本の魅力、日本人にとってのインドネシアの魅力について調べてみましょう。
6	インドネシアで報道される国際ニュース①	インドネシアで報道される国際ニュース記事を通して、インドネシア人の物の見方を理解する。	日本で報道される国際ニュースをまとめてみましょう。
7	インドネシアで報道される国際ニュース②	インドネシアで報道される国際ニュース記事を翻訳する。	国際ニュースで出てくる用語（機関名、国名、都市名のインドネシア語表記）を把握しましょう。
8	インドネシアで報道される国際ニュース③	インドネシアで報道される国際ニュース記事を翻訳する。	国際ニュース報道によく出てくるフレーズをまとめておきましょう。
9	中間試験	これまでに学んだことについての復習試験をします。	これまでに学んだことの復習をしましょう。
10	インドネシアの国内ニュース①	インドネシアの国内ニュース記事を翻訳する。	インドネシアの地理（都市名、州名等）を今一度確認しておきましょう
11	インドネシアの国内ニュース②	インドネシアの国内ニュース記事を翻訳する。	インドネシアと日本の異なる部分（政治制度。経済環境、習慣、風習等）を把握しておきましょう。
12	インドネシアの国内ニュース②	インドネシアの国内ニュース記事を翻訳する。	インドネシアの国内ニュース報道によく出てくるフレーズをまとめておきましょう。
13	最新インドネシア事情①	受講生によるプレゼンテーションを通じて、今のインドネシアのSNS事情や若者の動向、社会状況についての理解を深める。	今のインドネシアの「人気」を調べておきましょう。
14	最新インドネシア事情②	受講生によるプレゼンテーションを通じて、今のインドネシアのSNS事情や若者の動向、社会状況についての理解を深める。	インドネシアの流行語を把握しておきましょう。
15	まとめ	これまでに学んだことについての最終確認テストをする。	これまでに学んだことの復習をしておきましょう。

関連科目	インドネシア語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
2	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup sanggar
3			

評価方法（基準）	中間試験（35%）および最終確認試験（35%）、ならびに授業時のプレゼンテーションの成果(15%）および授業への積極的な参加度合い（15%）により、総合的に評価する。 詳細は１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	これまでに学んだインドネシア語の運用能力を発揮し、インドネシア社会を捉える力を身につけましょう。この学びは日本語や日本社会を見直すきっかけとなるはずです。

担当者の 研究室等	７号館４階　浦野研究室
備考	事前事後学習時間の目安は、60 時間以上とする。 質問は原則として授業時間中に受け付けることとする。

科目名	マレー語で考える国際社会	科目名（英文）	Global Issues in Malay
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3560e0		

授業概要・目的	この科目は、インドネシア語・マレー語を使用して議論されるさまざまな国際問題についての知識を提供することを目的としています。
到達目標	学生は自分の学習した知識を継続するための材料として使用できることが期待されます。
授業方法と留意点	※この科目は、「地域言語科目」のうち、１年後期、２年前期、２年後期および３年前期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。 インドネシア語・マレー語資料を授業に使用するので、必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容と授業の進め方の説明	シラバスを読んでおくこと。
2	インドネシアの国際社会の取り込み①	メディアからの記事を使用して学習する。	授業内容の理解と確認すること。
3	インドネシアの国際社会の取り組み②	メディアからの記事を使用して学習する。	授業内容のまとめとレポート作成。
4	レポートの発表会	第2回目と3回目の授業のレポートの発表。各グループの発表。	レポートの作成とフィードバックの確認
5	国際機関　①　ASEAN	資料の演習やまとめ。	授業内容のレポートの作成。
6	国際機関　②　G20	資料の学習やまとめ。	授業内容のレポートの作成。
7	国際機関　③　国際連合	資料の学習やまとめ。	授業内容のまとめとレポート作成。
8	レポートの発表会	第5回目～7回目の授業のレポートの発表。各グループの発表を行う。	レポートの作成とフィードバックの確認
9	国際紛争	資料の学習やまとめ。	授業内容のレポートの作成。
10	難民問題	資料の学習やまとめ。	授業内容のレポートの作成。
11	人権問題	資料の学習やまとめ。	授業内容のレポートの作成。
12	レポートの発表会	第 9 回目～11 回目の授業のレポートの発表。各グループの発表。	レポートの作成とフィードバックの確認
13	環境・サステナビリティ	資料の学習やまとめ。	授業内容のレポートの作成。
14	ジェンダー	資料の学習やまとめ。	授業内容のレポートの作成。
15	レポートの発表	第13回目と14回目の授業レポートの発表。各グルぷの発表。	レポートの作成とフィードバックの確認

関連科目	インドネシア語・マレー語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業の取り組みおよび出席等 60％レポート・発表４０％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階：非常勤講師室
備考	

科目名	生物と環境	科目名（英文）	Life and Environment
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大谷　侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3584a0		

授業概要・目的	環境をめぐる諸問題は、ニュースでみない日はないほど私達にとって身近な話題となっています。しかし、みなさんは「環境」について本当に理解しているといえるでしょうか？環境を理解するためには、さまざまな知識や考え方が必要です。 本講義では、生物（ヒトも含む）と環境の関わりを学ぶことを通して、私達の身の回りにある環境・環境問題を正しく理解できるようになることを目指します。そして、これからの時代を生きる人類にとって避けて通れない環境問題の解決を模索していく上で必要になる考え方を身につけ、自身で情報を見わけることができるようになることを期待します。
到達目標	1. 生物と環境の関係について基礎知識を習得し、自ら説明することができる。 2. 環境問題や地域の環境の実態について、自分の意見を述べることができる。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題に対しては解説を行う。また、Teams 等のオンラインツールを授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。
科目学習の効果（資格）	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
2	地球環境史	人と環境の関わりの歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
3	文明と環境１	人と環境の関わりの歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
4	文明と環境２	人と環境の関わりの歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
5	文明と環境３	人と環境の関わりの歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
6	食からみる環境１	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
7	食からみる環境２	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
8	食からみる環境３	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
9	食からみる環境４	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
10	生物と環境の多様な関係性１	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
11	生物と環境の多様な関係性２	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
12	生物と環境の多様な関係性３	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
13	生物と環境の多様な関係性４	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
14	生物と環境の多様な関係性５	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
15	全体の総括	授業のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、小レポート、受講態度等）（50%）、期末レポート（50%）で評価します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 5 階（大谷研究室）
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。

科目名	ナショナリズム論	科目名（英文）	Nationalism
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3585a0		

授業概要・目的	本講義は、近現代世界を理解するために不可欠な概念である「ネイション」「ナショナリズム」に焦点を当て、定評あるテキストを読み進めることを通じてその理解を試みる。キーワードは「歴史認識」と「記憶の戦争」そして「犠牲者意識」である。 ※【外国語学部生向け】この科目は、外国語学部パッケージプログラム（国際貢献および国際教養）の「国際関係論」対応科目であるが、テキスト・内容は昨年度までのものから全面的に刷新されている。履修時には注意されたい。
到達目標	・複雑化する国際社会情勢に対応するべく、特に歴史的・政治的視点から領域横断的な理解を獲得する。
授業方法と留意点	１．原則として講義形式をとり、内容に即したレジュメを配布する。また、指示された課題にも各自取り組むものとする。 ２．授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信・課題等の提出、という２つの手段を適宜組み合わせて行なう。 ３．基本的には教科書の章立てに沿って各章完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。 ４．本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果（資格）	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な知識と理解力の獲得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	はじめに　記憶のグローバル・ヒストリーへ向けて	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	犠牲者意識ナショナリズムの系譜（１）	第１章　系譜（１） ・犠牲者でありながら加害者でもあったという複合的な事実 ・犠牲者意識ナショナリズムの概念化	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	犠牲者意識ナショナリズムの系譜（２）	第１章　系譜（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	犠牲者意識ナショナリズムの出現（１）	第２章　昇華（１） ・非業の死を遂げた被害者の。崇高な犠牲者への生まれ変わり＝「昇華」	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	犠牲者意識ナショナリズムの出現（２）	第２章　昇華（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	「民族の記憶」から「グローバルな記憶」へ（１）	第３章　グローバル化（１） ・民族や国家の境界を超える「犠牲者の連帯」	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	「民族の記憶」から「グローバルな記憶」へ（２）	第３章　グローバル化（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	「記憶」の国民化（１）	第４章　国民化（１） ・地球規模の記憶空間における「記憶の国民化」	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	「記憶」の国民化（２）	第４章　国民化（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	「加害者」から「犠牲者」への転化（１）	第５章　脱歴史化（１） ・「加害の記憶の抑圧」と「脱歴史化した犠牲の強調」との関係	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	「加害者」から「犠牲者」への転化（２）	第５章　脱歴史化（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	世襲的犠牲者意識とは（１）	第６章　過剰歴史化（１） ・民族的犠牲の経験の「過剰な歴史化」 ・「集合的無罪」とは何か	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	世襲的犠牲者意識とは（２）	第６章　過剰歴史化（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	併置による「記憶の神聖化」（１）	第７章　併置（１） ・「記憶の併置」が有する政治的効果	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	併置による「記憶の神聖化」（２）	第７章　併置（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>・世界の政治（世界の政治）
・比較政治学（国際平和論）　※（　）は外国語学部開講科目</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>犠牲者意識ナショナリズム――国境を超える「記憶」の戦争</td><td>林志弦（著）／澤田克己（訳）</td><td>東洋経済新報社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。
（課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>毎回の授業だけでなく、課題への取り組みに際して教科書は必携なので、必ず購入すること。
（なお、本授業の教科書である『犠牲者意識ナショナリズム』については、各種媒体で電子書籍化されている。）</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 4 階　田中研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。

※【外国語学部生向け】この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献および国際教養）の対応科目であり、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能となっている。ただし、すでに述べたように、テキスト・内容は昨年度までのものから全面的に刷新されている。履修時には注意されたい。</td></tr>
</table>

科目名	視覚文化論	科目名（英文）	Visual Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山　博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3586a0		

授業概要・目的	【いかにメディアミックスは眼差しを変えるのか】 西洋における「祝祭と美術」の関係を考察する。中世最大の祝祭であるフィレンツェ聖史劇に注目し、衣装・小道具・演出の特徴を確認する。次に、その見物客がどのように舞台を見て感じていたのかを推察する。それと同時に、聖史劇を見る眼差しと交差した可能性がある、当時の絵画を見る眼差しも検討する。ルネサンス期フィレンツェに暮らした市井の人びとは、かならずしも「知的エリート」だったわけではなく「高貴な趣味」を持っていたわけでもない。その彼らが祝祭や美術に触れた際の感情を追体験することで、現代を生きるわたしたちの眼差しと認識がいかに形成されてきたのかに気づくきっかけが得られる。 ※ この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。
到達目標	【以下の３点を自分の言葉で説明できるようになる】 1. 祝祭が呼び覚ます振れ幅の大きな感情 2. 祝祭が揺り動かす時間と空間の結び目 3. 祝祭が更新する人びとの生
授業方法と留意点	【なにを問うべきかを考えること】 1. 講義に出席する。 2. 講義中の制限時間内に Moodle 経由で質問を入力する。 3. 講義前に配布される Q&A シートを確認し、講義でフィードバックを受ける。 4. 校外実習を進める。
科目学習の効果（資格）	西洋文化の精神性の理解［学芸員資格］

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業概要の説明とルネサンスについて解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する（60 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
2	認識	系譜学と慣習について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
3	実践	系譜学と眼差しについて解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
4	歴史	中世と聖史劇について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
5	舞台	山と布について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
6	装置	雲と鉄について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
7	素材	翼と羽根について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
8	扮装	女性と男性について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
9	視覚	浮力と重力について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
10	屋根	天球と天体について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
11	燃焼	聖霊と花火について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
12	生	人形と人間について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90 分）。
13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展	事前：対象美術展のサイトを確認する。展示テーマと作品の特徴について確認する（60 分）。

			示については講義のなかで指示する。	事後：実地の経験をふまえつつ、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に応答する（120 分）。
	14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前：対象美術展のサイトを確認する。展示テーマと作品の特徴について確認する（60 分）。 事後：実地の経験をふまえつつ、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に応答する（120 分）。
	15	総括	実習課題の振り返りと授業を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の家族観を構成したと思われる視覚イメージを振り返りつつ、あらためて当該イメージを再鑑賞する（240 分?）

関連科目：「学芸員課程の科目」／表象と感性プロジェクト／表象文化論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ルネサンスの聖史劇	杉山博昭	中央公論新社
2	ヨーロッパのキリスト教美術（上）（下）	エミール・マール	岩波文庫
3	ルネサンス絵画の社会史	マイケル・バクサンドール	平凡社

評価方法（基準）

【質問内容による評価】

1. 毎回の質問内容［80%］
2. ワークシートの内容［20%］
3. いずれも「好奇心」と「論理性」を基準とする。

学生へのメッセージ

【コンディションを整えること】

1. より良い質問をするために、講義に集中できるコンディションを整える。
2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず進める。

担当者の研究室等：7 号館 5 階 杉山研究室

備考

【自分の質問に自分で応答すること】

1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。
2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの質問に応答を試みる。

科目名	Studies in Popular Culture	科目名（英文）	Studies in Popular Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーバー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3587b0		

授業概要・目的	This course presents a participatory culture approach to popular culture. Students will learn how fans move from a passive role to an active role in fandom and will themselves participate in creative forms of fandom. The two main areas of focus are fan fiction and collaborative storytelling through tabletop role playing games. The fan fiction part of the course will focus on Harry Potter, and the collaborative storytelling part of the course will focus on the fantasy genre in general. At the end of projects in this course, students will reflect on the skills that they have acquired and discuss how these skills can be applied to life in the working world. This course is taught entirely in English.
到達目標	These are the objectives of this course: 1. Students will learn group work skills, particularly those that relate to the planning and organizing of projects. 2. Students will learn how to use digital texts and the tools and techniques that can be used with them. 3. Students will learn how to use English creatively through fiction writing assignments. 4. Students will improve their reading skills as they will be required to read media sources in English. 5. Students will learn the importance of moving from a passive state of mind to an active state of mind in their lives. 6. Students will learn about fan practices in English speaking countries.
授業方法と留意点	This is an English language course, so students must be willing to listen, speak, read, and write in English. Classes in this course will build on what students have learned and done in past classes, so regular attendance is very important in order to successfully complete this course. This course features projects. Projects will include lectures, research, planning, production, and presentation. Students should participate in all stages of the projects.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction and Class Overview	Syllabus overview and introduction activities	Review activities (1 hour)
2	Introduction to the Source: Harry Potter	Learn about the characters and the world of Harry Potter; Reading and discussion activities	Preview and review activities (1 hour)
3	Introduction to the Source: Harry Potter	Develop a deeper understanding of the story; Identify issues in the story; Reading and discussion activities	Preview and review activities (1 hour)
4	Introduction to Fan Fiction	Learn what fan fiction is; Read examples of Harry Potter fan fiction; Reading and discussion activities	Preview and review activities (1 hour)
5	Fan Fiction Research	Project planning; Research Harry Potter for writing ideas; Plan and organize ideas for a fan fiction writing project; Reading, discussion, and note taking activities	Preview and review activities (1 hour)
6	Fan Fiction Production	Writing a fan fiction story based on the world of Harry Potter	Preview and review activities (1 hour)
7	Fan Fiction Production	Editing fan fiction stories; Based on feedback from classmates, students will make changes and corrections to their story; Reading, discussion, and writing activities	Preview and review activities (1 hour)
8	Fan Fiction Presentation	Presenting works of fan fiction to the class; presentation skill activities; discussion on how the skills used in fan fiction can be applied to the working world	Preview and review activities (1 hour)
9	Introduction to the Source: Fantasy Genre	Learn about popular stories and series in the fantasy genre; Reading and discussion activities	Preview and review activities (1 hour)
10	Introduction to the Source: Fantasy Genre	Develop a deeper understanding of the fantasy genre; Identify common themes and issues in the fantasy genre; reading and discussion activities	Preview and review activities (1 hour)
11	Introduction to Role Playing as Collaborative Storytelling	Learn what tabletop role playing is; learn the social skills required for successful collaborative storytelling; learn the skill of prompting; reading, listening, and speaking activities	Preview and review activities (1 hour)
12	Role Playing as Collaborative Storytelling Research	Learn how to make interesting characters and how the conventions of the fantasy genre apply to characters; Learn the basic rules of the game; reading, writing, listening, and speaking activities	Preview and review activities (1 hour)

	13	Role Playing as Collaborative Storytelling Production	Create a collaborative story as a class through listening and speaking; note taking will play an important role in this class	Preview and review activities (1 hour)
	14	Role Playing as Collaborative Storytelling Production	Write stories based on the notes from the last class; Learn how framing and point of view can change a story	Preview and review activities (1 hour)
	15	Role Playing as Collaborative Storytelling Presentation	Presenting stories to the class; presentation skill activities; discussion on how the skills used in role playing can be applied to the working world	Preview and review activities (1 hour)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

Projects 40%
Class Assignments and Activities 30%
Participation 30%

学生への
メッセージ

Come to class with an open mind and be ready to express yourself through creative writing. We will be doing a lot of writing in this class, so I strongly recommend students to bring a computer with them to class. That will make writing much easier. Also, we will be working in English, which I know is challenging, but it is an excellent opportunity to improve your English skills and to learn English that doesn't appear in regular textbooks.

担当者の
研究室等

7 号館 3 階　フーパー研究室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Studies in Language and Society	科目名（英文）	Studies in Language and Society
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3588b0		

授業概要・目的	Introduction to Film Genres and Movies This course will tour through different film genres and the movies that best or most famously typify them. Students will learn the characteristics of genres like documentary, melodrama, science fiction, horror and romance and how to recognize those elements in famous movies. Students will be able to do their own film analysis in a final project.
到達目標	Weekly lectures, movie viewings and discussions.
授業方法と留意点	Quizzes 60% Midterm 20% Final 20% Weekly sessions include lecture, reading, discussion and viewing.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	What is genre? How do we analyze films? What are the goals of this course?	Review the materials of the week. 1 hour
2	Love & Romance	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
3	Melodrama	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
4	Drama	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
5	Crime	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
6	Mafia/Gangster	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
7	Coming of Age	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
8	Midterm	Evaluation	Review the materials of the week. 1 hour
9	Comedy	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
10	Myth & Fantasy	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
11	Horror	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
12	Noir	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
13	Western	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
14	Science Fiction	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
15	Final	Evaluation	Review the materials of the whole term 1 hour

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Quizzes 60% Midterm 20% Final 20%
学生へのメッセージ	Movies are modern mythology. Understanding our society's myths can help us understand who we are.
担当者の研究室等	Herke 3F Building 7.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。課題等に関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	日本語語彙論	科目名（英文）	Japanese Lexicology
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3596a0		

授業概要・目的	日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の語彙」に関する学修を進める。 単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「語彙」を学ぶことの意義や歴史について考察する授業を心がける。ことばを無自覚に使うのではなく、ことばとは（そもそも）どういうものかを問いかける意識を大事にしたい。
到達目標	①日本語の語彙に関する知識を身につける ②日本語の語彙を意識した文章を書くことができる ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける
授業方法と留意点	講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。 課題等については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認
2	新語・流行語・死語	新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認
3	集団語	集団語（職業語、専門用語など）の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認
4	性差	ジェンダー（男のことばと女のことば）の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認
5	方言（地域語）	地域による語彙の違いについて学修する	配布プリントの確認
6	標準語	標準語の内実や歴史について学修する	配布プリントの確認
7	差別語	差別につながる語彙について学修する	配布プリントの確認
8	語種の変遷	語種とその変遷について学修する	配布プリントの確認
9	語種の使われ方	語種とその使われ方について学修する	配布プリントの確認
10	語彙体系	語彙の体系について学修する	配布プリントの確認
11	意味関係	語彙の意味関係について学修する	配布プリントの確認
12	語構成	語構成について学修する	配布プリントの確認
13	辞書・語彙調査	辞書・語彙調査について学修する	配布プリントの確認
14	総括・試験の案内	授業内容全体を総括し、試験の案内をする	配布プリントの確認
15	試験	教場試験を実施する	

関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目（「日本語文法論」など）
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	履修者が多数の場合（80 人以上を目安とする） 試験９０％ 平常点（コメントシートの内容）１０％ 上記以外の場合 平常点（コメントシートの内容）60% レポート 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階（古矢研究室）
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 60 時間。

科目名	日本語文法論	科目名（英文）	Japanese Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3597a0		

授業概要・目的	日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の文法」に関する学修を進める。 単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「文法」を学ぶことの意義や歴史について考察しながら、日本語を「楽しむ」ような授業を心がけたい。
到達目標	①日本語の文法に関する知識を身につける ②日本語の文法を意識した文章を書く ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける
授業方法と留意点	講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。 コメントシートのフィードバックは授業内に行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認
2	文の成分	文の成分について学修する	配布プリントの確認
3	形態論	形態論・統語論について学修する	配布プリントの確認
4	品詞（動詞・形容詞）	品詞、とくに動詞・形容詞について学修する	配布プリントの確認
5	品詞（名詞・助詞）	品詞、とくに名詞・助詞について学修する	配布プリントの確認
6	語形成	語形成について学修する	配布プリントの確認
7	格・文型	格と文型について学修する	配布プリントの確認
8	ヴォイス	態を表す文法について学修する	配布プリントの確認
9	アスペクト・テンス	時間を表す文法について学修する	配布プリントの確認
10	モダリティ（ムード）	態度・認識を表す文法について学修する	配布プリントの確認
11	肯否	肯定文・否定文について学修する	配布プリントの確認
12	とりたて	とりたてについて学修する	配布プリントの確認
13	複文	複文について学修する	配布プリントの確認
14	総括・試験の案内	授業内容全体を総括し、試験の案内をする	配布プリントの確認
15	試験	教場試験を実施する	授業全体の確認

関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目（「日本語語彙論」など）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	履修者が多数の場合（80 人以上を目安とする） 試験９０％ 平常点（コメントシートの内容）１０％ 上記以外の場合 平常点（コメントシートの内容）60% レポート 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階（古矢研究室）
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 60 時間。

科目名	英語圏の文学	科目名（英文）	Literature in the English-Speaking World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3600a0		

授業概要・目的	この授業では古典から最新まで英語圏の文学作品を幅広く紹介します。作品が生まれた背景や経緯（地域性）はもちろん、国・地域・時代を超えて読まれるのに必要な普遍性についても考察していきます。また、作品には読ませるための仕掛けが施されています。実際に作品を読むことで、どのような技巧がテーマを深めるのに用いられているのか探っていきます（これには作品の翻訳を使用し、グループワークの手法を取り入れます）。授業での取り組みをさらに深めるため、学期末にはレポートを作成します。授業で扱った作品を最後まで読み、作品の地域性・普遍性・文体・技法・ジャンル性などを考慮しながら、非英語圏に生きる「我々」ならではの読みを展開してもらえればと思います。
到達目標	・イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の文学・歴史・文化への理解を深める。 ・英語圏文学の特徴を学ぶとともに、翻訳で読むときの注意点を理解している。 ・文学作品を読んで「なに」が「どのように」描かれているのか説明することができる。
授業方法と留意点	授業では資料を配布するので、配布資料を自己管理し、前回分を持参すること。 レポート等に関するフィードバックは、レポートを受理した後に行う。
科目学習の効果（資格）	教員の免許状取得のための選択科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、学期末レポートについて説明する。	予習と復習（２時間）
2	英米の古典文学（１）：ナサニエル・ホーソーンとアメリカ	ナサニエル・ホーソーンの文学について紹介する。	予習と復習（２時間）
3	英米の古典文学（２）：エドガー・アラン・ポーとアメリカ	エドガー・アラン・ポーの作品について紹介する。	予習と復習（２時間）
4	英米の古典文学（３）：ウィリアム・シェイクスピアとイギリス・アメリカ・日本	シェイクスピエアの作品について紹介する。	予習と復習（２時間）
5	翻訳を／で読むⅠ：なぜ物語はそのように始まるのか	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（２時間）
6	文学賞と英語圏文学（１）：ブッカー賞の歴史と受賞作	ブッカー賞について紹介する。	予習と復習（２時間）
7	文学賞と英語圏文学（２）：ピュリッツァー賞の歴史と受賞作	ピュリッツァー賞について紹介する	予習と復習（２時間）
8	文学賞と英語圏文学（３）：ノーベル賞の歴史と受賞作	ノーベル賞について紹介する。	予習と復習（２時間）
9	文学賞と英語圏文学（４）：トニ・モリスンとサルマン・ラシュディ	ノーベル賞を受賞した作家のうち、モリスンとラシュディの紹介をする。	予習と復習（２時間）
10	翻訳を／で読むⅡ： これは英語でどうなっているの？	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（２時間）
11	文学のスタイルとジャンル（１）：英米文学と冒険ファンタジー	英米文学を代表する冒険ファンタジー小説の紹介をする。	予習と復習（２時間）
12	文学のスタイルとジャンル（２）：イギリス文学とモンスター	怪物が登場するイギリス文学の紹介をする。	予習と復習（２時間）
13	文学のスタイルとジャンル（３）：アメリカ文学と探偵ミステリー	私立探偵が登場するアメリカ文学の紹介をする。	予習と復習（２時間）
14	翻訳を／で読むⅢ： 反復・象徴・引用・地理	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（２時間）
15	これまでの学習内容の振り返り	これまでの授業内容の振り返り、学期末レポートに向けた説明	これまでの授業内容の復習（２時間）

関連科目	リーディングⅡなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業中に適宜プリントを配布する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学教授のように小説を読む方法（増補新版）	トーマス・Ｃ・フォスター	白水社
2			
3			

評価方法（基準）	授業での取り組み（60%）、レポート等の課題（40%）
学生へのメッセージ	英語で書かれた文学作品を読むことで、他者との向き合い方を学びましょう。
担当者の研究室等	天野研究室（7 号館 3 階）

備考	配布資料の読み込みなどにかかる事前事後学習の総時間を 60 時間程度とする。

科目名	ホスピタリティスキル論	科目名（英文）	Skills for Hospitality
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中　美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3603a0		

授業概要・目的	・ホスピタリティ産業や企業が発揮しているホスピタリティに焦点を当てる。 ・ホスピタリティを組織として発揮するには何が必要かを考察する。 ・ホスピタリティを発揮する人はどのような能力があるかを検討する。
到達目標	他者との違いを理解し、考えながら行動することで、急激な社会の変化にも対応できる人材となるための基礎力を養うことができる。 グループディスカッションやグループワークを通して、社会に出てからも役立つマナーが身につく。
授業方法と留意点	Power point と配布資料で授業を進めていき、適宜、ディスカッションを交えていく。 授業の最後にミニッツペーパーを課し提出。
科目学習の効果（資格）	今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものと考える。 ビジネスマナーの基本も身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。受講に関する心構え、本講義におけるホスピタリティへのアプローチ方法を理解する。	ホスピタリティに関する文献を読む（４時間）
2	ホスピタリティの発揮Ⅰ	現在の社会におけるホスピタリティの現状を理解し、ホスピタリティ産業の捉え方を理解する。 講義とディスカッション。	ホスピタリティ産業にどのようなものがあるか予習する（４時間）
3	ホスピタリティの発揮Ⅱ	企業におけるホスピタリティの重要性を確認する。 講義とディスカッション	ホスピタリティ産業に消費者として触れてみる。（４時間）
4	事例研究Ⅰ「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足NO.１のホテル例を取りあげ検証する。 講義とディスカッション	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。（４時間）
5	ホスピタリティの発揮Ⅲ	ホスピタリティを発揮するためにはどのような能力が必要かを理解する。 講義とディスカッション	顧客満足について調べる。（４時間）
6	ホスピタリティの評価Ⅰと事例研究Ⅱ	産業の中でお客様に提供する商品価値を分析する。 ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。（４時間）
7	ビジネスマナー	ホスピタリティを発揮するための基本的ビジネスマナーについて学習する。 グループワーク。	敬語について復習する。（４時間）
8	ホスピタリティの評価Ⅱ	ホスピタリティ産業の商品価値の評価基準について考察する。 講義とディスカッション。	自身のアルバイト先における商品価値を考察する。（４時間）
9	ホスピタリティとマニュアル	ホスピタリティを評価し、フィードバックすることは重要である。その内容をマニュアル化することは可能であるか、またはマニュアルを作成するにあたって何が必要か考える。講義とディスカッション。	マニュアルについて事例を集めてみる。（４時間）
10	ホスピタリティの場の重要性	顧客接点はホスピタリティを伝える重要な場面である。いかにその場で相手のことを察し、具体的行動に移すか、その場の重要性について考える。講義とディスカッション。	ホスピタリティ産業に消費者として触れてみる。（４時間）
11	事例研究Ⅲ「エアラインのホスピタリティ」	エアラインのホスピタリティについて検証する。 講義とディスカッション。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。（４時間）
12	ホスピタリティと個人・集団	ホスピタリティが生み出され、それが顧客に伝わり、そこに顧客が価値を認めるために、集団・個人で実施しなければならないことは何かを考える。 講義とグループワーク。	チームで成し遂げた経験を言語化する。（４時間）
13	ホスピタリティ・マネジメント	ホスピタリティマネジメントとはどのようなものか理解する。 講義とディスカッション。	新聞経済面を読む（４時間）
14	事例研究Ⅳ「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表する東京ディズニーリゾートのホスピタリティマネジメントを考える。 講義とディスカッション。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。（４時間）
15	ユニバーサルサービス	「あらゆる人の立場に立った公平な情報とサービスを」」というユニバーサルサービスについて理解する。 講義とディスカッション。	ユニバーサルサービスに関する文献を読む。（４時間）

関連科目	ホスピタリティ基礎論 エアラインビジネス論・ホテルビジネス論・パッケージプログラム演習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業参加度 30%　毎回のミニッツペーパー50%　発表 20%
学生へのメッセージ	どの産業においてもホスピタリティの必要性はどんどん高まっています。産業におけるホスピタリティの重要性を学ぶとともにその発揮方法を身につけましょう。社会人になる際に、スタートダッシュが切れるはずです。
担当者の研究室等	７号館４階（伊達・沖中研究室）
備考	

科目名	エアラインビジネス論	科目名（英文）	Airline Business
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊達　寛
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3605a0		

授業概要・目的	日本の主要航空会社で長年にわたり販売や総務・企画などの実務を担い、海外支店や関連航空会社の HR・採用業務・事業運営全般などを担当した実務経験者の教員が、社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割、航空運送事業の詳細内容を説明する。
到達目標	航空産業の企業活動を参考にして、社会人として企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することを目標とする。
授業方法と留意点	対面授業を前提にパワーポイントを使用して授業をする。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を毎回配布し、受講者自身が重要な部分をパワーポイントから読み取り、資料に記入する。また、理解を深めるための動画資料も活用する。 授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。 配布資料の空欄になっている要点についてパワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくことが重要。受講にあたっては、日ごろから航空業界に関する報道(新聞、ＴＶニュース等)に関心をもって授業に臨んで欲しい。 毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出してもらいます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックします。
科目学習の効果（資格）	公共交通機関である航空産業の役割、事業戦略、様々な事業内容を知る事により、将来の進路の判断材料に資する（特に公的資格取得には直接繋がるものではない)。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
2	航空の歴史	戦後の航空技術の発展、空の大衆化までの変遷を説明。また、戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政の規制緩和まで、民間航空の歴史について説明する。	キーワード；関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
3	世界の航空自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどの様な影響を及ぼしたかのか、現在の航空事情を理解するために不可欠なＯＰＥＮ　ＳＫＹ政策について説明する。	キーワード；ＯＰＥＮ　ＳＫＹ政策について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
4	日本の航空自由化	４５・４７体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、米国との航空自由化合意の経緯と意味などについて説明する。	キーワード;45･47 体制について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
5	航空運送事業の特性	在庫ができないサービス財、固定費比率の高さをはじめ航空運送事業の特性とイベントリスクの影響の大きさについて解説する。	キーワード；定期航空運送事業、固定費と変動費について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
6	空港整備の経緯と民営化	航空機の離発着に必要な、重要インフラである空港の整備状況、首都圏空港(羽田、成田)と関西３空港(伊丹、関空、神戸)整備の経緯、空港民営化(コンセッション)の動きについて解説する。	キーワード；首都圏空港経緯、空港の民営化について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
7	航空路線ネットワーク(HUB & SPOKE)	格安航空会社 LCC の対極にあるネットワークキャリア(FSC)、その戦略の基本となるハブ＆スポークについてメリット、ディメリットを解説する。	キーワード；FSC ついて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
8	航空連合(GLOBAL ALLIANCE)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義は何か。アライアンス誕生の背景、具体的な利点・戦略について解説する。	キーワード；航空 ALLIANCE について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
9	運賃の仕組み	何故、同じ区間、同じ日に搭乗するのに違う運賃が存在するのか、運賃設定の自由化に伴い、航空会社が実施している運賃設定について解説する。	キーワード；レベニューマネージメントについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
10	顧客満足(CS)	顧客満足につながる航空サービスの基本品質とは何か。どのようにブランドは創られるのか説明する。また顧客満足(CS)の実現には、まず従業員満足(ES)が重要となる点を考える。	キーワード；CS と ES、ブランドについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
11	顧客管理(FFP)	リピート顧客を生み収入増に有効なマイレージ・プログラム、航空会社の利益向上への貢献や利用者として得する内容等も含めて説明する。	キーワード；マイレージプログラムについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
12	LCC(格安航空)の躍進	航空の自由化に伴い、現在、航空業界で注目を集めている格安航空会社 LCC について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	キーワード；LCC について事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておく

				こと(2 時間)。
	13	国際航空貨物	コロナ禍の時期に旅客運送は低迷したが、その裏で経営を支えた、国際航空貨物事業の実態について説明する。	キーワード；フレイター、ロジスティックについて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
	14	企業の社会的責任(CSR)	企業は儲けるだけではなく、社会的責任を果たすことが重要。社会的責任とは何か。企業の社会貢献などについて具体例を挙げて説明する。今後、SDGs への取組や、ESG 経営に社会や投資家が更に注目する。	キーワード；企業の社会的責任(CSR)、SDGs ついて事前に調べること。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。
	15	まとめと特別講義	ここまで説明してきた航空産業の役割、航空運送事業の詳細内容について、まとめとポイントについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2 時間)。

関連科目	エアラインサービス論、ホテルビジネス論、ホスピタリティ論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	航空産業入門第２版	ANA 総合研究所	東洋経済新報社
2	エアラインオペレーション入門改定新版	ANA 総合研究所	イカロス出版
3	数字で見る航空(2023)	国土交通省航空局	日本航空協会

評価方法 （基準）	授業計画に示した各回のキーワードについて事前に調べ、授業終了後に提出するレポートの参考とすること。 １０回以上の出席票をかねたレポートの提出がない場合は評価の対象とならない。 定期試験６０％、授業後に提出するレポート、授業参加姿勢４０％で総合的に評価する。 ２０分以上の遅刻・早退は３回で１回の欠席とする。 （定期試験は幅広い範囲の対応が求められるので、各回配布される資料のポイントを復習して、自らの知識として整理しておくことが重要となる）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館４階（伊達・沖中研究室）
備考	毎回の授業で出席票をかねた小レポートを提出していただきます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックいたします。

科目名	生涯学習論	科目名（英文）	Lifelong Learning
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　孝成
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3610a0		

授業概要・目的	高齢社会の現代日本では、生涯にわたる学習の必要性が指摘され続けています。ここでは「生涯学習」の基本的な理論とその実践例を紹介し、これからの「生涯学習」のあり方を考えていきます。特に担当教官の専門とする歴史学習などを取り上げ、市民への文化学習の提供の方法やその効果、問題点を挙げていき、学芸員や各自治体の生涯学習担当としての知識と意識を身につけることを目的とします。また、各個人が生涯にわたって「学ぶ」ことの意味を考えていくことも併せて講義します。
到達目標	生涯学習に関する基礎的な知識と意識を身につけることができます。また、受講生自身も生涯学習の心構えを持ち、常に疑問を持つことを意識づけ、大学卒業後の指針のひとつとなります。
授業方法と留意点	毎回、プリントを配布し、板書によって授業を進めていきます。毎回、授業終了後に質問カードを受け付けます。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格などの必要単位となっていますが、自治体など市民に接する職業に就いた場合に対応の心構えの助けになるでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	生涯学習論とはなにか	本講義のねらいとその位置づけなど、講義を受けるための姿勢についてお話しします。	事前は必要ありませんが、事後に各自の「趣味」についてじっくり考えて下さい。（４時間）
2	社会教育と生涯学習の歴史①	現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。	事前は必要ありませんが、事後に関連する歴史の見直しを。(4 時間)
3	社会教育と生涯学習の歴史②	社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。	事前に前回の授業の見直し（１時間)、事後に近代日本歴史の復習。(3 時間)
4	生涯学習と行政の仕組み	生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。	事前に近隣自治体の生涯学習を確認し (2 時間)、事後、授業内容を踏まえて新聞やネットで行政の対応の確認。(2 時間)
5	生涯学習の内容と生涯各期	人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。	事前に家族の生涯学習を顧みて (1 時間)、事後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を改めて考える。(3 時間)
6	生涯学習と社会教育施設・公民館と図書館	社会教育施設の実態、特に公民館と図書館について概要をお話しします。	事前に周辺の社会教育施設を確認し(2 時間)、事後、その運営や実態をみる。(2 時間)
7	生涯学習と社会教育施設・博物館	博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。	事前にこれまで訪れた博物館のことを思い出し（1 時間)、事後に近隣の博物館の見学。(3 時間)
8	なんのために学ぶのか	緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。（この講義は見学の日程の直前に行われます）	事前学習は必要ありませんが、直後に適塾の見学を予定していますので、事後の復習を。(4 時間)
9	見学	展示施設（適塾を予定）を見学し、江戸時代の学びを実感しながら、歴史的建造物とその展示について学ぶ。	前回の復習を踏まえて見学を行い、各自が興味のある寺社仏閣や建造物などを見学。（４時間）
10	生涯学習と文化財事業	生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。	事前に新聞の文化財報道などを読んでおき（2 時間)、事後には周辺の自治体主催事業について再確認。(2 時間)
11	文化の歴史・背景	人生において不可欠な「文化」は意外にあいまいな存在です。その「文化」の歴史や背景をみて、文化の意味を考えます。	事前に自身にとっての「文化」とはなにか、音楽でも映画でも、振り返り、事後のその「文化」が自身にどのような影響があったのか考える（３時間）
12	人と「歴史」の関係	身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。	事前に自身の歴史を振り返り (2 時間)、事後、周囲の歴史についてもう一度考え直す。(2 時間)
13	反・反知性主義	ネットを中心に蔓延する「反知性主義」がいかに生涯学習にとってマイナスになるのかをお話しします。	事前に各自がネットで行うＳＮＳについて振り返り (1 時間)、事後、社会にある意見について見直す。(3 時間)
14	それぞれの「生涯学習」	混迷する時代に「学ぶ」ことがいかに大切で重要なことかをお話しします。「学ぶ」ことの意味や「知」との向き合い方をお話しします。	事前に自身の趣味や学びについて考え（１時間)、事後、各自の趣味などを振りかえる。（４時間）
15	これからの生涯学習と地域	講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自にとっての生涯学習を考えます。	事前に、これまでの授業内容を大枠で復習し（2 時間)、事後は試験に向けて課題を行う。(2 時間)

関連科目	教育系科目群

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生涯学習概論	佐藤晴雄	学陽書房
2	司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論	大堀哲監修	樹村房
3	ことば・ロジック・デザイン	妻木宣嗣	清文堂

評価方法（基準）	期末試験期間中の定期試験（100%）で、設問の意図をきちんと読み取り、授業内容を的確に把握しているかどうかを査定します。論述問題においては、授業の内容が正確に反映され、さらに各自の見解をどこまで組み入れているのかを評価の基準とします。また、授業方法にて記した質問

	などが翌週の回答で採用された場合は 1 点の平常点を付与します。そのため、各自の点数は定期試験＋α となります。
学生への メッセージ	「生涯学習論」ですが、これは他者に学習を与えるだけの意味ではなく、相互に「学習」していくことも意味します。すべての人が生涯、なにを「学習」するのか、「学習」の意味は何か、を少しでも考えて知っていただくことを願います。また、試験は論述が中心となります。担当者にもわかるように論述してください。相手になにかを伝えるという訓練にもなります。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習の総時間の目安は 60 時間です。これには授業中に推奨する各自の映画鑑賞や音楽鑑賞、読書、課題の新書書評の時間も含みます。 質問などは原則授業時間前後です。非常勤講師室か教室で受け付けます。

科目名	ミュージアムマネジメント論	科目名（英文）	Museum Management
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3611a0		

授業概要・目的	博物館経営に関する行財政制度を踏まえながら、さまざまな博物館の形態や多岐にわたる活動について講義する。今後の方向性を考えるとともに、学芸員に必要な博物館経営に関する基礎的知識の習得をめざす。
到達目標	博物館の現状と課題を認識しながら、博物館はどうあるべきかを考え、理想の博物館を実現するためには、どのようなミュージアムマネージメント（博物館経営）が必要であるのかを具体的に理解できる。
授業方法と留意点	対面で行います。 座学とプレゼンを行います。 本授業は学芸員資格取得のため必須となります。欠席は原則認めません。必ず毎回参加してください。 連絡事項や課題の提出を Teams で行います。 フィードバックはプレゼンの場合は発表後、レポートの場合は翌週の授業で行う。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格の取得（必修科目）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ミュージアムマネージメントとは	博物館には、効果的なマネージメントが要求される現状にあることを解説する。	配布資料や参考書で復習する。
2	行財政制度と博物館	博物館に関係する法律や財務に関する制度について解説する。	配布資料や参考書で復習する。
3	博物館をめぐる行政改革	指定管理者制度、ＰＦＩ法、独立行政法人制度など、博物館に関する近年の行政改革について解説し、その問題点を考える。	PFI 法、指定管理者制度について、本や WEB で調べておく。
4	博物館の財務	博物館の基本的な歳入と歳出などを解説し、財務状況や入館料をめぐる問題点を考える。	博物館の予算的な問題について調べる。
5	博物館の立地と環境	博物館にふさわしい立地条件や自然及び社会的環境について具体的に解説する。	実際の博物館の立地・環境を調べる。
6	博物館の施設と設備	博物館にどのような施設と設備が必要であるかを解説し、館種による相違点を比較する。	配布資料や参考書で復習する。
7	博物館の組織と職員	一般的な博物館の組織と職員、学芸員の具体的な業務内容を説明する。	配布資料や参考書で復習する。
8	博物館事業のあり方	博物館の理念と目的を説明し、その達成のためにどのような事業計画が必要かを検討する。	博物館が実施している事業の具体例を調べておく。
9	博物館の評価	博物館を評価するにはどのような基準・方法があるかを解説し、評価により得られる効果を検討する。	行ったことのある博物館の評価をしてみる。
10	博物館の危機管理	博物館で想定されるさまざまな危機について解説し、その対策を具体的に検討する。	博物館にかかわる危機にはどのようなものがあるか考えておく。
11	博物館の広報活動	非営利組織のマーケティングリサーチと、博物館における広報活動の具体的な方法を解説する。	博物館のポスターやチラシなどを見ておく。
12	ミュージアムサービス	ミュージアムショップ、レストランなどに代表されるサービスの現状を説明し、今後の方向性を考える。	本や WEB で博物館のサービスの具体例を調べる。
13	市民参画をめざす博物館	友の会、ボランティアなどの支援組織や、市民参画を促す博物館事業について解説する。	WEB やリーフレットなどで、博物館の友の会などについて調べる。
14	博物館のネットワーク	いろいろな博物館のネットワークについて解説する。	WEB で、日本博物館協会、日本動物園水族館協会などの HP を見る。
15	確認テストおよび授業の総括	確認テストを行い、これからの博物館の経営について考える。	確認テストの準備。終了後は見直しをして復習する。

関連科目	ほかの学芸員科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小レポートおよび授業中に行うプレゼン（40%）、確認テスト（60%）
学生へのメッセージ	必ず毎回出席すること。また、本講義を受講する間、多くの博物館に訪れることを望みます。

担当者の 研究室等	赤澤研究室（7 号館 4 階）
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	博物館情報・メディア論	科目名（英文）	Museum Media Management
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川　馨
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3612a0		

授業概要・目的	現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現を学ぶことにより、映像メディア登場以後の社会環境の変化について考察する。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。
到達目標	映像メディアと社会の関係を理解する。 映像メディアによる情報との向き合い方を身につける。
授業方法と留意点	講義中はスライドを使用する。内容は必要に応じてノートに書きとどめてもらいたい。 質問や提出物に対して口頭または文書でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ものを見る行為について	映像情報との関わりについて 博物館と映像メディアについて	視覚について本やＷＥＢで調べる
2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオブスキュラの誕生	カメラオブスキュラについて本やＷＥＢで調べる
3	カメラオブスキュラの活用	カメラオブスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオブスキュラについて本やＷＥＢで調べる
4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やＷＥＢで調べる
5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やＷＥＢで調べる
6	都市の記録	都市の写真表象について	19 世紀の写真表現について本やＷＥＢで調べる
7	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19 世紀の写真について本やＷＥＢで調べる
8	写真と絵画の交わり	写真と西洋絵画における写実表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やＷＥＢで調べる
9	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代の写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やＷＥＢで調べる
10	ヨーロッパの近代写真表現	様々な前衛芸術運動と結びついて広がるヨーロッパの近代写真表現について	前衛芸術運動と写真の結びつきについて本やＷＥＢで調べる
11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響について	報道写真について本やＷＥＢで調べる
12	現代写真表現のはじまり	現代写真表現について１９６０年代のアメリカの動向について	現代写真表現について本やＷＥＢで調べる
13	現代写真表現２	アメリカのニューカラー、ニュートポグラフィックといった１９７０年代の現代写真表現の方向性について	現代写真表現について本やＷＥＢで調べる
14	ポストモダンにおける写真表現	ポストモダン（１９８０年代以降）の写真表現について	ポストモダンの写真表現について本やＷＥＢで調べる
15	まとめ	日本の現代写真表現を考察しながら２１世紀の写真メディアの在り方を考える。	写真について復習する

関連科目	博物館科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み６０%、レポート４０%により評価する。
学生へのメッセージ	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)　火曜１０時～１２時半
備考	

科目名	博物館教育論	科目名（英文）	Museum as Learning Resources
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松永　和浩
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3613a0		

授業概要・目的	この授業では博物館において実施される教育活動について、様々な具体例を通じて体系的に学びます。それにより社会における博物館の意義・役割についての理解を深め、学芸員として、あるいは博物館と社会をつなぐサイエンス・インタープリターとして活動するために必要な知識を身につけることを目的としています。
到達目標	①学芸員として必要な博物館教育に関する基礎的知識を身に付ける。 ②博物館教育のプログラムの実践例について具体的に学ぶ。 ③実在の展示施設を素材として教育プログラムを企画する。 上記の学びを通して、博物館における教育の役割や社会的責務について具体的に説明できるようになる。
授業方法と留意点	まず、現代社会において博物館に期待される教育について概説します。次に、博物館で実際に行われている教育プログラムの具体例を紹介します（受講生による体験レポートによる紹介もあり）。最後に、実在の展示施設を見学し、サイエンス・インタープリターの立場でその施設を素材にした教育プログラムを企画して発表し、相互に議論を深めます。様々な博物館が取り組んでいる教育プログラムについて、受講者は見学・参加・情報収集に努めてください。 授業中に課す課題については、受講生も含めた質疑応答を行います。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格認定のための必修科目となります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション―博物館から何を学んだか？―	これまでの博物館に対する認識・イメージを振り返り、現代の博物館に期待される役割について考えるきっかけとします。	これまで博物館を訪れた経験や抱いていたイメージを整理しておいてください。
2	博物館の使命	設置主体や社会から期待される博物館の使命について説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
3	常設展の意義と活用	博物館の基本となる常設展の意義とその活用方法について実例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
4	特別展・企画展	博物館が開催する特別展・企画展の目的・運営・役割について実例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
5	博物館と社会教育	博物館が開催するイベントにどのようなものがあるか実例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。ワークシートなどを見つけたら集めるようにしておいてください。
6	社会教育の実例報告	受講生が参加した社会教育プログラムの内容について紹介します。	博物館で開催される社会教育プログラムに参加して、その内容をレポートにまとめておいてください。
7	大学博物館の教育	学生を抱える大学博物館ならではの教育活動について実例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
8	学芸員養成	大学・博物館が担う学芸員養成の概要と実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
9	サイエンス・インタープリターの役割	博物館と社会のつなぎ役として近年注目されているサイエンス・インタープリターの活動について、ゲストスピーカーを招いて紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
10	社会教育の実践例	担当者が所属する大阪大学適塾記念センターが取り組む社会教育の実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
11	外部施設見学①	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
12	外部施設見学②	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
13	教育プログラムの企画①	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
14	教育プログラムの企画②	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
15	プレゼンと質疑応答	各自が企画した教育プログラムについて発表し、意見を交換します。	発表用の資料を作成してください。発表に対して出された意見を参考に、自身の企画を練り直してください。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版　緒方洪庵と適塾	大阪大学適塾記念センター	大阪大学出版会
2	佐治敬三”百面相”大阪が生んだ稀代の経営者	松永和浩	大阪大学出版会
3			

評価方法 （基準）	プレゼン・質疑 80%、提出物 20%
学生への メッセージ	各博物館は近年、様々な教育プログラムに熱心に取り組んでいます。しかもそのプログラムには、マニュアルも正解もない場合がほとんどで、学芸員をはじめとする博物館スタッフ、サイエンス・インタープリターやボランティアの方々の創意工夫と努力によって支えられています。受講者は教育プログラムについて積極的に参加・見学・情報収集し、現状を知るようにしてください。そして将来的には、何らかの形で博物館を支える一員となってもらえたら幸いです。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	外部施設見学は大阪市内で、12 月中の土日いずれか 1 日、180 分間（2 コマ分）の予定で行います。 事前事後学習の総時間の目安は約 60 時間。

科目名	日本語教授法Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Teaching Methodology I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3615a0		

授業概要・目的	「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の中で、本授業では、外国語教授法、教科書・教材論、コースデザイン、日本語の文字・語彙・文法とその指導方法など、外国語としての日本語教育について広く概観する。
到達目標	日本語教育学の基本的な知識を習得する。
授業方法と留意点	授業は、講義の他にディスカッション、動画視聴、課題、発表も含まれる。 授業の最後にテストについてフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。「日本語教授法Ⅱ・Ⅲ」の先行科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、世界と日本の社会と文化	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項、 世界と日本の社会と文化	資料熟読、日本語教育情報収集の課題
2	日本語教育と外国語教育	日本語教育と国語教育/英語教育、海外の日本語教育、国内の日本語教育（多文化共生、日本の在留外国人施策、地域の日本語教室）	資料熟読、日本語教育情報収集の課題
3	日本語教師について	教師の資質・能力、ビリーフ、母語話者教師/非母語話者教師、 言語政策とことば	資料熟読、演習問題
4	日本語教育の歴史	時代区分別の日本語教育史、言語政策	資料熟読、演習問題
5	外国語教授法（１）	外国語教授法の理論と実践	資料熟読、動画を視聴し、授業観察、 教授法理論のレポート作成、
6	外国語教授法（２）	外国語教授法の理論と実践	資料熟読、動画を視聴し、授業観察、 教授法理論のレポート作成、
7	コースデザイン	コースデザイン、シラバスデザイン、ニーズアナリシス、評価	資料熟読教授法理論のレポート作成、教材分析
8	日本語教育の目標・日本語の試験	レベル別/日本語能力試験の目標、 日本語の試験	資料熟読、演習問題
9	教材・教具（１）	日本語教育の教科書分析	課題：初級日本語教材の分析 資料熟読
10	教材・教具（２）	日本語教育の教材・教具	課題：教材分析、資料熟読
11	日本語学の基礎知識：文法	日本語教育のための日本語文法とその指導方法	資料熟読、演習問題
12	日本語学の基礎知識：語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法	資料熟読、演習問題
13	日本語学の基礎知識:文字表記	文字の種類と指導方法	資料熟読、演習問題
14	外国人学習者の日本語	外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察	資料熟読、接触場面の観察レポート
15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度確認	総復習、テストのフィードバック

関連科目	日本語教授法Ⅱ・Ⅲ、日本語学全般、日本語教育実習、その他の「日本語教員養成課程（副専攻相当）」配当の選択科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会
2	日本語教授法シリーズ	国際交流基金	国際交流基金
3	はじめての日本語教育	高見澤孟	アスク

評価方法（基準）	確認テスト（60%）、課題及びレポート（30%）、授業への貢献度(10%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	外国人を対象に外国語として日本語を教える面白さを皆で共有したいと思います。 海外及び国内の日本語教育機関において、多様な外国人学習者を対象にした日本語教育及び日本語教員養成の経験を活かし、理論と実践について具体的に解説します。授業の予習及び課題をきちんと行った上で、授業に参加することが求められます。
担当者の研究室等	7号館4階　門脇研究室
備考	事前・事後学習は毎回1.5時間。

科目名	日本語教授法Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Teaching Methodology II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤　恵美子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3616a0		

授業概要・目的	言語の構造一般から日本語の構造、言語と社会の関係とそこから見える言語使用を分析することを目的とする。また第二言語習得(言語習得・発達)についても概観する。言語教育法の基礎知識を増やしつつ、主体的に思考・分析できるような講義・活動を行う。
到達目標	(一般・対照・社会)言語学と第二言語習得に関する知識、分析方法を習得する。
授業方法と留意点	授業は講義、グループディスカッションおよび発表を中心に進める。 事前に課すワークシートがある場合は必ず取り組んでから授業に参加すること。 なお、発表ごとに、学生同士または教師からのフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 世界の中の日本語 学校文法と日本語教育文法	授業の進め方を説明する。日本語教育への関心について話す。 学習者の日本語、学校文法との違いについて知る。	《予習》シラバスを読んでおく。自分の日本語教育への関心について他の人に話せるように考えておく。
2	一般言語学	一般言語学(言語の類型、形態的類型等)について知る。	《予習》一般言語学についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。
3	対照言語学	言語の系統、学習者の母語との相違を類型論的観点から知る。	《予習》対照言語学についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。
4	第二言語習得①中間言語分析	誤用分析、中間言語分析、母語の影響について知る。	《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。
5	第二言語習得②習得過程	習得過程、SLA 研究について知る。	《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。
6	第二言語習得③学習ストラテジー	学習過程、学習ストラテジー、バイリンガリズムについて知る。	《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。
7	音韻・音声体系	日本語の音声(音韻体系・日本語史等)について知る。	《予習》音声についての資料を読んでおく。 [ワークシート]日本語の母音と子音、アクセントやイントネーションなどについて確認する。
8	意味体系/語用論的規範	日本語の類義語・多義語・比喩・知識構造について知る。 語用論について知る。	《予習》意味体系/誤用論についての資料を読んでおく。 [ワークシート]日本語の類義語・多義語などの意味体系や語用論について確認する。
9	日本語分析	日本語の系統・構造について知る。	《予習》日本語分析についての資料を読んでおく。 [ワークシート]日本語の系統・構造について確認する。
10	指示文と存在文	「こ・そ・あ」の使い分けや現場指示、文脈指示について知る。 「います」「あります」の使い分けについて知る。	《予習》[ワークシート]「これ・それ・あれ」「ここ・そこ・あそこ」などの使い分け、「いる」「ある」はどのような主語と使われるかなどについて確認する。
11	格助詞/時に関わる表現	主に場所を表す格助詞の使い分けについて知る。 日本語のル形とタ形など、時に関わる表現について知る。	《予習》[ワークシート] 「で」や「に」の使い分けや「は」と「が」の違いについて確認する。 《予習》[ワークシート] 日本語の時に関わる表現について確認する。
12	待遇・敬意表現	日本語の敬語の体系、ウチソト、待遇・ポライトネスについて知る。	《予習》[ワークシート]尊敬語・謙譲語・丁寧語、ウチソト、待遇・ポライトネスについて確認する。
13	日本語学習者とのコミュニケーション (教室・言語環境の設定)	日本語学習者と実際に接し、ティーチャートークなどの指導・教授法に関わる知識を体験する。	授業内で提示
14	社会言語学	日本語のジェンダー差や方言などについて知る。	《予習》ジェンダー差や方言についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。
15	総括試験	授業で扱った内容の理解度を確認する総括試験を実施する。 試験後、本講義の総括を行う。	《予習》これまでに学習した内容を復習しておく。

関連科目	日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅲ、日本語学、日本語教育実習等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	平常点 20%　課題・レポート提出 20%　総括試験 60%により総合的に評価する

（基準）	
学生への メッセージ	普段、何気なく使っている日本語について分析的に考えてみましょう。学習者にとって何が難しいのかということも考えながら、新たな視点で捉えることで、多くの発見があるはずです。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	（1）教科書は授業中にプリントを配布する。参考文献も適宜紹介する。 （2）質問・相談は Teams のチャットにて対応する。 （3）事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	日本語教授法Ⅲ	科目名（英文）	Japanese Teaching Methodology III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮﨑　玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3617a0		

授業概要・目的

本授業は，以下の２点の受講生の日本語教育上の課題について，自ら具体的な対策を考案できるようになることを目的としています。

１つ目は，日本語学習において必要とされる４つの技能（読む，聞く，話す，書く）それぞれについて，どのような学習が効果的かということについて適切に説明できないという課題です。

２点目は，日本語学習者が実際に体験するであろう様々な状況についての対応が不的確だったり，不正確だったりするという課題です。

このような課題を解決するためには，日本語教育に関する知識が必要不可欠です。この授業では，基礎的な知識を確保しながら，それを活用できるようになる方法について考えることを目的としています。

到達目標

本授業の目標は以下のようにまとめることができます。

1：日本語学習における各技能に関する学習がどのように起こるかを学術用語を用いながら説明できる。
2：日本語学習における各技能に関する学習について，与えられた学習者の状況に対する具体的な対処を提案できる。
3：日本語の学習者が遭遇するであろう異文化的，情意的問題について適切に分析し，対処を提案できる。

授業方法と留意点

授業は、講義の他にディスカッション、小テスト、課題などを含みます。
授業前に必ず指定された箇所の資料を読んでくること。
また、授業後には課題をこなして授業で学んだことを確認してください。
課題は主に Teams を使用します。

科目学習の効果（資格）

「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	【事前課題】シラバスを読んでおく
2	読むことを教える（1）	「読む」技術や言語理解について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習する
3	読むことを教える（2）	読解の指導について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む
4	話すことを教える（1）	小テスト① 「話す」技術やコミュニケーション能力、談話理解について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習する
5	話すことを教える（2）	会話やスピーキングの指導について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む
6	聞くことを教える（1）	小テスト② 「聞く」技術や言語理解について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習する
7	聞くことを教える（2）	聴解の指導について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む
8	書くことを教える（1）	小テスト③ 「書く」技術や談話理解について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習する
9	書くことを教える（2）	作文の指導と評価について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む
10	日本事情・日本文化を教える	小テスト④ 多言語・多文化主義や複文化主義、異文化間教育について知る 日本事情の指導について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む
11	学習を評価する	日本語教育の評価方法について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む
12	日本語学習の情意的側面	小テスト⑤ 日本語学習者の情意要因について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む
13	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーションと社会について考える	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む
14	日本語教育と情報	小テスト⑥ 日本語教育と ICT、著作権について知る	【事前課題】資料講読 【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む
15	総復習・確認テストおよび総括	教科書の内容についての理解度の確認 本講義の総括を行う	総復習

関連科目

日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅱ、日本語学、日本語教育実習、その他の選択科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会
2	新・はじめての日本語教育 2	高見澤孟	アスク
3	日本語教授法シリーズ	国際交流基金	ひつじ書房

評価方法（基準）

確認テスト（50%）、小テストおよび課題（40%）、授業への参加度（10%）により総合的に評価します。

学生への メッセージ	・前期に学んだ日本語教育や日本語に関する知識をもとに、自分自身の外国語学習経験も振り返りながら、日本語学習者への具体的指導にまで踏み込んだ形で活動を行います。 ・授業中は素朴でもかまわないので質問，疑問等を大歓迎します。教授経験を踏まえてお答えできるところはお答えしますし，そうでないところは一緒に考えていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	・前期「日本語教授法 I 」との関係、授業進度、もしくは受講生の学習状況により、各時限の目標を変更したり、予定を早めたり遅らせたり省略したりする可能性があります。変更の際は別途授業内でお知らせします。 ・事前、事後学習は総時間 60 時間を目安とします。

科目名	Advanced Academic Writing Workshop a	科目名（英文）	Advanced Academic Writing Workshop a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーバー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL3638c0		

授業概要・目的	This course will teach students how to write for academic purposes. Students will learn how to write well structured paragraphs including topic sentences, supporting sentence, and concluding sentences. Students will learn how to organize their ideas and how to support their ideas with evidence. The course will end with an essay assignment in which students will have the opportunity to practice the skills that they learned in this course.
到達目標	These are the objectives for this course: 1. Students will learn the purpose of academic writing. 2. Students will learn the importance of writing for an audience. 3. Students will learn the structure and style of academic writing. 4. Students will learn how to support their ideas with evidence. 5. Students will learn techniques for generating ideas for academic writing. 6. Students will receive typing practice, so they will improve their typing speed.
授業方法と留意点	This is an English language course with a strong focus on writing, so students must be willing to write in English. The use of translation software (such as DeepL) or AI (such as ChatGPT) will not be allowed in this course. Classes in this course will build on what students have learned and done in past classes, so regular attendance is very important in order to successfully complete this course.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction to Academic Writing	Syllabus overview and lecture on academic writing	Review activities (1 hour)
2	Introduction to Brainstorming Techniques	Learn and practice techniques for generating ideas for writing	Preview and review activities (1 hour)
3	Introduction to Topic Sentences	Learn how to write topic sentences; Learn how to make an outline	Preview and review activities (1 hour)
4	Introduction to Supporting Sentences and Concluding Sentences	Learn how to write supporting sentences; Learn how to write concluding sentences	Preview and review activities (1 hour)
5	Coherence in Academic Writing	Learn grammar and phrases that help connect the ideas in academic writing	Preview and review activities (1 hour)
6	Writing in Complete Sentences	Learn how to avoid common mistakes that lead to incomplete sentences	Preview and review activities (1 hour)
7	Academic Writing Style and Editing Techniques	Learn the conventions of academic writing style; learn how to edit academic texts	Preview and review activities (1 hour)
8	Writing Thesis Statements	Learn how to write good thesis statements; learn the basic structure of academic essays	Preview and review activities (1 hour)
9	Avoiding Repetition in Academic Writing	Learn how to avoid repeating certain words and phrases in academic writing; learn how to use a thesaurus; Learn transitional phrases	Preview and review activities (1 hour)
10	Academic Essay: Writing Outlines	Brainstorm and write an outline for your academic essay	Preview and review activities (1 hour)
11	Academic Essay: Developing Body Paragraphs	Write the body paragraphs for your academic essay	Preview and review activities (1 hour)
12	Academic Essay: Writing Introductory Paragraphs	Write the introductory paragraph for your academic essay	Preview and review activities (1 hour)
13	Academic Essay: Writing Concluding Paragraphs	Write a concluding paragraph for your academic essay	Preview and review activities (1 hour)
14	Academic Essay: Feedback and Editing	Give and receive feedback on your academic essay from classmates; make corrections and changes to your essay based on this feedback	Preview and review activities (1 hour)
15	Academic Essay: Reading and Discussion	Read your academic essay to your classmates; discuss the content of your academic essay	Review activities (1 hour)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Academic Writing Skills: Student Book 1	Peter Chin, Yusa Koizumi, Samuel Reid, Sean Wray, and Yoko Yamazaki	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	Academic Essay 20% Class Assignments 35% Typing Assignments 30% Participation 15%
学生への メッセージ	This course will not only help sharpen your writing skills in English but will help you understand basic concepts of academic writing that will help you write your graduation paper in the fourth year, regardless of the language. So, join me for writing this year to make writing easier next year!
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Lecture a	科目名（英文）	Lecture a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーバー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL3639b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。 各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人間関係論 (Human Relations)序論、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践します。	ノートを復習します。（４時間）
2	「個性」「価値観」「態度」とは何か	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。（４時間）
3	「知覚」「自尊感情」「自信」とは何か	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。（４時間）
4	「感情知性」(Emotional Intelligence)とは何か	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。（４時間）
5	目標設定と時間管理	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。（４時間）
6	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。（４時間）
7	ストレスを特定する	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。（４時間）
8	ストレスの原因と低減の方法	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。（４時間）
9	職場におけるコミュニケーション	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。（４時間）
10	コミュニケーションの様々なスタイル	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。（４時間）
11	言葉によらないコミュニケーション	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。（４時間）
12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。（４時間）
13	レポート作成演習：初稿を改訂する（アイデアの流れと構成を中心に）	レポートを書く。	レポートを書く。（４時間）
14	レポート作成演習：第二稿を改訂する（文章表現の確認）	レポートを書く。	レポートを書く。（４時間）
15	復習テストと質疑応答	テストを復習します。	ノートを復習します。（４時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/textbooks/132
2			
3			

評価方法（基準）	レポート　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	This will be a challenging class. You will have to opportunity to push the limits of your English language skills. Come to class with an open mind and a willingness to learn. Speaking and writing in English is a must for this course.

担当者の 研究室等	7 号館 3 階　フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にテストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にオフィスアワーにて対応する。

科目名	Film Making	科目名（英文）	Film Making
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL3640c0		

授業概要・目的	本授業では動画制作方法を学び、クラスメイトと協力しながら、英語による短編映画を製作する。受講生は自分たちで制作するドラマ作品（もしくはオリジナル作品）を選定し、ストーリーラインの作成、および日本語での台本を作り、グループメンバーで分担しながら英訳を行う。教員の添削を受けて短編映画制作用の台本を完成させた後、配役を決めて撮影をする。撮影については、撮影場所（ロケ地）、撮影方法（カメラのアングルなど）、撮影スケジュール等をグループメンバーで話し合って決め、撮影中は役になりきって、演技しながら英語の台詞を発する。撮影後、動画編集ソフトウェアを使って撮影シーンの編集を行う。動画編集作業では、動画ファイルに音楽や効果音をつけたり、日本語字幕をつけたりして、短編映画作品を完成させる。
到達目標	・英語で台本を読み、書きし、英語で台詞を発する、聞くことで、英語の 4 技能を向上させる ・感情やジェスチャーを伴いながら、英語を発することができるようになる ・動画編集方法を身に着ける
授業方法と留意点	・動画制作の方法（撮影方法や動画編集方法など）を学ぶ ・英語で台本を作成し、台詞を暗唱する ・演技しながら、英語の台詞を発する ・演出を考えながら、短編映画の撮影を行う ・英語による短編映画を編集する
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業方法の説明と自己紹介など	演技について事前学習を行うこと
2	演技方法について学ぶ	演技の説明、および実演	撮影方法について事前・事後学習を行うこと
3	撮影方法について学ぶ	撮影の説明、および実演	台本に関して、事前・事後学習を行うこと
4	短編映画作品の台本を作成する（1）	短編映画作品用の台本を製作する	台本に関して、事前・事後学習を行うこと
5	短編映画作品の台本を作成する（2）	短編映画作品用の台本を製作する	台本に関して、事前・事後学習を行うこと
6	短編映画作品の台本を作成する（3）	短編映画作品用の台本を製作する	映画製作に関して、事前・事後学習を行うこと
7	短編映画作品の撮影を行う（1）	短編映画作品用の撮影をする	映画製作に関して、事前・事後学習を行うこと
8	短編映画作品の撮影を行う（2）	短編映画作品用の撮影をする	映画製作に関して、事前・事後学習を行うこと
9	短編映画作品の撮影を行う（3）	短編映画作品用の撮影をする	映画製作に関して、事前・事後学習を行うこと
10	短編映画作品の撮影を行う（4）	短編映画作品用の撮影をする	映画製作に関して、事前・事後学習を行うこと
11	短編映画作品の撮影を行う（5）	短編映画作品用の撮影をする	動画編集に関して、事前・事後学習を行うこと
12	撮影した動画を編集する（1）	短編映画作品用の動画編集をする	動画編集に関して、事前・事後学習を行うこと
13	撮影した動画を編集する（2）	短編映画作品用の動画編集をする	動画編集に関して、事前・事後学習を行うこと
14	撮影した動画を編集する（3）	短編映画作品用の動画編集をする	動画編集に関して、事前・事後学習を行うこと
15	短編映画の披露会およびフィードバックを行う	完成した短編映画作品の披露会を実施し、各自フィードバックをする	完成動画に関して、事後学習を行うこと

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加、ペア・グループワーク　５０％ 成果物（英語台本と短編映画）　５０％
学生へのメッセージ	英語による短編映画制作活動を通して、英語の 4 技能を能動的に向上させましょう！
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎週の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	Business English a	科目名（英文）	Business English a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL3641c0		

授業概要・目的	日本が世界に誇る「ものづくり」の高い技術を持つ企業の活動内容を主なトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。まずは、演習形式で、対象となる企業の伝統・経営方針・製品開発等にかかる内容を聴き取り、その記述文について Q&A も導入しながらチェックし、読解力も養成する。次に、そこで使用されているビジネス英語に頻出の語彙・イディオム・構文などに焦点を当て、それらを用いた英語表現を実際に書いたり話したりすることで実践的な学習を行う。さらに、発展学習として、その企業のウェブサイトの英語版を教材として活用し、持続可能な社会への取り組みなどについて調査・分析するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。
到達目標	この科目は、3 年次の学生を対象とし、ビジネスおよび企業に関する英語を聴いたり読んだりして、その情報や活動内容などを理解することができるようになること、そして、ビジネスに関する話題について、目的や場面等に応じて英語で表現できるようになることをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	演習形式の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加し、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 授業外学習課題については、指示された計画や期限を守り、必ず完了すること。 ３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない方針である。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テキストの使い方､授業の概要説明	ビジネス英語の特徴やその効果的な学習方法についても紹介する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
2	マツダ社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
3	マツダ社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
4	ハウス食品社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
5	ハウス食品社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
6	TOTO 社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
7	TOTO 社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（１時間）
8	シマノ社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
9	シマノ社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
10	UCC 上島珈琲社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）

	11	UCC上島珈琲社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について、同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4時間）
	12	ダイフク社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4時間）
	13	ダイフク社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について、同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4時間）
	14	マツダ社のデザインなどについて	重要な語彙や表現（ディクテーションや英作文を含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4時間）
	15	これまでの授業で学習した内容の総括	ビジネス英語おける重要な語彙や表現についても再確認する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4時間）

関連科目	Topic Studies I, II, III など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Business Partner A2+	Margaret O'Keeffe, Lewis Lansford, Ros Wright, Mark Powell, Lizzie Wright	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（40%）、課題やレポートなどの提出物（40%）、授業中の発表や取り組む姿勢など（20%）を合わせて総合的に評価する。
学生へのメッセージ	English Language Honors Track の学生専用クラスです。
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室
備考	毎週の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	Business English a	科目名（英文）	Business English a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL3641c0		

授業概要・目的	日本が世界に誇る「ものづくり」の高い技術を持つ企業の活動内容を主なトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。まずは、演習形式で、対象となる企業の伝統・経営方針・製品開発等にかかる内容を聴き取り、その記述文について Q&A も導入しながらチェックし、読解力も養成する。次に、そこで使用されているビジネス英語に頻出の語彙・イディオム・構文などに焦点を当て、それらを用いた英語表現を実際に書いたり話したりすることで実践的な学習を行う。さらに、発展学習として、その企業のウェブサイトの英語版を教材として活用し、持続可能な社会への取り組みなどについて調査・分析するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。
到達目標	この科目は、3 年次の学生を対象とし、ビジネスおよび企業に関する英語を聴いたり読んだりして、その情報や活動内容などを理解することができるようになること、そして、ビジネスに関する話題について、目的や場面等に応じて英語で表現できるようになることをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	演習形式の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加し、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 授業外学習課題については、指示された計画や期限を守り、必ず完了すること。 ３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない方針である。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テキストの使い方､授業の概要説明	ビジネス英語の特徴やその効果的な学習方法についても紹介する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
2	マツダ社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
3	マツダ社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
4	ハウス食品社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
5	ハウス食品社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
6	TOTO 社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
7	TOTO 社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
8	シマノ社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
9	シマノ社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
10	UCC 上島珈琲社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）

	11	UCC上島珈琲社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について、同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (4時間)
	12	ダイフク社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文(ディクテーションを含む)の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (4時間)
	13	ダイフク社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について、同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (4時間)
	14	マツダ社のデザインなどについて	重要な語彙や表現(ディクテーションや英作文を含む)の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (4時間)
	15	これまでの授業で学習した内容の総括	ビジネス英語おける重要な語彙や表現についても再確認する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (4時間)

関連科目	Topic Studies I, II, IIIなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Pathways	Jonathan Lynch & Kotaro Shitori	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト(40%)、課題やレポートなどの提出物(40%)、授業中の発表や取り組む姿勢など(20%)を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	２単位の科目なので、それ相応の学習量を意識して取り組んでほしいと思います。
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を60時間程度とする。

科目名	Topic Studies Ⅲa	科目名（英文）	Topic Studies IIIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL3642c0		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。 This course is an introduction to the history, culture, economy and sociology of Canada.
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。 The course will focus on listening and speaking and listening skills and building up the vocabulary necessary to understand Canada.
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 Assignments 60% Midterm 20% Final 20%
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Overview	Information about grading and requirements. This is an important class to attend if you wish to take this course. （４時間）
2	First Nations	Lecture, readings & discussion	Listening and speaking techniques. Essay writing （４時間）
3	Early Colonists	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments （４時間）
4	English or French	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments （４時間）
5	Westward Expansion	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments （４時間）
6	The US	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments （４時間）
7	Multiculturalism	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments （４時間）
8	Midterm	Evaluation	Academic readings on culture & Writing assignments （４時間）
9	School Life	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments （４時間）
10	Tourism & Travel	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments （４時間）
11	Industry	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments （４時間）
12	Literature	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments （４時間）
13	Music	Lecture, readings & discussion	Final Essay （４時間）
14	Canadian Icons	Lecture, readings & discussion	Final Essay due for assessment （４時間）
15	Final review	Evaluations	Verbal Presentations on final essay topics （４時間）

関連科目	Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Assignments 60% Midterm 20% Final 20%
学生への	There is more to Canada than smoked salmon and maple syrup. It is a large and complex country with many contradictory elements.

メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 Herke 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	Advanced Academic Writing Workshop b	科目名（英文）	Advanced Academic Writing Workshop b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL3643c0		

授業概要・目的	This course will teach students how to write for academic purposes. Building on what students have learned from "Advanced Academic Writing Workshop a", students will use what they have learned to develop academic essays. Students will also learn the proper ways to reference and cite other works, organize their ideas, and express them in structured ways.
到達目標	1. Students will be able to differentiate casual writing and academic structured writing. 2. Students will be able to write in consideration of an audience. 3. Students will be able to master the structure and style of academic writing. 4. Students will be able to support their ideas with evidence. 5. Students will be able to use various techniques to compose academic-style essays. 6. Students will continue receiving typing practice to increase their English typing speed.
授業方法と留意点	This is an English language course with a strong focus on writing. Using AI to generate ideas and translations is strictly prohibited. Using online dictionaries and thesauruses is allowed. Attendance is strictly necessary for this course.
科目学習の効果（資格）	TOEFL

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation and review	Syllabus overview Review important concepts from the previous semester.	Review and weekly assignments. 1h
2	Review and typing practice	Review important concepts from the previous semester. Weekly typing practice begins.	Review and weekly assignments. 1h
3	Paraphrasing and summarizing	Learn how to paraphrase and summarize academic writings.	Review and weekly assignments. 1h
4	Paraphrasing and summarizing	Practice on how to paraphrase and summarize academic writings.	Review and weekly assignments. 1h
5	Citing the sources of information	Learn how to cite sources of information with MLA and APA styles.	Review and weekly assignments. 1h
6	Citing the sources of information	Practice on how to cite sources of information with MLA and APA styles.	Review and weekly assignments. 1h
7	Developing and organizing a research essay	Learn how to use mind map to generate and organize ideas.	Review and weekly assignments. 1h
8	Developing and organizing a research essay	Research and organize ideas into a structured essay.	Review and weekly assignments. 1h
9	Midterm	Compose and submit first draft of research essay.	Midterm writing assignment 1h
10	Supporting Arguments	Learn techniques to build thoughtful arguments	Review and weekly assignments. 1h
11	Supporting Arguments	Practice building thoughtful arguments with peers	Review and weekly assignments. 1h
12	Editing research essays	Learn how to edit research essays	Review and weekly assignments. 1h
13	Editing research essays	Practice editing research essays	Review and weekly assignments. 1h
14	Finalizing research essay	Checklist for finalizing research essays	Review and final writing assignment 1h
15	Learning from feedback	Peer-review and feedback on formal research essays	Peer-review of research essays 1h

関連科目	Advanced Academic Writing Workshop a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Academic Writing Skills: Student Book 1	Peter Chin, Yusa Koizumi, Samuel Reid, Sean Wray, and Yoko Yamazaki	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance and participation: 30% Weekly assignments: 30% Midterm draft essay: 20% Final essay: 20%
学生へのメッセージ	Welcome to Advanced Writing Workshop b. In the era where AI translation apps are so common, there is major a difference between writing on your own and having AI to translate texts to English from your native language. For native speakers of English, it is very easy to identify whether a text is generated by AI or not. Being able to write academically and in a structured format is a very useful skill in many circumstances. Let us enjoy and working hard together!
担当者の研究室等	カーティス研究室（3 号館 3 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 15 時間程度とする。

科目名	Lecture b	科目名（英文）	Lecture b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーバー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL3644b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。 各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践する。	ノートを復習する。（４時間）
2	職場における倫理	講義ノートを書き留める。　グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。（４時間）
3	倫理的な意思決定を行う	講義ノートを書き留める。　グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。（４時間）
4	モチベーション理論	講義ノートを書き留める。　グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。（４時間）
5	モチベーションを上げるには	講義ノートを書き留める。　グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。（４時間）
6	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。（４時間）
7	職場におけるグループ分け	講義ノートを書き留める。　グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。（４時間）
8	意思決定の過程を理解する	講義ノートを書き留める。　グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。
9	職場における争議を処理する	講義ノートを書き留める。　グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。（４時間）
10	リーダーシップと管理業務	講義ノートを書き留める。　グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。（４時間）
11	キャリアを管理する	講義ノートを書き留める。　グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。（４時間）
12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。（４時間）
13	レポート作成演習：初稿を改訂する（アイデアの流れと構成を中心に）	レポートを書く。	レポートを書く。（４時間）
14	レポート作成演習：第二稿を改訂する（文章表現の確認）	レポートを書く。	レポートを書く。（４時間）
15	復習テストと質疑応答	テストと復習をする。	ノートを復習する。（４時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/textbooks/132
2			
3			

評価方法（基準）	レポート　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	This will be a challenging class. You will have to opportunity to push the limits of your English language skills. Come to class with an open mind and a willingness to learn. Speaking and writing in English is required.

担当者の 研究室等	7 号館 3 階　フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はオフィスアワー に対応する。

科目名	Business English b	科目名（英文）	Business English b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL3645c0		

授業概要・目的	日本が世界に誇る「ものづくり」の高い技術を持つ企業の活動内容を主なトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。まずは、演習形式で、対象となる企業の伝統・経営方針・製品開発等にかかる内容を聴き取り、その記述文について Q&A も導入しながらチェックし、読解力も養成する。次に、そこで使用されているビジネス英語に頻出の語彙・イディオム・構文などに焦点を当て、それらを用いた英語表現を実際に書いたり話したりすることで実践的な学習を行う。さらに、発展学習として、その企業のウェブサイトの英語版を教材として活用し、持続可能な社会への取り組みなどについて調査・分析するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。
到達目標	この科目は、3 年次の学生を対象とし、ビジネスおよび企業に関する英語を聴いたり読んだりして、その情報や活動内容などを理解することができるようになること、そして、ビジネスに関する話題について、目的や場面等に応じて英語で表現できるようになることをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	演習形式で授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加し、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 授業外学習課題については、指示された計画や期限を守り、必ず完了すること。 ３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない方針である。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テキストの使い方､授業の概要説明	ビジネス英語の特徴やその効果的な学習方法についても紹介する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
2	サクラクレパス社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
3	サクラクレパス社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
4	ヤンマー社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
5	ヤンマー社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
6	オタフクソース社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
7	オタフクソース社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
8	トンボ社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
9	トンボ社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）
10	日東電工社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（４時間）

	11	日東電工社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について、同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4時間）
	12	モロゾフ社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4時間）
	13	モロゾフ社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について、同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4時間）
	14	ミュージアムとカフェなどについて	重要な語彙や表現（ディクテーションや英作文を含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4時間）
	15	これまでの授業で学習した内容の総括	ビジネス英語おける重要な語彙や表現についても再確認する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4時間）

関連科目	Topic Studies I, II, III など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Business Partner A2+	Margaret O'Keeffe, Lewis Lansford, Ros Wright, Mark Powell, Lizzie Wright	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（40%）、課題やレポートなどの提出物（40%）、授業中の発表や取り組む姿勢など（20%）を合わせて総合的に評価する。
学生へのメッセージ	English Language Honors Track の学生専用クラスです。
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室
備考	毎週の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	Business English b	科目名（英文）	Business English b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL3645c0		

授業概要・目的	日本が世界に誇る「ものづくり」の高い技術を持つ企業の活動内容を主なトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。まずは、演習形式で、対象となる企業の伝統・経営方針・製品開発等にかかる内容を聴き取り、その記述文について Q&A も導入しながらチェックし、読解力も養成する。次に、そこで使用されているビジネス英語に頻出の語彙・イディオム・構文などに焦点を当て、それらを用いた英語表現を実際に書いたり話したりすることで実践的な学習を行う。さらに、発展学習として、その企業のウェブサイトの英語版を教材として活用し、持続可能な社会への取り組みなどについて調査・分析するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。
到達目標	この科目は、3 年次の学生を対象とし、ビジネスおよび企業に関する英語を聴いたり読んだりして、その情報や活動内容などを理解することができるようになること、そして、ビジネスに関する話題について、目的や場面等に応じて英語で表現できるようになることをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	演習形式で授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加し、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 授業外学習課題については、指示された計画や期限を守り、必ず完了すること。 ３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない方針である。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テキストの使い方､授業の概要説明	ビジネス英語の特徴やその効果的な学習方法についても紹介する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
2	サクラクレパス社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
3	サクラクレパス社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
4	ヤンマー社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
5	ヤンマー社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
6	オタフクソース社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
7	オタフクソース社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
8	トンボ社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
9	トンボ社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について､同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに､使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）
10	日東電工社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文（ディクテーションを含む）の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること（4 時間）

	11	日東電工社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について、同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (4時間)
	12	モロゾフ社に関する記述文など	基礎となる文法事項・語彙・構文(ディクテーションを含む)の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (4時間)
	13	モロゾフ社に関する記述文など	ビジネス英語に頻出の表現について、同義語の検索や英作文による応用練習なども取り入れながら学習する。さらに、同社のウェブサイト(英語版)を利用し、持続可能な社会への取り組みなどについて理解するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (4時間)
	14	ミュージアムとカフェなどについて	重要な語彙や表現(ディクテーションや英作文を含む)の確認と、聴き取りや読解に関する学習を演習形式で行う。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (4時間)
	15	これまでの授業で学習した内容の総括	ビジネス英語おける重要な語彙や表現についても再確認する。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (4時間)

関連科目	Topic Studies I, II, III など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Leading the Way: Major Japanese Corporations [Second Edition]	Kenji Ozawa et al.	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト(40%)、課題やレポートなどの提出物(40%)、授業中の発表や取り組む姿勢など(20%)を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	２単位の科目なので、それ相応の学習量を意識して取り組んでほしいと思います。
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を60時間程度とする。

科目名	Topic Studies Ⅲb	科目名（英文）	Topic Studies IIIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松吉　翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL3646c0		

授業概要・目的	本講義のトピックは「映画を通して学ぶ外国文化」である。映画では言語、文化、社会的背景など様々な要因が異なる視点から描かれている。異なる視点から物事をみることで、自身の視野を広げ、外国語や外国文化を身近なものと捉えることを目的とする。外国語（特に英語）や外国文化を映画を通して楽しみながらその奥深さを学んでいきましょう。(※必要に応じて海外ドラマ、アニメ、漫画などの題材も扱います。)
到達目標	本講義を通して学生は： （１）映像メディア(特に映画)を通して、これまでとは異なる視点から言語や文化を捉えることができる。 （２）外国文化を身近に感じ、日本文化や自分たち自身についてより多角的に見つめ直すことができる。 （３）映像メディアを分析することで、言語や文化についての知識理解を深めることができる。
授業方法と留意点	教員が一方的に話すのではなく、「映画」という映像メディアを通して言語(特に英語)や外国文化などを学生が主体となり学んでいく。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・目的、評価などについて説明を行います。	講義の復習・課題など（１時間）
2	映像メディア(特に映画)を使って「何を」「どう」「なぜ」学ぶのだろう？	・外国語学習や異文化理解において「映像メディア(特に映画)」の利用がどのような役に立つのだろうか？ ・効果的な学習方略/活用法などを考え、「映像メディアから学ぶ」準備をします。	講義の復習・課題など（１時間）
3	映画から読み解く外国文化（１）	・映画鑑賞（前半） ・映像分析のポイント ・文化社会的背景の考察/言語表現 ・Worksheet/ディスカッション(ペア/グループ)	講義の復習・課題など（１時間）
4	映画から読み解く外国文化（１）	・前半の復習/振り返り ・映画視聴(後半) ・文化社会的背景の考察/言語表現 ・Worksheet/ディスカッション(ペア/グループ)	講義の復習・課題など（１時間）
5	映画・映像メディア分析【地域/社交/恋愛】	・「映像」に隠されたメッセージを読み取るとるためには？ ・普段何気に見ている「映像」を少し立ち止まって見てみると、「！？」と感じる部分が見えてくるかもしれません。自分たちの文化社会と比較し考察を深めましょう。	講義の復習・課題など（１時間）
6	映画から読み解く外国文化（２）	・映画鑑賞（前半） ・映画分析のポイント ・文化社会的背景の考察/言語表現 ・Worksheet/ディスカッション(ペア/グループ)	講義の復習・課題など（１時間）
7	映画から読み解く外国文化（２）	・前半の復習/振り返り ・映画視聴(後半) ・文化社会的背景の考察/言語表現 ・Worksheet/ディスカッション(ペア/グループ)	講義の復習・課題など（１時間）
8	ミニ・プレゼンテーション(中間課題)	・グループで１本映画を選び、それについて簡単な紹介を行う。	講義の復習・課題など（１時間）
9	映画・映像メディア分析【学校/学歴/職業キャリア】	・「映像」に隠されたメッセージを読み取るとるためには？ ・普段何気に見ている「映像」を少し立ち止まって見てみると、「！？」と感じる部分が見えてくるかもしれません。自分たちの文化社会と比較し考察を深めましょう。	講義の復習・課題など（１時間）
10	映画から読み解く外国文化（３）	・映画鑑賞（前半） ・映画分析のポイント ・文化社会的背景の考察/言語表現 ・Worksheet/ディスカッション(ペア/グループ)	講義の復習・課題など（１時間）
11	映画から読み解く外国文化（３）	・前半の復習/振り返り ・映画視聴(後半) ・文化社会的背景の考察/言語表現 ・Worksheet/ディスカッション(ペア/グループ)	講義の復習・課題など（１時間）
12	アニメーション映画に描かれる人間社会【宗教/人種民族/政治権力】	・アニメーション映画にも人間社会が反映されることがあります。それが意味するものは何かを考えていきましょう。	講義の復習・課題など（１時間）
13	映画から読み解く外国文化（４）	・映画鑑賞（前半） ・映画分析のポイント ・文化社会的背景の考察/言語表現	講義の復習・課題など（１時間）

			・Worksheet/ディスカッション(ペア/グループ)	
	14	映画から読み解く外国文化（4）	・前半の復習/振り返り ・映画視聴(後半) ・文化社会的背景の考察/言語表現 ・Worksheet/ディスカッション(ペア/グループ)	講義の復習・課題など（1時間）
	15	まとめ・振り返り	・これまで学んだことを振り返りましょう。	講義の復習・課題など（1時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	随時プリントを配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アメリカ映画の文化副読本ーA Glimpse of American Culture Through Filmー	渡辺将人	日本経済新聞出版
2			
3			

評価方法（基準）

出席・アティチュード：40％
授業内・授業外課題など：60％
※詳細は初回授業で説明します。

学生へのメッセージ

「映像メディア（特に映画)」に馴染みのない方、英語が苦手な方でも受講いただける科目です。
少しでも映画、外国語、外国文化などに興味がある方は、その奥深さ面白さをより感じられるよう一緒に学習をしていきましょう！

担当者の研究室等

7号館2階　非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	中国語プレゼンテーション	科目名（英文）	Chinese Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL3659e0		

授業概要・目的	現代中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習である。教科書の学習を通して、中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、会話力を高める。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でのスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。語彙力やテキストの内容理解を高め、話すトレーニングを行う。流暢に話せることを目指す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。 課題に対して添削指導、または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課 自己紹介	１、今後授業計画。 ２、文法要点。 3.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
2	第２課 私の家族	1.　文法要点。 2　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
3	第３課 私の一日	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
4	第４課 買い物	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
5	発表会	発音練習・暗唱発表	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
6	プレゼンテーション	発音練習・発表	プレゼン会の準備をする。
7	第５課 中華料理	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。 与えられた課題に取り組む。
8	第６課 中国の気候	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
9	第７課 旅行	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
10	第８課 夏休みの生活	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
11	第９課 上海の今日	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
12	第 10 課 上海の交通	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
13	プレゼン会の準備	作文・発音練習	プレゼン会の準備をする。与えられた課題に取り組む。
14	発表会	発音練習・暗唱発表	CD を聞いて練習する。プレゼン会の準備をする。
15	プレゼンテーション	発音練習・発表	プレゼン会の準備をする。与えられた課題に取り組む。

関連科目	特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加度・受講態度・暗唱発表 50%、プレゼン会 50%の割合で成績を評価する。
学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組む姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学習を要する.。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	読み上げ音声の課題提出を求めることがある。

科目名	中国語プレゼンテーション	科目名（英文）	Chinese Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL3659e0		

授業概要・目的	現代中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習である。教科書の学習を通して、中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、会話力を高める。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でのスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。語彙力やテキストの内容理解を高め、話すトレーニングを行う。流暢に話せることを目指す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。 課題に対して添削指導、または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課 自己紹介	１、今後授業計画。 ２、文法要点。 3.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
2	第２課 私の家族	1.　文法要点。 2　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
3	第３課 私の一日	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
4	第４課 買い物	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
5	発表会	発音練習・暗唱発表	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
6	プレゼンテーション	発音練習・発表	プレゼン会の準備をする。
7	第５課 中華料理	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。 与えられた課題に取り組む。
8	第６課 中国の気候	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
9	第７課 旅行	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
10	第８課 夏休みの生活	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
11	第９課 上海の今日	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
12	第 10 課 上海の交通	1.　文法要点。 2.　読む・会話練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
13	プレゼン会の準備	作文・発音練習	プレゼン会の準備をする。与えられた課題に取り組む。
14	発表会	発音練習・暗唱発表	CD を聞いて練習する。プレゼン会の準備をする。
15	プレゼンテーション	発音練習・発表	プレゼン会の準備をする。与えられた課題に取り組む。

関連科目	特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中級　サクセス　中国語	海村・関・唐・李・林	郁文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加度・受講態度・暗唱発表 50%、プレゼン会 50%の割合で成績を評価する。
学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組む姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学習を要する.。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	読み上げ音声の課題提出を求めることがある。

科目名	スペイン語プレゼンテーション	科目名（英文）	Spanish Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート　ロイデ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL3669e0		

授業概要・目的	習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。 De acuerdo a las habilidades del idioma espanol adquiridas, el objetivo no es solo comunicarse, sino tambien adquirir conocimientos basicos desde diversos temas que permitan ampliar las habilidades de conversacion.
到達目標	日常会話よりも深い内容の対話ができるようになる。そのために、テーマについて予め調べ、新しい知識についてスペイン語で説明したり、質問したりすることをめざす。 Para lograr una conversacion diaria en el futuro, el objetivo del curso sera investigar distintos temas por adelantado y explicarlo con sus propias palabras y conocimientos en espanol.
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、１年後期、2 年前期、2 年後期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。 教科書は用いず、教材を配布する。 Se distribuiran materiales didacticos sin usar libros de texto.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Presentacion al grupo. Aprender un idioma.	Presentarse con sus companeros. Dar una opinion a partir de una infografia.	Hablar de sus gustos y aficiones. Ejemplos de distintos acentos y palabras en espanol segun paises hispanohablantes.
2	Que opinas sobre estas imagenes?	Describir por escrito una fotografia y pintura.	Presentar una pequena historia a partir de una fotografia y pintura.
3	Que opinas sobre estas imagenes?	Describir por escrito una fotografia y pintura.	Presentar una pequena historia a partir de una fotografia y pintura.
4	Noticias de actualidad.	Buscar una noticia en el periodico, la radio, la television o la internet.	Presentar una noticia de actualidad.
5	Comida en el mundo hispano.	Hablar de gustos sobre comida.	Presentar una receta de cocina.
6	Comida en el mundo hispano.	Hablar de gustos sobre comida.	Presentar una receta de cocina.
7	Lecturas	Escuchar un cuento o fabula o comic.	Presentar cuento o fabula y preguntar sobre un abula o comic.
8	Lecturas	Escuchar un cuento o fabula o comic.	Presentar cuento o fabula y preguntar sobre un abula o comic.
9	La moda.	Tema de conversacion y valoracion de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y ahora. Presentar su marca o ropa favorita.
10	La moda.	Tema de conversacion y valoracion de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y ahora. Presentar su marca o ropa favorita.
11	Personas famosas que admires.	Comentar por que se admira a ese personaje	Buscar un personaje famoso para presentar en clase.
12	Personas famosas que admires.	Comentar por que se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar un personaje famoso para presentar en clase.
13	Peliculas, cortometrajes y animaciones para aprender espanol real.	Ver una pelicula, cortometraje o animacion. Escuchar y practicar espanol real.	Hablar de una pelicula, cortometraje o animacion favorita.
14	Viajes	Hablar sobre lugares para visitar en Japon y en el extranjero.	Presentar un plan de vacaciones en Japon y en el extranjero.
15	Presentacion como examen final	Escoger y escribir un tema original.	Presentar de memoria un tema original.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業における取り組み姿勢・スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する，授業における・課題 /授業でさまざまなテーマについて小さなプレゼンテーション(60%)期末試験としてのオリジナルのプレゼンテーション（40%）から総合的に評価する。 Evaluacion integral basada en la actitud hacia las tareas, la calidad de las tareas en espanol y las habilidades de vocabulari
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。授業への背局的参加と発言を高く評価する。 Asegurese de leer los materiales detenidamente y buscar vocabulario basico antes de asistir a clase. La dinamica de la participacion constante sera considerada para la evaluacion.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　講師控室
備考	事前事後学習の総時間数は 60 時間を目安とする。

科目名	インドネシア語・マレー語プレゼンテーション	科目名（英文）	Indonesian and Malay Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL3679e0		

授業概要・目的	これまでに学んだインドネシア語を正式な状況で使用することが出来る。公の場で話すことが出来る。
到達目標	学生は主題を適切かつ正確に伝えることが出来る。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、１年後期、２年前期、２年後期開講のインドネシア語・マレー語の授業を履修している学生を対象とします。 資料の収集や、インドネシア語を使った課題を出すのでこれらに実習的に取り組みこと。 授業では、資料の読解や文章制作の指導を行うとともに、指示した資料がどのような社会的背景をゆするかも合わせて解説する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセス方法・課題の制作方法などについて解説する。	指示された方法で資料にアクセスする。
2	プレゼンテーションについて	プレゼンテーションの種類の紹介。	既習事項の確認と演習課題の取り組み。
3	公の場で話すテクニック	様々なプレゼンテーションを学ぶ。	既習事項の確認と演習課題の取り組み。
4	プレゼンテーションの原稿の作成①	主題を使いながらインドネシア語による文を作成・設定して、学んだ書式や語彙する。	既習事項の確認と演習課題の取り組み。
5	プレゼンテーションの原稿の作成②	主題を使いながらインドネシア語による文を作成・設定して、学んだ書式や語彙する。	既習事項の確認と演習課題の取り組み。
6	プレゼンテーションの原稿の作成③	原稿確認・プレゼンテーション練習。	既習事項の確認と演習課題の取り組み。
7	プレゼンテーションの原稿の作成④	発表会・評価・反省会。	既習事項の確認と演習課題の取り組み。
8	広告①	広告についての説明。	既習事項の確認と演習課題の取り組み。
9	広告②	広告の製作。	既習事項の確認と演習課題の取り組み。
10	広告③	広告の発表・評価・反省会。	既習事項の確認と演習課題の取り組み。
11	広告④	マレー語で広告制作する。	広告についての既習事項の確認と広告の製作と推敲。
12	スピーチ①	スピーチについての説明。	既習事項の確認と演習課題への取り組み。
13	スピーチ②	原稿の作成。	文章の完成プレゼンテーションの準備
14	スピーチ③	自習練習。	実習練習
15	スピーチ④	スピーチの発表・これまでの既習事項を確認するとともに完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料制作

関連科目	インドネシア語・マレー語関係の授業

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	3 回実施する演習課題（７０％）、その他課題の提出状況および授業への取り組み（３０％）から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階：非常勤講師室
備考	受講者の人数と関心を見て課題の作成方法や提出方法等を決定します。初回授業時に指示するので必ず出席すること。 参考書は本学図書館にも所蔵しているので、課題に取り組む際には大いに参考にすること。 事前・事後学習の総時間は、30 時間以上とする

科目名	科学技術教養	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田　周之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LNA3814a1		

授業概要・目的	機械工学とは〝ヒトが活動する上での効率化と合理化，自動化を図る機械〟の原理，性能，製作，利用と保守を科学的に体系化した学問である。機械工学は，機械力学，材料力学，熱力学，流体力学の４力学を基軸とし、その応用分野は多岐にわたる。 本講義は，機械工学を象徴する代表的な学問分野を科学技術教養の視点で学習することにより，機械工学の全体像を俯瞰しつつ，履修生が所属する機械工学以外の分野と機械工学のかかわりに気づき，機械工学の基本的な考え方や役割を理解することを目的とする。
到達目標	・機械技術とものづくり技術の全般的な基礎知識を知り，機械工学と実社会への関わりを理解することができる。 ・機械工学と他分野の関わりに気づき，機械工学の基本的な考え方や役割を理解する。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 ・Web 上で配布するテキスト（PDF）に目を通し，ポイントをまとめておく。 ・講義前に課題を配布し，スライド資料を用いた講義を行う。(60 分) ・講義メモと課題を作成し，指示に従って提出する。(30 分) ・状況に応じてオンライン方式に切り替える場合がある。 ・切り替える日時や受講方法の連絡にはTeams を使うので，注意しておくこと。
科目学習の効果（資格）	・機械工学科の基本的な知識をを俯瞰的に知ることことができる。 ・機械工学と他分野との関わりに気づき，受講者の興味や知識の幅を広げることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機械工学の概要	・人類の歩みと機械の歴史 ・ものづくりの原点 ・科学技術と機械工学 ・これからの社会への機械工学の役割	M1 テキスト第 1 章に目を通し,ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
2	いろいろな機械材料	・金属材料 ・高強度・機能性材料 ・新素材と高度産業社会	M1 テキスト第 3～5 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
3	道具と機械	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	M1 テキスト第 2 章に目を通し,ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
4	空間を移動する	・空を飛ぶ原理と飛行機の機械技術 ・深海に潜る原理と深海艇の機械技術 ・宇宙に飛び立つ原理とロケットの機械技術	M2 テキスト第 6～8 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
5	精密に加工する	・ものの大きさと精密さ ・精密・超精密加工の発展 ・超精密加工の応用事例 ・超精密加工と超精密工作機械	M1 テキスト第 7 章に目を通し,ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
6	ものづくりの科学と技術	・溶かして作る ・変形させて作る ・削って作る ・積み上げて作る ・工場を科学する	M1 テキスト第 6、8 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
7	作業を補助する機械	・人間の作業と機械 ・移動と運搬の補助 ・動力源・移動のためのメカニズム ・力を伝えるための仕組みと手段 ・シャフトとベアリング	M1 テキスト第 9・10 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
8	機械をかしこくする	・機械の操作と知能化技術 ・知能化のための機械設計 ・パワーアシストスーツ ・人工知能技術	M1 テキスト第 11 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
9	ミクロの機械	・小型化への取り組み ・小さくなることで変わる物理特性 ・半導体製造技術 ・マイクロロボット	M1 テキスト第 12～14 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
10	流れを利用する	・動力と流体機械 ・流体機械の歴史 ・発電のための流体機械 ・自然エネルギーの利用	M2 テキスト第 2・3 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
11	陸上を移動する	・エンジンと機械工学 ・動力機械としてのエンジン ・熱エネルギー ・旅客輸送と貨物輸送	M2 テキスト第 4・5 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
12	計測する	・度量衡と政治 ・ものの大きさと精密さ ・センサで測る ・センシング技術	M2 テキスト第 9・10 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
13	制御する	・制御工学の世界 ・制御の方式 ・さまざまな機械制御技術	M2 テキスト第 11・12 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
14	生命・生体にならう 1	・バイオエンジニアリングの世界 ・人間を救う・支援する機械	M2 テキスト第 13・14 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
15	生命・生体にならう 2	・健康とスポーツのための機械	M2 テキスト第 14・15 章に目を通し，ポイントをま

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>・人間工学</td><td>とめておくこと（2 時間）
関連事項について調べる（2 時間）</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td></td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・毎回提出する課題（各回 10 点満点）に基づき成績評価をする。
・満点は 150 点（講義 15 回分）で、これを 100 点満点に換算する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義を受講することにより，機械工学が対象とする学問・専門分野や，機械工学と実社会との関わりを理解することができます。現代社会では，あらゆる分野で機械が働いています。受講者それぞれの分野と機械工学の関わりを知ることで，知識や視野を広げることができます.</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	ビジネス実務	科目名（英文）	Practical Business Studies
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA3832a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	テキストは Web 上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考えること(30 分) ・事後学修：ビジネスマナーとは何か、400 字でまとめること(60 分)
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の 8 つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修:企業のエコ活動について調べること(30 分) ・事後学修：仕事とは何か、まとめること(60 分)
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定（MBO） ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べること(30 分) ・事後学修：あなたの日常生活における MBO ととPDCA を考え、まとめること(60 分)
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの 1 週間予定表を作成すること(30 分) ・事後学修:あなたの予定表作成について振り返り、まとめること(60 分)
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をすること(30 分) ・事後学修:ケーススタディプリントをすること(60 分)
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをすること(30 分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返すこと(60 分)
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修:来客応対プリント①をすること(30 分) ・事後学修:来客対応プリント②をすること(60 分)
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べること(30 分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること(60 分)
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修:ビジネス文書始める前にをすること(30 分) ・事後学修：ビジネス文書②をすること(60 分)
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をすること(30 分) ・事後学修：ビジネス文書④をすること(60 分)
11	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をすること(30 分) ・事後学修：メール文書を作成すること(60 分)
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（P マーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べること(30 分) ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成すること(60 分)
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること(30 分) ・事後学修：設営事例をまとめること(60 分)
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をすること(30 分) ・事後学修：弔・贈答プリント②をすること(60 分)
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること(30 分) ・事後学修：共生関係について自らの考えをまとめること(60 分)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	<table><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席６回以上）は評価できないことがある。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。
担当者の 研究室等	７号館５階　全学教育機構（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。質問等は、メールやチャットにて受け付けます。

科目名	地域と私	科目名（英文）	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：A○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO1452a1,L 科：LLO1354a1,D 科・S 科：ILO1361a1,P 科：YLO1417a2,J 科：JLO1363a1,W 科：WLO1342a1,N 科：NLO1343a1		

授業概要・ 目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。
授業方法と 留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めてますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、事後 学習課題	講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。 ＜４月６日（土）１～３限＞ 第１回　「地域と私」への取り組み方；オリエンテーション 　授業の進め方／ひとこと自己紹介 第２回　地域との関わり方　～『調査されるという迷惑』を読む～ 　グループディスカッション／教室内での共有 第３回　地域のいまとその担い手 　地域福祉の視点から概説／グループディスカッション／教室内での共有 ＜４月２０日（土）１～３限＞ 第４回　インタビューにチャレンジ　～聴く、掘り下げる、まとめる～ 　グループづくり／グループ内での相互インタビュー／インタビューで聴いた内容をメモする 第５回　質的データの分析にチャレンジ 　メモの内容を整理する／分析する 第６回　「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&ディスカッション ＜５月１８日（土）１，２限＞ 第７回　地域に関するテーマを選定しよう 　「『地域』に関する文献の整理」についてのグループ内プレゼンテーション／グループで取り組むテーマの決定／グループワークの実施スケジュールの検討 第８回　グループワークについてシェアしよう 　グループワークテーマの教室内での共有・対話 ＜６月１日（土）１，２限＞ 第９回　グループワークの中間報告会 第 10 回　グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 　「地域福祉」の実践事例から考える／選定したテーマを「具体的な地域」から考える ＜６月１５日（土）１，２限＞ 第 11 回　グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう 　テーマごとに「登場人物」を考える 第 12 回　大学生は地域のためになにができるかを考えよう 　地域と学生の協働的実践について概説／地域の担い手としての大学生の可能性／地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク／グループディスカッション／教室内での共有 ＜６月２９日（土）１～３限＞ 第 13 回　最終報告会① 第 14 回　最終報告会② 第 15 回　講義のふりかえり 本科目の受講にあたっては、講義準備および復習として事前、事後学習を各回 2 時間程度、合計 60 時間取り組んでいただきます。
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	学びレポート（個人ワーク）30% 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」「『地域』に関する文献の整理」成果物（個人ワーク）20%

	学びのグループワークレポート 30% 最終報告会でのプレゼンテーション　20%（ルーブリック評価） なお、60%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス３号館３階　上野山研究室
備考	

科目名	地域貢献実践演習	科目名（英文）	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：A○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO3457a1,L 科：LLO3366a1,D 科・S 科：ILO3366a1,P 科：YLO3422a2,J 科：JLO3368a1,W 科：WLO347a1,N 科：NLO3348a1		

授業概要・ 目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4 月・5 月の半ばまではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。５月後半（予定）からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。 SDGs 全般
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までの PDCA サイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。
授業方法と 留意点	4 月・５月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1.オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法　：4 月 12 日（金）５限 ※２回目以降の講義の日時は初回の講義で決定する。なお開講曜日は金曜日５限を予定しているが履修学生の時間割次第で変更になることもある。 2.チームビルディングワーク 3.連携先様に登壇いただき、連携先様の課題に関する話題提供 4.連携先様のお話を踏まえ、調べたこと、今後取り組みたいこと等に関するプレゼンテーション 5.以降は　現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね３週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時に関しては担当教員の指示に従うこと。 ※12 月末（日時未定）に成果報告会を行う
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題提出物　30% 活動の取り組み状況　50% 最終報告等　20%
学生への メッセージ	副専攻で学修した成果を実践活動で発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。
担当者の 研究室等	水野武（寝屋川キャンパス７号館３階）
備考	

科目名	教育実習Ⅱ	科目名（英文）	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明.鎌田　祥輝.谷口　雄一.西村　晃一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において 10 日間以上（80 時間以上）の実習を行う。（1）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（2）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（3）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（4）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（1）教育実習校での実習を中心に行う。（2）大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。（3）事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。（4）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個別指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（４月第３・第４土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個別指導（４月～７月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～７月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（８月～１１月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教職フォーラム（教育実習体験発表会）（１０月第３土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１１月最終土曜日午前；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加（体験発表およびその準備を含む）(15%)、実習校における実習成績（60%)、事前指導・事後指導における課題等提出物（教育実習記録を含む）(25%）による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス７号館３階（松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室） 寝屋川キャンパス７号館４階（谷口研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	教育実習Ⅲ	科目名（英文）	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明.鎌田　祥輝.谷口　雄一.西村　晃一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において 15 日間以上（120 時間以上）の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験発表及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。（３）事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個別指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（４月第３・第４土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個別指導（４月～７月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～７月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（８月～１１月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教職フォーラム（教育実習体験発表会）（１０月第３土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１１月最終土曜日午前；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加（体験発表およびその準備を含む）(15%)、実習校における実習成績（60%)、事前指導・事後指導における課題等提出物（教育実習記録を含む）(25%) による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス７号館３階（松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室） 寝屋川キャンパス７号館４階（谷口研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

科目名	地域実習	科目名（英文）	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎.古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程１年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は２年次の「摂南大学 PBL プロジェクト」、３年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけしています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。
授業方法と留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第１回授業で案内します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【重要】第１回授業は前期の班決めなどをしますので、必ず出席してください。もし、出席できない時は必ず事前に Teams のチャット機能で担当教員に連絡してください。また、授業の性質上、授業開始後、2～3 回たってから参加するということもできません。その場合は履修辞退となります。授業開始後、欠席が続いたままの場合は単位認定できませんので、必ず初回から出席してください。 【授業内容】 1 チーム 10 名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の 1～6 の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第１回授業はで詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習にいくことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも６時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は２週間に１回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日にちは調整中ですので、第１回授業で案内します。 第 1 回「ガイダンス（授業概要の説明）」 第 2 回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第 3 回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第 4 回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第 5 回「社会教育とは(1)」 第 6 回「社会教育とは(2)」 第 7 回「まちあるき報告会」 第 8 回「実習先挨拶」(学外) 第 9 回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第 10 回～第 18 回　「実習」(学外)（主に夏季休暇中に行います） 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第 19 回「実習ふりかえり(1)」 第 20 回「実習ふりかえり(2)」 第 21 回「全体報告会」
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出物（20%）、活動への参画の程度（40%）、最終報告プレゼンテーション（20%）、最終レポート（20%）
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましょう！
担当者の研究室等	朝田研究室（寝屋川キャンパス、1 号館 7 階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬　憲昭.下元　一輝
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科:TTO1461a1～TTO1465a1,L 科:LTO1366a1～LTO1370a1,D 科・S 科:ITO1371a1～ITO1375a1,J 科:JTO1374a～1JTO1378a1,W 科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	市役所（町役場）の職員、自治会の役職者、市民（町民）などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。 ①調査：地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。 ②企画：プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。 ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。 ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。 具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体： 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町 SDGｓゴール：4・11・17
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス　1 号館 7 階　村瀬研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬　憲昭.下元　一輝
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科:TT01461a1～TT01465a1,L 科:LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科:IT01371a1～IT01375a1,J 科:JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	市役所（町役場）の職員、自治会の役職者、市民（町民）などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。 ①調査：地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。 ②企画：プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。 ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。 ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と 留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業とする。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。 具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体： 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町 SDGｓゴール：4・11・17
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生への メッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス　1 号館 7 階　村瀬研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プ ロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。
授業方法と留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 ２．点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 ６．い い川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日１・２限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。９月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（６月）、近畿水環境交流会（８月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科） 科学技術教養C 教養特別講義「SDGｓで読み解く淀川流域」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス　1号館3階　石田研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プ ロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。
授業方法と留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 ２．点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 ６．い い川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日１・２限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。９月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（６月）、近畿水環境交流会（８月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科） 科学技術教養C 教養特別講義「SDGｓで読み解く淀川流域」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス　１号館３階　石田研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保.大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TTO1461a1～TTO1465a1,L科:LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科:ITO1371a1～ITO1375a1,J科:JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決（食品ロス削減）に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。
到達目標	【PBL プロジェクト共通目標】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、　「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 【本プロジェクト目標】 ・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。 ・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。 ・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【内容】 ・食品ロスについて ・調査活動 ・イベント参加 ・小冊子等作成 【方法】 ・食品ロスについて：講義+演習形式 ・その他の内容：グループ活動 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス２号館２階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保.大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TTO1461a1～TTO1465a1,L科:LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科:ITO1371a1～ITO1375a1,J科:JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決（食品ロス削減）に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。
到達目標	【PBL プロジェクト共通目標】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、　「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 【本プロジェクト目標】 ・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。 ・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。 ・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【内容】 ・食品ロスについて ・調査活動 ・イベント参加 ・小冊子等作成 【方法】 ・食品ロスについて：講義+演習形式 ・その他の内容：グループ活動 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス２号館２階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎.古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科･R科･A科･M科･E科･C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科･S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	プロジェクト名：キッズイベントイベントを創ろう！ 【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024 年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは，毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから，企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し，運営を行うことにより，企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに，学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。
到達目標	【PBL プロジェクト到達目標（共通)】 本プロジェクトでは，参加メンバー・学外の連携先との協働を通して，「主体性を持って前向きに取り組む力」，「自分とは異なった価値観を受け入れる力」，「課題を発見し，解決する力」を身につけるとともに，新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて，本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 １．市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき，新しい音楽イベントを企画・運営する。 ２．十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 ３．イベント後の処理を適切に行う。
授業方法と留意点	連携先や学生同士など，人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業計画】 ４月　ご挨拶 ５月　企画会議 ６月　自主事業内容の決定および出演交渉 ７月　中間報告会 寝屋川市に報告，寝屋川市広報に記事掲載依頼 ８月　チラシのデザイン作業 ９月　チラシの印刷・配付およびチケット作成 10 月　ポスターセッション チケット発売開始 11 月　打ち合わせ（出演者，舞台スタッフ，学生関係者） 12 月　最終報告会 準備および本番 この他に「基礎講座」全９回を受講すること これらの活動を通じて，以下のことを身につける。 １．イベントがどのように企画・運営されているのか，体験的に知る。 ２．企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 ３．連携先・出演者との交渉をする中で，社会人として必要なマナーを身につける。 ４．メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて，「質の高い意思決定」ができるようになる。 ５．他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。
関連科目	すべての科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	普段のグループワークへの参加状況・貢献度（50%）、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度（30%）、発表会における評価（20%）を総合して判断する。
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス１号館７階（朝田）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎.古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科･R科･A科･M科･E科･C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科･S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	プロジェクト名：キッズイベントイベントを創ろう！ 【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024 年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは，毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから，企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し，運営を行うことにより，企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに，学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。
到達目標	【PBL プロジェクト到達目標（共通)】 本プロジェクトでは，参加メンバー・学外の連携先との協働を通して，「主体性を持って前向きに取り組む力」，「自分とは異なった価値観を受け入れる力」，「課題を発見し，解決する力」を身につけるとともに，新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて，本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 １．市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき，新しい音楽イベントを企画・運営する。 ２．十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 ３．イベント後の処理を適切に行う。
授業方法と留意点	連携先や学生同士など，人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業計画】 ４月　ご挨拶 ５月　企画会議 ６月　自主事業内容の決定および出演交渉 ７月　中間報告会 寝屋川市に報告，寝屋川市広報に記事掲載依頼 ８月　チラシのデザイン作業 ９月　チラシの印刷・配付およびチケット作成 10 月　ポスターセッション チケット発売開始 11 月　打ち合わせ（出演者，舞台スタッフ，学生関係者） 12 月　最終報告会 準備および本番 この他に「基礎講座」全９回を受講すること これらの活動を通じて，以下のことを身につける。 １．イベントがどのように企画・運営されているのか，体験的に知る。 ２．企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 ３．連携先・出演者との交渉をする中で，社会人として必要なマナーを身につける。 ４．メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて，「質の高い意思決定」ができるようになる。 ５．他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。
関連科目	すべての科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	普段のグループワークへの参加状況・貢献度（50%）、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度（30%）、発表会における評価（20%）を総合して判断する。
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス１号館７階（朝田）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田　知也.工藤　隆則.長田　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段としてLINE 公式アカウント等の活用を支援する。 学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE 公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	4 月　オリエンテーション 5 月　寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～8 月　説明会準備 9 月　説明会実施 10～12 月　LINE 公式アカウントの試験運用 説明会では、参加者との座談会形式でLINE 公式アカウントの活用方法について学んでもらう。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	主体性　25% 協調性　25% 課題発見・解決力　25% プロジェクトへの貢献　25%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　増田研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田　知也.工藤　隆則.長田　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科:TTO1461a1～TTO1465a1,L 科:LTO1366a1～LTO1370a1,D 科・S 科:ITO1371a1～ITO1375a1,J 科:JTO1374a～1JTO1378a1,W 科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・ 目的	寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段としてLINE 公式アカウント等の活用を支援する。 学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE 公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と 留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	4 月　オリエンテーション 5 月　寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～8 月　説明会準備 9 月　説明会実施 10～12 月　LINE 公式アカウントの試験運用 説明会では、参加者との座談会形式でLINE 公式アカウントの活用方法について学んでもらう。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	主体性　25% 協調性　25% 課題発見・解決力　25% プロジェクトへの貢献　25%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　増田研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林　基.中塚　華奈.藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。 このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。 （1）枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。 （2）当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。
到達目標	（1）主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。 （2）チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。 （3）現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。 （4）現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。 （5）海外からの訪問者に対して魅力ある、また、国際的にみて有意義な情報発信を行うための知識・視点を身につける。
授業方法と 留意点	本授業は、おおまかに（1）学内での事前準備、（2）フィールドワーク、（3）成果の共有および企画提案、（4）成果発表の準備、（5）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。 （1）事前準備［学内］ グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。 【前期】 （1）オリエンテーション 授業の概要説明や自己紹介・アイスブレーク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （2）テーマ設定、フィールドワークの準備 グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （3）フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等） フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 （4）成果の共有 フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。 （5）発表資料作成 グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル （6）中間発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。 【夏季休暇期間～後期】 （1）フィールドワークの準備

<table>
<tr><td></td><td>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。

（2）フィールドワーク

フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成

（3）提案のブラッシュアップと発表資料作成

成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。

（4）学内での発表会

グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td></td></tr>
<tr><td>教科書</td><td><table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td><table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>（1）グループワークへの貢献度（40%）：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。

（2）成果報告・企画・制作物の完成度（60%）：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>・寝屋川キャンパス：７号館５階　小林研究室

・枚方キャンパス：８号館３階　中塚研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林　基.中塚　華奈.藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。 このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。 （1）枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。 （2）当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。
到達目標	（1）主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。 （2）チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。 （3）現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。 （4）現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。 （5）海外からの訪問者に対して魅力ある、また、国際的にみて有意義な情報発信を行うための知識・視点を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、おおまかに（1）学内での事前準備、（2）フィールドワーク、（3）成果の共有および企画提案、（4）成果発表の準備、（5）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。 （1）事前準備［学内］ グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。 【前期】 （1）オリエンテーション 授業の概要説明や自己紹介・アイスブレーク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （2）テーマ設定、フィールドワークの準備 グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （3）フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等） フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 （4）成果の共有 フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。 （5）発表資料作成 グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル （6）中間発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。 【夏季休暇期間～後期】 （1）フィールドワークの準備

<table>
<tr><td></td><td>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。

（2）フィールドワーク

フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成

（3）提案のブラッシュアップと発表資料作成

成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。

（4）学内での発表会

グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td></td></tr>
<tr><td>教科書</td><td><table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td><table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>（1）グループワークへの貢献度（40%）：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。

（2）成果報告・企画・制作物の完成度（60%）：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>・寝屋川キャンパス：７号館５階　小林研究室

・枚方キャンパス：８号館３階　中塚研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TTO1461a1～TTO1465a1,L科：LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科：ITO1371a1～ITO1375a1,J科：JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・ 目的	「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何ができるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。 活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。 門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本＝ロールモデル」となることが期待される。
到達目標	■PBL プロジェクト到達目標(共通) 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。 ■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標 ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める ・子どもたちに喜んでもらえる企画を立案・提案できるようになる ・スケジューリングを中心とした段取り力を発揮し、業務を最後までやり遂げることができる
授業方法と 留意点	現地での活動を必ず内省すること。 能動的に参加すること。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	４月：連携先さまとの顔合わせ ５月：門真市の子どもの現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修 ６月・７月：子ども lobby での子ども支援活動 ７月：中間報告（PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る） ８月・９月：子ども lobby での子ども支援活動 １０月：子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮) １１月：子ども lobby での子ども支援活動 １２月：クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	日々の活動 40%,アセスメントの受検 10%, 中間報告 20% ,最終報告 30%
学生への メッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。
担当者の 研究室等	水野講師室（寝屋川キャンパス７号館３階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科:TTO1461a1～TTO1465a1,L 科:LTO1366a1～LTO1370a1,D 科・S 科:ITO1371a1～ITO1375a1,J 科:JTO1374a～1JTO1378a1,W 科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・ 目的	「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何ができるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。 活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。 門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本＝ロールモデル」となることが期待される。
到達目標	■PBL プロジェクト到達目標(共通) 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。 ■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標 ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める ・子どもたちに喜んでもらえる企画を立案・提案できるようになる ・スケジューリングを中心とした段取り力を発揮し、業務を最後までやり遂げることができる
授業方法と 留意点	現地での活動を必ず内省すること。 能動的に参加すること。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	４月：連携先さまとの顔合わせ ５月：門真市の子どもの現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修 ６月・７月：子ども lobby での子ども支援活動 ７月：中間報告（PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る） ８月・９月：子ども lobby での子ども支援活動 １０月：子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮) １１月：子ども lobby での子ども支援活動 １２月：クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	日々の活動 40%,アセスメントの受検 10%, 中間報告 20% ,最終報告 30%
学生への メッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。
担当者の 研究室等	水野講師室（寝屋川キャンパス７号館３階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「甲津原援農活動プロジェクト」 滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源（山の恵み）の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。 甲津原での学外活動（援農活動）は、４回（各回１泊２日）を予定。 目的は以下の通り： （1）過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る （2）潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する （3）地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	この授業は座学（基礎講座）とフィールドワーク（学外活動）、成果発信（討論、成果品の作成、発表）から構成される。フィールドワーク（学外活動）は、土曜日と日曜日の１泊２日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　基礎講座①：オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 2　基礎講座②：「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ／事後学習：リアクションペーパーの作成 3　基礎講座③：情報発信力を磨く／事後学習：リアクションペーパーの作成 4～8　学外活動①：甲津原地区での援農活動（田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い／１泊２日） 9　基礎講座④：会議を回せ！－ファシリテーションについて考える①－／事後学習：リアクションペーパーの作成 10　基礎講座⑤：会議を回せ！－ファシリテーションについて考える②－／事後学習：リアクションペーパーの作成 11～14　学外活動②：甲津原地区での援農活動（梅の実の収穫、梅干しの漬け込み／１泊２日） 15　基礎講座⑥：活動内容をシェアしよう！／事後学習：リアクションペーパーの作成 16～19　学外活動③：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の設置、山菜採り／１泊２日） 20　基礎講座⑦：オーディエンスを惹きつけろ！－ポスターセッションの教室－／事後学習：リアクションペーパーの作成 21～22　中間発表会の準備、中間発表 23～26　学外活動④：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の撤収り／１泊２日） 27　基礎講座⑨：プレゼンの教室／事後学習：リアクションペーパーの作成 28～30　最終報告会（PBL 科目報告会での発表）／事後学習：最終報告書の作成
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（70%）と活動報告書（30%）で評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究（野外調査）・社会実践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。
担当者の研究室等	枚方キャンパス８号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装（長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など）を準備すること。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「甲津原援農活動プロジェクト」 滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源（山の恵み）の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。 甲津原での学外活動（援農活動）は、４回（各回１泊２日）を予定。 目的は以下の通り： （1）過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る （2）潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する （3）地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	この授業は座学（基礎講座）とフィールドワーク（学外活動）、成果発信（討論、成果品の作成、発表）から構成される。フィールドワーク（学外活動）は、土曜日と日曜日の１泊２日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　基礎講座①：オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 2　基礎講座②：「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ／事後学習：リアクションペーパーの作成 3　基礎講座③：情報発信力を磨く／事後学習：リアクションペーパーの作成 4～8　学外活動①：甲津原地区での援農活動（田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い／１泊２日） 9　基礎講座④：会議を回せ！－ファシリテーションについて考える①－／事後学習：リアクションペーパーの作成 10　基礎講座⑤：会議を回せ！－ファシリテーションについて考える②－／事後学習：リアクションペーパーの作成 11～14　学外活動②：甲津原地区での援農活動（梅の実の収穫、梅干しの漬け込み／１泊２日） 15　基礎講座⑥：活動内容をシェアしよう！／事後学習：リアクションペーパーの作成 16～19　学外活動③：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の設置、山菜採り／１泊２日） 20　基礎講座⑦：オーディエンスを惹きつけろ！－ポスターセッションの教室－／事後学習：リアクションペーパーの作成 21～22　中間発表会の準備、中間発表 23～26　学外活動④：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の撤収り／１泊２日） 27　基礎講座⑨：プレゼンの教室／事後学習：リアクションペーパーの作成 28～30　最終報告会（PBL 科目報告会での発表）／事後学習：最終報告書の作成
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（70%）と活動報告書（30%）で評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究（野外調査）・社会実践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。
担当者の研究室等	枚方キャンパス８号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装（長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など）を準備すること。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷　侑也.小林　基
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本 PBL プロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島（本島）の北西に約 4km ほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる（架橋化）以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015 年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。 一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回の PBL プロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。
到達目標	本 PBL プロジェクトでの到達目標は以下の通りである。 ①　地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。 ②　地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。 ③　地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。 ④　「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。 ⑤　普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。 以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを実施する。
授業方法と留意点	学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。 また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイディアを現地に実装する予定である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本 PBL では「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。 そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイディア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。 本 PBL プロジェクトの大まかな行程は以下の通りである。 4 月　キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。 5 月　連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション（学生・教員は対面）。 6 月　課題解決策の考案、アイディア出し 7 月　中間報告会　アイディアの具体化、作業 8 月　アイディアの具体化、作業 9 月　伊良部島でのフィールドワーク 10 月　フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業 11 月　活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備 12 月　最終報告回準備・プレゼン練習 1 月　連携先とのオンラインによる成果報告会（学生・教員は対面） 2 月　まとめ作業（報告書の作成） 3 月　まとめ作業（報告書の作成）、解散ミーティング
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プロジェクトへの参加姿勢（70%）、プロジェクトの成果物（30%）
学生へのメッセージ	繰り返しになりますが PBL プロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めいていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張っていきましょう！
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 5 階（大谷研究室）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷　侑也.小林　基
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TTO1461a1～TTO1465a1,L科：LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科：ITO1371a1～ITO1375a1,J科：JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	本PBLプロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島（本島）の北西に約4kmほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる（架橋化）以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。 一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回のPBLプロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。
到達目標	本PBLプロジェクトでの到達目標は以下の通りである。 ①　地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。 ②　地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。 ③　地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。 ④　「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。 ⑤　普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。 以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを実施する。
授業方法と留意点	学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。 また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイディアを現地に実装する予定である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本PBLでは「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。 そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイディア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。 本PBLプロジェクトの大まかな行程は以下の通りである。 4月　キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。 5月　連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション（学生・教員は対面）。 6月　課題解決策の考案、アイディア出し 7月　中間報告会　アイディアの具体化、作業 8月　アイディアの具体化、作業 9月　伊良部島でのフィールドワーク 10月　フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業 11月　活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備 12月　最終報告回準備・プレゼン練習 1月　連携先とのオンラインによる成果報告会（学生・教員は対面） 2月　まとめ作業（報告書の作成） 3月　まとめ作業（報告書の作成）、解散ミーティング
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プロジェクトへの参加姿勢（70%）、プロジェクトの成果物（30%）
学生へのメッセージ	繰り返しになりますがPBLプロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めいていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張っていきましょう！
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階（大谷研究室）
備考	

科目名	体験型特別実習	科目名（英文）	Experience-Based Training Program
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	沖中　美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1565a0		

授業概要・ 目的	観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきている。 まず、交通インフラの拠点である空港の役割を把握する。そして、航空機を運航するための機能と多様な職種の役割、協力を理解し、さらに、お客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。 その後の空港研修により、授業で得た知識を実際の目で確認するとともに、将来の就業意識を高める。
到達目標	・エアラインの仕事の多様性を理解する。 ・空港見学により、1機の飛行機を飛ばすために各部門がどのように連携し、どのような想いを持っているのか感じ取る。 ・自らの将来像を描くことができる。
授業方法と 留意点	・本学内での事前・事後授業と中部空港研修（２泊３日）による。 ・空港見学の際は、細かい身だしなみ基準に従うこと。 ※実習に参加可能な人数に制限がありますので、注意してください。（詳細は事前の説明会にて）
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	事前事後授業と空港研修３９時間から成る。 ・説明会 ・事前授業　２日間 ①オリエンテーションとマナー ②エアラインの現状 ③空港の役割 ④GS の仕事 ⑤グランドハンドリングとオペレーション ⑥CA の仕事 ・神戸・関空・伊丹の 3 空港について自主学習 ・中部空港研修　（２泊 3 日で GS の仕事を体験） ・研修報告会
関連科目	ホスピタリティ基礎論　ホスピタリティスキル論　エアラインビジネス論
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	小レポート 20%，　自主学習レポート 30%，　授業への参加態度 30%，　プレゼンテーション 20%
学生への メッセージ	空港の裏側は普段見ることができません。グランドスタッフが、CA がどのように働いているのか見てみませんか。ホスピタリティ産業の最前線の現場を知るいい機会です。
担当者の 研究室等	７号館４階（エアライン・ホスピタリティプログラムルーム）
備考	

科目名	体験型特別実習	科目名（英文）	Experience-Based Training Program
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	檜山　和司
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1565a0		

授業概要・ 目的	新型コロナウィルスの感染拡大と長期化により、日本におけるホテルビジネスを取り巻く環境が大きく変化し、アフターコロナでのホテルの運営と戦略を学生とともに考え学ぶ授業内容とする。 ホテルの経営特性を理解し、運営に必要な基礎知識と各部門の役割を認識、また、実際のホテル内覧研修により各部門の特徴と業務内容を体験し、求められる知識、経験、技能等の素養を理解して、意識変容を図り、経営者視点での思考能力育成を目指す。 シティホテルやスモール・ラグジュアリー・ホテルでの長年の総支配人としての実務経験を生かし、ホテルでの実例を挙げながら実践的かつ具体的に講義を進行する。
到達目標	・ホテルの経営特性を理解し、運営に必要な基礎知識と接遇の基本を習得する。 ・ホテル各部門の役割と業務内容を理解する。 ・顧客満足度を高めるための様々なマネジメント手法を理解する。 ・幅広い視野、察知力、観察力、分析力、問題解決能力の基本を習得する。
授業方法と 留意点	本学内での事前・事後授業とホテル内覧及び研修 ホテル内覧、研修の際は、身嗜み基準に従うこと
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	ホテルの経営特性と組織 接遇の基本と求められる各種素養 ホテル各部門の役割と業務内容 顧客満足度を高める様々なマネジメント手法 ホテルに於けるリスクマネジメント インターンシップマナー ホテル内覧と研修 報告会での学生によるプレゼンテーション 自主学習：授業に関連する事前課題への学習（6 時間） レポート作成（3 時間） プレゼンテーション準備（3 時間） 提出物へのフィードバック：プレゼンテーション終了時に各自のレポートを講評
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業への参加態度 50%、自主学習レポート 30%、プレゼンテーション 20%
学生への メッセージ	ホスピタリティ産業の最前線であるホテルのなかでも高品質を誇るスモール・ラグジュアリーホテルの現状を視察し、ハイスペックな施設や高品質なアメニティー、顧客満足度の高い接遇を体験、理解する絶好の機会です。
担当者の 研究室等	問い合わせは、7 号館 2 階　外国語学部事務室・国際学部事務室で受け付けます。
備考	質問等は、授業の前後の時間に受け付ける。

科目名	体験型特別実習	科目名（英文）	Experience-Based Training Program
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1565a0		

授業概要・ 目的	本学部のパッケージプログラムは，学生の主体性・自主性を喚起し，将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的としている。この「体験型特別演習 B」科目では，学生自身が主体的に計画，参加した社会的活動についてその活動内容や成果を日誌やプレゼン，レポートの形式（授業内容の項目で詳述）で事後に報告し，審査を経て単位を取得するが認定される。ここでいう社会的活動とは，上で述べたパッケージプログラムの趣旨に合致する授業外の研究活動やインターンシップ，ボランティア活動などを指す。事後申請型の科目なので事前に履修登録は行わない。 この科目は、パッケージプログラムの実習・演習科目の一つです。
到達目標	事前授業によってこの科目の趣旨と評価基準を十分理解したうえで，自ら立てた活動計画に基づいて活動できる自主性，積極性の獲得を目指す。さらにその活動内容とそこで得られたものについて詳細かつ分かりやすく表現できる力をつける。
授業方法と 留意点	学内で行われる事前授業や事後授業の実施日は追ってポータル等で案内する。単位申請の対象となるのは申請時から遡って 2 年以内の活動(ただし、本学在学中のものに限る）とする。また，事前授業や事後授業，単位申請の受け付け，審査，認定はすべて外国語学部が行うが，活動そのものには関与しないので，活動への申し込みや先方への問い合わせも学生自身が行い，主催団体等の規定やスケジュールに従いながら行動すること。 プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは授業のなかで実施する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	授業は以下の順に進める。単位申請は事前，事後すべての授業への参加を条件とする。 1. 事前授業（4 月～5 月） 本科目の申請対象となる活動について，必要時間数や安全面での注意事項などについて理解する。科目の趣旨や到達目標，申請方法，評価の方法や基準，事後授業のスケジュール，さらに日誌ノートの書き方などについて学ぶ。 2. 活動への参加（時期は活動によって異なる） 主催団体等の広報資料を集めるなどして，自分で活動計画を立てたうえで、活動に必要な手続きを進める。主催団体等によるガイダンスや審査を経て活動に参加することになれば，現地での滞在期間に日誌を書く。 3. 事後授業（11 月上旬予定） 審査のスケジュールや方法について学び，プレゼンテーションやレポート作成作業に備える。また，日誌など単位申請に必要な文書について確認し，不備があれば指導を受ける。 4. 事後授業 2（11 月下旬予定） 申請者が現地で活動した内容やその成果を示す写真や映像を用いながら報告を行う。授業担当および数名の学部教員が審査に当たる。このあと，参加した活動の内容やそこで得られた成果をテーマとして 2,000 字程度のレポートを指定された締め切り日までに提出する。なお，ここでのプレゼンテーションやレポートが活動を主催する団体が求めるとは別のものであることに注意。 5. 事後授業 3（2 月上旬予定） プレゼンテーションやレポートの審査にあたった教員が講評を行う。
関連科目	海外実習，海外インターンシップなど
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	事前事後授業での取り組み，日誌（60%），プレゼンテーション，レポート（40%）をもとに総合的に評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	問い合わせは、7 号館 2 階　外国語学部事務室・国際学部事務室で受け付けます。
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になる。

科目名	体験型特別実習	科目名（英文）	Experience-Based Training Program
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1565a0		

授業概要・ 目的	この授業は、田舎で働き、人々と交流する体験を通じて、社会貢献とは何かを学び、自分のキャリアや人生を考えるための視野を広げることを目的としています。 　具体的には、兵庫県豊岡市において、短期の「インターンシップ」を実施します。主に夏期休暇期間を使い、竹野浜という海水浴場を舞台として、海辺のホテルでの業務支援や地元の方と協働でのイベント運営、PR、その他地域貢献等を、学生主体で企画・実施する予定です。
到達目標	①地域の人々と協働し、活性化のアイデアを考え実現することで、社会貢献とその楽しさを学ぶ。 ②都心とは異なる地方のコミュニティや暮らしを実体験を通じて学び、発信できるようになる。 ③活動を通じて、自分自身が好きなこと、得意なことを発見し、就活・キャリアと結びつけて考えられるようになる。 ④チームワークでプロジェクトを進める方法を学び実行できるようになる。
授業方法と 留意点	この授業は、事前学習、地域での実習、事後学習の三つのパートから構成されています。 ・事前学習では、豊岡市の概要を学びます。また、みなさん自身の興味関心に基づき、地元でお世話くださる方々とともにインターンの内容を考えていきます。 ・実習期間中は実際に豊岡市に滞在し、竹野浜を活性化するための活動に従事します。 ・ 事後学習では、一人一人の成果や改善点、学んだことについて報告を行い、地元の協力者の方々からのコメントをいただきます。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業内容】 この授業は、事前学習、地域での実習、事後学習の三つのパートから構成されています。いずれも、地域の方々に全面協力していただきます。 （１）事前学習 ・主にオンラインで前期の授業期間中から不定期に実施します。みなさんが参加できるように日程調整をします。内容は以下の通りです。 ①豊岡市や竹野浜の概要を学びます。 ②みなさん自身の興味関心をコーチングで掘り下げていきます。 ③地元でお世話くださる方々とともにインターンの内容を考えていきます。 （２）地域での実習 ・実習期間は夏期休暇期間中となります。お盆を含む１週間～10 日間程度です。交通費・宿泊費・飲食費は自己負担です。 ・この期間中、実際に豊岡市に滞在し、竹野浜を活性化するための活動に従事します。 （３）事後学習 ・事後学習では、一人一人の成果について報告し、学んだことや改善点についてコメントを得ます。主にオンラインで前期の授業期間中から不定期に実施します。みなさんが参加できるように日程調整をします。 【現地の協力者】 ・豊岡市にぎわい拠点「とゞ兵」（〒668－0033 兵庫県豊岡市中央町 18－1） ・「たねたねプロジェクト」（上記施設に事務局を置く）
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・全期間中の面談やディスカッションへの参加・貢献度（30%） ・実習期間中の参加・貢献度（40%） ・事後学習における成果報告（30%） なお、夏期休暇期間中に実施予定の実習に参加しなかった者には単位を付与できない。
学生への メッセージ	社会人になったら、仕事・遊び・暮らしをどうするか？自分はどう生きていくか？おおげさに聞こえるかもしれませんが、この授業は自分の人生をトータルに、深く見つめなおすよい機会となるはずです。 　ともあれ、まずは全力で楽しんでください！
担当者の 研究室等	小林基　寝屋川キャンパス７号館５階

備考	

科目名	世界を学ぶ	科目名（英文）	Learning about the World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加来　奈奈.大谷　侑也.森　類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1566a0		

授業概要・ 目的	本学部で学ぶ前提として、世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。現下の国際情勢は、一層混迷の度合いを深めている。今後、世界が向かう先を考える上で足掛かりになるのは、世界各地の地理・歴史・文化に関する基礎的な知見である。それを得ることで、私たちは自らと世界のあいだの距離を測り、世界にかかわる道を拓くことができる。本授業では、講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の修得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。
到達目標	世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる。
授業方法と 留意点	3 クラスに分かれて行う。各クラスとも 3 名の教員が交替で担当する。 1 回目は導入、14・15 回目はまとめとする。 2～5 回、6～9 回、10～13 回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第 1 回　　授業・進め方の説明　Teams の説明 導入のレポートをまとめる。 ※第 2～13 回は、クラスによって順番が異なる。 第 2～5 回　（担当：加来） 世界の食文化を、各地域の歴史、地理、観光、経済など様々な面から考える。世界の食文化を概観したうえで、特定の地域に関する食文化や食材について深く調べ、発表・議論する。この過程で、世界の食文化の多様性を理解するとともに、食を通して見える世界を捉える。 第 6～9 回　（担当：大谷） 世界を理解する上で欠かせない地図を使って考える。地理学的な視点から物事を考察し、議論し、そして、発表することで、多様な人々が暮らしている世界の理解を深める。 第 10～13 回　（担当：森） 日本と東アジア諸国（諸地域）―南北朝鮮・中国・台湾など―の関係を考えてみる。キーワードは「歴史（主に近現代史）」と「記憶」である。東アジアにおいてキーポイントとなった重要な出来事や人物が、それぞれの国・地域で現在どのように記憶され語られているのか。共通点と違いを見つけ出し、その理由を考察してみる。 第 14 回　これまでの学習を振り返りディスカッションする。 第 15 回　前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。 事前事後学習では、ディスカッションやプレゼンの準備を進める、レポートをまとめることが必要である。
関連科目	1)　「日本を学ぶ」 2)　すべてのプロジェクト科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習での取り組み 60％（20％×3）、初回課題 10％、最終課題 30％
学生への メッセージ	考えて意見を言ってみたり、他人の話を聞いてみたり、楽しんで取り組んでみましょう。
担当者の 研究室等	加来（7 号館 4 階） 大谷（7 号館 5 階） 森（7 号館 5 階）
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。

科目名	世界を学ぶ	科目名（英文）	Learning about the World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷　侑也.加来　奈奈.森　類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1566a0		

授業概要・ 目的	本学部で学ぶ前提として、世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。現下の国際情勢は、一層混迷の度合いを深めている。今後、世界が向かう先を考える上で足掛かりになるのは、世界各地の地理・歴史・文化に関する基礎的な知見である。それを得ることで、私たちは自らと世界のあいだの距離を測り、世界にかかわる道を拓くことができる。本授業では、講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の修得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。
到達目標	世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる。
授業方法と 留意点	3 クラスに分かれて行う。各クラスとも 3 名の教員が交替で担当する。 1 回目は導入、14・15 回目はまとめとする。 2～5 回、6～9 回、10～13 回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第 1 回　　授業・進め方の説明　Teams の説明 導入のレポートをまとめる。 ※第 2～13 回は、クラスによって順番が異なる。 第 2～5 回　（担当：加来） 世界の食文化を、各地域の歴史、地理、観光、経済など様々な面から考える。世界の食文化を概観したうえで、特定の地域に関する食文化や食材について深く調べ、発表・議論する。この過程で、世界の食文化の多様性を理解するとともに、食を通して見える世界を捉える。 第 6～9 回　（担当：大谷） 世界を理解する上で欠かせない地図を使って考える。地理学的な視点から物事を考察し、議論し、そして、発表することで、多様な人々が暮らしている世界の理解を深める。 第 10～13 回　（担当：森） 日本と東アジア諸国（諸地域）―南北朝鮮・中国・台湾など―の関係を考えてみる。キーワードは「歴史（主に近現代史）」と「記憶」である。東アジアにおいてキーポイントとなった重要な出来事や人物が、それぞれの国・地域で現在どのように記憶され語られているのか。共通点と違いを見つけ出し、その理由を考察してみる。 第 14 回　これまでの学習を振り返りディスカッションする。 第 15 回　前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。 事前事後学習では、ディスカッションやプレゼンの準備を進める、レポートをまとめることが必要である。
関連科目	1)　「日本を学ぶ」 2)　すべてのプロジェクト科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習での取り組み 60％（20％×3）、初回課題 10％、最終課題 30％
学生への メッセージ	考えて意見を言ってみたり、他人の話を聞いてみたり、楽しんで取り組んでみましょう。
担当者の 研究室等	加来（7 号館 4 階） 大谷（7 号館 5 階） 森（7 号館 5 階）
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。

科目名	世界を学ぶ	科目名（英文）	Learning about the World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森　類臣.大谷　侑也.加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1566a0		

授業概要・ 目的	本学部で学ぶ前提として、世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。現下の国際情勢は、一層混迷の度合いを深めている。今後、世界が向かう先を考える上で足掛かりになるのは、世界各地の地理・歴史・文化に関する基礎的な知見である。それを得ることで、私たちは自らと世界のあいだの距離を測り、世界にかかわる道を拓くことができる。本授業では、講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の修得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。
到達目標	世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる。
授業方法と 留意点	3 クラスに分かれて行う。各クラスとも 3 名の教員が交替で担当する。 1 回目は導入、14・15 回目はまとめとする。 2～5 回、6～9 回、10～13 回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第 1 回　　授業・進め方の説明　Teams の説明 導入のレポートをまとめる。 ※第 2～13 回は、クラスによって順番が異なる。 第 2～5 回　（担当：加来） 世界の食文化を、各地域の歴史、地理、観光、経済など様々な面から考える。世界の食文化を概観したうえで、特定の地域に関する食文化や食材について深く調べ、発表・議論する。この過程で、世界の食文化の多様性を理解するとともに、食を通して見える世界を捉える。 第 6～9 回　（担当：大谷） 世界を理解する上で欠かせない地図を使って考える。地理学的な視点から物事を考察し、議論し、そして、発表することで、多様な人々が暮らしている世界の理解を深める。 第 10～13 回　（担当：森） 日本と東アジア諸国（諸地域）―南北朝鮮・中国・台湾など―の関係を考えてみる。キーワードは「歴史（主に近現代史）」と「記憶」である。東アジアにおいてキーポイントとなった重要な出来事や人物が、それぞれの国・地域で現在どのように記憶され語られているのか。共通点と違いを見つけ出し、その理由を考察してみる。 第 14 回　これまでの学習を振り返りディスカッションする。 第 15 回　前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。 事前事後学習では、ディスカッションやプレゼンの準備を進める、レポートをまとめることが必要である。
関連科目	1)　「日本を学ぶ」 2)　すべてのプロジェクト科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習での取り組み 60％（20％×3）、初回課題 10％、最終課題 30％
学生への メッセージ	考えて意見を言ってみたり、他人の話を聞いてみたり、楽しんで取り組んでみましょう。
担当者の 研究室等	加来（7 号館 4 階） 大谷（7 号館 5 階） 森（7 号館 5 階）
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。

科目名	日本を学ぶ	科目名（英文）	Learning about Japan
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一.田中　悟.橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1567a0		

授業概要・ 目的	本学部で学ぶ前提として、日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。国際社会を学ぶ上で、自らの立ち位置である日本について知ることは必須である。地理、歴史、社会、文化といったさまざまな視角から日本について学び、世界の国々と比較することで社会や人について考察を深める。本授業では講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の取得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。
到達目標	日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる。
授業方法と 留意点	3 クラスに分かれて行う。各クラスとも 3 名の教員が交替で担当する。 1 回目は導入、14・15 回目はまとめとする。 2～5 回、6～9 回、10～13 回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第 1 回　　授業・進め方の説明　Teams の説明 導入のレポートをまとめる ※第 2～13 回は、クラスによって順番が異なる。 第 2～5 回　（有馬） 「日本の風景」をテーマとする。風景と言ってもさまざまな角度から考えることができる。日本の原風景、ふるさとの風景、日常の風景、未来の風景等々。風景と風土の関連も重要な問題となる。風景から見えてくる日本についてともに考えていく。 第 6～9 回　（田中） 「日本人と労働」というテーマで考える。歴史上、人間はさまざまな形で働き続けてきたが、現代社会で私たちが働くときには、法に定められたルールに従わなければならない。そこにはどのようなルールが、なぜ存在しているのか。主として労働法の観点から、「日本で働くこと」について考えていく。 第 10～13 回　（橋本） 「日本人と信仰」というテーマで考える。しばしば日本人は信仰心が薄いと指摘され、また宗教を忌避する若者も多い。一方で冠婚葬祭や祭りは、宗教と深く関わっている。様々な材料から、日本人と信仰について考えていく。 第 14 回　これまでの学習を振り返り、ディスカッションする。 第 15 回　前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。 事前事後学習では、ディスカッション、プレゼンの準備や、レポートの作成に取り組む。
関連科目	世界を学ぶ　すべてのプロジェクト科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習での取り組み６０％（20%×3）、初回課題 10%、最終課題 30%
学生への メッセージ	自分の意見を言ったり、他人の考えに耳を傾けたり、楽しんで取り組んでいきましょう。
担当者の 研究室等	有馬研究室（７号館４階） 田中研究室（７号館４階） 橋本研究室（７号館４階）
備考	事前事後学習時間の目安は６０時間。

科目名	日本を学ぶ	科目名（英文）	Learning about Japan
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟.有馬　善一.橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1567a0		

授業概要・ 目的	本学部で学ぶ前提として、日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。国際社会を学ぶ上で、自らの立ち位置である日本について知ることは必須である。地理、歴史、社会、文化といったさまざまな視角から日本について学び、世界の国々と比較することで社会や人について考察を深める。本授業では講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の取得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。
到達目標	日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる。
授業方法と 留意点	3 クラスに分かれて行う。各クラスとも 3 名の教員が交替で担当する。 1 回目は導入、14・15 回目はまとめとする。 2～5 回、6～9 回、10～13 回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第 1 回　　授業・進め方の説明　Teams の説明 導入のレポートをまとめる ※第 2～13 回は、クラスによって順番が異なる。 第 2～5 回　（有馬） 「日本の風景」をテーマとする。風景と言ってもさまざまな角度から考えることができる。日本の原風景、ふるさとの風景、日常の風景、未来の風景等々。風景と風土の関連も重要な問題となる。風景から見えてくる日本についてともに考えていく。 第 6～9 回　（田中） 「日本人と労働」というテーマで考える。歴史上、人間はさまざまな形で働き続けてきたが、現代社会で私たちが働くときには、法に定められたルールに従わなければならない。そこにはどのようなルールが、なぜ存在しているのか。主として労働法の観点から、「日本で働くこと」について考えていく。 第 10～13 回　（橋本） 「日本人と信仰」というテーマで考える。しばしば日本人は信仰心が薄いと指摘され、また宗教を忌避する若者も多い。一方で冠婚葬祭や祭りは、宗教と深く関わっている。様々な材料から、日本人と信仰について考えていく。 第 14 回　これまでの学習を振り返り、ディスカッションする。 第 15 回　前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。 事前事後学習では、ディスカッション、プレゼンの準備や、レポートの作成に取り組む。
関連科目	世界を学ぶ　すべてのプロジェクト科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習での取り組み６０％（20%×3）、初回課題 10%、最終課題 30%
学生への メッセージ	自分の意見を言ったり、他人の考えに耳を傾けたり、楽しんで取り組んでいきましょう。
担当者の 研究室等	有馬研究室（７号館４階） 田中研究室（７号館４階） 橋本研究室（７号館４階）
備考	事前事後学習時間の目安は６０時間。

科目名	日本を学ぶ	科目名（英文）	Learning about Japan
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊.有馬　善一.田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	LDL1567a0		

授業概要・ 目的	本学部で学ぶ前提として、日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。国際社会を学ぶ上で、自らの立ち位置である日本について知ることは必須である。地理、歴史、社会、文化といったさまざまな視角から日本について学び、世界の国々と比較することで社会や人について考察を深める。本授業では講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の取得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。
到達目標	日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる。
授業方法と 留意点	3 クラスに分かれて行う。各クラスとも 3 名の教員が交替で担当する。 1 回目は導入、14・15 回目はまとめとする。 2～5 回、6～9 回、10～13 回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第 1 回　　授業・進め方の説明　Teams の説明 導入のレポートをまとめる ※第 2～13 回は、クラスによって順番が異なる。 第 2～5 回　（有馬） 「日本の風景」をテーマとする。風景と言ってもさまざまな角度から考えることができる。日本の原風景、ふるさとの風景、日常の風景、未来の風景等々。風景と風土の関連も重要な問題となる。風景から見えてくる日本についてともに考えていく。 第 6～9 回　（田中） 「日本人と労働」というテーマで考える。歴史上、人間はさまざまな形で働き続けてきたが、現代社会で私たちが働くときには、法に定められたルールに従わなければならない。そこにはどのようなルールが、なぜ存在しているのか。主として労働法の観点から、「日本で働くこと」について考えていく。 第 10～13 回　（橋本） 「日本人と信仰」というテーマで考える。しばしば日本人は信仰心が薄いと指摘され、また宗教を忌避する若者も多い。一方で冠婚葬祭や祭りは、宗教と深く関わっている。様々な材料から、日本人と信仰について考えていく。 第 14 回　これまでの学習を振り返り、ディスカッションする。 第 15 回　前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。 事前事後学習では、ディスカッション、プレゼンの準備や、レポートの作成に取り組む。
関連科目	世界を学ぶ　すべてのプロジェクト科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習での取り組み６０％（20%×3）、初回課題 10%、最終課題 30%
学生への メッセージ	自分の意見を言ったり、他人の考えに耳を傾けたり、楽しんで取り組んでいきましょう。
担当者の 研究室等	有馬研究室（７号館４階） 田中研究室（７号館４階） 橋本研究室（７号館４階）
備考	事前事後学習時間の目安は６０時間。

科目名	諸言語輪講	科目名（英文）	Introduction to Chinese, Indonesian, and Spanish
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ１
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹.金子　正徳.藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP2△,DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・ 目的	インドネシア語，スペイン語，中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ 5 週にわたって学ぶ。これにより，3 言語のうちのいずれか一つを 1 年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め，世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記，挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び，その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また，ここで得た知識や関心をもとに，語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。
授業方法と 留意点	学年全体を 6 つのクラスに分割したうえ，それぞれのクラスでインドネシア語，スペイン語，中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては，授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子，スペイン語担当：藤井，中国語担当：中西。 第 1 週～第 5 週→第 6 週～第 10 週→第 11 週～第 15 週 E1 クラス　中国語　→　スペイン語　→　インドネシア語 E2 クラス　スペイン語　→　インドネシア語　→　中国語 E3 クラス　インドネシア語　→　中国語　→　スペイン語 E4
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ 5 回ずつ下記の内容について学ぶ。 第 1 回：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第 2 回：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第 3 回：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第 4 回：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第 5 回：第 1 回～第 4 回で学んだことの振り返りとこの 5 回を範囲とするテスト ※それぞれの言語特有の事情により，上とは違った順で授業を行うことがある。また，授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。各言語とも第 1 回の授業ではオンデマンド授業の受講方法についても説明する。 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は 1 回あたり 1 時間を目安とする。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（40%），各言語で実施するテスト（20%×3）
学生への メッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。
担当者の 研究室等	スペイン語：藤井研究室（7 号館 5 階） インドネシア語：金子研究室（7 号館 5 階） 中国語：中西研究室（7 号館 3 階）
備考	1 年次後期では 3 つの言語のうちどれかを選択したうえ週 3 回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する 7 月下旬に言語選択調査を実施し，これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果，学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は，選択理由や適性（この科目の成績）をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。

科目名	諸言語輪講	科目名（英文）	Introduction to Chinese, Indonesian, and Spanish
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ２
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井　嘉祥.金子　正徳.中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2△,DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1649e0		

授業概要・ 目的	インドネシア語，スペイン語，中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ 5 週にわたって学ぶ。これにより，3 言語のうちのいずれか一つを 1 年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め，世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記，挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び，その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また，ここで得た知識や関心をもとに，語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。
授業方法と 留意点	学年全体を 6 つのクラスに分割したうえ，それぞれのクラスでインドネシア語，スペイン語，中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては，授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子，スペイン語担当：藤井，中国語担当：中西。 第 1 週～第 5 週→第 6 週～第 10 週→第 11 週～第 15 週 E1 クラス　中国語　→　スペイン語　→　インドネシア語 E2 クラス　スペイン語　→　インドネシア語　→　中国語 E3 クラス　インドネシア語　→　中国語　→　スペイン語 E4
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ 5 回ずつ下記の内容について学ぶ。 第 1 回：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第 2 回：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第 3 回：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第 4 回：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第 5 回：第 1 回～第 4 回で学んだことの振り返りとこの 5 回を範囲とするテスト ※それぞれの言語特有の事情により，上とは違った順で授業を行うことがある。また，授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。各言語とも第 1 回の授業ではオンデマンド授業の受講方法についても説明する。 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は 1 回あたり 1 時間を目安とする。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（40%），各言語で実施するテスト（20%×3）
学生への メッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。
担当者の 研究室等	スペイン語：藤井研究室（7 号館 5 階） インドネシア語：金子研究室（7 号館 5 階） 中国語：中西研究室（7 号館 3 階）
備考	1 年次後期では 3 つの言語のうちどれかを選択したうえ週 3 回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する 7 月下旬に言語選択調査を実施し，これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果，学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は，選択理由や適性（この科目の成績）をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。

科目名	諸言語輪講	科目名（英文）	Introduction to Chinese, Indonesian, and Spanish
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ３
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子　正徳.中西　正樹.藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP2△,DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1649e0		

授業概要・ 目的	インドネシア語，スペイン語，中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ 5 週にわたって学ぶ。これにより，3 言語のうちのいずれか一つを 1 年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め，世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記，挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び，その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また，ここで得た知識や関心をもとに，語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。
授業方法と 留意点	学年全体を 6 つのクラスに分割したうえ，それぞれのクラスでインドネシア語，スペイン語，中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては，授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子，スペイン語担当：藤井，中国語担当：中西。 第 1 週～第 5 週→第 6 週～第 10 週→第 11 週～第 15 週 E1 クラス　中国語　→　スペイン語　→　インドネシア語 E2 クラス　スペイン語　→　インドネシア語　→　中国語 E3 クラス　インドネシア語　→　中国語　→　スペイン語 E4
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ 5 回ずつ下記の内容について学ぶ。 第 1 回：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第 2 回：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第 3 回：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第 4 回：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第 5 回：第 1 回～第 4 回で学んだことの振り返りとこの 5 回を範囲とするテスト ※それぞれの言語特有の事情により，上とは違った順で授業を行うことがある。また，授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。各言語とも第 1 回の授業ではオンデマンド授業の受講方法についても説明する。 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は 1 回あたり 1 時間を目安とする。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（40%），各言語で実施するテスト（20%×3）
学生への メッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。
担当者の 研究室等	スペイン語：藤井研究室（7 号館 5 階） インドネシア語：金子研究室（7 号館 5 階） 中国語：中西研究室（7 号館 3 階）
備考	1 年次後期では 3 つの言語のうちどれかを選択したうえ週 3 回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する 7 月下旬に言語選択調査を実施し，これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果，学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は，選択理由や適性（この科目の成績）をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。

科目名	諸言語輪講	科目名（英文）	Introduction to Chinese, Indonesian, and Spanish
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ４
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹.金子　正徳.藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP2△,DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1649e0		

授業概要・ 目的	インドネシア語，スペイン語，中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ 5 週にわたって学ぶ。これにより，3 言語のうちのいずれか一つを 1 年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め，世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記，挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び，その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また，ここで得た知識や関心をもとに，語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。
授業方法と 留意点	学年全体を 6 つのクラスに分割したうえ，それぞれのクラスでインドネシア語，スペイン語，中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては，授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子，スペイン語担当：藤井，中国語担当：中西。 第 1 週～第 5 週→第 6 週～第 10 週→第 11 週～第 15 週 E1 クラス　中国語　→　スペイン語　→　インドネシア語 E2 クラス　スペイン語　→　インドネシア語　→　中国語 E3 クラス　インドネシア語　→　中国語　→　スペイン語 E4
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ 5 回ずつ下記の内容について学ぶ。 第 1 回：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第 2 回：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第 3 回：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第 4 回：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第 5 回：第 1 回～第 4 回で学んだことの振り返りとこの 5 回を範囲とするテスト ※それぞれの言語特有の事情により，上とは違った順で授業を行うことがある。また，授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。各言語とも第 1 回の授業ではオンデマンド授業の受講方法についても説明する。 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は 1 回あたり 1 時間を目安とする。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（40%），各言語で実施するテスト（20%×3）
学生への メッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。
担当者の 研究室等	スペイン語：藤井研究室（7 号館 5 階） インドネシア語：金子研究室（7 号館 5 階） 中国語：中西研究室（7 号館 3 階）
備考	1 年次後期では 3 つの言語のうちどれかを選択したうえ週 3 回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する 7 月下旬に言語選択調査を実施し，これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果，学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は，選択理由や適性（この科目の成績）をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。

科目名	諸言語輪講	科目名（英文）	Introduction to Chinese, Indonesian, and Spanish
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ５
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井　嘉祥.金子　正徳.中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2△,DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1649e0		

授業概要・ 目的	インドネシア語，スペイン語，中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ 5 週にわたって学ぶ。これにより，3 言語のうちのいずれか一つを 1 年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め，世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記，挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び，その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また，ここで得た知識や関心をもとに，語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。
授業方法と 留意点	学年全体を 6 つのクラスに分割したうえ，それぞれのクラスでインドネシア語，スペイン語，中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては，授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子，スペイン語担当：藤井，中国語担当：中西。 第 1 週～第 5 週→第 6 週～第 10 週→第 11 週～第 15 週 E1 クラス　中国語　→　スペイン語　→　インドネシア語 E2 クラス　スペイン語　→　インドネシア語　→　中国語 E3 クラス　インドネシア語　→　中国語　→　スペイン語 E4
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ 5 回ずつ下記の内容について学ぶ。 第 1 回：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第 2 回：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第 3 回：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第 4 回：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第 5 回：第 1 回～第 4 回で学んだことの振り返りとこの 5 回を範囲とするテスト ※それぞれの言語特有の事情により，上とは違った順で授業を行うことがある。また，授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。各言語とも第 1 回の授業ではオンデマンド授業の受講方法についても説明する。 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は 1 回あたり 1 時間を目安とする。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（40%），各言語で実施するテスト（20%×3）
学生への メッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。
担当者の 研究室等	スペイン語：藤井研究室（7 号館 5 階） インドネシア語：金子研究室（7 号館 5 階） 中国語：中西研究室（7 号館 3 階）
備考	1 年次後期では 3 つの言語のうちどれかを選択したうえ週 3 回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する 7 月下旬に言語選択調査を実施し，これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果，学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は，選択理由や適性（この科目の成績）をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。

科目名	諸言語輪講	科目名（英文）	Introduction to Chinese, Indonesian, and Spanish
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ６
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子　正徳.中西　正樹.藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP2△,DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1649e0		

授業概要・ 目的	インドネシア語，スペイン語，中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ 5 週にわたって学ぶ。これにより，3 言語のうちのいずれか一つを 1 年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め，世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記，挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び，その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また，ここで得た知識や関心をもとに，語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。
授業方法と 留意点	学年全体を 6 つのクラスに分割したうえ，それぞれのクラスでインドネシア語，スペイン語，中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては，授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子，スペイン語担当：藤井，中国語担当：中西。 第 1 週～第 5 週→第 6 週～第 10 週→第 11 週～第 15 週 E1 クラス　中国語　→　スペイン語　→　インドネシア語 E2 クラス　スペイン語　→　インドネシア語　→　中国語 E3 クラス　インドネシア語　→　中国語　→　スペイン語 E4
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ 5 回ずつ下記の内容について学ぶ。 第 1 回：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第 2 回：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第 3 回：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第 4 回：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第 5 回：第 1 回～第 4 回で学んだことの振り返りとこの 5 回を範囲とするテスト ※それぞれの言語特有の事情により，上とは違った順で授業を行うことがある。また，授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。各言語とも第 1 回の授業ではオンデマンド授業の受講方法についても説明する。 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は 1 回あたり 1 時間を目安とする。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（40%），各言語で実施するテスト（20%×3）
学生への メッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。
担当者の 研究室等	スペイン語：藤井研究室（7 号館 5 階） インドネシア語：金子研究室（7 号館 5 階） 中国語：中西研究室（7 号館 3 階）
備考	1 年次後期では 3 つの言語のうちどれかを選択したうえ週 3 回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する 7 月下旬に言語選択調査を実施し，これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果，学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は，選択理由や適性（この科目の成績）をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原　郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷　侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本　弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	原田　豪
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森　類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池田　景子
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラスあたり１０数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・GPA について、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） ・３つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ・ICT 教育（ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法）の実施 ・レポートの書き方（パソコンによる文章作成） ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（１００％）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山　博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池田　景子
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	原田　豪
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本　弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森　類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大谷　侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・ 目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	【授業方法】 １クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。 「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回：授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	各教員の研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	表象と感性プロジェクト	科目名（英文）	Project on Representation and Aesthetics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山　博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2501a0		

授業概要・ 目的	【イメージをいかに見て語るのか】 講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。テーマは「視覚と言葉」の関係である。人は自分に不案内なものが視界をよぎったとき、往々にして「自分には関係ないもの」「なんだか気持ち悪いもの」「どうせつまらないもの」と片付けてしまう。それどころか、なにかを見たことそれ自体を無かったことにしてしまうこともある。ここで抹消される経験は、視覚と言葉が紐付けられなかったから引き起こされたと考えられるだろう。「視覚と言葉が紐付くことで、人の経験はどこまで豊かになるのだろうか。」これが「芸術批評」の出発点となる問題であり、このプロジェクトで検討する課題である。
到達目標	【以下の 2 点を実践できるようになること】 1. 肖像画や風景画など芸術作品の視覚情報を言語化できる 2. マンガやアニメなどポップカルチャーの視覚情報を言語化できる
授業方法と 留意点	【講義と演習を組み合わせた授業】 1. 講義を受ける。 2. グループワークに取り組む。 3. フィードバックを確認する。 4. 校外実習に取り組む。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、 事後 学習課題	第 1 回　イントロダクション 「作品記述」というスキルの概要を学ぶ。 第 2 回　「近世以前の肖像画」 第 3 回　「近代以降の肖像画」 肖像画の歴史をふまえつつ「作品記述」を実践する。 第 4 回　「福音書にもとづく宗教画」 第 5 回　「社会背景にもとづく宗教画」 宗教画の主題をふまえつつ「作品記述」を実践する。 第 6 回　「近世以前の風景画」 第 7 回　「近世の風景画」 第 8 回　「近代の風景画」 風景画の発展をふまえつつ「作品記述」を実践する。 第 9 回　「20 世紀の具象画」 第 10 回　「21 世紀の具象画」 風景画の発展をふまえつつ「作品記述」を実践する。 第 9 回　「20 世紀前半の現代絵画」 第 10 回　「20 世紀後半の現代絵画」 モダニスムという転機をふまえつつ「作品記述」を実践する。 第 11 回　「ジャパニメーション作品の作画」 絵画の「作品記述」をアニメの作画に適用する。 第 12-14 回　校外実習・プレゼンテーション 美術館の展示を鑑賞したうえで作品を選び「作品記述」を実践する。 第 15 回　コンクルージョン 「作品記述」と感性の関係を考察する。 事前事後学習では、作品画像の検索と確認、校外実習への取り組み、プレゼンテーションの準備に取り組む。
関連科目	表象文化論／世界を学ぶ／日本を学ぶ／暮らしの中の文化／「学芸員課程の科目」
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	【グループワークと校外実習による評価】 1. グループワーク［40%］ 2. 個人ワーク［40%］ 2. 校外実習［20%］ 3. いずれも「好奇心」と「論理性」を基準とする。
学生への メッセージ	【コンディションを整えること】 1. より良いワークにするために、授業に集中できるコンディションを整える。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

	2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず取り組む。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室
備考	【各回のレジュメ確認と画像の検索】 1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。 2. 各回のレジュメを確認し、取り扱う作品の画像を検索する。

科目名	歴史学プロジェクト	科目名（英文）	Project on History
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2502a0		

授業概要・ 目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。 人類が誕生してから今日まで私たちは「歴史」という時間軸の中で生きている。国家や民族などの共同体しかり、一個人しかり、人間が行う事象の積み重ねが「歴史」を形成している。また、「歴史」とは単なる時間の積み重ねではない。これを「語り」「書きとどめ」「伝える」人間の行為が「歴史」を創ってきたのである。当然そこにはさまざまなバイアスがかかり、故に「歴史に正解はない」と言われるのである。歴史を学ぶということは、過去に起きた出来事を「暗記する」のではない。「記された」あるいは「語られてきた」ことを、いかにして「解釈する」かである。 このプロジェクトでは、単に過去にあった出来事を掘り起こすのではなく、そこに介在する人、あるいは集団の意図を読み取りながら、様々な視点から歴史を読み解いていくことを目的とする。具体的には２つの課題を設定する。１つは「人はなぜ集団で生きていかなければならないのか」、もう１つは「人はなぜ争うのか」である。
到達目標	人々や共同体の営みについて、歴史的観点から課題や問題点を見つけることができるようになること。 人が共生してゆくためにはどうしたらよいのかについて考える力を身につけること。
授業方法と 留意点	テーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 グループでの作業やディスカッション、プレゼンテーションを繰り返す。 テーマによってはフィールドワークも行う。 フィードバックは授業内で適宜行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第１回　授業の進め方・評価の方法などの説明 第２～７回　テーマ① 日本の地域の中から具体的なフィールドを設定し、中央（国家や権力）とその地域との関係、その地域における人々の暮らしや文化について調査し、地域や人について歴史学的な視座から考察する。これらをパワーポイントにまとめ、発表・討論を行い、それぞれの地域社会と比較しつつ、地域の特質について考える。 第８回　テーマ①の振り返り、テーマ②の導入 第９～14 回　テーマ② 日本、あるいは世界の様々な宗教、信仰、思想の中から選択し、政治的・文化的・民族的など多角的な視点から、それらが発生・展開した背景や経緯を調査し、発表・議論する。歴史的な視座から人々と宗教・信仰・思想との関係、また人々にとってこれらはいかなる意義を持つのかを現代社会の問題とも照らし合わせながら考える。 第 15 回　テーマ②の振り返り。総括 事前事後学習では、資料の作成、ディスカッションやプレゼンの準備、レポートの作成に取り組む。
関連科目	「世界を学ぶ」､「日本を学ぶ」､「地域と歴史」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業での取り組み（20%）、発表（60%）、総括レポート（20%）
学生への メッセージ	歴史学は「暗記科目」ではありません。 お互いに議論を重ねながら、自分たちの考えをまとめましょう。
担当者の 研究室等	赤澤研究室（7 号館 4 階）
備考	

科目名	地理学プロジェクト	科目名（英文）	Project on Geography
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷　侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2503a0		

授業概要・ 目的	現代社会は多様で複雑な問題を抱えているが、これらを「地域」という枠組みで切り取って考えることで、私達は自らの身の回りの問題として理解することができる。では、地域に関する学びはどのように深めることができるだろうか？「地理学」は、地域で生じているさまざまな現象について、さまざまな時間・空間スケールを対象に、ひと（が形成する社会や文化）や自然環境、そしてひとと自然の関係性といったことを総合的に理解することを特徴としている（≠中高の社会科地理）。したがって、地理学を学ぶことを通して、地域を深く知ることができたり、課題解決に貢献する基礎力を身に着けたりすることができる。 このプロジェクトでは、地理学的な考え方の基礎を習得することを目的として、地域・地理学に関連する様々なトピックについて学ぶ。その際にはシミュレーションや地図、地理情報システム（GIS）といったツール、そして実際に町や自然の中を歩き、みて、考える手法であるフィールドワークを活用していく。
到達目標	1.【プロジェクトテーマを設定する】 ・ある任意の地域について、インターネットや文献等で概要を知ることができる。 ・上記の情報収集から、任意の地域におけるプロジェクテーマ（仮説）を立てることができる。 2.【フィールドワーク、シミュレーション、文献調査からデータを収集する】 ・図書館や博物館、資料館等の文献・資料やシミュレーションから必要な情報を収集することができる。 ・シミュレーションから地域課題を抽出することができる。 ・フィールドワークから、自然環境に関するデータを収集することができる。 ・フィールドワークを実施し、その中でのインタビュー調査から地域の方々の言葉を引き出し、情報をまとめることができる。 3.【収集データを表現する】 ・収集したデータを文章として表現することができる。 ・収集したデータを図表、地図、写真、映像等で表現できる。 ・調べてきたことの全体を通して、考察することができる。
授業方法と 留意点	本プロジェクトではグループに分かれた上でのディスカッションやグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等がメインとなります。また、講義時間内に質疑応答時間を設けます。また、授業中にグループごとに調べ物をしてもらうのでスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意してください。リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	本プロジェクトでは、次の７つのステップで実施します。 １．地域における問題の探求・仮説化・課題の確認 ２．調査、情報収集、シミュレーション技術の習得 ３．シミュレーションの実施 ４．実地調査（フィールドワーク、文献調査） ５．新しく収集したデータのグループにおける共有 ６．データの表現（文章、図表、地図） ７．明らかになったことのまとめ、考察 最初の複数回一中盤の授業では、地理学における調査手法（文献調査、フィールドワーク、聞き取り調査の方法）の紹介や、グループに別れた上での地域課題抽出のためのシミュレーション手法を学びます。 後半の授業では実際の町や、図書館、博物館、資料館での情報収集やフィールドワークを行い、自分たちのテーマに沿った情報収集を行います。調査終了後の授業回では、収集してきたデータのまとめ方や、文章での表現方法、エクセルでの解析方法、GIS（地理情報システム）を用いた地図の作成方法を伝えた上で、グループごとに発表会を行います。 質問やコメント等は授業中や、授業後、メール等で受け付けます。
関連科目	環境と社会

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への取り組み（ディスカッション・グループワーク・フィールドワークへの取り組みや参加状況、プレゼンテーションの内容）（50%）とグループレポート（50%）で評価します。
学生への メッセージ	本プロジェクトでは、教員から学生に１方向的に講義する通常のものとは違い、学生が主体となって情報を収集したりプレゼンテーションを行うものとなっています。このプロジェクトで得られる、自分で仮説を立てて、調査を行い、レポートとしてまとめる能力は卒業研究にも必ず生きてきます。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階
備考	

科目名	比較文化プロジェクト	科目名（英文）	Project on Comparative Cultural Studies
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2504a0		

授業概要・ 目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。 「日本文化」という言葉は日常的に目にするが、「日本文化」とは何かという問いに明確な答えは出せない。日本に限らず「○○文化」を簡単に定義することはできないのである。そうであれば、「日本と中国の文化的な違い」など軽々しく論じられるはずがない。まず大切なのは、その文化について正しく知ることである。 このプロジェクトでは、「日本文化の伝統と革新」「異文化の理解」の２つのテーマについて、課題を見出し、議論を重ねていく。
到達目標	世間で語られる文化論に対して、問題点や課題を見出すことができる。 自分を取り巻く文化や異文化について考える方法が身に付く。
授業方法と 留意点	テーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 グループでの作業やディスカッション、プレゼンテーションを繰り返す。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第 1 回 授業・進め方の説明 第 2～7 回 テーマ①日本文化の伝統と革新 「日本文化」はどのようなものとして考えられ、今日発信されているのか。また、海外からどのように理解されているのか。それは正しく発信され、理解されているのか。「日本文化」をめぐる通説を批判的に読み取り、課題を見付ける。 第 8 回 テーマ①の振り返り、テーマ②の導入 第 9～14 回 テーマ②異文化の理解 世界の多様な文化（例えば食文化やファッション）について、単に比較するのではなく、その背景や実情について考える。そして、そこから生じる課題を見出し、それを乗り越えていくための方策を考える。 第 15 回 テーマ②の振り返り 事前事後学習では、ディスカッション、プレゼンの準備や、レポートの作成に取り組む。
関連科目	世界を学ぶ 日本を学ぶ 思想と文化
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業時の取り組み（30%） 、経過報告（30%）、 プレゼンテーション（40%）
学生への メッセージ	プロジェクト科目ですので、授業中に積極的に主体的に取り組むことはもちろん、事前準備も必要です。いい加減な態度で受講しないで下さい。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　橋本研究室
備考	事前・事後学習に必要な総時間数は、約 60 時間。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	人間存在論プロジェクト	科目名（英文）	Project on Humanities
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2505a0		

授業概要・ 目的	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。 人間とは何かという問いは、古代から人間自身にとって大きな謎であった。それは、科学の進歩によって人間の脳に関する研究が大きく飛躍した現代においても変わらないと言える。 本プロジェクトでは、人間とは何かを見定める上でのいくつかの視点を設定して、そこから浮かび上がる人間像について、講義とディスカッションを通じて検討する。
到達目標	人間についての常識的な見解に対して、どこが問題なのかを考える力を身につける。 発表とディスカッションを通じて、各自の問題意識を深めていき、人間とは何かという問いに対する自分なりの見方（人間観）を獲得する。
授業方法と 留意点	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。 フィードバックは授業内において適宜行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第１回　授業・進め方の説明 第２−７ 回 テーマ①「心」をめぐる問題 扱う予定の問題は以下の通り。 心は脳と同じだろうか。意識とは何か。私とは何か。心と身体の関係はいかなるものか。他者とは何か。 講義とディスカッション、さらに、あるテーマに対する自分の考えをまとめて発表する。 第８ 回 テーマ①を振り返り、議論を総括する 第９−14 回 テーマ②自由をめぐる問題 扱う予定の問題は以下の通り。 決定論と運命論。自由意志は幻想か。リアリティはどうのように作られるのか。AI と人間の違いとは。 講義とディスカッション、さらに、あるテーマに対する自分の考えをまとめて発表する。 第 15 回 テーマ②の振り返り 事前事後学習では、ディスカッション、プレゼンの準備や、レポートの作成に取り組む。
関連科目	世界を学ぶ　日本を学ぶ　テクノロジーと人間
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業時の取り組み（30%）　経過報告（30%）　プレゼンテーション（40%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　有馬研究室
備考	本授業の事前事後学習は、総計で 60 時間を目安とする。

科目名	国際社会と日本語プロジェクト	科目名（英文）	Project on Japanese Language and International Community
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2507a0		

授業概要・ 目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。 世界各国で日本語を外国語として学ぶ外国人（日本語ノンネィティブスピーカー）学習者は、年々増加している。海外における日本語学習者数の増減は、そのときの現地の政策及び日本の政治・経済・文化やその国との関係に大きく関わっている。また、グローバル社会においては日本国内でも今後も更に在住外国人の数は増加していくことが予想され、日本語学習のニーズが高まるであろう。 本授業では、普段使用している日本語について客観的に観察し、国際社会で起こっているさまざまなことを身近なこととして捉え、日本語教育学を通して日本語学習者の学習支援を実践することを目的とする。
到達目標	言葉や文化の違う人たちとどのように接すればよいのか、日本や日本語に関心を持ってもらうにはどうしたらよいのか、多文化共生社会で生きるために自分は何をしたらよいのか・何ができるのか等について、調査やディスカッション、また日本語学習者との異文化交流等を通して考察し行動することができる。
授業方法と 留意点	テーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 グループでの作業やディスカッション、発表を行う。 フィードバックは授業内で適宜行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第 1回 授業についてオリエンテーション 第 2～3 回 テーマ①海外の日本語教育 海外の事情から日本語・言語政策等について考察する。 第 4～5 回 テーマ②日本国内の多文化共生と日本語教育 「外国人」にかかわる重要なテーマについて各ワークを通して考察する。 第 6～7 回 テーマ③異文化コミュニケーション 各ワークを通して多様性・コミュニケーション等について考察する。 第 8～11 回 多文化共生のためのプロジェクトワーク グループでのディスカッション、調査、作業 第 12～14 回 成果物についての発表 第 15 回 全体のふり返り 事前事後学習では、各テーマに関するワーク、プロジェクトワークにおける調査や成果物の作成、発表の準備等に取り組む。
関連科目	基幹科目「多文化社会と日本語」
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業への参加度（30%）　各ワーク（30%）　発表・成果物（40%）
学生への メッセージ	本授業で扱う海外・日本国内の日本語教育に関連する様々なテーマは、国際学部の学生としてぜひ学んでほしい内容です。各テーマのワーク、グループワークには積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	７号館４階　門脇研究室
備考	教科書・参考書については、文献・資料を配布する。 事前事後学習の総時間数については、60 時間を目安とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	地域研究プロジェクト（英語と諸地域）	科目名（英文）	Area Study Project (English-Speaking World)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2523c0		

授業概要・ 目的	講義と演習（英語での上演・ロールプレイ・番組制作）を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。
到達目標	・現代社会における英語の役割を知り、英語と日本語の言語能力を自他の役に立てられるようになるための、思考力と判断力を身につける。 ・身の回りにある文化の多様性に関心を持ち、複数の視点に立って、また俯瞰して物事を理解しようとする意欲と態度を養う。演劇や番組制作という、複数の人がチームで何かを作り上げる経験を積む。
授業方法と 留意点	「※この科目は「地域言語科目」のうち、１年後期、2 年前期、及び 2 年後期開講の英語の授業を履修している学生を対象とします。 ・テーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 ・グループでの作業やディスカッション、プレゼンテーションを通して、互いから学び、各々の強みを引き出す。 ・フィードバックは授業内で適宜行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	まず、現代社会に英語がなぜこんなに普及したのか、その背景となる英語史を教養として学ぶ。 と同時に、報道記事や文学（映像含む）作品の英語を題材に、①言語と翻訳の比較　②パロディ作成　③多言語による番組・作品上演などを行う。 学生一人ひとりが注目すべき翻訳例を探し出す個人ベースの活動と、グループでプロダクションを運営する活動　を行う。 身の回りにある文化の多様性を理解し、同時に複数の視点に立って考える俯瞰的な視野を身につける。 第１回　　オリエンテーション「英語はいつから『英語』なのか」 第 2-7 回：　英語の歴史：今と昔、本国と異国が共存し、拡張し続けることば 第 8 回：　　あなたの第一言語と英語の関係 第 9-14 回：翻訳・パロディ・多言語での番組制作 第 15 回：　これからの英語 事前・事後学習では、ディスカッション・プレゼンの準備や、レポート作成に取り組む。
関連科目	「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「グローバルスタディーズ（英語と諸地域)」
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / The History of the English Language / Brigit Viney / Oxford University Press 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業時の取り組み　　30% プレゼンテーション　　30% レポート　　40%
学生への メッセージ	・あなたの語学力を、自分以外の人のためにも役立てられるようになろう！ ・学校は、同級生という「自分とちがう能力・感性の持ち主たち」と出会えること & 教員という「先に生まれて、違う時間・場所でいろいろ見てきた情報源」がいっぱいいるところ。遠慮なく、誰とでもいっぱいやり取りしてください。 ・英語科教職課程の志望者にもおすすめです。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　齋藤研究室
備考	教職課程を目指す学生にとっては、教材研究・授業案作成と類似性のある「発話行為分析」「イベントの進行表作成」などを経験する機会となる（英語史の知識ももちろん、教職に必須です)。 なお、参考書については授業内で紹介する。

科目名	地域研究プロジェクト（英語と諸地域）	科目名（英文）	Area Study Project (English-Speaking World)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2523c0		

授業概要・ 目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。このプロジェクト(英語と諸地域 II　B2) は、アメリカ合衆国を拠点に世界に広がる多様なポピュラー音楽ジャンルについて、演者の人種、民族、ジェンダー、階級といったアイデンティティがどのように表現されてきたかという観点から学び、パフォーマンスを取り入れた学習教材を文書と動画で作成するプロジェクトである。受講生はグループに分かれ、(1)英語圏の大学で用いられる音楽研究の教科書を素材に日本語・英語の対訳を含む学習教材を制作し、かつ、(2)制作した学習教材に基づいたプレゼンテーションを行う動画を制作する。グループごとに選択する音楽ジャンル(ジャズ、ヒップホップ、ロック、中南米系音楽、K-Pop など)、あるいは重要な人物を選択して教材を作り、プレゼンテーションにはメンバーの技能や嗜好を生かした何らかのパフォーマンス（楽器演奏、歌唱、ダンス、独自に編集した音源の提示など）を取り入れる。音楽史の知識の獲得と同時に、身体感覚を伴った理解、理解の伝達を目指す。英語力、日本語力、機械翻訳の活用、情報検索とファクトチェック、文書作成、動画撮影編集など、職業的なスキルの向上も目指す。
到達目標	・英語圏のポピュラー音楽の諸ジャンルの中に、現代社会が抱える問題、課題を見出すことができる。 ・英語圏のポピュラー音楽の諸ジャンルのうちいくつかについて、歴史的、地理的、社会的な背景知識を持つだけでなく、他者にわかりやすく説明することができる。 ・英語圏のポピュラー音楽の諸ジャンルのうちいくつかのものについて、身体的、情動的、感覚的な理解を得る。 ・教育的なプレゼンテーションの作成を通じ、教育を通じた課題解決への関心、意欲、態度を育てる。 ・協働でのプレゼンテーションとパフォーマンスを経験し、コミュニケーション能力を向上させる ・英語圏の大学学部レベルの教科書を、翻訳ツールを適切に用いて読解できるようになる。作業に必要となる英語力と日本語力を向上させる。 ・翻訳ツール活用、情報検索、ファクトチェック、文書作成、動画編集など、職業能力に直結する ICT 技能を向上させる。
授業方法と 留意点	講義と演習を組み合わせた授業になる。受講生はグループに分かれ、学期の前半のうちに(1)英語圏の大学で用いられている音楽研究の教科書を素材に、日本語と英語の対訳教材を作成し、学期の中盤以降に(2)制作した対訳教材に基づいた教育的プレゼンテーションを考案し、実演する。プレゼンテーションは、グループのメンバーの技能や嗜好を反映した何らかのパフォーマンス（楽器演奏、歌唱、ダンス、独自に編集した音源や映像の提示など）を取り入れ、動画データの形で制作物として残せるものにする。 ・パフォーマンスは、必ずしも自分たちで
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・スケジュールの概観（実際のスケジュールは受講人数や各グループが計画するプレゼンテーション内容により調整する） Class 01 導入・仮グループ分け・テキストのダウンロードほか Class 02 本グループ分け、対象とする音楽ジャンル（資料とする教科書のセクション）の策定、翻訳ツール使用法ほか Class 03 対訳教材作成開始・情報検索とファクトチェックの方法ほか Class 04-06 対訳教材作成と検証 Class 07 プレゼンテーション、パフォーマンス計画 Class 08-11 プレゼンテーション作成、パフォーマンス練習・撮影 Class 12-14 プレゼンテーション／パフォーマンスの共有、フィードバック Class 15 全体の振り返り・振り返りフォーム記入&提出 ・対訳教材の素材としては、インターネット上で公開され、無料で利用できるオープン教科書(Open Textbook と呼ばれるもの)を利用する。各自ダウンロードし、印刷して授業に持ち込む。今年度は次のものを予定している。初回授業でアナウンスする。 Douglas Cohen, Music: Its Language, History, and Culture (2015) https://open.umn.edu/opentextbooks/textbooks/446 ・各回の事前、事後学習課題として、各個人でコンピュータにアクセスすれば進めることが可能な翻訳、情報検索、修正を行うこと、学期中盤以降は、プレゼンテーション、パフォーマンスの練習や修正を自発的に行い、疑問点や教員への報告、相談があれば Teams 上の指定の場所で共有することが求められる。毎回の授業に要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。レポート、その他課題に関する質問等はオフィスアワーや電子メールによるアポイントメントにて対応する。
関連科目	「世界を学ぶ」､「日本を学ぶ」､対応する基幹科目として「グローバルスタディーズ（英語と諸地域)」が指定されている。その他、関連する科目として「エリアスタディーズ（北アメリカ)」「英語圏比較文化論」など
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	成果物(対訳教材＋プレゼンテーション) 40% 平常点(毎回の活動ジャーナル、授業時や Teams 上などでの質問やコメント) 40% 学期末の全体振り返りフォーム　20%
学生への メッセージ	音楽が好きな人が、その興味を、音楽を作ってきた人々の言語とアイデンティティの問題への興味へとつなげていけるような、その過程で、将来の仕事に役立つ ICT 技能やコミュニケーション能力も上がるような、そんな授業にできればいいなと思います。良い授業を一緒に作っていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。レポート、その他課題に関する質問等はオフィスアワーや電子メールによるアポイントメントにて対応する。

科目名	地域研究プロジェクト（英語と諸地域）	科目名（英文）	Area Study Project (English-Speaking World)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2523c0		

授業概要・ 目的	このコースの目的は、英語圏の国々を紹介し、これらの国々に存在するさまざまな文化の概要を理解することです。 *この科目は「グローバルスタディーズ（英語と諸地域）」の対応科目です。
到達目標	英語圏の文化に対する理解を深める。 文化間の違いを識別できる。 文化間の共通点を見出すことができる。
授業方法と 留意点	この授業はプロジェクト・ベースの授業で、生徒はグループで作業を行います。そのため、生徒はグループワークのスキルを向上させる機会を多く得ることになります。 グループ研究はメディア・ソースの観察に基づくので、生徒は観察結果を整理するのに役立つメモの取り方を学びます。 研究はクラスで発表します。グループ全員が同じ成績を取るので、このコースでは協力と参加が重要になります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	このコースでは英語圏の文化を扱います。このコースでは、文化を考えるための２つのアプローチ、「国籍に基づく文化」と「社会集団に基づく文化」を学びます。短編小説、映画、コミックなどのメディアをもとに、英語圏と日本の文化の共通点と相違点を考察します。*この科目は「グローバルスタディーズ（英語と諸地域）」の対応科目です。 Week 1: シラバスの概要と世界英語の紹介 Week 2: 本質主義的な文化観について学び、議論する. Weeks 3-5: 英語圏の文化を文学で学び、議論する。 Week 6: 非本質主義的な文化観について学び、議論する。 Weeks 7-9: 英語圏の文化について、コミックで学び、議論する。 Weeks 10-12: 英語圏の文化を映画で学び、議論する。 Weeks 13-15: 英語圏の文化や習慣について学び、議論する。
関連科目	グローバルスタディーズ（英語と諸地域）
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業への積極的な参加 30% 小テストとアクティビティ 30% プレゼンテーション 40%
学生への メッセージ	このクラスでは、英語圏の文化について多くを学び、世界のどの国の人とも簡単につながりを持つことができる異文化間コミュニケーションのアプローチを学びます。
担当者の 研究室等	フーパー研究室　（7 号館 3 階）
備考	

科目名	地域研究プロジェクト（東アジア世界）	科目名（英文）	Area Study Project (East Asia)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2524e0		

授業概要・ 目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。 この授業は、中国のほか、香港・マカオや台湾、華僑・華人社会を含む中国語圏を対象とする。中国は広大で、多様な自然環境をもち、多民族国家でもある。近年は急速な経済発展を遂げ、国際社会でも存在感を高めている。他方で、中国・台湾・香港の両岸三地には、中台関係や香港における「一国二制度」などの政治的論点も存在している。さらに日中関係は経済や人の往来など多くの領域で深まっている一方で、相互の国民感情は決してよいとはいえず、日台関係は一般的には良好であるとされるが、日台間に正式な国交はない。そこで、この授業では中国語圏各地域の特色をつかんだうえで、政治、経済、民族、環境などの複数の視点から、その社会や文化に対する理解を深め、日本とこれらの地域の関係を考える。調査やディスカッションを通して、中国語圏、さらにこれらの地域と日本の間にある課題をみつけ、解決するための方法を検討する。
到達目標	中国語圏の地域の多様性を知ることによって、異文化に対する柔軟性を身につけることができる。 またその社会の特徴を知ることによって、これらの地域と日本の間にある課題を見出すことができる。
授業方法と 留意点	講義と演習を組み合わせた授業を行う。講義ではテーマの論点を提示し、受講者はそれぞれのテーマにそってグループワークやディスカッションを行い、その成果を発表（プレゼンテーション）する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第１回　ガイダンスと導入 第２～５回　テーマ①中国語圏の地域の魅力 中国語圏の地域の多様性を学ぶ。地域別にリサーチし、それぞれの地域の魅力を紹介する。 第６回　テーマ①の成果について、「地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域）」および「地域研究プロジェクト（東南アジア世界）」との合同発表会を開催する。 第７～12 回　テーマ②中国語圏の社会の特徴と課題 中国語圏の社会を政治、経済、民族、環境など複数の視点から学ぶ。領域別にリサーチし、それぞれの領域における特徴と課題を考える。 第 13～14 回　テーマ②の成果について、「地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域）」および「地域研究プロジェクト（東南アジア世界）」との合同発表会を開催する。 第 15 回　ふりかえり　中国語圏の多様性と独自性を考える
関連科目	「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「グローバルスタディーズ（東アジア世界）」「エリアスタディーズ　東アジア」および中国語関連の接続科目
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業に対する取り組み（50%）、成果発表（50%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	小都研究室（7 号館 3 階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ようこそ中華世界へ	川島真編	明石書店
2			
3			

科目名	地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域）	科目名（英文）	Area Study Project (Spanish-Speaking World)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2525e0		

授業概要・目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。この授業では、(1)文化の融合、(2)移民やマイノリティの民族問題の２つの観点からスペイン語圏の特徴と課題を学ぶ。受講生はトピックごとにグループに分かれ、スペイン語圏の多民族・多文化共生の問題を調査し、解決のための方法を立案し、プレゼンテーションする。スペイン語圏はヨーロッパ（スペイン）とアメリカ大陸（ラテンアメリカ）にまたがる。スペインはイスラーム文化の影響を受けて発展し、ラテンアメリカは先住民文明の繁栄の後にスペイン植民地となり、ヨーロッパ文化とアフリカ文化が流入し、文化の融合が進んだ。こうした融合がパエリアなどの豊かな食文化やルンバなどの新しい音楽やダンスを生み出した。一方で、スペインのカタルーニャ州の独立運動などの民族問題もある。またアメリカ合衆国ではヒスパニックと呼ばれるラテンアメリカ系移民が急増し、新たな民族問題となっている。スペイン語圏の事例から多文化・多民族共生について深く考える機会にしたい。
到達目標	多文化なスペイン語圏の特徴と課題を複眼的・客観的に理解し、表現できる。 スペイン語圏の社会文化的事象について考え、判断する方法が身に付く。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて受講生主体で授業を進める。スペイン班とラテンアメリカ班に分かれてのグループワークおよび成果発表（プレゼンテーション）を行う。 可能な限り、パソコンを毎回持参すること。 グループワークが多いので、遅刻・欠席は厳禁とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	第１回：オリエンテーション　授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 第2～5回：テーマ①「スペイン／ラテンアメリカの特徴と魅力」 ヨーロッパとアメリカ大陸にまたがる広大なスペイン語圏の「多文化性」と「多民族性」に焦点をあてて、スペイン語圏の特徴を調べ、地域の魅力を紹介する。 第６回：テーマ①の成果について、「地域研究プロジェクト（東アジア世界）」および「地域研究プロジェクト（東南アジア世界）」との合同発表会を開催する。 第7～12回：テーマ②「文化の融合と人の移動から見るスペイン／ラテンアメリカ」 スペイン語圏における歴史的な文化の融合と現代の移民（主にラテンアメリカから米国への移民）についてのリサーチを通じて、スペイン語圏の文化の特異性や民族問題に関する理解を深め、発表する。 第13～14回：テーマ②の成果について、「地域研究プロジェクト（東アジア世界）」および「地域研究プロジェクト（東南アジア世界）」との合同発表会を開催する。 第15回：総括　この授業で学んだことや得たことをまとめる。
関連科目	「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「グローバルスタディーズ（スペイン語と諸地域）」「エリアスタディーズ ラテンアメリカ」　その他スペイン語関連の接続科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 新版　ラテンアメリカを知る事典 / 大貫良夫ほか編 / 平凡社 2 / 改訂版　現代スペイン情報ハンドブック / 板東省次ほか編 / 三修社 3 / ラテンアメリカ文化事典 / ラテンアメリカ文化事典編集委員会 / 丸善出版社
評価方法（基準）	授業時の積極的な取り組み姿勢（50%）、成果発表（50%）
学生へのメッセージ	スペイン語圏は広大で、文化も多様で、経済発展のレベルも多様です。スペイン語圏の多様性を通して、世界の多様性への視野を広げてください。
担当者の研究室等	７号館５階　藤井研究室
備考	本授業における事前・事後学習時間の目安は総計60時間以上とする。

科目名	地域研究プロジェクト(東南アジア世界)	科目名（英文）	Area Study Project (Southeast Asia)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2526e0		

授業概要・ 目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。 「東南アジア」は、一般的にはASEAN（東南アジア諸国連合）加盟10か国（具体的には、インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオスの国々）に2002年に独立した東ティモールを含めた11か国からなる地理的地域を指す。この授業では、これら11か国をとりまく世界に焦点をあてることとする。「東南アジア世界」の特徴として挙げられるキーワードの一つに「多様性」がある。ここでいう「多様性」とは具体的にはどういったものであろうか。「東南アジア世界」は「多様性」が鮮明でありながらも、「協調」や「一体性」あるいは「統合性」を見出そうとしている。「一体性」は「多様性」と相反する概念なのだろうか。本授業ではこれらのキーワードについて、「人びと」や「モノ」を物差しとして捉えていき、「東南アジア世界」の現代の姿を探るとともに、日本との関係性も考えることとしたい。
到達目標	文化的背景や価値観の多様な東南アジア世界を知ることで、柔軟な思考が可能となる。 異文化理解の方法や実践について深く考えることができる。
授業方法と 留意点	基本的に受講生主体で授業を進める。具体的にはグループワークやディスカッション、さらには成果発表（プレゼンテーション）を行う。 授業においては、可能であれば、パソコンを毎回持参すること。 グループワークが多いので、遅刻・欠席は厳禁とする。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第１回目：プロローグ（授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明） 第２～５回目：テーマ①「東南アジアの魅力」 東南アジア世界を語る上でのキーワード「多様性」に焦点をあてて、東南アジア観光の旅行プランを作成することで、東南アジアの魅力を引き出す。 第６回目：テーマ①の成果について、「地域研究プロジェクト（東アジア世界)」および「地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域)」との合同発表会を開催する。 第７～12回目：テーマ②「モノからみる東南アジア」 モノを通じて、東南アジア世界を捉えてみる。その作業を通じて、東南アジア世界の「多様性」や「一体性」を明らかにする。 第13回目・第14回目：テーマ②の成果について、「地域研究プロジェクト（東アジア世界)」および「地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域)」との合同発表会を開催する。 第15回目：総括（この授業で学んだことや得たことをまとめる）
関連科目	「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「グローバルスタディーズ（東南アジア世界)」「エリアスタディーズ 東南アジア」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 東南アジアを知る事典	桃木至朗ほか編	平凡社
2	東南アジア文化事典	信田敏宏ほか編	丸善出版
3			

評価方法 （基準）	授業時の積極的な取り組み姿勢（50%)、成果発表（50%）
学生への メッセージ	東南アジア世界はとても多様です。ぜひ、その姿を実感していきましょう。
担当者の 研究室等	７号館４階　浦野研究室
備考	本授業における事前・事後学習時間の目安は総計60時間以上とする。

科目名	海外特別プロジェクトⅠ	科目名（英文）	Special Overseas Project Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2527a0		

授業概要・目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。本プロジェクトは、海外協定校（機関）へ留学中の国際学部生を対象とする。学生は、留学中であることを生かし、現地で出会うなんらかの社会課題とその解決に関する調査プロジェクトを立ち上げ、実施し、調査結果に関する口頭発表と報告書の作成を行う。インタビューやアンケート調査等の情報収集、ファクトチェック、プレゼンテーション、文書作成への習熟、英語その他の外国語能力の向上、自身の留学生活の意義に関するメタ認知（自分の学び、経験を客観的に観察し、理解すること）の獲得を目指す。
到達目標	・留学先の地域、社会が抱える社会問題、社会課題を自ら行動して発見し、探求する意欲、態度を身につける。 ・協定校が実施している授業における学習以外に、留学中の成果として帰国後に報告できる体験、実績をつくる。 ・留学中ならではの調査を行い、その過程で現地の言語、文化、社会への理解、コミュニケーション能力を高める。 ・留学中の学生同士での非同期での協働学修を通じ、コミュニケーション力、ICT 技能を向上させる。
授業方法と留意点	・留学中の学生を対象とした遠隔授業で、オンデマンドとリアルタイムの組み合わせで進行します。互いに離れた地域、異なる協定校に滞在する学生同士が協働して学ぶことを想定していますので、大部分は Teams を用いた非同期のオンデマンド授業（資料の閲覧、動画の視聴、文字チャットによる質疑応答や議論をする授業）になります。履修者と教員の都合が合致する週には、リアルタイムでのオンラインミーティングも入れていきます。 ・非同期でのコミュニケーションの際も、ビデオ会議の録画や、自撮り動画の共有などの方法を活用し、できるだけ
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・学期序盤、教員と相談しながら各自の調査プロジェクトを決めます。同一の地域や協定校に複数の学生がいる場合は、チームでのプロジェクトも可能です。テーマや方法は様々な可能性がありますが、何らかの話題を決めて、現地でなければ出会えない相手（地元の人や、他の国から来た学生など）にじっくりと時間をかけてお話を聞く、許可がもらえれば録音させてもらって文字に起こす、といった少数、長時間のインタビュープロジェクトをお勧めします。学期中盤以降は、各自の発表と他の学生からのフィードバックを共有していきます。学期終了時には、発表内容やフィードバックを報告書にまとめます。
関連科目	・「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」ほか ・協働学習プロジェクト科目の各授業科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加(Teams 投稿、動画アップロードなど)　60% 成果物(プレゼンテーション、報告書)　40%
学生へのメッセージ	留学中は、留学中でなければできない学びに全力を注ぎたいものです。この授業のためのプロジェクトも、現地にいるからこそできるようなプロジェクト、留学生活をさらに意義深いものにするようなプロジェクトを考え、実行しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 3 階鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原　郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	原田　豪
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本　弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅰ」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①図書館や web を使用した文献収集の方法 　②文献の読み方 　③web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 　④インタビュー調査の方法 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山　博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森　類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大谷　侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・ 目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。
授業方法と 留意点	１クラス当たり 20 名程度の編成とし、３クラス合同で４つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１、２回　クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第３～５、６～８、９～11、12～14 回 　３回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 　①海外の資料・文献の探し方・使い方 　②アンケートを用いた調査の方法 　③フィールドワーク調査の方法 　④視覚資料の活用 第 15 回　クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。
関連科目	１～４年次の各ゼミ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	あなたの感性やアイディアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ？！」「うぁ」「なんで？？」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です！！様々な研究方法を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館３～５階　各研究室
備考	総学習時間の目安は 60 時間。

科目名	海外インターンシップ	科目名（英文）	Overseas Internship
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1563c0		

授業概要・ 目的	◆外国語学部 ・この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。 ・この海外インターンシップは、将来、主に旅行・観光業界の仕事に関心がある学生に向いている。具体的には、海外のホテルや旅行代理店での就業体験によって、ビジネスの現場の慣習、言葉遣いやマナー、そして働く人たちの職業意識などを学ぶことを主な目的とする。 ・メインのインターンシップは年度末の 2-3 月ごろに（約８日間）実施されるが、その前後に４回分の授業がある。 ◆国際学部 ・この海外インターンシップは、将来、主に旅行・観光業界の仕事に関心がある学生に向いている。具体的には、海外のホテルや旅行代理店での就業体験によって、ビジネスの現場の慣習、言葉遣いやマナー、そして働く人たちの職業意識などを学ぶことを主な目的とする。 ・メインのインターンシップは年度末の 2-3 月ごろに（約８日間）実施されるが、その前後に４回分の授業がある。
到達目標	・海外インターンシップの体験を通して、仕事に対する興味・関心が高まるとともに、海外で働くためにはどのような能力や知識が必要なのかを理解できるようになる。 ・日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それを仕事に活かせるような素養を身につけることができる。 ・仕事の現場で必要とされるコミュニケーション能力の基礎を身につけることができる。
授業方法と 留意点	・海外インターンシップ（約８日間）およびその前後の授業（４回分）のすべてに参加しなければならない。 ・後期授業開始時に、「事前説明会」のお知らせがポータルサイトで周知されるので注意しておくこと。（※事前説明会に参加しなければ申し込みができない）
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	＜インターンシップ・プログラム＞ ・インターンシップの日程（予定）: 2024 年 2-3 月の約８日間、海外で実地研修を行う。 ・上記の他に、国内でのインターンシップおよび、事前および事後授業（４回分）を行う。 ・2023 年度の日程や参加費用などの詳細については、10 月上旬に開催予定の「事前説明会」にて伝える。 その後、参加希望者は申込（＝履修登録）をすることになる。(*通常の履修申請とは異なる) ・単位を取得するためには、事前説明会、事前・事後授業、インターンシップのすべてに参加しなければならない。 ＜事前・事後学習課題＞ ・事前： 旅行・観光業界に関する記事やニュースを事前にチェックし、その概要や動向を把握しておくこと。 ・事後： 就業体験に基づいて、レポートを作成するとともに、事後報告を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	事前・事後授業およびインターンシップの取り組み（70%）、 レポート・提出物（30%）
学生への メッセージ	特に観光ホスピタリティや旅行業界に関心のある学生にとって、実際の現場で仕事を体験できる魅力的なプログラムです。また、就業体験を通じて、働くことに対する価値観や考え方を自分自身に問いかける良い機会になることでしょう。
担当者の 研究室等	問い合わせは、7 号館 2 階　外国語学部事務室・国際学部事務室で受け付けます。
備考	・実習・演習科目なので、授業、インターンシップ、事前・事後学習の総時間数は 90 時間を目安とする。 ・履修者に対するインターンシップの情報や連絡事項は、授業時間の他、メールや Teams を利用して周知する。 ・単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になる。

科目名	海外実習	科目名（英文）	Overseas Studies Programs
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4◎,DP8△		
科目ナンバリング	LDL1564e0		

授業概要・ 目的	◆外国語学部 海外実習は、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つである。現地でのプログラムを通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨くとともに、現地の社会や文化に触れて、知見を広げることを目的としている。 ◆国際学部 海外実習は「グローバルリテラシーの涵養」という国際学部の教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つである。現地でのプログラムを通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨くとともに、現地の社会や文化に触れて、知見を広げることを目的としている。
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることができる。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を高めることができる。
授業方法と 留意点	・それぞれの行先の日程やプログラムの詳細は、説明会で周知する。説明会の開催はポータルで周知するので、よく確認しておくこと。 ・本学内での事前授業と、実習先での研修によって構成される。 ・事前授業は演習形式で行う。 ・事前授業には必ず出席すること。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	（１）事前・事後授業 渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話を学ぶ。帰国後は学習の成果を確認する機会を設ける。 （２）実習先での研修 現地の大学等の研修先の指定プログラムに参加する。 ◆外国語学部 【実習先と実習時期（予定)】 ・中国語専攻（中国・上海外国語大学）　（８月） ・スペイン語専攻（スペイン・アリカンテ大学）（２月） ・インドネシア・マレー語専攻（インドネシア・LIA 外国語大学）（２月） ◆国際学部 上記の言語研修先のほか、学部が指定する学内外の各種海外プログラム
関連科目	履修可能年次の専門言語科目と文化・社会科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ◆外国語学部 ※２０１５年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※２０１２～２０１４年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目と
学生への メッセージ	慣れない海外で実習をこなすのは不安がありますが、それ以上に得られることが多いと思います。
担当者の 研究室等	問い合わせは、7 号館 2 階　外国語学部事務室・国際学部事務室で受け付けます。
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になる。

科目名	言語コミュニケーションプロジェクト	科目名（英文）	Project on Language and Communication
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3540a0		

授業概要・ 目的	本授業ではことばと社会の密接な関係について考察し、ことばが実際に用いられる「文脈」の変化が言語の運用にどのような影響を与えるのかを探る。さまざまな場面における言語表現を題材にして、主に日本語における社会と言語の関係についての実地調査を実践する。受講生はグループに分かれ、各グループで設定した課題について実際に言語データを収集、課題に関係する文献資料を調査研究し、最終的にグループでの研究発表を行う。課題は言語使用における地域差、社会階級、年齢、使用場面がどのように影響を与えるかについてとする。このような取り組みを通して、言語と社会の関係について、深く理解する試みを実践する。なお受講生は、音声学、日本語音韻論、日本語語彙論、英語構造論、英語意味論語用論のいずれかの授業を履修し、その内容について理解していることが望ましい。
到達目標	言語使用における地域差、社会階級、年齢、使用場面がどのように影響を与えるかについて理解できることを目指す
授業方法と 留意点	テーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 グループでの作業やディスカッション、プレゼンテーションを繰り返す。 テーマによってはフィールドワークも行う。 フィードバックは授業内で適宜行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	本授業ではことばと社会の密接な関係について考察し、ことばが実際に用いられる「文脈」の変化が言語の運用にどのような影響を与えるのかを探る。さまざまな場面における言語表現を題材にして、主に日本語における社会と言語の関係についての実地調査を実践する。受講生はグループに分かれ、各グループで設定した課題について実際に言語データを収集、課題に関係する文献資料を調査研究し、最終的にグループでの研究発表を行う。課題は言語使用における地域差、社会階級、年齢、使用場面がどのように影響を与えるかについてとする。このような取り組みを通して、言語と社会の関係について、深く理解する試みを実践する。なお受講生は、音声学、日本語音韻論、日本語語彙論、英語構造論、英語意味論語用論のいずれかの授業を履修し、その内容について理解していることが望ましい。 上記の目的を達するために、与えられた課題に対してプレゼンテーションを行い、各授業でプレゼンテーションに対するフィードバックを行う。
関連科目	ことばと社会（基幹科目）
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業での取り組み（30%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（30%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	藤原研究室（7 号館 4 階）
備考	

科目名	メディアと現代社会プロジェクト	科目名（英文）	Project on Media and Contemporary Society
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3541a0		

授業概要・ 目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。 本授業では、「メディア」「身体」という観点から現代社会を捉えなおすことを目標とする。近現代の「メディア」を広くとりあげ、それらについて考察する。また、グループでドキュメンタリー映像を制作することを通じて、自らが学習した内容に基づいて実際に「メディア」を作っていくことを体験してもらう予定である。
到達目標	近代メディアに対する知識に基づいた考察ができる。 身近なメディアに対して課題を見出し解決する思考力が身に付く。
授業方法と 留意点	テーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 グループでの作業やディスカッション、プレゼンテーションを繰り返す。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	第１回　本講義の概要、目標、評価方法について説明する 第２－４回　日常生活における身近なメディアをテーマにしたグループワーク、プレゼンテーションを行う。 第５－１４回　映像制作（ドキュメンタリーを予定）を行う。また、取材を目的としたフィールドワークを行う。 第１５回　総括・成果発表
関連科目	「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「メディア文化論」
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業への取り組み（100%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館４階（古矢研究室）
備考	事前事後学習の総学習時間は、60 時間を目安とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	マイノリティ研究プロジェクト	科目名（英文）	Project on Minority Studies
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3542a0		

授業概要・ 目的	日本では、宗教的、人種的、言語文化的マイノリティの権利擁護の急務は不問に付されたままである。これに対して世界では、女性、南アフリカの黒人、性的少数者、不可視化されている先住民族などさまざまな「マイノリティ」が主体的な運動を展開している。本授業では、ジェンダー、LGBTQ、外国人、障害者、エスニックに関する問題などについて、地域的、歴史的、文化的背景により多様なマイノリティの在り方があることを知り、それぞれが興味を持った具体的な事例を深く理解することを試みる。さらに、ディスカッションを通して、マイノリティが直面する課題を捉え、分析し、最終的には、どのようにすれば課題が解決でき、多様性が受け入れられる社会を築いていくことができるかについて、具体的に提案することを目的とする。
到達目標	・マイノリティの諸問題について説明できる。 ・個別のマイノリティの問題について、調査・分析できる。 ・自身の周りのマイノリティの存在について理解できる。
授業方法と 留意点	適宜講義を行うが、主に演習スタイルの授業である。 前半はグループで議論・調査・発表を行い、後半は個人で調査・発表を行う。 個人で行う調査はフィールドワーク、映像分析など具体的な内容を各自選択して、具体的に行う。 その方法については、接続科目であるジェンダーとマイノリティで講義する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	第１回　授業の進め方の説明・マイノリティと呼ばれるものにどのようなものがあるかを考える。 第２回～第６回　グループワーク 第２回　グループを決め、どのマイノリティの問題に焦点を当てるかを決める。 第３～４回　マイノリティの実態について調べ、何が問題なのかを議論する。 第５～6回　発表を行う 第７回～第14回　個人で関心のあるマイノリティの問題について、具体的に調査・分析する。必ずフィールドワークや映画の分析など、具体的なことを行い、そこから自分自身でこれからの社会において何が必要なのかを考察する。最終的に、個人発表を行い、それに関してレポートを作成する。 第15回　総括（場合によっては他プロジェクト科目との合同発表会を行う） 事前・事後学習では、ディスカッション、調査、プレゼンの準備やレポートに取り組む。
関連科目	世界を学ぶ　日本を学ぶ ジェンダーとマイノリティ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	平常点（授業中の取り組みや課題、ディスカッション）30%、小レポート 10%、調査計画書と報告書 20%、最終プレゼンテーション 10%、最終レポート 30% 演習系の科目ですので出席を重視します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	事前事後学習の総学習時間は、60 時間を目安とする。

科目名	地域研究・国際政治プロジェクト	科目名（英文）	Project on Area Studies and International Politics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3543a0		

授業概要・ 目的	※本科目は「地域研究・国際政治プロジェクト」に対応するプロジェクト科目である。 プロジェクト科目は、講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案するものである。 本授業では、基幹科目で履修することになる比較政治学を理論的基盤としたうえで、主に一国・一地域に焦点を当てる地域研究と、国家を主なアクターとして国家間の事象を扱う国際関係論（国際政治学）という二つの学問的アプローチに沿って学習を進めていく。その際には、比較や理論化・一般化の前提となる事例研究を参照し、それらの分析に基づく地域間比較や時代間比較の試みを通じて、世界各国、各地域で起きている事象をより普遍的な観点から理解する「ものの見方」を養うことを目指す。
到達目標	・「比較」という「ものの見方」、別の言い方をすれば分析の手法を理解し、身に付ける。 ・具体的な「事実」を扱う地域研究や事例研究と、抽象的な「概念」を扱う理論研究との間に立って、「比較して考察する」という作業を経験する。
授業方法と 留意点	・演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プロジェクト科目内で設定される。 ・調査報告や提出物については、授業中にフィードバックを行なう。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 １．演習を通じて、履修者は各人の関心に基づく調査・分析・発表（文献リスト作成、プレゼンおよびコメント、レポート作成等）を行ない、適切な先行研究やデータ・資料を踏まえた研究報告の作成を目指す。 ２．本演習は、①対面と Teams を組み合わせた演習、②Moodle を通じた資料の配信と課題の提出、という 2 つの手段を適宜組み合わせて行なう。 ３．プレゼンテーションに関するフィードバックは、発表後に授業のなかで実施する。 【事前、事後学習課題】 ・文献調査・プレゼンテーション・レポート作成等。担当教員の指示に従うこと。(総時間数 60h)
関連科目	・世界の政治 ・エリアスタディーズ（各地域） ・比較政治学［本プロジェクトの基幹科目］、およびその他の協働学習プロジェクト各科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業への取り組み（30%）、プレゼンテーションおよびレポート（70%）をもとに総合的に評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	海外特別プロジェクトⅡ	科目名（英文）	Special Overseas Project II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期集中	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3546a0		

授業概要・ 目的	本科目は、海外留学中にオンラインで取り組む形式のプロジェクト科目です。3 年次前期の留学が決定した者のＣ領域のプロジェクト科目は、自動的にこちらへ変更になります。 本授業では、3 年次前期に海外留学中の学生を対象に、多様なメディア手段を駆使したメディア授業を本学教員との間で実施する。 学生はまず、留学先の「地域を知る」ための方法を学びつつ、留学先の地域について各人の観点から何らかの「調査」を行ない、その結果を発表して相互に意見交換をすることで、その地域の特性についての理解を深めることを目指す。さらに、当該地域との日本との今後の関係をどのように構想できるか、その可能性と選択肢についての提案も試みる。
到達目標	本授業では、以下の力を養うことを到達目標とする。 １．留学先の地域のことを知るための方法を身につける。 ２．留学先の地域について、自分の観点から考えた問題意識を持つことができる。 ３．留学先の地域において、さまざまな調査を実施する。 ４．調査をまとめて、授業で発表する。 ５．自分や他の学生の発表について、様々な視点から意見交換をする。 ６．最後に自分の調査についての客観的な振り返りができる。 ７．国際理解や国際共生のための知恵を養う。
授業方法と 留意点	「プロジェクト科目」は、アクティブラーニングやグループディスカッションなどを通して、課題解決に取り組む科目である。特に本授業は留学中に行うもので、現地で暮らす中で持った問題意識や、それに関する調査を現地の言語で行うことが必要になる。母国である日本との比較も行いながら、国や文化の違いを理解し、国際理解や国際共生のため知恵を養う。 授業が全てオンラインで行われる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	本授業は以下の要領で実施される。 授業テーマ：留学先での問題の発見と解決策 内容：留学先の地域、社会、生活に関して、自分の観点で問題点を見つけ、様々な調査を重ねた上で自分なりの解決策を考える。 方法：初回ー授業のイントロダクション、留学先の紹介等 ２回目～４回目ー留学先の地域・社会・生活の中で感じた問題点などを発表し、本当に解決したい問題のテーマを絞っていく ３回目～８回目ー調査方法を確認しつつ、調査を継続する。 ９回目ー中間発表とフィードバック １０回目～１４回目　最終報告に向けて調査の仕上げ １５回目ー最終報告会と意見交換、振り返り
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業への取り組み（３０％） プロジェクト活動への取り組み（３０％） 成果発表と意見交換（４０％）
学生への メッセージ	海外留学中も問題意識を持ち、現地での生活を経験する中で様々な問題点を見つけ、比較考察を繰り返しながら、自分なりの解決法を考えていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館４階西川研究室
備考	本科目における学習時間の総計は、60 時間を目安とする。

科目名	課題解決型ワークショップ	科目名（英文）	Problem-Solving Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金子　正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4◎		
科目ナンバリング	LDL3561a0		

授業概要・ 目的	本ワークショップは、世界あるいは日本における多様な課題解決への主体的な参画を志向する学生を対象とするものである。 学生は、内なる国際化・グローバルイシュー・地図の活用・訪日観光・リスクマネジメントといったテーマごとに設けられたクラスを選択する。また、それぞれのクラスがテーマに掲げる現代的な課題について、小グループごとに仮説を構築し、文献調査、聞き取り調査、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行ない、それらの実践を通じて、自らの仮説を検証・ブラッシュアップする。 最終的には、社会に向けてその成果を発信する一連の取り組みを通じて、課題解決のための実践力・思考力を養成することを目指す。
到達目標	・グローバル化する社会の中で、自ら課題を発見し、その解決に向けて必要な方法を提案できる力の習得。 ・国内外の様々な課題の発見・解決において、新しい発想を生み出す柔軟な思考力と判断力の習得。
授業方法と 留意点	・それぞれの専門分野を持つ担当教員から提示される課題について、受講者が主体的に取り組む形で進められる。 ・授業の一環として、学外学習・実習などを実施することもある。それにともなって、履修者には事前に相談のうえで、時間帯を移動することもある。 ・本ワークショップの履修登録については、通常の web 登録とは別に、前期開講後、希望のクラスを Forms で複数登録し、振り分けを実施する（１クラス 40 名程度を目安とする）。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	■本年度は、下記の５つのクラスが設置される。 【Ｄ１】内なる国際化（担当：朴一） このワークショップでは、「日本の内なる国際化」をテーマに、「外国人労働者問題」について当事者研究も含めた体験型学習を行ってみたい。在日韓国・朝鮮人、華僑・華人、日系ブラジル人・ペルー人、アジアからの技能実習生、特定技能者に関する先行研究を学習するとともに、各地域で行われている外国人労働者受け入れをめぐる諸問題の解決に向けた取組みを視察し、フィールドワークも取り入れた体験型学習を展開したい（フィールドワークは、土曜日に数回行う予定）。 【Ｄ２】グローバルイシュー（担当：原田豪） 気候変動をはじめとして、一国では対処が困難で全世界の協力が必要な「地球規模の課題」、グローバルイシューへの注目が高まり続けています。しかしながら、その注目とは裏腹に、各国の足並みは揃わず対応は鈍いままです。 なぜ共通の課題であるにもかかわらず、多国間協調は実現しにくいのでしょう？ このワークショップでは、「多国間合意形成過程」の考察、模擬を通じて、集団での意思決定に必要なスキル・姿勢の習得を目指します。 【Ｄ３】地図の活用（担当：小林基） このワークショップは、地図を活用した社会課題の解決方法を個々人またはグループごとに検討し、成果を公表することを目的とする。成果物はポスターやパンフレット、動画、アプリなどを問わないが、①客観的な地図や地理情報を活用していること、②オリジナルの（まだ世の中に存在しない）アイデアを盛り込んでいること、③フィールドワークの成果を盛り込んでいることを条件とする。地図に目がない学生諸君の積極的な参加と活躍に期待している！ 【Ｄ４】訪日観光（担当：金子正徳） このワークショップでは、訪日観光リピーター向けの大阪オプション・ツアーの提案が課題です。近年の訪日観光に関する概説的な講義の後、対象市場の特性についての分析、グループごとでの立案やフィールドワークによる検証、発表等に取り組みます。市場分析には、平易な英語の読解も必要です。もっとも必要なのは、指摘を活かしながら何度も自分たちの案をブラッシュアップする学びの過程にめげずに取り組み、成果につなげる意欲です。 【Ｄ５】リスクマネジメント（担当：檜山和司） ホテルや飲食業界では、日常業務に於いて多種多様なリスクが存在します。この授業では、過去の様々なトラブル、事故、災害等の諸問題を仮想設定。グループごとに協議して、原因分析、最適処理手法の検討と選択、今後の防止策を発表。課題解決への過程と方法を学ぶ授業です。 基本的には土曜日に数回分の授業をまとめて実施します。 リスクマネジメントを体系的、総合的に学習し、問題解決能力の育成と習得を目指します。 ■いずれのクラスでも、授業の初期の段階で、教員と相談しながら各自の調査プロジェクトを決めて、取り組むべき問題の検討や分析、必要に応じて調査を行なう。中盤以降は、各自の報告発表を実施し、他の学生・教員からのフィードバックを受けて議論を深めていく。学期終了時には、その成果を報告書にまとめ、全員で共有する。 ■毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各自の課題の検討や分析・調査、また報告発表の準備、報告書作成などに要する事前事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
関連科目	協働学習プロジェクトの各科目（プロジェクト科目・基幹科目・接続科目・実習演習科目）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	科目の性質上、定期試験は実施せず、成績評価は授業内の取り組み・提出課題に基づいて行なう（100%）。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	課題解決型ワークショップ	科目名（英文）	Problem-Solving Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4◎		
科目ナンバリング	LDL3561a0		

授業概要・ 目的	本ワークショップは、世界あるいは日本における多様な課題解決への主体的な参画を志向する学生を対象とするものである。 学生は、内なる国際化・グローバルイシュー・地図の活用・訪日観光・リスクマネジメントといったテーマごとに設けられたクラスを選択する。また、それぞれのクラスがテーマに掲げる現代的な課題について、小グループごとに仮説を構築し、文献調査、聞き取り調査、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行ない、それらの実践を通じて、自らの仮説を検証・ブラッシュアップする。 最終的には、社会に向けてその成果を発信する一連の取り組みを通じて、課題解決のための実践力・思考力を養成することを目指す。
到達目標	・グローバル化する社会の中で、自ら課題を発見し、その解決に向けて必要な方法を提案できる力の習得。 ・国内外の様々な課題の発見・解決において、新しい発想を生み出す柔軟な思考力と判断力の習得。
授業方法と 留意点	・それぞれの専門分野を持つ担当教員から提示される課題について、受講者が主体的に取り組む形で進められる。 ・授業の一環として、学外学習・実習などを実施することもある。それにともなって、履修者には事前に相談のうえで、時間帯を移動することもある。 ・本ワークショップの履修登録については、通常の web 登録とは別に、前期開講後、希望のクラスを Forms で複数登録し、振り分けを実施する（１クラス 40 名程度を目安とする）。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	■本年度は、下記の５つのクラスが設置される。 【Ｄ１】内なる国際化（担当：朴一） このワークショップでは、「日本の内なる国際化」をテーマに、「外国人労働者問題」について当事者研究も含めた体験型学習を行ってみたい。在日韓国・朝鮮人、華僑・華人、日系ブラジル人・ペルー人、アジアからの技能実習生、特定技能者に関する先行研究を学習するとともに、各地域で行われている外国人労働者受け入れをめぐる諸問題の解決に向けた取組みを視察し、フィールドワークも取り入れた体験型学習を展開したい（フィールドワークは、土曜日に数回行う予定）。 【Ｄ２】グローバルイシュー（担当：原田豪） 気候変動をはじめとして、一国では対処が困難で全世界の協力が必要な「地球規模の課題」、グローバルイシューへの注目が高まり続けています。しかしながら、その注目とは裏腹に、各国の足並みは揃わず対応は鈍いままです。 なぜ共通の課題であるにもかかわらず、多国間協調は実現しにくいのでしょう？ このワークショップでは、「多国間合意形成過程」の考察、模擬を通じて、集団での意思決定に必要なスキル・姿勢の習得を目指します。 【Ｄ３】地図の活用（担当：小林基） このワークショップは、地図を活用した社会課題の解決方法を個々人またはグループごとに検討し、成果を公表することを目的とする。成果物はポスターやパンフレット、動画、アプリなどを問わないが、①客観的な地図や地理情報を活用していること、②オリジナルの（まだ世の中に存在しない）アイデアを盛り込んでいること、③フィールドワークの成果を盛り込んでいることを条件とする。地図に目がない学生諸君の積極的な参加と活躍に期待している！ 【Ｄ４】訪日観光（担当：金子正徳） このワークショップでは、訪日観光リピーター向けの大阪オプション・ツアーの提案が課題です。近年の訪日観光に関する概説的な講義の後、対象市場の特性についての分析、グループごとでの立案やフィールドワークによる検証、発表等に取り組みます。市場分析には、平易な英語の読解も必要です。もっとも必要なのは、指摘を活かしながら何度も自分たちの案をブラッシュアップする学びの過程にめげずに取り組み、成果につなげる意欲です。 【Ｄ５】リスクマネジメント（担当：檜山和司） ホテルや飲食業界では、日常業務に於いて多種多様なリスクが存在します。この授業では、過去の様々なトラブル、事故、災害等の諸問題を仮想設定。グループごとに協議して、原因分析、最適処理手法の検討と選択、今後の防止策を発表。課題解決への過程と方法を学ぶ授業です。 基本的には土曜日に数回分の授業をまとめて実施します。 リスクマネジメントを体系的、総合的に学習し、問題解決能力の育成と習得を目指します。 ■いずれのクラスでも、授業の初期の段階で、教員と相談しながら各自の調査プロジェクトを決めて、取り組むべき問題の検討や分析、必要に応じて調査を行なう。中盤以降は、各自の報告発表を実施し、他の学生・教員からのフィードバックを受けて議論を深めていく。学期終了時には、その成果を報告書にまとめ、全員で共有する。 ■毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各自の課題の検討や分析・調査、また報告発表の準備、報告書作成などに要する事前事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
関連科目	協働学習プロジェクトの各科目（プロジェクト科目・基幹科目・接続科目・実習演習科目）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	科目の性質上、定期試験は実施せず、成績評価は授業内の取り組み・提出課題に基づいて行なう（100%）。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	課題解決型ワークショップ	科目名（英文）	Problem-Solving Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	原田　豪
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4◎		
科目ナンバリング	LDL3561a0		

授業概要・ 目的	本ワークショップは、世界あるいは日本における多様な課題解決への主体的な参画を志向する学生を対象とするものである。 学生は、内なる国際化・グローバルイシュー・地図の活用・訪日観光・リスクマネジメントといったテーマごとに設けられたクラスを選択する。また、それぞれのクラスがテーマに掲げる現代的な課題について、小グループごとに仮説を構築し、文献調査、聞き取り調査、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行ない、それらの実践を通じて、自らの仮説を検証・ブラッシュアップする。 最終的には、社会に向けてその成果を発信する一連の取り組みを通じて、課題解決のための実践力・思考力を養成することを目指す。
到達目標	・グローバル化する社会の中で、自ら課題を発見し、その解決に向けて必要な方法を提案できる力の習得。 ・国内外の様々な課題の発見・解決において、新しい発想を生み出す柔軟な思考力と判断力の習得。
授業方法と 留意点	・それぞれの専門分野を持つ担当教員から提示される課題について、受講者が主体的に取り組む形で進められる。 ・授業の一環として、学外学習・実習などを実施することもある。それにともなって、履修者には事前に相談のうえで、時間帯を移動することもある。 ・本ワークショップの履修登録については、通常の web 登録とは別に、前期開講後、希望のクラスを Forms で複数登録し、振り分けを実施する（１クラス 40 名程度を目安とする）。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	■本年度は、下記の５つのクラスが設置される。 【Ｄ１】内なる国際化（担当：朴一） このワークショップでは、「日本の内なる国際化」をテーマに、「外国人労働者問題」について当事者研究も含めた体験型学習を行ってみたい。在日韓国・朝鮮人、華僑・華人、日系ブラジル人・ペルー人、アジアからの技能実習生、特定技能者に関する先行研究を学習するとともに、各地域で行われている外国人労働者受け入れをめぐる諸問題の解決に向けた取組みを視察し、フィールドワークも取り入れた体験型学習を展開したい（フィールドワークは、土曜日に数回行う予定）。 【Ｄ２】グローバルイシュー（担当：原田豪） 気候変動をはじめとして、一国では対処が困難で全世界の協力が必要な「地球規模の課題」、グローバルイシューへの注目が高まり続けています。しかしながら、その注目とは裏腹に、各国の足並みは揃わず対応は鈍いままです。 なぜ共通の課題であるにもかかわらず、多国間協調は実現しにくいのでしょう？ このワークショップでは、「多国間合意形成過程」の考察、模擬を通じて、集団での意思決定に必要なスキル・姿勢の習得を目指します。 【Ｄ３】地図の活用（担当：小林基） このワークショップは、地図を活用した社会課題の解決方法を個々人またはグループごとに検討し、成果を公表することを目的とする。成果物はポスターやパンフレット、動画、アプリなどを問わないが、①客観的な地図や地理情報を活用していること、②オリジナルの（まだ世の中に存在しない）アイデアを盛り込んでいること、③フィールドワークの成果を盛り込んでいることを条件とする。地図に目がない学生諸君の積極的な参加と活躍に期待している！ 【Ｄ４】訪日観光（担当：金子正徳） このワークショップでは、訪日観光リピーター向けの大阪オプション・ツアーの提案が課題です。近年の訪日観光に関する概説的な講義の後、対象市場の特性についての分析、グループごとでの立案やフィールドワークによる検証、発表等に取り組みます。市場分析には、平易な英語の読解も必要です。もっとも必要なのは、指摘を活かしながら何度も自分たちの案をブラッシュアップする学びの過程にめげずに取り組み、成果につなげる意欲です。 【Ｄ５】リスクマネジメント（担当：檜山和司） ホテルや飲食業界では、日常業務に於いて多種多様なリスクが存在します。この授業では、過去の様々なトラブル、事故、災害等の諸問題を仮想設定。グループごとに協議して、原因分析、最適処理手法の検討と選択、今後の防止策を発表。課題解決への過程と方法を学ぶ授業です。 基本的には土曜日に数回分の授業をまとめて実施します。 リスクマネジメントを体系的、総合的に学習し、問題解決能力の育成と習得を目指します。 ■いずれのクラスでも、授業の初期の段階で、教員と相談しながら各自の調査プロジェクトを決めて、取り組むべき問題の検討や分析、必要に応じて調査を行なう。中盤以降は、各自の報告発表を実施し、他の学生・教員からのフィードバックを受けて議論を深めていく。学期終了時には、その成果を報告書にまとめ、全員で共有する。 ■毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各自の課題の検討や分析・調査、また報告発表の準備、報告書作成などに要する事前事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
関連科目	協働学習プロジェクトの各科目（プロジェクト科目・基幹科目・接続科目・実習演習科目）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	科目の性質上、定期試験は実施せず、成績評価は授業内の取り組み・提出課題に基づいて行なう（100%）。
学生へのメッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	課題解決型ワークショップ	科目名（英文）	Problem-Solving Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	檜山　和司
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4◎		
科目ナンバリング	LDL3561a0		

授業概要・ 目的	本ワークショップは、世界あるいは日本における多様な課題解決への主体的な参画を志向する学生を対象とするものである。 学生は、内なる国際化・グローバルイシュー・地図の活用・訪日観光・リスクマネジメントといったテーマごとに設けられたクラスを選択する。また、それぞれのクラスがテーマに掲げる現代的な課題について、小グループごとに仮説を構築し、文献調査、聞き取り調査、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行ない、それらの実践を通じて、自らの仮説を検証・ブラッシュアップする。 最終的には、社会に向けてその成果を発信する一連の取り組みを通じて、課題解決のための実践力・思考力を養成することを目指す。
到達目標	・グローバル化する社会の中で、自ら課題を発見し、その解決に向けて必要な方法を提案できる力の習得。 ・国内外の様々な課題の発見・解決において、新しい発想を生み出す柔軟な思考力と判断力の習得。
授業方法と 留意点	・それぞれの専門分野を持つ担当教員から提示される課題について、受講者が主体的に取り組む形で進められる。 ・授業の一環として、学外学習・実習などを実施することもある。それにともなって、履修者には事前に相談のうえで、時間帯を移動することもある。 ・本ワークショップの履修登録については、通常の web 登録とは別に、前期開講後、希望のクラスを Forms で複数登録し、振り分けを実施する（１クラス 40 名程度を目安とする）。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	■本年度は、下記の５つのクラスが設置される。 【Ｄ１】内なる国際化（担当：朴一） このワークショップでは、「日本の内なる国際化」をテーマに、「外国人労働者問題」について当事者研究も含めた体験型学習を行ってみたい。在日韓国・朝鮮人、華僑・華人、日系ブラジル人・ペルー人、アジアからの技能実習生、特定技能者に関する先行研究を学習するとともに、各地域で行われている外国人労働者受け入れをめぐる諸問題の解決に向けた取組みを視察し、フィールドワークも取り入れた体験型学習を展開したい（フィールドワークは、土曜日に数回行う予定）。 【Ｄ２】グローバルイシュー（担当：原田豪） 気候変動をはじめとして、一国では対処が困難で全世界の協力が必要な「地球規模の課題」、グローバルイシューへの注目が高まり続けています。しかしながら、その注目とは裏腹に、各国の足並みは揃わず対応は鈍いままです。 なぜ共通の課題であるにもかかわらず、多国間協調は実現しにくいのでしょう？ このワークショップでは、「多国間合意形成過程」の考察、模擬を通じて、集団での意思決定に必要なスキル・姿勢の習得を目指します。 【Ｄ３】地図の活用（担当：小林基） このワークショップは、地図を活用した社会課題の解決方法を個々人またはグループごとに検討し、成果を公表することを目的とする。成果物はポスターやパンフレット、動画、アプリなどを問わないが、①客観的な地図や地理情報を活用していること、②オリジナルの（まだ世の中に存在しない）アイデアを盛り込んでいること、③フィールドワークの成果を盛り込んでいることを条件とする。地図に目がない学生諸君の積極的な参加と活躍に期待している！ 【Ｄ４】訪日観光（担当：金子正徳） このワークショップでは、訪日観光リピーター向けの大阪オプション・ツアーの提案が課題です。近年の訪日観光に関する概説的な講義の後、対象市場の特性についての分析、グループごとでの立案やフィールドワークによる検証、発表等に取り組みます。市場分析には、平易な英語の読解も必要です。もっとも必要なのは、指摘を活かしながら何度も自分たちの案をブラッシュアップする学びの過程にめげずに取り組み、成果につなげる意欲です。 【Ｄ５】リスクマネジメント（担当：檜山和司） ホテルや飲食業界では、日常業務に於いて多種多様なリスクが存在します。この授業では、過去の様々なトラブル、事故、災害等の諸問題を仮想設定。グループごとに協議して、原因分析、最適処理手法の検討と選択、今後の防止策を発表。課題解決への過程と方法を学ぶ授業です。 基本的には土曜日に数回分の授業をまとめて実施します。 リスクマネジメントを体系的、総合的に学習し、問題解決能力の育成と習得を目指します。 ■いずれのクラスでも、授業の初期の段階で、教員と相談しながら各自の調査プロジェクトを決めて、取り組むべき問題の検討や分析、必要に応じて調査を行なう。中盤以降は、各自の報告発表を実施し、他の学生・教員からのフィードバックを受けて議論を深めていく。学期終了時には、その成果を報告書にまとめ、全員で共有する。 ■毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各自の課題の検討や分析・調査、また報告発表の準備、報告書作成などに要する事前事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
関連科目	協働学習プロジェクトの各科目（プロジェクト科目・基幹科目・接続科目・実習演習科目）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	科目の性質上、定期試験は実施せず、成績評価は授業内の取り組み・提出課題に基づいて行なう（100%）。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	課題解決型ワークショップ	科目名（英文）	Problem-Solving Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	朴　一
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4◎		
科目ナンバリング	LDL3561a0		

授業概要・ 目的	本ワークショップは、世界あるいは日本における多様な課題解決への主体的な参画を志向する学生を対象とするものである。 学生は、内なる国際化・グローバルイシュー・地図の活用・訪日観光・リスクマネジメントといったテーマごとに設けられたクラスを選択する。また、それぞれのクラスがテーマに掲げる現代的な課題について、小グループごとに仮説を構築し、文献調査、聞き取り調査、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行ない、それらの実践を通じて、自らの仮説を検証・ブラッシュアップする。 最終的には、社会に向けてその成果を発信する一連の取り組みを通じて、課題解決のための実践力・思考力を養成することを目指す。
到達目標	・グローバル化する社会の中で、自ら課題を発見し、その解決に向けて必要な方法を提案できる力の習得。 ・国内外の様々な課題の発見・解決において、新しい発想を生み出す柔軟な思考力と判断力の習得。
授業方法と 留意点	・それぞれの専門分野を持つ担当教員から提示される課題について、受講者が主体的に取り組む形で進められる。 ・授業の一環として、学外学習・実習などを実施することもある。それにともなって、履修者には事前に相談のうえで、時間帯を移動することもある。 ・本ワークショップの履修登録については、通常の web 登録とは別に、前期開講後、希望のクラスを Forms で複数登録し、振り分けを実施する（１クラス 40 名程度を目安とする）。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	■本年度は、下記の５つのクラスが設置される。 【Ｄ１】内なる国際化（担当：朴一） このワークショップでは、「日本の内なる国際化」をテーマに、「外国人労働者問題」について当事者研究も含めた体験型学習を行ってみたい。在日韓国・朝鮮人、華僑・華人、日系ブラジル人・ペルー人、アジアからの技能実習生、特定技能者に関する先行研究を学習するとともに、各地域で行われている外国人労働者受け入れをめぐる諸問題の解決に向けた取組みを視察し、フィールドワークも取り入れた体験型学習を展開したい（フィールドワークは、土曜日に数回行う予定）。 【Ｄ２】グローバルイシュー（担当：原田豪） 気候変動をはじめとして、一国では対処が困難で全世界の協力が必要な「地球規模の課題」、グローバルイシューへの注目が高まり続けています。しかしながら、その注目とは裏腹に、各国の足並みは揃わず対応は鈍いままです。 なぜ共通の課題であるにもかかわらず、多国間協調は実現しにくいのでしょう？ このワークショップでは、「多国間合意形成過程」の考察、模擬を通じて、集団での意思決定に必要なスキル・姿勢の習得を目指します。 【Ｄ３】地図の活用（担当：小林基） このワークショップは、地図を活用した社会課題の解決方法を個々人またはグループごとに検討し、成果を公表することを目的とする。成果物はポスターやパンフレット、動画、アプリなどを問わないが、①客観的な地図や地理情報を活用していること、②オリジナルの（まだ世の中に存在しない）アイデアを盛り込んでいること、③フィールドワークの成果を盛り込んでいることを条件とする。地図に目がない学生諸君の積極的な参加と活躍に期待している！ 【Ｄ４】訪日観光（担当：金子正徳） このワークショップでは、訪日観光リピーター向けの大阪オプション・ツアーの提案が課題です。近年の訪日観光に関する概説的な講義の後、対象市場の特性についての分析、グループごとでの立案やフィールドワークによる検証、発表等に取り組みます。市場分析には、平易な英語の読解も必要です。もっとも必要なのは、指摘を活かしながら何度も自分たちの案をブラッシュアップする学びの過程にめげずに取り組み、成果につなげる意欲です。 【Ｄ５】リスクマネジメント（担当：檜山和司） ホテルや飲食業界では、日常業務に於いて多種多様なリスクが存在します。この授業では、過去の様々なトラブル、事故、災害等の諸問題を仮想設定。グループごとに協議して、原因分析、最適処理手法の検討と選択、今後の防止策を発表。課題解決への過程と方法を学ぶ授業です。 基本的には土曜日に数回分の授業をまとめて実施します。 リスクマネジメントを体系的、総合的に学習し、問題解決能力の育成と習得を目指します。 ■いずれのクラスでも、授業の初期の段階で、教員と相談しながら各自の調査プロジェクトを決めて、取り組むべき問題の検討や分析、必要に応じて調査を行なう。中盤以降は、各自の報告発表を実施し、他の学生・教員からのフィードバックを受けて議論を深めていく。学期終了時には、その成果を報告書にまとめ、全員で共有する。 ■毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各自の課題の検討や分析・調査、また報告発表の準備、報告書作成などに要する事前事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
関連科目	協働学習プロジェクトの各科目（プロジェクト科目・基幹科目・接続科目・実習演習科目）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	科目の性質上、定期試験は実施せず、成績評価は授業内の取り組み・提出課題に基づいて行なう（100%）。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	ホスピタリティ実習演習	科目名（英文）	Practical Hospitality Training
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	濱岡　美衣
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4◎		
科目ナンバリング	LDL3562a0		

授業概要・ 目的	ＡＮＡ総合研究所と連携し、観光・ホスピタリティ関連の授業で学んだ内容を実践する授業です。 日本の主要航空会社のグループ航空会社で旅客サービス部門を長年にわたり担当してきた講師が、実務経験を踏まえた授業を実施します。 当授業はホスピタリティ産業において実務の体験をすることにより、 ①社会における仕事の役割・意義 ②責任とやりがい ③ホスピタリティの本質を体感する 以上のことを目的とします。
到達目標	ホスピタリテイ産業の現場で実務を体験することにより、仕事の厳しさ、楽しさ、やりがいなどを実感して、就業意識を高めることを目標とする。また、ここまで授業で学んできたホスピタリティの知識や感性を実際に発揮する機会を得ることである。
授業方法と 留意点	5 月頃、対象企業、参加人数、実施日時確定後に説明会を開催。 履修希望者は ES を提出。選考後、履修者発表。 （希望者多数の場合は、機会均等の観点から 2 年時に「体験型特別実習 A」に参加していないものを優先する） 7～8 月上旬、事前集中授業を開催。（参加者は必ず受講のこと） 8 月中下旬、各企業のインターンシップに参加。 9 月、後期授業開始前に事後授業(体験報告)を実施。 受入企業に迷惑がかかるため、受講態度、マナーの悪いものは本インターンシップへの参加を認めません。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	［事前･事後授業］ 下記①は 39 時間、②は 14 時間 （1）事前授業 前期授業終了後、本学内で 2～6 回の事前集中授業を実施し、対象事業の基礎知識を習得するとともに、 それぞれの目標、目的を見直し、参加にあたっての心構えを作り上げる。 （2）インターンシップ（2024 年度の対象企業は確定していません。下記は 2023 年度に実践した企業です） ① 海外空港業務体験（2 名） ・台北空港での空港旅客取扱業務の実践（4 泊 5 日） ・対象企業　：　ANA 台北空港所、ANA 台北支店 ② ホテル業務訓練の体験（3 名） ・ホテルでの新入訓練と同等訓練の圧縮版を体験 ・2 週間程度で実際の訓練と実務を体験（通い） ・対象企業　：　ＡＮＡクラウンプラザホテル大阪 （3）事後授業 後期授業開始前に事後授業とし 2 コマの報告会を実施する。
関連科目	ホスピタリティ論、ホテルビジネス論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論など
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	各インターンシップとも受入企業先評価 40%、事前・事後授業の参加姿勢 20%、体験報告の内容 40%
学生への メッセージ	憧れのホスピタリティ産業。 ここまで学んできた知識や感性が実際の仕事を経験する中で、どこまで通用するか実感することは今後の大きな収穫です。是非、この機会にチャレンジして、ホスピタリティ産業と自分との距離を縮めてみましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（エアライン・ホスピタリティプログラムルーム）
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になります。

科目名	ホスピタリティ実習演習	科目名（英文）	Practical Hospitality Training
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	伊達　寛.沖中　美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4◎		
科目ナンバリング	LDL3562a0		

授業概要・ 目的	本演習は、航空会社の現業部門等で幅広く実務を担当した実務経験者の教員と、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とした授業である。演習で設定されるテーマに沿った調査・分析・プレゼンテーション・質疑応答を通して、航空・観光業界に関する知識の体系化と表現力の向上を目指す。
到達目標	・キャリア形成に関するビジョンを明確化、具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、課題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。 ・課題のポイントをつかみ、分担する担当業務を果たす責任感、担当者間のチームワークや課題発表能力の向上を図ることで、企業説明会で主流となっているグループ面談で主導的役割を果たす力を身につけることを目標とする。
授業方法と 留意点	対面授業で実施する。 ・本演習では、参加者を少人数のチームに分け、選ばれたテーマについて議論、報告資料作成を経て発表する。ひとつのテーマに３回程度をかけて実施、１セメスターで４つ程度のテーマを選定する。 ・１つのテーマについて、１回目は持ち寄った資料について議論、発表の方向性を決める。２回目は発表資料の作成。３回目はチーム毎の発表と質疑応答。テーマごとに役割分担を代え、履修者各々が能力を伸ばせるようにする。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 本演習ではこれまで学んできた観光、航空、旅行、宿泊産業等にかかわるテーマを選定し、演習参加者で議論して報告資料を作成し発表する。 前年度のテーマ選定例（下記から３つ選定、本年度は別途提示） ①航空は新幹線にどう対抗すべきか。北陸新幹線を例に考える。 ②訪日外国人 6,000 万人を目指すって!、オーバーツーリズムをどうやって解消する? ③続々と進出する高級ブランドの外資ホテルに日本のホテルはいかに対抗するべきか？ ④アフターコロナの FSC(フルサービスキャリア)は LCC とどうすみ分ける? ⑤もうすぐ開催される大阪関西万博を成功させるためには? ⑥魅力ある旅行計画の作成。 ４回目は下記から選択したテーマについて賛成・反対の立場から発表、議論する。 ⑦民泊の是非、日本に民泊は根付くのだろうか。 ⑧ＩＲ推進法、日本にカジノは必要か。 【事前、事後学習課題】 選定テーマの調査、プレゼンテーション・発表資料作成等。演習担当者の指示に従うこと。 【事前、事後学習時間】 資料収集、発表資料や原稿の作成等総時間数は 60h
関連科目	ホスピタリティ論、ホテルビジネス論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論等、観光ホスピタリティー関連授業
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業への取り組み(40%)、プレゼンテーション(60%)をもとに評価する。 特にグループ討論や作業が中心のため、授業参加意欲を重視する。 10 回以上の出席が必要であり、出席実績がないと評価の対象とならない。 議論の積極性、チームのまとまりや発表能力等も考慮して評価する。
学生への メッセージ	興味ある課題について、知りたいことや疑問点などを自分で調べて研究し、答えを見つけ出すのも大きな喜びです。 常に問題意識を持って新聞やテレビニュースなどに接してください。本演習でのグループディスカッションやプレゼンテーションなどは就職活動にも役立ちます。
担当者の 研究室等	７号館４階（エアライン・ホスピタリティールーム）
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは、授業内の発表時に実施します。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。
授業方法と留意点	前半は各自がテーマを複数考え、みなでディスカッションしながらテーマを絞り込む。また、文献の検索方法や研究の方法論について学ぶ。 後半は絞り込んだテーマについて調べ、レポートにまとめ、報告、議論する。 課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 歴史、文化とは何か　文献の検索と活用方法　テーマ設定 【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	ゼミ活動への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	赤澤研究室（７号館４階）
備考	事前事後の学習にかかる総時間を６０時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	小説を読む習慣を身に着けるとともに、物語を通して身近な物事に関心を持つ。
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	ゼミのねらい 小説は時計（timepiece）に似ている。大小さまざまな歯車が複雑に絡み合い、針という名の物語を動かす。したがって、小説を理解するには、時計の場合と同じく、作品（literary piece）を収集し、分解し、復元することが欠かせない。 時計との類似は内部構造に留まらない。時計の誕生と発展の歴史は、社会における小説の意義と役割を考えるのに参考になる。なぜなら、好むと好まざるにかかわらず、小説もまた人々の知覚・思考に働きかけ、人々の行動に方向づけを与えるものだからである。本ゼミでは、時計の比喩を用いながら、小説を内と外から考える。 前　期　　小説を探す・集める・読む、書店めぐり、古本屋めぐり、読書月間（６月） 後　期　　小説を探す・集める・読む、図書館めぐり、読書月間（11 月）
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%
学生へのメッセージ	小説はいつも近くにあるだけでなく、つねに身近な問題を扱っています。ゼミ活動を通して、小説を身近に感じるとともに、身近にある問題を見つけて理解を深めましょう。
担当者の研究室等	７号館３階　天野研究室
備考	事前事後の学習にかかる総時間を６０時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	テーマ「戦後から現在に至る社会と人間の変化を「メディア」というキーワードによって読み解く　──「我々はどこから来たのか　我々は何者か　我々はどこへ行くのか」── 　現代の社会は大きな変化を遂げてきた。高度成長期の未来に夢を託した時代からバブル崩壊後の先が見えない時代への移りゆきは、わずか四半世紀のことである。 　時代の変化が「新しいメディア」にもっともよく表されていることが、現代のもう一つの特徴である。例えば、テレビ、マンガ、ゲーム、インターネット（BBS, SNS）である。このゼミでは、メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。
到達目標	メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。 メディアと時代との結びつきについて深く洞察、検討をする力をつける。 人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を力を身につける。 必要な文献の蒐集と読解をする。
授業方法と 留意点	ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。 卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【テーマ・内容】 ①自分の興味のある作品、事例を持ち寄り、考察・発表とディスカッションをする。考察対象の選び方、考察・発表の進め方は、参加者と相談の上で決める。②卒業論文の作成についての指導も授業時、また、個別に行う。 【方法】 資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。 今年度は基礎的文献として東浩紀『動物化するポストモダン』を取り上げる。 個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。 【事前事後学習課題】 発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 新版 大学生のためのレポート・論文術 / 小笠原喜康 / 講談社現代新書 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション]（60%）、レポート（40%）で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　有馬研究室
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。前半は文化人類学者による調査に関する参考文献を講読する。文献の講読を通じて、人類学的なものの見方について学ぶ。後半は受講者自身による調査主題の設定に当てる。相互のディスカッションを通じて人類学的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。
到達目標	適切な調査テーマを設定するとともに、そのアプローチの仕方を知る。
授業方法と 留意点	前半は文化人類学に関する文献講読を行う。毎回の授業では文献に関する内容の理解を問う。 後半はディスカッション等に当てる。 学外の機関や施設において実習を行うことがある。詳細は初回授業時に指示する。 レポート等の提出課題は評価を記して返却する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	「人類学的に調べる」が本演習の主題である。文献講読と相互のディスカッションが中心になる。発表担当者は文献の内容について 30 分程度で報告をする。コメント担当者は 5 分程度のコメントが求められる。聴衆は発表についての質問をすることが求められる。いずれの役割を担うにしても、ゼミの時間を有意義に使うために、授業の前後には指定された文献を精読しておくこと。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	発言や質問など、演習への主体的な取り組み（20%）、課題（50%）、口頭発表（30%）に基づいて行う。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館５階（上田研究室）
備考	総学修時間数は６０時間。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・目的	２年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとしたい。具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究手法や考え方を体得する。
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、日頃のゼミ活動を通してゼミ内外の人びとと接することを通じ、「気くばり」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、７～８月に行われる４年ゼミ生による「卒業論文中間発表会」への参加を必須としている。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ①研究方法論（研究テーマの設定法、文献資料の収集法、学術研究論文の構成や論理、研究発表や研究討論の進め方等）についての解説を行う。 ②受講生各自が関心をもつテーマについて、それがテーマとなり得るか否かを全員で討論し、各自がテーマの絞り込み作業を行う。 【事前、事後学習課題】 自身の関心のあるテーマについて、事前学習をすること。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「研究」を進めるために―研究資料ガイド2024―	浦野崇央編	摂南大学国際学部・浦野ゼミ
2	浦野ゼミの手引き―「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）―	浦野ゼミ	摂南大学国際学部・浦野ゼミ
3			

評価方法（基準）	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、討論への積極的な参加状況（５０％）、レポートの内容（５０％）により、総合的に判断します。 なお、１回目の授業で、今後のスケジュールや参考文献資料を記した小冊子（「参考書」欄に記載）を配布し、ガイダンスを行います。
学生へのメッセージ	「研究する」という行為は、実はとてもワクワクし、楽しいものです。大学生であることを自覚し、「研究」に勤しみましょう。
担当者の研究室等	７号館４階　浦野研究室
備考	事前事後学修時間数の目安は６０時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷　侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	地理学、世界の人々の暮らし、島の地理学、サンゴ礁、マングローブ、途上国、地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマを各自が設定し、テーマについて関心を深めていく作業を行います。
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける
授業方法と 留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。 課題などのフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ 【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は６０時間以上を目安とする。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況（議論での積極性等）（50%）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50%）によって評価する
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館５階 大谷研究室
備考	総学修時間数は６０時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・目的	香港、台湾などを含め、広く中国語圏に関する研究を通して、その文化や社会に対する理解を深めるとともに、それぞれがテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学ぶ。また授業外での調査を通して、その方法を実践する。
到達目標	自ら課題を設定し、それを調査、分析、発表するための基礎的な力を習得する。
授業方法と留意点	文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のあるテーマを設定し、発表、討論する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 中国語圏の社会・文化に関する文献を講読する。 各自が関心をもっている事柄について文献リストおよびレビューを作成し、発表する。 【事前事後学習】 課題文献をしっかり読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	授業への貢献（50%）、発表・レポート（50%）によって総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	小都研究室（7 号館 3 階）
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	歴史学やヨーロッパの文化、ジェンダーに関する知識を深めながら、歴史学の方法を学び、自身の関心あるテーマについて調べ、発表を行う。
到達目標	歴史的な視点からヨーロッパの歴史や現在のマイノリティの問題を理解するとともに、文献などを通して適切に情報を集める方法を身につける。また、情報を整理し、自分の考えを表現する力を養う。
授業方法と 留意点	前期の授業の前半は歴史やジェンダーに関する文献を読み、担当者が担当部分の発表をし全員で議論する。後半は主に学生の発表を中心に授業を行う。発表しない学生も、それに関して質問したり、意見を述べたりして、ディスカッションを行う。期末には授業中に行った発表をもとに、そこでの指摘を改善し、レポートを作成する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 歴史やジェンダーに関するテーマを中心に、資料を講読するとともに、各自自分の関心のあるヨーロッパの歴史やジェンダーの問題について調べ学習をして、授業ではそれを発表しディスカッションする。 適宜、共通のテーマの史料・文献なども読んで歴史の知識を深めて考える内容も行う。 【事前学修】授業で共通の文献が示された場合は、それを読んでくる。また、自身の関心のある文献収集をし、自分のテーマについて知識を深める。 【事後学修】授業中に指摘された点について、調べなおしたり、検討しなおしたりする。そうしたことを、次回の発表や期末レポートのために整理する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ゼミ活動参加 30%、授業中の発表や研究の進み具合 40%、期末レポート 30%。
学生への メッセージ	ゼミは、自分の好きなテーマを深めて考え、またゼミ生の仲間とともに高めあう場です。一つの共同体として、楽しく行うことも心掛けながら、しっかりと発表などは責任を持ち自分の役割を果たすことが求められます。できるだけリラックスして、いろいろな意見が言えるようなゼミを運営していきたいと思いますが、しっかり個人でやるべきことはやっていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館４階　加来研究室
備考	事前事後の学習にかかる総時間を６０時間程度とする。

科目名	文化演習 I	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原　郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	４技能の向上を目指し、さまざまな ICT 教材の教材研究を行いながら、実践的に ICT 英語学習に取り組み、効果的な学習方法を探ります。また学習継続するための教材に必要な要素・学習継続につながる動機付けについても考察する。
到達目標	（１）４技能を高める ICT 教材を知る （２）自分の興味・英語力にあった ICT 教材を選択することができる （３）目標とする資格試験に必要となる英語学習量を把握できる
授業方法と 留意点	さまざまな ICT 教材を紹介しながら、自身の興味・英語力にあったリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの教材に取り組み、教材内容・学習履歴について毎週検討を行います。課題に関するフィードバックは授業内で行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ４技能を高めるさまざまな ICT 教材を実践的に活用し、学習継続するための必要な要素を考察する。 Reading・Listening・Speaking・Writing をテーマに、各テーマに特化した ICT 教材に取り組み、その学習履歴データと英語力の変化の変遷を記録する。個別コーチングも取り入れ、学習継続を実践する。授業期間内に、各自希望する資格試験を受験し、学習履歴と得点との関連を客観的に考察する。 【事前事後学習課題】 毎回紹介する ICT 教材を授業外で積極的に活用することが望まれる。
関連科目	文化演習 II
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	教材への取り組み(50%)、プレゼン発表及びその他課題（20%)、レポート（20%)、授業への貢献（10%）によって総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の苦手・得意な分野を ICT 教材を積極的に活用し、楽しみながら学習継続できる方法を探って下さい。目標とする資格試験の得点に届くよう伴走していきたいと思っています。
担当者の 研究室等	７号館４階 柏原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。 単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。 ＊日本語学習者の言語習得 ＊日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 ＊外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション ＊海外における日本語教育 ＊在住外国人や留学生に関すること　　等々です。 海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして 自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。
到達目標	＊専門的な知識を得る。 ＊文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 ＊テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 ＊アカデミックライティングのスキルを身につける。 ＊ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 ＊卒業研究のテーマの設定を行う。
授業方法と 留意点	【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、４年時の卒業研究につなげていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当者を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。 発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。 発表後は、内容についてディスカッションを行う。 【事前事後学習課題】(毎回 1.5H) 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。 学期末には、コメントを参考に再度レポートを加筆修正して提出する。
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 文献資料、プリントを配布する / / / 2 / / / / 3 / / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 授業で指示する / / / 2 / / / / 3 / / / /
評価方法 （基準）	授業への参加度(20%)、発表及びその他課題（60%)、レポート（20%）によって総合的に評価する。
学生への メッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語（日本語）です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人（日本語を母語としない人）に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語や日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。 課外ゼミでは、様々な日本語教育機関を訪問し、外国人学習者と交流します。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　門脇研究室
備考	事前事後の学習にかかる総時間を６０時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子　正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・目的	このゼミでは、日常生活レベルの草の根的な視点や文化人類学的フィールドワークの手法を生かしながら、衣・食・住から出発して日常の視線を活かして考え、国内外の多様なひとの暮らしに関わる多様なテーマを学んでいく。
到達目標	草の根的な視点からの他者理解が出来る。 学術的な研究手法および研究成果公開の基礎を習得する。
授業方法と留意点	現代社会の社会文化動態に関する学術書の購読のほか、博物館見学やかんたんなフィールドワークなどを行う。博物館見学やフィールドワークについては、所定の授業日とは異なる日程で振り替えて実施する。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	第１回：ゼミの流れと学習内容、学習方法について 第２回から第４回：衣・食・住に関する教科書的な内容をまなぶ 第５回から第７回：文献購読（前半）※担当章に関する発表 第８、９、10 回：国立民族学博物館見学 第 11 回から第 14 回：文献購読（後半）※担当章に関する発表 第 15 回：まとめ
関連科目	文化演習Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	課題提出 60%、平常点 40% 「課題」は、小レポート提出のほか、文献購読の担当などを含みます。 「平常点」には、博物館見学やフィールドワークへの主体的な参加などを含みます。
学生へのメッセージ	このゼミの学術ベースは「文化人類学」です。 先入観にとらわれず、多角的にモノやコトを捉え、あらたな発見を目指しましょう。
担当者の研究室等	７号館５階金子研究室
備考	フィールドワーク（1 日もしくは 1 泊 2 日）をどこで行うかについては、受講生を交えて検討する。 事前事後学習時間の目安は計６０時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。
授業方法と留意点	「AI（人工知能）」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】　AI の活用と可能性　【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	授業への積極性　50% 授業での発言　20% 課題　30%
学生へのメッセージ	これから２年間、一緒に頑張っていきましょう。
担当者の研究室等	後藤研究室（７号館５階）
備考	総学修時間数は６０時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・目的	この授業のテーマは「まちづくり」である。主に地域コミュニティにおける市民活動および非営利事業の実態や実施、展開の仕方について、実地経験を交えながら学んでいく。 まちづくりはその担い手にとって「人助け」の要素と「自己実現」の要素を含み、どちらも等しく重要である。言い換えれば、実践的なまちづくりについての学びは、「当事者性」を抜きにして進めることはできない。そのため、自らの関心事を地域社会の文脈と結びつけて考える力を養うことが必要である。 ３年生向けゼミの前半にあたるこの授業では、ゼミ生それぞれの関心事についての掘り下げ、実際の市民活動への視察・参加や、市民活動の担い手の方々との対話を通じ、まちづくりについての血肉の通った知見を身に着けることを目的とする。
到達目標	①市民活動や非営利事業の実態と意義について、自らの体験を踏まえて説明することができる。 ②自らの考えを、言葉やメディアを使って他の人が分かるように表現することができる。 ③自らの将来と地域社会の将来について構想を持ち（暫定的なものでもよい）、説明することができる。
授業方法と留意点	・学生はほぼ毎回課題に取り組み、授業時間でその成果を報告し合い、ディスカッションをする。課題は、関連資料の読み込み、プレゼン資料作成などである。教員が毎回指示する。 ・学外でのフィールドワークを実施し、振り返りのための報告書を作成する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	履修生の学習の進捗やフィールドワーク先との交渉などにより、内容・時期の微修正や順序の入れ替えなどが発生する可能性がある。 ◆前期の授業テーマ：「自分自身を知る、まち・人を知る」 ・第１回は、オリエンテーションと授業の概要説明（授業の進め方とまちづくりの概要について）とする。 ・授業前半（第２～10 回）では、各メンバーの関心と構想について発表し、それをもとにディスカッションを行う。 ・授業後半（第 10～15 回）では、まちづくり現場の現地視察を行い、レポートを各自作成、報告する。 ◆内容・方法 １）研究とは何か、まちづくりとは何か.....まちづくりとはどういう営みかを学ぶ（第１回）。 ２）コーチングとワークショップ.....個人、グループから見解を引き出す方法を学ぶ（第２回～第１０回） ３）事業構想とその深め方.....非営利事業を構想する際の過程・方法について理解し実践する（第２～10 回）。 ４）フィールドワーク.....非営利事業を行う人々との交流とイベントへの参画（第 11～12 回）。 ５）プレゼンテーション.....プレゼンテーションの作成法を理解し実践する（第 10～15 回）。 ◆事前・事後学習課題 たんに授業に出席するだけでは卒業研究に十分な技能を身につけることはできない。教員が授業中に提示した課題（宿題）に積極的に取り組むほか、自主的に興味ある事柄の探索、関連情報の収集を行うこと。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	提出された課題やレポートの水準 60%、授業への積極性 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階小林特任講師室 ※用事がある場合は必ず事前にメールで連絡すること（hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp）。
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	・資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 ・グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。
到達目標	・多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身に着ける。 ・想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。
授業方法と 留意点	・授業時間にインターンシップや面接を入れないよう、各自が学外関係者と時間調整をしてください。 ・実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 ・新聞やニュースの記事（日本語・英語）、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 ・課題などのフィードバックは授業中に行います。 昨年よりも攻めの姿勢で、自分にできることを探して過ごしましょう。日々、社会の情報を多角的に捉える練習ができます。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、英術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 ・なんとなく観て聞いておもしろい、を超えた分析をできるように、時事ニュース也文学作品を出発点に文献を集めたり、ディスカッションしたりします。予習で映像をじっくり観ること、を指定する週もあります。 ・また、学期中に複数回、ビブリオバトルを行います。おもしろい本をたくさん読んで準備してください。 【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行って調べたり、インターネットとは違う情報源を探してみましょう。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業にて指定します		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業にて紹介します		
2			
3			

評価方法 （基準）	・授業での協働作業　　３０％ ・プレゼンテーション　３０％ ・レポート　　４０％
学生への メッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　齋藤研究室
備考	担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方　ほか 事前事後の総学習時間数は６０時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山　博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	【いかにイメージとテクストを対話させるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテクスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテクストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）を浮き彫りにすることを目指す。
到達目標	【以下の２つの技術を習得する】 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテクストを読解して自分なりに理解する方法
授業方法と 留意点	【ゼミ生が主体で進める】 1. 各自のテーマに関連するテクストを読解、発表する。 2. その報告に対して質問する。 3. 学生へのフィードバックは slack もしくは対面で実施する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【イメージ論と向き合う】 1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. それに対して他の学生は質問する。 4. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	【質問も重視される】 1. 発表内容［40%］ 2. 質問内容［40%］ 3. その他課題［20%］
学生への メッセージ	【より良い質問をめざす】 1. より良い質問をするために、ゼミに集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室
備考	【イメージを見ている自分を自覚する】 1. 事前事後に学修時間計 60 時間を予定している。 2. 日々接するさまざまなイメージを漠然と見るのではなく、それを見ている自分が感じる印象について自覚的になる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。 第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」（データ・資料）を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。
授業方法と 留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	演習内では、学生自身が発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。 発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	平常点（発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等）100％
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　田中研究室
備考	事前事後学習時間は、総計で 60 時間を目安とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・目的	Students will learn theories in the field of intercultural communication and will apply knowledge to real-world situations. There will be opportunities to interact with people from various countries in collaboration with the Global Education Center. Students will also conduct PBL to create and implement projects related to intercultural communications.
到達目標	1. Students can understand the principles of theories in intercultural communication. 2. Students can reflect on their experiences of interacting with people from different cultural backgrounds using theories in intercultural communication. 3. Students can increase their intercultural sensitivity through interactions with people from various cultural backgrounds. 4. Students can begin their search for a suitable topic for their graduation paper. 5. Students can become more confident in their English skills.
授業方法と留意点	We will design and create various projects together, for both in-person and online interactions with people from various cultural backgrounds.
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	Learning about intercultural communication: - Reading about theories on intercultural communication. - Engaging in both in-person and online intercultural communication. - Reflecting on personal experiences. In-person intercultural exchanges: - Interacting with students from Fayetteville Technical Community College to learn about cultural differences. - Interacting with students from Berry College to discuss differences in English education and intercultural education. - Interacting with students from the Global Education Center Japanese language and culture program. Virtual intercultural exchanges: - Various COIL projects with students from different countries. - Topics will be decided in the seminar. Students will begin the search for a theme for their graduation paper through reading, discussing, experiencing, and engaging in intercultural communications.
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	Student performance will be graded by the teacher's observation of their weekly contributions to various projects and assignments.
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館3階チュウ研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業研究レポートを書くゼミです。各自、3 年次終了時点で合計 12000 字(40 字 x30 行で 10 ページ)以上のレポートを書くことを目標にします。4 年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業研究レポートに発展させることを目指します。 各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。
到達目標	前期のうちに、アメリカ合衆国についての基礎的な知識を増やし、各自の卒業研究の仮テーマを決め、資料を読み、文章を書く練習を始める。小さなレポートをいくつか積み重ね、合計で少なくとも 6000 字以上を提出する。
授業方法と 留意点	・最初の数週間は、全員で共通の資料を読み、アメリカ社会についての共通の理解事項を作ります。その後は、各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。 ・毎週文書を PC で作成し、対面でのミーティングと並行して Teams 等のツールや電子メールを使ってやりとりをします。PC の基本操作は必須であり、自分の PC を所有しているか、好きな時に使える PC を学内および自宅に確保しておく必要があります。 ・課題等のフィードバックは授業中に
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』　―　グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。
関連科目	卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 初回授業で指示 / / / 2 / / / / 3 / / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 初回授業で指示 / / / 2 / / / / 3 / / / /
評価方法 （基準）	ゼミ活動への貢献(50%)+複数の小レポートの総量と質(50%)
学生への メッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張っていただければと思います。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	２年次までに培った修学上の基礎力や学術的な関心に基づいて、ビジネス論やマーケティング論を中心に具体的な事例とともに研究していく。 また、それに基づいて、後期の文化演習Ⅱにつながるような各自の研究テーマを見つけてほしい。
到達目標	主にビジネスの観点から国際社会や異文化に関する理解を深め、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を身につけることができる。
授業方法と 留意点	・授業は演習形式で、文献・資料の読解、調査に基づく議論・研究発表、レポートの作成などを行う。 ・新聞・雑誌・ニュース等の最新記事を研究資料として利用する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・(国際）ビジネスや（グローバル）マーケティングの領域を中心にテーマを設定し、事例に基づいて考察する。 ・文献・資料を調べ、客観的に分析する。 ・グループディスカッションや研究発表を行いながら、メンバーとの議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていく。 【事前・事後学習課題】 ・各研究テーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理する。 ・授業の内容に基づいて、さらに調査・分析を行い、理解と考察を深める。
関連科目	文化演習Ⅱなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要に応じて指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要に応じて指示する		
2			
3			

評価方法 （基準）	授業に取り組む姿勢・発表 50%、 レポートなどの提出物 50%
学生への メッセージ	卒業後、社会人として活躍できる人材の育成を目指します。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 中島研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・目的	当ゼミでは外国語の情報が少ない場所を選んで調査し、その情報を日本語と外国語で発信する。またそれには何の方法が有効かを考察する。現在はブログを利用している。主な作業は事前調査→現地取材→素材の整理→日・英・中３言語によるブログ掲載である。
到達目標	自ら作成した観光案内をわかりやすい外国語に翻訳し，さらにそれを発表することができる。京都，大阪，奈良など関西の地理や歴史を外国人に紹介することができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を進めながら，その成果を観光情報をブログで配信する。新型コロナの感染が収束して安全にグループによる活動ができる状態であればゼミ全体または小グループで調査，取材に出かける。現地へ行く前には事前調査，現地へ行ったあとには情報の整理，日本語文による記事の執筆，外国語への翻訳，ブログの編集などの作業を行う。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	現地調査においては，調査先での解説板など文字資料の記録，写真撮影，インタビューを課題とする。調査を行う度にその内容を報告する。授業前，授業後には計１時間程度をかけて調査報告の作成を行う。
関連科目	専攻する言語の外国語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（60%），ブログ執筆への貢献度（40%）をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館 3 階）
備考	総学修時間数は 60 時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.課題などのフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Handouts		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の研究室等	Building 7 3F Herke's office.
備考	Please bring a dictionary. 総学修時間数は６０時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	《日本を掘り下げる》 日本文化や日本語など、「日本」について見つめ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。
到達目標	他人の意見に耳を傾け、それに対する意見を発信できる。 他者と強調しながら、課題解決に向けて議論できる。 自分の意見を述べ、考えを整理できる。
授業方法と 留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。
関連科目	文化演習Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	平常点（報告内容、参加態度、課題）100％
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館４階
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	原田　豪
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	主に国際社会に関連する問題について，自分で調べ，考察し，自身の意見を論じる能力を磨くことを目的とします. 上記の目的のため，前期のこの授業では①国際政治に関する基本文献を講読し，基本的な国際社会の見方やモノの複眼的捉え方を学び，②その捉え方を基に皆さんが持つ関心やその対象に対する考察を深め，③自身が取り組む「テーマ」を設定してもらいます. これらの各段階でプレゼンテーションやディスカッション，あるいはレポートの作成などを行ってもらう予定です.
到達目標	①自身が興味・関心を持つテーマを提示できる. ②なぜそのテーマに特に興味・関心を持つのか述べることが出来る. ③選択したテーマについて，初歩的なレクチャーを行うことが出来る.
授業方法と 留意点	受講生によるプレゼンテーションおよびその内容に関するディスカッション，レポート作成を行います. 卒業論文完成を最終目標とし，論文作成に関する注意事項を適宜授業内で伝えていきます.
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ】自身の興味・関心に対する考察を深める 【内容・方法】 前半では国際社会を題材とし，「物事を複眼的に捉える」とはどのようなものかを見ていきます. 後半は，複眼的思考を心掛けながら，各自が興味・関心を持つテーマに対する考察を深めます. ・予定表 第１回：オリエンテーション 第２回～第９回：国際政治に関する基本文献の輪読 第 10 回：中間ガイダンス（文献検索や参考文献リスト作成に関する諸注意など） 第 11 回～第 15 回：各自が興味・関心を持つテーマについて発表&ディスカッション 【事前・事後学習課題】 前半の輪読では，その回で発表を担当する者のみならず，受講生全員が該当範囲を読み，内容の理解に努めることが必須です（2 時間）．また，授業後も，学期後半での発表準備として，興味を持つテーマについて調べることが求められます（2 時間）. 後半は，自身の発表準備および興味・関心を持つテーマに対する下調べが求められ（2 時間），予定参考文献・資料の調査および授業内で伝えられるガイダンスに沿った文献・資料リストの作成を行うことが必要となります（2 時間）.
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業への取り組み（発表やディスカッションへの参加）：70% レポートや課題の提出：30%
学生への メッセージ	輪読する文献などは初回授業で指定します.
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write academic papers in English. Additionally, students will learn how ideas are communicated through visual images and symbols, and will be able to apply this knowledge by working on practical projects.
到達目標	These are the goals for this course. You will: Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. Each week will feature a different aspect of comics. These topics will be discussed in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions th
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comic creators use words and images to communicate meaning. Week 1: Seminar Introduction Week 2: Lecture and Research on Word Balloons and Sound Effects Week 3: Project on Word Balloons and Sound Effects Week 4: Project Presentation Week 5: Lecture and Research on Symbols in Comics Week 6: Project on Symbols in Comics Week 7: Project Presentation Week 8: Lecture and Research on the Use of Color in Comics Week 9: Project on the Use of Color in Comics Week 10: Project Presentation Week 11: Lecture and Research on the Use of Panels in Comics Week 12: Project on the Use of Panels in Comics Week 13: Project Presentation Week 14: How to Choose Comics Week 15: Comic Reading
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	Projects　40% Weekly Assignments　30% Participation　30%
学生へのメッセージ	There is no textbook for this course. However, you will be asked to purchase a comic of your choice during the course. It will cost around 2000 yen. All other reading materials will be provided by the teacher.
担当者の研究室等	7号館3階　フーパー研究室
備考	総学修時間数は６０時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	この演習では経済発展と企業行動の仕組みを学ぶ。世界経済の構造、企業間関係、企業行動、多様な商品のサプライチェーンについてバリュー・チェーンの視角から検討し、世界に分散する生産ネットワークの発展とそれが生み出す社会問題に焦点を当てて学ぶ。世界経済を考察する思考力を養うとともに、文献検索、論文読解、資料調査の手法を体得することを目的とする。 なおこの演習はグループディスカッションとプレゼンテーションを中心に展開する。発言力、議論の調整力、意見の集約力を向上させることが求められる。
到達目標	・バリューチェーンに基づく企業と経済の発展の仕組みを説明できる。 ・ディスカッションのために情報収集することができ、かつディスカッションにおいて意欲的に発言することができる。 ・多様な意見を調整し、グループ（あるいは個人）としての結論を導くことができる。
授業方法と 留意点	・文献から経済発展の理論的・実証的知識を得て、その知識をディスカッションのなかで応用し、自らの言葉で発言することによって理解を深めていく。 ・学期後半には卒論の構想にも着手する。研究手法、データの収集と分析、論文の技法といった技術面の解説も加える。 ・ディスカッションとプレゼンテーションへのフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	[授業テーマ・内容・方法] ①ビジネスモデル及び経済発展の文献の輪読、発表、議論。 ②ディスカッションとプレゼンテーションを通して効果的な技法を学ぶ。 ③研究の方法（研究課題の設定の仕方、文献収集） [事前事後学習課題] 輪読、発表の準備等、随時授業にて指示する。 各自の研究の進捗状況について、学期中１回レポートを課す。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	・ディスカッションと発表の質（討論の内容、発表の内容）50% ・発言等のゼミへの参加意欲 30% ・レポートの内容（論点の絞り込みと論の展開）20%
学生への メッセージ	どんな些細な意見でもかまわないので、まずはしっかりと発言すること、他人の言葉をしっかり聞くことを強く意識してください。 2 年間さらにはその先もこだわり続けられるテーマを見つけてください。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　藤井研究室
備考	・資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後学習の総学修時間の目安は 60 時間とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグレッタ	早川書房
2	開発経済学入門	戸堂康之	新世社
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	心理統計を使用して、様々なテーマについて分析します。 特に言語に関するテーマを扱います。
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 ・心理統計の手法を利用したデータ分析能力の基礎を身につけることをめざします
授業方法と 留意点	文献を読んで、内容を発表してもらいます この授業は対面形式で実施します 課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	心理統計の手法を使って、データを分析します。 授業中に読んだ文献や教科書についての復習を通じて、ごく基礎的な心理統計の使い方を身につけるください
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / はじめての R: ごく初歩の操作から統計解析の導入まで / 村井潤一郎 / 北大路書房 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ゼミおよび課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。
担当者の 研究室等	７号館４階　藤原研究室
備考	事前事後の学習にかかる総時間を６０時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本　弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	このゼミでは日頃あたりまえのように使っている「ことば」がテーマである。ことばについて知るということは、人間（の本質の一側面）について知ることにつながる。この本質的な問題を追究するために、様々な角度からことば「について」考える。 授業では共通テキストを使ってできるだけたくさんのトピックをとりあげ、ゼミ生が主体となって発表、議論を行う。つまり、理論編としてことばについて知るための学術的な考え方やスキルといった内容面についてを学ぶ。同時に実践編としてことばに関する身近な事例や不思議な現象を見つけ、それを理論編で学んだ知識を使ってとことん分析し、考察し、気づき、自分なりの視点から、自分なりのことばで説明できるようになることを目指す。裏を返せば、他者の視点から、他者のことばで語られた説明に耳を傾け、生産的な議論ができるようになることを目指す。
到達目標	１．言語の機能について用例とともに具体的に説明することができる。 ２．日本語や英語における多様なテクストを分析することができる。 ３．言語に関する身近な例に関心を持ち，そこに畳み込まれたことばの仕組みについて分析的に読み取ることができる。 ４．教科書で扱われる主要な概念や用語について理解し，それらを用いて授業で取りあげられたトピックについて他の受講生らと議論することができる。
授業方法と 留意点	授業は毎回担当者を決め，教科書に沿って担当者が決められた範囲に関する内容を発表を発表し，それをもとにクラスでディスカッションを行う。学生が主体であるため，積極的に参加することが求められる。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	ことばに関することすべてがテーマである。授業では毎回学生が担当を決め，発表とディスカッションを行う。テーマは多岐にわたるが，ディスカッションでは発表者が提示した内容ををさらに発展させ，単に「おもしろい」で終わらせるのではなく，相互フィードバックによって疑問点や理解を言語化し，共有する。また，学術的なテーマとしてその問題に取り組むことを念頭におき，そのためにどのようなアプローチがあり，どういった概念や考え方をツールとして研究するかという点も体系的に学ぶ。事前学習では，まず次回授業で扱うテーマをゼミ全体で共有し，発表者は発表の準備を，その他の学生はそのテーマに関して議論するための基礎知識や事例等を用意しておくことが求められる。事後学習では，授業を通じて新しく学んだことから論点を整理し，卒業研究に備えることを中心に据える。
関連科目	英語学，言語学，英語意味論・語用論、音声学
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 授業中に指示・配布する / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ゼミ発表，準備資料，課題・提出物等（60%） 期末レポート（40%）
学生への メッセージ	ことばはあまりに身近な存在であるがゆえに，問題意識をもつことが存外難しいものである。身の回りにあふれかえることばを少し立ち止まって深く追究する姿勢を身につけてほしい。そして，授業では分からないことを分からないままにせず，納得できるまでとことん調べ，話し合うことが重要である。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　船本研究室
備考	事前事後学修時間数の目安は６０時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	雑誌の研究を行い、ゼミ雑誌を制作する。 「メディア」を通じて文化、身体、コミュニケーション等を考察する。
到達目標	①メディアと文化、身体、コミュニケーション等に関する研究方法を学び、知識を得る ②プレゼンテーションやディスカッション、レポート作成の技術を学ぶ ③各自の関心に基づき、卒業研究のテーマを見つける ④ゼミを通じてチームワークを行う力を高める ⑤ゼミ雑誌を制作する
授業方法と 留意点	〔授業方法〕 ・課題への取り組み（調査・考察、プレゼンテーション、ディスカッション等）を中心に進める ・教室外でのフィールドワーク、ゼミ雑誌制作などのアクティブラーニングを行う ・課題に取り組む。課題等のフィードバックは授業中に行う。 〔留意点〕 発表には相応の準備時間が必要になるため、計画的に進めること。ゼミ生同士で協力し合うことが望ましい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	〔授業テーマ・内容・方法〕 主要なマスメディアをとりあげ、その特徴や歴史について調査・考察し、発表・質疑応答を行う。 雑誌の制作やに取り組むことにより、情報や文化の発信・受信を体験する。 〔事前事後の学習課題〕 発表の準備、発表後の再調査・再考察、レポート作成など。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（課題、発表、発言、積極性・協調性）　100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館４階（古矢研究室）
備考	総学修時間数は６０時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森　類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3684a0		

授業概要・ 目的	本授業では、朝鮮半島に関する文化・社会・歴史・国際関係などの基礎知識を学ぶと同時に、受講生（ゼミ生）全員で共同研究を行う。ゼミ生で一つの研究課題を設定し、3年生の1年間をかけて長期的計画を立てて進める。「文化演習Ⅰ」では、研究課題の設定と先行研究のリサーチなどを重点的に行うが、進捗度合いによってフィールドワークなども行う。この共同研究を通して、先行研究のリサーチ方法、資料・データの収集と分析の方法論、論理構成力および文章表現力を身につける。また、チームワーク力・交渉力・プレゼン力・発信力などを総合的に成長させる。
到達目標	1)　研究計画書（Research Proposal）が書けるようになる。 2)　先行研究の検討・データの収集と分析・論理の構築ができるようになる。 3)　研究課題について、チームで作業し、討論し、考察を深めていくということができるようになる。
授業方法と 留意点	1)　本授業は「共同研究」が柱となるが、チームワークを通して個人の能力を伸ばすことにも配慮している。 2)　ゲストスピーカーの招請やフィールドワーク、他大学との合同ゼミでの発表などの機会を盛り込みながら進める。 3)　課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	＜授業テーマと内容＞ 朝鮮半島（韓国）の文化・社会・歴史 朝鮮半島をめぐる国際関係／東アジア国際関係 ＜方法＞ 文献読解と講義によって基礎知識を獲得する（インプット）。 共同研究を進めることによって研究成果を発表し文章化していく（アウトプット）。 ＜事前学習＞ 教員から提示された参考文献等を読んでから授業に参加すること。 共同研究に必要な先行研究は授業までに読んで先行研究整理用のフォーマットに整理してから授業に臨むこと。 ＜事後学習＞ 授業の復習をその日のうちにすませること。
関連科目	文化演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	共同研究への参与度：60% 発表および課題：40%
学生への メッセージ	1)　教員（森）は指導役を務めるが、研究を通して教員・ゼミ生がともに学び成長する姿勢を大事にしたい。 2)　授業は対面とする。ただし、受講生と教員のやりとり、レジュメや資料の保存・共有などのために Teams も使用する。Teams への登録をすること。 3)　参考文献等は授業中にも適宜指示する。
担当者の 研究室等	7号館5階 森研究室
備考	予習復習の総学修時間数は60時間とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代韓国を知るための60章【第2版】	石坂浩一・福島みのり編	明石書店
2	新版 北朝鮮入門	礒﨑敦仁・澤田克己	東洋経済新報社
3	新版　論文の教室　レポートから卒論まで	戸田山和久	NHK出版

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。 来年の卒業論文にむけて準備をする。
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。
授業方法と 留意点	設定したテーマについて報告と討論を行う。課題などのフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ】 報告と討論を積み重ねることで、テーマにかかる理解を深め、卒業研究に向けて準備する。 【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ゼミ活動への取り組み（100%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　赤澤研究室
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	小説を読む習慣を身に着けるとともに、物語を通して身近な物事に関心を持つ。
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	ゼミのねらい 小説は時計（timepiece）に似ている。大小さまざまな歯車が複雑に絡み合い、針という名の物語を動かす。したがって、小説を理解するには、時計の場合と同じく、作品（literary piece）を収集し、分解し、復元することが欠かせない。 時計との類似は内部構造に留まらない。時計の誕生と発展の歴史は、社会における小説の意義と役割を考えるのに参考になる。なぜなら、好むと好まざるにかかわらず、小説もまた人々の知覚・思考に働きかけ、人々の行動に方向づけを与えるものだからである。本ゼミでは、時計の比喩を用いながら、小説を内と外から考える。 前　期　　小説を探す・集める・読む、書店めぐり、古本屋めぐり、読書月間（６月） 後　期　　小説を探す・集める・読む、図書館めぐり、読書月間（11 月）
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%
学生へのメッセージ	小説はいつも近くにあるだけでなく、つねに身近な問題を扱っています。ゼミ活動を通して、小説を身近に感じるとともに、身近にある問題を見つけて理解を深めましょう。
担当者の研究室等	７号館３階　天野研究室
備考	事前事後の学習にかかる総時間を６０時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	テーマ「戦後から現在に至る社会と人間の変化を「メディア」というキーワードによって読み解く　──「我々はどこから来たのか　我々は何者か　我々はどこへ行くのか」── 　現代の社会は大きな変化を遂げてきた。高度成長期の未来に夢を託した時代からバブル崩壊後の先が見えない時代への移りゆきは、わずか四半世紀のことである。 　時代の変化が「新しいメディア」にもっともよく表されていることが、現代のもう一つの特徴である。例えば、テレビ、マンガ、ゲーム、インターネット（BBS, SNS）である。このゼミでは、メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。
到達目標	メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。 メディアと時代との結びつきについて深く洞察、検討をする力をつける。 人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を力を身につける。 必要な文献の蒐集と読解をする。
授業方法と 留意点	ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。 卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【テーマ・内容】 ①自分の興味のある作品、事例を持ち寄り、考察・発表とディスカッションをする。考察対象の選び方、考察・発表の進め方は、参加者と相談の上で決める。②卒業論文の作成についての指導も授業時、また、個別に行う。 【方法】 資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。 個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。 【事前事後学習課題】 発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。
関連科目	
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション]（60%）、レポート（40%）で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　有馬研究室
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。受講者自身が設定した調査主題に関連する文献の講読と、調査成果についての報告を行う。相互のディスカッションを通じて人類学的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。
到達目標	主体的に「調べる」営みに取り組み、成果を適切な形でアウトプットする。
授業方法と留意点	前半は文献講読を行う。 後半は調査報告とディスカッション等に当てる。 学外の機関や施設において実習を行うことがある。詳細は初回授業時に指示する。 レポート等の提出課題は評価を記して返却する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	「人類学的に調べる」が本演習の主題である。文献講読とディスカッションが中心になる。 文献講読時は、演習の時間を有意義に使うために、授業の前に指定された文献を精読することが強く望まれる。成果報告時は配付資料の準備、その他関連資料の収集と提示など含めて一人 30 分程度の発表時間がある。発表者、コメンテイター、聴衆のいずれも発言することが求められるため、授業時間外に行う作業の質と量が問われる。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	発言や質問など、演習への主体的な取り組み（20%）、課題（50%）、口頭発表（30%）に基づいて行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。 資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	２年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとしたい。 具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究手法や考え方を体得する。 最終成果として、後期末に「３年次レポート」を作成、提出する。
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、ゼミ内外の人びとと接することを通じて、「気くばり」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。
授業方法と 留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、４年ゼミ生との合同ゼミ合宿（秋）および１月に行われる４年ゼミ生による「卒業論文発表会」への参加を必須としている。 ※諸般の事情によりゼミ合宿は中止となる場合がある※
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自がテーマを設定し、個別発表を行う。その際には、レジュメの作成法や研究発表の仕方等についても学ぶ。後期末には、一年間の総決算として、「３年次レポート」を作成する。 ちなみに、昨年度の学生が取り組んだテーマ（「３年次レポート」のタイトル）は次の通り。 「サステナビリティと快適性―ダウンジャケットの素材と製造プロセスにおける環境への影響―」「麻雀の可能性」「インドネシアの送り出し機関にて営まれる生活の実態」「変わる香港、変わらない中国」「韓国アイドルが人気な理由」「プリキュアと社会の関わり方」「お菓子から読み解く人の変化」「歴史から見る現在と昔の銭湯」「日本人女性を魅せるツール―『パーソナルカラー診断』との関わり合いを通じて―」「デザイナーズブランドの現状と未来」 【事前、事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、自身の研究を深化させる。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 「研究」を進めるために―研究資料ガイド 2024― / 浦野崇央編 / 摂南大学国際学部・浦野ゼミ 2 / 浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル / 浦野崇央編 / 摂南大学国際学部・浦野ゼミ 3 / / /
評価方法 （基準）	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、ゼミ活動への積極的な参加状況(50%)、「３年次レポート」の成果 (50%) により、総合的に判断します。
学生への メッセージ	ぜひ、楽しんで「研究」に取り組んでいきましょう。「研究」は、「お勉強」とは違って、必ずや、皆さんに満足感や達成感を与えるものとなることでしょう。
担当者の 研究室等	７号館４階　浦野研究室
備考	事前事後学修時間数の目安は６０時間。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大谷　侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	地理学、世界の人々の暮らし、島の地理学、サンゴ礁、マングローブ、氷河、地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマについて各自が関心を深め、卒業論文にむけた準備作業を行います。
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける
授業方法と 留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。 課題などのフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ 【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は６０時間以上を目安とする。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況（議論での積極性等）（50%）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50%）によって評価する
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館５階　大谷研究室
備考	事前事後の総学修時間数は６０時間。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・目的	香港、台湾などを含め、広く中国語圏に関する研究を通して、その文化や社会に対する理解を深めるとともに、それぞれがテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学ぶ。また授業外での調査を通して、その方法を実践する。
到達目標	自ら課題を設定し、それを調査、分析、発表するための基礎的な力を習得する。
授業方法と留意点	文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のあるテーマを設定し、担当を決めて発表、討論する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 中国語圏の社会・文化に関する文献を講読する。 各自が関心をもっている事柄についてテーマ発表を行い、レポートを作成する。 【事前事後学習】 課題文献をしっかり読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	授業への貢献（50%）、発表・レポート（50%）によって総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	小都研究室（7 号館 3 階）
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・目的	ヨーロッパの歴史やジェンダーに関する知識を深めながら、実証的に研究する方法を学び、自身の関心あるテーマについて調べ、発表を行う。
到達目標	歴史的な視点からヨーロッパの歴史やジェンダーの問題を理解するとともに、文献などを通して適切に情報を集める方法を身につける。また、情報を整理し、自分の考えを表現する力を養う。特に後期は、卒業論文に向けて、より専門的に文献を集めたり、報告をしたりする力を身につけます。
授業方法と留意点	主に学生の発表を中心に授業を行う。発表しない学生も、それに関して質問したり、意見を述べたりして、ディスカッションを行う。期末には授業中に行った発表をもとに、そこでの指摘を改善し、レポートを作成する。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自自分の関心のあるヨーロッパの歴史やジェンダーの問題について調べ学習をして、授業ではそれを発表しディスカッションする。 適宜、共通のテーマの史料・文献なども読んで歴史の知識を深めて考える内容も行う。 【事前学修】文献収集をし、自分のテーマについて知識を深める。自身の発表の準備や、ゼミ生の発表についての知識も深めて授業にのぞむ。 【事後学修】授業中に指摘された点について、調べなおしたり、検討しなおしたりする。そうしたことを、次回の発表や期末レポートのために整理する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	ゼミ活動参加 30%、授業中の発表や研究の進み具合 40%、期末レポート 30%。
学生へのメッセージ	ゼミは、自分の好きなテーマを深めて考え、またゼミ生の仲間とともに高めあう場です。一つの共同体として、楽しく行うことも心掛けながら、しっかりと発表などは責任を持ち自分の役割を果たすことが求められます。できるだけリラックスして、いろいろな意見が言えるようなゼミを運営していきたいと思いますが、しっかり個人でやるべきことはやっていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館４階　加来研究室
備考	事前事後の学習にかかる総時間を６０時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柏原　郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	４技能の向上を目指し、さまざまな ICT 教材の教材研究を行いながら、実践的に ICT 英語学習に取り組み、効果的な学習方法を探ります。また学習継続するための教材に必要な要素・学習継続につながる動機付けについても考察する。
到達目標	（１）４技能を高める ICT 教材を知る （２）自分の興味・英語力にあった ICT 教材を選択することができる （３）目標とする資格試験に必要となる英語学習量を把握できる （４）学習継続するための動機付けについて理解する
授業方法と 留意点	さまざまな ICT 教材を紹介しながら、自身の興味・英語力にあったリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの教材に取り組み、教材内容・学習履歴について毎週検討を行います。課題に関するフィードバックは授業内で行う。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ４技能を高めるさまざまな ICT 教材を実践的に活用し、学習継続するための必要な要素を考察する。 Reading・Listening・Speaking・Writing をテーマに、各テーマに特化した ICT 教材に取り組み、その学習履歴データと英語力の変化の変遷を記録する。個別コーチングも取り入れ、学習継続を実践する。授業期間内に、各自希望する資格試験を受験し、学習履歴と得点との関連を客観的に考察する。 【事前事後学習課題】 毎回紹介する ICT 教材を授業外で積極的に活用することが望まれる。
関連科目	文化演習 I
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	教材への取り組み(50%)、プレゼン発表及びその他課題（20%)、レポート（20%)、授業への貢献（10%）によって総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の苦手・得意な分野を ICT 教材を積極的に活用し、楽しみながら学習継続できる方法を探って下さい。目標とする資格試験の得点に届くよう伴走していきたいと思っています。
担当者の 研究室等	７号館４階 柏原研究室
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ６０時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。 単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。 ＊日本語学習者の言語習得 ＊日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 ＊外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション ＊海外における日本語教育 ＊在住外国人や留学生に関すること　　等々です。 海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして 自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。
到達目標	＊専門的な知識を得る。 ＊文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 ＊テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 ＊アカデミックライティングのスキルを身につける。 ＊ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 ＊卒業研究のテーマの設定を行う。
授業方法と 留意点	【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化間コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、４年時の卒業研究につなげていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当者を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。 発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。 発表後は、内容についてディスカッションを行う。 【事前事後学習課題】(毎回 1.5H) 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 文献資料、プリントを配布する / / / 2 / / / / 3 / / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 授業で指示する / / / 2 / / / / 3 / / / /
評価方法 （基準）	授業への参加度(10%)、発表及びその他課題（30%)、レポート（60%）によって総合的に評価する。
学生への メッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語（日本語）です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人（日本語を母語としない人）に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語は日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。 前期に引き続き、課外ゼミでは、日本語教育機関を訪問したり、外国人学習者と交流するプロジェクトを行います。
担当者の 研究室等	門脇研究室（7 号館 4 階）
備考	事前事後の学習にかかる総時間を６０時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金子　正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	この授業では、日常生活レベルの草の根的な視点や文化人類学的フィールドワークの手法を生かしながら、衣・食・住から出発して日常の視線を活かして考え、国内外の多様なひとの暮らしに関わる多様なテーマを学んでいきます。
到達目標	草の根的な視点からの他者理解が出来る。 学術的な研究手法および研究成果公開の基礎を習得する。
授業方法と 留意点	現代社会の社会文化動態に関する学術書の購読のほか、かんたんなフィールドワークなどを行う。フィールドワークについては、所定の授業日とは異なる日程で振り替えて実施する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	日常生活の中で「あたりまえ」に思っていることが実は他地域では得がたいものだったり、びっくりするほど近年になって定着したものだったり、あるいは知らないところでそんな「あたりまえ」を揺るがす変化が密かに進行していることもある。この授業では、多様な異文化に生きる人々のくらしと変化に注目し、文化人類学的な考え方をベースとして、文化や社会を草の根の視点から捉えるための考え方を学び、総合的に考える力を養うこと目指す。 それぞれの関心から論文や新書などを検索し、その内容を２度発表してもらう。 日帰りもしくは１泊２日のフィールドワークを１度行う。 事前事後学習として 60 時間を設定している。 第１回：ゼミの流れと学習内容、学習方法について 第２回から第４回：フィールドワークや参与観察、聞き取り調査の手法に関する教科書的な内容をまなぶ 第５回から第７回：フィールドワークに向けた情報収集とディスカッション 第８、９、10 回：フィールドワーク 第 11 回、第 12 回：フィールドワークの成果に関するグループディスカッション 第１３回、第 14 回：文献購読（後半）※論文もしくは新書に関する発表 第 15 回：まとめ
関連科目	文化演習Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題提出 60％、平常点 40% 「課題」は、小レポート提出のほか、文献購読の担当などを含みます。 「平常点」には、フィールドワークへの主体的な参加などを含みます。
学生への メッセージ	このゼミの学術ベースは「文化人類学」です。 先入観にとらわれず、多角的にモノやコトを捉え、あらたな発見を目指しましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階金子研究室
備考	フィールドワーク（1 日もしくは 1 泊 2 日）をどこで行うかについては、受講生を交えて検討する。 事前事後学習時間の目安は計６０時間。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。
授業方法と留意点	「AI（人工知能）」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】　AI の活用と可能性　【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	授業への積極性　50% 授業での発言　20% 課題　30%
学生へのメッセージ	これから２年間、一緒に頑張っていきましょう。
担当者の研究室等	後藤研究室（７号館５階）
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	この授業のテーマは「まちづくり」である。主に地域コミュニティにおける市民活動および非営利事業の実態や実施、展開の仕方について、実地経験を交えながら学んでいく。 まちづくりはその担い手にとって「人助け」の要素と「自己実現」の要素を含み、どちらも等しく重要である。言い換えれば、実践的なまちづくりについての学びは、「当事者性」を抜きにして進めることはできない。そのため、自らの関心事を地域社会の文脈と結びつけて考える力を養うことが必要である。 ３年生向けゼミの後半にあたるこの授業では、前期における成果をもとに、実際に市民活動および非営利事業に関する事業の現実的な企画立案をし、プレゼンテーションを行う。市民活動・非営利活動を実践する人々からフィードバックをふまえ、最終報告書を作成する。
到達目標	①市民活動や非営利事業の実態と意義についての知見を踏まえ、実効性のある事業の構想または提言を行うことができる。 ②他人の構想を評価し、建設的なコメントをすることができる。 ③他人の意見をもとに内省したり、計画を改善することで前向きなアウトカムにつなげることができる。
授業方法と 留意点	・学生はほぼ毎回課題に取り組み、授業時間でその成果を報告し合い、ディスカッションをする。課題は、関連資料の読み込み、プレゼン資料作成などである。なお、課題の詳細は学生自身が検討し、それについて教員に相談・報告し、承認を得る。 ・学外でのフィールドワークを実施し、振り返りのための報告書を作成する。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、 事後 学習課題	履修生の学習の進捗やフィールドワーク先との交渉などにより、内容・時期の微修正や順序の入れ替えなどが発生する可能性がある。 ◆後期の授業テーマ：「自分と社会の将来を構想する」 ・第１回は、オリエンテーションと後期授業の概要説明とする。 ・授業前半（第２～10 回）では、各メンバーが構想を練り上げる、他の学生はそれに対してコメントする。 ・授業の中盤（第５～６回）はフィールド視察をする予定である。 ・授業後半（第 10～15 回）では、市民活動・非営利活動を実践するに構想を発表し、それをふまえレポートを各自作成、報告する。 ◆内容・方法 １）事業構想とその深め方……非営利事業を構想する際の過程・方法について理解し実践する（第２～10 回）。 ２）フィールドワーク……非営利事業の現場視察や意見交換（第５～６回）。 ３）プレゼンテーション……プレゼンテーションの作成法を理解し実践する（第 10～15 回）。 ◆事前・事後学習課題 たんに授業に出席するだけでは卒業研究に十分な技能を身につけることはできない。教員が授業中に提示した課題（宿題）に積極的に取り組むほか、自主的に興味ある事柄の探索、関連情報の収集を行うこと。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	最終報告およびレポートの水準 60%、授業への積極性 40%
学生への メッセージ	授業外でも常日頃から努力し、情報収集、問題意識の明確化、知識の習得、技能の磨き上げに務めてください。
担当者の 研究室等	７号館５階小林講師室 ※用事がある場合はかならず事前にメールで連絡すること（hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp）。
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	・資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 ・グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。
到達目標	・多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身に着ける。 ・想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。
授業方法と 留意点	・授業時間にインターンシップや面接を入れないよう、各自が学外関係者と時間調整をしてください。 ・実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 ・新聞やニュースの記事（日本語・英語）、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 ・課題等のフィードバックは授業中に行います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、芸術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 後期は、卒業後は社会に出る大学生に身につけてほしい言語の力に焦点をあてます。自分の言語能力を、言語以外の知識や技術と組み合わせ、他人のために役にたてられるようになるのが目標です。接客現場や医療現場、職場内、など、対人関係のなかで言語が果たす役割について、文献調査と考察を行います。 （参考： 2021 年度は、「多言語で、子どもたち向けの、記憶に残る　防災教育ビデオ（5 分程度)」を共同作成しました。すでに世界で制作されている防災教育用のオンライン動画を調査し、その表現方法・特徴・メリットの比較をしたのち、自分たちにしか作れないアプローチの番組制作に取り組みました。 2022 年度は、「個人への懲罰ではなく、犯罪が発生して傷ついた共同体の再生のための、jail/prison に代わる施設」について試行錯誤しました。なかなか、「犯罪を犯した人に裁判で決めた以上に長く罰を与え、その存在を自分が見ないところに置く」という発想から逃れられない自分達にも気づいた時間でした。 2023 年度は、大規模書店の状況を実地調査したのちに新規出店計画をたてたり、大阪地方裁判所にて裁判傍聴をし、法廷通訳や裁判員の役割や裁判の仕組みの中で複数の視点で１つの出来事を眺めて検討することを学びました。 前期と比べて制作量の多いゼミになるでしょう。大量に考え、話して、作ります。 また、学期中に複数回、プレゼンを行います。たくさん話す練習をしてください。 【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接対象を調べて一次資料を得たり、立場の違う人にインタビューしたりなど、インターネットとは違う情報源を探してみましょう。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 授業にて連絡します / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 授業にて紹介します / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	・授業での協働作業　　３０％ ・プレゼンテーション　３０％ ・レポート　　４０％
学生への メッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　齋藤研究室
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方　ほか

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山　博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	【いかにイメージをテクストに紐づけるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテクスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテクストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）を浮き彫りにすることを目指す。
到達目標	【以下の２つの技術を習得する】 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテクストを読解して自分なりに理解する方法
授業方法と 留意点	【ゼミ生が主体で進める】 1. 各自のテーマの関連テクストを読解、発表する。 2. その報告に対して質問する。 課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【イメージ論と向き合う】 1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. それに対して他の学生は質問する。 4. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	【質問も重視される】 1. 発表内容［40%］ 2. 質問内容［40%］ 3. その他課題［20%］
学生への メッセージ	【より良い質問をめざす】 1. より良い質問をするために、ゼミに集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室
備考	【イメージを見ている自分を自覚する】 1. 事前事後に学修時間計 60 時間を予定している。 2. 日々接するさまざまなイメージを漠然と見るのではなく、それを見ている自分が感じる印象について自覚的になる。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。 第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」（データ・資料）を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。
授業方法と 留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	演習内では、学生自身が発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。 発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	平常点（発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等）100％
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　田中研究室
備考	事前事後学習時間は、総計で 60 時間を目安とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	Students will deepen their knowledge of theories in the field of intercultural communication and will continue to apply knowledge to real-world situations. There will be opportunities to interact with people from various countries in collaboration with the Global Education Center. Students will also conduct PBL to create and implement projects related to intercultural communications. There might be a short-term study abroad opportunity.
到達目標	1. Students can understand theories in intercultural communication and apply them in their daily lives. 2. Students can reflect on their experiences of interacting with people from different cultural backgrounds using theories in intercultural communication. 3. Students can further increase their intercultural sensitivity through interactions with people from various cultural backgrounds. 4. Students can start to develop a topic for their graduation paper. 5. Students can become even more confident in their English skills.
授業方法と 留意点	We will design and create various projects together, for both in-person and online interactions with people from various cultural backgrounds.
授業テーマ・ 内容、方法・事前、 事後 学習課題	Learning about intercultural communication: - Reading about theories on intercultural communication. - Engaging in both in-person and online intercultural communication. - Reflecting on personal experiences. In-person intercultural exchanges: - Interacting with students from the Global Education Center Japanese language and culture program. - Interacting with foreign residents in the local community. - Possible study abroad trip to the USA. Virtual intercultural exchanges: - Various COIL projects with students from different countries. - Topics will be decided in the seminar. Students will focus on a topic for their graduation paper through reading, discussing, experiencing, and engaging in intercultural communications. They will start to make a plan for their research.
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	Student performance will be graded by the teacher's observation of their weekly contributions to various projects and assignments.
学生への メッセージ	Keep working hard and your hard work will reward you with invaluable knowledge and experiences!
担当者の 研究室等	7号館3階チュウ研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5○,DP6○,DP7○,DP8○		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	アメリカ合衆国の文化、歴史についての卒業研究レポートを書くゼミです。各自、3 年次終了時点で合計 12000 字(40 字 x30 行で 10 ページ)以上の小さなレポートの集りを書くことを目標にします。4 年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポート群を卒業研究レポートに発展させることを目指します。 各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。
到達目標	前期からの通算で、合計少なくとも 12000 字以上のレポートを提出すること。
授業方法と 留意点	・各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。 ・毎週文書を PC で作成し、Teams 等のツールや電子メールを使ってやりとりをします。PC の基本操作は必須であり、自分の PC を所有しているか、好きな時に使える PC を学内および自宅に確保しておく必要があります。 ・課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』　―　グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。
関連科目	卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 初回授業で指示 / / / 2 / / / / 3 / / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 初回授業で指示 / / / 2 / / / / 3 / / / /
評価方法 （基準）	ゼミ活動への貢献(50%)+３年次終了時点までの小レポートの総量と質(50%)
学生への メッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張っていただければと思います。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	３年次前期までに培った学術的な知識やスキルに基づいて、ビジネス論やマーケティング論を中心に具体的な事例とともに研究していく。 また、それに基づいて、４年次の卒業研究につながるような各自の研究テーマを見つけてほしい。
到達目標	主にビジネスの観点から国際社会や異文化に関する理解を深め、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を身につけることができる。
授業方法と 留意点	・授業は演習形式で、文献・資料の読解、調査に基づく議論・研究発表などを行う。 ・新聞・雑誌・ニュース等の最新記事を研究資料として利用する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・(国際）ビジネスや（グローバル）マーケティングの領域を中心にテーマを設定し、事例に基づいて考察する。 ・文献・資料を調べ、客観的に分析する。 ・グループディスカッションやプレゼンテーションを行いながら、メンバーとの議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていく。 【事前・事後学習課題】 ・各研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理する。 ・授業の内容に基づいて、調査・分析を行い、理解と考察を深める。
関連科目	卒業研究Ⅰ・Ⅱなど
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 必要に応じて指示する / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 必要に応じて指示する / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業に取り組む姿勢・発表 50%、 レポート・プレゼンなどの成果物 50%
学生への メッセージ	卒業後、社会人として活躍できる人材の育成を目指します。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 中島研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・目的	当ゼミでは外国語の情報が少ない場所を選んで調査し、その情報を日本語と外国語で発信する。またそれには何の方法が有効かを考察する。現在はブログを利用している。主な作業は事前調査→現地取材→素材の整理→日・英・中３言語によるブログ掲載である。
到達目標	自ら作成した観光案内をわかりやすい外国語に翻訳し，さらにそれを発表することができる。京都，大阪，奈良など関西の地理や歴史を外国人に紹介することができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を進めながら，その成果を観光情報をブログで配信する。新型コロナの感染が収束して安全にグループによる活動ができる状態であればゼミ全体または小グループで調査，取材に出かける。現地へ行く前には事前調査，現地へ行ったあとには情報の整理，日本語文による記事の執筆，外国語への翻訳，ブログの編集などの作業を行う。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	現地調査においては，調査先での解説板など文字資料の記録，写真撮影，インタビューを課題とする。調査を行う度にその内容を報告する。授業前，授業後には計１時間程度をかけて調査報告の作成を行う。
関連科目	専攻する言語の外国語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（60%），ブログ執筆への貢献度（40%）をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館 3 階）
備考	総学修時間数は 60 時間。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の研究室等	Building 7 3F Herke's office.
備考	Please bring a dictionary. 総学修時間数は６０時間。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Handouts		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	《日本を掘り下げる》 日本文化や日本語など、「日本」について見つめ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。
到達目標	自分の意見を述べ、考えを整理できる。 上記について文章で論理的にまとめられる。 各自の関心あるテーマについて基本的な資料収集ができる。
授業方法と 留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。
関連科目	文化演習Ⅰ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	平常点（報告内容、参加態度、課題）100％
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館４階
備考	事前事後学習時間の目安は計６０時間。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	原田　豪
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	前期に引き続き，「調べる」・「考える」・「伝える」といった「論じる」に必要な能力を総合的に磨くことを目的とします． 後期は前期に設定した「興味・関心のあるテーマ」をさらに絞り込み，卒業論文で取り組む「問い」の設定を目指します． この目的のため，①論文作成に関する注意点を補足しながら，②各自が興味・関心を持つテーマや関連文献に関する報告をしてもらい，③卒業論文で取り組む予定の「問いかけ」を提示するレポートの作成・発表を行います．
到達目標	①論文などの形で「自身の主張」を提示する際，注意するべき点を説明できる． ②興味・関心のあるテーマに関する一般的な見方・評価を紹介することができる． ③興味・関心のあるテーマに関し，「問いかけ」を提示できる．
授業方法と 留意点	受講生によるプレゼンテーションおよびディスカッションを中心に進めていきます． 卒業論文完成を最終目標とし，論文作成に関する注意事項を適宜授業で伝えていきます．
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ】知識を得るだけでなく，得た知識を基にして「問いかけ」る． 【内容・方法】 前半は，受講生各自が自身のテーマに関連する文献を選び報告し，その報告を基に議論します． 後半では，選択したテーマに関し，各自が取り組む「問いかけ」と共に発表することを目指します． ・予定表 第１回：初回ガイダンス（前期の復習を含む） 第２回～第９回：各自が選んだ文献に関する報告＆ディスカッション 第 10 回：中間ガイダンス（文章作成の際の注意点など） 第 11 回～第 15 回：各自が取り組む問いかけに関するプレゼンテーション＆質疑応答 【事前・事後学習課題】 学期を通じて，自分の報告・プレゼンテーションの準備や，他の報告者が選んだ文献に目を通しておくことが事前学習として求められます（2 時間）． また，事後学習としては，自身の取り組むテーマに関する知識を獲得し，テーマの絞り込みと「問い」の設定を行うことが求められます（2 時間）．
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業への取り組み（発表やディスカッションへの参加）：70％ レポートや課題の提出：30％
学生への メッセージ	興味・関心を持つテーマについて調べる際，「？」と疑問に感じたことをメモに残すようにしてみてください．
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write an academic paper in English.　Additionally, students will learn how to do a close reading of comics in order to understand how comics can provide insight into social issues.
到達目標	These are the goals for this course. You will: Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings.　Each week will feature a different social issue.　These topics will be discussed in-class.　In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar.　The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered.　We will look at how comics reflect the views of their creators on various social issues. Week 1: Introduction Week 2: Media and Power Week 3: Culture and Comics Week 4: Culture and Comics Week 5: Race and Comics Week 6: Gender and Comics Week 7: Class and Comics Week 8: Writing: Planning and Outline Week 9: Writing: Body Week 10: Writing: Conclusion Week 11: Writing: Literature Review Week 12: Writing: Introduction Week 13: Paper Editing Week 14: Paper Presentation Week 15: Graduation Paper Preparation
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Weekly Assignments　42% Weekly Quizzes　12% Academic Paper　35% Paper Presentation　11%
学生へのメッセージ	There is no textbook for this course.　However, you will be asked to purchase a comic book of your choice during the course.　It will cost around 2000 yen.　All other reading materials will be provided by the teacher.
担当者の研究室等	7号館3階　フーパー研究室
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井　嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	この演習では経済発展と企業行動の仕組みを学ぶ。世界経済の構造、企業間関係、企業行動、多様な商品のサプライチェーンの視角から検討し、世界に分散する生産ネットワークの発展とそれが生み出す社会問題に焦点を当てて学ぶ。世界経済を考察する思考力を養うとともに、文献検索、論文読解、資料調査の手法を体得することを目的とする。 なおこの演習はグループディスカッションとプレゼンテーションを中心に展開する。発言力、議論の調整力、意見の集約力を向上させることが求められる。 卒論のテーマの絞り込みも進める予定である。
到達目標	・バリューチェーンに基づく企業と経済の発展の仕組みを説明できる。 ・ディスカッションのために情報収集することができ、かつディスカッションにおいて意欲的に発言することができる。 ・多様な意見を調整し、グループ（あるいは個人）としての結論を導くことができる。 ・自身の研究に必要な資料・データを収集できる。 ・自身の研究課題の面白さと重要性、および研究の進捗状況を分かりやすく発表することができる。
授業方法と 留意点	・文献から経済発展の理論的・実証的知識を得て、その知識をグループディスカッションのなかで応用し、自らの言葉で発表することによって理解を深めていく。 ・随時、卒論の構想についての発表も行う。研究手法、データの収集と分析、論文の技法といった技術面の解説も加える。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	[授業テーマ・内容・方法] ①ビジネスモデル及び経済発展の文献の輪読、発表、議論。 ②ディスカッションとプレゼンテーションを通して効果的な技法を学ぶ。 ③研究の方法（研究課題の設定の仕方、文献収集） [事前事後学習課題] 輪読、発表の準備等、随時授業にて指示する。 各自の研究の進捗状況について、学期末にレポートを課す。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	・討論とプレゼンの内容とスキル　50% ・輪読その他のゼミ活動への参加意欲　30% ・レポートの内容（各自の研究課題の進捗状況）　20%
学生への メッセージ	どんな些細な意見でもかまわないので、まずはしっかりと発言することと他人の言葉をしっかり聞くことを強く意識してください。 2年間さらにはその先もこだわり続けられるテーマを見つけてください。
担当者の 研究室等	7号館5階　藤井研究室
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後学習の総学修時間の目安は60時間とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグレッタ	早川書房
2	開発経済学入門	戸堂康之	新世社
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	心理統計を使用して、様々なテーマについて分析します。 特に言語に関するテーマを扱います。
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 ・心理統計の手法を利用したデータ分析能力の基礎を身につけることをめざします
授業方法と 留意点	文献を読んで、内容を発表してもらいます この授業は対面形式で実施します 課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	心理統計の手法を使って、データを分析します。 授業中に読んだ文献や教科書についての復習を通じて、ごく基礎的な心理統計の使い方を身につけるください
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / はじめての R: ごく初歩の操作から統計解析の導入まで / 村井潤一郎 / 北大路書房 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ゼミおよび課題への取り組み（100%）
学生への メッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。
担当者の 研究室等	７号館４階　藤原研究室
備考	事前事後の学習にかかる総時間を６０時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本　弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	このゼミでは日頃あたりまえのように使っている「ことば」がテーマである。ことばについて知るということは、人間（の本質の一側面）について知ることにつながる。この本質的な問題を追究するために、様々な角度からことば「について」考える。 授業では共通テキストを使ってできるだけたくさんのトピックをとりあげ、ゼミ生が主体となって発表、議論を行う。つまり、理論編としてことばについて知るための学術的な考え方やスキルといった内容面についてを学ぶ。同時に実践編としてことばに関する身近な事例や不思議な現象を見つけ、それを理論編で学んだ知識を使ってとことん分析し、考察し、気づき、自分なりの視点から、自分なりのことばで説明できるようになることを目指す。裏を返せば、他者の視点から、他者のことばで語られた説明に耳を傾け、生産的な議論ができるようになることを目指す。
到達目標	１．言語の機能について用例とともに具体的に説明することができる。 ２．日本語や英語における多様なテクストを分析することができる。 ３．言語に関する身近な例に関心を持ち，そこに畳み込まれたことばの仕組みについて分析的に読み取ることができる。 ４．教科書で扱われる主要な概念や用語について理解し，それらを用いて授業で取りあげられたトピックについて他の受講生らと議論することができる。
授業方法と 留意点	授業は毎回担当者を決め，教科書に沿って担当者が決められた範囲に関する内容を発表を発表し，それをもとにクラスでディスカッションを行う。学生が主体であるため，積極的に参加することが求められる。課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	ことばに関することすべてがテーマである。授業では毎回学生が担当を決め，発表とディスカッションを行う。テーマは多岐にわたるが，ディスカッションでは発表者が提示した内容ををさらに発展させ，単に「おもしろい」で終わらせるのではなく，相互フィードバックによって疑問点や理解を言語化し，共有する。また，学術的なテーマとしてその問題に取り組むことを念頭におき，そのためにどのようなアプローチがあり，どういった概念や考え方をツールとして研究するかという点も体系的に学ぶ。事前学習では，まず次回授業で扱うテーマをゼミ全体で共有し，発表者は発表の準備を，その他の学生はそのテーマに関して議論するための基礎知識や事例等を用意しておくことが求められる。事後学習では，授業を通じて新しく学んだことから論点を整理し，卒業研究に備えることを中心に据える。
関連科目	英語学，言語学，英語意味論・語用論、音声学
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 授業中に指示・配布する / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ゼミ発表，準備資料，課題・提出物等（60%） 期末レポート（40%）
学生への メッセージ	ことばはあまりに身近な存在であるがゆえに，問題意識をもつことが存外難しいものである。身の回りにあふれかえることばを少し立ち止まって深く追究する姿勢を身につけてほしい。そして，授業では分からないことを分からないままにせず，納得できるまでとことん調べ，話し合うことが重要である。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　船本研究室
備考	事前事後学修時間数の目安は６０時間。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	雑誌の研究を行い、ゼミ雑誌を制作する。 「メディア」を通じて文化、身体、コミュニケーション等を考察する。
到達目標	①メディアと文化、身体、コミュニケーション等に関する研究方法を学び、知識を得る ②プレゼンテーションやディスカッション、レポート作成の技術を学ぶ ③各自の関心に基づき、卒業研究のテーマを見つける ④ゼミを通じてチームワークを行う力を高める ⑤ゼミ雑誌を制作する
授業方法と 留意点	〔授業方法〕 ・課題への取り組み（調査・考察、プレゼンテーション、ディスカッション等）を中心に進める ・教室外でのフィールドワーク、ゼミ雑誌制作などのアクティブラーニングを行う ・課題に取り組む。課題等のフィードバックは授業中に行う。 〔留意点〕 発表には相応の準備時間が必要になるため、計画的に進めること。ゼミ生同士で協力し合うことが望ましい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	〔授業テーマ・内容・方法〕 主要なマスメディアをとりあげ、その特徴や歴史について調査・考察し、発表・質疑応答を行う。 雑誌の制作に取り組むことにより、情報や文化の発信・受信を体験する。 〔事前事後の学習課題〕 発表の準備、発表後の再調査・再考察、レポート作成など。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（課題、発表、発言、積極性・協調性）　100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館４階（古矢研究室）
備考	総学修時間数は６０時間。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森　類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP3〇,DP4〇,DP5〇,DP6〇,DP7〇,DP8〇		
科目ナンバリング	LDL3685a0		

授業概要・ 目的	本授業では、朝鮮半島に関する文化・社会・歴史・国際関係などの専門知識を学ぶと同時に、本授業の受講生（ゼミ生）全員で一つの研究課題に取り組む。3 年生の 1 年間をかけて長期的計画を立てて進める。「文化演習Ⅱ」では、「文化演習Ⅰ」で設定した研究課題について具体的に研究を進捗させていく。この共同研究を通して、先行研究のリサーチ方法、資料・データの収集と分析の方法論、論理構成力および文章表現力を身につける。また、チームワーク力・交渉力・プレゼン力・発信力などを総合的に成長させる。
到達目標	1)　先行研究の検討・データの収集と分析・論理の構築ができるようになる。 2)　研究の中間発表（研究課題の進捗状況についてのプレゼンテーション）ができるようになる。 3)　研究課題について、チームで作業し、討論し、考察を深めていくということができるようになる。
授業方法と 留意点	1)　本授業は「共同研究」が柱となるが、チームワークを通して個人の能力を伸ばすことにも配慮している。 2)　ゲストスピーカーの招請やフィールドワーク、他大学との合同ゼミでの発表などの機会を盛り込みながら進める。 3)　課題等のフィードバックは授業中に行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	＜授業テーマと内容＞ 朝鮮半島（韓国）の文化・社会・歴史 朝鮮半島をめぐる国際関係／東アジア国際関係 ＜方法＞ 文献読解と講義によって基礎知識を獲得する（インプット)。 共同研究を進めることによって研究成果を発表し文章化していく（アウトプット)。 ＜事前学習＞ 教員から提示された参考文献等を読んでから授業に参加すること。 共同研究に必要な先行研究は授業までに読んで先行研究整理用のフォーマットに整理してから授業に臨むこと。 ＜事後学習＞ 授業の復習をその日のうちにすませること。
関連科目	文化演習Ⅰ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ソウルを歩く: 韓国文化研究はじめの一歩 / 平田由紀江・山中千恵編著 / 関西学院大学出版会 2 / 在日二世の記憶 / 小熊英二･高賛侑･高秀美（編集） / 集英社 3 / 新・社会調査へのアプローチ:論理と方法 / 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋 / ミネルヴァ書房
評価方法 （基準）	共同研究への参与度：60% 発表および小レポート：40%
学生への メッセージ	1)　教員（森）は指導役を務めるが、研究を通して教員・ゼミ生がともに学び成長する姿勢を大事にしたい。 2)　授業は対面とする。ただし、受講生と教員のやりとり、レジュメや資料の保存・共有などのために Teams も使用する。Teams への登録をすること。 3)　参考文献等については授業中にも指示する。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 森研究室
備考	予習復習の総学修時間数は 60 時間とする。

科目名	インターンシップ	科目名（英文）	Internship
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	石井　三恵.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4○		
科目ナンバリング	LCA3831a1		

授業概要・ 目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と 留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19 の影響により、実習が中止になることもある。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	
関連科目	インターンシップⅠ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	企業による報告書（20%）、体験報告書など提出物（40%）、発表を含む授業態度（投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など）（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	石井研究室（７号館５階） 加野研究室（７号館５階）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用すること。